

Oracle(R) Enterprise Performance Management
Workspace, Fusion Edition

リリース 11.1.1.3

ユーザー・ガイド

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

EPM Workspace ユーザー・ガイド, 11.1.1.3

Copyright © 1989, 2009, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アSEMBル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。U.S. GOVERNMENT RIGHTS: Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次

第 1 章 EPM Workspace の使用方法	21
EPM System および Enterprise Performance Management について	21
EPM Workspace について	22
EPM Workspace の使用準備	23
配置ワークフロー	24
EPM Workspace	24
EPM Workspace 機能	25
タスクを実行するために使用するモジュール	26
ナビゲートからアイテムをアクセス	27
ユーザー・タイプおよびタスク	27
モジュール・タスク	27
EPM Workspace ユーザー・インタフェース	27
Reporting and Analysis リポジトリ	28
アクション	29
場所	29
ファイルの権限	30
EPM Workspace へのログオン	30
ログオン・ページのカスタマイズ	31
ネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更	32
プリファレンスの設定	32
Reporting and Analysis のデータ・ソース要素の使用方法	33
Web Analysis Studio	33
Reporting Studio	34
Interactive Reporting Studio	34
Production Reporting Studio	34
Studio で使用可能な Analytic Services 機能	35
Studio で使用可能な Financial Management 機能	35
Planning Details データベース接続の使用	35
SAP BW データソース	36
リレーショナル・アクセス・メソッド	40
タスクの開始	40
ドキュメントの作成	41

ナビゲート・アイテムへのアクセス	42
ドキュメントまたは URL を開く、印刷する	42
ファイルのプロパティの設定とファイルの移動	42
ファイル名の変更	43
お気に入りに対するドキュメントの追加と削除	43
エクスプローラの使用法	44
スケジュールの使用法	44
「アイテムを開く」の使用法	44
Smart View の使用法	44
EPM Workspace のカスタマイズ	45
ドキュメントの登録	45
お気に入りの操作	46
Workspace ページの使用法	46
個人用ページの使用法	46
ダッシュボードからの EPM Workspace のタブとしての EPM Workspace オブジェクトの起動	47
ツールバー	50
標準ツールバー	50
Web Analysis ツールバー	51
Financial Reporting ツールバー	52
ブック・エディタ・ツールバー	52
バッチ・エディタ・ツールバー	52
Production Reporting ツールバー	53
Interactive Reporting ツールバー	53
バッチ・スケジューラ・ツールバー	53
エクスプローラ・ツールバー	54
管理ツールバーおよびインパクト・マネージャ・ツールバー	54
スケジュール・ツールバー	54
メニュー	55
「ナビゲート」メニュー	55
「ファイル」メニュー	57
「表示」メニュー	58
「お気に入り」メニュー	58
「ツール」メニュー	59
「ヘルプ」メニュー	59
ショートカット・メニューのコマンド	60
第 2 章 プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ	63
プリファレンスの設定	63
全般プリファレンスの設定	64

認証プリファレンスの設定	67
エクスプローラ・プリファレンスの設定	67
フォーマット・プリファレンス	68
モジュール・プリファレンスについて	70
Web Analysis プリファレンスの設定	71
Financial Reporting のプリファレンスの設定	76
Production Reporting プリファレンスの設定	78
Interactive Reporting プリファレンスの設定	79
Oracle BI Publisher のプリファレンスの設定	79
Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスの設定	81
Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定	87
次元メンバーの管理	87
Financial Reporting のユーザー POV の別名と説明の表示	88
EPM Workspace のカスタマイズ	89
ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更	90
列の表示	90
アイテムのソート	91
特定ファイル・タイプの表示	91
標準ファイル	93
第 3 章 アイテムの参照と管理	95
エクスプローラの使用方法	95
アイテム	95
ドキュメント	96
コレクション	97
サポート・ファイル	97
他の標準ファイル	100
フォルダ	100
エクスプローラの基本	100
優先度、例外、およびバージョンの表示	101
ファイルの管理	101
ファイルまたはフォルダを開くまたは選択	102
フォルダの作成	103
ドキュメントまたはコレクションの作成	104
ファイルまたはフォルダの移動またはコピー	104
ファイルまたはフォルダ名の変更	105
ファイルまたはフォルダの削除	105
ファイルまたはフォルダの検索	105
Web Analysis Studio へのリンク	106

アイテムへの電子メール・リンクの作成	106
電子メール受信者リストの使用法	107
不明確なアイテムの使用法	107
ファイル・タイプの登録	107
アイテムのエクスポート	108
Smart View for Office へのエクスポート	108
Hyperion Reporting and Analysis Smart View エクスポート・オプションにつ いて	109
Reporting and Analysis コンテンツのインポート	110
EPM Workspace からの Smart View のインストール	110
Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエク スポート	111
Microsoft Office への Web Analysis ドキュメントのエクスポート	112
Microsoft Excel への Production Reporting コンテンツのエクスポート	113
Financial Reporting の関連コンテンツ・サーバーの変更	113
Financial Reporting データベース接続の変更	114
Analytic Services と Planning Details の変更	115
Financial Reporting のデータベース接続の管理	115
データベース接続の追加	117
アプリケーション名とデータベース名の選択	117
データベース接続の編集	118
データベース接続の削除	118
Financial Reporting のキー数値マネージャの使用法	118
第 4 章 検索サービスの使用法	121
はじめに	121
キーワードのインデックス作成	122
検索サービスの使用法	122
詳細検索の使用法	123
検索構文	124
サポートされている MIME タイプ	126
セキュリティ	127
第 5 章 アーチファクトのインポート	129
インポート	129
Interactive Reporting ドキュメントとジョブ	130
HTML ファイル	131
アーチファクトのインポート	131
ファイルのインポート	131
複数のファイルのインポート	132

ジョブとしてのファイルのインポート	133
URL のインポート	133
EPM Workspace の URL の使用方法	134
URL を開く	134
新規ウィンドウで URL を開く	134
URL の更新	135
Financial Reporting ファイルのインポート	135
Microsoft レポートのインポート	135
権限の設定	136
権限の設定とアーチファクトのプッシュ	136
Interactive Reporting ドキュメントに対する権限の設定	140
ショートカットの作成	141
プロパティの操作	141
全般プロパティ	142
詳細プロパティ	143
出力プロパティ	144
Interactive Reporting プロパティ	144
Production Reporting プロパティと汎用ジョブ・プロパティ	144
権限の設定	145
HTML ファイル・プロパティ	145
URL プロパティ	145
Interactive Reporting データベース接続ファイル	146
バージョンの操作	146
バージョンを開く	147
バージョンの追加	147
バージョンのプロパティの表示または変更	147
バージョンのプロパティ	148
複数のバージョンの一覧表示	148
バージョンの削除	148
第 6 章 情報の表示と整理	151
表示	151
さまざまなファイル・タイプの使用法	152
新規ブック、バッチ、ドキュメントまたは Workspace ページの作成	152
ドキュメントのデータ・ソースの選択	152
お気に入りの使用法	152
お気に入りへのアイテムの追加	153
お気に入りへのアイテムのプッシュ	153
お気に入りの管理	155

サブスクリプションの使用方法	155
サブスクリプションの作成	155
サブスクリプションの変更または削除	157
フォルダのサブスクリライブ	157
サブスクリプションの受信および表示	158
個人用ページの使用方法	158
個人用ページのコンテンツのカスタマイズ	161
個人用ページの操作	171
Workspace ページ	174
Workspace ページの作成	175
第 7 章 アプリケーションの起動	179
Oracle の Hyperion アプリケーションの起動	179
第 8 章 Financial Reporting の使用方法	181
概要	181
EPM Workspace タスク	181
ドキュメントの操作	183
表示の有効化	183
プレビュー・プリファレンス	183
データベース接続へのログオン	183
Essbase ユーザーの期限切れパスワードの変更	184
レポートの表示	184
レポートとブックの印刷	185
ユーザー POV の変更	186
プロンプトへの応答	187
展開機能の使用方法	189
関連コンテンツの使用方法	189
メンバーの選択	190
グリッド POV のメンバーの変更	192
スナップショットの表示	193
ブックの表示	193
スナップショット・ブックの表示	195
第 9 章 Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計	197
概要	197
ドキュメントの設計について	197
ドキュメントの設計	199
ブックの作成	199
メンバーの選択	202

使用可能領域	203
特殊メンバーの割当て	204
プロンプトの詳細	204
ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにする	205
関数を使用したメンバーの割当て	205
条件に基づいた複数のメンバーの選択	205
メンバーの検索	206
選択したメンバーのプレビュー	207
ブックとスナップショット・ブックの保存	207
ブックまたはスナップショット・ブックを開く	208
ブックとスナップショット・ブックの名前変更	209
ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷	209
ブックから生成された PDF ファイルの機能	209
ブックの設定の変更	210
目次テキストの設定	211
PDF ファイルの印刷	212
テキスト・ファイルの印刷	213
Microsoft Word テンプレート	213
ブックとスナップショット・ブックのエクスポート	214
バッチの設計	214
バッチのプロンプトの定義	215
バッチを開く	217
スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て	217
第 10 章 Interactive Reporting	219
EPM Workspace における Interactive Reporting の使用方法	219
ツールバーの使用方法	220
標準の EPM Workspace ツールバー	220
標準の Interactive Reporting ツールバー	221
ナビゲーション・ツールバー	222
ページング・ツールバー	222
ショートカット・メニュー	223
アラート・ダイアログ・ボックス	223
Interactive Reporting ドキュメントの操作	223
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルについて	224
別の Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に基づく Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)の作成	224
Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の Interactive Reporting データベース接続ファイル(OCE)の選択	225

Interactive Reporting データ・ソースの選択	226
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルへのアクセス	227
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの保存	228
保存コマンドの使用	228
「名前を付けて保存」コマンドの使用方法	228
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの操作	229
セクション・ペイン	230
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの選択	231
セクションの追加	231
セクション間の移動	231
セクションの複製	232
セクション名の変更	232
セクションの削除	232
ダッシュボードのホーム	233
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションのリフレッシュ	233
セクションの印刷	233
データのエクスポート	234
PDF としてのセクションのエクスポート	234
MS Excel(.XLS)へのセクションのエクスポート	235
ネイティブ・ファイル・フォーマットでの Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのエクスポート	236
クエリー・セクション	236
Interactive Reporting データベース接続ファイル(OCE)	237
データ・モデル	238
トピックとトピック・アイテム	238
クエリーの制限事項	238
新規クエリーの挿入	239
クエリーの操作	239
要求ペインでのアイテムの操作	241
ピクチャ(BLOB イメージ)のサポート	241
クエリーへの計算結果アイテムの追加	243
計算結果アイテムとデータ関数	249
データ関数	249
クエリー・フィルタの適用	251
可変フィルタ	253
クエリー・ソートの適用	254
クエリーのリフレッシュ	254
結果とテーブル	255

テーブルの追加	256
列と行の処理	256
結果/テーブル・アイテムのソート	257
数値のフォーマット	257
結果とテーブル・フィルタの適用	259
結果とテーブルの合計	263
結果とテーブルの計算結果アイテムの追加	265
結果データのページング	267
チャート・セクション	267
チャートの次元について	268
チャートのデータ・レイアウトのカテゴリ	268
凡例	269
チャートのプロパティの変更	270
チャートのデータの操作	280
チャートのファクトの操作	289
チャートのページング	290
ピボット・セクション	290
ピボット・テーブル・コンポーネント	291
ピボット・データの操作	291
ピボット・データのフォーカスと非表示	292
行ラベルと列ラベルの操作	293
ピボット・ファクトの操作	294
ピボット・データの分析	296
ピボット・データのページング	297
一般的なチャート/ピボット機能	298
チャート/ピボットのソート	298
チャート/ピボットへの任意のドリル	299
次元データへのドリルダウン	299
OLAPQuery セクション	300
OLAP データの操作	300
OLAP のデータ関数	303
CubeQuery セクション	303
Essbase について	304
多次元データベースについて	304
カタログ・リスト	307
OLAPQuery と CubeQuery のデータ・レイアウトの差異	308
CubeQuery の構築	308
DB へのログオン	310
メンバーの検索	310

メンバー選択	311
フィルタのメンバー選択	314
CubeQuery のナビゲート	316
スイングの使用	323
結果へのダウンロード	326
CubeQuery アイテムのフォーマット	338
検索オプション	338
CubeQuery からの Smart View の起動	342
ダッシュボード	343
Embedded Section オブジェクト	343
レポート・セクション	347
レポートのページング	347
第 11 章 Production Reporting ドキュメントの使用法	349
Production Reporting ドキュメントの表示	349
HTML レポートの表示機能	350
ナビゲーション・バーの使用法	350
目次を使用した移動	351
第 12 章 Web Analysis の使用法	353
表示	354
プレゼンテーションのアクセス権とファイル権限	354
ユーザーとグループの権限	354
ドキュメントとフォルダの参照	355
表示を開く	355
プレゼンテーションを開く際の注意	356
表示を閉じる	357
Web Analysis ドキュメント	357
Web Analysis ドキュメントの作成	358
ドキュメントからドキュメントを作成する	360
クエリーの変更	361
フィルタ次元の変更	362
メンバーの選択	363
メンバー選択の詳細設定	364
データ・ソース別のメンバー選択の詳細設定	365
メンバーの検索	367
SAP BW 特徴の検索	368
メンバーの検索	370
Analytic Services サブセットを使用したメンバーの選択	370
Financial Management ユーザー定義フィールドの選択	372

SAP BW メンバーのプロパティのフィルタ	373
SAP BW の上位/下位の使用方法	374
Financial Management メンバー・リストの選択	375
代替変数の選択	375
個人用変数の選択	376
視点(POV)の適用	376
動的時系列の選択の定義	377
前のメンバー選択の定義	378
データ・オブジェクトとデータソースのナビゲート	378
ナビゲーション・メソッド	379
次元の位置の調整	380
ページング	381
選択項目のみ保持	381
選択項目のみ削除	382
ドリル	382
ドリル・オプション	382
ドリル時に展開	383
「選択したメンバー」のデータの表示オプション	383
ドリルの種類	384
デフォルトのドリル動作	384
ドリルリンク	384
表示タイプの変更	385
データの表示オプション	385
ユーザーの POV に対する選択結果の保存	386
ピンボード	387
ピンボードの前提条件	387
ピンボード・シリーズ	387
SQL スプレッドシート	387
フリーフォーム・グリッド	388
表示のサイズ変更	388
分析ツールの管理	389
関連コンテンツの定義	389
定義の順序	390
デフォルトの分析ツールの定義	390
分析ツールの定義のアクティブ化と非アクティブ化	390
表示/非表示の制限	390
非対称分析	390
表示/非表示の制限の定義の作成	392
表示/非表示の制限の定義の編集	393

トラフィック・ライト	393
Financial Intelligence の種類	394
トラフィック・ライトの定義の作成	395
トラフィック・ライトの定義の編集	396
ソート	396
ソートの定義の作成	397
ソートの定義の編集	397
データの制限	397
データの制限の定義の作成	398
データの制限の定義の編集	399
上位/下位のみ取得	399
サーバーに基づくソート	400
複数、フィルタ軸メンバー	400
上位/下位のみ取得の定義の作成	401
上位/下位のみ取得の定義の編集	401
データのフォーマットの定義の編集	401
スプレッドシート・オプション	402
列のサイズ	403
各列の幅の設定	403
すべての列を同じ幅に設定	403
列の幅の自動サイズ調整	404
ドキュメントのフォーマット	404
フォーマットのオプション	404
他のフォーマットの種類	404
フォーマットの優先順位	405
データの表示オプション	406
「フォーマット」ダイアログ・ボックス	409
セルのフォーマット	412
列のサイズ	413
表示タイプの変更とロック	414
スプレッドシート・オプション	414
チャートとチャートのタイプ	415
チャートのプロパティ	417
色の選択	422
フォントのプロパティ	423
計算	424
平均	424
累積	424
計算式の作成	429

計算式の変更	433
Analytic Services の属性計算	434
EPM Workspace からの PDF での印刷	434
PDF で印刷	435
データベース接続	435
データベース接続ファイル	436
データベース接続へのアクセスとドキュメントの権限	436
ユーザーとグループの権限	436
OLAP およびリレーショナル・データの統合	437
Analytic Services データベース接続	437
データの制限	438
上位/下位のみ取得	438
データの編集	438
欠落した行、ゼロ値、および共有メンバーの除去	438
ラベルのモードと別名テーブル	438
Analytic Services ドリル設定	439
リンクされたレポート・オブジェクト(Linked Reporting Object:LRO)	439
リレーショナル・ドリルスルー	439
分析統合サービスのドリルスルー	439
Analytic Services メンバー選択の詳細設定	439
属性の次元と属性の計算式	439
Financial Management	440
Web Analysis ドキュメントで利用可能な Financial Management 機能	440
関連コンテンツ	441
セル・テキスト	441
ライン・アイテムの詳細	441
関連コンテンツの変更	441
期間別組織	441
Financial Management メンバー選択の詳細設定	442
ユーザー定義フィールド	442
エンティティ通貨の表示	443
Financial Management の規則	443
SAP BW	444
SAP BW の前提条件	444
SAP BW の規則	445
SAP BW のメンバー選択の詳細設定	445
リレーショナル・データベース	446
カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシート	446
カスタム・ドキュメントのフリーフォーム・グリッド	446

リレーショナル・ドリルスルー	446
リレーショナル・データベース接続	447
分析統合サービスのドリルスルー	447
リポジトリ	447
クエリー結果セットのサイズのコントロール	447
カスタム Web Analysis ドキュメント	448
コンテナ	448
コンテンツ・パネル	448
データ・オブジェクト	449
要素のコントロール	449
SQL スプレッドシートと SQL 要素	449
クエリーによるコンポーネントのリンク	450
共通のデータソース	450
コンポーネントのリンク解除	450
次元のリンク	450
データの編集モード	451
データの値の編集	451
Excel とのデータのコピー、切取り、貼付け	451
データの編集モードに関するヒント	452

第 13 章 Oracle BI EE の使用方法

概要	453
Oracle BI Answers	453
Oracle BI Interactive Dashboards	453
Oracle BI Delivers	454

第 14 章 ジョブとバッチのスケジュール

概要	455
ジョブのスケジュールおよび実行	455
ジョブの実行について	457
イベント	458
イベント・ステータスおよびスケジュール・ステータス	458
ジョブ・パラメータ	459
ジョブの実行	460
ジョブのスケジュール	461
ジョブの出力の使用方法	463
イベントの管理	464
ジョブ・キューの管理	467
ジョブ通知の表示	468
連結ジョブ・ステータス・リストの使用方法	468

ジョブの取得	474
バッチのスケジュール設定	474
実行するバッチのスケジュール	474
バッチ視点(POV)用のメンバーの選択	476
ジョブ・バーストのスケジュール設定	477
バッチ宛先とバースト出力ラベルの指定	477
バッチ・バースト受信者用の電子メール・リストの作成	480
電子メールでの通知の設定	481
バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択	481
バッチ削除	482
リポジトリからバッチの削除	482
バッチ・スケジューラからバッチの削除	482
バッチ・スケジューラ結果の自動削除	482
エクスポート済ファイルの取得	483
スケジュール済バッチのステータスの表示	483
スケジュール済バッチの詳細の表示	483
コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備	484
ログオン情報の提供	485
第 15 章 Interactive Reporting ジョブの使用方法	487
Interactive Reporting ジョブ	487
インポート要件	487
パススルー機能	488
パラメータ	488
Interactive Reporting プログラムで例外をサポート	488
Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定	489
詳細オプションの設定	489
データ・ソースおよびクエリー・プロパティの設定	490
Interactive Reporting 全般プロパティとオプションの設定	491
ジョブ・デフォルトの設定	491
データベース接続ファイルに関するオプションの選択	492
複数、Interactive Reporting、データベース接続ファイルを使用するパススルー	492
処理およびメタデータ・オプションの設定	493
ジョブ・パラメータの設定	495
シングル・サイクル・ジョブ・パラメータの設定	495
ジョブ・パラメータの変更	495
複数サイクル・ジョブ・パラメータの設定	496
ジョブ・パラメータ・オプション	497
フィルタ・オプション	497

処理のオプション	499
複数サイクル・ジョブのアクション・オプション	500
例: ジョブのインポートおよびスケジュール設定	502
第 16 章 Production Reporting および汎用ジョブの使用法	505
概要	505
ジョブのインポートの前提条件	505
ジョブ・プロパティ	506
依存性分析コマンド	507
詳細オプション	508
接続性と実行オプション	508
パラメータ	511
ジョブの出力	514
コンパイル・プロパティ	516
汎用ジョブ・プロパティ	517
汎用ジョブ出力オプション	517
汎用ジョブに必要なファイル	517
汎用ジョブのデータベース接続	518
汎用ジョブの出力オプション	518
Production Reporting および汎用ジョブ・プロパティの変更	519
Production Reporting および汎用ジョブ・パラメータの設定	519
ジョブのスケジュール設定用の出力オプション	519
電子メール通知オプション	520
出力ディレクトリ・オプション	520
安全な Production Reporting ジョブの使用	521
安全な Production Reporting ジョブのアクセス権	522
セキュリティ・モード	522
セキュリティの勧告	522
プログラマ規則	523
セキュリティ情報の表示	523
Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート	523
Production Reporting プログラミング	524
出力の優先度をプログラマ的に設定	524
第 17 章 Production Reporting ジョブのカスタム・パラメータ・フォームの使用法	525
パラメータ・フォームのカスタマイズ	525
パラメータ・フォーム・プロセス	525
パラメータ・フォーム・ジョブの割当て	526
標準フォームの割当て	526
パラメータ・フォームの編集	527

パラメータ・フォーム要素	527
要素タイプ	528
必要な要素	528
必要ではない要素	530
標準パラメータ・フォーム	531
標準パラメータ・フォーム例	531
パラメータ・フォーム: 例とヒント	534
第 18 章 注釈サービス	537
注釈の表示	538
注釈の作成	538
注釈要約の表示	539
注釈詳細の表示	539
注釈の検索	540
コンテキスト検索	540
詳細検索	541
注釈権限の設定	541
注釈への返答	542
注釈の削除	542
注釈の印刷のプリファレンスの設定	543
付録 A. アクセシビリティ	545
EPM Workspace のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする	545
高コントラスト・モードの設定	546
EPM Workspace UI での[Tab]キーの使用	546
グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用	547
EPM Workspace の図とコールアウト	548
全般 UI 要素のアクセシビリティ動作	550
非標準コントロールのアクセシビリティ動作	551
コンテンツ・タブ・バー	551
「ファイル・タイプ」ドロップダウンのアクセシビリティ	551
サイドバー・アイコン・リストのアクセシビリティ(ファイル・プリファ レンス/プロパティ)	552
「列の表示」ダイアログのアクセシビリティ	552
「お気に入りマネージャ」ダイアログのアクセシビリティ	553
エクスプローラのアクセシビリティ	553
「ファイル」ダイアログのアクセシビリティ	554
ファイル・アキュミュレータのアクセシビリティ	555
EPM Workspace ページのアクセシビリティ	556

EPM Workspace の「テンプレート・セクタ」ダイアログのアクセシビリティ	557
Financial Reporting のアクセシビリティ	557
Financial Reporting の図とコールアウト	557
Foundation Services のアクセシビリティ	558
Interactive Reporting のアクセシビリティ	559
オンライン・ヘルプのアクセシビリティ	560
用語集	561
索引	589

1

EPM Workspaceの使用方法

この章の内容

EPM System および Enterprise Performance Management について	21
EPM Workspace について	22
EPM Workspace の使用準備	23
配置ワークフロー	24
EPM Workspace	24
EPM Workspace 機能	25
モジュール・タスク	27
EPM Workspace ユーザー・インタフェース	27
Reporting and Analysis リポジトリ	28
EPM Workspace へのログオン	30
プリファレンスの設定	32
Reporting and Analysis のデータ・ソース要素の使用方法	33
Smart View の使用方法	44
EPM Workspace のカスタマイズ	45
ツールバー	50
メニュー	55
ショートカット・メニューのコマンド	60

EPM System および Enterprise Performance Management について

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System は、次の製品から成る包括的な Enterprise Performance Management (EPM)システムです。

- Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition: 検索や分析などの管理レポート機能を1つの環境に統合。
- Oracle Hyperion(R) Application Builder for .NET: 集約されたプランニング、集計およびスコアカードのアプリケーション
- Oracle Hyperion(R) Foundation Services: インストールおよび構成を簡易化するために使用します。また、メタデータ管理機能があり、Microsoft Office の共通インタフェースをサポートします。

EPM Workspace について

モジュール形式ビジネス・インテリジェンス・プラットフォームの EPM Workspace は、単一の統合環境で広範囲のデータ・ソースに対する管理レポート、クエリー、および分析機能を提供します。EPM Workspace も Oracle Hyperion Reporting and Analysis Authoring Studios、財務アプリケーション、および Oracle Business Intelligence 製品を使用して作成したコンテンツを表示および操作するユーザー・インタフェースを提供する設置面積ゼロのクライアントです。

EPM Workspace では、次のコンテンツにアクセスできます。

- Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition - Oracle Hyperion Planning, Fusion Edition、Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition、Oracle BI Answers、Oracle BI Interactive Dashboards、Oracle BI Delivers、および Oracle Business Intelligence Publisher を含む任意のデータ・ソースからスケジュール済またはオン・デマンド高度フォーマット済財務およびオペレーショナル・レポートを作成できます。
- Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting - 任意の ODBC データ・ソースに対して、アド・ホック・リレーショナル・クエリー、セルフサービス・レポートおよびダッシュボードを作成できます。
- Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting - 大量の企業全体のプロダクション・レポートを作成できます。
- Oracle Hyperion(R) Web Analysis - 対話式アド・ホック分析、プレゼンテーションおよび、多次元データのレポートを作成できます。
- Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition - Web ベースのソリューションで、組織は目標を設定したり、スコアカードを使用してビジネス・パフォーマンスの測定や監視を行ったりできます。
- Financial Management および Planning - アプリケーションタスクの統合およびプランニングに使用します。
- Profitability and Cost Management - 部門の収益性の計算に必要な原価と収益の配分を管理できます。
- Oracle BI Answers - 純粋な Web アーキテクチャにおける真のアド・ホック機能をエンド・ユーザーに提供します。
- Oracle BI Interactive Dashboards - Oracle BI Interactive Dashboards は、アクション可能で各自の役割と身分をベースに動的にカスタマイズされた情報の直感的で対話式のアクセスを提供します
- Oracle BI Delivers - ビジネス・アクティビティに関する監視機能および電子メール、ダッシュボード、モバイル・デバイスなどの複数のチャネルを使用してユーザーに通知できるアラート機能を提供します。
- BI Publisher - BI Publisher(旧 XML Publisher)は、複雑な分散環境に効率的でスケラブルなレポート作成ソリューションを提供します

Reporting and Analysis と Oracle Essbase を含む EPM Workspace は、このビジネス・インテリジェンス・プラットフォームを Oracle の Hyperion 財務アプリケーション、Performance Scorecard および Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 製品と統合する総合的な EPM システムの一部です。

注： Studio は、機能豊富なオーサリング環境を持つ Java または Windows コンポーネントを指します。EPM Workspace は、製品のユーザー・シン・クライアント(UTC)または共通ユーザー・インタフェースを指します。

EPM Workspace の使用準備

EPM Workspace を使用する前に、ドキュメント・セットを把握しておいてください。

補足情報:

- ブラウザ情報 - 『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
- EPM Workspace の URL とドメイン
- ユーザー・アカウント - 割り当てられているユーザー名とパスワード。システム管理者に確認してください。
- ログオン情報 - 30 ページの「EPM Workspace へのログオン」を参照してください。
- アクセス権 - 50 ページの「ツールバー」を参照してください。
- プリファレンス - 32 ページの「プリファレンスの設定」を参照してください。
- Oracle Hyperion(R) Shared Services Console のユーザー名とパスワード
- データベース情報

Financial Reporting を使用する場合は、コンピュータに Adobe Acrobat Reader がインストールされている必要があります。PDF でレポートを表示する前に、PDF ライター(Adobe Acrobat Distiller、GNU Ghostscript または AFPL Ghostscript)を印刷サーバーとともにインストールしておく必要があります。PDF ビューアが使用できない場合は、レポート名のみ表示されます。PDF ファイルとテキスト・ファイルの印刷の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

▶ EPM Workspace で PDF レポートを表示するために Microsoft Internet Explorer(IE)を使用可能にするには、次の手順に従います。

- 1 Internet Explorer を開きます。
- 2 「ツール」の「インターネットオプション」を選択します。
- 3 インターネットオプションダイアログ・ボックスで、全般タブを選択し、インターネット一時ファイルの設定を選択します。
- 4 設定ダイアログ・ボックスで、保存しているページの新しいバージョンの確認のページを表示するごとに確認するを選択します。

注： EPM Workspace を Web ポップアップ・ブロッカの例外に追加することをお勧めします。Web 上で EPM Workspace タスク(データのロードなど)を実行すると、ステータス・ウィンドウがポップアップし、タスク・ステータス

が表示されます。コンピュータでポップアップ・ブロックを使用可能にしている場合は、ステータス・ウィンドウが表示されません。

注： データベース接続に初めてアクセスするときに、ログオンを求めるメッセージが表示される場合があります。このメッセージは、Web アプリケーションへのログオンに使用したユーザー名およびパスワードがデータベース接続のユーザー名およびパスワードと異なる場合に表示されます。必要なデータベース接続のログオン情報については、管理者に確認してください。

Internet Explorer を使用する場合、ステータス情報は、EPM Workspace の操作中にブラウザのステータス・バーに表示されます。Firefox を使用する場合、ステータス・バーはデフォルトでは使用不可になっています。

- ▶ Firefox のステータス・バーを使用可能にして詳しい進行状況を確認するには、次の手順に従います。
 - 1 ツールのオプションを選択します。
 - 2 Web 機能を選択します。
 - 3 詳細を選択します。
 - 4 「JavaScript 詳細設定」ダイアログ・ボックスでステータスバーのテキストを変更するを選択します。
 - 5 OK をクリックします。

配置ワークフロー

配置タスクの情報については、Hyperion Enterprise Performance Management の配置に関するガイドラインを参照してください。

EPM Workspace

EPM Workspace の「ナビゲート」メニューから次にアクセスします。

- 「アプリケーション」により、Financial Management、Planning、Performance Scorecard、Profitability and Cost Management および Oracle Business Intelligence の各アプリケーションにアクセスできます。「アプリケーション」は、ユーザーがアクセス権を持ち、アプリケーションが利用可能な場合にのみ表示されます。
- Workspace ページから、マイ Workspace ページおよび共有 Workspace ページにアクセスします。マイ Workspace ページは、ユーザーがアクセスできないいずれかのフォルダに保管できます。マイ Workspace ページはお気に入りフォルダに類似しています。ユーザーは、リポジトリ内を移動しなくても、1つの場所からすべての個人用 Workspace ページにアクセスできます。共有 Workspace ページは、許可されたユーザーがエクスプローラ・モジュールからアクセスできるシステム・フォルダに保管されます。このフォルダにアクセスできるユーザーは、組織内の残るユーザーに個人用ページを移行するために、エクスプローラ・モジュール内で個人用ページを手動で移動できます。

- 「管理」により、ユーザー、グループ、ユーザー・プリファレンス、役割、スマート・カット、エクスペローラ注釈および認証メソッドを管理できます。
- 「スケジュール」により、ジョブの管理、自動処理のバッチおよびイベントのスケジュールを行うことができます。
- インパクト・マネージャにより、データベース構造、データベース接続、または外部データ・ソースへのリンクが変更されたときに、Interactive Reporting ドキュメントを更新できます。

Reporting and Analysis レポート・ソリューション・アーキテクチャの概要については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

また EPM Workspace は、Financial Reporting、Interactive Reporting、Production Reporting、Web Analysis および Performance Scorecard の各 Reporting and Analysis シン・クライアント製品とともにインストールできます。これらの製品は、ドキュメントの作成、ドキュメント要素の変更のために使用します。インストールされたこれらのコンポーネントにより、使用可能な機能が決まります。たとえば、Web Analysis ドキュメントを表示するには、Web Analysis をインストールする必要があります。これらのモジュールで実行するタスクについては、[27 ページの「モジュール・タスク」](#)を参照してください。

リポジトリの主要な機能は、ファイルを保管することです。各リポジトリ・ファイルには、ファイルの識別し、ユーザーおよびグループのアクセスをコントロールするプロパティがあります。システム管理者が設定するアクセス権限により、表示、変更、実行および削除できるリポジトリ・アイテムが決まります。[28 ページの「Reporting and Analysis リポジトリ」](#)を参照してください。

EPM Workspace 機能

EPM Workspace タスク

- ドキュメントおよびダッシュボードの表示
- 以下の製品のアクセス:
 - Financial Management - EPM Workspace からの Financial Management アプリケーションの使用の詳細は『Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド』を参照してください
 - Performance Scorecard - EPM Workspace からの Performance Scorecard の詳細は『Oracle Hyperion Performance Scorecard ユーザー・ガイド』を参照してください
 - アクセス権を持つユーザーが使用できる Planning アプリケーション - EPM Workspace からの Planning アプリケーションについては『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』を参照してください
 - Oracle Business Intelligence - Oracle Business Intelligence Answers、Oracle Business Intelligence Interactive Dashboards、Oracle Business Intelligence Delivers および BI Publisher が搭載されています。Oracle BI EE 製品の詳細は Oracle Business Intelligence 新機能ガイドを参照してください。Oracle BI Publisher

の詳細は『Oracle Business Intelligence Publisher ユーザーズ・ガイドリリース』を参照してください。

- Profitability and Cost Management - EPM Workspace からの Profitability and Cost Management の詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide』を参照してください
- 自動レポート実行または通知作成用バッチ、ジョブ、またはイベントのスケジュール
- Web Analysis および Interactive Reporting ドキュメント、ブック、バッチの作成
- EPM Workspace のパーソナル化による開始ページ (ホームページともいう)、個人用ページ、お気に入り、および EPM Workspace ページを使用した情報配布の管理

EPM Workspace からメニュー、ボタン、および「ナビゲート」メニューのアイテムを使用してタスクを実行します。システムを使用するに応じて以下の条件にしたがってメニューとツールバー・ボタンが更新されます。

- 管理者によって与えられた役割。役割は、ビュー・ペインおよびツールバーに表示されるモジュールを決定します。
- 使用している「ナビゲート」メニュー・アイテムおよび実行しているタスク。「管理」を使用すると、メニューおよびツールバー・アイコンは管理関係タスクに関連するタスクを含みます。「エクスプローラ」を使用するとメニューはファイル・タスクを含みます。

タスクを実行するために使用するモジュール

EPM Workspace を使用して次のユーザー・タスクを実行します。

- 「ナビゲート」メニュー - 「アプリケーション」、「Workspace ページ」、「管理」、「スケジュール」、「インパクト・マネージャ」、および「アイテムを開く」にアクセスします。
- アプリケーション:- Financial Management、Planning、Oracle Business Intelligence アプリケーション、Profitability and Cost Management および Performance Scorecard などのアプリケーションにアクセスします。
- Workspace ページ - Oracle および Oracle 以外のソースからコンテンツを集約します。Workspace ページは、ドキュメント、URL、および他のコンテンツ・タイプを含む複数のソースのコンテンツで構成されるページです。
- スケジュール - バッチ、ジョブ、およびイベントなどのドキュメントを自動的に実行して管理

注： 管理とインパクト・マネージャは管理者だけが使用します。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

- 「アイテムを開く」 - EPM Workspace で開いたすべてのドキュメントまたはアイテムを表示します。

ナビゲートからアイテムをアクセス

アイテムをアクセスするには、次のアクションを行います。

- 「ナビゲート」 から<アイテム名>をクリックします。
- ツールバーから<アイテム名>ボタンを選択します。

変数<アイテム名>が「アプリケーション」、「Workspace ページ」、「管理」、「スケジュール、インパクト・マネージャ」、または「アイテムを開く」で置換わりま

す。

ユーザー・タイプおよびタスク

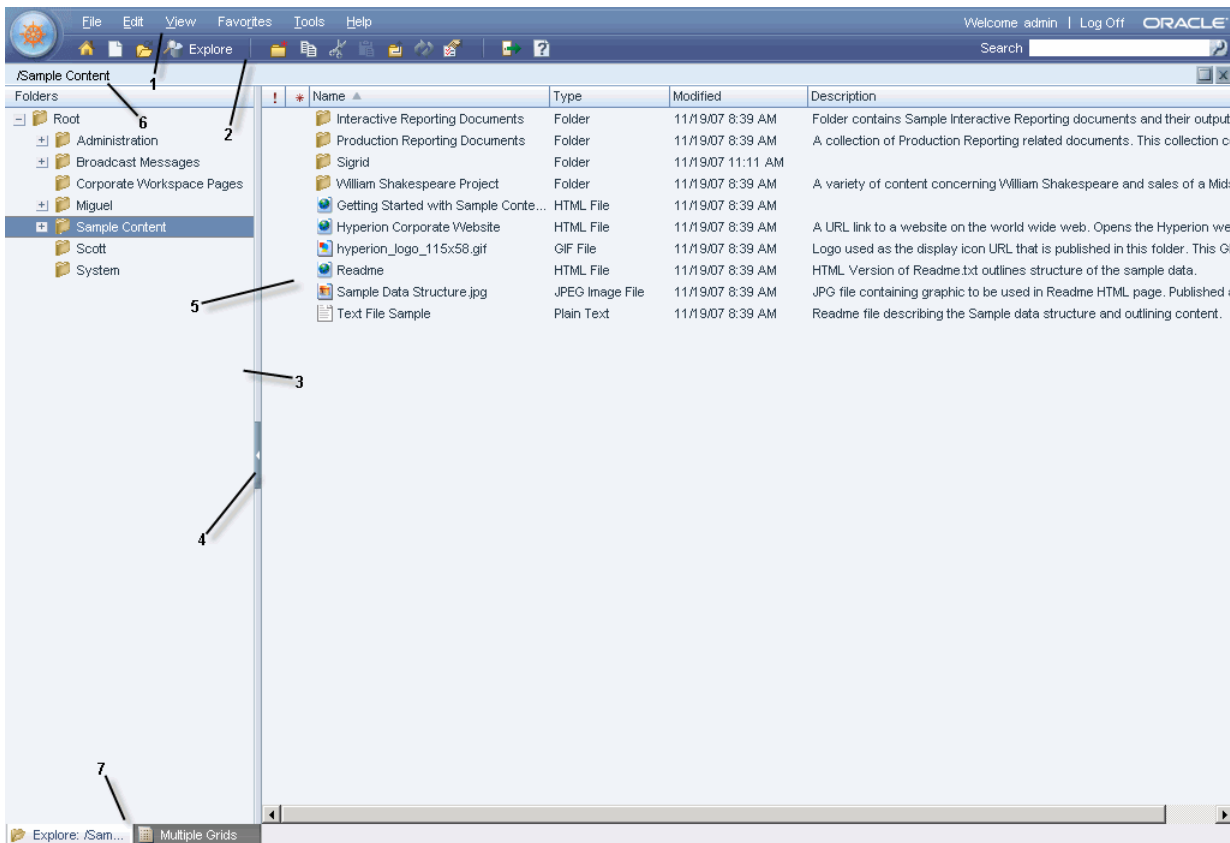
EPM Workspace から使用できる各種ユーザーの全リストは『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

モジュール・タスク

EPM Workspace で使用できるタスクは、システム管理者がユーザーに割り当てた役割と権限に依存します。役割の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

EPM Workspace ユーザー・インターフェース

ログオンすると、デフォルトの EPM Workspace 開始ページまたはホーム・ページが表示されます。デフォルトは、「プリファレンス」ダイアログ・ボックスから設定します。詳細は、[32 ページ](#)の「[プリファレンスの設定](#)」を参照してください。



EPM Workspace ユーザー・インタフェースには次の領域が含まれます。

1. メニュー・バー・タスクおよびモジュールを整理するコマンドおよびサブ・コマンド(55 ページの「メニュー」を参照)
2. 標準ツールバー・タスクを行うボタン。50 ページの「ツールバー」を参照してください。
3. ビュー・ペイン・パネル間を移動し(各パネルには、特定の用途と対応するコントロールがある)、ドキュメントおよびモジュールのリストを表示できるボタンを提供する領域(このペインを非表示にすると、EPM Workspace を使用するコンテンツ・フレームが広がります。表示および非表示を切替えるには「ビュー」を選択して「ビュー・ペイン」を選択します)。
4. ビュー・ペインまたはコンテンツ領域アジャスター・ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズを調節する設定。
5. コンテンツ領域 - アクティブ・モジュール、ドキュメント、タスク、またはファイルを表示する領域。
6. プロセス・バー - 現在のフォルダ、ドキュメント、または手順の場所。
7. ドキュメント・タブ・バー - 現在のモジュール固有の情報バー(複数のドキュメントが開いている場合、現在のドキュメント・タブが強調表示されます)。

Reporting and Analysis リポジトリ

リポジトリは、ドキュメントおよびファイルの保管、アクセス、および共有に使用します。ドキュメント、ファイル、フォルダなどのアイテムを各種の方法でアクセスできます。これにはドキュメントの参照または検索、フォルダの登録、お

およびダッシュボードの使用が含まれます。ドキュメント、ファイル、およびフォルダは、リポジトリにドキュメントをインポートして他のユーザーから使用可能にします。

ドキュメントは、情報およびデータを定義済フォーマットで表示します。ジョブおよびバッチを使用して自動的にドキュメントを生成できます。ジョブとバッチは自由に実行するか自動的に実行するようスケジュールできます。

注： ユーザーのファイルのアクセス権がどのリポジトリ・アイテムを表示、変更、実行、および削除できるかを決定します。

アクション

- ドキュメント、ファイル、およびフォルダは、次の4つのフォーマットで開くことができます。
 - 対話型 HTML
 - Adobe Reader で表示される Portable Document Format (PDF)
 - テキスト・ファイル
 - アプリケーションまたはサービスによって生成されログに保管される操作メッセージ
- Interactive Reporting、Production Reporting、および Financial Reporting ユーザーは、ドキュメントを登録できます。ドキュメントが変更または更新されるとユーザーは通知されます。
- Interactive Reporting、Production Reporting、および Financial Reporting ユーザーは、他のユーザーがドキュメントにアクセスできる前にドキュメントをインポートする必要があります。インポートは、以前プライベートだった情報を公開します。

場所

ユーザー・プリファレンスはデフォルトの起動オプションを指定します。

- コンテンツ領域には、エクスプローラ、ドキュメント、ワークスペース・ページ、リポジトリ・ロケーション、あるいは Performance Scorecard、Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management などのアプリケーション、または Oracle Business Intelligence アプリケーション製品が可能です。起動オプションは、ユーザーが EPM Workspace にログオンするとロードされ表示されます。

ヒント： フォルダを、もっとも頻繁にアクセスするコンテンツを含むディレクトリに設定します。

- **お気に入り**フォルダは、ユーザーがもっとも頻繁に検索するリポジトリ・コンテンツを含みます。すべてのユーザー・プロファイルにはお気に入りフォルダがあり、その中のファイルは「お気に入り」メニューからアクセスします。マネージャは、ユーザーのお気に入りフォルダにコンテンツをプッシュしてコンテンツの単一のアクセス・ポイントを提供できます。

ファイルの権限

EPM Workspace ファイル権限は、だれがどのファイルまたはフォルダをアクセスできどの操作を行えるかを決定します。アイテムのアクセスは、ユーザー、グループ・メンバー、またはシステム管理者が与えた役割として取得します。役割の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。アイテムをアクセスしてタスクを実行するレベルをアクセス権と呼びます。

特定のリポジトリ・アイテムのアクセスは、ドキュメント所有者が管理します。インポート、ジョブの実行、ドキュメント POV の更新などの操作のアクセスは、役割を通して管理します。たとえば、所有者はユーザーにジョブ A の変更と実行アクセス権を与えたとしても、ジョブの実行者役割を持つ場合にのみジョブを実行できます。所有者がドキュメント B のフル・アクセス権を与えると、ファイルを開いたり更新したりできます。ファイル権限の設定の詳細は、[第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。

ヒント： 相反する同等の権限があると、より少ないアクセスを与える権限が優先します。

ファイルをインポートすると、ファイルの所有者になり、他のユーザーのアクセス・レベルを指定します。たとえば、ファイルの読み取りはすべてのユーザーが可能、変更は自分のグループのみ可能、そして削除、アクセス権の変更、および移動は自分だけが可能になるよう設定できます。

EPM Workspace へのログオン

EPM Workspace は管理者が提供する URL を介するか Oracle アプリケーション・リンクを介す 2 つの方法でアクセスできます。

注： Oracle アプリケーション・リンクを介したアクセスには、シングル・サインオンが可能になっている必要があります。

▶ EPM Workspace セッションを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ウェブ・ブラウザから EPM Workspace ウェブ・ページへ移動します。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力します。

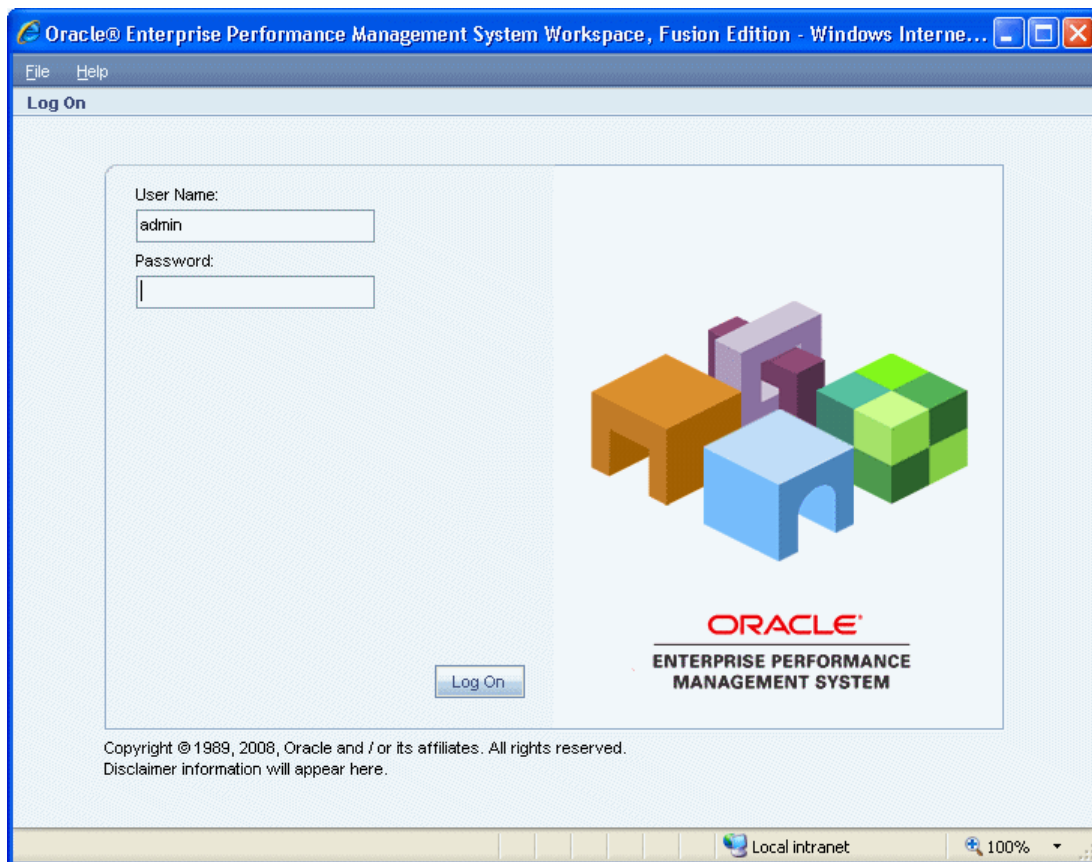
ヒント： ユーザー名とパスワードは大文字/小文字の区別がある可能性があります。ユーザー名とパスワードが大文字/小文字を区別するか調べるには、[認証ソース・ドキュメンテーション](#)を参照してください。

- 3 ログオンをクリックします。

ユーザーの開始ページまたはホーム・ページが表示されます。開始ページまたはホーム・ページの設定の詳細は、[第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

ログオン・ページのカスタマイズ

ログオン・ページをカスタマイズして所有権表示を追加できます。これにより、企業は EPM Workspace にログオンするときすべてのユーザーにこれをブロードキャストできます。この情報は、著作権情報の下に表示されます。



▶ ログオン・ページをカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 ファイル<workspace> ¥WEB-INF¥classes¥msgs¥JSPResources_en.properties をバックアップします。

注： JSPResources_xx.properties のすべてのインスタンス。ここで xx はカスタマ・サポートが変更する必要がある言語です。

- 2 ファイル<workspace> ¥WEB-INF¥classes¥msgs¥JSPResources_en.properties を編集します。
- 3 プロパティ logon.copyright.string を検索します。

注： 2つのインスタンスが可能です。最後のインスタンスを変更します。

- 4 ¥n を使用してテキストを文字列の最後に追加して改行します。
- 5 EPM Workspace ウェブ・アプリケーションを再起動します。

ヒント： ¥n を使用して行が右端へ行きすぎるのを防ぎます。文字列が長すぎる場合、ログオン・グループ・ボックスが偏ります。テキスト行の幅をログオン・グループ・ボックスの枠線に合わせます。

ネイティブ・ディレクトリ・パスワードの変更

Oracle Internet Directory をネイティブ・ディレクトリとして使用する場合は、Oracle Hyperion(R) Shared Services により Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーが適用されます。Shared Services は、Oracle の Hyperion 製品にこれらのポリシーに基づいてパスワードを変更するよう求めるメッセージを表示します。ネイティブ・ディレクトリのアカウントは、他の会社のアプリケーションをサポートするために作成されたユーザー・アカウントから分離されるため、ネイティブ・ディレクトリのパスワード変更の影響を受けるのは Oracle の Hyperion 製品のみです。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

注： ネイティブ・ディレクトリのパスワードは、ネイティブ・ディレクトリのユーザー・アカウントを変更することによりいつでも変更できます。

- ▶ ネイティブ・ディレクトリのパスワードを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 「現在のパスワード」に既存のパスワードを入力します。
 - 2 「新パスワード」および「新パスワードの確認」に、新規パスワードを入力します。

注： 新パスワードは、Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーに従っている必要があります。

- 3 OK をクリックします。

プリファレンスの設定

デザイナーは、EPM Workspace のユーザー・インタフェース、エクスプローラ、Reporting and Analysis 製品、Oracle Business Intelligence 製品およびユーザー・パスワード変更の認証の全体的な外観のデフォルト値を設定できます。Planning のプリファレンスは EPM Workspace から設定できません。Planning のエンドユーザーのプリファレンス設定については、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』を参照してください。管理者およびアプリケーションのプリファレンスについては、『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。Financial Management のプリファレンスは EPM Workspace から設定します。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド』を参照してください。EPM Workspace の Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスは、EPM Workspace で設定します。コンテンツ領域のデフォルト起動オプションを設定できます。一部の設定はメニュー・オプションを使用して上書きできます。詳細は、[第2章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

注： 電子メール・アドレスは更新できませんが、ユーザー・セキュリティ設定に登録されている電子メール・アドレスがデフォルトで使用されます。

Reporting and Analysis のデータ・ソース要素の使用方 法

データ・ソース(汎用データ・ストレージ・メカニズム)として、多次元データベース、リレーショナル・データベースまたはファイルを使用できます。データベース接続はリポジトリに格納される移動可能なファイルです。データ・ソースに接続するための規約、条件、手段などが定義されています。EPM Workspace では、データベース接続を作成または変更できません。該当する Reporting and Analysis 製品を使用する必要があります。自分が所有し、権限が与えられているデータベース接続のみ表示されます。データベース接続ファイルのプロパティの読取り、書込み、編集および変更を行うには複数の権限が必要です。権限の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

データベース・サーバーは、一般的にはサーバー名、アプリケーション名およびデータベース名を使用して一意の識別子を作成します。このような識別子を使用すると、データベース参照を容易に移動できなくなります。各 Studio では、長い識別子の代わりにデータベースの別名を使用します。別名の方が覚えやすく、経済的に採用できます。また、データベースを複数のサーバー上で管理することもできます。

リポジトリ・ドキュメントは、データベース接続ファイルを使用してデータ・ソースに値を問い合わせます。使用できるデータベース接続は1つのみですが、いくつかの任意のデータ・ソースを使用できます。

Reporting and Analysis 製品でサポートされているすべてのデータ・ソースとリレーショナル・データベースの一覧は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

- データ・ソースごとにシステム要件が異なります。システム要件の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。
- ビュー・ペインには、コンテンツ領域で現在開いているドキュメントの情報が表示されます。たとえば、現在のデータ・オブジェクトで使用されているデータベース接続などです。Web Analysis では、ビュー・ペインに次の2つのデータベース接続セグメントが表示されます。
 - データベース・セグメントには、現在のデータ・オブジェクトのデータベース接続名が表示されます。
 - データベース・ユーザー名セグメントには、データベース接続へのアクセス権が与えられているユーザー名が表示されます。

Web Analysis Studio

Oracle の Hyperion(R) Web Analysis Studio のユーザーは、OLAP データとリレーショナル・データ・ソース間のシームレスな連携を構築できます。OLAP からリレーショナル・データ・ソースに移動することを、一般にリレーショナル・ドリルスルーと呼びます。

リレーショナル・ドリルスルーを構成したら、ユーザーはレベル 0(一番下)の OLAP データベースに移動し、リレーショナル・データにドリルダウンできます。リレー

シヨナル・ドリルスルーはクライアントベースの統合ソリューションで、サーバーベースの分析統合サービスのドリルスルーに相当します。

リレーシヨナル・ドリルスルーは、様々な JDBC リレーシヨナル・データ・ソースをサポートしていますが、レベル、世代または前に選択されたメンバーによるクエリーはサポートしていません。リレーシヨナル・ドリルスルーの定義は、データベース接続ファイルのプロパティとして保存されます。

Reporting Studio

Oracle Hyperion Financial Reporting Studio, Fusion Edition を使用するには、ドキュメントで使用されるデータ・ソースに、ユーザー名とパスワードを持つユーザーとして定義されている必要があります。たとえば、Analytic Services を使用するドキュメントを表示する場合は、Analytic Services に定義されているユーザー・アカウントでデータベース接続にログオンする必要があります。通常、ログオンは自動的に行われますが、データベースに登録されていない場合は、ログイン情報の入力を求めるメッセージが表示されます。

Interactive Reporting Studio

Interactive Reporting ドキュメントには、複数のクエリー・セクションを含めることができます。それぞれのセクションから様々なデータ・ソース(リレーシヨナル・データベース、OLAP サーバー、インポートされたデータ・セットおよびローカル結合)にアクセスできます。各セクションが参照できるデータベース接続ファイルの数は、0(ローカル結合のみを使用する場合)または1です。ファイルが参照できるデータ・ソースは1つのみです。リレーシヨナル・データベース接続に関連付けられたクエリー・セクションまたはローカル結合のみを使用するクエリー・セクションが処理されると、対応する結果セクションが生成されます。データベース接続ファイルが多次元データベース接続に関連付けられている場合は、結果がクエリー・セクションに表示されます。

Production Reporting Studio

Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting Studio を使用すると、小さなアド・ホック・レポートから重要な運用レポートに至るまで様々なレポートを容易に作成できます。また、リレーシヨナル・データベース、OLAP サーバー、トランザクション・システムなどの各種データ・ソースを使用できます。

データ・ソース接続を作成したら、Production Reporting Studio のウィザード、レイアウト・エディタおよびエクスプローラを使用して、エンタープライズ・レポートを設計したりカスタマイズしたりできます。データベース・テーブルの挿入および更新により、データ変換をレポート処理に組み込むこともできます。

予算の作成、例外レポートの作成、数百万レコードからの請求書の作成、エンドユーザーによる迅速で効果的な意思決定に役立つ Web ベースのレポートの配布などを行うと、Production Reporting は企業全体への安全なコンテンツ配信を管理します。

Studio で使用可能な Analytic Services 機能

Analytic Services は、複数のソースのデータを統合し、企業全体のユーザー・ニーズを満たします。また、これまでアクセスできなかったデータに値を追加し、データを実用的な情報に変換します。

Studio で使用可能な Analytic Services 機能

- データ制限
- TOP および BOTTOM のみの取得
- データ編集
- #MISSING 値、ゼロ値および共有メンバーを含む行の抑制
- ラベルのモードと別名テーブル
- Analytic Services に固有のドリル設定
- リンクされたレポート・オブジェクト
- リレーショナル・ドリルスルー
- 分析統合サービスのドリルスルー
- メンバー選択の詳細設定
- 属性の次元と属性の計算

機能の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace ユーザー・ガイド』を参照してください。

Studio で使用可能な Financial Management 機能

Financial Management は、財務管理と財務レポートの作成を 1 か所で行うためのスケーラブルなソリューションです。EPM Workspace により、次の Financial Management 機能が拡張されます。

- 期間別組織
- Financial Management に固有のメンバー選択の詳細設定
- セル・テキスト - 関連コンテンツ
- ライン・アイテムの詳細関連のコンテンツ
- メンバー選択の詳細設定
- ユーザー定義フィールド
- エンティティ通貨の表示

Planning Details データベース接続の使用

Planning Details ADM ドライバをインストールしたら、Financial Reporting Studio のデータベース接続として Planning Details を選択できます。Planning Details ADM ドライバはデータ・ソースとして最適化され、サポート詳細、プランニング・ユニットの注釈、メタデータのフィルタ処理などの Planning 機能を提供します。レポート・グリッドで Planning 機能を使用しない場合は、最適なパフォーマンスを得る

ために、データベース接続として Essbase を選択してください。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

SAP BW データソース

各種 Studio を使用して、SAP BW データ・ソースにアクセスできます。カスタムレポートのフリーフォーム・グリッド・コンポーネントを使用すると、OLAP データ、リレーショナル・データおよび手動で入力したデータをデータ・オブジェクトで表示したり、統合された動的計算ですべてのデータ・ソースを利用したりできます。Studio により、情報消費者の表示、レポート作成および配布の要求を満たす、視覚的に魅力のある SAP BW レポートが提供されます。

SAP BW の機能

SAP BW には次の機能があります。

- BEx クエリー変数
- 期間累計値
- TOP および BOTTOM の取得
- 属性(メンバーのプロパティ)
- SAP BW 特性値に検索
- 通貨換算
- 単位変換
- Unicode

SAP BW の前提条件

SAP BW のデータ・ソースにアクセスするには、SAP BW クライアントをサーバーにインストールします。インストール後、SAP データ・ソースとの通信に使用する SAP ログオン・パラメータを定義します。

注： SAP JCO データ・ソースへのアクセスおよび SAP サーバーに対するユーザー認証の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』の SAP データ・ソース・アクセスと認証の構成を参照してください。

Reporting and Analysis でサポートされている SAP BW InfoProvider

- InfoCube/リモート InfoCube
- ODS のオブジェクト
- InfoSets
- BEx クエリー・キューブ
- Multiproviders

注： SAP BW BAPI ドライバを使用する場合、50 文字以上を含むキューブの MDX クエリーを発行できません。ただし、SAP InfoCube では最大 255 文字を使用できます。

SAP 変数のサポート

ここには以下のトピックがあります。

- [SAP 変数について](#)
- [変数および処理タイプ](#)
- [変数オプション](#)

SAP 変数について

SAP 変数は、BEx クエリー・デザイナーで定義されているクエリー・パラメータです。特性値、階層、階層ノード、テキストおよび式要素の格納場所として機能します。

SAP 変数は、新規 Web Analysis ドキュメント、Production Reporting ドキュメントまたは Financial Reporting ドキュメントの作成時、Web Analysis ドキュメント、Production Reporting ドキュメントまたは Financial Reporting ドキュメントを開くとき、コンテンツ・ペインでショートカット・メニューから変数をリフレッシュするように明示的に選択するときに、「変数」ダイアログ・ボックスに表示されます。SAP 変数が表示されるのは、変数が定義されている BEx クエリーに対してデータベース接続が作成されている場合のみです。

元の BEx クエリーで作成された変数に"Ready for Input"が選択されている場合にのみ、変数値の入力を求めるメッセージが表示されます。"Ready for Input"が選択されていない変数の場合、Web Analysis ドキュメント、Production Reporting ドキュメントまたは Financial Reporting ドキュメントの作成時にデフォルト変数値が適用されます。

変数および処理タイプ

変数を処理するには、変数が処理タイプに関連付けられている必要があります。処理タイプは、変数の処理方法を示します。

表 1 変数と処理タイプの組合せ

処理タイプ	特性値	階層	階層ノード	数式
	変数のタイプ			
手動入力/デフォルト値	X	X	X	X
顧客による終了	X	X	X	X
SAP による終了	X		X	X
認可	X		X	

処理タイプ	特性値	階層	階層ノード	数式
置換パス	X			X

次の表は、変数タイプとその説明を示しています。

表 2 変数の説明

変数/ 処理 タイプ	説明
特徴	最も一般的な変数のタイプ。最も一般的な処理タイプは、"Ready for Input"が設定された"手動/デフォルト"です。特性値をクエリーの実行時に選択できるようにします。認可処理タイプでは、トランザクション RSMM で定義されたエンドユーザーの認可設定を確認し、見つかった値を変数の入力として使用します。
階層	特性値変数と同じように機能します。特定の特性の階層ツリー全体を表します。クエリー・ユーザーは単純に同じ階層内の別のノードを選択するのではなく、新規階層を選択できます。
階層ノード	特性値変数と同じように機能します。階層内の特定の低位構造を表します。
数式	クエリー定義で設定されたクエリー・パラメータ。クエリーがワークブックに挿入されるまでは値が入力(処理)されません。数式変数は、個々の式要素の格納場所として機能します。

次の表に、処理タイプの説明を示します。

表 3 処理タイプの説明

変数/処理 タイプ	説明
手動入力/ デフォルト 値	この処理タイプで処理される変数を使用すると、クエリーをワークブックに挿入する前に手動で値を入力できます。変数の作成時に、デフォルト値データを使用してデフォルト値を入力するかどうかを指定します。
顧客による 終了	変数値を入力するために SAP の顧客によって記述される ABAP コード。
SAP による 終了	変数値を入力するために SAP によって記述される ABAP コード。
認可	ユーザー認可を使用して変数値を保管するかどうかを示します。

変数オプション

各変数タイプには5つのオプションがあります(ただし、すべての処理タイプの階層変数および処理タイプが置換パスの変数タイプを除く)。これらのオプションで各変数の値の選択方法を指定します。BEx 変数のダイアログ・ボックスでは、これらのオプションは**変数表現**の下にあります。これらの各オプションの値は、「変数」ダイアログ・ボックスでサポートされます。

表 4 変数オプション

オプション名	変数表現
単一値	1つの値のみ。
複数の単一値	複数の単一値。階層ノードで、たとえば複数の単一ノードを入力できるようにする場合に便利です。
間隔	範囲値。つまり間隔。
選択オプション	単一値と間隔の任意の組合せ。
計算済値セット	Reporting Agent によって永続的にデータベース・テーブルにステージングされた値のセット。

各変数タイプには、その変数の値を必須にするかどうかを指定する3つの追加オプションがあります。BEx 変数のダイアログ・ボックスでは、これらのオプションは**変数値**の下にあります。

表 5 変数値のオプション

変数値のオプション	説明
オプション	実行時に変数の値は必要ありません。
Mandatory	実行時に変数に少なくとも1つの値が入力されている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> 初期値(#)は明示的に許可されます。 初期値#は、"未割当て"を意味します。つまり、この特性に値が予約されていないすべてのデータが明示的に選択されます。
必須、初期値は許可されない	実行時に変数に少なくとも1つの値が入力されている必要があります。初期値(#)は許可されません(つまり、クエリーを実行するには、1つ以上の明確な値を入力する必要があります)。

注： 変数値は BEx で変数を作成した後に変更できますが、**変数表現**を設定できるのは変数の作成時のみです。

SAP 属性のサポート

サポートされている SAP 属性は次のとおりです。

- **表示属性** - ユーザーは表示属性の選択、検索、フィルタ処理およびクエリーやレポートの一部としての追加が可能です。
- **ナビゲーション属性** - ナビゲーション属性は、特性と同様にフィールド・カタログから選択します。Web Analysis、Production Reporting および Financial Reporting ドキュメントでナビゲーションに使用されます。Web Analysis、Production Reporting および Financial Reporting に選択条件として渡すこともできます。

SAP セキュリティ統合

SAP BW には、Web Analysis、Production Reporting および Financial Reporting のユーザーを SAP と統合するためのシングル・サインオンというログイン機能が用意されています。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』の"SAP プロバイダの操作"を参照してください。

リレーショナル・アクセス・メソッド

Web Analysis ドキュメントなどの一部のドキュメントでは、OLAP、Oracle およびサポートされているリレーショナル・データベースにアクセスできます。

Web Analysis からリレーショナル・データにアクセスするためのメソッドは次のとおりです。

- カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシート
- カスタム・ドキュメントのフリー・フォーム・グリッド
- リレーショナル・ドリルスルー
- リレーショナル・データベース接続
- 分析統合サービスのドリルスルー
- リポジトリ

クエリー結果セットのサイズのコントロール

クエリーの制限は、リレーショナル・アクセス・メソッドによって異なります。カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシートとリレーショナル・ドリルスルーでは、SQL クエリーまたはリレーショナル・ドリルスルーの定義を作成しながら、クエリーの制限を宣言できます。

OLAP からリレーショナル・データにドリルすると、ドリルした OLAP 次元メンバーのみリレーショナル・データ・ソースに渡されるため、クエリー結果セットのサイズが大きくなる可能性があります。クエリー結果セットを小さくして簡素化するには、ページを渡したり、OLAP ドキュメントで指定された次元をフィルタしたりできます。


Interactive Reporting ドキュメントでは、クエリー・セクションのプロパティを使用してリレーショナル・データ・ソースから戻される行の数を制御し、クエリーに時間制限を設定できます。ユーザーは場合によってはキーボードでクエリーを取り消すことができます。

タスクの開始

EPM Workspace のほとんどのタスクは同じ方法で開始します。

注：一部のタスクは、ツールバー、メニューおよびショートカット・メニューから実行することもできます。EPM Workspace ツールバー、メニューおよびショートカット・メニューのリストは、[50 ページの「ツールバー」](#)を参照してください。

▶ タスクを開始するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」  から「アプリケーション」、「Workspace ページ」、「管理」、「スケジュール」、「インパクト・マネージャ」または「アイテムを開く」を選択します。
- 2 いずれかのメニューからタスクを選択します。たとえば、「ファイル」メニューから新規を選択し、Workspace ページを選択します。

ドキュメントの作成

EPM Workspace では、新規ドキュメント・ウィザードを使用して、Web Analysis ドキュメントや Interactive Reporting ドキュメント、Financial Reporting ブックやバッチまたは Workspace ページを作成できます。

▶ Web Analysis ドキュメントや Interactive Reporting ドキュメント、Financial Reporting ブックやバッチまたは Workspace ページを作成するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 次のいずれかのオプションを選択します。

- Interactive Reporting ドキュメントを作成
- Web Analysis ドキュメントを作成
- レポートを収集してブックを作成
- スケジュールを設定するレポートのバッチを作成
- Workspace ページを作成

詳細は、[第 9 章「Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計」](#)、[第 10 章「Interactive Reporting」](#)、[第 12 章「Web Analysis の使用方法」](#) および [第 6 章「情報の表示と整理」](#) を参照してください。

ドキュメントのデータ・ソースの選択

ドキュメントを作成するには、データ・ソースを指定する必要があります。データ・ソースによってドキュメント・タイプが決まります。

- Web Analysis ドキュメントを作成するには、Web Analysis データベース接続を指定します。
- 既存のドキュメントをベースにした Interactive Reporting ドキュメントを作成するには、既存のドキュメントを指定します。

注： 次の手順で、<アイテム名>はアプリケーション、Workspace ページ、管理、スケジュールまたはインパクト・マネージャを表します。

ナビゲート・アイテムへのアクセス

- ▶ 「ナビゲート」からアイテムにアクセスするには、「ナビゲート」を選択し、<アイテム名>をクリックします。

ドキュメントまたは URL を開く、印刷する

- ▶ ドキュメントを開くには、次の手順に従います。

- 1 ファイルの開くを選択し、ドキュメントを選択します。

「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 ドキュメントを選択します。

注： 開いているドキュメントのリストは、「ナビゲート」メニューの「アイテムを開く」オプションを使用するか、EPM Workspace の下部にあるタブを使用して確認できます。開いているドキュメントを切り替えることができます。

- ▶ URL を開くには、次の手順に従います。

- 1 ファイルの開くを選択し、URL を選択します。

- 2 URL 名を入力します。

- 3 OK を選択します。

注： 次の手順は、Financial Reporting、Web Analysis または Production Reporting ドキュメントにのみ適用されます。

- ▶ ドキュメントを印刷するには、次の手順に従います。

- 1 ファイルの開くを選択し、ドキュメントを選択します。

- 2 ドキュメント(たとえば Financial Reporting ドキュメント)を開きます。

注： ドキュメントを HTML または PDF として開く必要がある場合があります。

- 3 ファイルの印刷を選択し、HTML または PDF を選択します。

ファイルのプロパティの設定とファイルの移動

- ▶ ファイルのプロパティを設定するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラでドキュメントを開かずに選択します。

- 2 ファイルを選択し、プロパティを選択します。

「プロパティ」ダイアログ・ボックスで、「全般プロパティ」オプションがデフォルトで選択されています。

ファイル名、説明およびオブジェクトの所有者を変更できます。オブジェクトの所有権を変更するには、そのオブジェクトに対するフル・コントロール権限が必要です。「権限」などのその他のプロパティ設定の詳細は、[第5章「アーチファクトのインポート」](#)を参照してください。

- ▶ エクスプローラでファイルまたはフォルダを移動するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
 - 2 編集を選択し、切取りまたはコピーを選択します。コピーの詳細は、[104 ページの「ファイルまたはフォルダの移動またはコピー」](#)を参照してください。
 - 3 リポジトリの場所を選択し、編集の貼付けを選択します。

ファイル名の変更

- ▶ ファイル名を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
 - 2 編集を選択し、名前変更を選択します。
 - 3 名前を入力します。
 - 4 保存を選択します。

お気に入りに対するドキュメントの追加と削除

- ▶ ドキュメントまたはフォルダをお気に入りに追加するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラでドキュメントまたはフォルダを選択します。
 - 2 お気に入りを選択し、お気に入りに追加を選択します。
 - 3 お気に入りを選択します。

追加したドキュメントまたはフォルダがメニュー・オプションとして表示されません。

- ▶ ドキュメントまたはフォルダをお気に入りから除去するには、次の手順に従います。
 - 1 お気に入りを選択し、お気に入りの管理を選択します。
 - 2 表示の選択を解除するか、削除を選択します。

- ▶ Production Reporting ドキュメントへのショートカットを作成するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラでドキュメントを選択します。
- 2 ドキュメントを右クリックし、ショートカットの作成を選択します。
- 3 「全般プロパティ」ダイアログ・ボックスに必要な情報を入力し、OK を選択します。

手順は、[第11章「Production Reporting ドキュメントの使用法」](#)を参照してください。

エクスプローラの使用法

エクスプローラでは、ファイルへのアクセス権の整理、検索または割当てを行います。「エクスプローラ」を選択すると、ビュー・ペインにフォルダが表示され、コンテンツ・ペインにファイルとフォルダが表示されます。

エクスプローラには次の機能があります。

- フォルダ・ツリー - EPM Workspace フォルダのナビゲート
- ファイル・プロパティの表示 - タイプ、所有者、作成日、アクセス権、変更日、説明などのファイル情報の表示

スケジュールの使用法

スケジュールを使用して、バッチ、ジョブおよびイベントを管理およびスケジュールし、ステータスを表示します。スケジュールは主に、Financial Reporting、Interactive Reporting および Production Reporting によって使用されます。

スケジュールの機能は、次のとおりです。

- バッチ・スケジューラ
- ジョブ・キュー
- ジョブ通知
- パラメータの表示
- 実行中のジョブ
- イベントの管理
- 連結ジョブ・ステータス

[第 14 章「ジョブとバッチのスケジュール」](#)を参照してください。

「アイテムを開く」の使用法

「ナビゲート」の「アイテムを開く」を使用すると、開かれているドキュメントのリストが表示され、開かれているドキュメントを素早く切り替えることができます。

Smart View の使用法

Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition には、Essbase、Financial Management、Planning および 4 つの EPM Workspace コンポーネント用の一般的な Microsoft Office インタフェースが用意されています。

- Financial Reporting
- Production Reporting
- Web Analysis
- Interactive Reporting(Smart View のエクスポート・オプションは使用不可)

この一元化されたインタフェースを使用すると、複数の Oracle 製品を同時に使用することや、Microsoft Office(2000、2002 および 2003)との統合を向上させることが可能になります。Smart View 実装には、次の EPM Workspace 機能が用意されています。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを Excel、Word または PowerPoint にエクスポートする。
- Financial Management および Essbase の機能を Excel、Word および PowerPoint コンテンツで公開する。
- 新規 Smart View リリースへのアップグレードを通知する。

Smart View では、次の 2 つのエクスポート・オプションを使用できます。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページをイメージとして Word、PowerPoint、Excel にエクスポートし、後で Web アプリケーションを再クエリーしてイメージをリフレッシュする。
- ドキュメントをクエリー準備またはフォーマット済 HTML として Excel にエクスポートする。

コンテンツをクエリー準備 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページが HTML に変換され、Oracle 固有のフォーマットが除去されます。これにより、Smart View は、Web アプリケーションとは関係なくデータ・ソースを再クエリーできるようになります。

コンテンツをフォーマット済 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページが HTML に変換され、Oracle フォーマット定義および計算済メンバーが保持されます。これにより、Smart View はデータ・ソースを直接クエリーできなくなりますが、Oracle コンテンツは Microsoft Office アプリケーションで活用できるようになります。すべてのデータ・ソースおよび Web アプリケーションによってすべてのエクスポート・オプションがサポートされているわけではありません。第 3 章「アイテムの参照と管理」を参照してください。

EPM Workspace のカスタマイズ

EPM Workspace のお気に入り、Workspace ページおよび個人用ページを使用して、ドキュメントの構成、アクセスおよび表示プロセスをカスタマイズできます。第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」を参照してください。

ドキュメントの登録

ドキュメントが変更または更新された場合、登録ユーザーには次の方法で通知できます。

- ファイルが添付された電子メール通知
- ブックマークが設定された個人用ページ
- ブックマークを表すイメージ

サブスクライブの詳細は、第 6 章「情報の表示と整理」を参照してください。

お気に入りの操作

お気に入りを使用すると、頻繁に使用するアイテムやドキュメントに簡単にアクセスできます。適切なアクセス権がある場合、他のユーザーのお気に入りにアイテムを追加(アイテムをプッシュ)できます。

Workspace ページの使用法

Workspace ページを使用すると、Oracle(Reporting and Analysis およびアプリケーション製品)や Oracle 以外のソース(URL および Office ドキュメント)を作成、編集し、単一環境に集約できます。Workspace ページを作成するために、テンプレートが用意されています。Workspace ページには、マイ Workspace ページと共有 Workspace ページという 2 つのタイプがあります。マイ Workspace ページは、アクセス権を持つ任意のフォルダに保管できます。任意のフォルダに保管可能なマイ Workspace ページへのショートカットを作成する Workspace ページの実装などのお気に入りも用意されています。共有 Workspace ページは、権限を持つユーザーがエクスプローラからアクセスできるシステム・フォルダに保管されます。このフォルダにアクセスできるユーザーは、エクスプローラ内で個人用ページを手動で移動することにより、組織内で昇進できます。詳細は、[174 ページの「Workspace ページ」](#)を参照してください。

個人用ページの使用法

個人用ページにより、頻繁に使用する情報を表示できます。複数の個人用ページを使用し、デフォルト個人用ページを選択できます。このデフォルト・ページは、お気に入りから個人用ページを開くときに表示されます。個人用ページのコンテンツとレイアウトのカスタマイズ、個人用ページの作成、インポートした個人用ページのコピーとカスタマイズが可能です。

個人用ページの機能は、次のとおりです。

- **ブロードキャスト・メッセージ** - フォルダへのリンク。このコンテンツは、管理者によって設定および管理されます。フォルダのコンテンツは、1 つ以上のコンテンツ・ウィンドウとして表示され、すべてのユーザーに表示されます。ブロードキャスト・メッセージ・フォルダには、次の 2 つのサブフォルダがあります。
 - 個人用ページのコンテンツ - 発行された個人用ページ
 - サンプルの個人用ページ - 管理者によって設定されたコンテンツと登録によって追加されたコンテンツ
- **マイ・ブックマーク** - EPM Workspace で新規タブとして開く Web ページやリポジトリのアイテムへのリンク
- **イメージ・ブックマーク** - Web ページやリポジトリのアイテムへのグラフィック・リンク
- **ファイル・コンテンツ・ウィンドウ**として表示される HTML ファイルまたはジョブの出力 - Workspace HTML のアイテムおよび URL
- **例外ダッシュボード** - **トラフィック・ライト・インディケータ**。トラフィック・ライトが赤である場合、アイテムが例外として指定されているか、ジョ

ブによって例外が生成されています。トラフィック・ライトが緑である場合、ジョブによって例外が生成されていません。

- **表示可能 Interactive Reporting セクション** - アクセス可能なジョブの出力および Interactive Reporting ドキュメントのセクション

次のタスクの詳細は、[第 6 章「情報の表示と整理」](#)を参照してください。

- 個人用ページのコンテンツの追加
- 個人用ページのレイアウトの変更
- 個人用ページの色の変更
- 個人用ページの HTML コンテンツの表示
- ブックマークの作成
- 例外通知の使用方法
- 個人用ページでの Interactive Reporting ドキュメントのセクションの埋込み

ダッシュボードからの EPM Workspace のタブとしての EPM Workspace オブジェクトの起動

テキスト・ラベルのダッシュボード・グラフィック・オブジェクトを作成し、次の例のようなスクリプトを「プロパティ」ダイアログのオブジェクト・タイトルに追加します。

- **Financial Reporting レポート**を起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabFR()  
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?  
module=tools.relatedcontent&repository_path=/  
object>&showViewPane=false"});</script><span id="idnameFR"  
onClick="newtabFR()" style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- **Financial Management アプリケーション**を起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabHFM()  
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?  
module=hfm.appcontainer&sourceApp=<hfm app>&cluster=<clustername>");} </  
script> <span id="idnamehfm" onClick="newtabHFM()" style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- **Planning アプリケーション**を起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabPlan()  
{top.gModuleManager.launchRelatedContentUri(top.location.href + "?  
module=HyperionPlanning.planning&sourceApp=<Planning application name>");}  
</script><span id="idnameplan" onClick="newtabPlan()" style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

- **URI** を起動する場合:

```
@HTML(<script> function newtabURI() {top.gModuleManager.launchUri("<valid URL">);} </script><span id="idnameuri" onClick="newtabURI()" style="cursor:pointer"><title text></span>)
```

注： top.location.href is http://server:port/context

サポートされている URL の別の例は、48 ページの「EPM Workspace によってサポートされる URL」を参照してください。

ダッシュボード内のフォルダのリポジトリ・コンテンツの列挙

これにより、ダッシュボード内のフォルダのリポジトリ・コンテンツをリストして起動できます。ダッシュボードでは、埋込みブラウザ・オブジェクトを作成し、次のような URL を設定します。

```
http://server:port/workspace/browse/dyn?page=/jsp/com/hyperion/tools/workspacepages/folderlisting.jsp&repository_path=<encoded path to repository object>
```

他のパラメータは、次のとおりです。

- オプション: showViewPane=true/false
FALSE の場合、列挙したコンテンツを起動するときにビュー・ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。
- オプション: showIcons=true/false
FALSE の場合、リスト内のアイコンを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。

ダッシュボード内の EPM Workspace アプリケーションの列挙

これにより、ダッシュボード内で EPM Workspace アプリケーションをリストして起動できます。ダッシュボードでは、埋込みブラウザ・オブジェクトを作成し、次のような URL を設定します。

```
http://server:port/workspace/browse/dyn?page=/jsp/com/hyperion/tools/workspacepages/appslisting.jsp
```

EPM Workspace によってサポートされる URL

EPM Workspace のサポート対象として発行されている URL は、次のとおりです。

- 標準 URL:
http://<server>:<port>/workspace/

注： この URL の後ろにはスラッシュがあり、index.jsp は含まれません。index.jsp は使用しないことをお勧めします。これは、Web ブラウザの「戻る」ボタンが使用可能である場合、これを選択すると問題が発生す

る可能性があるためです。これがない場合、Web サーバーにより、後ろにスラッシュがある URL にリダイレクトされます。9.3.1 より前の場合、インストール・スタート・ガイドでは後ろのスラッシュは省略されています。

追加パラメータ:

- オプション: `sso_username=<username>`
ログインしようとしたユーザーの名前。
- オプション: `sso_password=<password>`
ログインしようとしたユーザーのパスワード。
- オプション: `fullscreen=true/false`
TRUE の場合、プログラムは全画面で起動します。デフォルト値は FALSE です。

- リポジトリのコンテンツを起動する URL:

```
http://<server>:<port>/workspace/?module=tools.relatedcontent&repository  
_path=<encoded path to repository object>
```

追加パラメータ:

- オプション: `bpm.logoff=true/false`
FALSE の場合、同じセッションを使用しているときにログオフできないようにします。デフォルト値は TRUE です。

- Financial Management(集計)アプリケーションを起動する URL:

```
http://<server>:<port>/workspace/?  
module=hfm.appcontainer&sourceApp=<hfm_application_name>&cluster=<cluster  
name>&workspace=true&iscontained=yes&reopen=true
```

追加パラメータ:

- オプション: `showViewPane=true/false`
FALSE の場合、モジュールをロードするときに左ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。
- オプション: `bpm.logoff=true/false`
FALSE の場合、同じセッションを使用しているときにログオフできないようにします。デフォルト値は TRUE です。

- Planning アプリケーションを起動する URL:

```
http://<server>:<port>/workspace/?  
module=HyperionPlanning.planning&sourceApp=<appname>
```

追加パラメータ:

- オプション: `showViewPane=true/false`
FALSE の場合、モジュールをロードするときに左ペインを非表示にします。デフォルト値は TRUE です。

- オプション: bpm.logoff=true/false

FALSE の場合、同じセッションを使用しているときにログオフできないようになります。デフォルト値は TRUE です。

- EPM Workspace のログオン・ページを全画面として起動する URL:

http://<server>:<port>/workspace/?fullscreen=true

- ユーザーがカスタム・ログインに失敗した後にログイン情報を指定可能にする方法には、次の 2 通りがあります。

1. WebClient.UserInterface.Login.AllowLoginONCustomFail=true(デフォルトでは FALSE)。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』のコンソールの構成と監視の章を参照してください。

2. カスタム・ログインに失敗したときに EPM Workspace 起動する URL:

http://<server>:<port>/workspace/?allowLogin=true

URL パラメータ: allowLogin=true

カスタム・ログイン・ポリシーが指定されており、カスタム・ログイン・ポリシーのログイン情報が無効であるときに EPM Workspace にログインしようとする、前述のどのオプションを使用しても、ユーザーは正しいログイン情報を指定できません。

ツールバー

ツールバーを使用することにより、一般的に使用される機能に対してコンテキストに依存した方法で迅速にアクセスします。ボタンの可用性は、コンテンツ領域のモジュールによって決まります。







注： Firefox 2.0 の場合、キー組合せとして[Shift]キーと[Alt]キーを押しながらキーを押して、ボタンのアクセス・キーを呼び出します。Macintosh オペレーティング・システムの場合は[Ctrl]を押しながらキーを使用し、UNIX の場合は[Ctrl]キーと[Shift]キーを押しながらキーを使用します。

注： 役割により、ユーザー・インタフェースに表示されるツールバー、メニュー、ショートカット・メニューおよびモジュールが決まります。たとえば、役割上、ドキュメントを作成できる場合、ツールバー・メニュー・アイテム「ファイル」および「新規」が表示されます。

標準ツールバー

標準ツールバーは、一般的な EPM Workspace 機能用として使用できます。これらは、「ナビゲート」メニューからアイテムを開く前に表示されます。





表 6 標準ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」、「新規」、「ドキュメント」	Financial Reporting ブックおよびバッチ、Web Analysis ドキュメント、Interactive Reporting ドキュメントおよび Workspace ページなどのドキュメントを作成します。
	「ファイル」、「開く」、「ドキュメント」	リポジトリ・ドキュメントを開きます。
	NA	コンテンツ領域のデフォルトの起動オプションを表示します。
	NA	エクスプローラを開き、リポジトリをファイル管理システムとして表示します。
	「ファイル」、「ログオフ」	現在のセッションを終了します。
	「ヘルプ」、「このトピックに関するヘルプ」	コンテンツ領域に表示されたページのヘルプを表示します。

Web Analysis ツールバー

Web Analysis ツールバーには、標準ボタンと、Web Analysis 固有のボタンが表示されます。



表 7 Web Analysis ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「表示」、「データ・レイアウト」	クエリーおよび次元メンバー選択を再定義するために使用する「データ・レイアウト」ダイアログ・ボックスを表示します。
	「ファイル」、「保存」	ドキュメントをリポジトリに保存します。
	「ファイル」、「名前を付けて保存」	ドキュメントを新規名でリポジトリに保存するか、新規の場所に保存します。
	NA	印刷パラメータおよびオプションを定義するために使用するブラウザの「印刷」ダイアログ・ボックスを表示します。

Financial Reporting ツールバー

Financial Reporting ツールバーには、標準ボタンと、Financial Reporting 固有のボタンが表示されます。






表 8 Financial Reporting ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」、「ファイル形式を指定して開く」、「PDF プレビュー」	ブラウザでドキュメントを PDF として開きます。
	「ファイル」、「ファイル形式を指定して開く」、「HTML プレビュー」	ブラウザでドキュメントを HTML として開きます。

ブック・エディタ・ツールバー

ブック・エディタ・ツールバーには、標準ボタンと、ブック・エディタ固有のボタンが表示されます。


表 9 ブック・エディタ・ツールバーのボタン


ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「編集」、「ドキュメントを追加」	レポートとスナップショットをブックに追加します。
	「編集」、「削除」	レポートとスナップショットをブックから除去します。
	「編集」、「メンバー選択」	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
	「編集」、「上へ移動」	レポートまたはスナップショットをリスト内で上へ移動します。
	「編集」、「下へ移動」	レポートまたはスナップショットをリスト内で下へ移動します。

バッチ・エディタ・ツールバー

バッチ・エディタ・ツールバーには、標準ボタンと、バッチ・エディタ固有のボタンが表示されます。

表 10 バッチ・エディタ・ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「編集」、「アイテムの追加」	レポート、ブックまたはスナップショットをバッチに追加します。

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「編集」、「削除」	レポート、ブックおよびスナップショットをバッチから除去します。

Production Reporting ツールバー

EPM Workspace で Production Reporting ドキュメントを表示する場合、ツールバー領域にはナビゲーション・ボタン以外のボタンは表示されません。HTML レポートのページ間を移動し、複数の出力フォーマットでレポートを表示します。ナビゲーション・ボタンは、ジョブの出力に基づいて動的に使用します。ボタンの詳細は、[第 11 章「Production Reporting ドキュメントの使用方法」](#)を参照してください。







Interactive Reporting ツールバー

Interactive Reporting ツールバーには、標準ボタンと、Interactive Reporting 固有のボタンが表示されます。ボタンの詳細は、[第 10 章「Interactive Reporting」](#)を参照してください。

バッチ・スケジューラ・ツールバー

バッチ・スケジューラ・ツールバーには、標準のボタンとこのツールバー固有のボタンが表示されます








表 11 バッチ・スケジューラ・ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」、「新規のスケジュール済バッチ」	「バッチのスケジュール設定」ダイアログ・ボックスを開きます
	編集、プロパティ	スケジュール済バッチの詳細を表示します(例: バッチがスケジュールされた時間など)
	「編集」、「削除」	スケジュール済バッチを削除します
	「表示」、「リフレッシュ」	スケジュール済バッチの変更により EPM Workspace を更新します
	アクション、出力ファイルの取得	最新のバッチ・ジョブの結果を取得します
	アクション、詳細の表示	バッチの詳細(例: 名前、開始時間、宛先など)を表示します

エクスプローラ・ツールバー

エクスプローラ・ツールバーには、標準のボタンとこのツールバー固有のボタンが表示されます

表 12 エクスプローラ・ツールバーのボタン

ボタン	メニュー・コマンド	説明
	「ファイル」、「新規フォルダ」	フォルダを作成します。
	NA	現在のフォルダを含みリポジトリの場所まで移動します。
	編集、切り取り	移動するリポジトリ・ファイルをマークします。
	編集、コピー	複製するリポジトリ・ファイルをマークします。
	「ファイル」、「プロパティ」	ファイルのプロパティ(例: ファイルのアクセス権)を設定するためのプロパティ・ダイアログ・ボックスを開きます。
	編集、貼付け	現在のリポジトリの場所にファイルを貼り付けます。
	「表示」、「リフレッシュ」	スケジュール済バッチの変更により EPM Workspace を更新します

管理ツールバーおよびインパクト・マネージャ・ツールバー

管理ツールバーおよびインパクト・マネージャ・ツールバーにより、EPM Workspace のプロパティ、パフォーマンス、およびユーザー対話処理を管理できます。ボタンの説明については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

スケジュール・ツールバー

スケジュール・モジュール・ツールバーを使用すると、次の操作を行えるようになります。

- ジョブ・タイプの実行およびスケジュールを行います。
 - Interactive Reporting ・ジョブ - ジョブとして EPM Workspace にインポートされた Interactive Reporting ドキュメントとその関連ファイル。

- Production Reporting ジョブ - Production Reporting レポートまたはプログラムとその関連ファイル。Production Reporting ジョブは、保護されている場合と保護されていない場合があります。
- 汎用ジョブ - 別のソフトウェア・プロバイダ(たとえば、Oracle レポート、Crystal レポートなど)からのレポートまたはプログラムと関連ファイル。
- レポートのコレクションであるバッチを実行およびスケジュールします。

メニュー

- EPM Workspace の標準メニューは、「ナビゲート」、「ファイル」、「ビュー」、「お気に入り」、「ツール」および「ヘルプ」です。これらのメニューについて、次の表で説明します。
- システムの使用時に、次の条件に基づいて、メニューおよびボタンが更新されます。
 - 付与された役割。役割により、「ナビゲート」から表示されるアイテムが決定します。
 - 使用中の「ナビゲート」アイテムおよび実行中のタスク。たとえば、エクスペローラを使用している場合は、メニューにファイルまたはフォルダに関するタスクが含まれます。

「ナビゲート」メニュー

「ナビゲート」メニューは、すべての EPM Workspace モジュールで使用可能です。各アイテムで表示されるオプションは、役割およびアクセス権に応じて異なります。

表 13 「ナビゲート」メニュー

コマンド	説明
アプリケーション、 次に、「集計」(Financial Management アプリケーション)、 次に、「プラン」(Planning アプリケーション)、 次に、Performance Scorecard Profitability and Cost Management Oracle Business Intelligence Answers Oracle Business Intelligence Interactive Dashboards Oracle Business Intelligence Delivers BI Publisher 注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテム、続いて	アクセス権と役割に基づいて利用可能なアプリケーションを開きます。

コマンド	説明
<p>「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、「アプリケーションなし」ラベルと「リフレッシュ」メニュー・アイテムは表示されません。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。</p>	
<p>管理全般</p> <p>Shared Services Console</p> <p>エクスペローラの注釈</p> <p>物理リソース</p> <p>MIME タイプ</p> <p>通知</p> <p>スマートカット</p> <p>行レベルのセキュリティ</p> <p>使用追跡</p> <p>イベントの追跡</p> <p>所有権の変更</p> <p>次元ライブラリ</p> <p>アプリケーション・ライブラリ</p> <p>データの同期</p> <p>アプリケーションのアップグレード</p> <p>ジョブ・コンソール</p> <p>「クラシック・アプリケーション管理」>「集計管理」または「プランニング管理」*</p> <p>集計システム・メッセージ</p> <p>システムの集計ユーザー</p> <p>集計サーバーとアプリケーションの管理</p>	<p>管理モジュールを使用して、エンド・ユーザーが EPM Workspace を操作する方法に対する設定を管理します。こうしたメニュー・アイテムの使用については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』、『Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイド』および『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。</p>
<p>スケジュール、次に、</p> <p>バッチ・スケジューラ</p> <p>ジョブ・キュー</p> <p>ジョブ通知</p> <p>パラメータの表示</p> <p>実行中のジョブ</p> <p>イベントの管理</p> <p>連結ジョブ・ステータス</p>	<p>スケジュールにより、自動化処理のジョブおよびスケジュールのバッチおよびイベントを管理できます。</p>
<p>インパクト・マネージャ、次に、</p> <p>メタデータの同期化</p> <p>データ・モデルの更新</p> <p>JavaScript の更新</p>	<p>インパクト・マネージャにより、データベース構造、データベース接続、または外部データ・ソースへのリンクが変更されたときに、Interactive Reporting ドキュメントを更新できます。</p>

コマンド	説明
カスタム更新 タスク・リストの管理 タスク・ステータスの表示 変更の影響の表示	
アイテムを開く(開いたモジュールのリスト)	EPM Workspace で開いたアイテムを表示します。

*ユーザーが次元エディタを所持しており、Financial Management および Planning でアプリケーション作成者の役割を持つ場合、「クラシック・アプリケーション管理」が「集計管理」および「プランニング管理」とともに一覧表示されます。

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューは、すべての EPM Workspace モジュールで使用可能です。オプションが使用可能かどうかは、現在のウィンドウの内容、メニューのアクセス元のモジュールおよびユーザーの役割に応じて異なります。たとえば、エクスプローラの役割を持つユーザーは、「ファイル」>「新規」のオプションを使用できません。

表 14 「ファイル」メニュー

コマンド	説明
「ファイル」、 「新規」、 「ドキュメント」、「個人用ページ」、「Workspace ページ」 「開く」、 「ドキュメント」 「Workspace ページ」、「マイ Workspace ページ」または「共有 Workspace ページ」 「アプリケーション」、 集計(Financial Management アプリケーション)、 プランニング(Planning アプリケーション)、 Performance Scorecard Profitability and Cost Management Oracle Business Intelligence Answers Oracle Business Intelligence Interactive Dashboards Oracle Business Intelligence Delivers Oracle Business Intelligence Publisher 「閉じる」、 現在	ブック、バッチ、分析ドキュメントなどのドキュメントの作成、リポジトリ・ドキュメントの使用を行います。また、アプリケーション、個人用ページ、Workspace ページを開きます。 「開く」オプションを使用して、ブック、バッチ、分析ドキュメントなどのドキュメントを開いたり、リポジトリ・ドキュメントを使用したりします。また、アプリケーション、個人用ページ、Workspace ページを開きます。 「閉じる」オプションを使用して、開いているかフォーカスがある現在のドキュメントのみを閉じます。また、開いているすべてのドキュメントを閉じることができます。「その他」オプションは、フォーカスがあるかアクティブなドキュメントを除いたすべてのドキュメントを閉じるために使用します。

コマンド	説明
すべて その他 URL 注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテム、続いて「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、「アプリケーションなし」ラベルと「リフレッシュ」メニュー・アイテムは表示されません。	
プリファレンス	「プリファレンス」ダイアログ・ボックスを開き、(ネイティブ認証を使用した)パスワードおよび電子メール・アドレスの変更、開いているスナップショット(PDFプレビューまたはHTMLプレビュー)のデフォルトの設定を行うことができます。 Financial Reporting の場合は、言語の選択を変更し、XBRLの編集を使用可能にできます。
ログオフ	セッションを終了します。
終了	EPM Workspace を終了します。

「表示」メニュー

「表示」メニュー・オプションの可用性は、現在のウィンドウのコンテンツおよびメニューのアクセス元のモジュールに応じて異なります。

表 15 「表示」メニュー

コマンド	説明
ビュー・ペイン	ビュー・ペインを表示または非表示にします。

「お気に入り」メニュー

「お気に入り」メニューを使用して、個人用ページおよびお気に入りを設定し、お気に入りドキュメントのリストから選択します。

表 16 「お気に入り」メニュー

コマンド	説明
お気に入りの管理	「お気に入りのマネージャ」ダイアログ・ボックスが開きます。
サブスクライブしたアイテムの表示 個人用ページの管理	登録されており、個人用ページを管理するためのドキュメントを表示します。
利用可能なアプリケーション製品(たとえば Performance Scorecard)のリストを示します。	ユーザーにより定義されたか、またはユーザーにプッシュされたお気に入りのドキュメントまたはフォルダのリストをアルファベット順に表示します。
個人用ページ	個人用ページを開きます。

「ツール」メニュー

「ツール」メニューは常に使用可能です。コマンドが使用可能であるかどうかは製品および役割により決まります。

表 17 「ツール」メニュー

コマンド	説明
詳細検索	追加検索フィルタを導入します。
「リンク」、 Web Analysis Studio	Web Analysis Studio ドキュメントに接続するか、または「ツール」メニューからアプリケーションまたはカスタム・リンクを起動します。
「インストール」、 Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Web Client Smart View Microsoft Office 向け Oracle BI オフライン・プランニング	Interactive Reporting Web Client をインストールします。 Smart View、詳細については、 44 ページの「Smart View の使用方法」 を参照してください。 Microsoft Office 向け Oracle BI。Oracle BI Microsoft Office については、製品の Oracle BI ヘルプを参照してください。 オフライン・プランニングでは、オフライン実行ファイルをダウンロードしてオフラインで Planning インストーラを実行できます。詳しくは、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』を参照してください。

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューを使用して、EPM Workspace のヘルプおよび EPM Workspace に関する情報を参照します。

表 18 「ヘルプ」メニュー

コマンド	説明
ヘルプ	現在のトピックのヘルプを表示します。

コマンド	説明
コンテンツ	オンライン・ヘルプの「目次」タブを開きます。特定のヘルプ・トピックを検索できます。
Oracle サポート	Oracle テクニカル・サポート・ホームページを開きます。
Oracle Technology Network	Oracle Technology Network ホームページを開きます。
Oracle Web サイト	Oracle ホームページを開きます。
Hyperion Workspace について	Workspace、UI、および Server のバージョンおよびバージョンの詳細を含む Hyperion Workspace に関する情報を表示する「Hyperion Workspace」ウィンドウを開きます。

ショートカット・メニューのコマンド

何らかのタスクを実行するには、エクスプローラでドキュメントを右クリックしたときに表示されるショートカット・メニュー・コマンドを使用します。オプションが使用できるかどうかは、現在のウィンドウと、メニューのアクセス元であるモジュールのコンテンツによって決まります。

表 19 ショートカット・メニュー:: エクスプローラ

エクスプローラ: 右クリック・メニュー	
メニュー・コマンド	説明
1 つレベルを上げる	親フォルダのコンテンツを表示します。
新規フォルダ	リポジトリにフォルダを追加します。
開く	リポジトリ・ドキュメントを選択し、開いて、使用します
ファイル形式を指定して開く、HTML プレビュー PDF プレビュー	ブラウザで HTML または PDF としてドキュメントを表示します。
インポート、 ファイル、 URL、 ファイル(ジョブとして)、 Financial Reports、 Microsoft レポート	「リポジトリにインポート」ダイアログ・ボックスを開き、レポート、ブック、スナップショット・レポートおよびブック、Microsoft レポート、レポート・オブジェクト(グリッド、テキスト、画像およびチャート)および行と列のテンプレートをリポジトリにインポートできます。
展開	ビュー・ペインから、選択したフォルダの下のサブフォルダを表示します。
縮小	ビュー・ペインから、選択したフォルダを縮小します。

エクスプローラ: 右クリック・メニュー

メニュー・コマンド	説明
エクスポート	「エクスポート」ダイアログ・ボックスを開き、保存レポート、スナップショット・レポートとブック、およびレポート・オブジェクト(グリッド、テキスト、画像およびチャート)をリポジトリからエクスポートできます。
電子メール	受信者の名前および電子メール・メッセージの件名を表示する「電子メール・エディタ」ダイアログ・ボックスを開きます。電子メール・リンク・エディタによりファイルへのハイパーリンクが作成され、受信者が Web ブラウザでファイルを表示できます。Financial Reporting ユーザーのみがハイパーリンク先のファイルを表示できます。
切取り	リポジトリ・アイテムを除去し、クリップボードにコピーを含めません。
コピー	リポジトリ・アイテムをコピーします。
貼付け	切り取ってコピーしたアイテムをレポートに含めます。
削除	確認時に、リポジトリからファイルを除去します。
出力とともに削除	Interactive Reporting ドキュメントでは、出力が存在する場合に、ジョブ出力を含むアイテムを削除します。
名前変更	ファイルまたはフォルダの名前を変更します。
プロパティ	スケジュールされたバッチの詳細(たとえば、バッチがスケジュールされた時間)を表示します。
ジョブの実行	Interactive Reporting ジョブでは、ジョブのパラメータを設定し、ジョブを実行します。
サブスクリプション	ドキュメントの変更を登録ユーザーに通知します。
ショートカットの作成	ドキュメント・ショートカットを作成します。たとえば、Interactive Reporting、PDF および HTML ドキュメントへのショートカットを作成します。
取得	Interactive Reporting ドキュメントをダウンロードおよび保存します。
スケジュール・ジョブ	Interactive Reporting ジョブのスケジュール:
お気に入りに追加	「お気に入り」リストにファイルを追加します。
リフレッシュ	リポジトリをリフレッシュし、新しいフォルダやファイルが表示されるようにします。
権限の編集	アーチファクトのアクセス権を変更または更新します。
子に権限を適用	フォルダのすべての子オブジェクトに適用するアクセス権を選択します。 注: ユーザーがフル・コントロール権限を持つオブジェクトのみが更新されます。

2

プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ

この章の内容

プリファレンスの設定.....	63
Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定.....	87
Financial Reporting のユーザー POV の別名と説明の表示.....	88
EPM Workspace のカスタマイズ.....	89
標準ファイル.....	93

プリファレンスの設定

EPM Workspace の次回ログイン、エクスプローラ、認証、アプリケーション、ファイル・タイプ、Reporting and Analysis 製品、Oracle BI EE および Oracle BI Publisher 製品の初期ビューのデフォルトを設定します。また、EPM Workspace のアクセス・モードのプリファレンスを設定します。付録 A 「アクセシビリティ」を参照してください。Planning エンドユーザー・プリファレンス設定については、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』、管理者およびアプリケーションのプリファレンスについては『Oracle Hyperion Planning 管理者ガイド』を参照してください。Financial Management エンド・ユーザーのプリファレンス設定については、『Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド』を参照してください。Performance Scorecard については、『Oracle Hyperion Performance Scorecard ユーザー・ガイド』および Oracle Hyperion Performance Scorecard のアプリケーション・デザイナーに関するガイドを参照してください。Profitability and Cost Management については、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide』および『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide』を参照してください。次のプリファレンス用タブを使用します。

- 64 ページの「全般プリファレンスの設定」
- 67 ページの「エクスプローラ・プリファレンスの設定」
- 70 ページの「モジュール・プリファレンスについて」

注：「ビュー」メニューのユーザー・インタフェース設定により、「全般プリファレンス」で定義されたデフォルト設定が上書きされます。この設定は、ログ・オフ時まで有効です。89 ページの「EPM Workspace のカスタマイズ」を参照してください。

全般プリファレンスの設定

すべてのユーザーが全般プリファレンスにアクセスできます。たとえば、Planning または Financial Management ユーザーがログオン時にデフォルトの起動アイテムとしてアプリケーションを設定できます。コンテンツ領域のデフォルト開始ページはデフォルトで全般プリファレンス・セットであり、ドキュメント・パスの表示、ファイルの保存を促すプロンプトの提示、アクセシビリティ・モードとデフォルトの電子メール・アドレスの設定を行います。EPM Workspace にログオン後にパスワードを変更します。このオプションは、外部認証ではなく指定のネイティブ認証パラメータを持つユーザーが使用できます。

プリファレンスを使用して加えた変更は、次のログオン時に有効になります。

▶ 全般プリファレンス:

1 ファイル、プリファレンス

注: 表示される電子メール・アドレスは、ユーザー・セキュリティ設定で登録された電子メール・アドレスです。このアドレスを更新することはできません。

- 2 「ドキュメントのパスの表示」の選択を解除することにより、進行状況バーでドキュメント・ファイル・パスを非表示にします。
- 3 EPM Workspace では、「保存されていないファイルの保存を確認する」を選択することにより、未保存のファイルを保存するように促すプロンプトが表示されます。
- 4 「デフォルトの起動オプション」では、EPM Workspace にログインするときに常にデフォルトで表示されるオプションを選択します。ユーザーがエクスプローラの役割を持つ場合のデフォルトのオプションはエクスプローラです。ユーザーがエクスプローラの役割を持たない場合にはこれは当てはまりません。
- 5 手順 4 の選択に応じて、次の操作を完了します。
 - 「エクスプローラ」オプションで、「選択」をクリックします。「選択」から、フォルダを選択し、「OK」をクリックします。「フォルダ」にパスとフォルダが表示されます。
 - 「ドキュメント」オプションで、「選択」を選択します。「選択」から、ドキュメントを選択し「OK」をクリックします。「ドキュメント」テキスト・ボックスにパスとドキュメント名が表示されます。また、ホームページとして Workspace ページを選択できます。EPM Workspace では共有 Workspace ページ・フォルダにサンプル Workspace ページが付属しています。[65 ページの「ホーム・ページの使用方法」](#)も参照してください。
 - 「お気に入り」オプションで、次のいずれかを選択します。
 - 保存済のお気に入りページを「お気に入り」メニューから選択し、コンテンツ領域に表示します。
 - 「個人用ページ」をクリックします。
 - 「アプリケーション」フィールドの隣にあるドロップダウン矢印でアプリケーション・オプションを選択します。次のいずれかを選択します。
 - Financial Management アプリケーションの統合
 - Planning アプリケーションのプランニング

- Profitability and Cost Management
- Oracle BI アプリケーション:

注: インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリケーションなし」メニュー・アイテム、続いて「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、この3つのメニュー・アイテムは表示されません。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。

- スコアカード

注: 「スコアカード/マップ」テキスト・ボックスで、スコアカード名を入力するか、空白のままにします。

6 次のいずれかの作業を行います。

- 変更内容を保存します。「OK」をクリックします。
- 変更を取消します。「取消し」をクリックします。

注: アクセス・モードの詳細については、[付録 A「アクセシビリティ」](#)を参照してください。

ホーム・ページの使用方法

ホーム・ページは、ユーザーに作業を開始する場所と EPM Workspace 機能を起動する場所を提供します。ホーム・ページは以下のように使用できます。

- ホーム・ページは、BI+役割のユーザーのデフォルトの起動ドキュメントです。EPM Workspace と共にインストールされるホーム・ページ・ファイルは、ユーザーのデフォルト・ホーム・ページです。このファイルは、共有 Workspace ページ・フォルダにあります。
- 「ホーム」ボタンを選択すると、「プリファレンス」ダイアログの「デフォルトの起動オプション」で選択したホーム・ページが開きます。たとえば、Workspace ページを作成すると、このファイルをホーム・ページとして指すことができます。

このホーム・ページファイルは、最近開いたドキュメント、Workspace ページ、およびユーザーがアクセス権を持つお気に入りやアプリケーションのクイック・リンクを表示します。Workspace ページの詳細は、[174 ページの「Workspace ページ」](#)を参照してください。

ホーム・ページ機能

デフォルト・ホーム・ページは、最近開いたアイテム、Workspace ページ、およびクイック・リンクで構成されます。

最近開いたページ

最近開いたページには、以下の機能があります。

- EPM Workspace にプロビジョニングされた各ユーザーの最近開いたアイテムが保管されています。
- リストされるアイテムには、アイコンとその名前があります。
- アイテムをクリックするとそれがモジュール・コンテンツ領域で開きます。
- サポートされるアイテムには EPM Workspace リポジトリ・アイテムとアプリケーションが含まれます
- 現在表示されているドキュメントがリポジトリから削除されるか、あるいはユーザーがアプリケーションからプロビジョニング解除されるとアイテムは除去されます。
- 「開く」リンクを選択すると、ドキュメントを開くことが可能な「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Workspace ページ

Workspace ページには以下の機能があります。

- 各マイ Workspace ページおよび共有 Workspace ページ用にリストされるファイルの最大サイズは 4 です。リストの 1 つだけが表示される場合、たとえばマイ Workspace ページだけが表示される場合は、最大表示数は 9 です。ユーザーがさらにマイ Workspace ページおよび共有 Workspace ページをアクセスできる場合、選択すると残りのすべてのアイテムを表示するコンテキスト・メニューが表示される「詳細」リンクが表示されます。
- 表示されるドキュメントの最大数は 10 です。10 以上のドキュメントがある場合、残りのアイテムを示すコンテキスト・メニューが表示されます
- アイテムをクリックすると、モジュール・コンテンツ領域にアイテムが開きます

クイック・リンク

クイック・リンクには以下の機能があります。

- お気に入りアイテムの表示にはアプリケーション・アイテムが続きます
- 各リストの最大サイズは 4 です。さらにアイテムがある場合、残りのアイテムを示すコンテキスト・メニューのリンクが表示されます。表示するアプリケーションがない場合、表示できるお気に入りの最大数は 23 です。
- セクション内のアイテムをクリックするとアイテムがモジュール・コンテンツ領域に開きます

ホーム・ページに戻る開始ページの設定

デフォルトの起動オプション・プリファレンスをホーム・ページ以外のアプリケーションまたはドキュメントに変更した場合、設定を EPM Workspace と共に出荷されたデフォルトのホーム・ページに戻すことができます。

- ▶ EPM Workspace 開始ページを共有 Workspace ページ・フォルダにインストールされているホーム・ページに戻すには、次の手順に従います。
 - 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。
 - 2 「コンテンツ」ドロップダウン・メニューから「ドキュメント」を選択します。
 - 3 「選択」をクリックします。「選択」ダイアログから、「共有 Workspace ページ」フォルダを選択して「ホーム・ページ Workspace」ページを選択します。
 - 4 アイテムの再表示を選択して HomePage という名前のファイルを選択します。
 - 5 「選択」と「プリファレンス」ダイアログ・ボックスの両方に「OK」を選択します。次にログインするとき、共有 Workspace ホーム・ページが表示されます。

認証プリファレンスの設定

認証プリファレンスを設定して EPM Workspace ログイン・パスワードを変更します。

- ▶ 認証プリファレンスを設定:
 - 1 ファイルを選択してプリファレンスを選択し、「認証」をクリックします。
 - 2 「パスワードの変更」で現在のパスワードと新パスワードを入力します。
 - 3 新パスワードを再入力して確定してください。
 - 4 「OK」をクリックします。
- ▶ Interactive Reporting および Production Reporting 認証に:
 - 1 ファイルを選択してプリファレンスを選択し、「認証」をクリックします。
 - 2 「パススルーに使用するログイン情報」領域で上記手順 2 から手順 4 を繰り返します。

エクスプローラ・プリファレンスの設定

作成またはインポートするアイテムのデフォルト・フォルダおよびデフォルト権限を定義するためにエクスプローラ・プリファレンスを設定します。特定のユーザー、グループ、または役割のデフォルト権限を指定できます。これらのプリファレンスを設定しないと、デフォルト・フォルダと新規ドキュメント・フォルダは最上位に設定されるかあるいはアイテムのルート・フォルダと権限が空に設定されます。

以下のエクスプローラ・プリファレンスを変更できます。

- **デフォルト・フォルダ**-デフォルト・フォルダは、エクスプローラを使用すると表示されます。もっとも頻繁にアクセスするフォルダに設定してください。
- **新規ドキュメント・フォルダ**-新規ドキュメント・フォルダは新規ドキュメント・ウィザードが Web Analysis データベース接続ファイルおよび Interactive Reporting ドキュメントを検索するデフォルト・フォルダです。新規 Interactive Reporting ドキュメントを使用してデータ・ソースを参照する場合、このフォルダが使用されます。

- **デフォルト権限** - デフォルト権限は、フォルダを作成するかアーチファクトをインポートするとき適用されます。デフォルト権限は以下を決定します。
 - ユーザー、グループまたは役割がアイテムをアクセスする能力。
 - アイテムを自動的にユーザー、グループ、または役割のお気に入りにはプッシュするかどうか。

注： これらのデフォルト権限は、ユーザーが作成またはインポートするすべてのアーチファクトに自動的に適用されます。これらのデフォルトは、アーチファクトを作成またはインポートするとき権限を変えることによって手動で上書きできます。

▶ デフォルト・フォルダを設定します。

1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択し、エクスプローラを選択します。

2 デフォルト・フォルダと新規ドキュメント・フォルダを設定します。

3 選択をクリックして以下のいずれかの手順を行います。

- 「検索」からフォルダを選択します。
- 名前のリストから：
 - フォーマットを選択します
 - ナビゲートするには、フォルダをダブルクリックします
選択したフォルダが「名前」テキスト・ボックスに表示されます。

ヒント： 「名前」テキスト・ボックスに名前を入力しないでください。

4 「デフォルト権限」から、以下のいずれかを選択します。

- Interactive Reporting ドキュメント
- Interactive Reporting ジョブ
- Production Reporting ジョブ
- 汎用ジョブ
- その他のすべてのドキュメント
- フォルダ

5 OK または 取消し をクリックします。

6 デフォルト権限の設定を続けるには、**手順 3** を繰り返します。

▶ デフォルト権限を設定します。

アクセス権の設定を選択してユーザー、グループ、および役割のアクセス権を設定します。「アクセス権」ダイアログ・ボックスが開きます。[136 ページの「権限の設定とアーチファクトのプッシュ」](#)を参照してください。

フォーマット・プリファレンス

EPM Workspace から作成したすべてのレポートに対して次のプリファレンスを設定できます。

- 69 ページの「デフォルト・フォーマット・プリファレンス」
- 70 ページの「ユーザー・プリファレンスとフォーマット・オプション」

デフォルト・フォーマット・プリファレンス

デフォルト・フォーマット・プリファレンスは、以降作成するすべてのレポートのデフォルトのデータ・フォーマットを指定します。オプションは、データ・ソースから戻されるデータを修正、フォーマット、または置換する機能にしたがって整理されています。

表 20

フォーマットのオプション	説明
先行文字と後続文字のフォーマット	
通貨記号	正数の接頭辞および負数の接頭辞テキスト・ボックスに通貨記号ドル(\$)、セント(¢)、ポンド(£)、ユーロ(E)、ドイツマルク(DM)、フラン(F)、および円(¥)を入力します。
正数の接頭辞	正数値の直前に付ける記号を入力します。
正数の接尾辞	正数値の直後に付ける記号を入力します。
負数の接頭辞	負数値の前に入れる文字を入力します。 警告: マイナス記号(-)がデフォルトの接頭辞です。デフォルトの接頭辞を置き換えずに削除すると、正の値が負数として表示されます。
負数の接尾辞	負数値の直後に付ける記号を入力します。
数値のフォーマット	
3桁ごとに区切るチェックボックス	数値を3桁ごとに区切って表示します。
小数点以下の最小桁数	小数点以下の最小桁数を指定します。
小数点以下の最大桁数	小数点以下の最大桁数を指定します。
スケール	十、百、千、万、十万、百万、十億などの省略した値で表示します。
負数に色を付けるチェックボックス	指定した色で負数値を強調します。
負数の色の選択	負数値を表示する色を指定します。
サンプル	
サンプルの更新	最後に選択したフォーマットでサンプル・パネルを更新します。
欠落した値を次と置換	欠落した値をテキスト文字列またはゼロに置換します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ゼロ ● テキスト

ユーザー・プリファレンスとフォーマット・オプション

同一のフォーマット・オプションおよびユーザー・プリファレンスがあります。ユーザー・プリファレンスは、新規ドキュメントに適用するグローバル設定です。ユーザー・プリファレンスは、データベース接続フォーマットおよびドキュメント・ベース・フォーマットで上書きできます。

フォーマットの優先順位:

1. ドキュメントとともに保存されるオプション
2. データベース接続とともに保存されるオプション
3. 「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックス内で指定されるオプション

スプレッドシート・ユーザー・プリファレンスおよびチャート・ユーザー・プリファレンスはスプレッドシート・オプションおよびチャート・プロパティと同一です。これらは、以降作成するドキュメントにのみ適用されます。

モジュール・プリファレンスについて

Web Analysis、Financial Reporting、Production Reporting、Interactive Reporting、Performance Scorecard、Financial Management、Planning、Oracle BI EE、および Oracle BI Publisher プリファレンスは「プリファレンス」ダイアログ・ボックスからアクセスします。

- **Web Analysis プリファレンスの設定**は3つのタブに分類されています。これらのオプションは、アクティブ・プリファレンス・ファイルを指定し、デフォルトの先行文字と後続文字データ値フォーマット、数値フォーマット、および Web Analysis ドキュメントのデータベース接続パラメータを設定します。
- **Financial Reporting のプリファレンスの設定**には、ドキュメント、POV 設定、エクスポート・オプション、およびフォーマット・オプションをプレビューする方法のオプション、およびレポート、使用する言語、計測単位、およびガイドライン・ドキュメントのレイアウトをデザインするためのプリファレンスがあります。
- **Production Reporting プリファレンスの設定**には Production Reporting ジョブのスキャン・フォルダが含まれます。
- **Interactive Reporting プリファレンスの設定**には、元の国に基づいたロケール・デフォルト、日付と時間フォーマット、および数字フォーマットを設定するオプションがあります。
- **Oracle BI Publisher のプリファレンスの設定**には、UI 言語、レポート・ロケール、HTML の SVG サポート、レポート・タイム・ゾーン、およびパスワードの設定オプションが含まれます。
- **Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスの設定**には、一般アカウント情報の表示、デフォルト・ダッシュボード、ロケール、言語のプリファレンス、タイム・ゾーン、配達オプションなどが含まれます

- ▶ 「プリファレンス」ダイアログ・ボックスを表示するには「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。

Web Analysis プリファレンスの設定

プリファレンスは、リポジトリにプリファレンス・ファイルとして保管されます。プリファレンス・ファイルは、各ユーザー・プロファイル・フォルダにあります。プリファレンス・ファイルは他のユーザーと共有します。複数のプリファレンス・ファイルを定義できますが、一度に1つのプリファレンス・ファイルのみアクティブにできます。

注： Web Analysis プリファレンスのサブセットのみ EPM Workspace で設定されます。Web Analysis Studio は、Web Analysis プリファレンスを指定する総合的なインタフェースを提供します。EPM Workspace および Web Analysis Studio は同じファイルを変更します。

アクティブなプリファレンス・ファイルの設定

「プリファレンス」ダイアログ・ボックスの「アクティブなプリファレンス」タブは、現在のプリファレンス・ファイルを指定します。

「ユーザー・プリファレンスの使用」を選択すると、プロファイル・フォルダにあるプリファレンス・ファイルを使用または編集していることを示します。「共有プリファレンスの使用」は、指定したリポジトリ場所にある共有プリファレンス・ファイルを使用していることを示します。

注： 共有プリファレンス・ファイルのデフォルト場所は、User¥<Profiles>フォルダです。

アクティブ・プリファレンスの変更は、コンテンツ領域内で開いているドキュメントに影響しません。ユーザーおよび共有プリファレンスは以降作成するドキュメントにのみ適用されます。

共有プリファレンス・ファイルを編集する際、そのファイルを参照するユーザーのデフォルト動作を変更します。ユーザーがプリファレンスを変更するのを防ぐには、自身のプリファレンス・ファイルの使用に限定します。

デフォルトのドキュメント・オープン・モード

- HTML または Web Analysis Studio をデフォルト・ドキュメント・オープン・モードに選択すると、Web Analysis ドキュメントが選択したデフォルト・モードで開きます
- HTML を選択すると EPM Workspace でドキュメントが開きます。
- Web Analysis Studio を選択すると、選択したドキュメントに自動的にログインして開きながら Web Analysis Studio セッションが起動します。

注： このオプションは、Web Analysis Studio のセッションごとに1つの Web Analysis ドキュメントを開きます。

Web Analysis データベース・プリファレンス

Web Analysis データベース・ユーザー・プリファレンスは、データベース接続名、説明、別名テーブル、およびリポジトリ場所を示して使用できるデータベース・サーバーおよびデータベース接続の明細を提供します。

データベース接続名をレビューするには、「編集」をクリックします。「データベース・プリファレンス」ダイアログ・ボックスが開きます。これには3つのタブがあります。

- 詳細
- 視点(POV)
- 個人用変数

「接続」をクリックしてデータ・ソースに接続して値を取得します。接続できなければ、別のデータベース接続ファイルを参照できます。

別名テーブルについて

別名テーブルは、次元またはメンバーの別名あるいは代替説明ラベルを保管するテーブルです。Essbase では、複数の別名テーブルを定義できます。Web Analysis ユーザー・プリファレンスでは、使用する別名テーブルを指定できます。別名テーブルの選択は、Web Analysis データベース・ユーザー・プリファレンスに保存されます。

ラベル・モードでは、次元のメンバーを ID 番号別に表示するか説明別に表示するか選択できます。ラベル・モード・オプションはデータ・ソース固有でデータベース接続、個別のドキュメント、および個別の次元に対して設定されます。

ラベル・モードは、説明を使用するか ID 番号を使用するかを示し、データベース別名テーブルは表示される値を示します。ドキュメントを開く前に Web Analysis データベース・ユーザー・プリファレンスを使用して別名テーブルを設定します。

次元ブラウザを使用して特定の次元でどの説明ラベルを使用するか指定し、データ・オブジェクトの右クリック・メニューの「データ表示」オプションを使用してデータ・ソースをクエリーしたあとデフォルト・ラベル・モードを設定します。

別名テーブルの設定

▶ 次のデータベース接続のデフォルト別名テーブルを指定します。

- 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。
- 2 Web Analysis をクリックします。
- 3 アクティブなプリファレンスをクリックし、ユーザー・プリファレンスの使用または共有プリファレンスの使用を選択します。「共有プリファレンスの使用」を選択した場合、「参照」をクリックしてリポジトリから共有プリファレンス・ファイルを選択します。
- 4 クリックしてデータベースタブを現在のタブにします。

「データベース」タブは、アクティブ・ユーザーのすべての使用可能なデータベース接続を示します。

- 5 オプション: データベース接続のデータベース・プリファレンスを編集するには、リストからデータベース接続を選択して編集をクリックします。
- 6 オプション: リストにデータベース接続を追加するには追加をクリックします。

「データベース・プリファレンス」ダイアログ・ボックスには、「詳細」、「視点」、および「個人用変数」の3つのタブがあります。「視点」と「個人用変数」のタブは、データベース接続を特定するまで使用できません。
- 7 オプション: データベース接続ファイルを特定するには、次のいずれかを行います。
 - 「参照」をクリックしてリポジトリ内のデータベース接続ファイルへナビゲートします。ファイルを選択して「開く」をクリックして「OK」をクリックします。
 - 既存のデータベース接続ファイルのリポジトリの場所とファイル名をテキスト領域に入力します。

データベース接続ファイルのアクセス権がない場合は、Web Analysis 管理者に連絡してください。
- 8 接続をクリックしてデータベース接続から最新の値を取得します。

データ・ソースにログインするには、ログオン情報を入力して「OK」をクリックします。

データ・ソースに接続すると、「データベース・ファイルの場所」テキスト領域が使用不可になり、「接続」ボタンが「接続解除」ボタンに切替わります。「視点」、「個人用変数」、および「別名テーブル」をサポートするデータ・ソースには次のコントロールがあります。
- 9 別名テーブルドロップダウン・リストから別名テーブルを選択します。
- 10 OK をクリックします。

指定データベース接続を使用すると、選択したラベル・モードも使われます。以降「キューブ・ナビゲータ」または「次元ブラウザ」で行うラベル・モード選択は、これらのデフォルト設定を上書きします。

データベース・ログオン・メソッドの設定

Web Analysis では、複数のデータ・ソース・ログオン・オプションから選択でき、その選択を Web Analysis データベース・ユーザー・プリファレンスとして保存できます。

- ▶ 次の特定のデータベース接続のデフォルト・ログオン・メソッドを設定します。
 - 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択します。

「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - 2 Web Analysis をクリックします。
 - 3 アクティブなプリファレンスをクリックし、ユーザー・プリファレンスの使用または共有プリファレンスの使用を選択します。「共有プリファレンスを使用」を選択した場合、「参照」をクリックしてリポジトリから共有プリファレンス・ファイルを選択します。
 - 4 クリックしてデータベースタブを現在のタブにします。

「データベース」タブは、アクティブ・ユーザーのすべての使用可能なデータベース接続を示します。

- 5 オプション: データベース接続のデータベース・プリファレンスを編集するには、リストからデータベース接続を選択して編集をクリックします。

- 6 オプション: データベース接続を追加するには、追加をクリックします。

「データベース・プリファレンス」ダイアログ・ボックスが開きます。ここには、「詳細」、「視点」および「個人用変数」の3つのタブがあります。「視点」および「個人用変数」タブは、データベース接続を特定するまで使用できません。

- 7 オプション: データベース接続ファイルを特定するには、次のいずれかを行います。

- 「参照」をクリックし、リポジトリ内のデータベース接続ファイルへナビゲートします。ファイルを選択して「開く」ダイアログ・ボックスをクリックして「OK」ボタンをクリックします。
- 既存のデータベース接続ファイルのリポジトリの場所とファイル名をテキスト領域に入力します。

どのデータベース接続ファイルのアクセス権も持たない場合、Web Analysis 管理者に相談してください。

- 8 接続をクリックしてデータベース接続から最新の値を取得します。

有効なログオン情報を入力して「OK」をクリックします。

データ・ソースに接続すると、「データベース・ファイルの場所」テキスト領域が使用不可になり、「接続」ボタンが「接続解除」ボタンに切替わります。「視点」、「個人用変数」、および「別名テーブル」をサポートするデータ・ソースには次のコントロールがあります。

- 9 次のデフォルトのログオン情報グループから1つのオプションを選択します。

表 21

「デフォルトのログイン情報」のオプション	説明
ユーザーの名前およびパスワード	Web Analysis ユーザー名およびパスワードを使用してデータベース接続に接続します。
ユーザー名とパスワードをプロンプト	ユーザーに Web Analysis ユーザー名とパスワードをプロンプトしてデータベース接続に接続します。
ユーザー名およびパスワードの入力	Analyzer Login パラメータと異なる場合、データベース接続のユーザー名とパスワードを使用してデータベース接続に接続します。対応するテキスト領域に有効な値を入力する必要があります。

- 10 OK をクリックします。

データの視点(POV)の定義について

視点(POV)データベースのプリファレンスでは、他の人のドキュメントに、関心のある次元とメンバーを自動的に挿入できます。データの視点(POV)の定義は、データベース接続固有に定義およびアクティブ化する必要があります。

視点(POV)をアクティブ化すると、「キューブ・ナビゲータ」および「ドキュメント作成ウィザード」の「POVの使用」チェック・ボックスが使用可能になります。以降作成しロードするすべてのドキュメントは、非アクティブにするまで指定 POV を使用します。「キューブ・ナビゲータ」の「POVの使用」オプションを必要に応じて選択解除して POVの使用を非アクティブ化することもできます。

データの視点(POV)の定義は、軸および次元メンバーの選択項目で構成されます。アクティブ化した POV で新規ドキュメントを作成ときは定義全体を使用します。

既存のドキュメントに視点(POV)の定義を適用すると、次元メンバー選択項目のみ適用されます。これは機能しないレイアウトを視点が自動的に配置する(すべての次元を1つの軸へ移動するなど)のを防ぎます。

すべての POV メンバー選択がカスタム・フィルタである場合、ドキュメントに明らかな変更は現れません。「POV(視点)」セグメントの「ビュー」ペインの「情報パネル」タブでどの POV が適用されているか確認します。

視点(POV)の定義の使用は、3つの部分からなるプロセスです。まず、視点(POV)の定義を作成します。次に、視点(POV)の定義をアクティブ化します。最後に既存のドキュメントをアクティブ化した視点(POV)の定義を使用するよう設定するかそれを使用する新規ドキュメントを作成します。

視点の設定による利点を次に説明します。

汎用ドキュメントと固有ドキュメント

大企業のドキュメント作成者は、多数のユーザーが各自固有のメンバー選択をドキュメントに重ねて表示する場合を想定して、汎用ドキュメントのセットを作成できます。

メンバー選択ステートメントの置換

視点(POV)を使用して、他のドキュメントの複雑な計算および分析ツール定義をそれらが追跡する次元およびメンバーに適用します。これにより、ユーザーがこれらの分析を調査および作り直す必要がなくなります。

新規ドキュメント用のデフォルトの次元レイアウトとメンバー選択

視点(POV)をアクティブ化すると、ドキュメント作成プロセスが簡略化されます。キューブ・ナビゲータに現在の視点(POV)で指定された次元メンバー選択項目がロードされます。

セッションベースの視点

視点(POV)はセッション・ベースです。データの視点(POV)の定義は個別データベース接続の一部として保存され呼び出されます。これにより、それらに対応するデータベース接続を使用するすべてのドキュメントに使用できます。

ドキュメントのリロード

適用された視点の定義を表示するには、ドキュメントをリロードする必要があります。

視点(POV)および個人用変数

データの視点(POV)の定義は、対応する次元およびデータベース接続のすべてメンバー選択を置換えます。個人用変数は、単次元の既存のメンバー選択を拡張します。データの視点(POV)の定義の作成で個人用変数を活用します。

個人用変数について

複雑なメンバー選択を定義して命名します。個人用変数を、対応する次元およびデータベース接続で提示されたときそれらを活用します。

汎用ドキュメントと固有ドキュメント

他のユーザーは、関心を持つ次元メンバーを含む同じ名前、次元、およびデータベース接続を使用して個人用変数を作成します。このテクニックは、汎用およびユーザー固有コンテンツを含む複合ドキュメントを作成します。

視点(POV)および個人用変数

データの視点(POV)の定義は、対応する次元およびデータベース接続のメンバー選択を置換えます。個人用変数は、単次元のメンバー選択を拡張します。データの視点(POV)の定義の作成で個人用変数を活用します。

Financial Reporting のプリファレンスの設定

Financial Reporting の「プリファレンス」ダイアログ・ボックスには、EPM Workspace プリファレンスを設定する「全般」タブとクライアント・プリファレンスを設定する「Financial Reporting Studio」タブの2つのタブがあります。

- ▶ 次の Financial Reporting プリファレンスを設定します。
- 1 「ファイル」を選択し、「プリファレンス」を選択して Financial Reporting を選択します。
- 2 Financial Reporting の全般タブから HTML プレビューまたは PDF プレビューを選択してドキュメントをプレビューするときのデフォルト・プリファレンスを指定します。
- 3 ユーザー POV から次のことを行います。
 - 「オン」を選択してレポートを実行する前に「ユーザー POV」の表示を可能にするか「オフ」を選択して不可にします。
 - EPM Workspace のどこに視点(POV)を表示するかを選択します。「ビュー・ペイン内」がデフォルトです。レポートまたはブックの上に表示することもできます。
 - 「メンバーの設定」を選択して POV を使用するとき使用可能にするメンバーを選択します。「ユーザーの POV の設定」ダイアログ・ボックスが表示されま

す。詳細は、87 ページの「Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定」を参照してください。

- 4 3 桁ごとの区切り文字を選択します。オプションは、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、およびスペースです。
- 5 少数点区切り記号に小数点を表す文字を選択します(たとえば、1,000.06)。オプションは、カンマ(,)、ピリオド(.)、アンダースコア(_)、およびスペースです。
- 6 Office アプリケーションにエクスポート・アプリケーションからインストールした Microsoft オフィスのバージョンとして Office 2000 または Office 2002 以上を選択します。

注： Office 2000 を選択した場合、エクスポート先にできる Microsoft Office 2000 アプリケーションは Excel だけです。Office 2002 以上を選択した場合、エクスポート先にできるアプリケーションは、Excel、Word、および PowerPoint です。

- 7 「同じタイプのプロンプトをマージする」を選択して一度だけ返答するか選択解除して複数回繰返されるプロンプトおよび変数に連続的に返答します。

注： 「同じタイプのプロンプトをマージする」の設定は、EPM Workspace で優先します。しかし、EPM Workspace で「同じタイプのプロンプトをマージする」を設定しないと、fr_global.properties ファイル内のデフォルト設定が使用されます。

- 8 注釈の表示を選択して、レポートに対する注釈の追加、編集、および表示を行います。
- 9 注釈の印刷の詳細を選択して注釈を印刷する方法を指定します。77 ページの「注釈印刷プリファレンスの設定」を参照してください。
- 10 Financial Reporting Studio タブからドロップダウン・メニューを使用してデフォルトの Financial Reporting Studio 設定をアクティブ化します。
 - 言語 - デザイナ・ラベルに表示する言語
 - 単位: - レポート・デザイナーのデフォルトの単位。 インチまたはセンチ。
 - ガイドライン - レポート・デザイナーのバックグラウンド設定。色、スタイル、(点または線)、およびガイドラインにスナップ設定。

また、XBRL 編集を使用可能にするかどうかを設定することもできます。Oracle Hyperion Financial Reporting - ユーザー・ガイドを参照してください。

- 11 OK を選択します。

注釈印刷プリファレンスの設定

注釈を印刷する方法を設定できます。次の 2 つのメイン・プリファレンス設定があります。

- **詳細** - 選択するとシステム定義脚注が作成されます。ユーザーが印刷する注釈要素や印刷する注釈返答の数などの印刷オプションを選択できる「脚注の詳細を使用」領域が使用可能になります。汎用フォーマットが適用され、システム定義サイズとフォントが使われます。

- **テキスト・オブジェクト** - 選択するとレポートのテキスト・オブジェクトの脚注機能を使用して注釈を印刷します。脚注機能は、レポート・デザイナーが作成します。このオプションは、注釈のフォーマットおよび印刷の点でより柔軟性に富んでいます。たとえば、脚注機能を指定して見出しとコンテンツに異なるサイズ、フォント、および色を適用したグリッド注釈のみを印刷できます。

▶ **注釈印刷プリファレンスの設定**

1. 注釈印刷のプリファレンスドロップダウンから次のいずれかを選択します。
 - **詳細** - システム定義脚注詳細および注釈の印刷を使用します。汎用フォーマットが適用されます。
 1. 「**脚注の詳細を使用**」で、印刷する注釈要素を選択します。

注：「返答を含める」を選択した場合、「すべて」の返答、「上位」の数の返答、または「下位」の数の返答を含めるか示します。空き領域に印刷する返答の数を入力します。

- **テキスト・オブジェクト** - 注釈のカスタマイズしたフォーマットおよび印刷を使用します。
 1. 「**脚注のテキスト・オブジェクトを使用**」で「**選択**」をクリックして、リポジトリ内でテキスト・オブジェクトを検索します。
2. OK をクリックします。

Production Reporting プリファレンスの設定

Production Reporting ファイルにこれを使用します。

▶ **Production Reporting のプリファレンスを設定します。**

- 1 **ファイル、プリファレンス、次に Production Reporting。**
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 「**すべてのフォルダ**」を選択してエクスプローラに表示されるフォルダをスキャンします。
 - 「**選択したフォルダ**」オプションを選択して「**フォルダ**」ウィンドウに表示されるフォルダを検索します。
- 3 追加および削除ボタンを使用して「**フォルダ**」ウィンドウからフォルダを追加または削除します。「**追加**」ボタンを選択すると検索に追加するフォルダを選択できる「**検索**」ダイアログ・ボックスが開きます。「**フォルダ**」ウィンドウからフォルダを除去するには、フォルダを選択して削除ボタンをクリックします。
- 4 OK を選択します。

Interactive Reporting プリファレンスの設定

- ▶ Interactive Reporting のプリファレンスを設定します。
 - 1 ファイル、プリファレンス次に **Interactive Reporting**。
 - 2 ロケール・ドロップダウン・メニューからデフォルトを設定する国を選択します。選択したロケールが使用するデフォルト・フォーマットに関連する国のロケールを設定します。選択するロケールは、使用できる数字、日付、および通貨のフォーマットを決定します。
 - 3 各ドロップダウン・メニューから日付、タイムスタンプ、時刻、および月のフォーマットを選択します。日付は「日付グループの追加」で使用するデフォルトの日付のフォーマット、タイムスタンプはデフォルトの時刻と日付フォーマット、時刻はデフォルトの時刻フォーマット、月はデフォルトの月フォーマットを設定します。
 - 4 各ドロップダウン・メニューから実数、整数、およびヌル・オプションのフォーマットを選択します。ヌルはヌル値のデフォルト・フォーマットを設定します。ヌル値は、データを持たない空白値です。ヌル値は、ゼロではありません。実数は、実数値のデフォルト・フォーマットを設定し、整数は整数値のデフォルト・フォーマットを設定します。
 - 5 OK を選択します。

Interactive Reporting のデフォルトで開くフォーマット

「Interactive Reporting プリファレンス」ウィンドウの「デフォルトで開くフォーマット」では、メニューから開くを選択したとき Interactive Reporting ドキュメントを開くデフォルトのプログラムを設定できます。デフォルト・プログラムは、HTML または Interactive Reporting ウェブ・クライアントに設定できます。

Interactive Reporting ドキュメントを HTML として開くと、ドキュメントは「コンテンツ」ペインに HTML フォーマットで表示されます。Interactive Reporting ウェブ・クライアント・フォーマットでは、ドキュメントは、ウェブ・ブラウザのプラグイン・ディレクトリにある特殊アプリケーションファイル内で開きます。

- ▶ デフォルト・プログラムを選択するには、次の手順に従います。
 - 1 ファイルを選択し、次にプリファレンス、そして「**Interactive Reporting**」を選択します。
 - 2 「デフォルトで開くフォーマット」ドロップダウン・メニューからドキュメントを開くデフォルト・プログラムを選択して OK をクリックします。

Oracle BI Publisher のプリファレンスの設定

「プリファレンス」ページを使用して以下を設定します。

- UI 言語
- レポート・ロケール
- レポート・タイム・ゾーン
- HTML の SVG サポート
- レポート・ビューアの高さ

▶ Oracle BI Publisher のプリファレンスを設定するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。
- 2 「Oracle BI Publisher」を選択します。次のセクションの作業を完成します。

UI 言語の設定

UI 言語は、ユーザー・インタフェースを表示する言語です。

注： ロケールとユーザー・インタフェース言語リストは、変更できないため読み取り専用です。ロケールと言語は EPM Workspace から継承します。ロケールの設定の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

レポート・ロケールの設定

ロケール言語および領土の組み合わせ、たとえば、英語(米国)またはフランス語(カナダ)。Oracle BI Publisher は、レポート・ロケール選択を使用して以下を決定します。

- 適用するテンプレート換算
- レポート・データに適用する数字のフォーマットおよび日付のフォーマット。

注： 特定のレポートは、選択したロケールで使用できるテンプレート換算を持つ必要があります。持たないと、Oracle BI パブリシャは、ロケール・フォールバック・ロジックを適用してテンプレートを選択します。詳細は、Oracle Business Intelligence Publisher ユーザー・ガイドを参照してください。

テンプレート換算には適切な数字および日付フォーマットが個別に適用されます。

レポート・タイム・ゾーンの設定

レポートに適用するタイム・ゾーンを選択します。このユーザーが実行するレポートは、ここで選択したタイム・ゾーン・プリファレンスに従って表示されます。特定のレポートに対してこの設定を上書きできます。Oracle Business Intelligence Publisher ユーザー・ガイドの Schedule Report を参照してください。

注： ユーザー・インタフェースに表示されるレポート・プロセス時刻に反映される時刻は、Oracle BI Publisher サーバーのタイム・ゾーンに依存します。

HTML で SVG を使用可能にする

HTML レポート内のグラフィックをスケーラブル・ベクター・グラフィック (SVG) テクノロジーを使用して表示するよう選択できます。SVG を使用可能にするため、ブラウザがプラグインを必要とする可能性があります。その場合、SVG を使用可

能にした HTML グラフィックを初めて表示するときプラグインをダウンロードするようプロンプトされます。SVG プラグインを使用しない場合、「No」を選択します。

レポート・ビューアの高さ

テキスト・ボックスに値を入力してレポート・ビューアの高さを設定できます。

Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスの設定

「プリファレンス」ページから次のアクションを実行できます。

注： ロケールとユーザー・インタフェース言語リストは、変更できないため読み取り専用です。ロケールと言語は EPM Workspace から継承します。ロケールの設定の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

- 表示名やユーザー ID などの全般アカウント情報を表示します。
- デフォルト・ダッシュボードなどのプリファレンスを表示および変更します。
- Oracle BI Delivers iBots の配信オプションを表示および変更します。
- 現在所属する Presentation Services グループを表示します。

注： 権限の設定によっては、これらすべてのオプションが使用可能とは限りません。

▶ プリファレンスを変更するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。
- 2 「Oracle Business Intelligence」を選択します。
- 3 「プリファレンス」セクションで次のアクションを実行します。
 - 「デフォルト・ダッシュボード」ドロップダウン・リストから、Oracle BI にログインするとき表示するダッシュボードを選択します。
 - タイム・ゾーン・ドロップダウン・ボックスからタイム・ゾーンを選択します。タイム・ゾーンの詳細は、[81 ページの「Oracle BI EE タイム・ゾーンの設定」](#)を参照してください。

Oracle BI EE タイム・ゾーンの設定

タイム・ゾーン・オプションを使用して Oracle BI EE アカウントの優先タイム・ゾーンを設定できます。このオプションでは、同じ物理地域に存在しないシステム・ユーザーがシステム管理者が設定したデフォルトのタイム・ゾーンを上書きできます。たとえば、警告を送る Oracle BI サーバーが米国太平洋標準時タイム・ゾーンにあり、ユーザーが米国中央標準時タイム・ゾーンで作業をしていると仮

定します。中央標準時タイム・ゾーンを優先タイム・ゾーンに設定したあとは、送信された警告の時刻は中央標準時で表示されます。ユーザーが作成、変更、実行、受信、および印刷するアイテムにはアカウントのタイム・ゾーンが自動的に適用されます。

レポートに含まれる日付と時刻の列は、レポート・デザイナの仕様に従って表示されます。レポート・デザイナは、列に特定のタイム・ゾーンの表示を強制するか、ユーザー・デフォルト・タイム・ゾーンの表示を許可できます。列見出しにクロック・アイコンが表示され、このアイコンの上にマウスを移動すると、列に使われているタイム・ゾーンの名前が表示されます。

管理者が Oracle BI Presentation サーバーのタイム・ゾーンを設定する方法の詳細は、Oracle Business Intelligence Presentation Services 管理者ガイドを参照してください。

Oracle BI EE 配信オプションの設定

Oracle BI EE プリファレンス・ダイアログ・ボックスのこの部分では、Oracle BI Delivers から通知を受けるデバイスを追加または変更できます。

注： デバイスまたはプロファイルが事前に構成されている、変更する前に Oracle BI 管理者に相談してください。

配信オプションの設定の詳細は、[82 ページの「Oracle BI Delivers デバイスおよび配信プロファイルの構成」](#)を参照してください。

Oracle BI Delivers デバイスおよび配信プロファイルの構成

Oracle BI ユーザーは、マイ・アカウント・リンクから配信デバイスおよびプロファイルを構成できます。これらのリンクは、Oracle BI Answers、Oracle BI Delivers、および Oracle BI Interactive Dashboards のメイン・ページから使用できます。

デバイスおよび配信プロファイルは、iBot が警告をトリガーしたとき Oracle BI Delivers がユーザーに連絡する方法を管理します。1 つ以上のデバイスを追加したあと、配信プロファイルを作成し、警告の受信にどの配信プロファイルをアクティブ・プロファイルにするかを指定できます。

注： 配信オプション領域にすでにデバイスとプロファイルがある場合、配信オプション領域を変更する前に Oracle BI 管理者に相談してください(変更を行うと、構成されている配信デバイスおよびプロファイル情報が上書きされます。)

ユーザーは、デバイスの追加、代替デフォルト・デバイスの指定、およびその配信プロファイルの構成ができます。

▶ Oracle BI Delivers の配信オプションを構成するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。

2 「Oracle Business Intelligence」を選択します。

3 デバイスを追加するには、次の手順を実行します。

1. 追加するデバイスのタブを選択します。たとえば、「電子メール」タブ。
2. 「デバイスを追加」リンクを追加します(たとえば、「電子メール・デバイスを追加」リンク)。「デバイス名」フィールドが埋まった「デバイス」ページが表示され、デバイス/プロバイダ・リストのオプションを使用できます。
3. デバイス/プロバイダ・ドロップダウン・リストからデバイス・カテゴリに適切なオプションを選択します。
4. 「アドレス」フィールドのデバイスのアドレスを入力します。たとえば、電子メールの場合は電子メール・アドレス、デジタル電話の場合は電話番号になります。

注： デバイスの電話番号を入力するとき、スペース、ダッシュ、かっこなどは使用できません。

5. 「終了」を選択して「マイ・アカウント」ページへ戻ります。デバイスが適切なカテゴリ(たとえば、電子メール・デバイス)のデバイス領域に表示されます。
6. デバイスの情報を変更するには、「編集」リンクを選択して「デバイス」ページへ戻ります。
7. デバイスが不要と判断した場合、「削除」リンクを選択します。これでデバイスがデバイス領域から除去されます。
8. 別のデバイスを追加するには、上記の手順を繰り返します。

4 代替デフォルト・デバイスを指定するには、次の手順に従います。

1. デフォルト・デバイス(たとえば、電子メール、電話)を設定するデバイス・カテゴリのタブを選択します。選択したデバイス・カテゴリのすべてのデバイスが表示されます。
2. デフォルトに選択するデバイスの隣のラジオ・ボタンをクリックします。ここでデフォルトのデバイス(たとえば、Email)を選択して iBot 宛先ページで電子メール・チェック・ボックスを選択すると、デフォルト・デバイスはアクティブ配信プロファイル内の他の電子メール・デバイスを上書きします。詳細は、[Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択](#)を参照してください。

5 配信プロファイルを追加するには、次の手順に従います。

1. 「配信プロファイルを追加」リンクを選択します。「配信プロファイル」ページが表示されます。
2. 「名前」フィールドに配信プロファイル名を入力します。配信プロファイル・ページでの選択および配信プロファイルの仕組みの詳細は、[84 ページの「Oracle BI Delivers 配信プロファイルの使用方法」](#)を参照してください。
3. 「終了」を選択して配信プロファイル・ページへ戻ります。プロファイルが配信プロファイル・リストに表示されます。
4. 配信プロファイルの情報を変更するには、「編集」リンクを選択して「配信プロファイル」ページに戻ります。
5. 配信プロファイルが不要な場合、「削除」リンクを選択します。これで「配信プロファイル」領域から配信プロファイルが除去されます。

6. 別の配信プロファイルを追加するには、前の手順を繰り返します。
- 6 配信プロファイルをアクティブ・プロファイルにするには、プロファイルの隣のラジオ・ボタンを選択します。プロファイルの隣のラジオ・ボタンは、アクティブ配信プロファイルであることを示すため塗りつぶされます。

Oracle BI Delivers 配信プロファイルの使用方法

Oracle BI Delivers は、アクティブ・プロファイルを使用して iBot が警告をトリガーしたときユーザーに連絡する方法と、送信コンテンツを受け取るデバイスを決定します。配信プロファイルは、「マイ・アカウント」ページから構成します。「マイ・アカウント」ページをアクセスして配信プロファイルを構成する方法の詳細は [82 ページの「Oracle BI Delivers デバイスおよび配信プロファイルの構成」](#) を参照してください。

iBot コンテンツは、ウェブ、ワイヤレス、およびモバイル・デバイスを含む各種のデバイスへ送ることができます。デフォルトで iBot コンテンツはダッシュボードおよびアクティブ配信プロファイルで定義された(iBot コンテンツの優先度をベースに)適切なデバイスへ送ることができます。コンテンツは、明確にデバイスに向けることができ、そのとき、それが定義されていればアクティブ・ディレクトリ・プロファイル内にもない場合でもそのデバイスにコンテンツを受信します。

コンテンツは、アクティブ配信プロファイルおよびターゲット・コンテンツに定義された特定のデバイスより決定されるデバイスの交差に送られます。コンテンツは、そのデバイスがアクティブ配信プロファイルにあり、iBot コンテンツの配信デバイスとして具体的に選択されている場合でもデバイスへ一度だけ送られます。具体的に要求されたデバイスまたはアクティブ配信プロファイルが見つからない場合、iBot コンテンツは自動的にダッシュボードへプッシュされます。

iBot コンテンツには特定の優先度が割り当てられます。デフォルトの優先度は標準です。アクティブ・プロファイルにデバイスを選択するとき、そのデバイスへ送るコンテンツの優先度を示すことができます。たとえば、配信プロファイルにページを追加した場合、それを高優先度コンテンツのみに関連付けることができます。頻繁にオフィスを離れて電子メールの範囲外にいることが分かっているとき、オフィスの電子メールでは低優先度コンテンツのみ受信することを選択できます。

任意の数の配信プロファイルを作成できます。ただし、一時点では1つのプロファイルのみアクティブにできます。

- ▶ Oracle BI Delivers 配信プロファイルを追加または編集するには、次の手順に従います。
 - 1 「配信プロファイル」ページで、「名前」フィールドにプロファイルの名前を入力します。
 - 2 プロファイルで使用する各デバイスに対して、送信するコンテンツの優先度を選択します。

注： 使用しないデバイスの優先度は設定しません。優先度を選択していないデバイスは、プロファイルで使われません。

適切なチェック・ボックスをクリックして任意の優先度またはすべての優先度を選択できます。

- 3 「終了」を選択してこのプロファイルを保存し、「マイ・アカウント」ページへ戻ります。配信プロファイルが「配信プロファイル」リストに表示されます。

Oracle BI Delivers iBot の宛先の選択

「宛先」タブを使用して iBot の希望デバイスおよび宛先の範囲を指定します。このセクションには次のトピックがあります。

- [Oracle BI Delivers iBot のユーザー宛先について](#)
- [Oracle BI Delivers iBot の特定デバイスについて](#)
- [Oracle BI Delivers iBot のシステム・サービスについて](#)

▶ iBot のデバイスおよび宛先を指定するには、次の手順に従います。

- デバイスまたは宛先の隣のチェック・ボックスを選択して iBot 用に選択します。

Oracle BI Delivers iBot のユーザー宛先について

このセクションでは、「宛先」ページで使用できる iBot のユーザー宛先を説明します。

- 対話型ダッシュボード
アクティブ iBot は、「ダッシュボード警告」セクションおよび「警告」ページに表示されます。この要約へのリンクは、新しい iBot が送られるときアプリケーション・ナビゲーション・リンクと共に表示されます。「警告」ページでこれらを消去したあと、警告リンクは除去されます。
- アクティブ配信プロファイル
iBot は、アクティブ配信プロファイル内の指定デバイスへ送られます。アクティブ配信プロファイルは、「マイ・アカウント」ページから構成します。詳細は、[82 ページの「Oracle BI Delivers デバイスおよび配信プロファイルの構成」](#)を参照してください。

Oracle BI Delivers iBot の特定デバイスについて

「宛先」ページで特定のデバイスを選択する場合、「マイ・アカウント」ページで選択したデフォルト・デバイスがユーザーのアクティブ配信プロファイルで設定したデバイスを上書きします。「宛先」ページで指定したデバイスは、アクティブ配信プロファイルへの追加となります。たとえば、iBot はユーザー構成に依存する必要はありません。iBot は、単に「マイ・アカウント」ページの「デバイス」領域のデフォルト・デバイスの情報を使用するよう構成できます。

アクティブ配信プロファイルおよびデバイスの詳細は、[82 ページの「Oracle BI Delivers デバイスおよび配信プロファイルの構成」](#)を参照してください。

次のデバイスを使用できます。

- 電子メール
- ページャ

- デジタル電話
- ハンドヘルド・デバイス
- その他のデバイス

Oracle BI Delivers iBot のシステム・サービスについて

このセクションでは、「宛先」 ページで管理者が使用できるシステム・サービスを説明します。

- Oracle BI サーバー・キャッシュ

これは、キャッシュのシードに使用します。

Oracle BI 管理者は、個別のユーザーにサーバー・キャッシュを作成できます。キャッシュのシード操作では、管理者はダッシュボードページで要求を実行するか、プレゼンテーション・カタログに保管されている要求を実行してサーバー・キャッシュを作ることができます。これにより、ユーザーが実際にダッシュボードで要求を実行するとき応答時間が短縮されます。特定の要求に対してデータがすでにダッシュボードにある場合、データは削除され iBot を実行するときリフレッシュされます。

要求またはダッシュボード・ページのキャッシュは、指定したユーザー・セットに対する適切なスケジュールで作成されます。

注： 各ユーザーにキャッシュを作成するには、「全般」 タブでデータ・ビジビリティに「カスタマイズ」 オプションを選択します。

通常、この種の要求にはこれ以外の宛先は選択しません。

- 切断済アプリケーション・キャッシュ

この設定は、Oracle の Siebel Pharma Mobile Analytics など Disconnected Analytics または切断済アプリケーションのライセンスを持つ組織を対象にしています。これは、Disconnected Analytics アプリケーションのプリプロセス済同期モードに関連しています。

切断済アプリケーションのユーザーには、アプリケーションを同期するときデータ・ダウンロードを速めるためサーバー・データセットを作成できます。

プリプロセス済同期モードは、ユーザー用の推奨データ・ダウンロード・モードです。これは、通常の営業時間内にデータ作成要求をオンラインで実行するとき発生するオーバーヘッドを避け、ダウンロードの待ち時間を減らします。プリプロセス済データは、Oracle BI ウェブを実行するコンピュータ上の各ユーザー・ディレクトリ内に保管されます。このモードを使用してデータ・キャッシュ作成をスケジュールする場合、十分な空きディスク・スペースがあることを確認してください。Oracle Disconnected Analytics の詳細は、Siebel Business Intelligence Server 管理ガイドを参照してください。

注： 各ユーザーに切断済アプリケーション キャッシュを作成するには、「全般」 タブのデータ・ビジビリティに「カスタマイズ」 (個別データ・ビジビリティ) オプションを選択します。(Disconnected Analytics ユーザーには非カスタマイズ・データは使用されません。)

通常、この種の要求にはこれ以外の宛先は選択しません。

Financial Reporting ドキュメントのユーザー POV の設定

次元は、しばしば一度もアクセスすることのないメンバーを含みます。ユーザー POV の設定では、指定データ・システムの任意の次元の選択リストを作成できます。次元に対して選択リストを設定すると、ユーザー POV から次元をアクセスするとき選択リスト内のメンバーのみ表示されます。選択リストに含まれないメンバーは表示されません。88 ページの「Financial Reporting のユーザー POV の別名と説明の表示」を参照してください。



▶ EPM Workspace の Financial Reporting のユーザー POV を設定します。

- 1 ファイル、次にプリファレンス。
- 2 「Financial Reporting」をクリックします。
- 3 「全般」タブの「ユーザー POV」領域からメンバーの設定ボタンを選択します。

ヒント： 「リフレッシュ」を選択してデータベース接続のリストを更新します。

- 4 データベース接続からデータ・システムを選択します。
- 5 プロンプトされたらログオン情報を入力して OK を選択します。

注： グリッドにサポート詳細またはプランニング・ユニットの注釈が含まれる場合にのみ Planning Details データ・ソースを使用します。その他の場合、データ・ソースとして Essbase を使用します。

- 6 メンバー選択に移動: 次元ボタン、 をクリックしてユーザー POV を使用するとき使用可能にするメンバーを選択します。メンバーの選択に「ユーザー POV の設定」ページが表示されます。
- 7 ビューを展開して使用可能なメンバーを選択し、選択済リストに追加、 ボタンをクリックします。選択したメンバーが「選択済」列に表示され、選択リストに現われます。

注： 選択リストは、メンバー選択に指定されたデータ・ベース接続を使用するとき表示されます。

次元メンバーの管理


メンバーを管理する手順を以下に示します。

- [次元プロパティの表示](#)
- [選択メンバーの配置](#)

次元プロパティの表示



以下の手順に従って表示する次元メンバーのプロパティを決定します。

注： 行った変更は、選択した次元にのみ適用されます。各次元は、異なる表示プロパティを持ちます。プロパティのリストは、次元ごとに異なります。

- ▶ 次の次元の表示されるプロパティを変更します。
- 1 「ユーザーの POV の設定」ダイアログ・ボックスの「メンバーの選択」でプロパティの表示、 をクリックします。次元のプロパティが表示されます。
- 2 次のいずれかを行います。
 - チェックされていないプロパティを選択して列をテーブルに追加します。
 - チェックされているプロパティを選択して列をテーブルから除去します。
- 3 望みの列が表示されるまで**手順 2**を繰り返します。
- 4 OK をクリックして変更を保存します。
- 5 次元プロパティ・テーブルにユーザーが行った選択が表示されます。

選択メンバーの配置

「ユーザーの POV メンバー選択の設定」ダイアログ・ボックスのメンバーは、特定の順序に配置されています。

- ▶ 選択済メンバー・リストでメンバーの表示順序を変更するには、次の手順に従います。
- 1 「ユーザーの POV メンバーの設定」ダイアログ・ボックスの選択列で、移動するメンバーを選択します。
- 2 次のいずれかを行います。
 -  をクリックしてメンバーを上に移動します。
 -  をクリックしてメンバーを下に移動します。
- 3 メンバー順序の配置が完成するまで最初の 2 つの手順を繰り返します。
- 4 OK をクリックしてすべての変更を保存します。

Financial Reporting のユーザー POV の別名と説明の表示

EPM Workspace でメンバーがユーザー POV Financial Reporting ドキュメント内で表示される方法を選択します。メンバーは、メンバーの名前別、別名/説明別、またはメンバー名と別名/説明の両方別に表示されます。メンバー・ラベルの表示方法または次元ラベルを含めるかを指定します。

- ▶ ユーザーの POV 内の別名/説明を表示します。
- 1 ファイル、プリファレンス、次に Financial Reporting。
- 2 ユーザー POV から「全般」をクリックし、メンバーの設定を選択します。

ヒント: 「リフレッシュ」 ボタンを選択してデータベース接続のリストを更新します。

3 データベース接続からデータ・ソースを選択します。

4 プロンプトされたらログオン情報を入力して「OK」をクリックします。

注: グリッドにサポート詳細またはプランニング・ユニットの注釈が含まれる場合にのみ Planning Details データ・ソースを使用します。その他の場合、データ・ソースとして Essbase を使用します。

5 メンバー・ラベルの表示から望みのメンバー・ラベルを選択します。ラベルは、使用するデータ・ソースをベースに選択されます。

6 次元のラベルドロップダウン・リストから、次元ラベルを含めるか含めないかを選択します。

7 次のいずれかの作業を行います。

- 「OK」 をクリックして現在の変更を保存し、リポジトリ画面に戻ります。
- 現在の変更を取消すには「取消し」 をクリックします。
- 「適用」 をクリックして変更を保存し、その他のデータベース接続の次元の操作を続けます。

EPM Workspace のカスタマイズ

EPM Workspace を使用するとき、カスタマイゼーション・タスクを実行してユーザー・インタフェースの外観を変更します。カスタマイゼーションの「表示」メニューまたはユーザー・プリファレンスを使用します。

注: 「表示」メニューで行うユーザー・インタフェース設定は、「全般プリファレンス」タブで定義したデフォルト設定を上書きし、ログオフするまで有効です。

次のテーブルは、EPM Workspace ユーザー・インタフェースをカスタマイズするために実行できるタスクを説明しています。

表 22

カスタマイゼーション・タスク	モジュール	メニュー・バー・コマンド
ビュー・ペインを表示/非表示	すべてのモジュール	表示、次にビュー・ペイン
ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更	すべてのモジュール	90 ページの「ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更」を参照してください。
コンテンツ領域に表示されるファイル・タイプ	エクスプローラ	「表示」、次に「表示するアイテムのタイプ」。91 ページの「特定ファイル・タイプの表示」を参照してください。

カスタマイゼーション・タスク	モジュール	メニュー・バー・コマンド
コンテンツ領域の非表示ファイルを表示するかどうか	エクスプローラ	表示、次に再表示
コンテンツ領域に表示されるアイテム・プロパティ	エクスプローラ	表示、次に列の表示。90ページの「列の表示」を参照してください。
コンテンツ領域のアイテムをソート	エクスプローラ	91ページの「アイテムのソート」を参照してください。

ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更

▶ ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更:

- 1 マウスをドラッグしてビュー・ペインとコンテンツ領域の間の列の枠線を指します。

ヒント: 枠線に薄い二重線として表示されるビュー・ペイン/コンテンツ領域アジャスタを指す必要があります。

- 2 ポインタが水平二重矢印に変わったら枠線を右か左にドラッグします。

列の表示

エクスプローラからは、アイテムおよびプロパティはコンテンツ領域内の列に表示されます。列から行う設定はログオフするまで有効です。



▶ 列の表示または非表示:

- 1 表示、次に列の表示。
- 2 列は、そのチェックボックスを設定または消去して表示または非表示にします。たとえば、「サイズ」のチェックボックスを選択してコンテンツ領域内に列として表示します。
- 3 列幅を指定するには、列チェックボックスをクリックし、新しい列幅をピクセル単位で入力します。

注: 例外、優先度、およびバージョンの列幅は指定できません。

- 4 「保存」をクリックして保存するか、「取消し」をクリックして変更を破棄します。

1. 列の順序を変えるには、次のいずれかの手順を行います。

- 列をクリックして  および  矢印を使用します。
- 「表示」、次に「列の表示」。
- コンテンツ領域から、列をドラッグ・アンド・ドロップします。

- ▶ 列幅のサイズを変更します。
- 1 マウスをドラッグし、列ヘッダーで列の枠線を指します。
- 2 ポインタが水平二重矢印に変わったら枠線を右か左へドラッグします。

アイテムのソート

エクスプローラから、コンテンツ領域内で列のアイテムをアルファベット順にソートします。任意の列見出しを使用してソートします。日付列は日付順にソートされます。

- ▶ 列をソートするには、列見出しをクリックし、次のいずれかを行います。
 - アイテムを昇順にソートするには、列見出しの隣のアイコンをクリックして上向きにします。
 - アイテムを降順にソートするには、列見出しの隣のアイコンをクリックして下向きにします。

特定ファイル・タイプの表示

エクスプローラから、コンテンツ領域に表示するファイル・タイプを指定できます。

注： ユーザーの役割と権限もアイテムが表示されるかどうかを決定します。

- ▶ 特定のファイル・タイプを表示:
 - 1 「表示」を選択します。

次に「表示するアイテムのタイプ」。次のオプションから選択できます。

 - すべてのファイル - エクスプローラですべてのファイルを表示します
 - ファイル・タイプグループのリストから選択 - [手順 2](#) を参照してください。
 - Hyperion または標準 - Hyperion タイプ・ファイルまたは標準ファイルを表示します。 [93 ページの「標準ファイル」](#) を参照してください。
 - その他 - 表示されるダイアログ・ボックスから特定のファイルを選択します。
 - 2 オプション:ファイル・タイプ・グループのリストでは、リストから 1 つのファイル・タイプ・グループのみ選択できます。

表 23 ファイル・タイプ・グループ

オプション	説明
すべてのジョブ (と出力)	すべてのジョブとすべてのジョブの出力を表示します。
すべてのジョブ	すべてのジョブを表示します。これには、ジョブとしてインポートするすべてのアイテムが含まれます。

オプション	説明
すべてのジョブの出力	実行中のジョブから作られるすべてのジョブの出力を表示します。
外部リンク	URL としてインポートするすべてのアイテムを表示します。
すべての Office ファイル	Microsoft Word、Excel、Power Point、およびプロジェクト・ファイルを表示します。ファイル拡張子.mht、.mhtml、または.nws のファイルも表示します。
すべてのレポート	以下を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Production Reporting ドキュメント ● Interactive Reporting ドキュメント ● Web Analysis ドキュメント ● Financial Reporting レポート、スナップショット・レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびバッチ
すべての Financial Reporting オブジェクト	すべての Financial Reporting レポート、スナップショット・レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびバッチを表示します。
すべての接続	すべてのデータベース接続ファイルを表示: <ul style="list-style-type: none"> ● Interactive Reporting データベース接続 ● Web Analysis Analytic Services (Essbase) データベース接続 ● Web Analysis Financial Management データベース接続 ● Web Analysis Relational データベース接続 ● Web Analysis SAP Info キューブ・データベース接続 ● Web Analysis SAP Multiprovider データベース接続 ● Web Analysis SAP InfoSet データベース接続 ● Web Analysis SAP ODS データベース接続 ● Web Analysis SAP Query Cube データベース接続
すべてのイメージ	次の拡張子を持つすべてのイメージ・ファイルを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● .gif ● .jpeg ● .png ● .bmp ● .tiff ● .xbm ● .xwb
Hyperion	以下を表示: <ul style="list-style-type: none"> ● Production Reporting ドキュメント ● Interactive Reporting ドキュメント ● Web Analysis ドキュメント、プレゼンテーション、データベース接続ファイル。 ● Financial Reporting レポート、スナップショット・レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびバッチ ● すべてのジョブ ● すべてのジョブの出力

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● すべての接続 ● HTML ファイル ● SPF セキュリティ・ファイル
標準	<p>次の拡張子を持つファイルを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● .xls ● .doc ● .mpp ● .ppt ● .pdf ● .html ● .txt ● .xml ● .zip ● .rtf
その他	<p>ファイル・タイプのリストから表示する 1 つのファイル・タイプを選択します。</p>

標準ファイル

標準ファイルには、テキスト・ファイル、ログ・ファイル、HTML ファイル、および Microsoft Office ファイルが含まれます。管理者は、リポジトリがサポートするファイルのタイプを設定します。詳細は、[第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。EPM Workspace から次の標準ファイル・タイプを開きます。

- .xls
- .doc
- .mpp
- .ppt
- .pdf
- .html
- .txt
- .xml
- .zip
- .rtf

3

アイテムの参照と管理

この章の内容

エクスプローラの使用法.....	95
アイテム.....	95
エクスプローラの基本.....	100
優先度、例外、およびバージョンの表示.....	101
ファイルの管理.....	101
Web Analysis Studio へのリンク.....	106
アイテムへの電子メール・リンクの作成.....	106
不明確なアイテムの使用法.....	107
ファイル・タイプの登録.....	107
アイテムのエクスポート.....	108
Smart View for Office へのエクスポート.....	108
Financial Reporting の関連コンテンツ・サーバーの変更.....	113
Financial Reporting データベース接続の変更.....	114
Financial Reporting のデータベース接続の管理.....	115

エクスプローラの使用法

エクスプローラでは、リポジトリをファイル管理システムとして提示する「開く」ダイアログ・ボックスと同様リポジトリ・コンテンツの表示とナビゲート、ファイルおよびフォルダの管理、および要素の使用が可能です。表示されるユーザー・インタフェース部分はユーザーの役割およびインストールされている Reporting and Analysis モジュールが決定します。その結果、一部のドキュメントはコンテンツ領域に表示され、その他を独自のスタジオで開くこともできます。たとえば、Interactive Reporting ではドキュメントを常に Interactive Reporting Web Client で開くよう設定できます。

アクセス権または権限は、リポジトリのどのアイテムを表示、変更、実行、または削除できるかを決定します。136 ページの「権限の設定とアーチファクトのプッシュ」を参照してください。

アイテム

アイテムは、ファイル、フォルダ、URL、およびショートカットを含むリポジトリに保管されるオブジェクトです。アイテムは、HTML ファイル、Interactive

Reporting データベース接続、ジョブ、バッチ、ドキュメント、レポート、およびプレゼンテーションです。

すべてのアイテムは、属性やアクセス・コントロール情報などファイルに関する情報を保管するプロパティを持ちます。プロパティには、タイプ、ファイルの説明、および検索キーワードが含まれます。

アイテムは次のように分類されます。

- 96 ページの「ドキュメント」
- 97 ページの「コレクション」
- 97 ページの「サポート・ファイル」
- 100 ページの「他の標準ファイル」
- 100 ページの「フォルダ」

ドキュメント

ドキュメントは、Oracle の Hyperion アプリケーションを使用して作成したファイルです。ドキュメントには、Interactive Reporting ドキュメント、Financial Reporting レポート、スナップショット、Web Analysis ドキュメント、および Production Reporting ドキュメントが含まれます。ドキュメントは、エクスプローラを使用してリストおよび表示します。エクスプローラから開いたドキュメントは、EPM Workspace の下部にタブとして表示されます。次のテーブルは表示可能なドキュメントを説明しています。ドキュメントは次のものを含み、生成できます。

- **ダッシュボード** - ユーザーのビジネスの対話型の要約を提供するメトリックおよびインディケータの集まり。
- **レポート** - フォーマットされたデータ値および対話型要素。レポートは、テーブル、グリッド、またはチャート・フォーマットで表示されます。

表 24

タイプ	説明	作成場所	ファイル拡張子
Production Reporting ドキュメント	リレーショナル・データ・ソースをクエリーするレポート	SQR Production Reporting Studio	.spf
Interactive Reporting ドキュメント	通常、リレーショナル・データ・ソースをクエリーするレポートまたはダッシュボードを生成するフォーマット済動的ドキュメント。	Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Studio、Oracle Hyperion(R) Dashboard Development Services、および EPM Workspace	.bqy
Web Analysis ドキュメント	通常 OLAP データ・ソースをクエリーする Web Analysis ドキュメント。	Web Analysis Studio および EPM Workspace	.ard
Financial Reporting レポート	OLAP データ・ソースの動的データを含	Reporting Studio	.des

タイプ	説明	作成場所	ファイル拡張子
	む高度にフォーマットされたレポート。		
スナップショット・レポート	OLAP クエリーの静的データを含む高度にフォーマットされたレポート。	Reporting Studio	.rpt

コレクション

コレクションは、ブック、プレゼンテーション、ジョブ出力ファイルなど、グループまたはドキュメントの参照を含みます。コレクションは、エクスプローラを使用してリストまたは表示します。エクスプローラから開いたアイテムは、EPM Workspace の下部にタブとして表示されます。

表 25 リポジトリ内のコレクション

タイプ	説明	作成場所	ファイル拡張子
ジョブの出力	ジョブの実行結果として得られるファイルのコレクション。	EPM Workspace <ul style="list-style-type: none"> Interactive Reporting ジョブの出力 Production Reporting ジョブの出力 汎用ジョブ出力 	ファイルは、.pdf、.html、.txt など各種の拡張子です。
ブック	Reporting Studio ドキュメントの集まり。ブックの次元セクションおよび次元変更を動的に指定します。	EPM Workspace	.kbk
スナップショット・ブック	静的データを含む生成済ブック。	EPM Workspace	.kbt
バッチ	特殊プロパティを伴う実行可能 Reporting Studio ドキュメントおよびブックの集まりで、レポートを生成するために実行します。	EPM Workspace	.bch
プレゼンテーション	Web Analysis ドキュメントのコレクション。	Web Analysis Studio	.apt

サポート・ファイル

次のテーブルは、ドキュメントまたはコレクションのオーサリングまたは管理を行うとき使用する EPM Workspace サポート・ファイルを示します。

表 26

タイプ	説明	Studio での作成	ファイル拡張子
ジョブ	出力を生成するために実行する特殊プロパティを持つアイテム。ジョブは、Interactive Reporting ドキュメント、Production Reporting ドキュメント、または汎用ドキュメントを含みます。	<ul style="list-style-type: none"> Interactive Reporting - Interactive Reporting ドキュメントをインポートして EPM Workspace で作成します。 Production Reporting - Production Reporting プログラム・ファイル (*.sqr)をインポートして EPM Workspace で作成します。 汎用 - Oracle レポートまたはバッチ・ファイルをインポートして EPM Workspace で作成します。汎用レポートはコマンド・ライン・インタフェースを使用します。 	<ul style="list-style-type: none"> Interactive Reporting ジョブは、ファイル拡張子を持ちません。 Production Reporting ジョブはファイル拡張子.sqr を持ちます。 汎用ジョブは、.sh、.bat など各種のファイル拡張子を持つことができます。
Interactive Reporting データベース接続	データ・ソースに接続する条項、条件、および方法を定義するポータブル・ファイル定義。	Interactive Reporting Studio	.oce
Production Reporting ドキュメントまたは Production Reporting ジョブが使用する SQR Production Reporting Studio ファイル。	Production Reporting プログラムが実行時に参照するファイル: <ul style="list-style-type: none"> インクルード・ファイル(#include コマンド) 入力データ・ファイル(Open for-reading コマンド) イメージ・ファイル(print-image および declare-image コマンド) 	SQR Production Reporting Studio	.cvs、.img、または.inc を含むファイル拡張子。
フォルダ	他フォルダおよびファイルを含むコンテナ。	適用外	なし
ショートカット	リポジトリ・アイテムへのポインタ。フォルダ B に格納されているアイテムを	適用外	なし

タイプ	説明	Studio での作成	ファイル拡張子
	フォルダ A で表示したいときショートカットを作成します。		
URL	ウェブ・サイトまたは HTML ページへのリンク。	適用外	なし
グリッド	外部ソースのデータを含む Reporting Studio オブジェクト。グリッドは、行、列、およびオプションとしてページ軸を含みます。	Reporting Studio	.rog
チャート	チャートを含む Reporting Studio オブジェクト。	Reporting Studio	.roc
イメージ	Reporting Studio イメージ・オブジェクト。	Reporting Studio	.roi
テキスト	Reporting Studio テキスト・オブジェクト。	Reporting Studio	.rot
行と列のテンプレート	Financial Reporting レポートの作成に使用するテンプレート。	Reporting Studio	.ros
<ul style="list-style-type: none"> ● Web Analysis Essbase データベース接続 ● Web Analysis Financial Management データベース接続 ● Web Analysis Relational データベース接続 ● Web Analysis SAP Info キューブ・データベース接続 ● Web Analysis SAP Multiprovider データベース接続 ● Web Analysis SAP InfoSet データベース接続 ● Web Analysis SAP ODS データベース接続 ● Web Analysis SAP Query Cube データベース接続 	Web Analysis ドキュメントのデータ・ソースに接続するための条項、条件、および方法を定義するポータブル・ファイル。	Web Analysis Studio	.adc

他の標準ファイル

他の標準ファイルには、テキスト・ファイル、ログ・ファイル、および Microsoft Office ファイルが含まれます。管理者は、リポジトリがサポートするファイルのタイプを設定します。107 ページの「[ファイル・タイプの登録](#)」を参照してください。

フォルダ

フォルダはリポジトリと共に存在し、階層構造に配置されています。フォルダは、整理に使用し、サブフォルダおよびジョブ、ドキュメント、URL などのアイテムを含むことができます。ルートフォルダは、すべてのファイルとフォルダを含みます。

エクスプローラの基本

エクスプローラを使用して、コンテンツをリスト、検索、または表示します。エクスプローラで開いたアイテムは、EPM Workspace の下部にタブとして表示されます。ビュー・ペインはフォルダを表示します。

アイテムが高優先度、複数バージョンを持つか例外として手動でフラグされている場合、アイコンが表示されます。これらのアイコンを見るには優先度、バージョンまたは例外の列が表示されている必要があります。

▶ フォルダ・コンテンツ:

- 左ペインのサブフォルダ。フォルダ名の隣のプラス・ボタンをクリックします。
- 左ペインのフォルダとコンテンツ領域のアイテム。フォルダをダブルクリックします。
- コンテンツ領域のコンテンツ。アイテムをクリックします。

注： ファイルやフォルダなどリポジトリ内のアイテムの名前を入力するとき、大文字/小文字および数字を使用できます。フォルダ名の先頭および最後にスペースは使用できません。文字¥、/、%、?、+、<、>、|、`、*、"は名前に使用できません。文字¥、%、?、+、<、>、|、`、*、"はパスに使用できません。

注： 名前/パスに無効な文字を含む Financial Reporting オブジェクトのインポートはまだ許されるためそれらのオブジェクトは一端 EPM Workspace にインポートしてから名前を変更する必要があります。無効な文字のオブジェクト名を含むスケジュール済バッチは、出力オプションに PDF および HTML を選択したとき失敗します。

優先度、例外、およびバージョンの表示

エクスプローラでアイテムをリストするとき、優先度、例外、または複数バージョンを示すアイコンが表示されます。次の条件を表示および設定できます。


-  優先度 - 高または低優先度。

表 27 優先度

ファイル・タイプ	説明
○ すべてのアイテムにはバージョンがあります。	バージョン・プロパティを使用してアイテムの優先度を標準または大に設定します。管理者が優先度機能をアクティブ化している場合のみに使用できます。

注： スケジュール済ジョブの優先度はアイテムの優先度と異なります。ジョブと関連付けるスケジュールに優先度を設定します。優先度は、スケジュールのプロパティです。複数のジョブが同時に実行するようスケジュールされている場合、優先度が高いジョブが最初に実行します。ジョブの隣に優先度アイコンは表示されません。461 ページの「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。



-  * 例外 - 閾値に達成したなどの条件または結果のインディケータです。例外が発生したとき登録ユーザーに通知し、個人用ページの例外ダッシュボードで例外をモニタします。

表 28 例外

ファイル・タイプ	例外
バージョンを持つアイテム	アイテムの例外を手動でフラグします。148 ページの「 バージョンのプロパティ 」を参照してください。
○ Production Reporting ジョブ ○ Interactive Reporting ジョブ ○ 汎用ジョブ	プログラムでジョブを例外生成可能にします。ジョブの隣に例外アイコンは表示されません。166 ページの「 例外の使用法 」を参照してください。

-  バージョン - アイテムが複数バージョンを持つことを示します。146 ページの「[バージョンの操作](#)」を参照してください。

▶ 優先度、バージョン、または例外列を表示するには、次の手順に従います。

- 1 「表示」、次に「列の表示」。
- 2 「優先度」、「バージョン」、または「例外」をクリックします。

ファイルの管理

このセクションでは、リポジトリ内のファイルおよびフォルダの管理に関連する次のタスクを説明します。

- 102 ページの「[ファイルまたはフォルダを開くまたは選択](#)」
- 103 ページの「[ファイルの保存](#)」

- 103 ページの「フォルダの作成」
- 104 ページの「ドキュメントまたはコレクションの作成」
- 104 ページの「ファイルまたはフォルダの移動またはコピー」
- 105 ページの「ファイルまたはフォルダ名の変更」
- 105 ページの「ファイルまたはフォルダの削除」
- 105 ページの「ファイルまたはフォルダの検索」

ファイルまたはフォルダを開くまたは選択

ファイルまたはフォルダを開いたあと、そのコンテンツはコンテンツ領域に表示されます。アイテムは複数のバージョンを持ちます。インポートしたファイルは、1つのバージョンを含むコレクションです。後に追加バージョンを保存またはインポートできます。バージョンには、同じファイルのリビジョンか完全に異なるファイルが可能です。103 ページの「ファイルの保存」を参照してください。

- ▶ ショートカット・メニューを使用してファイルを開きます。
 - エクスプローラのコンテンツ領域から、ファイルを右クリックし、ショートカット・メニューから「ファイル形式を指定して開く」を選択してフォーマットを選択します。次のいずれかを参照してください。
 - Financial Reporting アイテムについては、184 ページの「レポートの表示」を参照してください。
 - Interactive Reporting アイテムについては、226 ページの「Interactive Reporting データ・ソースの選択」を参照してください。
 - Web Analysis アイテムについては、355 ページの「表示を開く」および360 ページの「ドキュメントからドキュメントを作成する」を参照してください。
 - Production Reporting アイテムについては、349 ページの「Production Reporting ドキュメントの表示」を参照してください。
 - 汎用ファイルについては、オプションを選択してファイルをブラウザ・ウィンドウで開くことができます。
- ▶ デフォルト・フォーマットを使用してファイルを開きます。
 - 1 エクスプローラからファイルまたはフォルダをダブルクリックします。
 - 2 開いたアイテムとやりとりするには、152 ページの「さまざまなファイル・タイプの使用方法」を参照してください。
- ▶ ファイルまたはフォルダを開くか選択します。
 - 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
 - 2 ファイルまたはフォルダへナビゲートして次を行います。
 - 「名前」列から、ファイルまたはフォルダをダブルクリックして開きます。
 - 「検索」からフォルダを選択します。

- アイテムのリストをフィルタするには、「タイプ」リスト・ボックスから矢印をクリックしてファイル・タイプを選択します。

ヒント：「1つレベルを上げる」をクリックして「検索」テキスト・ボックスで指定されているフォルダ階層を1つ上に移動します。

3 開くをクリックします。

4 **オプション:** 別のアプリケーションでファイルを開くには、次の手順に従います。

- 「オプション」をクリックします。
- 「開く形式」から、ファイルを開くアプリケーションを選択します。

注： ローカル・システムのすべてのファイル・タイプは、どのアプリケーションがそのタイプのファイルを起動するか、およびどこにそのアプリケーションがあるかに関する情報を保持します。107 ページの「ファイル・タイプの登録」を参照してください。

5 **オプション:** アイテムのバージョンを開くには、「バージョン・リスト」からバージョンを選択し、「開く」をクリックします。

6 開いたアイテムを表示してやりとりするには、152 ページの「さまざまなファイル・タイプの使用方法」を参照してください。

ファイルの保存

ファイルを保存してそれらを置き換えるか新しいファイル名を使用してファイルを保存します。これによりファイルのコピーが作られます。次のファイルを EPM Workspace に保存できます。

- Interactive Reporting ドキュメント
- Web Analysis ドキュメント
- スナップショット・ブック
- ブック
- バッチ
- Workspace ページ

▶ 保存するには、

- 1 ファイルを開きます。
- 2 「ファイル」を選択し、「保存」を選択します。
- 3 ファイルを新しい名前で保存するには、「ファイル」を選択し、次に「名前を付けて保存」を選択して名前と場所を指定します。

フォルダの作成

フォルダを作成してファイルとドキュメントを整理します。

- ▶ フォルダを作成するには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラから「ファイル」を選択し、次に「新規」、そして「フォルダ」を選択します。
- 2 フォルダの名前を入力して「保存」を選択します。

注： ファイルやフォルダなどリポジトリ内のアイテムの名前を入力するとき、大文字/小文字および数字を使用できます。フォルダ名の先頭および最後にスペースは使用できません。文字¥、/、%、?、+、<、>、|、\、*、"は名前に使用できません。文字¥、%、?、+、<、>、|、\、*、"はパスに使用できません。


ドキュメントまたはコレクションの作成

次のドキュメントまたはコレクションを作成できます。

- Interactive Reporting、220 ページの「ツールバーの使用方法」を参照してください。
- Web Analysis、358 ページの「Web Analysis ドキュメントの作成」を参照してください。
- ブックまたはスナップショット・ブック、199 ページの「ブックの作成」を参照してください。
- バッチ、214 ページの「バッチの設計」を参照してください。
- ジョブ、133 ページの「ジョブとしてのファイルのインポート」を参照してください。

ファイルまたはフォルダの移動またはコピー

ファイルまたはフォルダを別の場所へ移動またはコピーできます。コピーには次が適用されます。

- EPM Workspace リポジトリ内のすべてのドキュメントのコピーは、Production Reporting ジョブ出力ファイルを除いてサポートされています。ユーザーは、少なくともビュー・アクセス権が必要です
 - リポジトリ・オブジェクトをコピーするユーザーが所有者になります
 - 複数ドキュメントをコピーおよび貼付けに選択できます
 - ジョブ・パラメータおよびスケジュールを除いてドキュメントに関連するすべてのメタデータがコピーされます
 - アクセスなし権限を持つフォルダ内のオブジェクトを除いてフォルダとその内容をコピーできます
 - 非表示ファイルは、ユーザーがビュー・アクセスを持つ場合コピーされます
 - ネストされたフォルダのコピーは許可されていません
- ▶ ファイルまたはフォルダを移動またはコピーするには、以下の手順を行います。
- 1  Explore を選択し、移動またはコピーするファイルまたはフォルダを選択します。

- 2 「編集」、次に「切取り」またはコピー。
- 3 アイテムのコピーまたは移動先のフォルダをクリックします。
- 4 「編集」、次に「貼付け」。

ヒント： 連続したファイルまたはフォルダをコピーまたは移動するには、最初のアイテムを選択し、[Shift]キーを押したまま最後のアイテムを選択します。連続していないファイルまたはフォルダを選択するには、[Ctrl]キーを押したまま各アイテムを選択します。

ファイルまたはフォルダ名の変更

プロパティを変更してファイルまたはフォルダ名を変更します。

- ▶ ファイルまたはフォルダ名を変更します。

- 1 エクスプローラを選択します。
- 2 「編集」、次に「名前変更」。

注： ファイルやフォルダなどリポジトリ内のアイテムの名前を入力するとき、大文字/小文字および数字を使用できます。フォルダ名の先頭および最後にスペースは使用できません。文字¥、/、%、?、+、<、>、|、\、*、"は名前に使用できません。文字¥、%、?、+、<、>、|、\、*、"はパスに使用できません。

- 3 OK をクリックします。

ファイルまたはフォルダの削除

- ▶ ファイルまたはフォルダを削除します。

- 1 「ナビゲート」を選択し、次に「エクスプローラ」を選択します。
- 2 「編集」を選択し、次に「削除」を選択します。

注意 削除したファイルは復元できません。

ファイルまたはフォルダの検索

検索サービスでは、ユーザーは EPM Workspace 内の任意のリポジトリからドキュメント、レポート、およびダッシュボードを検索および取得できます。検索操作は、ドキュメント固有メタデータ内のユーザー・キーワードの検索、たとえば、ドキュメント名、作成日、または所有者(Financial Reporting Word または PDF ドキュメントのみ)、およびドキュメントからのコンテンツ・ベース情報の抽出をもとにした結果のリストを戻します。詳細は、[第4章「検索サービスの使用方法」](#)を参照してください。

Web Analysis Studio へのリンク

EPM Workspace から Web Analysis Studio を開くことができます。Web Analysis Studio では、ドキュメントおよびプレゼンテーションをアクセスおよび作成できます。

- ▶ ツールを選択し、次にリンクを選択して Web Analysis Studio にリンクします。

アイテムへの電子メール・リンクの作成

リポジトリのアイテムへの電子メール・リンク。電子メール・リンク・ルール:

- 受信者は、リンクされているアイテムをウェブ・ブラウザで開く EPM Workspace ユーザー名およびパスワードを持つユーザーとして定義する必要があります。
- 受信者は、アイテムを表示するには適切なアクセス権が必要です。
- リンク内のアイテムはウェブ・ブラウザで表示できます。アイテムではなくアイテムへのリンクが設定されます。リンクをクリックすると EPM Workspace が開きアイテムが表示されます。
- フォルダへ電子メール・リンクを送ることはできません。
- 電子メール・リンクを1つずつ選択して送信する必要があります。
- 電子メール・メッセージにテキストを追加できます。

- ▶ 電子メール・リンクを作成します。

- 1 リポジトリから電子メールで送るアイテムを選択します。

ヒント: アイテムの電子メール・リンク・オプションが表示されない場合、そのアイテムは電子メール・リンクとして送信できません。

- 2 「ファイル」、次に「電子メール・リンク」。URL リンクを含む電子メール・リンクダイアログ・ボックスが表示されます。

注: デフォルトの電子メール・アドレスが指定されていない場合、管理者に Shared Services で表示される電子メール・アドレスの更新を依頼するようプロンプトされます。電子メール・リンクの送信者としてユーザーの電子メール・アドレスが使われます。

- 3 次のいずれかの作業を行います。

- 受信者の電子メール・アドレスを入力します。
- 受信者リストを使用します。[電子メール受信者リストの使用方法](#)を参照してください。



- 4 オプション:電子メール・メッセージに関連する件名テキストを更新します。

- 5 送信をクリックします。

注: メッセージを送信したあとそれを取消すことはできません。

電子メール受信者リストの使用方法

電子メール受信者リストを使用して電子メール・リンクを送る受信者のリストを整理します。このリストにアドレスを入力することにより、電子メール・アドレスを再入力する必要がなくなります。電子メール・リンクと電子メール・バッチ通知の2つの電子メール受信者リストが維持されます。

- ▶ 電子メール受信者リストを使用します。
 - 1 「ファイル」を選択し、次に「電子メール・リンク」を選択します。
 - 2 選択をクリックして電子メール・リンクを表示し、受信者を選択します。
 - 3 オプション: 受信者を追加するには、「新規受信者」に電子メール・アドレスを入力して  をクリックします。
 - 4 オプション: 選択済受信者リストから電子メールを除去するには、電子メールを選択して  をクリックします。

不明確なアイテムの使用方法

異なるアイテムが同じ名前を持ち同じフォルダに存在することが可能です。これらは、不明確なアイテムです。不明確なアイテムにアクセスすると、同じ名前を持つアイテムのリストが表示されます。使用するアイテムを選択します。これは、次のことを行うと起きる可能性があります。

- 不明確なアイテムへの電子メール・リンクを作成する。
 - 不明確なアイテムへリンクする関連コンテンツ・リンクを選択するようプロンプトされる。
- ▶ 不明確なアイテムを選択します。
 - 1 リストから必要なアイテムを選択します。
 - 2 アイテム間の違いを調べるには、以下を行います。
 - アイテム・プロパティを表示するには、アイテムを右クリックして「プロパティ」を選択します。
 - アイテムを開いて表示するには、[102 ページの「ファイルまたはフォルダを開くまたは選択」](#)を参照してください。

ファイル・タイプの登録

サーバーは、リポジトリ・アイテムとその種のファイルを開くために起動するアプリケーションおよびその場所に関する情報を管理しています。

管理者はファイル・タイプを作成(技術的には新規 MIME タイプ)するかファイル・タイプのファイル拡張子を追加します。管理者から新しいファイル・タイプを通知されることがあります。あるいは、ファイルを参照したり開こうとしたとき発見することがあります。ブラウザが開けないファイル・タイプがある場合、それを開くプログラムを指定するようプロンプトされます。このプロンプトを避ける

には、そのタイプをブラウザまたはオペレーティング・システムに登録する必要があります。

新規ファイル拡張子または MIME タイプを登録する手順は、オペレーティング・システム、そのバージョン、ブラウザ、およびブラウザのバージョンごとに異なります。ブラウザまたはオペレーティング・システムのドキュメンテーションまたはオンライン・ヘルプを参照するかシステム管理者に相談してください。

アイテムのエクスポート

エクスプローラからは、Financial Reporting アイテムのみエクスポート・オプションがあります。アイテムを次の用途にエクスポートします。

- EPM Workspace 外の場所。後にアイテムを Studio にインポートするか EPM Workspace にインポートして戻すことができます。Financial Reporting アイテムはテスト環境から生産環境へエクスポートできます。
- Smart View での使用については、108 ページの「Smart View for Office へのエクスポート」を参照してください。

▶ アイテムをエクスポートします。

- 1 「ナビゲート」をクリックし、次に「エクスプローラ」をクリックします。
- 2 「ファイル」、次に「エクスポート」。
- 3 アイテムへ移動するには、次を行います。
 - 「検索:」リスト・ボックスからフォルダを選択します。
 - リストをフィルタするには、「タイプ」リストからファイル・タイプを選択します。
- 4 アイテムを選択して「OK」をクリックします。
- 5 「保存」をクリックします。
- 6 エクスポートしたファイルを保存する場所に移動します。
- 7 「保存」をクリックします。

Smart View for Office へのエクスポート

このセクションは、Smart View の機能、概念、および手順を説明します。Smart View は、次の EPM Workspace コンポーネントに対する共通の Microsoft Office インタフェースを提供します。

- Financial Reporting、111 ページの「Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエクスポート」を参照してください。
- Production Reporting、113 ページの「Microsoft Excel への Production Reporting コンテンツのエクスポート」を参照してください。
- Web Analysis、112 ページの「Microsoft Office への Web Analysis ドキュメントのエクスポート」を参照してください。

- Interactive Reporting、Interactive Reporting では Smart View エクスポート・オプションは使用できません

Essbase、Financial Management、および Planning の共通 Microsoft Office インタフェースも提供します。

集中インタフェースは、複数 Hyperion 製品の同時使用を可能にし、Microsoft Office (2000、2002、および 2003)との統合を改善します。Smart View インプリメンテーションは次の EPM Workspace 機能を提供します。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを Excel、Word または PowerPoint にエクスポートする。
- Financial Management および Essbase の機能を Excel、Word および PowerPoint コンテンツで公開する。
- Smart View の新しいバージョンにアップグレードできる場合に通知する

Hyperion Reporting and Analysis Smart View エクスポート・オプションについて

Smart View では次のエクスポート・オプションを使用できます。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページをイメージとして Word、PowerPoint、または Excel へエクスポートできます。挿入後、対応するウェブ・アプリケーションを再クエリーしてイメージをリフレッシュできます。

ドキュメントをクエリー準備 HTML またはフォーマット済 HTML として Microsoft Excel へエクスポートできます。

- コンテンツをクエリー準備 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページが HTML に変換され Hyperion 固有フォーマットが除去されます。これにより、Smart View はウェブ・アプリケーションに依存せずにデータ・ソースを再クエリーできます。
- コンテンツをフォーマット済 HTML としてエクスポートすると、現在のデータ・オブジェクトの現在のページは Hyperion フォーマット定義および計算済メンバーを持つ HTML フォーマットに変換されます。この固有のフォーマット・コンテンツは Smart View が直接データ・ソースをクエリーするのを防ぎますが、Office アプリケーションで Hyperion コンテンツを活用できます。

すべてのデータ・ソースおよびウェブ・アプリケーションですべてのエクスポート・オプションをサポートしているわけではありません。次のテーブルは Smart View のエクスポート・オプションを示します。

表 29 Smart View エクスポート・オプション

ウェブ・アプリケーション	Microsoft Word と PowerPoint へのイメージのエクスポート	フォーマット済 HTML を Excel へエクスポート	クエリー準備 HTML を Excel へエクスポート
Analytic Services	はい	はい	はい
Financial Management	はい	はい	はい

ウェブ・アプリケーション	Microsoft Word と PowerPoint へのイメージのエクスポート	フォーマット済 HTML を Excel へエクスポート	クエリー準備 HTML を Excel へエクスポート
Planning	はい	はい	Yes *
Financial Reporting	はい	はい	はい
Interactive Reporting	該当なし	該当なし	該当なし
Production Reporting	該当なし	はい	該当なし
Web Analysis	はい	はい	はい

注： Hyperion Planning データ・ソースをクエリー準備フォーマットでエクスポートするには、Hyperion Analytic サービス・プロバイダを使用する必要があります。

注： このリリースでは、Production Reporting からチャートのエクスポートはサポートしていません。

Excel ワークシートでは読み取り専用セルにデータを入力できないため、AutoSum や F9 などの Excel 関数やフォーマット関数は Smart View では使用できません。また、Hyperion Reporting and Analysis クライアントを実行しているコンピュータに Microsoft Excel、Word、および PowerPoint をインストールしておく必要があります。

Reporting and Analysis コンテンツのインポート

Smart View を使用して EPM Workspace から Financial Reporting をインポートできます。スマート・タグを使用して Reporting and Analysis コンテンツをインポートできます。コンテンツのインポートとスマート・タグの使用の詳細は、Hyperion System 9 Smart View for Office ユーザー・ガイドを参照してください。

EPM Workspace からの Smart View のインストール

Smart View は Hyperion Reporting and Analysis とともにインストールされますが、Smart View を使用するには、クライアント・コンポーネントを個別にインストールする必要があります。この Office クライアント・コンポーネントは、Microsoft Office スイート内に Hyperion メニューおよびツールバーとして表示されます。

注： Smart View をインストールする前に、Interactive Reporting Web Client および Microsoft Office アプリケーションを終了し、ポップアップを使用可能にします。

- ▶ EPM Workspace から Smart View クライアントをインストールするには、次の手順に従います。

1 「ツール」を選択して「インストール」を選択し、「Smart View」を選択します。

Hyperion Smart View インストール・ウィザードが起動します。

2 デフォルト・インストール・オプションを使用します。

デフォルトでは、Smart View プログラム・ファイルは C:\¥Hyperion¥SmartView にインストールされます。別のインストール・ディレクトリを指定することもできます。

3 Microsoft Office アプリケーションをもう一度開きます。

注： Word に Hyperion メニューが表示されない場合は、Excel でデータ・ソース接続を作成してから Word を再起動します。

Microsoft Office への Financial Reporting レポートとスナップショットのエクスポート

注： 複数のページを PowerPoint にエクスポートすると、すべてのページが 1 つのスライドに配置されます。これらのページが自動的に別々のスライドに配置されるようにするには、PowerPoint で Smart View を使用してレポートをインポートします。

注： Financial Reporting レポートとスナップショットを Microsoft Word または PowerPoint にイメージとしてエクスポートするには、Financial Reporting 印刷サーバーに GNU または AFPL Ghostscript をインストールし、構成する必要があります。

- ▶ レポートまたはスナップショットを Microsoft Excel、Word または PowerPoint にエクスポートするには、次の手順に従います。

1 レポートを開き、「ファイル」の「エクスポート」を選択します。

2 次のいずれかのサブメニュー・コマンドを選択します。

- 現在の財務レポートの現在のページをクエリー対応の HTML としてエクスポートするには、「Excel」を選択し、「クエリー対応グリッドとテキスト」を選択します。このオプションを使用してスナップショットをエクスポートすることはできません。

注： html でのオブジェクトの配置には制限があるため、エクスポートされたオブジェクトが重なる場合があります。その場合は、Microsoft Excel で位置を調整する必要があります。

- 現在の財務レポートをフォーマットされた HTML としてエクスポートするには、「Excel」を選択し、「フォーマット済グリッドとテキスト」を選択します。

- 現在の財務レポートの現在のページを静的イメージとして Microsoft Word にエクスポートするには、「Word」を選択します。
- 現在の財務レポートの現在のページを静的イメージとして Microsoft PowerPoint にエクスポートするには、「PowerPoint」を選択します。

スナップショットは常に静的イメージとしてエクスポートされます。

「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスに、エクスポートされたコンテンツに関するプロファイル情報が表示されます。

3 次のいずれかのオプションを選択します。

- エクスポートされたコンテンツを指定したアプリケーションで表示するには、「開く」を選択します。
- コンテンツを保存するには「保存」を選択します。

注： Financial Reporting グリッド・オブジェクトを Excel にエクスポートすると、値がエクスポートされてレポートに表示されます。正確な値を表示するには、エクスポート前にレポートで小数点以下の桁数を設定する必要があります。

Microsoft Office への Web Analysis ドキュメントのエクスポート

➤ 現在の Web Analysis ドキュメントの現在のデータ・オブジェクトを含むページを Microsoft Excel、Word または PowerPoint にエクスポートするには、次の手順に従います。

1 データ・オブジェクトを右クリックし、エクスポートを選択します。

2 次のいずれかのサブメニュー・コマンドを選択します。

- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページをクエリー対応の HTML としてエクスポートするには、「Excel」を選択し、「クエリー対応グリッドとテキスト」を選択します。
- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページをフォーマットされた HTML としてエクスポートするには、「Excel」を選択し、「フォーマット済グリッドとテキスト」を選択します。
- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを静的イメージとして Microsoft Word にエクスポートするには、「Word」を選択します。
- 現在のデータ・オブジェクトの現在のページを静的イメージとして Microsoft PowerPoint にエクスポートするには、「PowerPoint」を選択します。

イメージは静止イメージですが、必要に応じて Web アプリケーションを再度クエリーできます。

データが Microsoft Office にエクスポートされ、ワークシートに表示されます。

注： Microsoft Excel への SQL スプレッドシートのエクスポートはサポートされていません。

Microsoft Excel への Production Reporting コンテンツのエクスポート

- ▶ コンテンツを完全にフォーマットされた HTML として Microsoft Excel にエクスポートするには、次の手順に従います。
 - 1 ナビゲートを選択し、エクスプローラを選択します。次に、ファイルのインポートを選択し、ファイル(ジョブとして)を選択します。
 - 2 参照をクリックし、SQR ジョブを選択します。
 - 3 ウィザードの各ページに表示される指示に従います。最後のページが表示されたら、出力オプションとして Excel(.xls)を選択します。
 - 4 目次で Excel 出力を探します。

Financial Reporting の関連コンテンツ・サーバーの変更

EPM Workspace リポジトリ内の選択したレポートとグリッドまたはその両方のサーバーを変更するには、新規 URL または代替変数を指定します。たとえば、開発用サーバーにあるレポートとグリッドを本番用サーバーに移動するとき、関連コンテンツ・サーバーを変更します。

- ▶ EPM Workspace リポジトリ内の関連コンテンツ・サーバーを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、ツールの関連コンテンツ・リンクの変更を選択します。
 - 2 選択でファイルを選択し、OK をクリックします。
 - 3 変更前の関連コンテンツ・サーバー名で、URL を選択したドキュメントに関連付けられている URL に変更します(その URL が表示されていない場合)。
 - 4 変更後の関連コンテンツ・サーバー名で次のいずれかのオプションを選択します。
 - URL を使用してサーバーを指定する場合は、「URL」を選択し、テキスト・ボックスにパスとサーバー名を入力します。URL は、http://または https://で始める必要があります。
 - 代替変数を使用してサーバーを指定する場合は、「代替変数」を選択し、ドロップダウン・リストから変数を選択します。

注： fr_configcache.properties ファイルで代替変数を設定する方法の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

 - 5 OK をクリックします。見つかった数と置換された数が表示されます。
 - 6 OK をクリックします。

Financial Reporting データベース接続の変更

EPM Workspace リポジトリのレポートとブックのデータベース接続を変更できます。開発環境サーバーから本番環境サーバーに移行するときにデータベース接続を変更します。

変更したデータベース接続の次元が変更前のデータベース接続の次元と異なる場合は、次のようなエラー・メッセージが表示されます。

1012: レポートに無効なグリッドが含まれています。次の次元が見つかりませんでした:
Measures

次元が一致しないレポートを開いて保存すると、次の処理が行われます。

- 古いデータベース接続にあって新規データベース接続にない次元は除去されます。行または列(あるいはその両方)内の次元とそのメンバーはグリッドから除去されます。除去の結果、行または列に次元がなくなった場合、レポートを実行するには、消去された行または列に有効な次元を追加する必要があります。
- 新規データベース接続にあって古いデータベース接続にない次元は POV に追加されます。

レポートの行と列の両方に少なくとも 1 つの次元がある場合は、レポートを実行したり、エラー・メッセージが表示されたときに開いたりできます。レポートをリポジトリからエクスポートすることもできます。

次元が一致しないときに自動的に変更を行わない場合は、レポートを閉じて元のデータベース接続に切り替えることができます。

レポートまたはブックのデータベース接続を変更するときに、データベースに同じ次元があるかどうかを検証することもできます。このオプションがレポートに対して選択されている状態で次元が一致しない場合は、アクションが失敗したことを示すメッセージが表示されます。同様に、ブック内の特定のレポートについて次元が一致しない場合は、ブック全体のアクションが失敗したことを示すメッセージが表示されます。検証を行わない場合は、レポートとブックのデータベース接続が変更され、次元が一致しない場合でもメッセージは表示されません。ただし、レポートまたはブックを開くか実行するとエラーが発生することがあります。

▶ リポジトリ内のデータ・ソースを変更するには、次の手順に従います。

- 1 EPM Workspace で、「**エクスプローラ**」を選択して「**選択**」ダイアログ・ボックスを表示します。次に、「**ツール**」を選択し、「**データベース接続の変更**」を選択します。
- 2 タイプフィールドで変更するレポート・タイプを選択し、OK をクリックします。データベース接続の変更が表示されます。
- 3 アイテムを選択し、「**OK**」をクリックします。
- 4 データベース接続の検索で、変更するデータベース接続を選択します。
- 5 置換後でデータベース接続を選択します。

注: 新規データベース接続を作成するには、「**新規データベース接続**」をクリックします。詳細は、[117 ページの「データベース接続の追加](#)」を参照してください。

6 選択したすべてのアイテムを変更します。

7 OK をクリックします。

Analytic Services と Planning Details の変更

レポートのデータベース接続を Analytic Services から Planning Details へ、またはその逆に変更する場合は、いくつかの制限があります。データ・ソースの参照のみが変更され、変換は行われません。

Analytic Services から Planning Details への変更

レポートのデータベース接続を Analytic Services から Planning Details に変更する場合は、次の事項を考慮する必要があります。

- レポートとブックで定義されている次元と関数を変更先のデータ・ソースに存在する必要があります。次の制限事項が適用されます。
 - 属性次元は、Essbase の場合にのみサポートされます。
 - Hsp_Rates は次元として使用可能ではありません。
 - リンク・レポート・オブジェクト(LRO)がサポートされていないため、セル・テキスト機能は使用できません。
 - レベル 0 を使用したメンバー選択のみがサポートされます。
- レポートを開く前に、次元が存在することを確認します。グリッドに定義されている次元を Planning Details のデータ・ソースで使用可能でない場合は、変更が行われません。無効な関数が使用されている場合はエラーが戻されます。レポート・デザイナーは、無効な関数または次元を除去する必要があります。

Planning Details から Analytic Services への変更

Analytic Services レポートには無関係の機能が Planning Details レポートに定義されている場合があります。たとえば、Planning の注釈、サポート詳細、順序などです。サポート詳細がレポートに定義されている場合、その説明は無視されます。Planning の注釈または順序が使用されている場合はエラーが戻されます。レポートを実行するには、レポート・デザイナーが Planning の注釈機能と順序を除去する必要があります。

Financial Reporting のデータベース接続の管理

データベース接続マネージャを使用すると、レポート、ブック、保存済レポート・オブジェクト(行/列のテンプレート、グリッド)、バッチおよびスケジュール済バッチを管理できます。レポートとレポート・オブジェクトを開発環境から本番環境に移動したり、本番用サーバーの間で移動したりできます。データベース接続マネージャは、各データベース接続に関する次の情報を提供します。

- 名前 - データベース接続名

- タイプ - データ・ソースのタイプ (Analytic Services、Financial Management、Planning、SAP BW)
- 値 - 接続パス

デザイナーは、EPM Workspace を使用してデータベース接続の作成、管理および名前の割当てを行うことができます。

ユーザーは、Reporting Studio でレポートにグリッドを追加するときなどに、要求されたら既存のデータベース接続を選択できます。データベース接続は、データベース名、ID、パスワードおよびデータ・ソースによって異なるいくつかの値で構成されます。

表 30 各データベースの有効なデータベース値

データベース	値
Essbase	サーバー アプリケーション データベース データソースのタイプ
Financial Management	サーバー アプリケーション データソースのタイプ
Planning	アプリケーション データベース接続 データソースのタイプ
SAP BW	サーバー システム番号 クライアント アプリケーション データベース データソースのタイプ
SSAS	サーバー アプリケーション データベース データソースのタイプ


関連コンテンツ:

データベース接続の管理の詳細は、次の各トピックを参照してください。

- [117 ページの「データベース接続の追加」](#)
- [118 ページの「データベース接続の編集」](#)
- [118 ページの「データベース接続の削除」](#)

データベース接続の追加

データベース接続を作成すると、データベース接続は「データベース・マネージャ」ダイアログ・ボックスのリストに追加されます。

- ▶ データベース接続を追加するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」を選択します。次に、「ツール」を選択し、「データベース接続マネージャ」を選択します。
 - 2 新規をクリックします。
 - 3 データベース接続のプロパティでデータベース接続名を入力します。
 - 4 データソースのタイプを選択します。
 - 5 残りの値は、選択したデータ・ソースによって異なります。表 30 を参照して各データ・ソースで表示される値を確認してください。
 - 6 アプリケーション名とデータベース名を追加するには、 をクリックして選択します。
- 注：** アプリケーション参照ボタンを使用すると、アプリケーションおよび対応するデータベースのツリー・ビューが表示されます。アプリケーションは親、データベースは子として表示されます。アプリケーションまたはデータベースを検索できます。データ・ソースがデータベースに関連付けられていない場合は、アプリケーションのみ表示されます。
- 7 OK をクリックします。
 - 8 データベース接続のプロファイルがデータベース接続マネージャダイアログ・ボックスのリストに追加されます。

アプリケーション名とデータベース名の選択

「アプリケーションの選択」ダイアログ・ボックスには、アプリケーションおよび対応するデータベースのツリー・ビューが表示されます。アプリケーションは親、データベースは子として表示されます。アプリケーションまたはデータベースを検索できます。

- ▶ アプリケーション名とデータベース名を選択するには、次の手順に従います。
 - 1 リストをスクロールして選択対象を特定するか、アプリケーション名またはデータベース名を「アプリケーション/データベース」フィールドに入力します。
- 注：** データ・ソースがデータベースに関連付けられていない場合は、アプリケーションのみ表示されます。
- 2 データベースに関連付けられているデータ・ソースについては、データベースを選択して「OK」をクリックします。データベースに関連付けられていないデータ・ソースについては、アプリケーションを選択して「OK」をクリックします。

データベース接続の編集

データベース接続は必要なときに編集できます。

- ▶ データベース接続を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace で、「ツール」を選択し、「データベース接続マネージャ」を選択します。
 - 2 データベース接続マネージャで、編集するデータベース接続を選択し、編集をクリックします。
 - 3 変更を行い、OK をクリックします。

データベース接続の削除

データベース接続は必要なときに削除できます。

- ▶ データベース接続を削除するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace で、「エクスプローラ」を選択します。次に、「ツール」を選択し、「データベース接続マネージャ」を選択します。
 - 2 「データベース接続マネージャ」で、除去するデータベース接続を選択し、削除をクリックします。
 - 3 情報メッセージが表示されます。はいを選択して削除します。
 - 4 データベース接続がデータベース接続マネージャから除去されます。

Financial Reporting のキー数値マネージャの使用方 法

キー数値マネージャは、SAP BW データ・ソースに対してのみ使用します。キー数値は、どの SAP BW キューブにも含まれている次元です。Financial Reporting では、2つの追加タイプのキー数値(計算済と制限付き)を作成できます。キー数値マネージャを使用して、計算済キー数値と制限付きキー数値を作成できます。キー数値マネージャで作成された計算済キー数値と制限付きキー数値は、Reporting Studio の「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスに表示される SAP BW キー数値次元の追加メンバーになります。計算済キー数値は"計算済キー数値"フォルダに格納され、制限付きキー数値は"制限付きキー数値"フォルダに表示されます。レポート・デザイナーは、それらのキー数値を SAP BW で定義されたキー数値メンバーのかわりに使用するか、それらのメンバーに追加して使用して、レポート内のより限定的な値を戻すことができます。

- 計算済 - 式を使用して、Financial Reporting で使用するキー数値を再計算できます。計算済キー数値は、基本的なキー数値を含む式の定義で構成されています。キー数値マネージャに表示されたキー数値または関数に基づいて計算済キー数値を作成できます。
- 制限付き - 制限付きキー数値はキューブのキー数値で、1つ以上の次元メンバーの選択によってフィルタされます。詳細レポートを定義するために必要

になります。制限付きキー数値を使用することで、特定の値に重点を置いたクエリー結果を得ることができます。

新規計算済キー数値と制限付きキー数値は、キー数値マネージャに格納され、「メンバー選択」で使用可能です。Reporting Studio で計算済キー数値と制限付きキー数値を使用できるようになりました。

▶ 新規計算済キー数値を定義するには、次の手順に従います。

- 1 「ツール」を選択し、「キー数値の管理」を選択して、キー数値マネージャに移動します。
- 2 キー数値マネージャで SAP BW データ・ソースを選択し、「新規計算済」をクリックします。

注： データベース接続の入力を求めるメッセージが表示される場合があります。

- 3 「計算済キー数値」に、作成する計算済キー数値の名前を入力します。
- 4 「関数を追加」コンテナで「キー数値」または関数(あるいはその両方)を選択し、「追加」をクリックします。

注： 関数を選択した場合は、キー数値以外の次元に基づいて計算を行います。表示される「式」ダイアログ・ボックスで、「次元」フィールドと「メンバー」フィールドを選択します。


- 5 「メンバー選択」で式のメンバーを選択し、「OK」をクリックします。メンバーが「計算済キー数値」ダイアログ・ボックスの「式」テキスト・ボックスに入力されます。
- 6 「計算済キー数値」で、「リテラル文字の追加」キーパッドを使用して式の変数と値を定義します。
- 7 「OK」をクリックして式を受け入れます。計算済キー数値の情報がキー数値マネージャに格納され、Reporting Studio の SAP BW データ・ソースの「メンバーの選択」に追加されます。


注： 無効な式を指定すると、エラー・メッセージが表示されます。

▶ 新規制限付きキー数値を定義するには、次の手順に従います。

- 1 「ツール」を選択し、「キー数値の管理」を選択して、キー数値マネージャに移動します。
- 2 キー数値マネージャで SAP BW データ・ソースを選択し、「新規制限付き」をクリックします。

注： データベース接続の入力を求めるメッセージが表示される場合があります。

- 3 「制限付きキー数値」に、作成する制限付きキー数値の名前を入力します。
- 4 「次元」コンテナで「キー数値」を選択し、 をクリックしてキー数値メンバーを選択します。

- 5 **オプション:** 「次元」コンテナで次元を選択し、 をクリックしてメンバーを表示するメンバーを選択します。別の次元メンバーを選択するには、この手順を繰り返します。
 - 6 「OK」 をクリックして制限付きキー数値の情報を受け入れます。制限付きキー数値の情報が**キー数値マネージャ**に格納され、Reporting Studio の SAP BW データ・ソースの「メンバーの選択」に追加されます。
- ▶ 計算済キー数値または制限付きキー数値を編集するには、「**編集**」をクリックします。

注: キー数値名は編集できません。

- ▶ 計算済キー数値または制限付きキー数値を削除するには、「**削除**」をクリックします。

4

検索サービスの使用方法

この章の内容

はじめに.....	121
キーワードのインデックス作成.....	122
検索サービスの使用方法.....	122
詳細検索の使用方法.....	123
検索構文.....	124
サポートされている MIME タイプ.....	126
セキュリティ.....	127

はじめに

検索サービスを使用すると、ユーザーは EPM Workspace のリポジトリからドキュメント、レポートおよびダッシュボードを検索して取得できます。検索操作では、ドキュメント名、作成日や作成者(Financial Reporting の Word または PDF ドキュメントのみ)などのドキュメント固有のメタデータからユーザーのキーワードを検索し、コンテンツベースの情報をドキュメントから抽出して結果のリストを戻します。

次の検索を実行できます。

- **標準検索** - EPM Workspace で発行されたすべてのサポートされているコンテンツからキーワードを検索します。
- **コンテキスト依存検索** - EPM Workspace で発行されたすべてのサポートされているコンテンツから、コンテンツの特定の側面に関連付けられたキーワードを検索します。
- **階層内検索** - 標準検索またはコンテキスト依存検索を、EPM Workspace の選択した分岐または選択したリポジトリ(スコアカードなど)に限定した検索
- **データまたはメタデータ検索** - コンテンツが静的な場合、メタデータとデータの両方にインデックスが付けられます(たとえば、フィルタのフィルタ名と選択値)。コンテンツが動的な場合は、メタデータにのみインデックスが付けられます(たとえば、列名のみ)。

検索要求を開始すると、要求に入力された用語がインデックスから検索されます。結果は、ドキュメント参照と概要を関連性の高い準に並べたリストとして別のページに戻されます。

検索結果は次のように処理されます。

- コンテンツ・タイプ、変更日および EPM Workspace 内のファイルの場所に基づいて分類されます。
- 関連性または変更日を基準にしてソートされます。
- 権限が与えられます。ユーザーのログイン情報により、ユーザー権限のあるコンテンツのみが戻されます。

検索サービスは外部アプリケーションやサービスと統合することもできます。Oracle Secure Enterprise Search と Google OneBox にはコネクタが使用可能です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』に記載されている、「検索サービスと外部アプリケーションの統合」を参照してください。

キーワードのインデックス作成

検索サービスは、ドキュメントが変更されるたびに更新されるキーワードのインデックスに基づいています。ドキュメント・タイプごとに異なるキーワード抽出メソッドが必要です。専用パーサーによって、ドキュメント・タイプごとに共通フォーマットのキーワード情報が生成されます。EPM Workspace でドキュメントが発行または更新されるたびに、適切なパーサーがアクティブになり、キーワードのインデックスが作成または再作成されます。専用パーサーはドキュメント・コンテンツを把握し、インデックス作成機能に標準フォーマットのキーワードを戻します。インデックス作成機能により、キーワード・インデックスが作成され、迅速な検索操作が可能になります。

パーサーは次のコンテンツに使用可能です。

- Interactive Reporting ファイル(.bqy、.oce ファイル)
- Production Reporting(SQR プログラム、レポート)ファイル
- Web Analysis ファイル(.apt、.ard、データベース接続ファイル)
- Financial Reporting ファイル(.des ファイル)
- Oracle Hyperion(R) Annotations - データベース・コンテンツ
- Oracle Hyperion(R)インパクト・マネージャ・サービス変換スクリプト(.js ファイル)
- HTML、PDF、RTF および TXT ファイル
- Microsoft Office ドキュメント(.doc、.xls および.ppt ファイル)

検索サービスの使用方法

検索は、EPM Workspace のすべての画面の右上にあるテキスト・ボックスにキーワードを入力し、[Enter]キーを押すか検索ボタンをクリックして開始できます。

▶ 検索サービスを使用するには、次の手順に従います。

1 「検索」テキスト・ボックスにキーワードを入力します。

テキストのスペルチェックを実行して別のキーワードを提案する修正候補機能が使用可能です。

検索結果は別のページに表示され、次の情報が含まれます。

- ファイル名(クリックするとドキュメントが表示されます)
- 説明
- ドキュメントのタイプ
- 最終変更日
- ファイル・パス(ダブルクリックするとフォルダが開きます)

Planning の結果を選択すると、Planning タブが開き、サポート詳細が表示されます。

2 オプション: 検索結果をスコアまたは最終変更日によってソートします。

デフォルトでは、検索結果はスコアを基準にしてソートされます。ドキュメントのスコアまたは関連性は、キーワードがドキュメントに出現する回数とドキュメント内の他のキーワードの数で決まります。たとえば、キーワードが 3 回出現するが単語が 5 個のみのドキュメントは、キーワードが 10 回出現し、他のキーワードを 1000 個含むドキュメントよりもスコアが高くなります。

3 オプション: 検索結果をドキュメント・タイプ、変更日または発行場所によってフィルタします。

詳細検索の使用方法

検索サービスには、詳細検索機能が用意されています。この機能を使用すると、詳細な検索クエリを簡単に作成できます。

▶ 詳細検索を使用するには、次の手順に従います。

- 1 「検索結果」ページの「詳細検索」リンクをクリックするか、「ツール」を選択して「詳細検索」を選択します。
- 2 検索条件を入力するか選択し、「検索」をクリックします。

詳細検索には次のオプションがあります。

- **すべての語句** - 入力したすべてのキーワードを含むドキュメントを検索します。
- **1 語以上** - 入力した 1 つ以上のキーワードを含むドキュメントを検索します。
- **語句なし** - 入力したキーワードを 1 つも含まないドキュメントを検索します。
- **記述形式(言語)** - 結果を特定の言語で記述されたドキュメントに制限します。

言語はメタデータ内のエントリによって決まり、すべてのドキュメント・タイプに適用されるとは限りません。

検索を見直して複数の言語を検索対象にするには、「検索結果」ページの上部の検索テキスト・フィールドを編集します。

- **過去に作成済** - 結果を特定の時間枠内(過去 24 時間以内、先週など)に作成されたドキュメントに制限します。

「カスタム日付」オプションを使用すると、カレンダー・コントロールがアクティブになり、特定の日に作成されたドキュメントを検索できます。

「カスタム日付範囲」オプションを使用すると、カレンダー・コントロールがアクティブになり、指定した日付の範囲内に作成されたドキュメントを検索できます。

- **過去の最終更新** - 結果を特定の時間枠内に変更されたドキュメントに制限します。

「カスタム日付」オプションを使用すると、カレンダー・コントロールがアクティブになり、最終変更日が特定の日であるドキュメントを検索できます。

「カスタム日付範囲」オプションを使用すると、カレンダー・コントロールがアクティブになり、最終変更日が指定した日付の範囲内であるドキュメントを検索できます。

- **フォルダ内** - 結果を特定のリポジトリとフォルダ名に制限します。
- **検索のみ(ドキュメント・タイプ)** - 結果を特定の MIME タイプのドキュメントに制限します。

複数のドキュメント・タイプを検索対象にするには、「検索結果」ページの上部の検索テキスト・フィールドを編集します。たとえば、`"sales +MimeType:application/x-brioquery"`を`"sales +(MimeType:application/x-brioquery MimeType:application/pdf)"`に変更します。

- **ファイルの非表示オプション** - 非表示のファイルを取得するかどうかを指定します。ファイルの"非表示"属性は、そのリポジトリのコンテキスト内で設定します。たとえば、EPM Workspace リポジトリの「プロパティ」ダイアログ・ボックスで表示したり変更したりできます。
- **優先度** - 結果を優先度が「高」または「標準」のドキュメントに制限します。ファイルの"優先度"属性は、そのリポジトリのコンテキスト内で設定します。たとえば、EPM Workspace リポジトリの「プロパティ」ダイアログ・ボックスで表示したり変更したりできます。
- **順序** - 検索結果のソート順序を指定します。

表 31 詳細検索の例

検索する語句	要求
"sales +LanguageCodes:de"	"sales"という語を含むドイツ語のドキュメントを検索する
"sales +(LanguageCodes:de LanguageCodes:es)"	"sales"という語を含むドイツ語のドキュメントまたは"sales"という語を含むスペイン語のドキュメントを検索する

検索構文

検索サービスの基本的な構文には多くの規則があります。次の演算子を使用して、語句を論理的にグループ化できます。

表 32 検索構文の演算子

構文	説明
+	AND

構文	説明
-	NOT
()	丸かっこ - 演算子をキーワードのグループに適用します。
" "	二重引用符 - 完全に一致する語句を検索します。
[]	角かっこ - 範囲値を検索します。
*,?	ワイルドカード - 単語の中間または末尾で使用して、*に代わる任意の値を示します。

特定のカテゴリを検索の対象にしたり対象外にしたりして、検索をさらに絞り込むことができます。カテゴリの構文は"category:search_term"の形式です。カテゴリ内の完全に一致する文字列を検索するには二重引用符を使用します。カテゴリを論理的に追加または除去するには AND および NOT 演算子を使用します。

例

sales を含み、oracle を含まないドキュメントを検索します。

```
+sales -oracle
```

"radio sales" という語句を含むドキュメントを検索します。

```
"radio sales"
```

sales を含んで oracle を含まないドキュメントまたは sales を含んで radio を含まないドキュメントを検索します。

```
+sales -(oracle radio)
```

sales と oracle を含むドキュメントを検索します。

```
+sales +oracle
```

rent と sales を含むドキュメントまたは rent と oracle を含むドキュメントを検索します。

```
+rent +(sales oracle)
```

```
(+rent +sales) (+rent +oracle)
```

ファイル名が revenue で始まり、Sample Content フォルダにないドキュメントを検索します。

```
+FileName:revenue* -Path:" Sample Content"
```

2007年12月15日から2007年12月21日までの間に変更されたドキュメントを検索します。

```
+LastModifiedDate:[2007-12-15 TO 2007-12-21]
```

2007年に変更されたドキュメントを検索します。

```
+LastModifiedDate:[2007]
```

2007年12月に変更されたドキュメントを検索します。

```
+LastModifiedDate:[2007-12]
```

サポートされている MIME タイプ

次の MIME タイプは、検索サービスによってインデックスが付けられ、検索式で使用できます。

表 33 MIME タイプ

MIME タイプ	説明
application/hyperion-analyzer-presentation	プレゼンテーション
application/hyperion-analyzer-report	Web Analysis ドキュメント
application/hyperion-annotation	注釈
application/hyperion-reports-batch	Financial Reporting バッチ
application/hyperion-reports-book	Financial Reporting ブック
application/hyperion-reports-chart	Financial Reporting チャート
application/hyperion-reports-grid	Financial Reporting グリッド
application/hyperion-reports-image	Financial Reporting イメージ
application/hyperion-reports-report	Financial Reporting レポート
application/hyperion-reports-row_column	行と列のテンプレート
application/hyperion-reports-snapshot_book	Financial Reporting スナップショット・ブック
application/hyperion-reports-snapshot_report	Financial Reporting スナップショット・レポート
application/hyperion-reports-text	Financial Reporting テキスト
application/msword	PDF ファイル(.pdf)
application/pdf	PDF ファイル(.pdf)
application/rtf	RTF ファイル(.rtf)
application/sqr_viewer	Production Reporting ドキュメント(.spf)
application/vnd.ms-excel	MS Excel ファイル(.xlsx、.xls)

MIME タイプ	説明
application/vnd.ms-powerpoint	Powerpoint ファイル(.pptx、.ppt)
application/x-brioquery	Interactive Reporting ドキュメント(.bqy)
application/x-SQR	Production Reporting ジョブ(.sqr)
BrioQueryJob	Interactive Reporting ジョブ
OCEFile	Interactive Reporting データベース接続(.oce)
text/html	HTML ファイル(.htm、.html)
text/im-javascript	Oracle Hyperion(R)インパクト・マネージャ・サービス JavaScript ファイル(.js)
text/plain	プレーン・テキスト(.text、.txt)

セキュリティ

エンド・ユーザーのクエリーは、ドキュメントまたはデータのセキュリティを侵害することなく結果と関連コンテンツを戻します。検索結果はユーザー・セキュリティ・プロファイルに基づきます。ユーザーに表示権限が与えられていないドキュメントは結果に含まれません。

5

アーチファクトのインポート

この章の内容

インポート.....	129
アーチファクトのインポート.....	131
EPM Workspace の URL の使用方法.....	134
権限の設定.....	136
ショートカットの作成.....	141
プロパティの操作.....	141
バージョンの操作.....	146

インポート

リポジトリにアーチファクトをインポートすると、他のユーザーに対してそれらのアーチファクトが使用可能になります。ユーザーにあるアーチファクトの変更を許可する一方で、他の操作を制限できます。権限の詳細は、[136 ページの「権限の設定」](#)を参照してください。

注： MIME タイプが定義されていないアーチファクトをインポートしようとする
と、エラー・メッセージが表示されます。管理者に問い合わせて MIME タイ
プを作成してください。

[表 34](#) に、Reporting and Analysis 製品とインポートできるアーチファクトを示しま
す。

表 34

Reporting and Analysis 製品	説明
Financial Reporting	<ul style="list-style-type: none">● 動的レポート(*.des)● スナップショット・レポート(*.rpt)● ブック(*.kbk)● スナップショット・ブック(*.kbt)● バッチ・ファイル(*.bch)● サポート・ファイル、97 ページの「サポート・ファイル」を参照してくだ さい

Reporting and Analysis 製品	説明
	注： これらのファイルをインポートするには、インポート」の「Financial Reports メニュー・アイテムを使用する必要があります。
Production Reporting	<ul style="list-style-type: none"> ● 表示するドキュメント(*.spf) ● ジョブとして実行するプログラム・ファイル(*.sqr) ● サポート・ファイル、97 ページの「サポート・ファイル」を参照してください
Interactive Reporting	<ul style="list-style-type: none"> ● 表示および変更するドキュメント(*.bqy) ● ジョブとして実行するドキュメント(*.bqy) ● サポート・ファイル、97 ページの「サポート・ファイル」を参照してください
Web Analysis	<ul style="list-style-type: none"> ● ドキュメントと表示(*.apt) ● サポート・ファイルは、ドキュメントまたはプレゼンテーションとともに自動的にインポートされます。詳細は 97 ページの「サポート・ファイル」を参照してください。 <p>注： これらのファイルをインポートするには、Web Analysis Studio を使用する必要があります。</p>
Microsoft レポート	ユーザーは Microsoft レポート・サーバー・リポジトリを参照できます。Microsoft レポートへのリンクを URL オブジェクトとして EPM Workspace リポジトリにインポートできます。詳細は、135 ページの「Microsoft レポートのインポート」を参照してください。

Interactive Reporting ドキュメントとジョブ

Interactive Reporting ドキュメントを対話型分析で使用するには、ファイルとしてインポートします。Interactive Reporting ドキュメントをスケジュール済の実行やオンデマンドの実行および出力の配布に使用するには、ジョブとしてインポートします。インポートにより、基本的にジョブが作成されます。

注： インポートする Interactive Reporting ドキュメントで行レベルのセキュリティが使用されている場合は、ジョブ・クエリーが処理される時に、行レベルのセキュリティが適用されます。ユーザーがクエリーを処理して詳細情報を取得すると、行レベルのセキュリティ制限がさらに詳細なレベル(地域または部署のみの売上データなど)で適用されます。

表 35 次の表に、Interactive Reporting ファイルまたはジョブをインポートする例を示します。

表 35

機能	ファイル	ジョブ
EPM Workspace との対話	X	

機能	ファイル	ジョブ
自動実行のスケジュール		X
電子メールを使用した出力の配布		X
複数サイクル出力の生成		X
ネットワーク・ディレクトリへの出力の配布		X
Interactive Reporting Web Client による分析の現在の結果のインポート		X
出力の FTP 配信		X
出力の印刷		X

HTML ファイル

HTML イメージ・リンクおよびその他の HTML ファイルは、そのフォルダの場所に依存しています。次の方法により、インポート後もリンクが常に機能するようにしてください。

- HTML で相対リンクを使用します
- フォルダ構造を反映したフォルダを作成します

アーチファクトのインポート

アイテムをインポートするには、エクスプローラで「ファイル」の「インポート」を選択し、次の手順に従います。

- [ファイルのインポート](#)
- [複数のファイルのインポート](#)
- [ジョブとしてのファイルのインポート](#)
- [URL のインポート](#)
- [Financial Reporting ファイルのインポート](#)

ファイルのインポート

次の例外を除いて、ファイルはリポジトリにインポートします。

- Financial Reporting ファイルをインポートする場合は、[Financial Reporting ファイルのインポート](#)を参照してください。
- ファイルをジョブとしてインポートする場合は、[133 ページの「ジョブとしてのファイルのインポート」](#)を参照してください。
- Interactive Reporting の.occ ファイルをインポートする場合は、[493 ページの「処理およびメタデータ・オプションの設定」](#)を参照してください。

- URL をインポートする場合は、[133 ページの「URL のインポート」](#) を参照してください。
- ▶ ファイルをインポートするには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラで、アーチファクトをインポートするフォルダに移動します。
 - 2 「ファイル」の「インポート」を選択し、「ファイル」を選択します。
 - 3 インポートするファイルを選択します。
 - 4 説明を入力し、詳細オプションを指定しないで次へをクリックするか終了を選択します。「終了」を選択した場合は、以降の手順を飛ばしてください。
 - 5 プロパティを入力します。詳細は、[143 ページの「詳細プロパティ」](#) を参照してください。
 - 6 権限を入力します。詳細は、[136 ページの「権限の設定とアーチファクトのプッシュ」](#) を参照してください。
 - 7 「終了」をクリックします。

注： 前のページに戻るには、「戻る」をクリックします。

複数のファイルのインポート

- ファイルは、現在のフォルダにインポートする必要があります。
 - テキスト・ファイル、HTML ファイル、イメージ・ファイルなどの異なるファイル・タイプを一緒にインポートします。
 - 複数の Interactive Reporting ファイル(*.bqy、*.oce)または Production Reporting ファイル(*.sqr、*.spf)をインポートすることはできません。
- ▶ 複数のファイルをインポートするには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラで、ファイルを配置するフォルダに移動します。
 - 2 「ファイル」の「インポート」を選択し、「ファイル」を選択します。
 - 3 複数のファイルをクリックします。
 - 4 インポートするファイルを選択します。
最初のファイルを選択します。>>(右向きの矢印)をクリックしてファイルをリストに追加します。ファイルをリストから削除するには、<<(左向き矢印)をクリックします。
 - 5 **オプション:** 説明を入力し、終了をクリックして詳細オプションを指定しないでインポートを完了します。
 - 6 次へをクリックします。
 - 7 プロパティを入力します。[142 ページの「全般プロパティ」](#) および[143 ページの「詳細プロパティ」](#) を参照してください。
 - 8 終了をクリックして、アーチファクトをインポートします。
アーチファクトが現在のフォルダにインポートされます。

ジョブとしてのファイルのインポート

Production Reporting ジョブを作成するには Production Reporting プログラム・ファイル(*.sqr)をインポートし、Interactive Reporting ジョブを作成するには Interactive Reporting ドキュメント(*.bqy)をインポートします。また、汎用ジョブを作成するには汎用ファイルをインポートします。ジョブのスケジュール、オプション設定および実行にはスケジュール・モジュールを使用します。詳細は、[461 ページの「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

- ▶ ファイルをジョブとしてインポートするには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラで、アーチファクトを配置するフォルダに移動します。
 - 2 「ファイル」の「インポート」を選択し、「ファイル(ジョブとして)」を選択します。
 - 3 インポートするアーチファクトを選択し、次へをクリックします。
 - 4 次のいずれかの操作を行ってインポート・ウィザードを完了します。
 - Production Reporting ファイルおよび汎用ジョブをインポートする場合は、[第 16 章「Production Reporting および汎用ジョブの使用方法」](#)を参照してください。この章には、このウィザードを完了する手順が記載されています。
 - Interactive Reporting の BQY ファイルをインポートする場合は、[490 ページの「データ・ソースおよびクエリー・プロパティの設定」](#)を参照してください。
 - 5 「インポート」ダイアログ・ボックスの手順 2(ジョブの入力/出力)を完了するには、Interactive Reporting ジョブに対して次の操作を行います。
 - クエリー・プロパティを指定します。詳細は、[490 ページの「データ・ソースおよびクエリー・プロパティの設定」](#)を参照してください。
 - ジョブ・プロパティを指定します。[491 ページの「Interactive Reporting 全般プロパティとオプションの設定」](#)および[489 ページの「Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定」](#)を参照してください。
 - ジョブのデフォルトを指定します。詳細は、[491 ページの「ジョブ・デフォルトの設定」](#)を参照してください。
 - 6 プロパティを入力します。詳細は[142 ページの「全般プロパティ」](#)および[143 ページの「詳細プロパティ」](#)を参照してください。必須プロパティには赤いアスタリスクが付いています。
 - 7 「次へ」をクリックします。
 - 8 インポート・ウィザードの最後の手順として、権限を設定します。詳細は、[136 ページの「権限の設定とアーチファクトのプッシュ」](#)を参照してください。
 - 9 「終了」または「終了してスケジュール」をクリックします。

URL のインポート

ここでは、URL のインポート手順を示します。

- ▶ URL をインポートするには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラで、アーチファクトを配置するフォルダに移動します。

- 2 「ファイル」の「インポート」を選択し、「URL」を選択して URL 名を入力します。
- 3 オプション: 説明を入力し、終了をクリックして詳細オプションまたは権限を指定しないでインポートを完了します。
- 4 次へをクリックします。142 ページの「全般プロパティ」および143 ページの「詳細プロパティ」を参照してください。
必須プロパティには赤いアスタリスクが付いています。
- 5 手順3の「権限」を完了します。アーチファクトの権限を指定するには、手順1を参照してください。
- 6 終了をクリックします。

EPM Workspace の URL の使用方法

リポジトリ・アイテムを指す EPM Workspace の URL を開くには、次の手順に従います。

- URL を開く
- 新規ウィンドウで URL を開く
- URL の更新

URL を開く

ここでは、URL を開く手順を示します。

- ▶ URL を開くには、次の手順に従います。
 - 1 ファイルの開くを選択し、URL を選択します。
「URL」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 URL 名を入力します。
 - 3 OK を選択します。

新規ウィンドウで URL を開く

- ▶ 新規ウィンドウで URL を開くには、次の手順に従います。
 - 1 URL を開くの手順を完了します。
 - 2 新規ウィンドウを選択します。
 - 3 URL を入力します。
 - 4 OK を選択します。

URL の更新

ここでは、コンテンツ領域に表示された既存の URL のコンテンツを更新する手順を示します。

- ▶ URL を更新するには、次の手順に従います。
 - 1 URL を開くの手順を完了します。
 - 2 URL の更新を選択します。

「URL の更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 URL を入力します。
 - 4 OK を選択します。

Financial Reporting ファイルのインポート

ここでは、Financial Reporting ファイルのインポート手順を示します。

注： 一度にインポートできるファイルは1つのみです。

- ▶ Financial Reporting ファイルをインポートするには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラで、アーチファクトを配置するフォルダに移動します。
 - 2 「ファイル」の「インポート」を選択し、「Financial Reports」を選択します。
 - 3 インポートするファイルを選択します。
 - 4 インポートをクリックします。
 - 5 **オプション:** データ・ソース接続を使用するアーチファクトをインポートする場合は、その接続の選択を求めるメッセージが表示されます。

Microsoft レポートのインポート

コンテンツ・パブリッシャの役割を持つ EPM Workspace ユーザーは、Microsoft レポートを EPM Workspace リポジトリにインポートできます。Microsoft レポート・サーバーのリポジトリを参照し、Microsoft レポートを EPM Workspace リポジトリにリンクとしてインポートします。リンクは URL オブジェクトの形式で、どのユーザーでも Microsoft レポートの URL オブジェクトを EPM Workspace のタブとして開くことができます。Microsoft レポートを EPM Workspace に統合する方法の詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

- ▶ Microsoft レポートをインポートするには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace リポジトリからフォルダを選択します。
 - 2 右クリックしてインポートを選択し、Microsoft レポートを選択します。

- 3 「Microsoft レポートのインポート」 ダイアログ・ボックスで、Microsoft レポートを選択します。
- 4 インポートを選択します。EPM Workspace リポジトリに URL オブジェクトが作成されません。

権限の設定

アクセス権では、アクセス・レベル(表示、変更、フル・コントロール)を定義します。アーチファクトをインポートする際に、次を行えます:

- アクセス権を与えるユーザーとアクセス・レベルを指定できます。
- インポートするアーチファクトを完全にコントロールし、すべての役割、グループおよびユーザーの権限レベルを変更できます。
- 個人のユーザーではなく役割またはグループを使用することで効率的に権限を与えることができます。

権限を変更するには、次の項を参照してください。

- [権限の設定とアーチファクトのプッシュ](#)
- [Interactive Reporting ドキュメントに対する権限の設定](#)

権限の設定とアーチファクトのプッシュ

アーチファクトをインポートまたは選択するときにアーチファクトの権限を設定します。お気に入りでアクセスできるようにアーチファクトをプッシュします。

権限の設定とアーチファクトのプッシュのルールは次のとおりです。

- アーチファクトをプッシュするには、適切な権限とアーチファクトをプッシュできる役割が必要です。複数サイクルのジョブとフォルダを除く任意のアーチファクトをプッシュします。
- リポジトリでアーチファクトにアクセスできるようにするには、そのアーチファクトの権限を変更します。
- お気に入りでアーチファクトにアクセスできるようにするには、アーチファクトをお気に入りにプッシュします。
- フォルダ内のアーチファクトに権限を割り当てるには、適切な権限と役割が必要です。

▶ ファイルとフォルダの権限を編集するには、次の手順に従います。

- 1 **エクスプローラ**で、権限を変更するファイルまたはフォルダを右クリックします。

注: エクスプローラで複数のアイテムを選択して編集権限を割り当てることができます。権限は、ユーザーがフル・コントロール権限を持つアイテムのみ適用できます。

- 2 「**権限の編集**」を選択します。
- 3 「**権限**」ダイアログ・ボックスを完了するには、[139 ページの手順 1](#)を参照してください。

- ▶ フォルダ内のアーチファクトに権限を割り当てるには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラでフォルダを右クリックします。
 - 2 「子に権限を適用」を選択します。
 - 3 「子に権限を適用」ダイアログを完了するには、[権限の変更またはアーチファクトのプッシュ](#)を参照してください。
 - 4 フォルダの子の権限を設定します。「子に権限を適用」ダイアログ・ボックスに表示される、選択したユーザー、グループおよび役割の列は、フォルダ内のアーチファクト・タイプによって異なります。各権限の説明をガイドラインとして使用してください。

表 36 フォルダの子の権限の設定

権限	説明
継承	何も設定されません。デフォルトでは「アクセス権なし」になります。次の 継承権限の例 を参照してください。
アクセスなし	ユーザーはオブジェクトを表示できません。
表示	ドキュメントを表示できますが、変更できません。
ジョブの出力のみ	フォルダ内の出力を表示したり生成したりできます。追加の変更機能はありません。
変更	変更できますが削除できません。
フル・コントロール	「子に権限を適用」ダイアログにアクセスします(他のユーザー/グループ/役割に権限を追加/編集/削除)。
実行	ジョブを実行できます。
変更と実行	これはジョブにのみ適用されます。ジョブはプロパティを変更して、実行できます。変更権限のみ付与されている場合は、ジョブのプロパティを変更できますが、ジョブは実行できません。
表示と処理	ドキュメントを表示してデータをリフレッシュできますが、変更することはできません。 注： これらは適用可能状態で、Interactive Reporting アーチファクトにのみ適用されます。
分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更できますが、クエリーを変更したりデータをリフレッシュしたりすることはできません。 注： これらは適用可能状態で、Interactive Reporting アーチファクトにのみ適用されます。
分析と処理	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。クエリーを変更することはできません。

権限	説明
クエリーと分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。また、処理前にクエリーを作成および制限できます。
データ・モデルと分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。また、処理前にクエリーを作成および制限できます。データ・モデルを作成および変更することもできます。 注： これらは適用可能状態で、Interactive Reporting アーチファクトにのみ適用されます。

5 選択したら「OK」を選択します。

注： 権限は、ユーザーがフル・コントロール権限を持っているフォルダ内のアーチファクトにのみ適用されます。

継承権限の例

BQY ファイルおよび「権限」ダイアログ・ボックスで設定された権限の例を示します。

ユーザー A:

- ファイル権限の継承
- 適応状態の表示
- お気に入りの継承

グループ A:

- ファイルの表示
- 適応の処理
- お気に入りの継承

役割 A:

- ファイルの変更
- 適応のデータモデル
- お気に入りにプッシュ

これらのシナリオの結果:

- ユーザー A がグループ A に属している場合、ユーザー A はファイルを表示できます。
- ユーザー A に役割 A がある場合、ユーザー A はファイルを変更できます。
- ユーザー A がグループ A に属していない場合または役割 A を持っていない場合、ユーザー A はファイルにアクセスできません。

継承とは、基本的には役割またはグループの権限を継承することを意味し、同じことがお気に入りにも当てはまります。

権限の変更またはアーチファクトのプッシュ

「選択したフォルダの子に権限を適用」ダイアログでは、権限の上書きまたはマージを選択できるので、権限を最初から再定義する必要がありません。

注： 「OK」をクリックすると、フォルダのファイルすべてに対する権限が変更されます。ただし、権限は将来使用できるようには保存されません。新しいアーチファクトが続いてそのフォルダに追加されても、この権限は付与されませんが、そのフォルダの個々のアーチファクトに移動して権限を変更できます。

▶ 権限を変更するかアーチファクトをプッシュするには、次の手順に従います。

1 選択対象のユーザー、グループおよび役割を指定するには、次の操作を行います。

1. リストにすべてのユーザー、グループまたは役割を移入するには、テキスト・ボックスを空白のままにして「リストの更新」を選択します。
2. リストに指定したユーザー、グループまたは役割を移入するには、次の手順に従います。
 1. リストを名前でフィルタするには、「1文字目が」、「次を含む」または「次のグループ内」を選択し、文字を入力します。
 2. リストをユーザー・タイプでフィルタするには、ユーザー、グループまたは役割のタブを選択し、リストの更新をクリックします。

使用可能なユーザー、グループ、役割に、ドロップダウン・リストでの選択に基づいてアーチファクトが表示されます。

注： アーチファクトのすべてがリストに表示されない場合は、条件を指定してリストをフィルタするか、管理者にお問い合わせください。リストに表示されるアーチファクトの最大数は管理者が決定します。ワイルド・カードはサポートされていません。フィルタは大文字と小文字を区別しません。

2 「ユーザー」、「グループ」または「役割」タブからユーザー、グループまたは役割を選択し、 をクリックします。

3 選択したユーザー、グループ、役割で、「名前」列から名前を選択します。アクセスまたはファイルへのアクセスドロップダウンから次の権限を設定します。

- **継承** - 何にも設定されません。この権限はデフォルトで「アクセス権なし」に設定されています。
- **アクセスなし** - ドキュメントにアクセスできません。
- **表示** - ドキュメントの表示のみ行うことができます。
- **変更** - ドキュメントを変更できますが、削除できません。
- **フル・コントロール** - ドキュメントを表示、変更および削除できます。

詳細は、[140 ページの「Interactive Reporting ドキュメントに対する権限の設定」](#)を参照してください。

- 4 「お気に入り」ドロップダウンで、「**プッシュ**」を選択してアーチファクトをユーザーのお気に入りにプッシュするか、「**継承**」(プッシュではない)を選択します。「**継承**」を選択した場合は、この権限のみ設定されているときに表示されます。
- 5 これらの手順を繰返して、他のユーザー、グループまたは役割の権限を設定します。

注： アクセス権を持っているユーザー、グループ、役割のすべてがリストに表示されない場合は、別の条件を指定してリストをフィルタするか、管理者にお問い合わせください。リストに表示されるユーザー、グループ、役割の最大数は管理者が決定します。


6 次のいずれかを選択します。

1. 既存の権限を除去して新しい権限を設定するには、「**現在の権限の上書き**」を選択します。
2. 一部の権限を再定義して、既存の権限に新しい権限を追加するには、「**現在の権限とマージ**」を選択します。変更はフォルダの子要素に再帰的に適用されます。

注： マージでは一部のアーチファクトの「**子に権限を適用**」にユーザーがすでに存在しており、そのユーザーに新しい権限が割り当てられている場合は、新しい権限が有効です。

7 アーチファクトにこれらの権限を適用するには **OK をクリックします。**

8 OK をクリックします。

注： 役割、グループまたはユーザーを選択したリストから除去するには、除去する名前をハイライトして  をクリックします。

Interactive Reporting ドキュメントに対する権限の設定

次の権限は、Interactive Reporting ファイルとジョブに適用されます。

- 「**適応状態**」では、Interactive Reporting ドキュメントを表示するときにユーザーに使用可能な機能を指定します。
- 「**ジョブを実行したユーザーのみがジョブの出力にアクセスします**」では、自分のみがジョブの出力にアクセスできるように指定します。

注： Interactive Reporting ジョブをインポートするときに、ジョブの出力に対して適応状態を割り当ててジョブの出力にアクセスできるようにします。

表 37

適応状態	説明
継承	何にも設定されません。この権限のみ設定されている場合、この権限はデフォルトで表示権限に設定されます。

適応状態	説明
表示のみ	ドキュメントを表示できますが、変更できません。
表示と処理	ドキュメントを表示してデータをリフレッシュできますが、変更することはできません。
分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更できますが、クエリーを変更したりデータをリフレッシュしたりすることはできません。
分析と処理	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。クエリーを変更することはできません。
クエリーと分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。また、処理前にクエリーを作成および制限できます。
データ・モデルと分析	ドキュメント内のチャート、ピボットおよびレポートを作成および変更し、データをリフレッシュできます。また、処理前にクエリーを作成および制限できます。データ・モデルを作成および変更することもできます。

ショートカットの作成

ファイルまたはドキュメントへのショートカットを作成します。

- ▶ ショートカットを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラで、アーチファクトに移動します。
 - 2 アーチファクトを右クリックし、ショートカットの作成をクリックします。
 - 3 名前とフォルダを入力します。
 - 4 [142 ページの「全般プロパティ」](#) および [143 ページの「詳細プロパティ」](#) を参照してください。

プロパティの操作

ここでは、リポジトリ・アーチファクトのプロパティを変更する方法について説明します。プロパティは、アーチファクトをインポートしたり変更したりするときに指定します。アーチファクトのインポート時にプロパティ・ページにアクセスする方法は、[131 ページの「アーチファクトのインポート」](#)を参照してください。

アーチファクトのプロパティは次のとおりです。

- [142 ページの「全般プロパティ」](#)
- [143 ページの「詳細プロパティ」](#)
- [144 ページの「出力プロパティ」](#)
- [136 ページの「権限の設定」](#)
- [146 ページの「バージョンの操作」](#)

- 144 ページの「Interactive Reporting プロパティ」
- 144 ページの「Production Reporting プロパティと汎用ジョブ・プロパティ」
- 145 ページの「HTML ファイル・プロパティ」
- 145 ページの「URL プロパティ」
- 146 ページの「Interactive Reporting データベース接続ファイル」

▶ プロパティを表示するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラで、アーチファクトを選択します。
- 2 「ファイル」を選択し、「プロパティ」を選択します。

全般プロパティ

ほとんどのアーチファクトには、表 38 に示す全般プロパティがあります。

表 38

全般プロパティ	定義
ファイル	ファイル名とパス。
名前	<p>ファイルに割り当てる名前。たとえば、ファイルが <code>c:\¥Jan03SR</code> の場合は、名前を "January 2003 Sales Report" に設定します。半角英数字、スペースおよびアンダースコア(_)を使用します。</p> <p>注： Production Reporting ジョブの場合は、「置換」を選択してこのジョブを別のジョブに置き換えます。このファイルを置換すると、このファイルを使用している既存のスケジュールが影響を受ける場合があります。これらのスケジュールの所有者に変更を通知して、所有者がその変更に従ってジョブ・パラメータを変更できるようにする必要があります。</p>
説明	検索キーワードの生成に使用される説明。長さは 250 文字に制限されます。
所有者	アーチファクトをインポートしたユーザーの名前。アーチファクトの所有者を変更するには、143 ページの「アーチファクトの所有権の変更」を参照してください。
元のファイル名	(読取り専用)ファイルがインポートまたは作成されたときのファイル名。
サイズ	(読取り専用)ファイルのサイズ。
スマート・カット	(読取り専用) スマート・カットは、ファイルを指す URL です。
ショートカットのリンク先	ショートカットのフォルダとサブフォルダを指定します。
ファイルを zip フォーマットで圧縮して保管	ファイルを WinZip フォーマットで保管するには、インポート時にこのプロパティを設定します。これにより、ディスク・スペースを節約できますが、表示は遅くなります。

アーチファクトの所有権の変更

ユーザーはリポジトリ・アーチファクトの所有者を変更できます。所有権を変更できるアーチファクトとして、リポジトリ・オブジェクト、フォルダ(サブフォルダを含む)、イベント、ジョブ・パラメータ、スケジュールがあります。ユーザーにはフル・コントロール権限または管理者の役割権限が必要です。

▶ アーチファクトの所有者を変更するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラで、アーチファクトを選択します。
- 2 「ファイル」を選択し、「プロパティ」を選択します。
- 3 「プロパティ」ダイアログ・ボックスで「所有者の変更」を選択します。
- 4 次の操作を行って、「所有者の変更」ダイアログ・ボックスを完了します。
 1. 名前リストのソート基準、ユーザー ID、名または姓を最初のドロップダウン・メニューから選択します。
 2. リストを名前でフィルタするには、「1文字目が」、「次を含む」または「次のグループ内」を選択し、文字を入力します。
 3. 「リストの更新」を選択します。
 4. 「OK」を選択します。
- 5 「OK」を選択します。

詳細プロパティ

一部のアーチファクトには、表 39 に示す詳細オプションがあります。

表 39

詳細プロパティ	定義
MIME タイプ	(読み取り専用)Multipurpose Internet Mail Extensions。ジョブとドキュメントについてのみ MIME タイプを更新します。MIME タイプとして、MS Word ファイル、HTML ファイルおよび個人用ページがあります。
セキュリティ・タグを含める	(読み取り専用)Production Reporting ジョブがセキュリティで保護されているかどうかを示します。セキュリティで保護されたジョブは Production Reporting のみで、常に HTML 出力があります。
文字エンコード	UTF-8 などの文字エンコード方式。このエンコードは、EPM Workspace がファイルを正しく表示できるように HTML ファイルに対して指定する必要があります。 文字エンコードがこのプロパティまたは HTML ファイルで指定されていない場合、EPM Workspace は管理者によって設定された文字エンコードを使用します。
ファイルの非表示	エクスプローラでファイルを非表示にします。 例: HTML ファイルに必要なイメージ・ファイルに対してこのオプションを使用可能にすると、ユーザーは HTML ファイルのみを選択します。
「ファイルを自動的に削除する日付」または	次の条件を満たす場合に、このアーチファクトをリポジトリから自動的に削除するときに選択します。

詳細プロパティ	定義
「ショートカットを自動的に削除する日付」	<ul style="list-style-type: none"> 有効期限が切れた。 自動削除が選択されている。 システムによって定期的なガーベッジ・コレクションが実行される(有効期限が切れてから 1 時間以内)。 フォルダの場合は、すべてのコンテンツがフォルダから削除された後で自動削除が実行されるように設定されている。
例外発生時に、ユーザーが例外ダッシュボードに追加可能	<p>例外ダッシュボードは、個人用ページに表示されます。</p> <p>このフィールドはジョブには使用されません。ジョブの例外が発生した場合は、登録ユーザーのみ電子メールまたは例外ダッシュボード・インディケータで通知を受け取ることができます。</p>
キーワードを自動生成	「名前」および「説明」に含まれている語に基づいて検索キーワードを生成します。Interactive Reporting コンテンツの場合は、セクション名もアーチファクトを検索するためのキーワードとして使用されます。
キーワード	<p>アーチファクトを検索するために使用される新規キーワード。</p> <p>アーチファクトのキーワードを作成することをお勧めします。作成したキーワードはリポジトリ・アーチファクトの検索に使用されます。</p>
次の時間が経過した出力を削除	<p>指定した時間間隔の経過後にジョブの出力を削除する場合に使用します。ジョブの出力は、次の条件がすべて満たされたときに削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 有効期限が切れた。 自動削除が選択されている。 システムによって定期的なガーベッジ・コレクションが実行される(有効期限が切れてから 1 時間以内)。

出力プロパティ

Interactive Reporting ジョブと Production Reporting ジョブについては、出力プロパティのオプションが表示されます。このプロパティをこれらのどちらかの製品に対して選択すると、ジョブの出力の要約(それぞれの日付とジョブの出力が使用可能な出力フォーマットを含む)が表示されます。選択した出力を「出力」から削除することもできます。

Interactive Reporting プロパティ

Interactive Reporting ファイルとジョブには、[全般プロパティ](#)と[詳細プロパティ](#)以外に独自のプロパティがあります。詳細は、[489 ページの「Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定」](#)を参照してください。

Production Reporting プロパティと汎用ジョブ・プロパティ

Production Reporting ファイルと Production Reporting ジョブには、[全般プロパティ](#)と[詳細プロパティ](#)以外に独自のプロパティがあります。詳細は、[506 ページの](#)

「[ジョブ・プロパティ](#)」と517ページの「[汎用ジョブ・プロパティ](#)」を参照してください。

権限の設定

ユーザーにファイルへのアクセス権を設定します。詳細は、[136 ページの「権限の設定とアーチファクトのプッシュ」](#)を参照してください。

HTML ファイル・プロパティ

HTML ファイルには、[全般プロパティ](#)と[詳細プロパティ](#)以外に独自のプロパティがあります。

表 40

HTML ファイル・プロパティ	説明
文字エンコード	文字エンコードの方式。 注意: Latin-1 以外の言語または WebSphere や iPlanet などのネイティブ・サーブレット・エンジンを使用する場合は、UTF-8 を使用します。
ファイルのコンテンツ・ウィンドウとして表示	このアーチファクトのコンテンツを個人用ページに表示できます(デフォルトでは使用可能)。

URL プロパティ

URL には、[全般プロパティ](#)と[詳細プロパティ](#)以外に次のプロパティがあります。

表 41

URL プロパティ	説明
URL(全般プロパティ・グループ)	URL は http://または https://で始まります。
ファイルのコンテンツ・ウィンドウとして表示	このアーチファクトのコンテンツを個人用ページに表示できます(デフォルトでは使用可能)。
文字エンコード	Web ページの文字エンコードの方式。 注意: Latin-1 以外の言語または WebSphere や iPlanet などのネイティブ・サーブレット・エンジンを使用する場合は、UTF-8 を使用します。
アイコン	表示される URL のアイコン。アイコンを変更するには、「 アイコンの変更 」をクリックします。
アイコンの変更	PC またはリポジトリからグラフィック・ファイルを追加する場合に選択します。幅と高さを 24 ピクセル未満に設定します。

Interactive Reporting データベース接続ファイル

これらのファイルは、データベースに接続するために Interactive Reporting ジョブと Interactive Reporting ドキュメントによって使用されます。ファイルまたはジョブ内のクエリー(ローカル結果を使用するクエリーを除く)ごとに異なる Interactive Reporting データベース接続ファイルを指定する必要があります。詳細は、[492 ページの「データベース接続ファイルに関するオプションの選択」](#)を参照してください。

バージョンの操作

リポジトリ・アーチファクトには複数のバージョンがあります。ただし、ジョブ、ジョブの出力、Interactive Reporting データベース接続ファイル、ショートカット、Web Analysis アーチファクトおよび Financial Reporting アーチファクトを除きます。

標準のファイルはバージョンのコレクションです。複数のバージョンをインポートしていない場合でも同様です。ファイルをインポートすると、1つのバージョンを含むコレクションとしてアーチファクトが生成されます。後で追加バージョンをインポートできます。

バージョンは、同じファイルまたはまったく別のファイルのリビジョンの場合があります。ファイルが元のファイルと大幅に異なる場合は、一意の名前を持つ新規ファイルをインポートする必要があります。

注： Interactive Reporting ジョブまたは Interactive Reporting データベース接続ファイルのインポートしたバージョンを変更するには、「全般プロパティ」の「置換」を使用します。Interactive Reporting ジョブまたは Interactive Reporting データベース接続ファイルを同じ種類のファイルで置き換えることが重要です。つまり、Interactive Reporting ジョブが元の Interactive Reporting ジョブと大幅に異なる場合は、新規ジョブをインポートします。ファイルは、Interactive Reporting ジョブまたは Interactive Reporting データベース接続ファイルの置換ファイルとして受け付けられます。

最新バージョンのアーチファクト名をクリックしてください。アーチファクトを移動または削除すると、バージョンも移動または削除されます。

バージョンには、そのコレクション・アーチファクトのプロパティとは異なる独自のプロパティがあります。

ここでは、バージョンの操作方法を説明します。

- [バージョンを開く](#)
- [バージョンのプロパティの表示または変更](#)
- [バージョンの追加](#)
- [複数のバージョンの一覧表示](#)
- [バージョンのプロパティ](#)
- [バージョンの削除](#)

バージョンを開く

任意のアーチファクト・バージョンを開きます。詳細は、[147 ページの「バージョンを開く」](#)を参照してください。

バージョンの追加

別のファイルをバージョンとしてリポジトリ内のアーチファクトに追加します。

注： リポジトリ内のすべてのアーチファクトに複数のバージョンを割り当てることができます。ただし、ジョブ、ジョブの出力、Interactive Reporting データベース接続ファイル、ショートカット、Web Analysis アーチファクトおよび Financial Reporting アーチファクトを除きます。

▶ バージョンを追加するには、次の手順に従います。

- 1 **エクスプローラ**で、アーチファクトを選択します。
- 2 「**ファイル**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。
「プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 バージョンを選択し、新しいバージョンの追加をクリックします。
- 4 参照をクリックし、新規バージョンとして追加するファイルを選択します。
- 5 **オプション:** 次の手順を 1 つ以上行います。
 - 説明を入力します。
 - 「**例外とみなす**」を使用可能にし、メッセージを入力します。例外が発生すると、例外ダッシュボードにメッセージが表示されます。
 - 優先度を「**高**」または「**標準**」に設定します。
- 6 **OK** をクリックします。

バージョンが最新バージョンとしてリポジトリに追加されます。

バージョンのプロパティの表示または変更

各バージョンには独自のプロパティがあります。

▶ バージョンのプロパティを表示または変更するには、次の手順に従います。

- 1 **エクスプローラ**で、バージョンを編集するアーチファクトをクリックします。
- 2 「**ファイル**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。
- 3 「**バージョン**」を選択します。
- 4 **変更**を選択します。



変更可能なプロパティは、「説明」、「例外とみなす」および「メッセージ」のみです。詳細は、[148 ページの「バージョンのプロパティ」](#)を参照してください。

- 5 プロパティを変更したら、**OK** をクリックします。

バージョンのプロパティ

表 42 次の表にバージョンのプロパティを示します。

表 42

バージョンのプロパティ	説明
説明	このバージョンを識別する説明。「2/03 現在、暫定数字を使用」、「マーケティングのコメントの原案」のように入力します。長さは 250 文字に制限されます。
作成日	(読取り専用)バージョンが作成された日付。
最終更新	(読取り専用)バージョンが変更された日付。バージョンを変更すると、そのバージョンのプロパティが置換または変更されます。
更新者	(読取り専用)バージョンを最後に変更したユーザー。
優先度	エクスペローラに標準優先度または高優先度が表示されます。  は、高優先度を示します。ユーザーは優先度を基準にしてソートしたり、高優先度のアーチファクトを検索したりできます。 注： 高優先度のスケジュール済ジョブの場合、  は表示されません。 このプロパティは、管理者がシステムの優先度機能をアクティブにした場合にのみ使用可能です。
サイズ	(読取り専用)自動的に設定されるファイル・サイズ。
例外とみなす	例外は、しきい値に達した場合などの状況または結果を示します。「例外とみなす」はユーザーが手動で設定できます。 アーチファクトの最新バージョンに対してこのオプションを設定し、例外ダッシュボードにアーチファクトを配置すると、その状態が例外ダッシュボードに表示されます。詳細は、 166 ページの「例外の使用方法」 を参照してください。
メッセージ	このバージョンの例外に関連付けられたテキスト。バージョンに例外のフラグが設定されると、このメッセージが出力されるか、ユーザーの例外ダッシュボードから表示できるようになります。

複数のバージョンの一覧表示

エクスペローラのコンテンツ領域に最新のアーチファクト・バージョンが表示されます。

- ▶ すべてのバージョンを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 「表示」の「列の表示」を選択します。
 - 2 バージョンをクリックし、保存をクリックします。

バージョンの削除

1 つ以上のバージョンを同時に削除します。

- ▶ バージョンを削除するには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラで、バージョンを削除するアーチファクトに移動します。
- 2 「ファイル」を選択し、「プロパティ」を選択します。
アーチファクトのプロパティが表示されます。
- 3 バージョンをクリックし、バージョンを選択します。
- 4 選択項目の削除をクリックします。
- 5 OK をクリックします。

6

情報の表示と整理

この章の内容

表示	151
さまざまなファイル・タイプの使用法	152
新規ブック、バッチ、ドキュメントまたは Workspace ページの作成	152
ドキュメントのデータ・ソースの選択	152
お気に入りの使用法	152
サブスクリプションの使用法	155
個人用ページの使用法	158
Workspace ページ	174

表示

ドキュメント内のコンテンツを表示、操作、変更するには、「Workspace ページ」、「エクスプローラ」、「アプリケーション」および「アイテムを開く」を使用します。これらのすべての機能には「ナビゲート」からアクセスできます。ただし、「エクスプローラ」はツールバーから選択できます。

- Workspace ページ - 様々なソースからコンテンツを集めたページを作成したり編集したりできます。65 ページの「ホーム・ページの使用法」も参照してください。
- エクスプローラ - リポジトリ内を移動してファイルやフォルダを検索できます。
- アプリケーション - 表示または起動する Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Oracle Business Intelligence 製品または Performance Scorecard を選択します。
- 「アイテムを開く」 - コンテンツ・ペインに表示するドキュメントの名前を選択します。このリストには開くドキュメントが表示されます。ドキュメントを操作したり表示したりするには、ビュー・ペインを使用します。たとえば、ビュー・ペインを使用して、アクティブなドキュメントの特定の情報に移動します。アクティブなドキュメントが Web Analysis ドキュメントの場合、ドキュメント・パネルにフィルタ、ページ、行セクションなどのオプションが Windows エクスプローラ形式で表示されます。

さまざまなファイル・タイプの使用方法

各ファイル・タイプの表示方法および使用方法の詳細は、次の各項を参照してください。

- 181 ページの「[Financial Reporting の使用方法](#)」
- 197 ページの「[Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計](#)」
- 219 ページの「[Interactive Reporting](#)」
- 349 ページの「[Production Reporting ドキュメントの使用](#)」
- 353 ページの「[Web Analysis の使用方法](#)」

新規ブック、バッチ、ドキュメントまたは Workspace ページの作成

新規ドキュメント・ウィザードを使用すると、次のアイテムが作成されます。

- Web Analysis ドキュメント。詳細は、[358 ページの「Web Analysis ドキュメントの作成」](#)を参照してください。
- Interactive Reporting ドキュメント。詳細は、[223 ページの「Interactive Reporting ドキュメントの操作」](#)を参照してください。
- ブック。詳細は、[199 ページの「ブックの作成」](#)を参照してください。
- バッチ。詳細は、[214 ページの「バッチの設計」](#)を参照してください。
- Workspace ページ。詳細は、[174 ページの「Workspace ページ」](#)を参照してください。

ドキュメントのデータ・ソースの選択

ドキュメントを作成するときに、データ・ソースを指定する必要があります。指定したデータ・ソースによってドキュメント・タイプが決まります。

- Web Analysis ドキュメントを作成するには、Web Analysis データベース接続を指定します。詳細は、[358 ページの「Web Analysis ドキュメントの作成」](#)を参照してください。
- 既存のドキュメントをベースにした Interactive Reporting ドキュメントを作成するには、Interactive Reporting ドキュメントを指定します。詳細は、[223 ページの「Interactive Reporting ドキュメントの操作」](#)を参照してください。

お気に入りの使用方法

ユーザーは独自のお気に入りを設定し、頻繁にアクセスするアイテムを追跡して後で表示できます。アイテムをユーザーのお気に入りにプッシュできるのは、管理者とユーザーです。

アイテムをお気に入りにプッシュするには、適切な役割が必要です。詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』

ド』の対応する付録を参照してください。エクスプローラにアクセスするための適切な役割を持っていない場合は、「お気に入り」メニューを選択してお気に入りリストを表示できます。

お気に入りでは次の操作を行えます。

- 153 ページの「お気に入りへのアイテムの追加」
- 153 ページの「お気に入りへのアイテムのプッシュ」
- 155 ページの「お気に入りの管理」

▶ お気に入りへのアクセス

- 1 「お気に入り」を選択します。
- 2 お気に入りのリストからアイテムを選択します。

ヒント： 個人用ページにアクセスすることもできます。

お気に入りへのアイテムの追加

お気に入りにアイテムを追加したり、アイテムを別のユーザーのお気に入りにプッシュしたりするには、次の操作を行います。

- 表示以上のアクセス権が必要です。
- アイテムをお気に入りに追加します。
- フォルダを追加し、お気に入りからそのフォルダにアクセスします。フォルダ内から直接アイテムにアクセスすることはできません。

▶ アイテムをお気に入りに追加するには、次の手順に従います。

- 1 「エクスプローラ」を選択し、アイテムに移動します。
- 2 右クリックして「お気に入りに追加」を選択します。

▶ フォルダをお気に入りに追加するには、次の手順に従います。

- 1 「エクスプローラ」を選択し、フォルダに移動します。
- 2 右クリックして「お気に入りに追加」を選択します。

お気に入りへのアイテムのプッシュ

アイテムを別のユーザーのお気に入りにプッシュするには、ユーザー名、グループまたは役割を指定します。

▶ アイテムをお気に入りにプッシュするには、次の手順に従います。

- 1 「エクスプローラ」を選択し、アイテムを選択します。
- 2 「ファイル」を選択し、「プロパティ」を選択します。
- 3 「プロパティ」で、左ペインの権限を選択します。

注： マウスを使用し、アーチファクトを右クリックして「**権限の編集**」を選択することもできます。

4 「ユーザー、グループ、役割」タブに次の情報を移入します。


1. リストを名前でもフィルタするには、「**1文字目が**」、「**次を含む**」または「**次のグループ内**」を選択し、文字を入力します。

「**次のグループ内**」フィルタは役割に使用できません。

2. リストをユーザー・タイプでもフィルタするには、**役割、グループまたはユーザー**を選択し、「**リストの更新**」をクリックします。

「ユーザー、グループ、役割」タブに、ドロップダウン・リストの選択項目に基づいてアイテムが表示されます。

注： すべてのユーザー、グループ、役割がリストに表示されない場合は、別の条件を指定してリストをフィルタするか、管理者にお問い合わせください。リストに表示されるユーザー、グループ、役割の最大数は管理者が決定します。ワイルド・カードはサポートされていません。フィルタは大文字と小文字を区別しません。

5 「ユーザー、グループ、役割」タブからユーザーを選択し、 をクリックします。

6 「選択したユーザー、グループ、役割」で、

「お気に入り」ドロップダウン・メニューから「**プッシュ**」を選択し、アイテムをユーザーのお気に入りにプッシュします。

7 選択したユーザー、グループおよび役割にこのアイテムを提供しますを選択します。

注： 「ファイルへのアクセス」オプションが「アクセス権なし」に設定され、このアイテムがそれより高いアクセス権を継承しない場合、アイテムはプッシュされません。


8 手順 1 から手順 7 までを繰り返して他のアイテムをお気に入りにプッシュします。

9 OK をクリックします。

10 オプション: インポートする他のコンテンツに権限を適用する場合は、次のように選択してデフォルト権限にします。

1. ファイルについては、インポートしたすべてのファイルのデフォルト権限にします。を選択します。
2. フォルダについては、インポートしたすべてのフォルダのデフォルト権限にしますを選択します。

これにより、インポートしたファイルに自動的に同じ権限が設定されます。いつでも各ファイルの権限を変更したり、デフォルト権限をリセットしたりできます。

注： 役割、グループまたはユーザーを選択したリストから除去するには、除去する名前をハイライトして  をクリックします。

お気に入りの管理

▶ お気に入りのアイテムの管理

- 1 EPM Workspace で、「お気に入り」を選択し、「お気に入りの管理」を選択します。
- 2 お気に入りからアイテムを除去するには、除去するアイテムの横にある削除をクリックします。
- 3 お気に入りのリストにアイテムを表示するには、表示するアイテムの横にある表示をクリックします。

注： プッシュされたアイテムはお気に入りで非表示にできますが、受信者は除去できません。プッシュされたアイテムは、プッシュを実行したユーザーのみが完全に除去できます。

- 4 オプション: 列の幅のサイズを変更するには、列の枠線上でマウスをドラッグし、ポインタが両方向矢印に変わったら枠線を左右にドラッグします。
- 5 「OK」をクリックします。

サブスクリプションの使用方法

サブスクリプションを使用すると、次の操作を行えます。

- 特定のアイテムの変更、特定のジョブの実行、例外の生成またはフォルダ内の変更のたびに電子メール通知とアイテムへのリンクを受け取ることができます。リポジトリ内のアイテムをサブスクライブし、そのアイテムを1つ以上の電子メール・アドレスに送信します。詳細は、[155 ページの「サブスクリプションの作成」](#)を参照してください。
- フォルダをサブスクライブすると、そのフォルダ内で新規アイテムがインポートまたは作成されるか、そのサブフォルダ内でアイテムが変更されるたびに通知を受け取ります。詳細は、[157 ページの「フォルダのサブスクライブ」](#)を参照してください。

注： 個人用ページはサブスクライブできません。

サブスクリプションの作成

変更されたときに通知を受け取るアイテムをサブスクライブします。アイテムが変更されたこと示す電子メール通知または変更されたアイテムが添付された電子メール通知を受け取ります。

アイテムが変更されたときに通知を受け取るのではなく、例外が発生したときに通知を受け取るようにサブスクライブすることもできます。そのようにサブスクライブするには、アイテムの所有者がアイテムまたはジョブで例外を生成できるようにする必要があります。次のように設定すると、アイテムとジョブで例外が生成されます。

- Production Reporting ジョブおよび汎用ジョブは、例外を生成するようにプログラムで設定できます。詳細は、[523 ページの「Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート」](#)を参照してください。

- Interactive Reporting ジョブは、例外を生成するようにプログラムで設定できます。詳細は、488 ページの「Interactive Reporting プログラムで例外をサポート」を参照してください。
- アイテムで例外が生成されたことを示す「例外とみなす」バージョン・プロパティを設定して、アイテムに手動で例外を設定します。詳細については、148 ページの「バージョンのプロパティ」を参照してください。例外が設定されているかどうかを確認するには、最新バージョンのアイテムを使用します。

▶ サブスクリプションを作成するには、次の手順に従います。

- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、サブスクライブするアイテムに移動します。
- 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブを選択します。
- 3 「サブスクライブ」ページで、次の手順を行います。
 - 「サブスクライブして次のアドレスに電子メールで通知」を選択します。
 - テキスト・ボックスに、通知受信者の電子メール・アドレスを1つ以上入力します。
 - アイテムを添付ファイルとして送信する場合は、「"レポート名"のファイルを電子メールに添付(可能な場合)」を選択します。

ヒント： 添付ファイルの最大サイズは管理者が設定します。

- 4 オプション: プログラム例外が発生した場合にのみアイテムをサブスクライブするには、「例外のみ」を選択します。このオプションは、ジョブにのみ適用されます。

注： このオプションが表示されない場合は、このアイテムまたはジョブで例外が使用されていません。

▶ サブスクリプションをデフォルト個人用ページに追加するには、次の手順に従います。

- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、サブスクライブするアイテムに移動します。
- 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブを選択します。
- 3 「個人用ページ」タブをクリックし、次の操作を行います。

注： このオプションは、複数周期の Interactive Reporting ジョブでは使用可能ではありません。

- リンクをサブスクリプションに追加するには、「**マイ・ブックマークに追加**」をクリックします。
- サブスクリプションにリンクするイメージを追加するには、「**イメージ・ブックマークとして追加**」をクリックします。

構成済のイメージを使用するか、リポジトリ内のイメージを参照できます。

- 構成済のアイコンを使用するには、「**構成済のアイコン・ファイルを使用**」をクリックします。

- カスタム・アイコンを使用するには、「**カスタム・アイコン・ファイルを使用**」をクリックし、パスとファイル名を入力するか「**参照**」ボタンを使用します。
- イメージ・サイズを指定するには、幅と高さのテキスト・ボックスにピクセル値を入力します。値を入力しない場合は、イメージ全体が使用されます。

4 OK をクリックします。

▶ **Interactive Reporting** ドキュメントのセクションをデフォルト個人用ページに追加するには、次の手順に従います。

1 「**エクスプローラ**」を選択し、サブスクライブするアイテムに移動します。

注： **Interactive Reporting** ドキュメントにセクションが含まれている必要があります。

2 アイテムを右クリックし、サブスクライブをクリックします。

3 「**個人用ページ**」タブで、**Interactive Reporting** ドキュメントのセクションの追加をクリックします。

4 「**セクションの埋込み**」でセクションを選択し、追加をクリックします。

5 手順 4 を繰り返して必要なすべてのセクションを追加します。

6 「**OK**」をクリックします。

サブスクリプションの変更または削除

サブスクライブしたアイテムのリストを管理して、サブスクリプションを変更または除去できます。

▶ サブスクリプションを変更または除去するには、次の手順に従います。

1 **EPM Workspace** で、「**お気に入り**」を選択し、「**購読アイテムの表示**」を選択します。

2 サブスクリプションをクリックし、サブスクリプションを開くをクリックします。

3 サブスクリプションを除去するには、サブスクライブして次のアドレスに電子メールで通知の選択を解除します。

4 サブスクリプションを変更するには、[157 ページの「フォルダのサブスクライブ」](#)の手順に従います。

注： サブスクリプションを除去すると、そのサブスクリプションは個人用ページのすべてのブックマーク・セクションからも除去されます。

5 OK をクリックします。

フォルダのサブスクライブ

フォルダをサブスクライブすると、そのフォルダにインポートされたアイテムまたはフォルダやそのサブフォルダ内のアイテムへの更新が通知されます。

フォルダまたはサブフォルダのコンテンツ全体に関心がある場合は、フォルダまたはサブフォルダをサブスクライブできます。

- ▶ フォルダをサブスクライブするには、次の手順に従います。
- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、サブスクライブするフォルダに移動します。
- 2 アイテムを右クリックし、ショートカット・メニューからサブスクライブを選択します。
- 3 このフォルダの通知を受け取ったり電子メール・アドレスを変更または入力するには、サブスクライブ設定でサブスクライブして次のアドレスに電子メールで通知を選択します。
- 4 サブスクリプションの1人以上の受信者の電子メール・アドレスを入力します。

注： 電子メール・アドレスを入力する必要があります。受信者のリストから選択することはできません。

- 5 サブフォルダに対する変更が行われた場合に通知を受け取るには、「ユーザー」のサブフォルダへの変更の通知を選択します。
- 6 フォルダ内のアイテムで例外が発生した場合にのみ通知を受け取るには、例外アイテムを選択します。
- 7 フォルダ内のアイテムが高優先度アイテムの場合にのみ通知を受け取るには、高優先度アイテムを選択します。

注： このオプションは、管理者が優先度を使用可能にしている場合にのみ使用可能です。

- 8 「**OK**」をクリックします。

サブスクリプションの受信および表示

サブスクリプションの電子メール通知を使用すると、リポジトリを参照することなくアイテムに直接アクセスできます。

電子メール通知には、次の2つのフォーマットがあります。

- **アイテムまたはフォルダへのリンクを含む電子メール** - リンクをクリックします。そのアイテムにアクセスできる場合は、ドキュメントを開くことができます。
- **アイテムが添付された電子メール** - 指示に従って、ファイルを表示するか、添付されたアイテムをファイルにダウンロードします。

個人用ページの使用法

個人用ページはカスタマイズ可能なページで、EPM Workspace アイテムおよび Web ページ上のその他の Web コンテンツの整理、表示およびアクセスが可能です。個人用ページ上のアイテムは相互にやり取りしません。アイテムが変更されても、個人用ページ上のアイテムにその変更が反映されることはありません。対話型ダッシュボードを構築するには、『Hyperion Interactive Reporting オブジェクト・モデル

およびダッシュボード開発サービス開発者ガイド Vol.1: 『ダッシュボード・デザイン・ガイド』を参照してください。

個人用ページのコンテンツとレイアウトの変更、追加の個人用ページの作成、個人用ページのコピーとカスタマイズ、リポジトリ・アイテムまたは Web サイトへのリンクの追加などの操作を行うことができます。

個人用ページを構成するコンポーネントは、コンテンツ・ウィンドウとファイル・コンテンツ・ウィンドウです。個人用ページは最大化モードで開き、ビュー・ペインは自動的に非表示になります。個人用ページを発行する場合、個人用ページの発行フェーズでアクセス権を設定できます。Web Analysis、Production Reporting、Financial Reporting および Interactive Reporting ジョブのブックマークは、EPM Workspace に新規タブとして開きます。

- コンテンツ・ウィンドウは、リポジトリ・アイテムまたは外部のソースへのリンク、イメージ・ブックマークおよびブロードキャスト・メッセージのコレクションです。
- ファイル・コンテンツ・ウィンドウには、アイテムへのリンクではなくアイテムのコンテンツが表示されます。次のアイテムのコンテンツを表示できます。
 - 埋め込まれた Interactive Reporting ドキュメント・セクション
 - HTML ファイル
 - HTML ジョブの出力

コンテンツ・ウィンドウまたはファイル・コンテンツ・ウィンドウを追加または除去できます。コンテンツ・ウィンドウとファイル・コンテンツ・ウィンドウは、ブロードキャスト・メッセージを除きオプションです。ブロードキャスト・メッセージが表示される別の個人用ページがない限り、ブロードキャスト・メッセージを除去することも、ブロードキャスト・メッセージが表示される個人用ページを削除することもできません。

個人用ページのコンテンツは次のとおりです。

- **ブロードキャスト・メッセージ** - 管理者がデータを移入する特別なフォルダへのリンク。このフォルダのコンテンツは、1つ以上のコンテンツ・ウィンドウとして表示され、管理者によって設定および管理されます。
ブロードキャスト・メッセージには、次の2つのサブフォルダが含まれます。
 - 個人用ページのコンテンツ - 発行された個人用ページ。
 - サンプル個人用ページ - 管理者によって設定された個人用ページのコンテンツおよびアイテムのサブスクライブによって個人用ページに追加されたコンテンツ。
- **マイ・ブックマーク** - Web ページやリポジトリ・アイテムへのリンクのコレクション。
- **イメージ・ブックマーク** - Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンク。
- **ファイル・コンテンツ・ウィンドウとして表示される HTML ファイルまたはジョブの出力** - 個人用ページに表示される EPM Workspace の HTML アイテムのコンテンツ。URL も表示できます。

- **例外ダッシュボード** - 例外が使用可能なジョブまたは例外とみなすアイテムのトラフィック・ライト・インディケータを追加します。トラフィック・ライトが赤色の場合、アイテムが例外とみなされているか、ジョブで例外が発生したことを意味します。トラフィック・ライトが緑色の場合、ジョブでまだ例外が発生していないことを意味します。
- **表示可能な Interactive Reporting セクション** - アクセス可能な Interactive Reporting ドキュメントおよび Interactive Reporting ジョブの出力のセクション。

次の図は、様々なコンテンツ・ウィンドウとファイル・コンテンツ・ウィンドウを示しています。

図 1

The screenshot shows a dashboard layout with several components:

- 1** points to the **Broadcast Messages** section, which displays "No messages."
- 2** points to the **Sample Personal Page** section, which contains a list of links: MSND logo, MSND Sales, MSND Script, Page Footer, Unit Sales 1597 Chart, Unit Sales 1597 Pie, Unit Sales 1597 Trend, and William Shakespeare Bio.
- 3** points to the **My Bookmarks** section, which lists: report, hyperion website, and Text File Sample.
- 4** points to the **Exceptions Dashboard** section, which displays "No monitored exceptions."
- 5** points to the **MSND Sales** section, which features a large graphic for "A Midsummer Nights by William Shakespeare" and a "Sales Report for Year 1597 by Script and Folio D". Below the graphic is a text block: "Media formats: Play folio, musical score, video. Retail for Internet". To the right of the text is a bar chart titled "Units by Month" with a y-axis from 0 to 1,250,000 and x-axis labeled 1, 2, 3, 4.

注： 管理者が見出しバーの使用を構成した場合、各コンテンツ・ウィンドウのタイトルは、個人用ページの色付きの見出しに表示されます。

個人用ページには、次のアイテムが含まれます。

1. ブロードキャスト・メッセージの見出しバー - 各コンテンツ・ウィンドウの見出しのフォーマットを設定します。
2. リンク - HTML ページまたは Web サイトへのリンク。
3. コンテンツ・ウィンドウ - サブスクリプションを使用して設定されたマイ・ブックマーク。

4. 例外ダッシュボード - ジョブの例外と通知メッセージまたは例外と見なされるアイテムのリストが表示されます。
5. ファイル・コンテンツ・ウィンドウ - HTML ファイルのコンテンツが表示されます。


個人用ページのコンテンツのカスタマイズ

個人用ページに含める情報と個人用ページの外観を指定できます。個人用ページをカスタマイズするには、次の各手順を参照してください。


- [161 ページの「個人用ページのコンテンツの追加または削除」](#)
- [161 ページの「個人用ページでの HTML コンテンツの表示」](#)
- [163 ページの「個人用ページへの Interactive Reporting ドキュメント・セクションの埋込み」](#)
- [165 ページの「ブックマークの作成」](#)
- [166 ページの「例外の使用方法」](#)
- [170 ページの「個人用ページのレイアウトの変更」](#)
- [170 ページの「個人用ページの色の変更」](#)

個人用ページのコンテンツの追加または削除

- ▶ 個人用ページに対してコンテンツ(コンテンツ・ウィンドウ)を追加または除去するには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、「**個人用ページの管理**」を選択します。
- 2 個人用ページを選択します。
- 3  を選択します。

選択した個人用ページのコンテンツが個人用ページのコンテンツ領域に表示されます。

- 4 コンテンツの選択から追加するコンテンツを選択し、 を選択します。

「コンテンツの選択」領域に表示されるアイテムは、管理者が管理します。サブスクライブ機能を使用してコンテンツを追加することもできます。詳細は、[155 ページの「サブスクリプションの使用方法」](#)を参照してください。

- 5 アイテムを除去するには、個人用ページのコンテンツから除去するコンテンツを選択し、削除を選択します。
- 6 設定の保存を選択するか、ウィンドウを閉じて設定を取り消します。変更内容は、更新した個人用ページに自動的に表示されます。

個人用ページでの HTML コンテンツの表示

HTML ファイルは、アイテムへのリンクではなくアイテムのコンテンツが表示される個人用ページのファイル・コンテンツ・ウィンドウとして追加します。

注： HTML ジョブの出力をファイル・コンテンツ・ウィンドウとして表示するには、Production Reporting ジョブおよび汎用ジョブからの HTML ジョブの出力を使用可能にする必要があります。

個人用ページでの HTML ファイルの表示

- ▶ 個人用ページで HTML ファイルを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、個人用ページに追加するドキュメントが見つかるまでフォルダをナビゲートします。
 - 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブを選択します。
 - 3 「サブスクライブ」ウィンドウで「個人用ページ」タブを選択します。
 - 4 ファイル/出力をファイルのコンテンツ・ウィンドウとして表示を選択します。

このオプションが使用可能でない場合は、このファイルまたは出力をファイル・コンテンツ・ウィンドウとして表示できません。
 - 5 オプション: ファイル・コンテンツ・ウィンドウを個人用ページに追加するには、個人用ページをクリックします。

HTML が埋込み可能なコンテンツ・ウィンドウのリストに表示されます。

個人用ページへのファイル・コンテンツ・ウィンドウの追加

- ▶ 個人用ページにファイル・コンテンツ・ウィンドウを追加するには、次の手順に従います。
 - 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。

ヒント： ページ上のブロードキャスト・メッセージとコンテンツ・ウィンドウの場所を定義するには、個人用ページを選択し、右クリックして「レイアウトのカスタマイズ」を選択します。
 - 2 ファイル・コンテンツ・ウィンドウを追加する個人用ページを選択し、コンテンツのカスタマイズをクリックします。
 - 3 「コンテンツの選択」ウィンドウで、目的のファイル・コンテンツ・ウィンドウをクリックし、個人用ページのコンテンツ・リストに追加します。
 - 4 設定の保存をクリックします。

すべての個人用ページからのファイル・コンテンツ・ウィンドウの削除

- ▶ 個人用ページからファイル・コンテンツ・ウィンドウを除去するには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、元の HTML ドキュメントまたは出力ファイルに移動します。
 - 2 アイテムを右クリックし、「サブスクライブ」を選択します。

- 3 「サブスクライブ」で、ファイル/出力をファイルのコンテンツ・ウィンドウとして表示の選択を解除します。
- 4 「OK」を選択します。

個人用ページへの Interactive Reporting ドキュメント・セクションの埋込み

Interactive Reporting ドキュメントまたは Interactive Reporting ジョブの出力のセクションを個人用ページに埋め込みます。

- アイテムが Interactive Reporting ジョブの出力の場合、そのアイテムは単一サイクル・ジョブからの HTML である必要があります。最新のジョブの出力は埋め込まれたセクションに表示されます。この出力は対話型ではありません。
- 埋め込まれた Interactive Reporting セクションは完全に対話型であり、オプションはポップアップ・メニューから使用可能です。

Interactive Reporting のメイン・メニュー・バーまたはナビゲーション・バーを埋め込まれたセクションの一部として含めるかどうかを指定します。埋め込める Interactive Reporting ドキュメント・セクションは次のとおりです。

- **結果** - コンテナに収まるように縦方向に縮小され、横方向のスクロール・バーが表示されます。表示領域を縦方向に広げるには、メイン・メニュー・バーにあるページ・ナビゲーション・オプションを使用します。
- **テーブル** - コンテナに収まるように縦方向に縮小され、横方向のスクロール・バーが表示されます。表示領域を縦方向に広げるには、メイン・メニュー・バーにあるページ・ナビゲーション・オプションを使用します。
- **ピボット** - コンテナに収まるように縦方向に縮小され、横方向のスクロール・バーが表示されます。表示領域を縦方向に広げるには、メイン・メニュー・バーにあるページ・ナビゲーション・オプションを使用します。
- **チャート** - コンテナに収まるように均等に拡大、縮小されます。
- **レポート** - コンテナに収まるように切り取られます。
- **ダッシュボード** - コンテナに収まるように切り取られます。

個人用ページへの Interactive Reporting セクションの埋込み

- ▶ 個人用ページに Interactive Reporting セクションを埋め込むには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、Interactive Reporting ドキュメントまたはジョブの出力ファイルに移動します。
 - 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブをクリックします。
 - 3 「個人用ページ」タブをクリックします。
 - 4 Interactive Reporting ドキュメントのセクションの追加を選択します。
 - 5 セクションの埋込みから追加するセクションを選択します。
 - 6 更新する個人用ページを選択します。

注： 複数の個人用ページがある場合は、リストが表示されます。

7 追加をクリックします。

「埋め込まれた BQY セクション」リスト・ボックスにセクションが表示されます。

8 個人用ページに追加する各セクションのサイズを指定します。

「埋め込まれた BQY セクション」からセクションを選択し、その高さと幅をそれぞれのフィールドにピクセル単位で入力します。

9 OK をクリックします。

個人用ページに埋め込まれた Interactive Reporting セクションの編集

Interactive Reporting セクションを埋め込んだら、そのプロパティを編集できます。

▶ 埋め込まれたセクションの外観を編集するには、次の手順に従います。

1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページ」を選択します。

2 個人用ページで  を選択します。

3 結果セクションの編集ウィンドウで設定を変更します。

- 埋め込まれたセクションの置換 - (読取り専用)現在埋め込まれているセクションを表示します。
- セクションを使用 - 現在埋め込まれているセクションに代わるセクションを選択します。現在埋め込まれているセクションの名前がデフォルトで表示されます。
- セクションのサイズの指定 - セクションのサイズをピクセル単位で入力します。
- ツールバー表示 - セクションとともに埋め込む Interactive Reporting サーバーのツールバーを選択します(デフォルトは「なし」)。
 - 「最初のページ」、「前のページ」、「次のページ」および「最後のページ」ツールバー・ボタンのみ表示するには、「ナビゲーションのみ」を選択します。
 - Interactive Reporting サーバーのヘルプ・ボタンを除くすべてのツールバー・ボタンを表示するには、「標準」を選択します。
 - ツールバーを表示しない場合は、「なし」を選択します。

4 設定の保存をクリックします。

編集した埋込みセクションが個人用ページに表示されます。

個人用ページからの埋め込まれた Interactive Reporting セクションの削除

埋め込まれた Interactive Reporting セクションを個人用ページから除去できます。

- ▶ 埋め込まれた Interactive Reporting セクションを個人用ページから除去するには、除去する Interactive Reporting セクションを含むファイル・コンテンツ・ウィンドウのタイトルの X をクリックします。
- ▶ 埋め込まれた Interactive Reporting セクションをすべての個人用ページから除去するには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、個人用ページから除去する埋込みセクションを含むアイテムが見つかるまでフォルダをナビゲートします。
 - 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブをクリックします。
 - 3 「サブスクライブ」ページで、「Interactive Reporting ドキュメントのセクションの追加」に移動します。
 - 4 リスト・ボックスから除去するセクションを選択し、削除をクリックします。
 - 5 OK をクリックします。

ブックマークの作成

個人用ページにブックマークを追加します。ブックマークは、アイテムや URL へのテキスト・リンクまたはイメージ・リンクです。

エクスプローラからの EPM Workspace アイテムのブックマークの追加

- ▶ アイテムのブックマークを追加するには、次の手順に従います。
 - 1 「エクスプローラ」を選択し、アイテムに移動します。
 - 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブを選択します。
 - 3 「個人用ページ」タブで、マイ・ブックマークに追加を選択します。

注： 新規ブックマークは、マイ・ブックマーク・アイテムを含むすべての個人用ページに表示されます。

- 4 OK を選択します。
- 5 個人用ページに移動します。

ブックマークが「マイ・ブックマーク」リストに表示されます。

注： 個人用ページの「マイ・ブックマーク」リストから Web Analysis、Production Reporting、Financial Reporting または Interactive Reporting ジョブのブックマークを選択すると、そのジョブが EPM Workspace に新規タブとして開きます。

EPM Workspace アイテムのイメージ・ブックマークの追加

サブスクライブするアイテム(フォルダを除く)のブックマークを追加します。

- ▶ EPM Workspace アイテムのイメージ・ブックマークを追加するには、次の手順に従います。
- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、元のアイテムに移動します。
 - 2 アイテムを右クリックし、サブスクライブを選択します。
 - 3 サブスクライブ設定でイメージ・ブックマークとして追加を選択し、次の情報を指定します。
 1. 使用するグラフィック・ファイルを指定します。次のいずれかを選択します。
 - ドロップダウン・リスト内の構成済のアイコン・ファイル。
 - カスタム・アイコン・ファイル(管理者が EPM Workspace ファイル・システムにカスタム・グラフィックを追加し、そのパスをファイルの使用者に知らせる必要があります)。ローカル・ファイル・システムのグラフィック・ファイルを使用しても動作しません。
 2. イメージを表示するためのサイズをピクセル単位で入力します。
 - 4 OK を選択します。

個人用ページからの URL ブックマークの追加

ブックマークは、個人用ページ内から追加することもできます。

- ▶ 個人用ページからブックマークを追加するには、次の手順に従います。
- 1 「**お気に入り**」を選択し、「**個人用ページ**」を選択します。
 - 2 リストから個人用ページを選択します。右クリックし、「**ブックマーク URL の追加**」を選択します。
 - 3 「**URL ブックマークをマイ・ブックマークに追加**」ダイアログ・ボックスで、ブックマーク名とブックマークの URL を入力します。
 - 4 「**保存**」を選択します。

注： URL は http://または https://で始める必要があります。

例外の使用方法

例外は、手動操作を必要とする状態または結果(しきい値に達した場合など)です。例外が発生すると、登録ユーザーの例外ダッシュボード上の対応するインディケータが変化するか、登録ユーザーに通知が送信されます。

例外ダッシュボードは、例外のモニターに使用されるオプションのコンテンツ・ウィンドウで、個人用ページに表示されます。各インディケータは、例外として手動でフラグが設定された、1つの例外対応のジョブまたはアイテムを表します。

ジョブまたはアイテムの例外を使用するには、次の操作を行います。

- ジョブのモニターする例外を使用する方法:
 - ジョブのモニターする例外をプログラムで使用可能にします。例外は、特定の条件またはしきい値を満たすと設定されます。ジョブの例外は、

Production Reporting ジョブ、Interactive Reporting ジョブまたは汎用ジョブによって生成されます。詳細は、167 ページの「[例外の構成](#)」を参照してください。

- ジョブをサブスクライブし、例外発生時に電子メールで通知を受けるように選択します。
- 例外ダッシュボードにジョブを配置し、その例外ステータスを表示します。例外ダッシュボードに追加したジョブごとに、緑色のトラフィック・ライト・アイコンが表示されます。ジョブで例外が発生すると、トラフィック・ライトが赤色に変わります。詳細は168 ページの「[例外ダッシュボードの使用法](#)」を参照してください。
- アイテムの例外を使用する方法:

注： 例外を使用するには、アイテムにバージョン・プロパティが必要です。

- 手動でアイテムの例外ステータスを設定します。詳細は、167 ページの「[例外の構成](#)」を参照してください。
- アイテムをサブスクライブし、例外発生時に電子メールで通知を受けるように選択します。
- 例外ダッシュボードにアイテムを配置し、その例外ステータスを表示できます。例外ダッシュボードに追加したアイテムごとに、赤色のトラフィック・ライト・アイコンが表示されます。例外ステータスを設定しなければ、例外ダッシュボードにアイテムを追加できません。詳細は168 ページの「[例外ダッシュボードの使用法](#)」を参照してください。

複数の個人用ページに例外ダッシュボードを配置している場合でも、存在する例外ダッシュボードは1つのみです。ある個人用ページの例外ダッシュボードを変更すると、その例外ダッシュボードを含むすべての個人用ページに変更が反映されます。

例外の構成

バージョン・プロパティが設定されたジョブとアイテムの例外を構成します。例外は次の2つの方法で構成できます。

- 特定の条件を満たした場合に例外を生成するようにプログラムでジョブを設定します。ジョブを実行して例外が発生すると、ジョブの例外ステータスが設定されます。
 - プロパティを「**例外とみなす**」に設定して、アイテムの例外を手動で設定します。
- ▶ ジョブのモニターする例外機能をプログラムで使用可能にするには、次の操作を行います。
- 例外を `output.properties` ファイルに書き込むように Production Reporting ジョブ(*.sqr)または汎用ジョブを設計します。詳細は、523 ページの「[Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート](#)」を参照してください。

- 例外を `output.properties` ファイルに書き込むように汎用ジョブを設計します。詳細は、523 ページの「[Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート](#)」を参照してください。
 - 例外を書き込むように Interactive Reporting ジョブを設計します。詳細は、488 ページの「[Interactive Reporting プログラムで例外をサポート](#)」を参照してください。
- ▶ アイテムの例外ステータスを手動で設定するには、エクスプローラで最新バージョンのアイテムのプロパティを「[例外とみなす](#)」に設定します。詳細は、148 ページの「[バージョンのプロパティ](#)」を参照してください。

例外ダッシュボードの使用方法

例外ダッシュボードには、配置されている各ジョブまたはアイテムのトラフィック・ライト・インディケータが表示されます。トラフィック・ライト・インディケータは、例外が発生したか(赤色)発生していないか(緑色)を示します。

注： アイテムには、例外と例外ダッシュボードを使用するためのバージョン・プロパティがあります。



- ▶ 例外ダッシュボードでジョブを使用するには、次の手順に従います。
- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、例外をモニターするジョブに移動します。次にジョブを右クリックし、プロパティをクリックします。
 - 2 「**詳細**」で例外発生時に、ユーザーが例外ダッシュボードに追加可能を選択し、「**OK**」をクリックします。
 - 3 「**エクスプローラ**」を選択し、ジョブに移動します。次にジョブを右クリックし、サブスクライブをクリックします。
 - 4 「**個人用ページ**」タブで、例外ダッシュボードに追加を選択します。
このオプションがサブスクライブ設定ページにない場合は、ファイルの例外をモニターできません。
 - 5 **OK** をクリックします。
トラフィック・ライトが例外ダッシュボードに追加されます。トラフィック・ライト・インディケータは緑色です。ジョブが実行され、例外が発生すると、トラフィック・ライト・インディケータは赤色に変わります。
- ▶ 例外ダッシュボードでアイテムを使用するには、次の手順に従います。
- 1 「**エクスプローラ**」を選択し、例外をモニターするアイテムに移動します。
 - 2 アイテムを右クリックし、プロパティをクリックします。
 - 3 「**詳細**」で例外発生時に、ユーザーが例外ダッシュボードに追加可能を選択します。
 - 4 「**バージョン**」で最新バージョンのアイテムのプロパティを例外とみなすに設定し、「**OK**」をクリックします。
 - 5 「**エクスプローラ**」を選択し、アイテムに移動します。

- 6 アイテムを右クリックし、ショートカット・メニューからサブスクライブを選択します。
- 7 サブスクライブ設定で例外ダッシュボードに追加を選択します。
このオプションがサブスクライブ設定ページにない場合は、ファイルの例外をモニターできません。
- 8 OK をクリックします。
赤色のトラフィック・ライトが例外ダッシュボードに追加されます。このインディケータは、このアイテムに例外が設定されていることを示します。

個人用ページへの例外ダッシュボードの追加

例外ダッシュボードは、1 つまたは複数の個人用ページに追加します。


▶ 例外ダッシュボードを個人用ページに追加するには、次の手順に従います。

- 1 例外ダッシュボードを追加する個人用ページに移動します。
- 2  をクリックします。
- 3 例外ダッシュボードをクリックし、 をクリックします。
- 4 設定の保存をクリックします。

例外ダッシュボードのカスタマイズ

例外ダッシュボードの表示をカスタマイズします。

▶ 例外ダッシュボードをカスタマイズするには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、個人用ページを選択します。
- 2 例外ダッシュボードで  を選択します。
- 3 緑色のライトを非表示にして、例外発生時に赤色のライトを表示するには、例外を含むアイテムへのリンクのみ表示しますを使用可能にします。

注： このオプションは、ジョブで使用されるモニター対象の例外にのみ使用できます。トラフィック・ライトは、例外ステータスが設定された場合にのみ表示されます。アイテムの緑色のトラフィック・ライトは表示できません。

- 4 例外が発生した場合にその例外を説明するメッセージを赤色のライトの横に表示するには、グラフィック・インディケータの横に例外メッセージを表示します。を選択します。

注： Interactive Reporting ダッシュボードに例外メッセージを表示する `getException()` というスマート・カット・タグがあります。詳細は、『Hyperion Interactive Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。


- 5 プロパティの変更をクリックします。

個人用ページのレイアウトの変更

「レイアウト」ボタンを使用して、個人用ページの別のレイアウト・スタイルを選択するか、コンテンツ・ウィンドウを再配置します。

レイアウト・スタイルの指定

個人用ページのレイアウト・スタイルとして、ページの列またはセクションの数およびページ上でのそれらの表示位置があります。

- ▶ レイアウト・スタイルを指定するには、次の手順に従います。
- 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。
- 2 個人用ページを選択し、 を選択します。
- 3 レイアウト・スタイルの選択をクリックし、レイアウト・スタイルを選択します。
- 4 コンテンツ・ウィンドウを個人用ページの上部または下部のセクションに配置する場合は、ヘッダー・セクションを表示またはフッター・セクションを表示をクリックします。
- 5 設定の保存をクリックします。


コンテンツ・ウィンドウの再配置

- ▶ コンテンツ・ウィンドウを移動するには、次の手順に従います。
- 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。
- 2 個人用ページを選択し、レイアウトを選択します。
- 3 移動するコンテンツ・ウィンドウを選択します。
- 4 選択したコンテンツ・ウィンドウを現在配置されているセクション(列、ヘッダーまたはフッター)内で上下に移動する場合は、縦方向の矢印をクリックします。選択したコンテンツ・ウィンドウを別のセクションに移動する場合は、横方向の矢印をクリックします。
- 5 コンテンツ・ウィンドウが目的の位置に配置されるまでコンテンツ・ウィンドウを選択し、移動します。
- 6 「ブロードキャスト・メッセージ」コンテンツ・ウィンドウを移動する場合は、コンテンツ・レイアウト・ページの「ブロードキャスト・メッセージ」セクションで上のすべてのコンテンツ・ウィンドウまたは下のすべてのコンテンツ・ウィンドウを選択します。
- 7 設定の保存をクリックします。

個人用ページの色の変更

個人用ページのカラー・スキームを選択するか、ページ要素の色を個別に設定します。

▶ 個人用ページの色を変更するには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。
- 2 を選択します。
- 3 カラー・スキームを選択します。
- 4 色を個別に設定する場合は、カスタムの色のカスタマイズをクリックします。それ以外の場合は[手順 7](#)に進みます。

色を設定できる個人用ページの要素ごとに、カラー・サンプルの配列が「ユーザー独自の__の色」オプションの上に表示されます。色のラジオ・ボタンを選択して配列から色を選択します。「ユーザー独自の__の色」ボックスの横に表示される色が、要素の現在の色です。
- 5 色を変更する要素ごとに、新しい色を選択するか、「ユーザー独自の__の色」ボックスに 16 進カラー・コードを入力します(たとえば、#000000 は黒の 16 進カラー・コードです)。
- 6 設定の保存を選択します。
- 7 カラー・スキームのオプションを選択します。
 - このカラー・スキームを使用するようにすべての個人用ページを変更する - 指定したカラー・スキームを既存のすべての個人用ページに適用します。
 - すべての新規個人用ページのデフォルト・カラー・スキームとしてこのカラー・スキームを使用する - 指定したカラー・スキームを現在の個人用ページと今後の個人用ページに適用します。
- 8 設定の保存を選択します。

個人用ページの操作

目的ごとに異なる個人用ページを作成し、複数の個人用ページがある場合はデフォルト個人用ページを指定します。また、個人用ページを発行して、他のユーザーが独自の個人用ページとして使用できるようにします。


- [171 ページの「個人用ページの作成」](#)
- [172 ページの「個人用ページのコピー」](#)
- [173 ページの「個人用ページの削除」](#)
- [173 ページの「個人用ページの発行と置換」](#)

個人用ページの作成

複数の個人用ページを作成できます。

▶ 個人用ページを作成するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「新規」を選択し、「個人用ページ」を選択します。

- 2 を使用して左側の必要なコンテンツ・ウィンドウを右側の新規個人用ページの「個人用ページのコンテンツ」リストに追加し、次へをクリックします。

3 レイアウト・スタイルを選択し、次へをクリックします。

注： レイアウト・スタイルは、ブラウザ・ウィンドウの個人用ページ部分のみ示します。左側にはビュー・ペインも表示されます。ヘッダー・セクションは、1つ以上のコンテンツ・ウィンドウを含む幅の広い領域です。フッター・セクションも同様ですが、ページの一番下に配置されています。

4 レイアウトについては、個人用ページ上で各種コンテンツ・ウィンドウを配置します。セクション間でコンテンツ・ウィンドウを移動するには、コンテンツ・ウィンドウ



ウを選択して をクリックします。セクション内のコンテンツ・ウィンドウの位



置を変更するには、コンテンツ・ウィンドウを選択して をクリックします。完了したら次へをクリックします。

5 「個人用ページの編集」で、個人用ページの名前と説明を入力し、カラー・スキームを選択して「終了」または「終了と発行」をクリックします。

注： 「終了」を選択した場合、作成したばかりの個人用ページが開きます。「終了と発行」を選択した場合、個人用ページの発行時に権限を割り当ててからページを表示できます。

後で色をカスタマイズできます。詳細は、[170 ページの「個人用ページの色の変更」](#)を参照してください。「個人用ページ」ページに新規個人用ページのリストが表示されます。

「お気に入り」から表示する個人用ページを選択することもできます。


個人用ページのコピー



新規個人用ページを発行する以外に、発行済の個人用ページを新規個人用ページにコピーすることもできます。

注： 次の手順を行う前に、個人用ページが発行されている必要があります。

▶ 発行済の個人用ページをコピーするには、次の手順に従います。

1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。

2  を選択します。

注： 個人用ページの数が管理者によって許可された数を超過している場合、 は表示されません。 を使用可能にするには個人用ページを除去する必要があります。

3 発行済個人用ページのコピーを選択し、次へを選択します。

「既存の個人用ページの追加」 ページが表示されます。

- 4 リストからコピーする個人用ページを選択し、終了を選択します。



を選択します。「個人用ページの管理」にページが表示されます。

個人用ページの削除

- ▶ 個人用ページを削除するには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。
- 2 「個人用ページ」から削除する個人用ページを選択します。
- 3 右クリックして「ページの削除」を選択します。

注： 削除した個人用ページをリストに復元するには、「設定の復元」を選択します。

- 4 設定の保存を選択します。

個人用ページの発行と置換

新規個人用ページを発行するか、個人用ページのコンテンツを使用して発行済の個人用ページを置換します。個人用ページを発行すると、他のユーザーがそのページをコピーできるようになります。

注： 個人用ページを発行するには、個人用ページのフォルダに対するアクセス権が必要です。

- ▶ 個人用ページを発行または置換するには、次の手順に従います。

- 1 「お気に入り」を選択し、「個人用ページの管理」を選択します。
- 2 「個人用ページ」で、発行する個人用ページを選択し、右クリックして発行を選択します。
- 3 個人用ページを発行するには、「新規個人用ページの発行」セクションで名前と説明を入力し、発行を選択します。

デフォルトでは、この個人用ページにすでに割り当てられている名前と説明になります。名前と説明は、このページの特徴を示すものにする必要があります。

注： Interactive Reporting ジョブや Production Reporting ジョブを発行して実行し、ジョブの出力を生成すると、ジョブの出力のデフォルト命名規則に従ってジョブとジョブの出力のリストが表示されます。

- 4 個人用ページを置換するには、「個人用ページの置換」で置換するページを選択し、置換をクリックします。

発行済の個人用ページを別の名前の個人用ページで置換できます。発行済ページのコンテンツが置換され、発行済ページの名前は変わりません。

- 5 発行した個人用ページに対するアクセス権を設定するには、「**権限の編集**」を選択します。

個人用ページを発行するときのデフォルト・アクセス権は基本ドキュメントと同じです。アクセス権を設定するには、[136 ページ](#)の「**権限の設定**」を参照してください。

Workspace ページ

Workspace ページを使用すると、EPM Workspace リポジトリの Oracle ソースおよび Oracle 以外のソースからコンテンツを作成、編集および集約して 1 つの環境にまとめることができます。

Oracle ソースには次のようなものがあります。

- Interactive Reporting - ドキュメント内のセクション、ジョブ内のセクション、スナップショット内のセクション
- Web Analysis ドキュメント
- Production Reporting または SQR のドキュメント、スナップショット
- Financial Reporting のドキュメント、スナップショット
- Performance Scorecard テンプレート
- お気に入り
- アラートまたは例外
- フォルダ・リスト(サブフォルダ・アイテムを含まない)

Oracle 以外のソース・ファイルには、次のようなものがあります。

- URL
- テキスト・ファイル
- イメージ・ファイル
- HTML ファイル
- Microsoft Office ドキュメント (Word、Excel、PowerPoint、Project)
- XML ファイル
- RTF ファイル
- PDF ファイル
- イメージ・ファイル - .jpg、.gif、.png
- ショートカット

Workspace ページには、マイ Workspace ページと共有 Workspace ページという 2 つのタイプがあります。マイ Workspace ページは、ユーザーによって作成されたカスタマイズ可能な Workspace ページで、ユーザーがリポジトリを参照することなく 1 つの場所から簡単にアクセスできるように特別なマークが付いています。任意のフォルダに保管できるマイ Workspace ページへのショートカットを作成できます。共有 Workspace ページはシステム・フォルダに保管され、許可されたユーザーがエクスプローラからアクセスできます。このフォルダへのアクセス権を持

つユーザーは、エクスプローラ内でマイ Workspace ページを手動で移動して、残りの組織に移行できます。リポジトリに Workspace ページなどのアイテムを保存するには、コンテンツ・パブリッシャの役割が必要です。EPM Workspace とともにインストールされる Workspace ページとしてホーム・ページもあります。プリファレンスを使用して、このホーム・ページをデフォルト開始ページとして指定できます。詳細は、65 ページの「ホーム・ページの使用法」を参照してください。

その他の Workspace ページ機能を次に示します。

- コンテンツ集約
- Workspace ページとの直接対話
- 用意されているテンプレートを使用した簡単なセルフサービスの作成
- 短時間でダッシュボードを構築
- 上級ユーザー向けのフリー・フォームのレイアウト・メカニズム
- EPM Workspace リポジトリの参照

Workspace ページの作成






テンプレートは、Workspace ページを作成するための開始点として使用します。テンプレートを使用すると、コンテンツを追加する前に Workspace ページのレイアウトを指定できます。その後、コンテンツをコンテンツ・ブラウザ(左ペイン)からレイアウト領域にドラッグ・アンド・ドロップできます。コンテンツ・ブラウザには、EPM Workspace リポジトリ、お気に入り、アプリケーション・リポジトリなどのソースが含まれます。アプリケーション・リポジトリには、Performance Scorecard アーチファクトと Reporting and Analysis 以外のアーチファクトが格納されています。コンテンツ・ブラウザから一度に選択できるアイテムは1つのみです。

コンテンツ・ブラウザの下部にある「検索」を使用すると、選択したソース内を検索できます。オブジェクトの名前に基づいて EPM Workspace リポジトリ・アイテムが検索され、オブジェクトのその他の属性に基づく検索は行われません。入力した文字列が検索され、ワイルドカード文字を入力する必要はありません。結果はコンテンツ・ブラウザ内にアルファベット順(昇順)に表示されます。ソースのドロップダウンにも表示されるため、ユーザーは検索結果とリポジトリ・ナビゲーションを切り替えることができます。

▶ Workspace ページを作成するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかの操作を行います。

- 「ファイル」の「新規」を選択し、「Workspace ページ」を選択します。
 1. 「テンプレート」ダイアログ・ボックスでテンプレートを選択します。選択したテンプレートが強調表示されます。
 2. 「OK」を選択します。選択したテンプレートを使用して Workspace ページが作成されます。
- 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
 1. 「Workspace ページを作成」を選択し、「次へ」をクリックします。

2. いずれかのテンプレートを選択します。選択したテンプレートが強調表示されます。
 3. 「終了」をクリックします。選択したテンプレートを使用して Workspace ページが作成されます。
- 2 コンテンツ・ブラウザで、レイアウト領域に追加するファイルの場所のソースを選択します。
 - 3 ファイルを選択し、コンテンツ・ブラウザからレイアウト領域にドラッグ・アンド・ドロップします。デフォルトでは、タイトル・バーにドキュメントのタイトルが表示されます。
 - 4 オプション: レイアウト領域のサイズを変更するには、マウスで右下隅を選択し、ドラッグしてサイズを変更します。
 - 5 オプション: レイアウト領域を移動するには、マウスでタイトル領域を選択し、新規位置にドラッグします。
 - 6 オプション: Workspace ページのコンテンツ領域に URL、お気に入りまたはアラート例外を追加するには、「編集」を選択し、「コンテンツの追加」を選択します。次に、「URL」、「お気に入り」または「アラート例外」を選択します。
 - 7 オプション: フォルダ・リストを追加するには、フォルダを選択し、コンテンツ・ブラウザから Workspace ページのコンテンツ領域にドラッグ・アンド・ドロップします。
 - 8 レイアウト領域を編集するには、レイアウト領域のツールバーから  を選択します。詳細は、[177 ページの「レイアウト領域の編集」](#)を参照してください。
- 注:** レイアウト領域のツールバーのアイコンを使用するには、そのツールバーを使用可能にする必要があります。「編集」を選択し、「ポートレット・ツールバーの表示」を選択して使用可能または使用不可にします。
- 9 オプション: レイアウト領域のツールバーの  を選択して、コンテンツを EPM Workspace 内の別のタブとして開きます。
 - 10 オプション:  を選択してレイアウト領域を削除します。
 - 11 オプション:  を選択して、コンテンツ領域全体を使用するようにコンテンツを最大化します。最大化した場合、 を選択することで元のサイズと場所に復元することができます。
 - 12 デフォルトでは、Workspace ページはマイ Workspace ページとして保存されます。これにより、「ナビゲート」、「Workspace ページ」、「マイ Workspace ページ」の順にメニューを選択するか、「ファイル」、「開く」、「Workspace ページ」、「マイ Workspace ページ」の順にメニューを選択して Workspace ページが使用可能になります。

このようなメニューで使用可能でないように Workspace ページを保存するには、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスで「マイ Workspace ページとして保存」の選択を解除します。
 - 13 オプション: Workspace ページを共有 Workspace ページとして保存するには、エクスプローラ・モジュールで Workspace ページ・ファイルをクリックし、共有 Workspace ページが保管されるシステム・フォルダにドラッグします。

注： この操作を行うには、共有 Workspace ページが保管されるフォルダへのアクセス権を持つ、許可されたユーザーである必要があります。

レイアウト領域

レイアウト領域は、Workspace ページ上のコンテンツを配置できる領域を指定するために使用します。各レイアウト領域は独立しており、サイズを変更したり重ねたりできます。レイアウト領域には、変更できるプロパティもあります。詳細は、177 ページの「[レイアウト領域の編集](#)」を参照してください。各レイアウト領域はコンテンツ領域内のどこにでも配置できます。各種機能を実行するには、ツールバーを使用します。たとえば、プロパティの編集、レイアウト領域の最大化と復元、削除、EPM Workspace 内の別のタブとしての起動など行うことができます。レイアウト領域を既存の Workspace 領域に追加するには、リポジトリ・コンテンツをコンテンツ・ブラウザからコンテンツ領域にドラッグ・アンド・ドロップします。追加コンテンツとして、URL、お気に入り、アラートがあります。URL は、コンテンツのソースの場所として URL を指定するために使用します。セキュリティの目的上、ユーザーが信頼されていないサイトに URL を追加することはできません。お気に入りには、EPM Workspace 内のユーザーのお気に入りが表示されます。これにより、ユーザーのお気に入りリポジトリに迅速にアクセスできます。アラート・コンテンツには、Interactive Reporting および Production Reporting によって生成されたアラートまたは例外が表示されます。ユーザーはフォルダをコンテンツ・ブラウザからドラッグ・アンド・ドロップしてコンテンツ領域に追加することもできます。EPM Workspace 内のタブとしてファイルを開くように選択した場合は、フォルダ内のファイルへのリンクが表示されます。サブフォルダは表示されません。

レイアウト領域の編集

ユーザーは Workspace ページのレイアウト領域のプロパティを編集できます。

- ▶ レイアウト領域のプロパティを編集するには、次の手順に従います。
- 1 レイアウト領域の名前を変更するには、「タイトル」テキスト・ボックスに名前を入力します。
- 2 「ソース」にレイアウト領域のファイルへのパスが表示されます。既存のコンテンツに代わる別のファイルまたはフォルダを選択するには、「**選択**」ボタンを選択します。

注： お気に入りまたはアラート・コンテンツのソースは変更できません。

- 3 **オプション:** 前の手順で「**選択**」ボタンを選択した場合は、次の手順を行います。
 - 1 「参照」ダイアログ・ボックスで、検索するファイルのソースを選択します。
 - 2 「検索」テキストボックスにファイル名を入力し、「**検索**」を選択します。
 - 3 「**OK**」を選択します。
- 4 サイズと位置の値を入力します。
- 5 Financial Reporting、Web Analysis および Interactive Reporting 製品の場合は、「プロパティ」から「**ポートレット・ツールバーの表示**」オプションを選択してコンテンツ・ツールバーを表示できます。

- 6 **オプション:** レイアウト領域のスクロールバーを表示しない場合は、「スクロールバーの表示」の選択を解除します。

注: レイアウト領域内のスクロール・バーを持つドキュメント(PDF ドキュメントなど)は非表示にできません。

7

アプリケーションの起動

この章の内容

Oracle の Hyperion アプリケーションの起動.....	179
------------------------------------	-----

Oracle の Hyperion アプリケーションの起動

「ナビゲート」メニューの「アプリケーション」には、開くことができる Profitability and Cost Management、Oracle Business Intelligence、Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition、Planning または Financial Management アプリケーションのリストを含めることができます。「アプリケーション」は次の両方の条件を満たす場合に表示されます。

- ユーザーがアクセス権を持っている
- アプリケーションがインストールされ、使用可能な状態である

使用可能なアプリケーションのリストは、Oracle Hyperion(R) Shared Services から取得されます。アプリケーションを選択すると、アプリケーションは新規ウィンドウで起動され、ログイン情報の入力を求めるメッセージが再度表示されないように、シングル・サインオンのトークンが渡されます。

使用可能なアプリケーションのリストは、ユーザーのプロビジョニング・ステータスでフィルタされます。たとえば、現在ログオンしているユーザーが Planning Real App を含むプロジェクト用にプロビジョニングされていない場合、そのアプリケーションはリストに表示されません。Planning アプリケーションの使用の詳細は、『Oracle Hyperion Planning ユーザー・ガイド』を参照してください。Financial Management アプリケーションの詳細は『Oracle Hyperion Financial Management ユーザー・ガイド』を、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition アプリケーションの詳細は『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management User's Guide』を、Oracle Business Intelligence アプリケーション製品の詳細は Oracle Business Intelligence の製品ガイドを参照してください。

▶ アプリケーションを起動するには、次の手順に従います。

1 ナビゲートを選択し、アプリケーションを選択します。

インストールされている製品およびアクセス権を持っている製品の使用可能なアプリケーションのリストが表示されます。

注： インスタンス化された製品がインストールされていても、現在のユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされていない場合、「ナビゲート」>「アプリケーション」メニューには、使用不可な「アプリ

ケーションなし」メニュー・アイテム、続いて「リフレッシュ」メニュー・アイテムが表示されます。ユーザーにアプリケーション・インスタンスがプロビジョニングされている場合は、この3つのメニュー・アイテムは表示されません。同じことが「ファイル」>「開く」>「アプリケーション」メニューにも該当します。

2 開くアプリケーションを選択します。

アプリケーションが EPM Workspace の下部にタブとして起動されます。これにより、画面を容易に切り替えることができます。

注： EPM Workspace から特定のアプリケーションを表示するときにプリファレンスを設定できます。詳細は、[第2章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

8

Financial Reportingの使用方法

この章の内容

概要	181
EPM Workspace タスク	181
ドキュメントの操作	183
表示の有効化.....	183
プレビュー・プリファレンス	183
データベース接続へのログオン	183
スナップショットの表示.....	193
ブックの表示.....	193
スナップショット・ブックの表示	195

概要

EPM Workspace では、レポートやブックなどの Financial Reporting ドキュメントをエクスペローラ・モジュールからプレビューできます。レポートやブックは HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでプレビューできます。

注： テキストは、グリッドのセル内で自動的に折り返されます。PDF レポートの印刷プレビューを行うと、長いテキストを含むテキスト・セルは自動的に右隣のセルにマージされます(そのセルが空の場合)。HTML レポートをプレビューすると、マージ機能が設計時に適用された場合を除き、テキスト・セルは自動的にマージされません。行の高さは自動的にすべてのテキストを表示するように調整されます。

注： レポートまたはブックを表示するには 5 つのファイル権限が必要です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

EPM Workspace タスク

プレビュー以外に、EPM Workspace から次のタスクを実行できます。

- レポートおよびブックの要素のカスタマイズ。たとえば、レポートまたはブックの実行前または実行後に POV を変更します。

- レポート、スナップショット・レポート、XML(レポート定義ファイル)、PDF、HTML、Word、Excel または PowerPoint のエクスポート。
- 関連コンテンツを使用した、Financial Reporting レポートおよび EPM Workspace の URL へのリンク。
- Financial Reporting ドキュメントのサブスクライブによる、レポート変更時の電子メール通知の受信およびお気に入りへの通知の追加。詳細は、第 6 章「情報の表示と整理」を参照してください。
- Financial Reporting ドキュメントに対する権限の変更。詳細は、第 6 章「情報の表示と整理」を参照してください。
- 電子メール受信リストの整理。

エクスプローラ・モジュールから使用可能なレポートとブックのタイプは次のとおりです。

- レポート - データ・ソースからデータが移入されます。ユーザーはメンバーを選択してカスタマイズできます。
- スナップショット - 特定の時点の静的データが格納されています。データは保存時に移入されます。
- ブック - 動的レポートとオプションで目次のセットが格納されています。レポートは、指定されたすべてのメンバーの組合せについて実行されます。
- スナップショット・ブック - スナップショット・レポートとオプションで目次のセットが格納されています。複数の POV について表示できます。

デザイナーは EPM Workspace 機能をレポートとブックに組み込んでビューアがタスクを実行できるようにします。

表 43 EPM Workspace 機能

	レポート	スナップショット	ブック	スナップショット・ブック
プロンプト	はい	いいえ	はい	いいえ
ユーザーの POV	はい	いいえ	いいえ	いいえ
XML、HTML および PDF	はい	はい	はい	はい
ページ軸	はい	はい	はい	はい
展開機能	はい	いいえ	いいえ	いいえ
関連コンテンツ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
グリッドの POV	はい	いいえ	いいえ	いいえ
データ・セキュリティ*	はい	いいえ	はい	いいえ
電子メール・リンク	はい	はい	はい	はい

*データ・ソース・セキュリティが適用されます。

ドキュメントの操作

Financial Reporting では、ビューアを使用してレポートとブックのユーザー POV を変更できます。

注： POV をレポートまたはブックの上に表示するように選択した場合、ドキュメント・パネルは表示されません。詳細は、[第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#) を参照してください。

表示の有効化

EPM Workspace の表示に必要な条件は次のとおりです。

- PDF の場合、Acrobat Reader がインストールされている必要があります。
 - PDF レポートの場合、PDF ライター(Acrobat Distiller、GNU Ghostscript または AFPL Ghostscript)が印刷サーバーとともにインストールされている必要があります。PDF ビューアが使用可能でない場合は、レポート名のみ表示されます。
- ▶ EPM Workspace で PDF レポートを表示するために Internet Explorer を使用するには、次の手順に従います。
- 1 Internet Explorer を開きます。
 - 2 「ツール」の「インターネットオプション」を選択します。
 - 3 インターネットオプションで、全般タブを選択し、インターネット一時ファイルの設定を選択します。
 - 4 「設定」で、保存しているページの新規バージョンの確認のページを表示するごとに確認するを選択します。
 - 5 OK を 2 回クリックします。

プレビュー・プリファレンス

レポートとブックの表示方法として、「PDF プレビュー」または「HTML プレビュー」を設定できます。詳細は、[第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#) を参照してください。

データベース接続へのログオン

データベース接続にログオンするには、レポートで使用するデータ・ソースに、ユーザー名とパスワードを持つユーザーとして定義されている必要があります。たとえば、Analytic Services を使用するレポートを表示する場合は、Analytic Services に定義されているユーザー・アカウントでデータベース接続にログオンする必要があります。

通常、ログオンは自動的に行われますが、データベースに登録されていない場合は、「データベース接続のプロパティ」ダイアログ・ボックスからのログオンを求めるメッセージが表示されます。このダイアログ・ボックスには、レポート・デ

ザイナによって割り当てられたデータベース接続名が表示されます。ユーザー名とパスワードは管理者に確認してください。詳細は第3章「[アイテムの参照と管理](#)」を参照してください。

- ▶ データベース接続にログオンするには、次の手順に従います。
 - 1 データベース接続のプロパティで、ユーザー名とパスワードを入力します。
 - 2 OK をクリックします。

Essbase ユーザーの期限切れパスワードの変更

Essbase 管理者は、条件を設定して、Essbase ユーザーが Financial Reporting のパスワードを変更するタイミングをコントロールできます。

- ▶ メッセージが表示された場合に、期限切れの Essbase パスワードを EPM Workspace から変更するには、次の手順に従います。
 - 1 現在のユーザー名とパスワードでログオンします。
 - 2 実行をクリックします。
 - 3 Analytic Services のパスワードの変更で、旧パスワードと新パスワードを入力します。
 - 4 パスワードの確認に新パスワードを再入力します。
 - 5 OK をクリックします。

レポートの表示

レポートにユーザー POV の次元が含まれている場合、それらの次元は、レポートやブックの上または EPM Workspace のドキュメント・パネルに表示されます。ユーザー POV に次元を設定すると、次元の変更が可能になり、次元の変更により POV が変更されます。また、次元を変更するにはレポートまたはブックの再生成が必要になります。

注： リポジトリでは、レポートまたはブックを実行する前に「現在のユーザー POV の設定」ページを表示できます。現在のユーザー POV の設定は、レポートまたはブックの実行後に編集できます。詳細は、[第2章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

PDF で表示するレポートは、ユーザー POV を使用して生成され、PDF で出力されます。複数のページ・メンバーを含むレポートは、すべてのページ・メンバーに対して生成され、EPM Workspace に Acrobat Reader で表示されます。HTML レポートはユーザー POV を使用して生成されます。

レポートの表示とカスタマイズについては、次の各項を参照してください。

- [185 ページの「レポートとブックの印刷」](#)
- [186 ページの「ユーザー POV の変更」](#)
- [187 ページの「プロンプトへの応答」](#)

- 189 ページの「展開機能の使用方法」
- 189 ページの「関連コンテンツの使用方法」
- 190 ページの「メンバーの選択」
- 192 ページの「グリッド POV のメンバーの変更」

▶ レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 「ビューア」を選択し、「エクスプローラ」を選択します。次に、プロンプトを含むレポートまたはブックを選択します。
- 2 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。

注： ファイルは、「プリファレンス」の設定に応じて PDF または HTML で表示されます。詳細は、[第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

ヒント： リポジトリからレポートまたはブックを選択します。レポートを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」または「PDF プレビュー」を選択します。

- 3 オプション: 「現在のユーザー POV の設定」ページが表示された場合は、設定を変更し、OK をクリックします。

[186 ページの「ユーザー POV の変更」](#)を参照してください。

このページが表示された場合は、ユーザー POV が Financial Reporting の「プリファレンス」で選択されています。詳細は、[第 2 章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」](#)を参照してください。

- 4 レポートが開いたら、ビュー・ペインでデータベース接続の右矢印をクリックし、POV 設定を確認します。
- 5 次元を選択して「メンバー選択」を開き、別のメンバーを選択して OK をクリックします。

レポート・コンテンツに POV の変更が反映されます。メンバー選択の詳細は、[190 ページの「メンバーの選択」](#)を参照してください。

- 6 表示のユーザーの POV のプレビューを選択します。
- 7 「ユーザーの POV のプレビュー」で、選択をクリックして 1 つ以上の次元選択を変更します。
- 8 「メンバー選択」で、別のメンバーを選択し、OK をクリックします。

レポートがリフレッシュされます。詳細は、[186 ページの「ユーザー POV の変更」](#)を参照してください。

レポートとブックの印刷

任意のタイプのレポートまたはブックを印刷できます。動的なレポートとブックの場合、データがリフレッシュされます。スナップショット・レポートとスナップショット・ブックの場合、データはリフレッシュされません。

▶ レポートを印刷するには、次の手順に従います。

1 EPM Workspace リポジトリでレポートを開きます。

プロンプトに応答し、必要に応じて変更を加えます。

2 ファイル>印刷を選択します。

注： 出力はエンドユーザー向けに完全に PDF でフォーマットされます。

▶ ブックを印刷するには、次の手順に従います。

1 EPM Workspace リポジトリでブックを開きます。

プロンプトに応答し、必要に応じて変更を加えます。

2 ファイルのファイル形式を指定して開くを選択し、PDF のブック全体を選択して、すべてのレポートを含むブック全体の PDF を作成します。

▶ ブックのレポートを印刷するには、次の手順に従います。

1 目次ビューでブック内のレポートを選択し、レポートの表示を選択します。

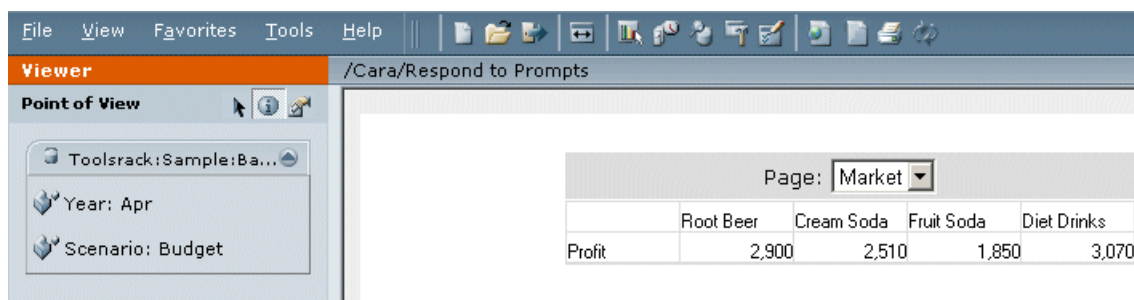
2 ファイルの印刷を選択します。

ユーザー POV の変更

ユーザー POV はレポート・グリッドに定義されていない次元のメンバーを指定するもので、設計時に指定された動的なレポートとブックに使用可能です。レポートやブックの実行前にユーザー POV のメンバーを変更できます。その後レポートやブックを実行して、新規メンバー・データを表示できます。レポートやブックの実行後にユーザー POV を編集することもできます。

レポートまたはブックを HTML で表示する場合、ユーザー POV は、ビュー・ペインのドキュメント・パネル内またはコンテンツ領域のレポートまたはブックの目次の上に表示できます。

図 2 Financial Reporting の HTML レポート



各次元またはメンバーはリンクになっています。リンクを選択すると、「メンバー選択」ページが表示され、そのページで次元のメンバーを選択できます。次元のメンバーはツリー・ビューに表示されます。ツリー・ビューは次元のメンバーの階層表示です。デフォルトでは、ツリー・ビューには最上位メンバーのみ表示されます。メンバーを展開してその子を表示できます。

注： 多くの場合、Financial Management の次元には複数の最上位ノードが含まれます。

次のメソッドでメンバーを検索できます。

- データ・メンバーの行を展開し、視覚的に検索します。「すべての行を展開」ボタンを使用すると、すべての行を展開できます。
- 「検索」テキスト・ボックスを使用して、メンバーまたは別名と説明で検索します。検索条件には、*や?などのワイルドカードを使用できます。

[190 ページの「メンバーの選択」](#)を参照してください。

▶ レポートまたはブックを実行する前にユーザー POV の設定をプレビューするには、次の手順に従います。

1 「ファイル」の「プリファレンス」を選択し、「Financial Reporting」を選択して「全般」を選択します。「視点(POV)の位置」およびレポートをプレビューするときのユーザー POV のデフォルト位置として、「ビュー・ペイン内」または「レポート/ブックの上」を選択します。

- ビューアにユーザー POV の選択項目を表示するには、「ビュー・ペイン内」を選択します。このオプションを選択しなければ、ビューアには「ユーザーの POV のプレビュー」オプションが表示されます。「ユーザーの POV のプレビュー」オプションを選択すると、「ユーザーの POV のプレビュー」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- レポートまたはブックの上にユーザー POV を表示するには、「レポート/ブックの上」を選択します。

2 OK をクリックします。

3 リポジトリからレポートまたはブックを選択します。

4 ファイルのファイル形式を指定して開くを選択し、PDF プレビューまたは「HTML プレビュー」を選択するか、ブックをスナップショット・ブックとして保存します。ユーザー POV が「プリファレンス」で指定した位置に表示されます。

5 次元をクリックして、メンバー選択で POV を変更します。

[190 ページの「メンバーの選択」](#)を参照してください。

プロンプトへの応答

レポートは、プロンプトを含むように設計されている場合があります。プロンプトは、レポートまたはレポートを含むブックを表示するときに表示されます。プロンプトに応答し、プロンプト・リストからメンバーを選択することで要求された情報を指定します。プロンプトは手動で編集できます。プロンプトに別名が含まれている場合は、別名をメンバー名に変換します。

Financial Reporting での SAP BW 変数のサポート

SAP BW 変数は、Financial Reporting のメンバー選択プロンプトと同様に扱われますが、いくつかの大きな違いがあります。変数はキューブに定義されるため、変数をレポートに配置するのにアクションは必要ありません。キューブに1つ以上

の変数が含まれ、そのキューブを参照するレポートまたはブックが実行されると、キューブ内の変数への応答の入力を求めるメッセージが表示されます。キューブを参照するレポートまたはブックについては、"Ready for Input"のマークが付けられたすべての変数が表示されます。「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスは、Financial Reporting のメンバー選択プロンプトへの応答と変数応答に使用されます。違いは次のとおりです。Financial Reporting のプロンプトでは常に1つ以上のメンバーを入力できますが、変数は1つのメンバー、多数のメンバー、メンバーの間隔または範囲のみ要求するように定義できます。変数は値を要求しないように定義することもできます。メンバー名ではなく数値を取得するように変数を設定できます。「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスには、プロンプトまたは変数(あるいはその両方)が表示されます。1つまたは多数のメンバーを取得する変数の場合、ユーザー・インタフェースはプロンプトと同じように動作します(ただし、変数が1つのメンバーを取得する場合、メンバー選択ツリーで選択できるメンバーは1つのみです)。メンバーの間隔または範囲を取得する変数の場合、メンバー選択または数値のフィールドが2つ表示されます。1つは開始値、もう1つは終了値を入力するためのフィールドです。それらのメンバー選択フィールドで選択できるメンバーは1つのみです。数値を取得する変数の場合、メンバー選択ボタンは表示されません。変数を含むキューブに対してレポートを実行した場合の「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスの列を次に説明します。

- 変数 - 変数の説明が表示されます。
- タイプ - 変数のタイプが表示されます。必須のリーフ・メンバー変数、必須の非リーフ・メンバー変数、必須の数値変数、オプションのリーフ・メンバー変数、オプションの非リーフ・メンバー変数のいずれかになります。
- 選択 - 現在選択されているメンバーの説明がデフォルト値とともに表示されます。
- ソース - 変数を含む、データソースを参照するレポートまたはグリッドが表示されます。

「実行」ボタンをクリックすると、プロンプト・メンバーと変数値が検証されます。エラーがあるプロンプトまたは変数の横にエラーが表示されます。「リセット」ボタンをクリックすると、プロンプト・メンバーと変数値が最初のデフォルト値にリセットされます。

レポートにメンバー選択プロンプトが含まれている場合、「間隔」変数を含むキューブに対してそのレポートを実行すると、プロンプトがグループ化され、違いが明確になります。


- ▶ レポートまたはブックのプレビュー時にプロンプトに回答するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace リポジトリで、プロンプトを含むレポートまたはブックに移動します。
 - 2 レポートまたはブックを選択し、ファイルのファイル形式を指定して開くを選択し、PDF プレビューまたは HTML プレビューを選択します。

注： ファイルが PDF または HTML で表示されます。これは「プリファレンス」ダイアログ・ボックスで設定します。詳細は、第2章「プリファレンスの設定と EPM Workspace のカスタマイズ」を参照してください。

- 3 プロンプトに回答の選択列で、次のアクションを行います。

- 各プロンプトのテキスト・ボックスにメンバー名を入力します(名前がわかる場合)。テキスト・ボックスが使用不可になっている場合は、プロンプトに別名が含まれています。テキスト・ボックスを編集するには、「**メンバー名の編集**」を選択します。プロンプトに複数のメンバーを指定する場合は、メンバーをカンマで区切る必要があります。

注：「**メンバー名の編集**」を選択すると、テキスト・ボックスに別名ではなくメンバー名が表示されます。別名に関連付けられたメンバー名を編集します。

- 「**メンバー選択に移動**」 をクリックします。「**メンバーの選択**」が表示されます。デフォルト・メンバーが右パネル(「**選択済**」領域)に表示されます。詳細は、[190 ページの「メンバーの選択」](#)を参照してください。

4 OK をクリックします。

5 オプション: 変更を元に戻すには、「プロンプトに応答」の「リセットをクリックします」。

6 実行をクリックします。レポートまたはブックが表示されます。

展開機能の使用方法

展開機能は HTML レポートでのみ使用可能で、レポート・ビューアでメンバーの子とそれに対応するデータを表示できるようにします。展開機能が使用可能になっている行と列には、右向きの三角形が表示されます。その三角形をクリックすると、関連付けられている詳細が表示されます。展開機能を実行すると、展開対象として選択した行と列の近くにページが配置されます。展開機能は設計時に設定されます。

▶ 展開機能を使用するには、次のアクションを行います。

- 行または列の右向きの三角形をクリックして、次のレベルの詳細を表示します。
複数回クリックして、複数のレベルの詳細を表示できます。
- 展開した行または列の下向きの三角形をクリックすると、メンバーが縮小されます。

関連コンテンツの使用方法

関連コンテンツは、他の Financial Reporting ドキュメントと他の Hyperion サーバーのドキュメントにリンクします。関連コンテンツはレポート・デザイナーによって設定され、デザイナーの指定に応じて HTML または PDF で使用できます。関連コンテンツのリンクを表示するには、グリッド値をクリックします。グリッド値には、デフォルトで下線が付いています。

関連コンテンツ用に選択されたセルのメンバーは、ユーザー POV に渡され、関連コンテンツ・レポートで使用されます。したがって、関連コンテンツ・レポートのコンテキストは、プライマリ・レポートで選択されたセルです。たとえば、「マージン」行と「ボストン」列のセルを選択した場合、Financial Reporting によつ

てユーザー POV の会計次元が"マージン"に、エンティティ次元が"ポストン"に設定され、関連コンテンツ・レポートが表示されます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

関連コンテンツのルールは次のとおりです。

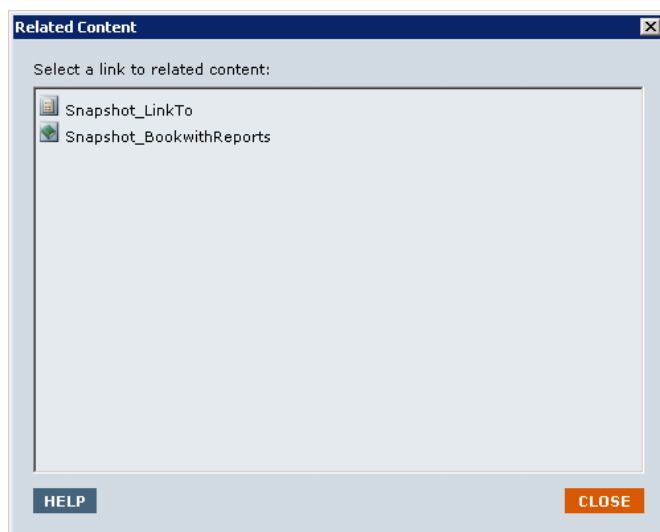
- オブジェクトに対して1つのアクション(HTML または PDF)のみ使用可能になっている場合、アクションは「関連コンテンツ」ページに表示されません。
- デフォルト・アクション(HTML または PDF)は、オブジェクト・ラベルの横に表示されます。
- フォルダは「関連コンテンツ」領域に表示されます。
- オブジェクトレベルのセキュリティは、レポートの表示が要求されたときにフォルダ内で監視されます。

▶ 関連コンテンツを使用するには、次の手順に従います。

1 レポートで関連コンテンツのリンクをクリックします。

関連コンテンツのリストで1つのレポートが選択され、1つのアクションのみ指定されている場合は、レポートが開きます。複数のレポートが選択されているか、複数のアクションが指定されている場合は、別のブラウザ・ウィンドウに「関連コンテンツ」ページが表示されます。

2 関連コンテンツが表示された場合は、リンクをクリックします。



クリックしたリンクがフォルダでない場合は、クリックされたドキュメントまたはアクションの組合せが表示されます。








メンバーの選択

レポートでは、データの取得や表示するメンバー数の指定にメンバー選択を使用します。特定のメンバーを検索することもできます。

メンバー選択のタスクは次のとおりです。

- 191 ページの「ユーザー POV のメンバーの選択」
- 192 ページの「メンバーの検索」
- 192 ページの「ページ・メンバーの変更」

表 44 「メンバー選択」 Web ページのアイテム

アイテム	説明
	「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに対して加えられた変更を取り消します。
「Find」ボタン	検索のタイプを選択する場合に使用します。メンバー名、別名テーブルにある説明または名前、特定のテーブルにあるメンバーの名前、説明または別名でメンバーを検索して表示できません。
「Find」テキスト・ボックス	検索条件を入力します(大文字と小文字は区別されません)。
	検索条件と一致するメンバーを表示します。
ワイルドカードを使用	<p>「検索」テキスト・ボックスでワイルドカードを使用できるようにします(デフォルトで選択されています)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ?は 1 つの文字を表します。 ○ *は複数の文字を表します。 <p>注： 検索条件にスペースを含める場合は、検索語句を二重引用符で囲みます。たとえば、「*IC Offset*」を検索する場合は「"*IC Offset*」と入力します。「IC Offset*」のように"*ワイルドカードを末尾にのみ指定する場合、二重引用符は必要ありません。</p>
ページ当たりの行数	<p>メンバー・リストに表示するページ当たりの行数を指定します(デフォルトでは 20)。メンバー数が行数を超える場合は、「メンバー選択の編集」ヘッダーのボタンを使用して行をスクロールします。</p> <p> 次のページ</p> <p> 前のページ</p>
	1 つ以上のメンバー・プロパティを表示します。
	階層のすべての行メンバーを子レベルまで展開します。
	すべての行を縮小します。

ユーザー POV のメンバーの選択

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを使用して、レポートとブックのメンバーを選択できます。選択した次元を使用してメンバーを検索したり、そのメンバーのレポートやブックを実行したりできます。

- ▶ ユーザーの POV のメンバーを選択するには、次の手順に従います。
 - 1 ユーザー POV を含むレポートまたはブックを開きます。
 - 2 次元またはメンバーのリンクをクリックします。メンバー選択ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 プラス符号(+)をクリックして子を表示します。

4 メンバーを選択し、OK をクリックします。

メンバーのレポートが実行されます。レポート・コンテンツに POV の変更が反映されます。

メンバーの検索

「メンバー選択」 ページで、ユーザー POV のメンバーを検索したり選択したりできます。

▶ メンバーを検索するには、次の手順に従います。

1 検索リストから条件を選択します。

検索オプションのリストはレポート・データ・ソースに基づいています。

2 検索ボックスにテキストの全体または一部を入力します。*や?などのワイルドカードを含むテキストを使用できます。デフォルトではワイルドカードの使用が選択されています。

ヒント： スペースを含むメンバーを検索するには、二重引用符を使用します。

3 検索をクリックして検索結果を表示します。

4 メンバーを選択し、OK をクリックします。そのメンバーのレポートが実行されます。

ページ・メンバーの変更

ページ・メンバーは、レポートの設計時に複数のメンバーがグリッドのページ軸に割り当てられている場合にのみ変更できます。ページ・メンバーを変更すると、異なるレポート・ビューが表示されます(HTML レポートのみ)。ページ・メンバーの変更後、レポートがリフレッシュされ、新規ページ・メンバーが移入されます。

▶ ページ・メンバーを変更するには、次の手順に従います。

1 EPM Workspace で、グリッドにページ軸のメンバーがあるレポートを開きます。

2 ページでメンバーを選択します。レポートが実行され、選択したメンバーのデータが表示されます。

注： PDF の場合、ページ・メンバーのデータは別々のページに表示されます。

グリッド POV のメンバーの変更

レポートのグリッドには、グリッド POV の次元を含めることができます。各次元のデフォルト・メンバーを使用するか、新規メンバーを選択してレポートを実行できます。

▶ グリッド POV のメンバーを変更するには、次の手順に従います。

1 グリッド POV を表示する HTML レポートを開きます。

2 次元またはメンバーのリンクをクリックします。

- 3 メンバー選択で、メンバーを選択して OK をクリックします。選択したメンバーのレポートが実行されます。

スナップショットの表示

スナップショットはレポートに似ていますが、スナップショットには特定の時点のデータが含まれるため、データが動的に取得されません。したがって、データレベルのセキュリティはデータ・ソースから引き継がれません。

スナップショットを HTML または PDF で表示できます。ただし、印刷サーバーと PDF ライターを使用して HTML リンクと PDF リンクの両方を表示する必要があります。印刷サーバーが使用可能でない場合、スナップショットは HTML リンクとしてのみ使用できます。

スナップショットで使用可能な機能のリストは、[表 43](#) を参照してください。

- ▶ スナップショットを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace リポジトリで、表示を選択し、表示するアイテムのタイプを選択します。次に、Hyperion を選択し、スナップショット・ブック」または「スナップショット・レポートを選択します。
 - 2 スナップショットを右クリックし、次のアクションを行います。
 - スナップショットを HTML で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」を選択します。
 - スナップショットを PDF で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「PDF プレビュー」を選択します。

ブックの表示

EPM Workspace では、ブックを HTML または PDF で表示できます。PDF の場合、ブック全体またはブック内の個々のレポートを表示できます。印刷サーバーを使用して、HTML リンクと PDF リンクの両方が表示可能である必要があります。印刷サーバーが使用可能でない場合、ブックは HTML リンクとしてのみ使用可能です。レポート名を選択すると、ブックで指定されているすべてのメンバー組合せのレポートが生成されます。レポートをブックに追加したり、メンバーを変更したりできます。ブックの作成と変更の詳細は、[第 9 章「Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計」](#) を参照してください。メンバーの選択と変更の詳細は、[190 ページの「メンバーの選択」](#) を参照してください。

ブックの実行前にユーザー POV をプレビューできます。ブックを表示すると、ユーザー POV と目次が表示されます。ユーザー POV では、レポート・グリッドで定義されていない次元のメンバーを指定します。ユーザー POV のメンバーを変更してからブックを実行して、新規メンバーのデータを表示できます。詳細は、[186 ページの「ユーザー POV の変更」](#) を参照してください。

目次を使用して、表示するレポートを検索したり、オプションを設定したりできます。

注： EPM Workspace でブックの生成や表示にかかる時間は、ブックのサイズによって異なります。ブックはいつでも取り消すことができます。

複数のページ・メンバーを含むレポートの場合、ページ・メンバーを変更し、レポートをリフレッシュして、更新したデータを表示できます。レポートは、EPM Workspace 内に Acrobat Reader で表示されます。

- ▶ ブックを表示するには、次の手順に従います。
- 1 EPM Workspace リポジトリのファイルのリストで、表示を選択し、表示するアイテムのタイプを選択します。次に、Hyperion を選択し、ブックを選択します。
 - 2 ブックを右クリックし、次のアクションを行います。
 - ブックを HTML で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」を選択します。
 - ブックを PDF で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「PDF プレビュー」を選択します。
 - 3 オプション: 「現在のユーザー POV の設定」ページが表示された場合は、設定を変更し、「OK」をクリックします。

186 ページの「ユーザー POV の変更」を参照してください。

このページが表示された場合は、ユーザー POV が Financial Reporting の「プリファレンス」ダイアログ・ボックスで選択されています。詳細は、190 ページの「メンバーの選択」を参照してください。

- 4 オプション: 「ブックの目次」ページで、ユーザー POV を変更し、新規 POV のレポートを実行します。
- 5 ブックの目次で、レポートのリストを確認し、使用するメンバーを含むレポートを検索します。
- 6 次のいずれかのアクションを行います。
 - HTML ブックの場合、「ファイル」をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択して「HTML プレビュー」を選択します。
 - PDF ブックの場合、「ファイル」をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「PDF プレビュー」を選択して個々のレポートを表示するか、「PDF のブック全体」を選択してブック全体を表示します。
- 7 オプション: 次のどちらか一方または両方のアクションを行います。
 - ブック・エディタで、レポートを追加し、ブックを再実行します。
詳細は、第 9 章「Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計」を参照してください。
 - ブック・エディタまたはブック POV でメンバーを変更します。
190 ページの「メンバーの選択」を参照してください。

スナップショット・ブックの表示

スナップショット・ブックは、EPM Workspace から HTML または PDF で表示できます。スナップショット・ブックを PDF で表示する場合、スナップショット・ブック全体または個々のスナップショット・レポートを表示できます。印刷サーバーを使用して、HTML リンクと PDF リンクの両方を表示できる必要があります。印刷サーバーが使用可能でない場合、スナップショット・ブックは HTML リンクとしてのみ使用可能です。

スナップショット・ブックを表示すると、目次が表示されます。目次を使用して、表示するスナップショット・レポートを検索したり、オプションを設定したりできます。

- ▶ スナップショット・ブックを表示するには、次の手順に従います。
- 1 リポジトリで、表示を選択し、表示するアイテムのタイプを選択します。次に、Hyperion を選択し、スナップショット・ブックを選択します。
- 2 スナップショット・ブックを右クリックし、次のアクションを行います。
 - スナップショット・ブックを HTML で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「HTML プレビュー」を選択します。
 - スナップショット・ブックを PDF で表示するには、「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「PDF プレビュー」を選択します。
- 3 オプション: 「目次」 ページで、ユーザー POV を変更し、新規 POV のレポートを実行します。
- 4 ブックの目次で、レポートのリストを確認し、使用するメンバーを含むレポートを検索します。
- 5 次のいずれかのアクションを行います。
 - HTML スナップショット・ブックの場合、「ファイル」 をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」 を選択して 「HTML プレビュー」 を選択します。
 - PDF スナップショット・ブックの場合、「ファイル」 をクリックし、「ファイル形式を指定して開く」 を選択します。次に、「PDF プレビュー」 を選択して個々のスナップショット・レポートを表示するか、「PDF のブック全体」 を選択してスナップショット・ブック全体を表示します。

9

Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計

この章の内容

概要	197
ドキュメントの設計について	197
ドキュメントの設計	199
ブックの作成.....	199
メンバーの選択	202
ブックとスナップショット・ブックの保存	207
ブックまたはスナップショット・ブックを開く	208
ブックとスナップショット・ブックの名前変更.....	209
ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷	209
ブックの設定の変更	210
目次テキストの設定	211
PDF ファイルの印刷.....	212
テキスト・ファイルの印刷.....	213
ブックとスナップショット・ブックのエクスポート.....	214
バッチの設計.....	214
バッチのプロンプトの定義.....	215
バッチを開く.....	217
スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て	217

概要

EPM Workspace では、バッチの作成、管理およびスケジュール設定、ブックの作成、管理および実行を行うことができます。また、メンバー選択の詳細設定には、メンバー関数などの機能が用意されています。たとえば、子、子孫、ブックの編集時に使用できるリストなどがあります。

ドキュメントの設計について

Financial Reporting モジュールでは、EPM Workspace の新規ドキュメント・ウィザードを使用したバッチの定義と保存、リポジトリに対するバッチのコピーと削除などを行うことができます。バッチを削除するには、そのバッチに対するファイルのアクセス権が必要です。デフォルトでは、スケジュールを行うユーザーにリポジトリ内のスナップショットおよびスナップショット・ブックに対するアクセス権が割り当てられます。バッチに対するファイルのアクセス権を持っている

場合は、スケジュール時にバッチ内のどのレポートも実行できます。スケジュールを行うユーザーは、スケジュール時に他のユーザーやグループにファイルのアクセス権を割り当てることができます。詳細は、[217 ページの「スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て」](#)を参照してください。

スケジュール済バッチには、スケジュール時に変更できるスケジュール済バッチ POV(視点)があります。バッチのプロンプト情報を指定することもできます。POV とプロンプト情報により、各ブックとバッチ内のレポートに指定された POV とプロンプトの値が提供されます。バッチは、すぐに処理するか後で処理するようにスケジュールできます。スケジュール済バッチ POV の詳細は、[第 14 章「ジョブとバッチのスケジュール」](#)を参照してください。

Reporting Studio で作成されたレポートまたはスナップショット・レポートおよびリポジトリ内のその他のアイテム(テキスト・ファイルや PDF ファイル、Microsoft PowerPoint、Excel、Word ファイルなど)は、ブックにまとめることができます。これにより、EPM Workspace から 1 つのセッションで独自の出力を生成できます。たとえば、レポートとその他のアイテムのセットを 1 か月に一度実行するようにスケジュールできます。ブックは、複数のバージョンのレポートや異なるメンバー選択のレポートを生成するように構成できます。それらのレポートを含むブックは一度に実行できます。ブック内のレポートを個別に印刷したり表示したりすることもできます。

次の 2 つタイプのブックを定義してリポジトリに保存できます。

- ブック - レポート、スナップショット・レポートおよびその他のアイテム(テキスト・ファイルや PDF ファイル、Microsoft PowerPoint、Excel、Word ファイルなど)で構成されます。ブックを実行すると、レポート・データがデータベースから動的に取得されます。スナップショット・データは静的なままです。
- スナップショット・ブック - スナップショット・ブックとして保存されたブック。レポートに格納されるデータおよび目次は、ブックの保存時に作成されます。スナップショット・ブックを表示するたびにデータレベルのセキュリティが適用されるわけではありません。データレベルのセキュリティは、スナップショット・ブックの作成時に適用され、スナップショット・ブックを保存したユーザーに設定されているデータレベルのセキュリティに基づきます。

ブックにはブック POV が含まれています。この POV は、ブックに含まれている各レポートのユーザー POV の次元をすべて組み合わせたものです。レポートに定義されていない次元は、デフォルトでユーザー POV のメンバーとなり、次元はブック・エディタのブック POV に表示されます。ユーザー POV をブック POV のメンバーとして選択することでパラメータを変更することもできます(パラメータはブック定義に格納されないため)。

ブック POV の次元として選択されたメンバーは、ブック POV のその次元を参照する各レポートで使用されます。POV 内のデータ・ソースは、ブック内のレポートで使用されるデータ・ソースと同じです。

注： ブックをバッチの一部としてスケジュールすると、ユーザー POV を参照する次元は、スケジュール済バッチの POV によってコントロールされます。

ブックとスナップショット・ブックで実行できるタスクは次のとおりです。

- バッチを使用して一連のブックをグループ化し、処理する。詳細は、[第 14 章「ジョブとバッチのスケジュール」](#)を参照してください。
- ブックやスナップショット・ブックへのリンクを電子メールで送信する。詳細は、[第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。
- ブックのデータ・ソースを変更する。詳細は、[第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。
- ブックやスナップショット・ブックを削除する。詳細は、[第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。
- ブックおよびスナップショット・ブックをリポジトリ以外のファイル・システムからインポートする。詳細は、[第 5 章「アーチファクトのインポート」](#)を参照してください。
- ブックおよびスナップショット・ブックをエクスポートする。詳細は、[第 5 章「アーチファクトのインポート」](#)を参照してください。
- 子、子孫、リストのメンバー関数などのメンバー選択の詳細機能を実行する。

ドキュメントの設計

EPM Workspace では、タスクの選択ウィザードを使用してブックやバッチを作成できます。詳細は、次の各項を参照してください。

- [199 ページの「ブックの作成」](#)
- [214 ページの「バッチの設計」](#)

ブックの作成

ブックを作成するには、次の操作を行います。

- [207 ページの「ブックとスナップショット・ブックの保存」](#)
- [208 ページの「ブックまたはスナップショット・ブックを開く」](#)
- [209 ページの「ブックとスナップショット・ブックの名前変更」](#)
- [209 ページの「ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷」](#)

ブックは EPM Workspace で作成、編集および保存します。ブックを作成するには、管理者またはデザイナーの権限が必要です。ブックには、レポート、スナップショット・レポートおよびサード・パーティのドキュメント(Adobe Portable Document Format ファイル(PDF)、テキスト(.txt)ファイル、Microsoft Office Excel、PowerPoint および Word ファイル)を含めることができます。サード・パーティのドキュメントは目次に表示され、Financial Reporting ドキュメントと同じ方法で開くことができます。ブック全体を 1 つのファイルとして開くときに、PDF ファイルにも含まれます。

注： ブックのすべてのタイプのファイルを選択するには、それらのタイプがリポジトリに格納されている必要があります。

注： ブックをスナップショット・ブックとして保存すると、展開機能と関連コンテンツは除去されます。

レポートをブックに追加する場合、レポートにメンバー選択用のプロンプトが含まれていることがあります。プロンプトは、ブックの実行時に定義されます。また、レポートをブックに追加する場合、ブック POV の次元を複数のメンバーに設定できます。ブックを実行すると、レポートは各メンバーを反復処理します。たとえば、北部、南部、東部、西部、実際および予算を選択した場合、このレポートの 6 つのバージョンがブックに含まれます。ブック内のすべてのレポートで同じメンバー選択が使用されている場合は、印刷出力をメンバー選択に基づいて丁合いです。これにより、たとえば東部の予算のレポートをすべてグループ化できます。

レポートで同じデータ・ソースが使用されている場合は、レポート・メンバー選択をレポート間でコピーできます。これにより、共有メンバーを複数回選択する必要がなくなります。

ブックでは、目次が作成されます。印刷された目次内のレポートをレポートまたはメンバー選択に基づいて丁合いです。たとえば、次の 2 つのブックを作成できます。

Book 1 : Balance Sheet (New York, Boston), (Q1, Q2) Cash Flows (New York, Boston), (Q1, Q2)

Book 2 Balance Sheet (Actual, Budget), (Q1, Q2) Cash Flows (New York, Boston), (Q1, Q2)

印刷されたブック内のレポートをレポートに基づいて丁合いですする場合、メンバー選択の各セットの最初のレポートが実行され、次に 2 つ目のレポートが実行されます。次のブックが作成されます。

Book1 Table of Contents

Balance Sheet

New York, Q1

New York, Q2

Boston, Q1

Boston, Q2

Cash Flows

New York, Q1

New York, Q2

Boston, Q1

Boston, Q2

印刷されたブック内のレポートをメンバー選択に基づいて丁合いです場合、メンバー選択の各レポートが実行されます。次のブックが作成されます。

Book1 Table of Contents

Balance Sheet

New York, Q1

Cash Flows

New York, Q1

Balance Sheet

New York, Q2


Cash Flows

New York, Q2



Balance Sheet

Boston, Q1
Cash Flows
Boston, Q1
Balance Sheet
Boston, Q2
Cash Flows
Boston, Q2


▶ ブックを作成するには、次の手順に従います。

- 1 EPM Workspace を起動します。
- 2 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択します。コンテンツ領域に1. タスクの選択ウィザードが表示されます。
- 3 レポートを収集してブックを作成を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 手順 2: ファイルの選択で、レポートとその他のアイテムをフォルダから選択し、 をクリックします。

ヒント: 複数の連続したレポートを選択するには、[Shift]キーを押します。複数の連続しないレポートを選択するには、[Ctrl]キーを押します。

- 5 オプション: ブックからレポートを除去するには、レポートを選択し、 をクリックします。ブックからすべてのレポートを除去するには、 をクリックします。

注: リポジトリ内のレポートまたはその他のアイテムを移動、削除または名前変更すると、そのアイテムは次回ブックを開いたときにブックから除去されます。それらのアイテムをブックに含めるには、再度追加する必要があります。

ヒント: 選択したレポートの順序を変更するには、 と  をクリックします。

- 6 完了したら、終了をクリックしてブック・エディタを開きます。

注: 目次に次元を表示するには、ブック・エディタで次元名を選択して「編集」を選択し、「目次にメンバーを表示」を選択します。ブック・エディタの「目次」列は、メンバー名を表示するか非表示にするかを示します。

- 7 オプション: ブック POV のメンバー選択を追加または変更します。
 - 1 「名前」列で、次元をダブルクリックして「メンバー選択」を表示します。
 - 2 メンバーを選択します。詳細は、202 ページの「メンバーの選択」を参照してください。
 - 3 「OK」をクリックします。
- 8 オプション: ブック・エディタで、レポートのメンバー選択をあるレポートから別のレポートにコピーします。

注: メンバー選択は、ユーザー POV の次元が同じレポート間でのみコピーされます。

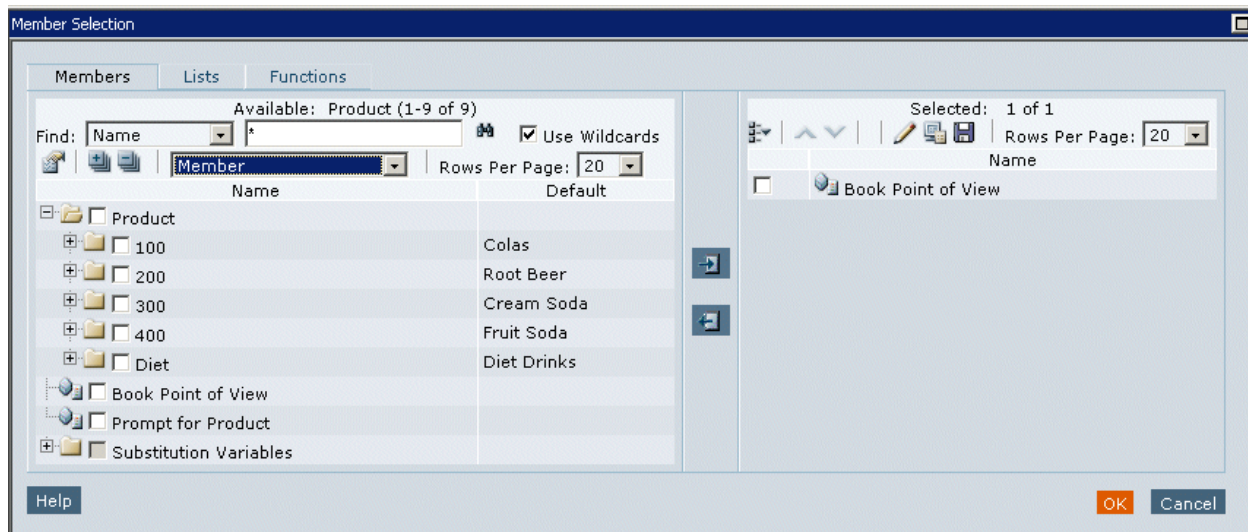
1. コピーするメンバーが含まれているレポートを選択します。
 2. 「編集」を選択し、「メンバー選択のコピー」を選択してレポートを選択します。
- 9 ファイルの保存を選択し、名前と説明を指定してブックを保存します。詳細は、207ページの「ブックとスナップショット・ブックの保存」を参照してください。

メンバーの選択


ブック・エディタでブックを操作する場合は、ブック POV のメンバーを変更および選択できます。メンバーの選択、メンバー・リストの作成と保存、データベース接続から動的にメンバーを取得する関数の選択などが行えます。

次の図は、Product 次元の「メンバー選択」ダイアログ・ボックスを示しています。左パネルには、「メンバー」、「リスト」および「関数」タブが表示されます。メンバー・リストと関数の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。「メンバー」タブでは列見出しを追加できます。

図 3 「メンバー選択」ダイアログ・ボックス



注： ディレクトリには、代替変数が配置されています。

- ▶ 「メンバー」タブの左パネルに列見出しを追加するには、プロパティの表示  を選択し、列名を選択します。
- ▶ 表示されている以外の階層を表示するには、次の操作を行います。
 - 1 メンバータブの使用可能ボックスで階層次元をクリックします。
 - 2 階層ドロップダウン・リストをクリックし、階層を選択します。
 - 3 OK をクリックします。

注：「使用可能領域」の下のプロパティは、Entity 次元について Hyperion Financial Management の期間別組織のレポートを作成する場合にのみ表示されます。親および親に属しているエンティティの両方が表示されます。

レポートを実行するときは、エンティティ名が表示されます。親の名前は表示されません。

使用可能領域

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスには、「メンバー」、「リスト」、「関数」という3つのナビゲーション・タブがあります。左パネルでは、個々のメンバー、メンバー・リストおよびメンバーを動的に選択する関数を表示できます。

メンバー・タブ

「メンバー」タブには、選択した次元に関連付けられているメンバーが表示されます。デフォルトでは、次元のメンバーはツリー・ビューに表示されます。ツリー・ビューは、指定した次元のメンバーの階層表示です。メンバーをフラット・リストに表示することもできます。デフォルトでは、ツリー・ビューには最上位メンバーのみ表示されます。最上位メンバーを展開してその子孫を表示できます。

リスト・タブ

「リスト」タブには、クエリの実行またはレポートのメンバーの選択に使用されるメンバー・リストが表示されます。表示されるリストのタイプは、データベース接続に基づきます。次のタイプがあります。

システム・リスト - ユーザー・リストの作成時にデータベースに事前に定義されます。メンバー、メンバー・リストおよび関数を含めることができます。システム・リストは、データベース接続として Essbase、Oracle Hyperion Planning、Fusion Edition または Financial Management を使用するときに表示されます。

ユーザー・リスト - ユーザー自身で作成するリスト。印刷プレビューまたは Web プレビューを選択すると、ユーザー定義のリスト内のメンバーが、リスト作成時に指定した順序で表示されます。ユーザー・リストは、データベース接続として Essbase を使用するときに表示されます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

動的リスト - DynamicMemberList 関数で使用される定義済みのリスト。動的リストは、データベース接続として Financial Management を使用する場合にのみ使用できます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

関数タブ

レポートのメンバーの選択時またはメンバー・リストへのメンバーの追加時に使用する関数を指定できます。関数を使用すると、メンバーや関連メンバーをデータベース接続から取得できます。1つ以上の関数を指定したり関数パラメータを編集したりできます。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

特殊メンバーの割当て

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスを使用して、特殊メンバー(プロンプト、Same As 関数、現在の POV、ユーザーの POV 用のメンバー)を選択します。

- プロンプト - ユーザーにメンバーの選択を求め変数のように動作します。プロンプトを使用すると、ユーザーがレポートの実行時に選択できる次元メンバーをレポート・ライターでフィルタできます。
- Same As 関数 - 列または行のメンバーを選択するのに、他の列または行と同じ設定を使う場合に使用します。
- 現在の POV - レポートの実行時に特定の次元のメンバーを指定する POV の変数として動作します。
- ユーザーの POV - ブック POV のメンバーとして選択できます。パラメータはエンド・ユーザーが変更できます。

プロンプトの詳細

「プロンプトの詳細」では、ブック用に選択できるメンバーを制限できます。別のメンバー・ラベルを指定することもできます。メンバー・ラベルとして、説明 (Financial Management データベース接続の場合)、別名 (Analytic Services または Planning データベース接続の場合)、メンバー名と説明またはメンバー名と別名を使用できます。たとえば、製品ラインのみ表示する場合は、「メンバー選択」(前の画面)で Product のメンバーとして「プロンプト」を選択し、「プロンプトの詳細」で特定の製品ラインを選択します。レポートを実行するユーザーはその製品ラインから選択します。

▶ メンバーの選択用のプロンプトを設定するには、次の手順に従います。

1 オプション: プロンプトに応答するときを選択できるものを、特定のデフォルト・メンバーかメンバー・リスト(またはその両方)に制限するには、次のいずれかのアクションを行います。

- メンバー名が既知の場合は、「デフォルト・メンバー」にメンバー名を入力するか、「デフォルト・メンバー」検索ボタンをクリックします。プロンプト用に複数のメンバーを指定する場合は、メンバーをカンマで区切る必要があります。

注: 「デフォルト・メンバー」を空白のままにすると、レポートの実行時に「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスにデフォルト・メンバーが表示されません。その場合、ユーザーは、デフォルトを受け入れるのではなくメンバーを指定する必要があります。

- メンバー・リストが既知の場合は、「選択リスト」ボタンをクリックして、メンバーのリストを選択します。プロンプト用に複数のメンバー・リストを指定する場合は、メンバー・リストをカンマで区切る必要があります。

2 「プロンプト用のメンバーを選択するダイアログ・ボックスに表示されるラベル」ドロップダウン・リストで、レポートの実行時に「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスに表示されるラベルの種類を選択します。

- データベース接続が Analytic Services または Planning の場合は、「メンバー名」、「別名」または「メンバー名と別名」を選択します。
- データベース接続が Financial Management または SAP BW の場合は、「メンバー名」、「説明」または「メンバー名と説明」を選択します。

3 OK をクリックします。

ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにする

レポートをブックに追加すると、レポート定義のユーザー POV の次元がブック POV に適用されます。ブック・エディタでは、ブック POV のメンバーはデフォルトでユーザー POV になります。

ヒント: リポジトリをブックでフィルタするには、「表示」を選択し、「表示するアイテムのタイプ」を選択します。次に、「Hyperion」を選択し、「ブック」を選択します。

▶ ユーザーの POV をブックの POV のメンバーにするには、次の手順に従います。

- 1 EPM Workspace リポジトリで、ブックを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択し、「エディタ」を選択します。
- 2 ブックの POV のビュー・ペインで、ユーザーの POV を設定する次元をクリックします。
- 3 メンバー選択で、ユーザーの POV を選択します。
- 4 OK をクリックします。

関数を使用したメンバーの割当て


関数を使用し、そのパラメータを編集して動的にメンバーを選択できます。関数パラメータの使用方法および編集の詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

条件に基づいた複数のメンバーの選択

条件に基づいてメンバーを選択できます。条件を定義するには、メンバーの式、ブール演算およびコマンドを作成します。

ブール演算子を使用すると、レポートのメンバーの組合せを正確に指定できます。これはデータが大量の場合に役立ちます。AND、OR、UNION および NOT ブール演算子を式のコマンドと組み合わせて使用して、メンバー選択を絞り込みます。

▶ 条件を指定して複数のメンバーを選択するには、次の手順に従います。

- 1 メンバー選択で、右パネルの選択済領域にある詳細設定オプションの表示  をクリックします。

注： 条件を定義するには、「**選択済**」ボックスに、少なくとも2つのメンバーが表示されている必要があります。

2 次の演算子や記号を1つ以上使用して、式を作成します。

- **NOT** ブール演算子を選択して式を作成します。**NOT** は選択した条件の逆を意味します。
- 式に左カッコを追加するには、最初の文字の左に(と入力します。
- 式に右カッコを追加するには、最後の文字の右に)と入力します。
- 「**演算子**」列をクリックし、次の中から演算子を選択します。
 - **AND** - すべての条件を満たす必要がある場合
 - **OR** - 複数の条件のうち1つを満たす必要がある場合
 - **UNION** - データを組み合わせる場合

注： 3つのメンバーを使用する場合は、二重カッコを使用する必要があります。たとえば、Marketの子孫を選択し、East、WestおよびSouthを除外する場合は、メンバー選択の詳細設定のクエリーを"Descendants of Market AND NOT (East AND NOT (West AND NOT SOUTH))"とする必要があります。

3 OKをクリックします。

メンバーの検索


編集するメンバーを検索できます。検索にはテキスト文字列またはプロパティ(名前と説明)を使用します。同時検索を実行する場合、区切り記号として空白スペースを使用できます。空白スペースを含む完全一致を検索するには、文字列を二重引用符で囲みます。



リストまたは関数を検索するには、「次を検索」ボタンまたは、「前を検索」ボタンを使用してこの機能をアクティブにする必要があります。

注： Financial Management では、エンティティを検索する場合、親エンティティを検索する必要があります(たとえば、D62VIELO.D62475LO)。エンティティのみを検索する場合は、エンティティの前にワイルドカードを付ける必要があります(たとえば、*D62475LO)。

メンバーを検索するためのオプションは次のとおりです。

表 45

オプション	説明
検索	検索する文字を入力するか、リストから保存済の検索条件文字列を選択します。検索文字列の一部、1つの単語または複数の単語を検索文字列として入力できます。
	クリックすると、検索条件に一致するメンバーが表示されます。




オプション	説明
ワイルドカードを使用	<p>「検索」ボックスにテキストとワイルドカード記号(*と?)を入力してメンバーを検索できます。「ワイルドカードを使用」はデフォルトで表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 疑問符(?)は、任意の1文字を示します。 アスタリスク(*)は、任意の複数の文字を示します。 <p>注： 検索条件にスペースを含める場合は、検索語句を二重引用符で囲みます。たとえば、「*IC Offset*」を検索する場合は「"*IC Offset*"」と入力します。""ワイルドカードを末尾にのみ指定する場合は、語句を二重引用符で囲む必要はありません。</p>
	「リスト」タブまたは「関数」タブで、検索条件に一致する前のアイテムを強調表示します。
	「リスト」タブまたは「関数」タブで、検索条件に一致する次のアイテムを強調表示します。

▶ メンバーを検索するには、次の手順に従います。

1 メンバー選択で、検索テキスト・ボックスにテキストを入力します。

注： ワイルドカード・オプションが使用可能になります。


2 次のいずれかのアクションを行います。

- 「メンバー」タブで検索を実行する場合は、「検索」ボタン  をクリックします。
- 「リスト」タブまたは「関数」タブで検索を実行する場合は、「次を検索」  または「前を検索」  をクリックします。

3 OK をクリックします。

選択したメンバーのプレビュー

選択したメンバーをプレビューできます。メンバーには、評価済メンバー・リストまたは関数からリストまたは関数の結果を含めることができます(該当する場合)。

▶ メンバーをプレビューするには、「メンバー選択」で、右パネルにある「選択項目のプレビュー」  をクリックします。

ブックとスナップショット・ブックの保存

ブックは、レポート、スナップショット・レポートまたはレポートとスナップショット・レポートの集まりとしてリポジトリに保存できます。既存のブックは、「名前を付けて保存」コマンドを使用して保存することで複製できます。

- ▶ ブックまたはスナップショット・ブックを保存するには、次の手順に従います。
- 1 EPM Workspace リポジトリで、ブックを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「エディタ」を選択してそのブックをブック・エディタで開きます。
 - 2 「ファイル」の保存を選択するか、ファイルの名前を付けて保存を選択します。
 - 3 タイプドロップダウン・リストから次のいずれかのオプションを選択します。
 - ブック - ブックを実行すると、レポート・データは動的になります。スナップショット・レポート・データは、レポートをスナップショットとして保存した時点の静的なデータです。
 - スナップショット・ブック - レポート・データが保存され、静的になります。スナップショット・レポート・データは、レポートをスナップショットとして保存した時点の静的なデータです。
 - 4 名前と説明を入力し、フォルダを選択して保存をクリックします。
- 注：** スナップショット・ブックとして保存する場合は、プロンプトがブックまたはブック内のレポートに含まれていれば「プロンプトに応答」ダイアログ・ボックスが表示され、「現在のユーザー POV の設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細は、[第 8 章「Financial Reporting の使用方法」](#)を参照してください。
- 5 リポジトリに移動して、ブックまたはスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権を設定します。詳細は、[217 ページの「スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て」](#)を参照してください。

ブックまたはスナップショット・ブックを開く

ブックを保存したら、ブックを開いて HTML フォーマットまたは PDF フォーマットで管理、印刷またはプレビューできます。ブックをプレビューすると、ブック内のレポートのリストとともに目次が表示されます。スナップショット・ブックをプレビューすると、目次はプリファレンス設定に従って PDF フォーマットまたは HTML フォーマットで表示されます。スナップショット・ブックは変更できませんが、リポジトリからプレビュー、印刷および表示できます。詳細は、[209 ページの「ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷」](#)を参照してください。

- ▶ ブックまたはスナップショット・ブックを開くには、次の手順に従います。
- 1 EPM Workspace リポジトリで、ブックまたはスナップショット・ブックに移動し、ファイルのファイル形式を指定して開くを選択します。
 - 2 次のいずれかのアクションを行います。
 - ブックの印刷バージョンを表示するには、「PDF プレビュー」を選択します。
 - ブックを HTML フォーマットで表示するには、「HTML プレビュー」を選択します。
 - 3 コンテンツ領域に「ブックの目次」が表示され、ブラウザの下部のタブにはブック名と「表示」が表示されます(たとえば、「TestBook - 表示」)。レポート、スナップショット

トまたはメンバーの名前は、「ブックの目次」の適用されるすべての行に表示されません。

- 4 「ブックの目次」でいずれかのレポートまたはスナップショットを選択し、レポートの表示をクリックします。レポートまたはスナップショットが HTML フォーマットまたは PDF フォーマットでコンテンツ領域に表示され、タブの説明にレポート名と POV が表示されます。
- 5 ブックまたはスナップショット・ブックを閉じるには、「ファイル」の「閉じる」を選択します。

ブックとスナップショット・ブックの名前変更

ブックまたはスナップショット・ブックを保存するか複製を作成したら、ファイル名を変更できます。

- ▶ ブックまたはスナップショット・ブックの名前を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラでブックを選択し、「ファイル」の「プロパティ」を選択します。
 - 2 プロパティで全般を選択します。
 - 3 名前フィールドと説明フィールドに別の名前と説明をそれぞれ入力します。
 - 4 OK をクリックします。

ブックとスナップショット・ブックのプレビューおよび印刷

ブックとスナップショット・ブックを印刷前に PDF フォーマットまたは HTML フォーマットでプレビューできます。ブックの目次で、ブック内の個々のレポートを選択して PDF または HTML でプレビューするか、すべてのレポートを含むブック全体を PDF で表示できます。

ブック全体またはスナップショット・ブック全体を印刷したり、ブックまたはスナップショット・ブック内の個々のレポートを印刷することもできます。ブックを印刷する場合は、ブック内のレポートのデータが取得されてブックが印刷されます。スナップショット・ブックを印刷する場合は、ブックをスナップショット・ブックとして保存したときにデータがすでにレポートに保存されています。

ブックを実行する前に、ユーザー POV をプレビューして必要な変更を行えます。これにより、ユーザー POV のメンバーが適切かどうかを、出力の表示後ではなくレポートまたはブックの実行前に確認できます。

ブックから生成された PDF ファイルの機能

ブックから生成された PDF ファイルでは、次の機能が使用可能です。

- PDF とプレーン・テキスト・ファイルのサポート。ブック内の"外部コンテンツ"として、Excel、Word、PowerPoint、PDF および通常のテキスト・ファイルを含めることができるようになりました。
- Financial Reporting レポートから抽出された"セル・ドキュメント"("CellDoc_Attach_Doc")に、PDF ファイルとプレーン・テキスト・ファイルを含めることができます。
- Financial Reporting レポートに関連付けられたすべてのセル・ドキュメントは、ブックの目次に"サブアイテム"として表示されます。
- PDF ブックマークは、Adobe Reader の左側に表示されます。ブックマークを使用すると、ブックの任意の章にジャンプできます。
- リンク・アイテムを含む目次。目次のアイテムをクリックすると、そのアイテムの最初のページが表示されます。
- 連続したページ番号。Financial Reporting レポート、スナップショット、Excel、Word、PowerPoint およびプレーン・テキスト・ファイルに、連続したページ番号が表示されます。

注： 連続したページ番号を使用可能にするには、ユーザーがブックの設定で「連続したページ番号」オプションを選択する必要があります。埋込み PDF ファイルには、連続したページ番号を実装できません。

- ページの合計数。連続したページ番号と同様に、Financial Reporting レポート、スナップショット、Excel、Word、PowerPoint およびプレーン・テキスト・ファイルに、ページの合計数が表示されます。たとえば、レポートが 3 ページでブックのコンテンツが 10 ページとします。レポートで"<<PageCount()>>"テキスト関数が使用されると、"3"ではなく"10"が表示されます。
- プレーン・テキスト・ファイルの印刷方法を、"FR_TextTemplate.doc"という Word ファイルを変更することでカスタマイズできます。詳細は、[213 ページの「Microsoft Word テンプレート」](#)を参照してください。

プレビューと印刷の詳細は、次の各章を参照してください。

- [第 8 章「Financial Reporting の使用方法」](#)
- [第 3 章「アイテムの参照と管理」](#)
- [212 ページの「PDF ファイルの印刷」](#)

注： ブックを印刷する前に、次の項で説明するようにブックの設定オプションを設定する必要があります。

ブックの設定の変更

ブックの設定オプションを使用すると、印刷時に目次を含めるかどうかの指定、ページの向きや連続したページ番号の設定、レポートに基づく目次の丁合い、メンバー選択に基づく目次の丁合い、各データ・ソースの目次で使用するメンバー・ラベルの選択が行えます。

注： 目次は名前、説明またはカスタム・テキストのいずれかを表示するように設定できます。211 ページの「目次テキストの設定」を参照してください。

- ▶ ブックの設定を変更するには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラ・リポジトリで、ブックを右クリックして「ファイル形式を指定して開く」を選択します。次に、「エディタ」を選択してブック・エディタを開きます。
 - 2 「ファイル」を選択し、「ブックの設定」を選択して「ブックの設定」ダイアログ・ボックスを表示します。
 - 3 ページ設定セクションで次のように設定を選択します。
 - 「用紙サイズ」で、「レター」、「リーガル」、「元帳」、「A4」または「A3」を選択します。
 - ページ番号をブック内の前のレポートから続けて設定するには、「連続したページ番号」を選択します。ブック内の各レポートをページ 1 から開始するには、「連続したページ番号」の選択を解除します。連続した番号に目次を含めるには、「目次を含める」を選択します。

注： ページ番号を印刷する前に、ブック内の各レポートのヘッダーまたはフッターでページの番号設定を指定する必要があります。

 - 「丁合基準」で、印刷する目次の丁合のオプションを選択します。
 - レポートに基づいて丁合するには「レポート」を選択します。
 - メンバー選択に基づいて丁合するには「メンバー選択」を選択します。 - 4 ダイアログ・ボックスの目次セクションで次のように設定を選択します。
 - 印刷時にブックの目次を含めるには、「印刷出力に目次を含める」をクリックします。

注： HTML プレビューまたは PDF プレビューの場合、このオプションは適用されません。ブックのプレビューには常にブックの目次が含まれます。

 - 目次の向きとして「縦長」または「横長」を選択します。
 - 「目次内のメンバーのラベル」で、現在使用しているデータ・ソースの目次で使用するメンバー・ラベルを選択します。表示されるオプションは、使用しているデータ・ソースによって異なります。
 - 5 OK をクリックします。

目次テキストの設定

ブック・エディタでは、目次の列に各エントリに対して選択されたテキストが反映されます。目次のデフォルト・テキストはオブジェクト名、またはメンバーの場合はメンバー名です。たとえば、ブックのオブジェクトがレポートの場合、レポート名が表示され、ブックのオブジェクトが外部ファイル(Microsoft Word ドキュメントなど)の場合、ファイル名がリポジトリに存在するとおりに表示されず、テキストはオブジェクトの説明(リポジトリに存在するとおり)またはカスタマイズされたテキストに変更できます。

- ▶ オブジェクトの目次テキストを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 ブック・エディタでオブジェクトを右クリックして、目次を選択します。
 - 2 目次で表示されるテキストの表示タイプを選択します。
 - オブジェクト名を表示するには、表示名を選択します。
 - リポジトリに存在するとおりのオブジェクトの説明を表示するには、説明の表示を選択します。
 - カスタマイズされたテキストを追加するには、カスタム・テキストの表示を選択します。「目次」ダイアログが表示されるので、カスタム・テキストフィールドにわかりやすい説明を入力し、OK をクリックします。

- ▶ メンバーの目次テキストを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 ブック・エディタでメンバーを右クリックして、目次を選択します。
 - 2 目次で表示されるテキストの表示タイプを選択します。
 - メンバーの表示を選択して、メンバー名を表示します。
 - メンバーの非表示を選択して、メンバー名を非表示にします。

PDF ファイルの印刷

ブック内のセル・ドキュメントおよびサードパーティ・コンテンツの PDF ファイルをサポートするには、Financial Reporting 印刷サーバーに Ghostscript が必要です。Ghostscript は、PDF プレビュー用に PDF ファイルを組み込むために必要です。Financial Reporting 印刷サーバーは、サポートされている Ghostscript バージョンを次の順に検索します。

- AFPL Ghostscript 8.5.4
- AFPL Ghostscript 8.51
- AFPL Ghostscript 8.1.4
- GNU Ghostscript 7.06

サポートされている Distiller Server

- Acrobat Distiller Server バージョン 6.0
- Acrobat Distiller Server バージョン 8.0

- ▶ 検索順を上書きするには、次の手順に従います。
 1. regedit.exe を使用して、次のレジストリ・キーを作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥AFPL Ghostscript¥FRCustom
```
 2. GS_DLL という新規文字列値を作成します。

GS_DLL の値には、優先する Ghostscript の dll ファイル(gsdll132.dll)へのフル・パスを指定する必要があります。たとえば、C:¥Program Files¥gs¥gs8.14¥bin¥gsdll132.dll を指定します。

テキスト・ファイルの印刷

Microsoft Word アプリケーションは、テキスト(.txt)ファイルを印刷するように拡張されています。

Microsoft Word テンプレート

Microsoft Word テンプレート・ドキュメントの FR_TextTemplate.doc は、Financial Reporting 印刷サーバーの \${home.reports}/bin/ フォルダにインストールされます。Financial Reporting 印刷サーバーがテンプレートを見つけると、テキスト・ファイルのコンテンツが Word テンプレートに挿入されます。その後、Word ドキュメントを印刷する既存のルーチンを使用してテキスト・ファイルが印刷されます。印刷ジョブが終了すると、ファイルは保存されずに閉じますが、テンプレートは次のテキスト・ファイルのために保持されます。

デフォルト・テンプレート設定

Word テンプレートのデフォルト設定は次のとおりです。

- ドキュメント本文の唯一のコンテンツとして <<FR_content>> 文字列が含まれています。
- テキストは 10 ポイントの Courier New フォントにフォーマットされます。
- 縦長、余白 1 インチで印刷されます。
- フッターは日時と現在のページ番号を印刷するように設定されています。これらの設定は、Financial Reporting 印刷サーバー経由で印刷されるすべてのテキスト・ファイルに対して更新されます。

テンプレートのカスタマイズ

テンプレートをカスタマイズする前に、必ずテンプレートのバックアップを作成してください。テンプレートは、Microsoft Word で開くことができます。テンプレートに加えた変更は、次回テキスト・ファイルを印刷するときに適用されます。Financial Reporting 印刷サーバーを再起動する必要はありません。

<<FR_content>> 文字列では、挿入するテキスト・ファイル・コンテンツのフォントと段落の設定を指定できます。この文字列は、FR_TextTemplate.doc テンプレートに含める必要があります。

テキスト・ファイルを印刷すると、Financial Reporting 印刷サーバーは FR_TextTemplate.doc を開き、<<FR_content>> 文字列を探します。見つかった場合、その文字列がテキスト・ファイルのコンテンツに置き換わります。見つからない場合、テキスト・ファイルのコンテンツは Word ドキュメントの末尾に挿入され、テンプレート内の既存のコンテンツはテキスト・ファイルのデータの前に表示されます。

Microsoft Word テンプレートを実装する利点は次のとおりです。

- テンプレートのデフォルト・フォーマットをカスタマイズできます。
- 印刷モード、ページ・サイズなどのテンプレートのページ設定をコントロールできます。

- ページ番号などのテンプレートのフッターをカスタマイズできます。
- 標準の機密条項などのテンプレートのコンテンツを追加できます。
- 会社ロゴなどのテンプレートのイメージまたは背景を追加できます。

ブックとスナップショット・ブックのエクスポート




リポジトリからブックやスナップショット・ブックをエクスポートできます。詳細は、[第3章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。

バッチの設計



バッチを使用すると、複数のレポートとブックを同時に処理できます。バッチは、名前、レポート、ブック、スナップショット・ブックおよびプロンプトで構成されます。プロンプト情報は、現在実行しているバッチの情報です。

保存済のバッチを変更、除去または再スケジュールできます。バッチを複製して、元のバッチと同じプロパティを一部または全部使用できます。

▶ バッチを設計するには、次の手順に従います。

- 1 EPM Workspace を起動します。
- 2 「ファイル」の「新規」を選択し、「ドキュメント」を選択して、タスクの選択ウィザードを表示します。
- 3 スケジュールを設定するレポートのバッチを作成を選択し、次へをクリックします。
- 4 「ファイルの選択」で、タイプフィールドを使用して選択項目を Financial Reporting レポート、スナップショット・レポート、ブックまたはスナップショット・ブックでフィルタします。
- 5 レポート・タイプを選択し、 をクリックして選択したアイテム・パネルに移動します。
- 6 オプション: 選択したアイテムからレポート・タイプを除去するには、レポートを選択し、 をクリックします。選択したアイテムからすべてのレポートを除去するには、 をクリックします。

注: リポジトリ内のレポートを移動、削除または名前変更すると、レポートは次回ブックを開いたときにブックから除去されます。レポートをブックに含めるには、ブックに追加します。

ヒント: 選択したレポートの順序を変更するには、 と  を使用します。

- 7 終了をクリックしてブック・エディタを開きます。

ヒント: 1つのレポート・タイプを複数回選択した場合は、重複するレポート・タイプの新規の名前の入力を求めるメッセージが表示されます。名前を変更したレポート・タイプは、元の名前の後に新規名がカッコで囲まれ

てバッチ・エディタに表示されます。重複するレポートを破棄するには、「取消し」をクリックします。

- 8 表示されたプロンプトに応答します。詳細は、[215 ページの「バッチのプロンプトの定義」](#)を参照してください。
 - 9 「ファイル」を選択し、「名前を付けて保存」を選択します。
 - 10 フォルダを選択し、名前と説明を入力して保存をクリックします。
- ▶ スケジュール済バッチに基づいてバッチ・プロパティを複製および編集するには、次の手順に従います。
- 1 ビュー・パネルでスケジュールを選択し、バッチ・スケジューラを選択します。
 - 2 スケジュール済バッチを選択し、編集を選択してプロパティの複製と編集を選択します。
 - 3 バッチのスケジュール設定で次のアクションを行います。
 - リポジトリで新規バッチのプロパティを複製するには、バッチを検索して選択し、「次へ」をクリックします。
 - 選択したスケジュール済バッチのプロパティを複製するには、「次へ」をクリックします。
 - 4 必要に応じてバッチのプロパティを編集します。たとえば、「開始時刻」または「宛先」の設定を変更できます。
 - 5 終了をクリックします。
- ▶ バッチを変更するには、次の手順に従います。
- 1 ビュー・パネルでスケジュールを選択し、バッチ・スケジューラを選択します。
 - 2 編集を選択し、プロパティを選択します。
 - 3 バッチのスケジュール設定でバッチを選択し、次へをクリックします。
 - 4 変更を加えて終了をクリックします。
- ▶ バッチを削除するには、次の手順に従います。
- 1 ビュー・パネルでスケジュールを選択し、バッチ・スケジューラを選択します。
 - 2 バッチ・スケジューラでバッチを選択し、編集の削除を選択します。
 - 3 はいをクリックします。

バッチのプロンプトの定義

プロンプトは、レポートまたはブックのメンバーの要求です。バッチ内のレポートまたはブックにプロンプトが含まれている場合、エンド・ユーザーはバッチ・エディタでメンバーを選択できます。

ユーザーがバッチを保存するときに、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスに、バッチ内のアーチファクトに含まれているプロンプトと変数が表示されます。

同じプロンプトと変数

SAP BW 変数は、レポート内のグリッドではなくデータソースに定義されるため、同じ変数をレポート、ブック、レポートまたはブック(あるいはその両方)を含むバッチ内のすべてのグリッドに使用できます。一方、プロンプトは、グリッドの行、列、ページに明示的に定義されます。変数に使用するメンバーと値の入力を求めるプロンプトが表示されると、ユーザーは変数を含むデータソースへのすべての参照に同じメンバーと値を使用できます。プロンプトへの応答は、すべての参照に対する1つの応答として適用したり、各グリッド、レポートまたはブックのメンバーと値ごとに指定したりすることもできます。

変数が存在しデータ・ソースへの参照が複数ある場合または同じプロンプトが複数のグリッドに存在する場合は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスにドロップダウン・リストが表示されます。このリストから、グリッド、レポートやブック、バッチのどのレベルでプロンプトに回答するかを選択できます。ドロップダウン・リストに表示される選択肢は、「プロンプトに回答」ダイアログ・ボックスがレポートやブックの実行中に表示されているか、バッチ・エディタから表示されているかによって異なります。ドロップダウン・リストは、選択の必要がある場合にのみ表示されます。たとえば、1つのグリッドを含むレポートを変数を含む SAP データ・ソースに対して実行した場合、ドロップダウン・リストは表示されません。同様に、レポート、ブックまたはバッチに1つのプロンプトのみ含まれている場合またはプロンプトが異なる(異なる次元、デフォルト・メンバー、変更リスト)場合、ドロップダウン・リストは表示されません。

レポートを実行中の場合、ドロップダウン・リストには次の選択肢が表示されません。

- レポート・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

ブックを実行中の場合、ドロップダウン・リストには次の選択肢が表示されます。

- ブック・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- レポート・レベルでプロンプトに回答
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

バッチを編集の場合、ドロップダウン・リストに表示される選択肢は、「バッチ・レベルでプロンプトに回答」(デフォルト)、「ブック/レポート・レベルでプロンプトに回答」および「グリッド・レベルでプロンプトに回答」です。

- バッチ・レベルでプロンプトに回答(デフォルト)
- ブック/レポート・レベルでプロンプトに回答
- グリッド・レベルでプロンプトに回答

選択肢は、必要な場合にのみ表示されます。1つの変数またはプロンプトへの複数の参照がある場合、選択肢は表示されません。

必要に応じて、ユーザーはレポートに一度応答し、同じ値を両方の応答に使用するか、ドロップダウン・リストで「グリッド・レベルでプロンプトに回答」を選択し、「適用」を選択して各プロンプトに異なる値を入力できます。

「ソース」列には、プロンプトが表示されるアーチファクトが表示されます。同じプロンプトが見つかり、プロンプトへの応答が1つのみ表示される場合は、「ソー

ス」列にアスタリスク(*)が表示されます。これは、プロンプトへの応答がそのタイプのすべてのプロンプトに適用されることを示します。

プロンプトに応答するレベルを選択できる機能は、EPM Workspace でのみ使用可能です。Oracle Hyperion Financial Reporting Studio, Fusion Edition では、「プロンプトに応答」タイアログ・ボックスに常にすべてのメンバー選択プロンプトと各変数への1つの参照が表示されます。

▶ プロンプトを定義するには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 バッチを選択します。レポートのプロンプトが設定された次元がバッチ・エディタのメンバー選択列に表示されます。
- 3 次元を選択し、編集を選択してメンバー選択を選択します。
- 4 メンバー選択で、バッチの実行時にレポートで使用するメンバーを選択します。詳細は、[202 ページの「メンバーの選択」](#)を参照してください。
- 5 OK をクリックしてバッチ・エディタに戻ります。
- 6 次のいずれかのアクションを行います。
 - オプション: バッチのスケジュールを設定します。詳細は、[214 ページの「バッチの設計」](#)を参照してください。
 - 「ファイル」の「保存」を選択してバッチを保存し、「ファイル」の「閉じる」を選択します。

バッチを開く

バッチを開いて編集したりスケジュールを設定したりします。

▶ バッチを開くには、次の手順に従います。

- 1 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 2 タイプドロップダウン・リストから「Hyperion」を選択し、「Financial Reporting バッチ」を選択します。
- 3 バッチが格納されているフォルダに移動します。
- 4 バッチ・ファイルを選択し、開くをクリックします。

スナップショットとスナップショット・ブックに対するファイルのアクセス権の割当て

バッチの実行時に、作成したりポジトリ内のスナップショットやスナップショット・ブックの表示を他のユーザーやグループに許可するには、ユーザーやグループにアクセス権を割り当てる必要があります。

- ▶ スナップショットへのアクセス権を割り当てたり除去したりするには、次の手順に従います。
- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
 - 2 バッチを選択し、編集のプロパティを選択します。
 - 3 「バッチのスケジュール設定」で、「バッチのスケジュール設定」ダイアログ・ボックスの「出力先」領域が表示されるまで次へをクリックします。
 - 4 リポジトリ内のスナップショットの保存先を選択します。
 - 5 ファイルのアクセス権をクリックします。手順 1 を参照してください。

注： バッチのすべてのユーザー、グループおよび役割を除去した場合、リポジトリ内のバッチによって生成されたスナップショット出力を表示できるのは管理者のみです。

この章の内容

EPM Workspace における Interactive Reporting の使用方法	219
ツールバーの使用法	220
Interactive Reporting ドキュメントの操作	223
Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの操作	229
データのエクスポート	234
クエリー・セクション	236
結果とテーブル	255
チャート・セクション	267
ピボット・セクション	290
一般的なチャート/ピボット機能	298
OLAPQuery セクション	300
CubeQuery セクション	303
ダッシュボード	343
レポート・セクション	347

EPM Workspace における Interactive Reporting の使用方法

EPM Workspace を使用すると、ユーザーはリレーショナル・データベースや異種ソース(SQL Server、Oracle、フラット・ファイル、Production Reporting や Web Analysis モジュールのコンテンツなど)に対してクエリーを実行したり、データのドリル・ダウンやピボットによる迅速なアドホック分析を実行してパターンや例外を検出したりできます。多くの機能を使用してデータを分析することで、販売パフォーマンスとキー・パフォーマンスの分析、財務分析および予測分析を行えます。

リレーショナル・データ・ソースを使用できるユーザーには3つのタイプがあります。"開発者"はデータベース接続ソフトウェアを所有し、完全な32ビット・アプリケーションを使用できます。"パワー・ユーザー"はこの接続を所有せず、セキュリティ上の問題が多い場合はサーバー経由でデータベースに接続されたクライアントを使用してクエリーにアクセスできます。また、ローカル・マシンにインストールされて Web ブラウザでホストされるアドオン・ソフトウェアを使用して、コンテンツを最初から作成できます。"情報消費者"は、通常は"シン・クライアント"を使用します。ソフトウェアはロードされず、ユーザーはかわりに DHTML ベースのページと対話します。

ここでは、情報消費者向けに、EPM Workspace で Interactive Reporting ドキュメント(BQY)を使用する方法を説明します。

ツールバーの使用方法

標準ツールバーと Interactive Reporting ツールバーを使用して、EPM Workspace 内をナビゲートし、よく使用するコマンドを操作します。

- [220 ページの「標準の EPM Workspace ツールバー」](#)
- [標準の Interactive Reporting ツールバー](#)
- [ナビゲーション・ツールバー](#)
- [ページング・ツールバー](#)

標準の EPM Workspace ツールバー

標準ツールバーは、一般的な EPM Workspace 機能に使用します。

次の標準オプションがあります(左から右へ)。



1. ホーム - EPM Workspace の開始ページを表示します。
2. 新規ドキュメント - 新規ドキュメント・ウィザードを表示します。このウィザードを使用して、オンライン分析用の Interactive Reporting ドキュメント (BQY)を作成したり、フォーマットされたレポートをブックにまとめたり、スケジューリング済レポートのバッチを作成したりできます。
3. ドキュメントを開く - 「開く」ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでファイルに移動できます。
4. エクスプローラ - リポジトリのコンテンツのリストを表示します。これにより、ファイルやフォルダを管理したりコントロールしたりできます。
5. 新規フォルダ - 「新規フォルダの作成」ダイアログ・ボックスを表示します。
6. コピー - ドキュメントまたはファイルをコンテンツ・ペインからコピーできます。
7. 切り取り - ドキュメントまたはファイルをコンテンツ・ペインから切り取ることができます。
8. 貼付け - ドキュメントまたはファイルをコンテンツ・ペインから貼り付けることができます。
9. 1 つレベルを上げる - フォルダ階層で 1 レベル上に移動できます。
10. リフレッシュ - EPM Workspace 画面に加えた最後の変更を表示します。
11. プロパティ - ドキュメントまたはフォルダを選択したり、関連するプロパティを表示したりできます。
12. ログオフ - 情報を保存しないでログオフできます。
13. ヘルプ - HTML のヘルプ・ページを新規ブラウザ画面に表示します。

標準の Interactive Reporting ツールバー

標準の Interactive Reporting ツールバーは、Interactive Reporting ドキュメント専用の機能にのみ使用します。

Interactive Reporting ツールバーには次のコマンドがあります(左から右へ)。



1. データ・レイアウト - コンテンツ領域でデータ・レイアウト・ペインを使用できます。
2. 戻る - 前のセクションを表示します。
3. 進む - 次のセクションを表示します。
4. ダッシュボード・ホーム - ダッシュボード・ホーム・セクションを表示します。
5. ページ番号 - テーブル・レポートの現在のページを表示します。円グラフ、散布図およびバブル・チャートを除くすべてのチャートについて、x 軸と y 軸のデータ・ポイントの現在のビューが表示されます。
6. 1 ページ左へ - レポート・セクションで 1 ページ左に移動します。左から最初のページに移動するには、[Shift]キーを押しながら左矢印をクリックします。チャート・セクションでは、このアイコンをクリックすると 1 ビュー左に移動できます。
7. 1 ページ上へ - レポート・セクションで 1 ページ上に移動します。一番上のビューに移動するには、[Shift]キーを押しながら上矢印をクリックします。チャート・セクションでは、このアイコンをクリックすると 1 ビュー上に移動できます。
8. 1 ページ下へ - レポート・セクションで 1 ページ下に移動します。一番下のページに移動するには、[Shift]キーを押しながら下矢印をクリックします。チャート・セクションでは、このアイコンをクリックすると 1 ビュー下に移動できます。
9. 1 ページ右へ - レポート・セクションで 1 ページ右に移動します。右から最初のビューに移動するには、[Shift]キーを押しながら右矢印をクリックします。チャート・セクションでは、このアイコンをクリックすると 1 ビュー右に移動できます。
10. リフレッシュ - データベース・サーバーに対して現在のセクションのみを処理して、最新のデータ・セットを動的に取得します。ただし、ダッシュボード・セクションとレポート・セクションを除きます。ダッシュボード・セクションとレポート・セクションで「リフレッシュ」コマンドを選択すると、Interactive Reporting ドキュメント(BQY)内のすべてのクエリーがリフレッシュされます。クエリーは、フル・クライアントのセクション・カタログに表示される順序でリフレッシュされます。たとえば、3つのクエリー(クエリー1、クエリー2、クエリー3の順)を含む Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の場合、「すべてリフレッシュ」を選択すると、その順序でクエリーが実行されます。

11. PDF にエクスポート - セクションを Portable Document Format(PDF)にエクスポートし、ブラウザで PDF MIME タイプが設定されている場合はブラウザ内で開きます。PDF フォーマットは Adobe によって作成され、Adobe Acrobat Reader がインストールされている場合はブラウザを使用しないで表示できます。Adobe Acrobat Reader は、Adobe の Web サイト(<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html>)からダウンロードできます。ブラウザで PDF MIME が設定されていない場合は、ブラウザの「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。
12. XLS にエクスポート - セクションを MS Excel にエクスポートし、XLS ファイル拡張子を認識するように MIME タイプが設定されている場合はブラウザ内で開きます。その後、ファイルをローカルに保存したりファイル进行操作したりする処理は、MS Excel アプリケーションによって行われます。XLS ファイル拡張子を認識するように MIME タイプが設定されていない場合は、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示され、XLS ファイルのローカルの保存場所を指定する必要があります。保存すると、後で MS Excel を使用してデータを表示できます。
13. XLS にエクスポート(*.mhtml) - セクションを Microsoft Office 2000 Web Archive(.mhtml または mhtml)にエクスポートします。このアーカイブ・タイプ・フォーマットは MS HTML と呼ばれ、オブジェクト(.gif や .jpeg ファイル)を HTML コードと同じファイルに格納するための標準です。オブジェクトは MIME HTML というインターネット標準を使用してエンコードされます。HTML を 1 つのファイルとして電子メールで送信する場合にこのファイル・フォーマットを使用できます。
14. 保存 - ファイルをローカルに保存し、Interactive Reporting ドキュメント(BQY)を Interactive Reporting Web Client で開きます。これにより、Interactive Reporting ドキュメント(BQY)を表示したり、オフライン表示用にデスクトップに保存したりできます。Interactive Reporting ドキュメント(BQY)は、フル・デスクトップまたは Web Client でのみ表示できます。Interactive Reporting Web Client がインストールされていない場合は、ブラウザが自動的に起動します。
15. 検索 - 特定のドキュメントを検索できます。

ナビゲーション・ツールバー

エンド・ユーザーは、「戻る」、「進む」、「ダッシュボード・ホーム」を使用してツールバーのセクション・ナビゲーション・コントロールが使用可能です。

標準の Interactive Reporting ツールバーが使用可能になっている場合、ナビゲーション・ツールバーは標準ツールバーのサブセットであるため、自動的に使用不可になります。ただし、標準ツールバーを使用不可にした場合、ナビゲーション・ツールバーとページング・ツールバーを同時に表示して使用可能にできます。

ページング・ツールバー

レポートの設計方法によっては、ページング・ツールバーという Interactive Reporting ツールバーの簡略バージョンが表示される場合があります。このバージョンの Interactive Reporting ツールバーには、「1 ページ左へ」、「1 ページ上へ」、

「1 ページ下へ」および「1 ページ右へ」というページング・コントロールがあります。

標準の Interactive Reporting ツールバーが使用可能になっている場合、ページング・ツールバーは標準ツールバーのサブセットであるため、自動的に使用不可になります。ただし、標準ツールバーを使用不可にした場合、ナビゲーション・ツールバーとページング・ツールバーを同時に表示して使用可能にできます。

ショートカット・メニュー

ショートカット・メニューを使用して、更新や管理が必要なオブジェクトに対して操作を行えます。ショートカット・メニューは、ポップアップ表示されるコンテキスト依存メニューです。

Windows ユーザーの場合、ショートカット・メニューを使用可能にするには、アイテムを選択し、[Shift]キーを押しながら[F10]キーを押すか、マウスを右クリックします。ショートカット・メニューが使用可能になっている場合は、HTML フレームの左上にメニューが表示されます。

マウスを右クリックしてショートカット・メニューを使用可能にした場合、ショートカット・メニューは、選択した領域内またはアイテム上でマウス・ボタンを右クリックした位置のカーソル・ポインタの横に表示されます。ショートカット・メニューから派生するサブメニューも使用可能です。サブメニューは複数の関連するコマンドをグループ化したものです。ショートカット・メニューまたはサブメニューからコマンドを選択すると、メニューは閉じます。

次の表に、キーボード・ショートカットを示します。

キーボード・ショートカット	説明
矢印キー	カーソルをショートカット・メニュー上で上下左右に移動します。
[Enter]	ショートカット・メニュー・アイテムに関連付けられたアクションを確認し、受け入れます。
[Esc]	開いているショートカット・メニューを閉じます。アイテムを選択または選択解除するか、[Tab]キーを押して閉じることもできます。

アラート・ダイアログ・ボックス

アラート・ダイアログ・ボックスには、アラートが発生した理由を説明する情報メッセージが表示されます。このダイアログ・ボックスが開いている間は他のウィンドウをアクティブにできないため、処理を続行するにはアラートを確認する必要があります。アラート・ダイアログ・ボックスを閉じるには、OK をクリックします。

Interactive Reporting ドキュメントの操作

ここでは、Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の操作方法について説明します。

- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルについて](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント\(BQY\)の Interactive Reporting データベース接続ファイル\(OCE\)の選択](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルへのアクセス](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの操作](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションのリフレッシュ](#)
- [ダッシュボードのホーム](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの保存](#)

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルについて

Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)は、クエリーのデータ(リレーショナルまたは OLAP)またはインポートしたデータを中心に構成されます。Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)のデータを提供できるクエリーとデータ・モデルの数に制限はありません。Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に複数のクエリーを格納でき、各クエリーはそれぞれ異なるデータベース(リレーショナル・データベース、インポートしたデータ・ファイル、ローカル・ファイル、OLAP サーバーなど)からデータを取得できます。Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)のデータ・モデルはエンドユーザーには見えませんが、これらのソースのデータをリフレッシュできます。エンドユーザーは既存のクエリーを複製したり、既存のデータ・モデルに基づいてクエリーを作成したりできます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を作成すると、そのファイルはサーバー上の EPM Workspace リポジトリに保存されます。

ユーザーがセクション・ペインで Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を選択して取得すると、Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)のクエリー、データ・モデル、データ・レイアウトおよびレポート作成ではなく、Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)の表示、リフレッシュおよび分析のいずれかに重点が置かれます。

別の Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に基づく Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)の作成

既存の Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に基づく Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成できます。この場合、新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルは、元の Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに関連付けられている Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)とセクションを継承します。

注： 別の Interactive Reporting データベース接続ファイルを使用する Interactive Reporting ドキュメント・ファイルまたは既存のデータベース接続ファイルが関連付けられていない新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成するには、[Interactive Reporting ドキュメント\(BQY\)の Interactive Reporting データベース接続ファイル\(OCE\)の選択](#) を参照してください。

- ▶ 既存の Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に基づく Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を作成するには、次の手順に従います。
- 1 ファイルを選択し、次に新規ドキュメントを選択します。
「タスクの選択」が表示されます。
 - 2 Interactive Reporting ドキュメントを作成を選択します。
「データ・ソースの選択」が表示されます。
 - 3 データ・ソースフィールドで、データ・ソース(Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY))の名前とパスを入力するか、参照をクリックしてファイルを探します。
参照機能の詳細は、[Interactive Reporting データ・ソースの選択](#) を参照してください。
 - 4 「作成形式」フィールドで、Web Client または HTML を選択します。
 - Web Client - リレーショナル、CubeQuery または OLAP クエリー・データ・ソースを使用する接続ファイルを使用して、Interactive Reporting Web Client で Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成します。
 - HTML - EPM Workspace で Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成します。
 - 5 終了をクリックします。
選択した Interactive Reporting ドキュメントに基づいて新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)が作成されます。

Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の Interactive Reporting データベース接続ファイル(OCE)の選択

Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)は、ユーザーが選択した Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を使用して作成できます。使用できる Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)については、次の表を参照してください。

Interactive Reporting データベース接続ファイルのタイプ	Interactive Reporting Web Client	EPM Workspace
リレーショナル	はい	いいえ
CubeQuery	はい	はい
OLAPQuery	はい	いいえ

- ▶ Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を使用して Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を作成するには、次の手順に従います。
- 1 ファイルを選択し、次に新規ドキュメントを選択します。
「タスクの選択」が表示されます。
 - 2 Interactive Reporting ドキュメントを作成を選択し、次へを選択します。
「データ・ソースの選択」が表示されます。
 - 3 データ・ソースフィールドで、Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)の名前とパスを入力するか、参照をクリックしてファイルを探します。
参照機能の使用方法の詳細は、[Interactive Reporting データ・ソースの選択](#) を参照してください。
 - 4 「作成形式」フィールドで、Web Client または HTML を選択します。
 - Web Client - リレーショナル、CubeQuery または OLAP クエリー・データ・ソースを使用する接続ファイルを使用して、Interactive Reporting Web Client で Interactive Reporting ドキュメントを作成します。
 - HTML - EPM Workspace で Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成します。Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)をリレーショナル・データ・ソースまたは OLAP クエリー・データ・ソースから選択した場合、このオプションは使用不可です。
 - 5 終了をクリックします。
選択した Interactive Reporting データベース接続ファイルに基づいて新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)が作成されます。

Interactive Reporting データ・ソースの選択

「選択」ダイアログ・ボックスを使用して、新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)のベースになる Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)または Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択します。

- ▶ Interactive Reporting データ・ソースを選択するには、次の手順に従います。
- 1 検索フィールドで、新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)のベースになる Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)または Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択します。
このダイアログ・ボックスに表示されるフォルダとファイルは、EPM Workspace リポジトリに対して発行されています。
「名前」フィールドと「タイプ」フィールドにファイル名とタイプ(Interactive Reporting ドキュメント・ファイルまたは Interactive Reporting データベース接続ファイル)が表示されます。
 - 2 その他のパラメータを指定するには、▼ Options を選択します。
「開く形式」フィールドと「バージョン」フィールドが表示されます。

- 3 Interactive Reporting Web Client で Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成するには、Interactive Reporting Web Client を選択します。EPM Workspace で新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成するには、HTML を入力します。

「開く形式」フィールドで使用可能なオプションは、Interactive Reporting データベース接続ファイルによって異なります。Interactive Reporting Studio および Interactive Reporting Web Client では、Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択して Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を作成できます。EPM Workspace では、新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの作成に Essbase クエリーの Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)しか使用可能ではありません。EPM Workspace でリレーショナル・クエリーに関連付けられた Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を使用して Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを作成することはできません。

- 4 バージョンフィールドで、バージョン情報を確認します。
- 5 OK をクリックします。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルへのアクセス

次の手順に従って Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを開いたり閉じたりします。

- ▶ Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを開くには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザで EPM Workspace の URL を指定します。
ログイン・ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 ユーザー名とパスワードを入力し、ログインを選択します。
- 3 Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を開きます。

Interactive Reporting ドキュメントは次の方法で開くことができます。

- エクスプローラを使用して、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに移動し、ファイルをダブルクリックします。
- Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを選択し、ショートカット・メニューの開くをクリックします。
- ファイルの開くを選択します。
- 「お気に入り」を選択し、Interactive Reporting ドキュメントを選択します(「お気に入り」に追加されている場合)。

EPM Workspace に Interactive Reporting ドキュメント・ファイルが表示されません。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルにダッシュボード・セクションが含まれている場合は、作成日順に表示されます。通常、ダッシュボード・セクションが最初に表示されます。ダッシュボード・セクションが含まれていない場合は、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの最後に保存されたセクションが表示されます。最後に保存されたセクションがクエリーまたはデータ・モデルの場合、あるいはなんらかの理由で失敗した場合、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルはセクション・ペインから次のセクション

を開こうとします。その場合、セクションを表示できるまでセクション・ペインの一番上から一番下に向かって処理します。

- ▶ **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイル(BQY)を閉じるには、ファイルの閉じるを選択します。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを変更した場合は、変更の保存を求めるメッセージが表示されます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの保存

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに加えた変更を分析後も保持するには、保存機能を使用します。EPM Workspace の保存機能を使用すると、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを EPM Workspace リポジトリに保存できます(インポート)。**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルをローカルに保存する方法については(オフライン分析)、[ネイティブ・ファイル・フォーマットでの Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのエクスポート](#)を参照してください。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの保存

Interactive Reporting ドキュメント(BQY)または **Interactive Reporting** ドキュメント・ジョブを変更した場合、変更した **Interactive Reporting** ドキュメントを EPM Workspace リポジトリに保存できます。EPM Workspace リポジトリを使用すると、効率的に **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを管理したり、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルをエンドユーザーのクエリーやレポート作成用にネットワーク全体に配布したりできます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを EPM Workspace リポジトリに保存するには、元のドキュメントに加えた変更とともに保存するか(「保存」オプション)、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを新規ドキュメントとして保存します(「名前を付けて保存」)。**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを上書きする権限がない場合は、「名前を付けて保存」を使用します。

保存コマンドの使用

「保存」コマンドを使用して、書込み権限がある **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルへの変更を保存します。

- ▶ **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを EPM Workspace リポジトリに保存するには、ファイルの保存を選択します。

オプション:  もクリックできます。

「名前を付けて保存」コマンドの使用手法

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを上書きする権限がない場合または変更を加えたファイルを単純に保存して名前を変更する場合は、「名前を付けて保存

存」コマンドを使用して Interactive Reporting ドキュメント・ファイルへの変更を保存します。


▶ EPM Workspace リポジトリに名前を付けて保存するには、次の手順に従います。

1 ファイル>名前を付けて保存の順に選択します。

「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 名前フィールドに Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの名前を入力します。

3 説明フィールドに Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの説明を入力します。

4  をクリックします。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの操作

Interactive Reporting ドキュメントは、データベースから情報を取得したり、情報を分析したり、レポートを作成したりするために作成され、使用されるファイルです。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルはクエリー、分析およびレポート作成のための統合ツールであるため、これらのドキュメントには複数のセクションがあります。各セクションでクエリーやレポートのリフレッシュの一部を管理します。データベースのクエリー、結果の取得およびレポートの生成に伴ってセクションを作成します。

Interactive Reporting は複数のセクションに分割されており、各セクションはレポート作成の1つの手順を管理します。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションは、データベースのクエリー、結果の取得およびレポートの生成のたびに作成されます。

各セクションは別々のウィンドウに表示され、異なる機能を果たします。いつでもセクション間を移動して、クエリーの再構築や結果データの変更ができます。セクションをダッシュボード・セクションに並べて配置することもできます。

エンドユーザーにデータベースに関する技術的な知識は必要ありません。データ・モデル・セクションは使用不可で、セクション・ペインに表示されません。各セクションは別々のブラウザ・ウィンドウに表示され、データの表示方法が異なります。たとえば、ピボット・セクションはスプレッドシートやクロス集計表に似ており、さまざまなデータ関係のドリル・ダウン分析を実行できます。チャート・セクションはデータの要約、トレンドおよび関係をグラフィカルに表現します。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを開くと、デフォルト・ホーム・ページとしてダッシュボード・セクションが表示されます。ダッシュボード・ホーム・セクションを表示できない場合、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの最後に保存したセクションが表示されます。最後に保存したセクションがクエリーまたはデータ・モデル(「セクション・ナビゲーション」ドロップダウン・メニューに表示されない)の場合、あるいはなんらかの理由で失敗した場合、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルはセクション・ペインから次のセクションを開こうとします。その場合、セクションを表示できるまでセクション・ペインの一番上から一番下に向かって処理します。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの使用方法については、次の各項を参照してください。

- [セクション・ペイン](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの選択](#)
- [セクションの追加](#)
- [セクション間の移動](#)
- [セクションの複製](#)
- [セクション名の変更](#)
- [セクションの削除](#)
- [Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションのリフレッシュ](#)
- [セクションの印刷](#)
- [ダッシュボードのホーム](#)

セクション・ペイン

セクション・ペインには、現在の Interactive Reporting ドキュメント・ファイルで使用可能なセクションが表示されます。

- **ダッシュボード** - Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを開くと、カスタマイズしたダッシュボード・セクションが Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの前面に表示される場合があります。ボタンの選択、アイテムの選択またはナビゲーションのたびにスクリプトを呼び出すことができます。Interactive Reporting では、データの取得、コントロールへのデータの移入、オブジェクトの非表示、別のセクションへの移動、レポート・パラメータの指定などのアクションを実行できるダッシュボードのスクリプト・コマンドが自動的にリフレッシュされます。
- **レポート** - 高品質でプロフェッショナルな設計のレポートが表示されます。これらのレポートは、複雑で重要な運用レポートから結果セット、チャート、ピボット・テーブルに至るまで様々です。レポートは、業績の評価、コミュニケーションの拡大および意思決定プロセスの支援に役立ちます。
- **クエリー** - Interactive Reporting ドキュメントの基本です。クエリー・セクションでは、リレーショナル・データベースに接続したり、構築済のクエリーやデータ・モデルをダウンロードしたりできます。
- **結果** - データがドキュメントに取り込まれ、結果セクションにテーブルの列として表示されます。
- **ピボット** - 大量のデータの要約またはクロス集計を行う対話型テーブルです。行と列を回転させてソース・データの別の要約を表示したり、関心のある領域の詳細を表示したりできます。
- **チャート** - 完全に対話型の 2 次元または 3 次元のデータ・ビューです。データを視覚的に分析できます。
- **テーブル** - データが列に表示される単次元のレポートです。多くの場合、テーブルは他のセクションの基本要素として使用されます。

- **OLAPQuery** - 多次元データベースへの接続用に設計されたクエリー・セクションです。
- **CubeQuery** - Essbase 9.x 以上のデータベースへの接続およびクエリー専用に設計されたクエリー・セクションです。

デフォルトでは、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルには少なくとも1つのクエリー・セクションと1つの結果セクションがあります。各セクションは別々のウィンドウに表示され、異なる機能を果たします。

いつでもセクション間を移動して、クエリーの再構築や結果データの変更ができます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションの選択

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに関連付けられているセクションは、セクション・ペインに表示されます。

- ▶ セクションを選択するには、セクション・ペインでセクションをクリックします。
- ▶ セクションを上下にスクロールするには、ブラウザの右側にあるスクロール・バーを使用します。

セクションの追加

新規セクションは、既存のクエリーと結果セットに基づいて追加されます。

- ▶ 新規セクションを **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルに挿入するには、アクション、挿入、(新規セクション)の順に選択します。

たとえば、新規チャートを挿入するには、「アクション」、「挿入」、「チャートの順」に選択します。

Interactive Reporting によって新規セクションが挿入され、セクション・ペインに新規セクション・ラベルが追加されます。セクション・ラベルは、追加されたセクションのタイプに基づきます。同じ名前のセクションがすでに存在する場合は、セクション・ラベルに連番が追加されます。

セクション間の移動

各セクションは別々のウィンドウに表示され、異なる機能を果たしますが、いつでもセクション間を移動して、クエリーの再構築や結果データの変更ができます。セクションを複数のウィンドウに並べて配置することもできます。

セクション間を簡単に移動して、クエリー、結果、レポートなどを操作できます。

- ▶ セクション間を移動するには、セクション・ペインでセクションを選択します。必要に応じて上下のスクロール・バーを使用して、セクション・ペインを縦方向にスクロールします。

セクションの複製

複製されたセクションは元のセクションのすべてのコンテンツとフォーマットを保持します。さらに、新規セクションはセクション・ペインに追加されます。新規セクション・ラベルは元のセクション・ラベルに基づきますが、連番が付加されます。たとえば、SalesChart という名前のセクションを3回複製した場合、セクション・ペインには SalesChart、SalesChart2、SalesChart3 および SalesChart4 が表示されます。

- ▶ セクションを複製するには、セクション・ペインで複製するセクションを選択し、ショートカット・メニューの「複製」を選択します。

セクション・ペインでセクションを選択し、「編集」、「セクション」、「複製の順」を選択してセクションを複製することもできます。

セクション名の変更

最初に作成したセクションには、デフォルト・セクション名(たとえば、Query、Results など)が付けられます。すでに存在するセクションと同じタイプの新規セクションを挿入すると、そのセクションには連番が付加されます(たとえば、Query2、Results2 など)。アプリケーションに基づく別の名前または一意の名前をセクションに割り当てるには、「名前変更」コマンドを使用します。

- ▶ セクションの名前を変更するには、次の手順に従います。

- 1 セクション・ペインで、名前を変更するセクションを選択します。
- 2 ショートカット・メニューの名前変更を選択します。

名前を変更するセクションを選択し、「編集」、「名前変更の順」を選択することもできます。

「セクション名を入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 セクションの新規名を入力し、OK をクリックします。

セクションの削除

セクションは削除できますが、注意が必要です。他のセクションに依存しているセクションがあります。つまり、あるセクションを削除すると、削除する必要のない1つ以上のセクションも削除される場合があります。削除したセクションは復元できません。

- ▶ セクションを削除するには、次の手順に従います。

- 1 セクション・ペインで、削除するセクションを選択します。
- 2 ショートカット・メニューの削除を選択します。


セクションを選択し、「編集」、「セクション」、「削除」の順に選択して削除することもできます。

「削除の確認」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 3 OK をクリックします。

ダッシュボードのホーム

ドキュメントを開くと、カスタマイズしたダッシュボード・セクションが **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルの前面に表示される場合があります。ボタンの選択、アイテムの選択またはナビゲーションのたびにスクリプトを呼び出すことができます。**Interactive Reporting** では、データの取得、コントロールへのデータの移入、オブジェクトの非表示、別のセクションへの移動、レポート・パラメータの指定などのアクションを実行できるダッシュボードのスクリプト・コマンドが自動的にリフレッシュされます。

- ▶ ダッシュボード・ホームを表示するには、 をクリックします。


Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのセクションのリフレッシュ

最新のデータ・セットをデータベースから **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルに取得するには、セクションをリフレッシュします。「リフレッシュ」コマンドは、どのクエリー・レポート・セクションでも使用できます。データ・セットをあるセクションでリフレッシュすると、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルに添付されているすべてのセクションもリフレッシュされます。

デフォルトでは、現在のオブジェクトをリフレッシュする現在のオブジェクトのリフレッシュ・コマンドは、ダッシュボード・セクションとレポート・セクションを除くすべてのセクションで使用できます。複数のクエリーがリフレッシュされる場合もあります。たとえば、レポートが複数のクエリーによる結果セットを参照する場合などです。

ダッシュボード・セクションとレポート・セクションでは、**Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルのすべてのクエリーをリフレッシュする「すべてリフレッシュ」コマンドが使用されます。クエリーはエンドユーザーには見えませんが、フル・クライアント・バージョンでセクション・カタログに表示される順に実行されます。たとえば、Query1、Query2 および Query3 という 3 つのクエリーを含む **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルの場合、「すべてリフレッシュ」コマンドを選択すると、クエリーはその順序で実行されます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのデザインによってクエリーに変数フィルタが設定されている場合は、クエリーをリフレッシュする前にフィルタの選択を解決する必要があります。その時点で、ユーザーにフィルタ値の選択または入力と制約の入力を求めるメッセージが表示されます。

- ▶ セクションをリフレッシュするには、 をクリックします。


セクションの印刷

セクションを印刷すると、ブラウザで PDF MIME タイプが設定されている場合、セクションは PDF ファイルに出力され、ブラウザ内に表示されます。その PDF ファイルはオンラインで表示したり、レポートのハード・コピーが必要な場合は印刷したりできます。

PDF フォーマットは Adobe によって作成され、Adobe Acrobat Reader がインストールされている場合はブラウザを使用しないで表示できます。Adobe Acrobat Reader は、Adobe の Web サイト(<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html>)からダウンロードできます。ブラウザで PDF MIME が設定されていない場合は、ブラウザの「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

注： クエリー・セクションは印刷できません。

- ▶ **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを PDF にエクスポートするには、ファイル、印刷、PDF の順に選択します。

オプション：  をクリックしてセクションを印刷することもできます。

ヒント： セクションを印刷することとセクションを PDF としてエクスポートすることは、機能的には同じことです。

データのエクスポート

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルは、次のフォーマットでエクスポートできます。

- PDF としてのセクションのエクスポート
- MS Excel(.XLS)へのセクションのエクスポート
- ネイティブ・ファイル・フォーマットでの Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのエクスポート

PDF としてのセクションのエクスポート

セクションを Portable Document Format(.PDF)にエクスポートすると、元のセクションのレイアウトとフォーマットを保持し、複数のプラットフォーム (Windows、UNIX、Macintosh など)に転送できます。ファイルを容易かつ効果的に保存、印刷、配布することもできます。

PDF ファイルを表示および印刷するには、Adobe(R) Acrobat(R) Reader™がインストールされている必要があります。Acrobat Reader は、インターネット・ブラウザのプラグインまたはスタンドアロン・アプリケーションとして動作できる、自己完結型アプリケーションです。

Acrobat Reader を使用すると、PDF ファイルを表示、印刷および共有できますが、作成したり変更したりすることはできません。Acrobat Reader は、Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます。

Acrobat Reader がインストールされている場合は、Acrobat Reader を使用するようにブラウザを構成する必要があります。たとえば、PDF ファイルを読み取るアプリケーションとして Acrobat Reader を関連付けたり、PDF を同じウィンドウではなく別のウィンドウに表示するように設定したりする必要があります。PDF ファイルを開くには、エクスプローラ・モジュールで PDF をダブルクリックします。

PDF をオフライン表示できるようにデスクトップに保存するには、Acrobat Reader ツールバーの「コピーを保存」をクリックします。ファイルの保存先ディレクトリの指定を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。

PDF を印刷するには、Acrobat Reader の「印刷」アイコンをクリックします。印刷パラメータの指定とレポートの印刷を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。

Acrobat Reader がインストールされていない場合は、ファイル・ダウンロードのダイアログ・ボックスが表示されます。ファイルをディスクに保存し、指定した場所から開くことができます。

- ▶ **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを PDF にエクスポートするには、



をクリックします。

オプション: 「ファイル」の「PDF で印刷」を選択して、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを PDF に出力することもできます。

MS Excel(.XLS)へのセクションのエクスポート

セクションを Microsoft Excel にエクスポートし、XLS ファイル拡張子を認識するように MIME タイプが設定されている場合はブラウザ内で開くことができます。その後、ファイルをローカルに保存したり、Microsoft Excel アプリケーションでデータを直接操作したりできます。XLS ファイル拡張子を認識するように MIME タイプが設定されていない場合は、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示され、XLS ファイルのローカルの保存場所を指定する必要があります。保存すると、後で Microsoft Excel を使用してデータを表示できます。

注: セクションを Web アーカイブ・フォーマットで MS Excel にエクスポートする必要がある場合は、EXCEL 2002(Office XP)または EXCEL 2003 を使用する必要があります。

- ▶ **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルを Excel(XLS)にエクスポートするには、次の手順に従います。

1 XLS にエクスポートをクリックします。

MIME タイプがセクションを認識するように設定されている場合、セクションは自動的に Microsoft Excel に表示されます。

XLS ファイル拡張子が認識されない場合は、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。手順 2 に従います。

2 必要に応じてファイル名フィールドにセクションの新規の名前を入力します。

3 ファイルの種類フィールドで「Microsoft Excel ブック (.xls)」を選択します。

4 保存を選択します。

ネイティブ・ファイル・フォーマットでの Interactive Reporting ドキュメント・ファイルのエクスポート

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルをネイティブ・ファイル・フォーマットでエクスポートする場合、EPM Workspace では、Interactive Reporting Web Client がインストールされているかどうかチェックされます。インストールされている場合は、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルがブラウザに表示されません。Interactive Reporting Web Client は、Web ブラウザのプラグイン・ディレクトリに配置される特別なアプリケーション・ファイルです。プラグインによって、Web ブラウザにシームレスな機能が追加されるため、ブラウザはプラグインの特定のファイル・タイプを HTML ファイルのように開くことができます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに加えられた変更は、EPM Workspace リポジトリのドキュメント・リストから選択された元の Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(サーバー上にあり、変更するには Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを再度インポートする必要があります)に複製されません。

- ▶ ファイルをネイティブ・ファイル・フォーマットでエクスポートするには、ファイル、エクスポート、ネイティブ・ファイル・フォーマットの順に選択します。

Interactive Reporting Web Client がインストールされている場合は、必要な変更を行い、ドキュメントを EPM Workspace リポジトリに保存します。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを上書きする権限がない場合は、「名前を付けてリポジトリに保存」コマンドを使用して Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの名前を変更し、リポジトリに保存します。

Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Web Client がインストールされていない場合は、「ファイルのダウンロード」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを現在の場所から開くか、ファイルをディスクにエクスポートして別の場所から開くことができます。

クエリー・セクション

クエリー・セクションは、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの基本です。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルには、多種多様なデータ・ソース(リレーショナル・データベース、OLAP サーバー、インポートされたデータ・セット、ローカル結合など)にアクセスできる複数のクエリー・セクションを含めることができます。各クエリー・セクションには独自の結果セクションがあり、同じデータベースや異なるデータベースを関連付けることができます(つまり、使用される接続ファイルまたはデータ・モデルは各クエリーで個別に定義されます)。

次のトピックに分かれています。

- [Interactive Reporting データベース接続ファイル\(OCE\)](#)
- [データ・モデル](#)
- [トピックとトピック・アイテム](#)
- [クエリーの制限事項](#)

- クエリーの操作
- 要求ペインでのアイテムの操作
- クエリーへの計算結果アイテムの追加
- 計算結果アイテムとデータ関数
- データ関数
- クエリー・フィルタの適用
- クエリー・ソートの適用
- クエリーのリフレッシュ

Interactive Reporting データベース接続ファイル(OCE)

Interactive Reporting を使用してリレーショナル・データベースのクエリーの実行や情報の取得を行うたびに、Interactive Reporting データベース接続ファイルとデータ・モデルを使用してデータベースが透過的に処理されます。エンド・ユーザーは、EPM Workspace で Interactive Reporting データベース接続ファイルとデータ・モデルを表示できません。

Interactive Reporting データベース接続ファイルは、Hyperion アプリケーションをデータベースに接続するために使用する接続情報をカプセル化し、保管します。Interactive Reporting データベース接続ファイルでは、データベース API(ODBC、SQL*Net など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレスおよびデータベース・ユーザー名を指定します。エンドユーザーは Interactive Reporting データベース接続ファイルおよびデータベースのパスワードとログオンを指定できます。Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)でデータベースから最新の情報を参照する必要があります。

Interactive Reporting データベース接続ファイル(.OCE)の選択

- ▶ Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択するには、次の手順に従います。
 - 1 ファイルを配置するフォルダに移動します。
 - 2 ファイルのインポートを選択し、ファイルを選択します。
最初の「インポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 参照をクリックし、必要な Interactive Reporting データベース接続ファイルが保存されているフォルダに移動します。次にファイルを選択して開くをクリックします。
選択した Interactive Reporting データベース接続ファイルの名前が「インポート」ダイアログ・ボックスの「ファイル」フィールドに自動的に移入されます。
 - 4 次へをクリックします。
2つ目の「インポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 5 ユーザー名、パスワードおよびメタデータ情報を指定し、終了をクリックします。
これらの設定の詳細は、「処理およびメタデータ・オプションの設定」を参照してください。

データ・モデル

データベースからフェッチするデータを指定するクエリーを作成するには、データ・モデルを使用してデータベースを操作します。

データ・モデルを使用すると、データベース・テーブルがトピックとしてグラフィカルに表示されるため、データベースにアクセスしやすくなります。また、次の操作も可能になります。

- 特定の人にしか理解できないデータベース・テーブル名や列名をわかりやすい名前に置換できる。また、データのカスタム・ビューを作成できる。
- 取得したデータで計算を実行するために、計算結果フィールドを追加できる。

EPM Workspace では、データ・モデルを表示できません。データ・モデルのマスター・コピーがクエリーに関連付けられている場合は、クエリーをマスター・コピーにリンクできます。詳細は、[新規クエリーの挿入](#)を参照してください。

トピックとトピック・アイテム

トピックは、データベースのテーブルを視覚的に表現したものです。ビジネスの特定の面(顧客や売上など)についての関連情報の論理グループです。トピックのリストはカタログ・リストに表示されます。

トピック・アイテムは、トピックまたはメタトピック内の個々のアイテムです。

クエリーを作成するには、トピックをカタログ・リストから要求ペインに追加します。トピック・アイテムを要求ペインにドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。クエリーをリフレッシュすると、要求ペインにあるすべてのトピック・アイテムのデータが戻されます。

クエリーの制限事項

EPM Workspace では、次のクエリー機能は使用不可であるかスコープが制限されています。

- 「クエリー・ログ」オプションと「カスタム SQL」オプションは使用不可です。
- サブクエリーはセクション・ペインでインデントされますが、EPM Workspace では標準クエリーとして表示されます。EPM Workspace ではサブクエリーを追加できません。
- Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに UNION クエリーが含まれている場合は、最初のクエリーが表示されます。データ・レイアウトの要求ペインとフィルタ・ペインは、UNION クエリーについては読取り専用です。さらに、ユニオン・コントローラ行もありません。EPM Workspace では新規 UNION クエリー・セクションを作成できません。
- EPM Workspace では、ローカル結果を表示できますが、新規ローカル結果テーブルを作成できません。
- EPM Workspace では、派生クエリーを表示できますが、新規派生クエリーを作成できません。

新規クエリーの挿入

「新規クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスを使用して、リレーショナル・クエリーのマスター・データ・モデルを選択します。さらに、Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に Essbase データ・ソースに関連付けられたクエリーが含まれている場合は、Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択できます。

注： Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)にリレーショナル・クエリーのみ含まれ、マスター・データ・モデルが含まれていない場合は、「新規クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスが使用不可です。Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)にマスター・データ・モデルにリンクされたリレーショナル・クエリーが含まれ、Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)に CubeQuery が関連付けられている場合は、「新規クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスのすべてのオプションが使用可能です。マスター・データ・モデルは多次元の Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)には使用不可です。

▶ マスター・データ・モデルとともに新規クエリーを挿入するには、次の手順に従います。

1 アクションの挿入を選択し、クエリーを選択します。

「新規クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 マスター・データモデルを選択し、クエリーにリンクするマスター・データ・モデルを選択します。

マスター・データ・モデルは、データベースの作成済のカスタム・ビューです。データ・モデルの利点は、マスター・データ・モデルに加えた変更が、マスター・データ・モデルをベースにしたすべての従属クエリーに反映されるという点です。

3 OK をクリックします。

▶ Essbase に関連付けられた Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択するには、次の手順に従います。

1 既存の Essbase 接続を選択し、データベース接続ファイル(.oce)を選択します。

2 OK をクリックします。

クエリーの操作

Interactive Reporting ドキュメント・ファイル内のすべてのクエリー・セクションは、セクション・ペインに表示されます。各クエリー・セクションについて、トピックを要求ペインに追加してクエリーを作成できます。データにフィルタを適用したり、データベースから戻されたデータのソート基準となる列を指定したりすることもできます。

検索の作成

クエリーは、データベースを視覚的に表現したものから取得するデータを選択して作成します。クエリーに含めるアイテムを選択してクエリーをリフレッシュすると、結果セットが生成されます。

EPM Workspace では、次の3つのメソッドでクエリーを作成できます

- セクション・ペインに表示されている既存のクエリー・セクションを複製し、変更します。
- マスター・データ・モデルと呼ばれる定義済のデータ・モデルにリンクします(適切な適応状態が与えられている場合)。
- Essbase データベースのクエリーに使用する Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択します。

▶ マスター・データ・モデルにリンクしてクエリーを作成するには、次の手順に従います。

1 アクションの挿入を選択し、クエリーを選択します。

「クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 マスター・データ・モデルを選択し、OK をクリックします。

要求ペイン、フィルタ・ペインおよびソート・ペインが表示されます。

3 カタログ・リストで、+ をクリックしてテーブルを展開します。

トピックのアイテムが表示されます。

4 + をクリックしてトピックを展開し、トピック・アイテムを表示します。

5 トピック・アイテムを要求ペインにドラッグします。

オプション: カタログ・リストでトピック・アイテムを選択し、ショートカット・メニューの「**要求に追加**」をクリックすることもできます。

ヒント: トピック・アイテムを選択し、カタログ・リストで「**選択アイテムの追加**」を選択するか、「**アクション**」の「**要求に追加**」を選択することもできます。


オプション: トピック全体を要求ペインに追加するには、トピックを選択し、要求ペインにドラッグします。

6 ソートを適用するには、トピック・アイテムを要求ペインからソート・ペインにドラッグします。

詳細は、[クエリー・ソートの適用](#)を参照してください。

7 フィルタ(制限)を適用するには、トピック・アイテムをフィルタ・ペインにドラッグします。

詳細は、[クエリー・フィルタの適用](#)を参照してください。

8  を選択します。

追加するアイテムの数が要求ペインに表示できる数を超える場合は、ブラウザのサイズを変更します。

- ▶ クエリー・セクションを複製するには、セクション・リストで複製するクエリーを選択し、ショートカット・メニューの「複製」を選択します。

EPM Workspace はセクションを複製し、新規セクション・ラベルをセクション・ペインに追加します。新規セクション・ラベルは元のセクション・ラベルに基づきますが、ラベルに連番が付加されます。たとえば、SalesChart という名前のセクションを3回複製した場合、セクション・ペインには SalesChart、SalesChart2、SalesChart3 および SalesChart4 が表示されます。

要求ペインでのアイテムの操作

クエリーを作成するときに、要求ペインに対してアイテムを追加したり除去したりできます。これにより、クエリーによるリフレッシュと表示の方法を変更できます。

- 要求アイテムの追加
- 要求アイテムの削除

要求アイテムの追加

クエリーは、トピック・アイテムをカタログ・リストから要求ペインに追加して作成します。

- ▶ トピック・アイテムを要求ペインに追加するには、カタログ・リストでトピック・アイテムを選択し、ショートカット・メニューの「要求に追加」を選択します。

要求アイテムの削除

要求ペインのアイテムを除去して、クエリーまたは結果セットからデータを除外できます。

- ▶ 要求ペインからアイテムを除去するには、目的のアイテムを選択し、ショートカット・メニューの「削除」を選択します。

そのアイテムを使用する従属セクションは、クエリーがリフレッシュされるまではアイテムの削除の影響を受けません。

注： 除去するアイテムのデータが計算結果アイテムやレポートで使用されていることがあるため、アイテムの削除は慎重に行ってください。

ピクチャ(BLOB イメージ)のサポート

ピクチャが BLOB データ型として収集されたイメージ・データで、ODBC 接続を持つデータベース管理システムにバイナリ単位として保管されている場合は、リレーショナル・データベースからピクチャをクエリーできます。使用可能な BLOB イメージ・ファイルとして、.JPEG、.BMP、.GIF および.PNG イメージ・フォー

マットがあります。ピクチャはクエリー・テーブルから要求ラインにドラッグ・アンド・ドロップしたり、結果セクションとテーブル・セクションの列に文字列として表示したり、レポート・セクションの横縞にグラフィカルに表示したりできます。ダッシュボード開発者は、ファイル・システムから静的イメージを選択するだけでなく、結果セットからイメージを選択できます。

Interactive Reporting では、BLOB イメージに次の制限が適用されます。

- ODBC 接続でサーバー定義の結合を使用する必要があります。
- イメージのデータ型を事前に指定することはできません。

次の関連トピックも参照してください。

- [242 ページの「クエリーへのピクチャの追加」](#)
- [242 ページの「結果とテーブルのピクチャの操作」](#)
- [243 ページの「レポートのピクチャの操作」](#)

クエリーへのピクチャの追加

クエリー・セクションでは、BLOB イメージをピクチャとして取得すると、その BLOB イメージは他のテーブル・トピック・アイテムと同様に扱われます。つまり、テーブルから直接要求ラインにドラッグ・アンド・ドロップできます。プライマリ・キーが定義されているテーブル内のピクチャのみがクエリーに追加されます。クエリー・セクションではピクチャをソートできません。BLOB 以外のイメージを要求ラインに追加した場合、レポート・セクションに表示されるイメージへのリンクは壊れています。

結果とテーブルのピクチャの操作

結果セクションとテーブル・セクションには、要求ライン上の BLOB データ型のピクチャの列が表示されます。各セルには、イメージではなく説明テキストが <<Picture:unique id>> のフォーマットで表示されます。一意の ID は、指定されている場合はツールチップ・テキスト、指定されていない場合はプライマリ・キー値です。

計算結果アイテムへのピクチャの追加

ピクチャ機能は計算結果アイテムで使用可能であるため、イメージを計算結果列に関連付けることができます。結果セクションとテーブル・セクションでは、ピクチャはイメージではなく説明テキストとして <<Picture:unique id>> のフォーマットで各セルに表示されます。一意の ID は、指定されている場合はツールチップ・テキスト、指定されていない場合はリソース名です。レポート・セクションでは、ピクチャを含む計算結果アイテムをグラフィカルに表示できます。たとえば、"if else"文を使用して、特定の条件が満たされた場合にイメージを表示し、満たされない場合は別の条件を表示できます。

```
:if (Amount_Sales >= 10000) {Picture ("C:\\graphics\\smile.gif" )}
else{Picture("C:\\graphics\\crying.gif" )}
```


レポートのピクチャの操作

レポート・セクションには、埋込みオブジェクト(結果とテーブル)を使用してデータベースから取得したピクチャ(BLOB データ型)を含めることができます。または、レポート・セクションでリソース・マネージャから静的イメージを取得して使用できます。ピクチャはカタログからレポート・レイアウト・コンポーネント(レポート・テーブル、レポート本文、レポート・グループ・ヘッダー、レポート・ページ・ヘッダーまたはフッター)にドラッグ・アンド・ドロップできます。ピクチャをテーブル・ファクト列にドラッグすることはできません。ピクチャをレポートに追加すると、すべてのイメージは、レポートに定義されている隣接する四角形に収まるようにサイズが設定されます。必要に応じてピクチャのサイズを変更できます。ピクチャは、その一意の ID(つまり、テーブル・セクションや結果セクションに表示されるテキスト)でソートされます。これは特にピクチャをアウトライナ経由でレポート・グループ・ヘッダーに追加した場合に役立ちます。

クエリーへの計算結果アイテムの追加

クエリー・セクションでは、計算結果アイテムはデータベース・サーバーに対する一連の指示です。EPM Workspace は、データベースからデータを取得する際に、データベース・サーバーの計算能力を使用して計算を実行します。

そのため、クエリー・セクションでは、他のセクションでは不可能な方法で計算結果アイテムを使用できます。つまり、新規データ・アイテムを作成するのではなく、値をデータベースから取得するときに、データ・アイテム内の元の値を単純に新規値に置き換えます。

さらに、データ・モデルのピックアイテムや、RDBMS にあるスカラー関数を使用してアイテムを計算できます。

注： EPM Workspace のショートカット・メニューを使用して計算結果アイテムを追加できません。計算結果アイテムを追加または変更するオプションが含まれる右クリック(ショートカット)メニューを使用可能にするには、少なくとも 1 つの結果またはテーブル列が存在している必要があります。列が存在しない場合は、「アクション」メニュー・オプションの「計算結果アイテムの追加」を選択して計算結果アイテムを作成します。

▶ クエリー・セクションで計算結果アイテムを作成するには、次の手順に従います。

1 要求ペインでアイテムを選択し、アクションの計算結果アイテムを選択します。

「計算結果アイテム」ダイアログ・ボックスが開きます。

オプション: 要求アイテムを選択して、ショートカット・メニューの「計算結果アイテムの追加」を選択することもできます。計算結果アイテムを追加または変更するオプションが含まれるショートカット・メニューを使用可能にするには、少なくとも 1 つの結果またはテーブル列が存在している必要があります。列が存在しない場合は、「アクション」メニューの「計算結果アイテムの追加」を選択する必要があります。

2 名前フィールドに計算結果アイテムの名前を入力します。

デフォルト名は"計算結果"で、複数の計算結果アイテムがある場合は連番が付加されます。計算結果アイテムに既存のスカラ関数名と同じ名前を割り当てた場合、EPM Workspace は名前に 2 から始まる番号を付加します。

- 3 「データ型」リスト・ボックスから作成する計算結果アイテムのデータ型を選択します。

244 ページの「データ型の調整」も参照してください。

- 4 定義テキスト・ボックスに計算結果アイテムの定義を入力します。

- 245 ページの「演算子」を参照してください。
- 「参照」をクリックして「参照」ダイアログ・ボックスを表示し、式に入れるアイテムを選択します。249 ページの「リファレンス」も参照してください。

JavaScript を使用して、式の一部または全体を「定義」テキスト・ボックスに直接入力することもできます。名前は大文字と小文字を区別します。アイテム名のスペースはアンダースコア("_")に置き換える必要があります。

- 5 式の入力が完了したら、OK をクリックします。

クエリー・セクションでは、結果ペインに計算結果アイテムが新規名で表示されます。クエリーをリフレッシュすると、計算結果アイテムは結果データ・レイアウト・ペインの一覧に表示され、結果セットの列として表示されます。

データ型の調整

計算結果アイテムは新規データ・アイテムであるため、データ型が混在する計算で精度を保持する場合や、データ・アイテムの処理方法を変更する場合(たとえば、数値を文字列として解釈する場合など)は、アイテムのデータ型を確認するか変更してください。これにより、サーバー計算でデータが正しく処理されます。

クエリー・セクションでアイテムを計算する場合は、データ型に注意することが最も重要です。計算はデータベース・サーバー上で実行されるため、計算結果アイテムが予期しないデータ型で処理される場合があります。

ローカルでの計算(結果またはピボット)は内部的に処理されます。16 ビットと 32 ビットの整数間の調整は、自動または数値データ型の仕様を使用して安全に処理できます。

計算結果アイテムは新規データ・アイテムであるため、データ型が混在する計算で精度を保持する場合や、データ・アイテムの処理方法を変更する場合(たとえば、数値を文字列として解釈する場合など)は、アイテムのデータ型を確認するか変更してください。これにより、サーバー計算でデータが正しく処理されます。

ローカルでの計算(結果またはピボット)は内部的に処理されます。16 ビットと 32 ビットの整数間の調整は、自動または数値データ型の仕様を使用して安全に処理できます。

表 46 データ型の仕様

データ型	指定
自動	参照アイテムのデータ型と実行される計算が指定されると、データ型は自動的に決定されます。

データ型	指定
BLOB	64,000 バイトで切り捨てられるバイナリ・ラージ・オブジェクトです。BLOB データ型には、jpeg、bmp、gif、png などのイメージ・フォーマットを含めることができます。
バイト	1 バイトのコンピュータ・ストレージで決まる長さの可変データ型です。バイト・データ型には、0 から 255 の数値または 1 つのテキスト文字を保管できません。
日付	サーバーのデフォルト・フォーマットによる日付(通常は mm/dd/yy)です。
整数(16 ビット)	16 ビット値(2 バイト)を保持します。16 ビットの整数には、0 から 16,777,216 の整数値と +8,388,608 から -8,388,608 の符号付き整数が格納されます。
整数(32 ビット)	32 ビット値(4 バイト)を保持します。32 ビットの整数には、0 から 4,294,967,296 の符号なし整数と 2,147,483,648 から 2,147,483,647 の符号付き整数が格納されます。
長いテキスト	255 バイトを超える文字データ(長いテキスト)です(255 文字までのテキスト文字列には文字列データ型が使用されます)。取得される長いテキストの最大長は 4000 文字です。4000 文字を超える部分は自動的に切り捨てられます。
パック実数	EDA ミドルウェアで使用できるようにパックされた実数です。Interactive Reporting における結果は実数と同じです。
実数	小数点以下 5 位までの小数です。
文字列	最大長が 256 文字までのテキスト文字列です。
時間	ユーザー・プリファレンスで指定されたフォーマットの時刻です。
タイムスタンプ	ユーザー・プリファレンスのフォーマットで示される日付と時刻です。

演算子

「計算結果アイテム」ダイアログ・ボックスで演算子を追加して、算術演算子や論理演算子を「定義」テキスト・ボックスの計算に追加できます。演算子は挿入時に追加されます。次のタイプの演算子を使用できます。

- [算術演算子](#)
- [比較演算子](#)
- [ステートメント](#)
- [論理演算子](#)

演算子を使用する場合は、次のガイドラインが適用されます。

- Null 値を表す場合は、「式」ボックスに単語の Null(引用符で囲まない)を入力します。
- 式を入力するすべてのテキスト文字列定数値と日付値定数値を一重引用符で囲む必要があります(数値は引用符なしに入力できます)。
- アイテムをスペースまたはその他の文字で連結するには、「式」ボックスでアイテムや文字列を参照するか入力し、+演算子で連結します(たとえば、City +

' , ' + State)。追加文字を使用しないで連結するには、Concat 関数を使用します。

- 除算では、除数に Null またはゼロを使用できません。5000/Units_Sold のように、式でデータ・アイテムが除数として使用され、このデータ・アイテムに Null 値かゼロが含まれる場合は、まず、if/else ロジックを使用して計算結果アイテムを作成し、Null 値とゼロを除去してから、除算を含んだアイテムを計算します。
- 2つの日付アイテムは、減算できますが、加算できません。Add Month 関数は、整数値を日付に加算します。
- Sum、Cume、Chr、Breaksum の関数内に関数をネストすることはできません。

算術演算子

算術演算子は、オペランドとして数値(論理または変数のいずれか)を取り、数値を1つ戻します。

表 47 算術演算子

演算子	名前	使用されるレベル
+	追加	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
-	減算	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
*	乗算	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
/	除算	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
(副次演算の開始	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
)	副次演算の終了	すべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル
++	増分	「クエリー」セクション以外のすべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル。
--	減分	「クエリー」セクション以外のすべてのセクションのサーバー・レベルとローカル・メタトピック・レベル。
Mod (%)	剰余	ローカル・メタトピック・レベルのみ

演算子	名前	使用されるレベル
	<p>剰余演算子は、var1 を var2 で除算した余りを整数で戻します。</p> <p>たとえば、5%4 は 1 を戻します。</p>	

ヒント： 計算結果アイテムが要求ペインに表示され、アイテムの定義で"Mytable.Column1-5"などの減算が使用されている場合、SQL エラーが発生する可能性があります。正確なエラーはデータベースによって異なりますが、最も一般的なエラーは、未定義の名前が使用されていることを示します。データベースではハイフンでつないだ名前を使用できるため、Interactive Reporting はそのような名前を直感的に処理しようとしません。したがって、"Mytable.Column1-5"のようなアイテム定義は名前として解釈されます。これが減算として処理されるようにするには、ハイフン(減算演算子)の両側にスペースを挿入します。たとえば、計算結果アイテムの定義として"Mytable.Column1 - 5"と入力すると、正しい SQL が生成されます。

比較演算子

比較演算子は、オペランドを比較し、比較が TRUE かどうかに基づいて論理値を戻します。オペランドは、数値でも文字列値でもかまいません。文字列値で 사용되는場合、比較は標準の辞書編集法に基づいて行われます。

注： 次の表内の比較演算子は、ローカル・メタトピック・レベルでのみ使用可能です。表内の例では、var1 には値 3、var2 には値 4 が割り当てられています。

表 48 比較演算子(ローカル・メタトピック・レベル)

演算子	次の場合、TRUE を戻します。
==	オペランドが等しい 例: 3 == var1
!=	オペランドが等しくない 例: var1!= 4
<	左のオペランドが右のオペランドより小さい 例: var1 < var2
<=	左のオペランドが右のオペランド以下である 例: var <= var2、var2 <= 5
>	左のオペランドが右のオペランドより大きい 例: var2 > var1
>=	左のオペランドが右のオペランド以上である

演算子	次の場合、TRUE を戻します。
	例: var2 >= var1、var1 >= 3

ステートメント

指定された条件が TRUE である場合、一連のステートメントを実行します。条件が FALSE である場合、別の一連のステートメントを実行できます。

表 49 If...else ステートメント

ステートメント	説明
if...else	<p>指定された条件が TRUE である場合、一連のステートメントを実行します。指定された条件が別のステートメントであり、ネストした別の if ステートメントが含まれる場合もあります。ステートメント条件が FALSE である場合、別の一連のステートメントを実行できます。複数のステートメントはカッコ{}で囲む必要があります。条件が FALSE であるときに、スクリプトにオプションの else ステートメントが含まれる場合、別の一連のステートメントを実行できます。</p> <p>サンプルの if ... else ステートメントは、次のようになります。</p> <pre>if (condition) { statements1 } else { statements2 }</pre>

論理演算子

論理演算子は、オペランドとしてブール(論理)値をとり、ブール値を戻します。

表 50 論理演算子

演算子	説明
AND(&&)	<p>2つの条件式を結合して、どちらの式も TRUE の場合にのみレコードを取得します。</p> <p>条件式にある条件が1つでも FALSE の場合は、計算アイテムは取得されません。通常、AND 論理演算子は、if や else ステートメントを使用する式など、別の条件式内にネストされます。次はその例です。</p> <pre>if ((OS == 'Windows') && (Item type == 'Modem')) {'Windows'} else {'other'}</pre>
OR()	<p>式の組合せを指定し、少なくとも式の1つが含まれるレコードを取得します。たとえば、単語の1つが Washington または Oregon である場合、式 Washington を持つすべてのレコードと、単語 Oregon を持つすべてのレコードが含まれます。</p> <p>通常、OR()は、if および else 論理演算子を使用する式などの他の条件式内にネストされます。たとえば、Washington および Oregon を Northwestern Region に割り当て、他のすべての州を Other Regions に割り当てる場合、次のように入力します。</p> <pre>if ((State == 'Washington') (State == 'Oregon')) {'Northwestern Region'} else {'Other Regions'}</pre>

演算子	説明
NOT(!)	<p>否定的な形式で正確に表明されたアイテムを割り出して表示します。実際には、条件式を満たすレコード以外のすべてのレコードが取得されます。</p> <p>条件式の前に NOT(!)論理演算子を付けて入力します。条件式は単純な値であったり、AND や OR を使用する式など、他の条件式内にネストされたりします。</p> <p>NOT の後ろに続く条件式が FALSE である場合、NOT を使用する結合条件式は TRUE です。NOT の後ろに続く条件式が TRUE である場合、NOT を使用する結合条件式は FALSE です。</p> <p>たとえば、Northwestern 地域にないすべての州を探しているとした場合、次の条件式を入力します。</p> <pre>if (! (State = 'Northwestern Region')) {'Other Regions'}</pre>

リファレンス

「参照」ダイアログ・ボックスを使用して、計算結果アイテム定義の構築元となるトピックおよびトピック・アイテムを選択します。

「参照」ダイアログ・ボックスは、左ペインのトピックと、右ペインのトピック・アイテムに分かれています。左ペインに表示されたトピックは、要求ペインのトピックから導出されたものです。右ペインに表示されたアイテムは、各トピックを構成する値です。トピックを選択して計算結果アイテム式で使用するには、先にトピックおよびトピック・アイテムを選択する必要があります。

計算結果アイテムとデータ関数

計算結果アイテムとデータ関数は、本質的に異なります。「計算結果アイテム」ダイアログ・ボックスにある関数は、データ関数と同じ方法ではデータを計算しません。

- 計算結果アイテムは、計算に基づいて元の値ごとに新規値を計算します(たとえば、価格および売上単位から収益を計算するなど)。新規値は、新規データ・アイテムの一部であるか、元の値を置き換えます。計算結果アイテムは元のレコード数を削減することはありません。
- 対照的に、データ関数は、データベース・レコードのグループを集約し、元の値を新規要約データに置き換えます。データ関数は値を集約するため、レコード数は頻繁に削減されます。

データ関数

データ関数は、平均、最大、カウントおよび他の統計を含む集約値を計算します。これらの関数は、データのグループを集約します。データ関数を使用すると、サーバーのデータが結果セクションに到達する前にのデータを集約および計算することや、集約した結果の合計についてさまざまな統計を計算してアイテムをレポートすることが可能です。

データ関数の効果が最も効果的に現れるのは、クエリー・セクションです。たとえば、ドルがロンドンとマドリッドにある店舗の売上取引レコードのアイテムの1つだとします。この場合、データが結果に取得された後、このアイテムにデー

タ関数を適用し、データを集計し、都市ごとに小計、平均売上額、個別売上レコードのカウント数、最小販売額を計算できます。

- ▶ データ関数を適用するには、アイテムまたは列を選択し、ショートカット・メニューでデータ関数を選択します。

オプション: アイテムまたは列を選択し、「アクション」、データ関数の順に選択してから(関数)を選択することもできます。

表 51 データ関数

機能	戻り値	適用範囲
なし	データベースに格納されている集約されていない値。クエリーでは、これがデフォルトです。	クエリー
合計	基底値の合計。結果およびレポート・セクションでは、これがデフォルトです。	すべて
平均	基底値の平均	すべて
Non-Null Average	Null 値を除いた基底値の平均	ピボット、チャート、レポート
最小	基底値の最小値	すべて
最大	基底値の最大値	すべて
カウント	基底値の個数	すべて
重複していない値のカウント	列内の重複していない値の数。この関数は、すべてのデータベース・サーバーでサポートされているわけではありません。	クエリー
Null 値のカウント	基底値にある Null 値の個数。	ピボット、チャート、レポート
非 Null 値のカウント	Null 値を除く基底値の個数	ピボット、チャート、レポート
Standard Deviation	値の標準偏差。この関数は、すべてのデータベース・サーバーでサポートされているわけではありません。	クエリー
差異	値の差異。この関数は、Oracle サーバーでのみ使用可能です。	クエリー
加重	加重されたアイテムを計算するためにピボット・レポートで使用します。	クエリー
列に占める割合%	基底値の合計の、対応する表示列に対するパーセンテージ。	ピボット

機能	戻り値	適用範囲
行に占める割合%	基底値の合計の、行の表示値に対するパーセンテージ。	ピボット
全体に占める割合%	基底値の合計の、レポートの表示値の合計に対するパーセンテージ。	ピボット、チャート
カテゴリに占める割合	選択した値の、グループの合計に対するパーセンテージ。	レポート
増加	直前の 2 つの行または列の間の増加を計算します。	ピボット
増加率(%)	直前の 2 つの行または列の間の増加のパーセンテージを計算します。	ピボット
タイトル	列名	レポート

Null 値は、データが何も指定されていない空の値です。Null 値はゼロと同じではありません。

クエリー・フィルタの適用

通常、クエリーを構築する場合、すべての製品に関する情報は表示しません。かわりに、特定の製品または製品ラインにのみ関連する情報を表示します。同様に、この製品が使用可能であったすべての年度に関する情報を表示するのではなく、最近の期間についてのみ表示します。

クエリー・セクションでフィルタを設定する場合、データがデータベースから戻されるのは、データが特定の条件を満たす場合のみです。年間 40 万ドル以上の売上有る重要な顧客や、中西部でガーデニング製品を購入する重要な顧客のみを表示するとします。この場合、フィルタを適用することにより、「sales > \$400,000; or, state is in Midwest Region and Product Line = Garden」という条件を満たすデータのみを表示するようデータベースに指示できます。

別の例では、アイテムのタイプにかけられたフィルタ(「=」(等しい)演算子および値「Keyboard」)は、キーボードの売上に関するレコードのみを戻します。他のすべての製品に関するレコードは、結果セットから除外されます。フィルタ式に値「Modem」を追加すると、データ・セットを拡張してモデムの売上レコードを組み込むことができます。

同様に、「売上高」アイテムに対して、フィルタ「> 5000」を適用すると、5,000 ドル以下の売上取引はすべて除外されます。また、「between 5000,10000」という式では、10,000 ドルを超える取引と、5,000 ドル以下の取引は除外されます。

クエリー・フィルタのもう 1 つの利点は、トピック・アイテムが要求ペインにない場合でも、任意のトピック・アイテムにフィルタを適用できる点です。たとえば、州、年度および売上単位を要求する場合、これらの任意のアイテムでフィルタをかけることができます。

オペレーティング・システムがコンテンツ・ペインのトピックの 1 つに含まれる場合、オペレーティング・システムでフィルタをかけることができます。たとえ

ば、オペレーティング・システムでフィルタをかけて UNIX のみに絞り込むと、UNIX オペレーティング・システムに関する売上情報のみが取得されます。要求ペインにオペレーティング・システムを配置する必要はありません。

注： クエリーに集約フィルタが含まれる場合、集約フィルタはデータ・レイアウトに追加されます。ただし、この集約フィルタ行のみが読み取られ、新規集約フィルタは作成できません。

▶ クエリー・フィルタを設定するには、次の手順に従います。

- 1 カタログ・リストでトピック・アイテムを選択し、ショートカット・メニューでフィルタに追加を選択します。

オプション: カタログ・リストから 1 つ以上のトピックをドラッグしてフィルタ・ペインにドロップすることもできます。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 2 次のオプションのいずれかを選択して、フィルタで使用する値を定義します。

- [260 ページの「値の表示」](#) - アイテムに関連付けられたデータベースの値を表示します。
- [262 ページの「カスタム値」](#) - カスタム値を入力するための空のテキスト・ボックスを提供します。
- [262 ページの「カスタム SQL」](#) - クエリー文に組み込む Structured Query Language(SQL)句を入力するための空のテキスト・ボックスを提供します。

- 3 値の表示またはカスタム値オプションを使用する場合、NULL 値を含むを選択し、データ・アイテムに値がないデータを組み込みます。

フィルタを設定したアイテムに値がない場合にレコードを取得します。たとえば、データが入力されていないフィールドなどです。Null 値はゼロと同等ではありません。

「カスタム SQL」オプションを使用している場合、残りのステップはスキップし、カスタム SQL を入力して「設定」をクリックします。

- 4 NOT チェック・ボックスを選択し、先行する演算子を否定します。

「NOT」を選択すると、方程式の結果が逆になります。

- 5 値のフィルタ設定に使用する比較演算子を選択します。

「> より大きい」を指定して値 10,000 を設定すると、10,000 より大きい値が戻されます。

有効な比較演算子のリストは、[247 ページの「比較演算子」](#)を参照してください。

- 6 フィルタとして適用する値を選択します。

- 7 設定を選択します。

フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

可変フィルタ

可変フィルタは事前に設定されたフィルタで、デザイナーによって Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに関連付けられており、クエリーのリフレッシュ時にのみ解決されます。このとき、フィルタ値を選択または入力し、制約を指定するよう求めるプロンプトが表示されます。可変フィルタのプロンプトが表示されるのは、基礎となる Interactive Reporting ドキュメント・ファイルが設定されている場合のみです。

可変フィルタは特に、カスタム・リストとともに使用すると効果的です。カスタム・リストが作成されている場合、カスタム・リストから値を選択するだけで、プロンプトに対応できます。たとえば、在庫レベルを監視するために毎月使用している Interactive Reporting ドキュメント・ファイルがあるとします。この Interactive Reporting ドキュメント・ファイルを使用するたびに、扱っている製品ラインごとに個別にこれを実行します。この製品ライン・アイテムに対してフィルタを可変式にし、カスタム値リストを作成することにより、プロセスを促進できます。Interactive Reporting ドキュメント・ファイルをリフレッシュするたびに、フィルタを再定義せずに新規製品ラインを選択できます。

次の3つのタイプからフィルタを選択し、変数制約を適用できます。

- [260 ページの「値の表示」](#) - アイテムに関連付けられたデータベースの値を表示します。
- [262 ページの「カスタム値」](#) - カスタム値を入力するための空のテキスト・ボックスを提供します。
- [262 ページの「カスタム SQL」](#) - クエリー文に組み込む Structured Query Language(SQL)句を入力するための空のテキスト・ボックスを提供します。

クエリーに対して特定の可変フィルタを選択する必要がない場合、「設定」を選択し、事前定義されているフィルタをそのまま使用してクエリーをリフレッシュします。他の値を変更または追加する場合、次の手順 2 および 3 を実行してください。

▶ 可変フィルタを指定するには、次の手順に従います。

1 Interactive Reporting ツールバーのリフレッシュをクリックします。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 値の表示またはカスタム値オプションを使用する場合、NULL 値を含むを選択し、データ・アイテムに値がないデータを組み込みます。

フィルタを設定したアイテムに値がない場合にレコードを取得します。たとえば、データが入力されていないフィールドなどです。Null 値はゼロと同等ではありません。

「カスタム SQL」オプションを使用している場合、残りのステップはスキップし、カスタム SQL を入力して「設定」をクリックします。

3 NOT チェック・ボックスを選択し、先行する演算子を否定します。

NOT を選択すると、方程式の結果が逆になります。

4 値のフィルタ設定に使用する比較演算子を選択します。

「> より大きい」を指定して値 10,000 を設定すると、10,000 より大きい値が戻されます。

有効な比較演算子のリストは、247 ページの「比較演算子」を参照してください。

5 フィルタとして適用する値を選択します。

6 設定を選択します。

フィルタが結果セットに適用されます。

フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

可変フィルタの設定結果を確認するには、変数が設定された後に「リフレッシュ」コマンドを選択します。

クエリー・ソートの適用

ソートにより、データ分析のプロセスが簡素化されます。データをソートした後、多くの場合、ソートによってデータが格付けされてトレンドや差が明らかになるため、疑問に対する解決策を簡単に確認できます。クエリー・セクションで簡単なソート条件を適用すると、クエリーをリフレッシュしながらデータベース・サーバーがデータをソートした後にデータがドキュメント・ファイルに取得されます。

通常、列に対して設定するソート条件には昇順または降順を設定できます。

- ▶ クエリーにソートを適用するには、要求ペインで1つ以上のアイテムをドラッグしてソート・ペインにドロップします。

オプション: ソートは、アイテムを選択して「アクション」、「ソートに追加」の順に選択することによって適用することもできます。

クエリーがリフレッシュされると、要求アイテムが結果セットでソートされます。

- ▶ 昇順でソートするには、次の手順に従います。
 - 1 要求ペインで1つ以上のアイテムをドラッグしてソート・ペインにドロップします。
 - 2 ショートカット・メニューで昇順ソートを選択します。
- ▶ 降順でソートするには、次の手順に従います。
 - 1 要求ペインで1つ以上のアイテムをドラッグしてソート・ペインにドロップします。
 - 2 ショートカット・メニューで降順ソートを選択します。
- ▶ ソートを削除するには、除去するソート値をソート・ペインから選択し、ショートカット・メニューで削除を選択します。


ソートを削除すると、データは元の表示状態に戻ります。

クエリーのリフレッシュ

クエリーを構築し、フィルタに計算、ソートおよび他の調整を適用して要求をさらに限定した後、クエリーをリフレッシュしてクエリー結果を取得します。クエ

リーが複雑な場合や、リンク先のレポート・セクションのデータをリフレッシュする必要がある場合は、クエリーのリフレッシュに時間がかかることがあります。

クエリーをリフレッシュすると、データは表形式で結果セクションに取得されます。任意のセクションでいつでもクエリーをリフレッシュし、データをリフレッシュできます。また、任意のセクションからいつでもクエリー・セクションに戻り、クエリーを変更してリフレッシュすることもできます。

▶ クエリーをリフレッシュするには、をクリックします。

オプション: 「表示」、リフレッシュの順に選択することもできます。

結果とテーブル

クエリーをリフレッシュするかデータをインポートすると、Interactive Reportingにより、データがブラウザに取得され、結果セクションに表示されます。クエリーによって複数の異なるデータベース・テーブルがアクセスされる場合がありますが、結果セットは単一テーブルとして表示されます。各要求アイテムはテーブル内の列として表示され、各データベース・レコードは行として表示されます。

結果セクションを使用して、次の操作を行います。

- 検索によって正しい情報が戻されたことを確認します。
- フィルタを適用して、データ・セットの調整や拡張を行い、計算結果アイテムやグループ化アイテムを作成します。
- ソートまたはテキストおよび列のフォーマット機能を使用して、データ結果の外観を見やすくできます。
- 要約の合計または小計を追加し、データ関数を使用して計算します。
- 取得されたデータを印刷するか、他のアプリケーションにエクスポートします。

テーブル、ピボット、チャートを含むすべてのレポートは、結果セクションに取得されたデータ・セットに基づきます。

Interactive Reporting には、データベース・クエリーの結果をより効率的に分析するための表示機能が複数用意されています。

- [テーブルの追加](#)
- [列と行の処理](#)
- [結果/テーブル・アイテムのソート](#)
- [数値のフォーマット](#)
- [結果とテーブル・フィルタの適用](#)
- [結果とテーブル](#)
- [値の表示](#)
- [結果とテーブルの合計](#)
- [結果とテーブルの計算結果アイテムの追加](#)
- [結果データのページング](#)

テーブルの追加

- ▶ 結果セクションのデータに基づいてテーブルを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 アクションの挿入を選択し、テーブルを選択します。
 - 2 結果アイテムをカタログ・リストからテーブル・データ・レイアウトにドラッグします。
テーブル列は自動的に移入されます。

列と行の処理

列と行は特定のニーズに応じてフォーマットできます。

- 列の追加
- 列の削除
- 列の自動サイズ調整
- 行の削除

列の追加

結果セットから列を除去した場合、これを簡単に追加し戻すことができます。ただし、再追加した列のデータ値により、結果セットから取り込まれる結果/テーブル・セクションまたは別のセクションの既存の列が自動的に更新されることはありません。

- ▶ 列を追加するには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューの列の追加を選択します。

列の削除

データ・セットを新規の方法で表示するためや、興味のある列を選択して絞るために列を削除する必要がある場合があります。このオプションはすべての列について使用可能です。他のセクションでは結果セットからデータ値が取り込まれるため、列の削除は慎重に実行する必要があります。

- ▶ 列を除去するには、列を選択してショートカット・メニューの「列の削除」を選択します。
列が削除されます。列を結果セクションに追加し戻す必要がある場合、ショートカット・メニューの列の追加を選択します。

列の自動サイズ調整

デフォルトでは、Interactive Reporting により、データ値の長さとは関係なく列が均等に切り捨てられます。列幅の自動サイズ調整機能を使用すると、列内の最大値のテキストに合うように列のサイズを自動的に調整できます。

- ▶ 列の自動サイズ調整を行うには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから列幅の自動調整を選択します。

行の削除

行が総計または区切りである場合、この行を削除できます。総計は、テーブルの最後のページの最後の行に表示されます。

- ▶ 行を選択するには、次の手順に従います。
 - 1 行を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから行の削除を選択します。

結果/テーブル・アイテムのソート

結果セクションのデータは、データベースから戻された順序でソートされます。列のソート順は、昇順または降順に変更できます。

- ▶ 列をソートするには、次の手順に従います。
 - 1 ソートする列を選択します。
複数の列を選択すると、ネストしたソートが実行されます。
 - 2 ショートカット・メニューからソートを選択します。
「ソート」サブメニューが表示されます。
 - 3 昇順または降順ソート・アイテムを選択します。
- ▶ 現在のソート順を削除するには、次の手順に従います。
 - 1 結果またはテーブル・セクションで列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューからソートを選択します。
「ソート」サブメニューが表示されます。
 - 3 すべて削除を選択します。

数値のフォーマット

数値、通貨値および日付の表示方法を全体的に変更することや、新規カスタム・フォーマットを作成することが可能です。

- ▶ 数値のフォーマットを適用するには、「フォーマット」ドロップダウン・リスト・ボックスからフォーマットを選択します。

表 52 フォーマットのカテゴリ

オプション	説明
カテゴリ	数値のフォーマットを表示するカテゴリを選択します。カテゴリを選択すると、そのカテゴリのフォーマットが「フォーマット」フィールドに表示されます。カスタム・フォーマットを作成するには、「カスタム」を選択し、必要なフォーマットを「フォーマット」フィールドに入力します。記号、小数点以下の桁数、カンマなどを入力し、フォーマットの表示方法を指定します。たとえば、MM/DD/YY と入力して日付を 01/01/99 と表示することや、\$\$#.###.00 と入力し、数値と小数点以下の桁数の前に 2 つのドル記号を表示して千の位をマークすることが可能です。カスタム・フォーマットを作成すると、カスタム・フォーマットは作成されたマシンのカテゴリとして表示されます。アイテムにカスタム・フォーマットがすでに適用されている場合、このカスタム・フォーマットは読取り専用モードになります。
フォーマット	選択したカテゴリのフォーマットを表示します。カスタム・カテゴリを作成する場合、必要なフォーマットを編集フィールドに直接入力できます。

次の表に、使用可能な数値カテゴリを示します。

表 53 数値カテゴリ

オプション	説明
数字	実数または整数値のデフォルト・フォーマットを設定します。
通貨	選択した数値オブジェクトに通貨フォーマットを適用します。
パーセンテージ	選択した数値オブジェクトにパーセンテージ・フォーマットを適用します。

次の表に、前述のカテゴリについて使用可能なフォーマット・オプションと定義、およびその例を示します。

表 54 フォーマット・オプションと説明

オプション	説明	例
0	整数のプレースホルダまたはゼロ値。数値の小数点に相対する位置に整数がある場合は、整数が表示されます。そうでない場合、ゼロが表示されます。	「0」を適用すると、「123」と表示されます。 「0.00」を適用すると、「123.45」と表示されます。
#	整数のプレースホルダ。数値の小数点に相対する位置に整数がある場合は、整数が表示されます。そうでない場合、何も表示されません。	「#,##0」を適用すると、「1,234」と表示されます。
()	かっこオプションを使用したフォーマットの場合、負数はかっこで囲まれて表示されます。そうでない場合、負数は	「(,###0)」を適用すると、「(1,234)」と表示されます。

オプション	説明	例
	マイナス記号を使用して表示されます。	
;	2種類の数値フォーマットを区切る場合は、セミコロンを使用します。セミコロンは正の整数と負の整数を区切りません。	「#,##0;(#,##0)」を適用すると、正数は「1,234」、負数は「(1,234)」と表示されます。
\$%	数値の小数点に相対する位置に文字を追加します。	「\$#,##0.00」を適用すると、「\$1,234.56」と表示されます。 「0%」を適用すると、「3%」と表示されます。
m d yy	日付コードの対応する位置に年月日を表示します。	「mm dd yy」を適用すると「05 07 99」と表示されます。
- /	日付コードの変数の位置に、対応する文字を追加します。?	「mm/dd/yy」を適用すると、「06/23/99」と表示されます。

結果とテーブル・フィルタの適用

ローカル・フィルタではデータを非表示にするのみであるため、データ・セットにフィルタを設定して一時的または仮定的状況を反映させる場合、ローカル・フィルタを使用することをお勧めします。このフィルタはいつでも除去でき、これにより、データが再表示され、レポート用として使用可能になります。

結果/テーブルにフィルタを適用することにより、要求を絞り込むことができます。関連データをこのように処理すると、時間を短縮するとともに、データベースやサーバーのリソースを節約できます。

テーブル/結果セクションの列に対するフィルタを追加、変更および除去できます。フィルタが設定される列はテーブル内に存在する必要があります。また、フィルタは、非表示の列には設定できません。

次の関連トピックも参照してください。

- [値の表示](#)
- [カスタム値](#)
- [カスタム SQL](#)
- [フィルタの変更](#)
- [フィルタの削除](#)

▶ 結果/テーブル・フィルタを追加するには、次の手順に従います。

- 1 フィルタを適用する列を選択します。
- 2 ショートカット・メニューからフィルタを選択します。
「フィルタ」サブメニューが表示されます。
- 3 「フィルタ」サブメニューから適用/変更を選択します。

「フィルタ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 4 次のオプションのいずれかを選択して、フィルタで使用する値を定義します。
 - 260 ページの「値の表示」 - アイテムに関連付けられたデータベースの値を表示します。
 - 262 ページの「カスタム値」 - カスタム値を入力するための空のテキスト・ボックスを提供します。

- 5 値の表示またはカスタム値オプションを使用する場合、NULL 値を含むを選択し、データ・アイテムに値がないデータを組み込みます。

フィルタを設定したアイテムに値がない場合にレコードを取得します。たとえば、データが入力されていないフィールドなどです。Null 値はゼロと同等ではありません。

「カスタム SQL」オプションを使用している場合、残りのステップはスキップし、カスタム SQL を入力して「設定」をクリックします。

- 6 NOT チェック・ボックスを選択し、先行する演算子を否定します。

NOT を選択すると、方程式の結果が逆になります。

- 7 値のフィルタ設定に使用する比較演算子を選択します。

「> より大きい」を指定して値 10,000 を設定すると、10,000 より大きい値が戻されます。

有効な比較演算子のリストは、247 ページの「比較演算子」を参照してください。

- 8 フィルタとして適用する値を選択します。

- 9 設定を選択します。

フィルタが結果セットに適用されます。

フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

値の表示

値の表示機能には、結果またはテーブル・セクションのコンテンツから導出された値のリストがあります。値の表示機能を使用すると使用可能な一意の値がすべて取得されるため、データ・アイテムが大きい場合、データ・アイテムのほとんどが一意の値で構成されている場合、またはデータ・アイテムが頻繁には変更されない場合(電話番号など)、この機能は使用しないことをお勧めします。この場合、データベースを別途呼び出さないようにするには、カスタム値の使用をお勧めします。

最初に表示される値リストはインポートされた Interactive Reporting ドキュメント・ファイルとともに保存されたものであり、データベースの最新の値リストではありません。

最新の値リストを表示するには、「表示」、リフレッシュの順に選択します。

- ▶ データベース・フィルタ値を指定するには、次の手順に従います。

- 1 値の表示タブを選択します。

- 2 NULL 値を含むを選択し、NULL 値がフィルタを通過してデータ・セットに表示されるようにします。
- 3 「演算子」ドロップダウンを展開し、フィルタ式の比較演算子を選択します。
「NOT」を選択し、演算子条件を逆にします。

「> より大きい」を指定して値 10,000 を設定すると、10,000 より大きい値が戻されます。比較テストに合格した値が含まれます。有効な演算子は、次のとおりです。

表 55 比較演算子のリスト

演算子	フィルタを設定したアイテムが次の条件を満たす場合にレコードを取得
等しい(=)	指定した値と等しい。
等しくない(<>)	指定した値と等しくない。
より小さい(<)	指定した値より小さい。
以下(<=)	指定した値以下である。
より大きい(>)	指定した値より大きい。
以上(>=)	指定した値以上である。
開始文字	指定した値から終了値までの範囲で始まる。
含む	位置とは関係なく指定した値が含まれる。
末尾文字	指定した値で終わる。
類似(ワイルドカード付き)	テキスト文字列が、指定した位置に表示される場合にレコードを取得します。 たとえば、「Name Like %ZE_」は、名前の最後に「Ze」ともう 1 文字が付く従業員のレコードを取得します。
Is Null	値がない。たとえば、データが入力されていないフィールドなどです。
範囲の定義	フィルタを設定したアイテムの値が、指定した値の範囲内にある(指定した値は含まない)場合にのみレコードを取得します。
Not(演算子付き)	後続の演算子を否定し、式の結果を逆にする。

- 4 値リストからフィルタとして含める値を強調表示します。
個別値を選択するには、値ペインで強調表示します。
値ペインで複数の連続した値を選択するには、[Shift]キーを押したままアイテムを上下にスクロールします。
値ペインで複数の連続していない値を選択するには、[Ctrl]キーを押したままアイテムを強調表示します。
- 5 設定をクリックします。
フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

カスタム値

カスタム値リストを使用して、フィルタを設定できます。カスタム値リストは、自分で作成するか、提供されます。配布されている Interactive Reporting ドキュメント・ファイルとともにカスタム値を使用する理由の1つに、多くのデータ・アイテムはめったに変更されない点があります。たとえば、性別アイテムでは3つの値(男性、女性および不明)が一貫しています。製品ライン・アイテムにはこれより多くのアイテムがありますが、これらのアイテムを変更するは年に1回程度です。このような状況下では、カスタム値リストから選択する方が合理的です。

値ペインに表示される最初のカスタム値は、Interactive Reporting ドキュメント・ファイルとともに生成されて保存されます。

▶ カスタム値をフィルタとして適用するには、次の手順に従います。

1 NULL 値を含むを選択し、データ・アイテムに値がないデータを組み込みます。

フィルタを設定したアイテムに値がない場合にレコードを取得します。たとえば、データが入力されていないフィールドなどです。Null 値はゼロと同等ではありません。

2 値のフィルタ設定に使用する比較演算子を選択します。

「NOT」チェック・ボックスを選択し、先行する演算子を否定します。

「>より大きい」演算子を選択して値 10,000 を設定すると、10,000 より大きい値が戻されます。

有効な比較演算子のリストは、[247 ページの「比較演算子」](#)を参照してください。

3 値フィールドで、フィルタとして設定する値を入力します。

4 値を追加するには、+(加算記号)を選択します。

値パネルから値を除去するには、値ペインでアイテムを強調表示し、-(減算記号)をクリックします。

5 設定をクリックします。

フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

カスタム SQL

SQL に精通している場合、カスタム SQL 機能を選択し、クエリー文に組み込む SQL の where 句を入力します。

▶ カスタム SQL 文を追加するには、次の手順に従います。

1 カスタム SQL タブを選択します。

2 値ペインでフィルタに使用する式が含まれる SQL の where 句を入力します。

3 設定をクリックします。

フィルタを削除せずに一時停止にするには、「無視」をクリックします。

フィルタの変更

クエリーまたは結果のデータ用のフィルタがすでに存在する場合、フィルタ条件を後で追加または変更できます。

- ▶ フィルタを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 フィルタが適用されている列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューからフィルタを選択します。
「フィルタ」サブメニューが表示されます。
 - 3 「フィルタ」サブメニューから適用/変更を選択します。
「フィルタ」ウィンドウが開きます。
 - 4 フィルタ値を選択して設定をクリックします。

次の表は、フィルタの変更オプションのクイック・リファレンスです。

コマンド	説明
設定	フィルタ値を適用します。
フィルタの無視	フィルタを削除せずに無視します。
取消し	現在のセッションに適用されているフィルタを取り消します。

フィルタの削除

フィルタを削除すると、フィルタによって除外されていた元の値がデータ・セットに戻されます。

- ▶ フィルタを削除するには、フィルタ値を削除する列を選択し、ショートカット・メニューからアクション、「フィルタ」、「削除の順」を選択します。

結果とテーブルの合計

合計と小計は、大きい結果セットを集計する際に役に立ちます。個別データ・レコードが必要なときに結果およびテーブル・セクションをクイック・レポートとして表示する場合、合計と小計を追加してレポートを管理可能セクションに分割します。

	Delivery Date	Units	Amount
0 AM	06/25/95 12:00 AM	35	4,146.8
0 AM	05/04/95 12:00 AM		1,487
0 AM	05/07/95 12:00 AM		3,274.5
0 AM	12/24/96 12:00 AM		2,809.6
Q	Sum		1,189.6
Q	Average		2,974
Q	Minimum		6,750
Q	Maximum	35	856.8
Q	Count	10	1,309.8
Q		15	1,964.7
Q	Remove All	20	2,449.6

次の関連トピックも参照してください。

- 列の総計の計算
- 列の小計の計算

列の総計の計算

数値データ列の総計を計算し、新規タイプの関数を使用して元の合計値を指定できます。たとえば、デフォルトでは、列の合計はこれらの列の値の和です。しかし、この合計を和のかわりに平均に変更できます。このような結果/テーブル・セクションの機能は、次のとおりです。

データ関数	戻り値
合計	すべての基底値の合計
平均	すべての基底値の平均
最大	基底値の最大値
最小	基底値の最小値
カウント	基底値の個数

- ▶ 列の総計を取るには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択して、ショートカット・メニューから総計を選択します。
使用可能なすべての合計関数を示すサブメニューが表示されます。
 - 2 合計関数を選択します。
選択列の最後のページの下部にある新規行に合計関数が表示されます。
- ▶ すべての総計を除去するには、次の手順に従います。
 - 1 総計が適用されている列を選択して、ショートカット・メニューから総計をクリックします。
使用可能なすべての合計関数を示すサブメニューが表示されます。
 - 2 すべて削除を選択します。
- ▶ 選択した小計を除去するには、次の手順に従います。
 - 1 総計が適用されている行を選択して、ショートカット・メニューから総計をクリックします。
使用可能なすべての合計関数を示すサブメニューが表示されます。
 - 2 削除を選択します。

列の小計の計算

区切り列として機能する非数値データの別の列を選択することにより、同じ列に小計を追加できます。区切り列は、ターゲット列内のデータを区切る位置を判別するための参照ポイントとして使用されます。小計列内のデータは、区切り列の個別値の各範囲ごとに小計が計算されます。

1つの列に小計が設定された後、この小計はすべての数値列に適用されます。

総計を追加するときに使用可能な合計関数のように、小計もさまざまな関数で構成されています。このような関数は、次のとおりです。

データ関数	説明
合計	すべての基底値の合計
平均	すべての基底値の平均
最大	基底値の最大値
最小	基底値の最小値
カウント	基底値の個数

- ▶ 小計を追加するには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択して、ショートカット・メニューから小計を選択します。
使用可能なすべての小計関数を示すサブメニューが表示されます。
 - 2 合計関数を選択します。
デフォルト合計関数は「合計」です。
ターゲット列に、小計とともに小計関数名が表示されます。
- ▶ すべての小計を削除するには、次の手順に従います。
 - 1 小計が適用されている列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから小計を選択します。
 - 3 すべて削除を選択します。
- ▶ 選択した小計行を除去するには、次の手順に従います。
 - 1 小計が適用されている行を選択して、ショートカット・メニューから小計をクリックします。
使用可能なすべての合計関数を示すサブメニューが表示されます。
 - 2 削除を選択します。

結果とテーブルの計算結果アイテムの追加

結果およびレポート・セクションでは、計算は Interactive Reporting ドキュメント・ファイルで実行されます。この計算には、結果セット内のデータか、レポート・セクションに表示されているデータのみが含まれます。

これらのセクションでは、新規計算結果アイテムを作成することのみ可能です。データベースから直接取得された元のデータ・アイテムは変更できません。

結果セクションとレポート・セクションの計算結果アイテムは、次の2点が異なります。

- 「結果」セクションと「テーブル」セクションでは、参照アイテムは、要求ペインに表示されているアイテムに限定されています。

- 残りのレポート・セクション(レポート・デザイナー・セクションを除く)では、任意のデータ・レイアウトのアイテムを「参照」ダイアログ・ボックスで使用可能です。これらのセクションにおける計算は、レポートの中核を形成する集約セル値に対して機能します。データが集約される前に計算を実行するには、結果セクションで新規アイテムを計算します。
 - Report Designer セクションでは、テーブルの小計を計算できます。
- ▶ 結果およびテーブル・セクションで計算結果アイテムを追加するには、次の手順に従います。
- 1 要求ペインでアイテムを選択し、アクション、計算結果アイテムの追加の順に選択します。
「計算結果アイテム」ダイアログ・ボックスが開きます。
計算結果アイテムを追加または変更するオプションが含まれるショートカット・メニューを使用可能にするには、少なくとも1つの結果またはテーブル列が存在している必要があります。列が存在しない場合、「アクション」メニューの「計算結果アイテムの追加」を選択する必要があります。
 - 2 名前フィールドに計算結果アイテムの名前を入力します。
デフォルト名は「計算結果」で、複数存在する場合は、順次番号が付けられます。既存のスカラー関数名と同じ名前の計算結果アイテムに名前を割り当てる場合、Interactive Reporting により、番号2から始まる番号が名前に付けられます。
 - 3 「データ型」リスト・ボックスから計算結果アイテムのデータ型を選択します。
データ型の詳細は、[244 ページの「データ型の調整」](#)を参照してください。
 - 4 「定義」テキスト・ボックスに計算結果アイテムの定義を入力します。
 - 演算子を入力して、挿入ポイントに算術演算子や論理演算子を挿入できます。詳細は、[245 ページの「演算子」](#)を参照してください。
 - 「参照」をクリックして「参照」ダイアログ・ボックスを表示し、式に入れるアイテムを選択します。[249 ページの「リファレンス」](#)も参照してください。
JavaScript を使用して、式の一部または全体を「定義」テキスト・ボックスに直接入力することもできます。名前は大文字と小文字を区別します。アイテム名のスペースはアンダースコア("_")に置き換える必要があります。
 - 5 式の入力が完了したら、OK をクリックします。

データ型の調整

計算結果アイテムは新規データ・アイテムであるため、データ型が混在する計算で精度を保持する場合や、データ・アイテムの処理方法を変更する場合(たとえば、数値を文字列として解釈する場合など)は、アイテムのデータ型を確認するか変更してください。これにより、サーバー計算でデータが正しく処理されます。

クエリー・セクションでアイテムを計算する場合は、データ型に注意することが最も重要です。計算はデータベース・サーバー上で実行されるため、計算結果アイテムが予期しないデータ型で処理される場合があります。

ローカルでの計算(結果またはピボット)は内部的に処理されます。16ビットと32ビットの整数間の調整は、自動または数値データ型の仕様を使用して安全に処理できます。

表 56 結果とテーブルのデータ型

データ型	指定
自動	参照アイテムのデータ型と実行される計算が指定されると、データ型は自動的に決定されます。
数字	数値データ型です。
文字列	最大長が 256 文字までのテキスト文字列です。
日付	サーバーのデフォルト・フォーマットによる日付(通常は mm/dd/yy)です。
ピクチャ	jpeg、bmp、gif および png などのイメージ・フォーマットのピクチャ・データ型 (BLOB)です。

結果データのページング

デフォルトでは、ユーザーがブラウザでページを表示すると、Interactive Reportingにより、一定数の行がテーブルに表示されます。ページに表示される垂直および水平行をデータが超えたときのページング動作は、次を参照してください。

表 57 結果とテーブルのページング・オプション

ページング・オプション	説明
現在のページ	ツールチップにレポートの現在のページが表示されます。
1 ページ上へ	1 ページ上へ移動します。最上位ページに移動するには、[Shift]キーを押しながら上矢印を押します。
1 ページ下へ	1 ページ下へ移動します。最下位ページに移動するには、[Shift]キーを押しながら下矢印を押します。

チャート・セクション

チャートは、完全に対話型のデータの3次元ビューです。チャートは、ピボット・セクションのグラフィカル表現です。さまざまなチャート・タイプの選択肢や、グループ化、ドリルダウンおよび詳細へのドリルなどの各種ツールを備えたチャート・セクションは、同時グラフィック・レポートおよびアドホック分析をサポートできるよう構築されています。チャート・オブジェクトの追加、移動、クラスタ化、フォーカスおよびドリルダウンにより、データのカスタマイズ・ビューを取得できます。

- [チャートの次元について](#)
- [凡例](#)
- [チャート・タイプ](#)
- [2次元のチャート・タイプ](#)

- 多次元のチャート・タイプ
- 3次元の棒グラフの表示

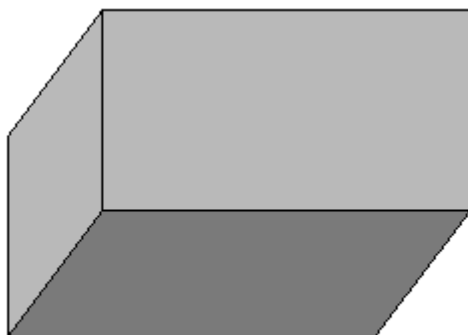
チャートの次元について

チャートは、高さ、幅および深さ(デカルト空間における X、Y および Z)という 3 点で参照できます。チャート間の差異を理解するには、空間内の次元とデータの次元を区別する必要があります。これら 2 つの次元は異なります。

データは、2次元または3次元空間で表すことができます。2次元の場合、データは X 軸と Y 軸に沿って表すことができます。3次元の場合、データは Z 軸にも沿って投影できます。

2次元のデータは、2次元空間で表す必要があります。3番目の次元空間を使用するには、少なくとも3次元のデータが必要です。

ただし、3次元以上のデータは2次元空間で表すことができます。たとえば、クラスタおよびスタックは、2次元空間(X軸とY軸のみ)の棒グラフでデータ・カテゴリを表します。



チャートのデータ・レイアウトのカテゴリ

チャート・セクションは、チャートの初期プロット領域で開きます。チャート構築はユーザーが管理し、操作はチャートのデータ・レイアウト・プロットを使用して行うため、表示およびレビューは簡単かつ直感的に行うことができます。

チャートを構築するには、アイテムをカタログ・ペインからデータ・レイアウト・ペインにドラッグします。使用可能なチャートを作成するには、少なくとも1つのアイテムをデータ・レイアウトに移入する必要があります。

データ・レイアウトは次のアイテムで構成されています。

表 58 チャートのデータ・レイアウト

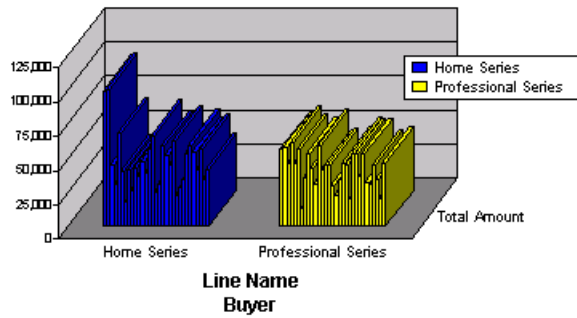
データ・レイアウト・ペイン	説明
X 軸 スライス	X 軸は、X 軸に配置するアイテム用として使用される、チャート上の直線です。X 軸は、情報をカテゴリに分けるための質的データ・ラベルとして使用されます。X 軸にアイテムを配置するには、X 軸ペインを使用します。
スタック クラスタ 深さ	<p>スタック、クラスタ、または深さのペインは、データの 3 番目の次元を表します。つまり、手前方向に伸びる Z 軸または空間内の位置を表します。この軸には、質的なものと数量的なものがあります。</p> <p>スタック・ペインの場合、チャートのデータの各次元は 1 本の棒によってのみ表されます。この棒は、データ・ファイルに含まれるデータ行と同じ数のコンポーネントで構成されます。この場合、各行のデータは前の行の上に重ねられます。たとえば、1 本の棒により、CD-ROM ドライブの 1 年間の売上額を他の年度の売上を表す棒の上に重ねて表すことができます。棒グラフは、縦または横に重ねることができます。アイテムを重ね、アイテムごとに異なる色を割り当てることにより、類似アイテムまたは関連アイテム間のトレンドを表示することや、複数の指標の合計を視覚的に強調することが可能です。</p> <p>クラスタ・ペインの場合、3 番目の次元に拡張されるデータが最前面に表示されるクラスタとして表示されます。このカテゴリでは、データ値ごとに垂直列(および垂直列のみ)が作成されます。チャートに複数のデータ系列が表示される場合、値はカテゴリ値に基づいてグループ化されます。たとえば、クラスタ棒を使用して、さまざまなタイプの店舗を比較します。また、クラスタ棒を使用して、売上額や売上単位などの 2 つの異なる値アイテムを比較することもできます。</p> <p>深さの場合、データのチャートの長さが Z 軸に沿って拡張されます。</p>
ファクト ファクト (スタック) ファクト (深さ)	<p>ファクト・ペインは、座標系の高さを示します。ファクトは、Y 軸の情報を分類するための数量ラベルとして使用されます。</p> <p>ファクト(スタック)ペインの場合、数値データの各次元は、1 本の棒によってのみ表され、Y 軸に沿ったグループを示します。この棒は、データ・ファイルに含まれる数値行と同じ数のコンポーネントで構成されます。この場合、各行の数値は前の行の上に重ねられます。たとえば、1 本の棒により、CD-ROM ドライブの 1 年間の売上額を他の年度の売上を表す棒の上に重ねて表すことができます。棒グラフは、縦または横に重ねることができます。アイテムを重ね、アイテムごとに異なる色を割り当てることにより、類似アイテムまたは関連アイテム間のトレンドを表示することや、複数の指標の合計を視覚的に強調表示することが可能です。</p> <p>ファクト(深さ)ペインの場合、数値データのチャートの長さが Z 軸に沿って拡張されます。</p>

凡例

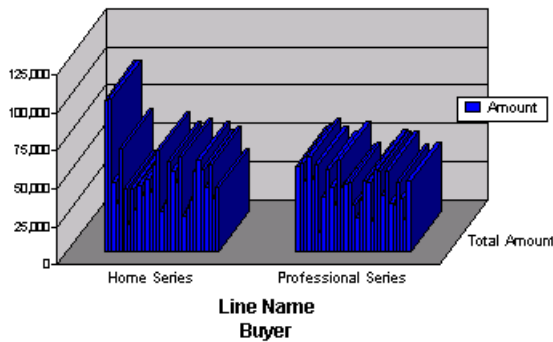
チャート凡例を X、Y または Z 軸に設定することにより、特定の軸にリストされたデータに焦点を移動できます。この方法は、別のチャート・レポートを確認する必要がないため、選択した軸上の値を確認する際に役に立ちます。

次の 3 つの例は、さまざまな軸に凡例を設定し、同じチャートによって示される外観とデータを変更する方法を示しています。

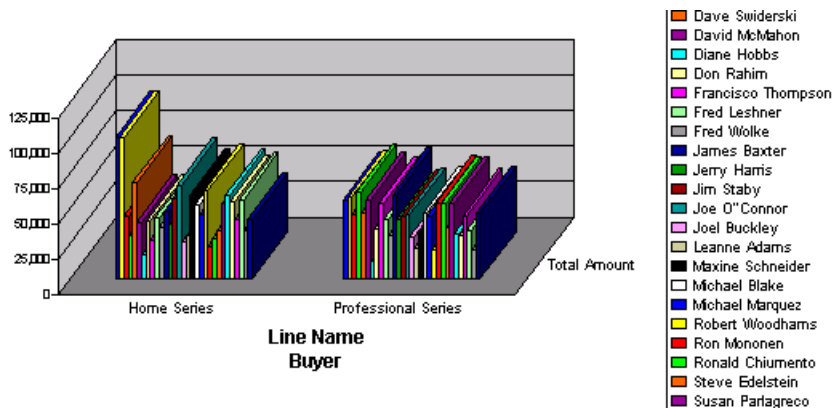
最初の例では、凡例は X 軸に設定されています。



2 番目の例では、凡例は Y 軸に設定されています。



3 番目の例では、凡例は Z 軸に設定されています。



▶ チャート凡例を設定するには、次の手順に従います。

- 1 凡例を設定する軸を選択します。
- 2 ショートカット・メニューから凡例を使用可能に設定を選択します。
「軸」ドロップダウン・リスト・ボックスが表示されます。
- 3 X,Y または Z 軸を選択します。

チャートのプロパティの変更

チャートのプロパティを変更することにより、さまざまなパースペクティブでチャートを表示できます。

- [チャート・タイプ](#)

- 2次元のチャート・タイプ

チャート・タイプ

チャートのタイプは、チャートでデータを図示する方法や、X、YまたはZ軸に沿って値およびラベルをプロットする方法によって定義されます。チャートには13のタイプがあり、各タイプは2次元ビューから3次元ビューに切り替えることができます(円グラフは除く)。チャートのタイプは、次のとおりです。

- 円グラフ
- 積重ね棒グラフ
- クラスタ棒グラフ
- 円グラフ
- 棒グラフ
- 散布図
- バブル・チャート
- 面グラフ
- 折れ線グラフ
- 時刻対応軸
- 帯グラフ
- 棒-折れ線(複合)グラフ

▶ チャートのタイプを変更するには、次の手順に従います。

- 1 チャート上のアイテムを選択します。
- 2 ショートカット・メニューからチャートのタイプの変更を選択します。
- 3 サブメニューから別のチャートのタイプを選択します。

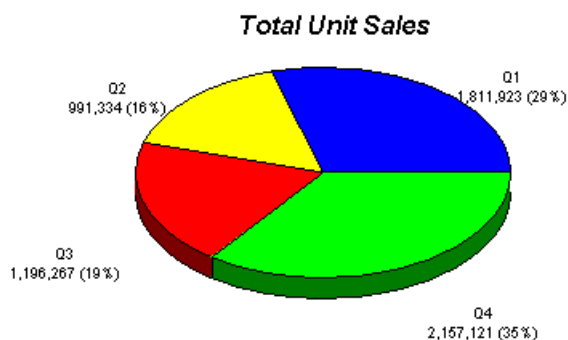
2次元のチャート・タイプ

円グラフおよび棒グラフ(非積重ね型)は、2次元のデータを表すのに適しています。たとえば、製品タイプ別の売上額を示すチャートを作成するとします。円グラフの場合、2次元は円のスライスによって示されます。棒グラフの場合、データはX軸とY軸に沿った棒の各部によって示されます。2次元のチャートのタイプには、円グラフと棒グラフが含まれます。

- 円グラフ
- 散布図
- バブル・チャート
- 棒グラフ

円グラフ

円の断片(スライス)を描画することにより、測定可能なアイテム・カテゴリの全体に対する相対値を表します。円グラフでは、円をさらに分割することによってデータの別の次元を表します。



正数と負数の表示

円グラフのスライスには、正数と負数の両方を表示できます。

- ▶ 負の値の表示を切り替えるには、円グラフのスライスを選択し、ショートカット・メニューの負数の値の表示を選択します。

円グラフのパーセンテージの表示

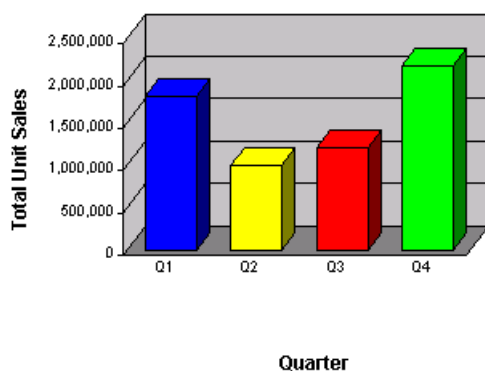
円グラフのスライスの値は、パーセンテージとして表すことができます。

- ▶ 円グラフの各スライスの値をパーセンテージで表示するには、円グラフのスライスを選択し、ショートカット・メニューの円のパーセンテージの表示を選択します。

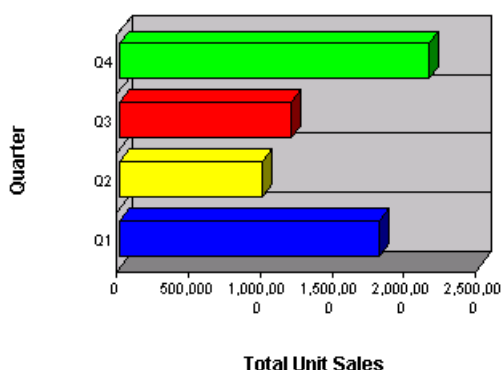
棒グラフ

棒グラフは、最もよく使われるチャートで、時間に伴う値の変化ではなく、ある時点での値を比較するのによく使います。

垂直棒グラフの場合、Y軸のアイテムは、チャートの棒の各部を形成します。X軸とZ軸のアイテムは、棒の内訳を示します。



水平棒グラフの場合、Y軸のアイテムは、チャートの棒の各部を形成します。X軸とZ軸のアイテムは、棒の内訳を示します。



棒の値の表示

- ▶ 値の表示を切り替えるには、棒を選択し、ショートカット・メニューの「棒の値の表示」を選択します。

散布図

散布図は、分析の差異ではなく科学的または統計的な類似点を強調する際に役に立ちます。散布図は、数値または数量値のペア間の関係を示します。これらのペアは、横(Y軸)または縦(X軸)に沿った個々のデータ・ポイントに集約されます。データ・ポイントは、不規則な間隔でプロットされます。

散布図は、集約されていないソースを示します。つまり、散布図には、基礎となるテーブル・レポート・セクションからデータが取得され、集約した値は反映されません(他のすべてのチャートのタイプでは、集約されたソースからデータが取得され、チャートとピボット間には1対1の相関性があります)。このため、散布図ではチャートのピボット分析機能は使用不可です。

散布図には、データ・レイアウトのX軸とY軸に配置された数値またはファクトのペアをのみ組み込むことができます。データ・レイアウトに1つのファクト・アイテムを追加しても、散布図は作成されません。また、データ・レイアウトのX軸とY軸にはラベル値を追加できません。

散布図には、次の機能制限が適用されます。

- 散布図では、データ関数は使用不可です。これは、このタイプのチャートは、集約されていないデータに依存しているためです。
- 散布図のアイテムには、ソート機能を使用できません。
- チャートにピボット機能は使用不可です。
- 散布図には、ドリルを実行できません。
- 散布図のアイテムには、フォーカス機能を使用できません。
- 非表示機能を使用すると、散布図のデータ・シリーズ全体が非表示になります。ただし、個々の間は非表示にできません。

バブル・チャート

通常、バブル・チャートを使用して、3次元のデータを2次元のチャートで表示します。多くの場合、このタイプのチャートの場合、特定の値をさまざまなバブル・サイズで視覚的に表現できるため、財務データの表示に適しています。バブル・チャートは、データをバブルの集合としてプロットできる点が散布図と似ています。バブル・チャートでは、次の3つの値をプロットします。

- X軸に設定される値
- Y軸に設定される値
- バブルのサイズまたは幅次元をデータ量の応じて定義する値

バブル・チャートでは、複数のデータ値をプロットできます。

サイズがゼロのバブルは、小さいバブル・サイズを使用して描画することにより、消えないようにできます。また、必要に応じてサイズがゼロの値を非表示にするオプションも用意されています。

負数のバブルを表示することもできます。これらのタイプの値は実数の絶対値から導出され、実数の負数はデータ・ラベルとして描写されます(が正数に基づいています)。オプションとして、負数は表示しないことを選択することもできます。

バブル・チャートには、次の機能制限が適用されます。

- バブル・チャートでは、データ関数は使用不可です。これは、このタイプのチャートは、集約されていないデータに依存しているためです。
- バブル・チャートのアイテムには、ソート機能を使用できません。
- チャートにピボット機能は使用不可です。
- バブル・チャートには、ドリルを実行できません。
- バブル・チャートのアイテムには、フォーカス機能を使用できません。
- 非表示機能を使用すると、バブル・チャートのデータ・シリーズ全体が非表示になります。ただし、個々の間は非表示にできません。

▶ バブル・チャートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 セクション・ペインで、バブル・チャートを生成するチャートを選択します。
- 2 ファクト値をカタログ・ペインからデータ・レイアウトのY軸にドラッグします。
- 3 ファクト値をカタログ・ペインからデータ・レイアウトのX軸にドラッグします。
- 4 ファクト値をカタログ・ペインからデータ・レイアウトのサイズ・ペインにドラッグします。

- ▶ データ・ポイントの実数値を表示するには、ツール・チップを使用し、データ・ポイントの上にマウスを置きます。
- ▶ 散布図でグリッド・ラインを表示するには、図のプロット領域をクリックし、X軸のグリッド線の表示またはY軸のグリッド線の表示を選択します。

多次元のチャート・タイプ

データを3次元以上で表現したいことは多々あります。たとえば、製品タイプの売上における年度または四半期別の内訳を確認したいことがあります。3次元以上のデータのチャートを作成する方法は多数あります。データは空間の3番目の次元に射影できます。また、データは2つの次元空間で表現することもできます。

- 3次元の棒グラフの表示
- クラスタ棒グラフ
- 積重ね棒グラフ
- 面グラフ
- 積重ね面グラフ
- 折れ線グラフ
- 時刻対応軸
- 帯グラフ
- 棒-折れ線(複合)グラフ

3次元の棒グラフの表示

チャートのZ軸に1つ以上のアイテムを追加することにより、棒グラフに情報を追加できます。多次元チャートを使用すると、理解しやすい棒グラフ・フォーマットで3つ以上のアイテム間のさまざまな関係を表示できます。

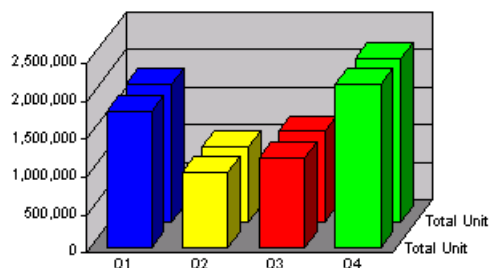
クラスタ棒グラフ

クラスタ棒グラフを使用して、1つのラベル・アイテム・カテゴリ内のカテゴリを並列できます。たとえば、クラスタ棒を使用して、様々なタイプの店舗を比較できます。また、クラスタ棒を使用して、売上額や売上単位などの2つの異なる値アイテムを比較することもできます。

チャートのパースペクティブを変更し、3番目の次元に拡張されたZ軸のデータを、最前面に表示されたクラスタとして表示できます。Z軸の棒が標準的な棒フォーマットでは区別しにくい場合、このチャートのタイプが役に立ちます。

クラスタ・チャートを使用して、1つのラベル・アイテム内のカテゴリを並列できます。たとえば、クラスタ棒を使用して、さまざまなタイプの店舗を比較できます。また、クラスタ棒を使用して、売上額や売上単位などの2つの異なる値アイテムを比較することもできます。

クラスタ棒グラフは、垂直フォーマットでのみ表示されます。

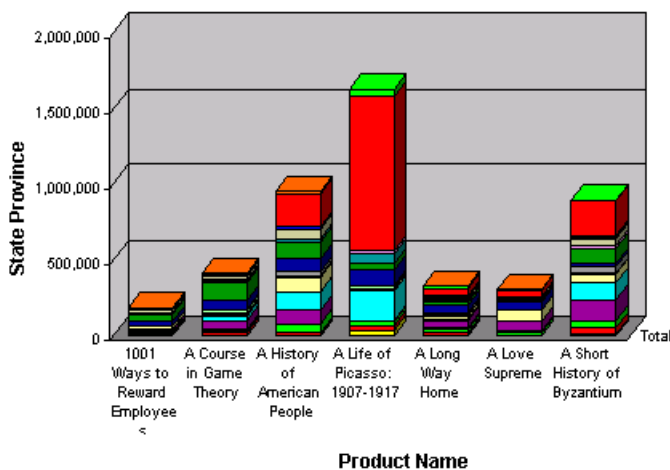


Quarter

積重ね棒グラフ

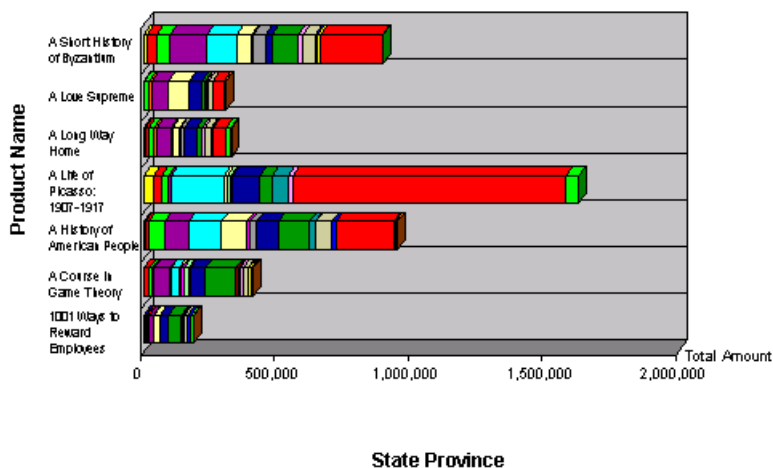
データの3番目の次元を表現する1つの方法として、積重ねがあります。この方法の場合、チャート上の1本の棒で、データの複数のカテゴリを表示できます。たとえば、1本の棒で、CD-ROMドライブの1年間の売上額を他の年度の売上を表す棒の上に重ねて表すことができます。積重ね棒グラフは、縦または横に重ねることができます。

次に、垂直積重ね棒グラフの例を示します。



Product Name

次に、水平積重ね棒グラフの例を示します。



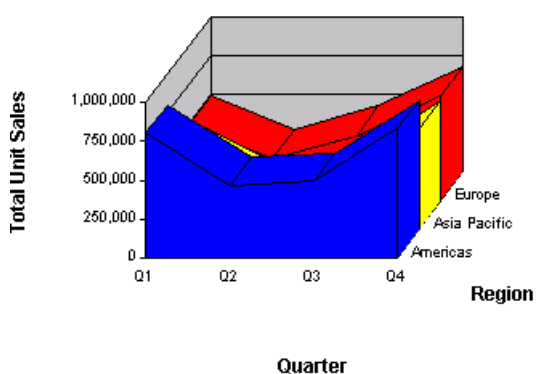
State Province

面グラフ

面グラフは基本的には、水平軸に沿って不連続の裂け目が除去された棒グラフです。データは、個別の棒に分割されず、Y軸を基準として定義された連続的な浮き沈みとして表示されます。このため、面グラフは特に、一定期間にわたる変化の大きさを強調する際に役に立ちます。また、面グラフは、棒グラフと同じ目的で使用することもできます。

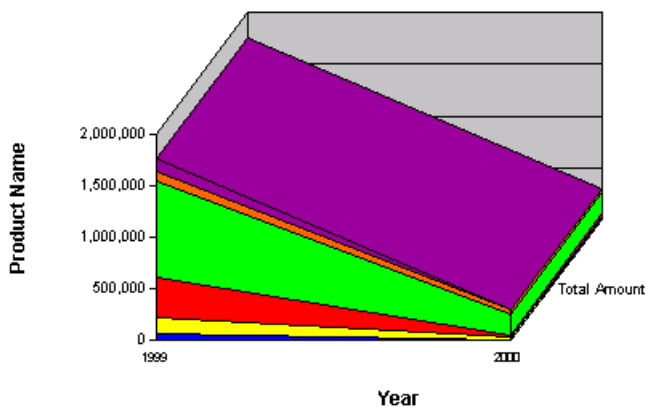
面グラフでは、データが水平軸に沿って分割されないため、面グラフはデータの3つの次元をチャートで示すときに最も役に立ちます。Z軸は、データを3番目の次元空間に射影するため、または積重ね面グラフでデータの2つのカテゴリを追跡するために使用します。

面グラフでは、Y軸のアイテムによって線の高さを判別し、X軸のアイテムによって線セクションの内訳を示します。Zペインにアイテムを追加することにより、複数の線を作成できます。



積重ね面グラフ

積重ね面グラフは基本的には、水平軸に沿って不連続の裂け目が除去され、データのカテゴリが互いに積重ねられた棒グラフです。このため、データは、個別の棒に分割されず、Y軸を基準として定義された連続的な浮き沈みとして表示されます。積重ね面グラフは、各部の全体に対する関係を示すデータを表示するのに優れた方法です。したがって、積重ね面グラフは特に、一定期間にわたってプロットされた変化を示す際に役に立ちます。

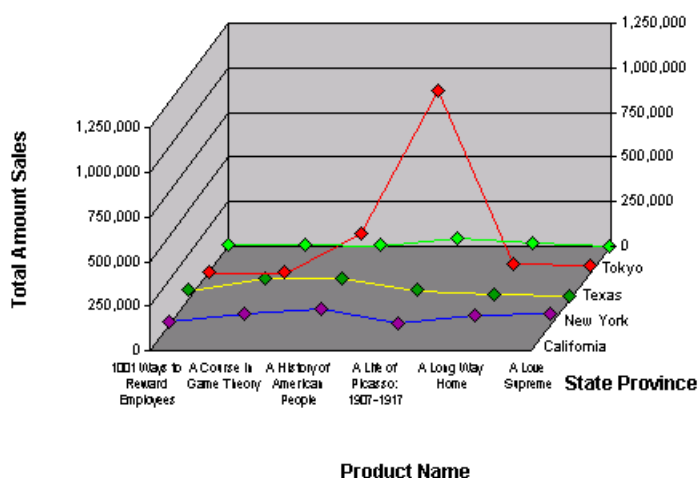


折れ線グラフ

折れ線グラフは、一定間隔でデータのトレンドを示し、連続した浮き沈みを比較する際に効率的です。Y軸のアイテムによって線の高さを判別し、Xカテゴリのアイテムによって線セクションの内訳を示します。Zカテゴリにアイテムを追加することにより、複数の線を作成できます。

折れ線グラフには、棒グラフよりも優れた利点が1つあります。折れ線グラフでは、1つのデータセットが別のデータセットの表示を邪魔することがありません。線は棒よりも薄いため、前面に表示されるデータによって背後のデータが隠されることがありません。

そのため、棒グラフや面グラフでうまく表示できないデータでも、折れ線グラフにすると見やすくなることがあります。チャートの効果を損なわずに、データの次元をより多く重ね合わせることができます。



時刻対応軸

時刻対応軸機能を使用して、最大および最小範囲内の特定の区間でプロットされた時系列で日付を表示できます。これを実現するために、時刻対応軸機能では、不連続な X 軸が連続的な時間間隔に変換されます。隣接する軸アイテム間の距離は、時間差に比例します(非時刻対応軸の場合、すべてのアイテムが同じ時間差を使用して表示されます)。時刻対応機能では、ソース・データの別の表現が実装されるため、データの集約方法や計算結果アイテムの計算方法には影響しません。つまり、データのカテゴリへの分割やファクト・データの計算が含まれるチャート・セクションでのデータ処理は、時刻対応機能のアクティブ化方法には依存しません。特に、ピボット・チャートの作成、チャートのピボット分析および計算結果アイテムの追加アクションの動作は変更されません。

この機能のメイン・アプリケーション領域は折れ線グラフです。ただし、この機能はほとんどすべての既存のチャートのタイプで使用可能です。散布図/バブル・チャートは、本質的に時刻対応(実際には値対応)であるため、このオプションを備えていません。これらの両方には、定義上連続しているファクト軸があります。

時刻対応軸は、特定の条件下でのみ使用できます。

- X 軸には、日付/時刻カテゴリが必要です。このカテゴリは、専用のタイム・スケール・カテゴリとなります。

- X 軸に存在するのは 1 つのカテゴリのみである必要があります。日付/時刻カテゴリであっても、複数のカテゴリを追加すると、この機能は非アクティブになります。
- 時刻対応軸は、円グラフ、散布図およびバブル・チャートでは使用不可です。

時刻対応軸がアクティビティだとみなされるのは、前述のリストの条件が満たされ、「ラベルの軸」ダイアログの「時刻対応」オプションが明示的に使用不可になっていない場合です。この機能はオンとオフを切り替えることができます。この機能をオンにすると、X 軸は前のバージョンのように不連続のままになります。デフォルトでは、リリース 9.3 より前の **Interactive Reporting** ドキュメント・ファイルの場合、この機能はオフになっています。リリース 9.3 以降に作成されたチャートの場合、この機能は使用可能です。

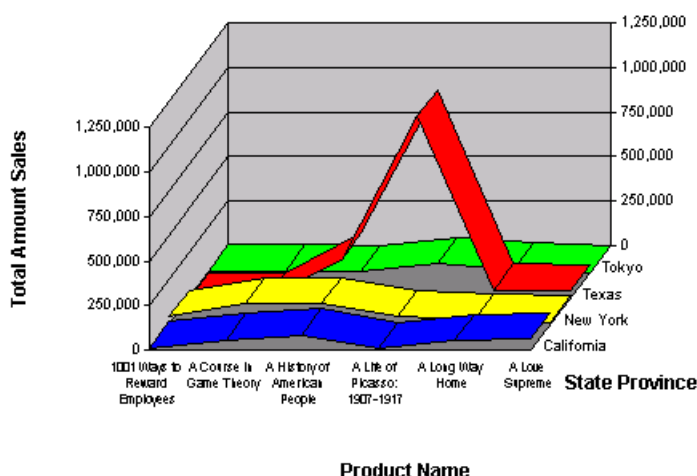
注： 時刻対応軸では、すべての軸ラベルが昇順であることが前提であるため、ソート順オプションは使用不可です。

▶ 時刻対応軸を作成するには、次の手順に従います。

- 1 全般プロパティの「ラベルの軸」タブで「時刻対応」オプションを選択します。
- 2 日付/時刻アイテムをカタログ・ペインからデータ・レイアウトの X ペインにドラッグします。
- 3 値アイテムをカタログ・ペインからデータ・レイアウトのファクト・ペインにドラッグします。

帯グラフ

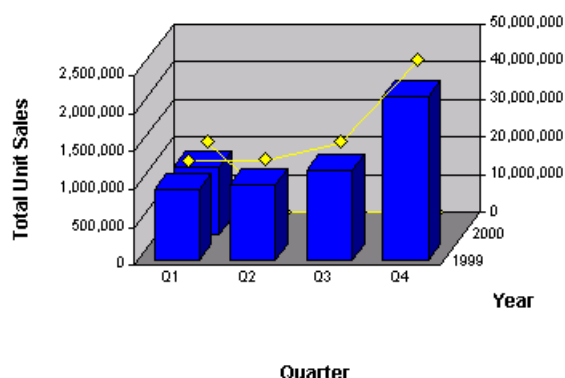
帯グラフは、折れ線グラフとよく似ていますが、視覚的な違いがいくつかあります。帯グラフでは、Y 軸の値によって線の高さを判別し、X 軸の値によって線セクションの内訳を示します。Z 軸にアイテムを追加することにより、複数の線を作成できます。



棒-折れ線(複合)グラフ

棒折れ線グラフ(複合チャートとも呼ばれます)は、棒グラフの長所と折れ線グラフの利点を組み合わせたものです。最も重要なデータには実線の棒を使用するのに

対し、他の次元は線で表されます。これにより、重要度に基づいてデータの一部を強調します。複合チャートが特に役立つのは、売上額や売上単位などの2つの数値を比較する場合です。



注： 複合チャートが最も効果的なのは、Y軸に2つの値アイテムのみが含まれる場合です。このチャートでは、1つの値が棒として表され、他の値は線として表されます。3つ以上の値が存在する場合、値は棒と線によって交互に描写されます(1、3、5番目が棒、2、4、6番目が線など)。

チャートのデータの操作

Interactive Reportingには、分析をより効率的に行うためにチャート・データを動的に管理する方法が複数用意されています。詳細は、次の各トピックを参照してください。

- [チャート・アイテムの追加](#)
- [チャート・アイテムの削除](#)
- [チャート・データのフォーカスと非表示](#)
- [チャート・ラベルのグループ化とグループ解除](#)
- [基準線とトレンド線](#)

チャートの追加

▶ 「結果」セクションのデータに基づいてチャートを作成するには、次の手順に従います。

- 1 アクションの挿入を選択し、チャートを選択します。
- 2 結果アイテムをカタログ・リストからチャート・データ・レイアウトにドラッグします。

テーブル列は自動的に移入されます。

- 3 ショートカット・メニューからチャートのタイプを選択します。

チャート・アイテムの追加

対話型チャートは、グラフィカル要素(チャート棒や円スライスなど)と軸ラベルの2つのレイアウト要素で構成されています。チャートにアイテムを追加すると、これらのアイテムはレポート内の値または次元になります。

- ▶ チャートにアイテムを追加するには、次の手順に従います。
 - 1 チャートのアイテムを選択し、ショートカット・メニューからアイテムの追加を選択します。

X軸、Y軸およびZ軸サブメニューが表示されます。円グラフの場合、Z軸サブメニューは表示されません。
 - 2 X軸サブメニューからデータ・ラベルを選択します。
 - 3 Y軸サブメニューからファクト・アイテムを選択します。
 - 4 X軸サブメニューからデータ・ラベル・アイテム(クラスタ・グラフの場合はZ軸(クラスタ)、積重ねグラフの場合はZ軸(積重ね))を選択し、3番目の次元をチャートに追加します。

チャート・アイテムの削除

場合によっては、チャート内のプロット済アイテムを削除すると、チャート表示を簡素化できます。ただし、チャートを正確に表示するには、少なくとも1つのファクト・アイテムが必要です。

- ▶ チャート・アイテムを除去するには、次の手順に従います。
 - 1 チャート内で除去するアイテムをデータ・レイアウトから選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから削除を選択します。

チャートが再描画され、チャート内のアイテムの新規構成が反映されます。

チャート値の手動リフレッシュ

チャート値を手動でリフレッシュできるようチャート・セクションが設計されている場合、現在のセクションの即時リフレッシュを要求できます。

- ▶ チャート値を手動でリフレッシュするには、チャート内の任意の場所をクリックし、ショートカット・メニューからチャートのリフレッシュを選択します。

チャート・データのフォーカスと非表示

チャートの表示をリフレッシュする簡単な方法としては、対象を絞るためにアイテムを選抜する方法や、チャート要素の一部を非表示にする方法があります。これにより、関心のある特定のアイテムに集中できます。

フォーカスにより、チャート・レポートを再描画し、選択したアイテムのみ表示します。この機能を使用可能であるのは、X軸またはZ軸のアイテムに対してのみです。

すべて表示コマンドにより、チャートを更新し、フォーカスによって除去されたすべてのアイテムを組み込みます。このコマンドを使用可能であるのは、チャート・アイテムにフォーカスがある場合のみです。

通常、アイテムを非表示にするのは、X 軸または Z 軸のアイテムのみです。Y 軸を非表示にすると、ファクト全体が非表示になります。

アイテムの再表示コマンドを使用すると、非表示のアイテムが復元されます。

- ▶ チャートのアイテムにフォーカスを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 フォーカスを設定するアイテムを 1 つ以上選択します。
選択したアイテムに、点線のアウトラインが付きます。
 - 2 ショートカット・メニューからフォーカスを選択します。
チャートが再描画され、選択したチャート・アイテムのみが表示されます。
- ▶ チャート内のすべてのアイテムを表示するには、チャートのアイテムを選択し、ショートカット・メニューから再表示を選択します。
- ▶ チャートのデータを非表示にするには、次の手順に従います。
 - 1 「チャート」で、非表示にするオブジェクトを選択します。
選択したアイテムに、点線のアウトラインが付きます。
 - 2 ショートカット・メニューからアイテムの非表示を選択します。
チャートが再描画され、アイテムが非表示になります。
- ▶ 非表示のアイテムを表示するには、チャートのアイテムを選択し、ショートカット・メニューから再表示を選択します。

チャート・ラベルのグループ化とグループ解除

グループ機能を使用してチャートの軸ラベルをマージできます。ラベルを組み合わせると、ラベルに関連付けられているデータが集約され、新規要約ラベル・カテゴリが作成されます。グループ化を行うと、データのビューのみが変更されます。グループ化したカテゴリをグループ解除し、元のラベル値に戻すことは簡単です。

たとえば、年度と四半期別の次元に分けられた単位(売上)データ・アイテムを使用してチャート・レポートが構成されているとします。この場合、第 1 四半期と 2 四半期をグループ化し、年度前半の事業をまとめます。このデータは新規ラベルに集約されます。

この機能を使用可能であるのは、X 軸または Z 軸のアイテムに対してのみです。

- ▶ 軸ラベルのグループ化機能を切り替えるには、次の手順に従います。
 - 1 グループ化する個別ラベルを選択します。
(グループ化するのは、連続したラベルでも連続していないラベルでもかまいませんが、ラベルは同じ次元のアイテムまたは軸の一部である必要があります。)
 - 2 ショートカット・メニューから「アイテムのグループ化(アイテムのグループ解除)」を選択します。

選択したラベル、および関連するデータ値またはチャート・オブジェクトが組み合わせられます。生成されたラベルにはアスタリスク(*)が表示され、グループ化されていることを示します。

アイテムをグループ解除するには、グループ化されているアイテムを再選択し、ショートカット・メニューから「アイテムのグループ化(アイテムのグループ解除)」を選択します。

基準線とトレンド線

基準線およびトレンド線ツールを使用して、データ・セット内のトレンドを視覚的に明らかにしたり、将来の値に関する妥当な予測を行います。これには、次のようなツールがあります。

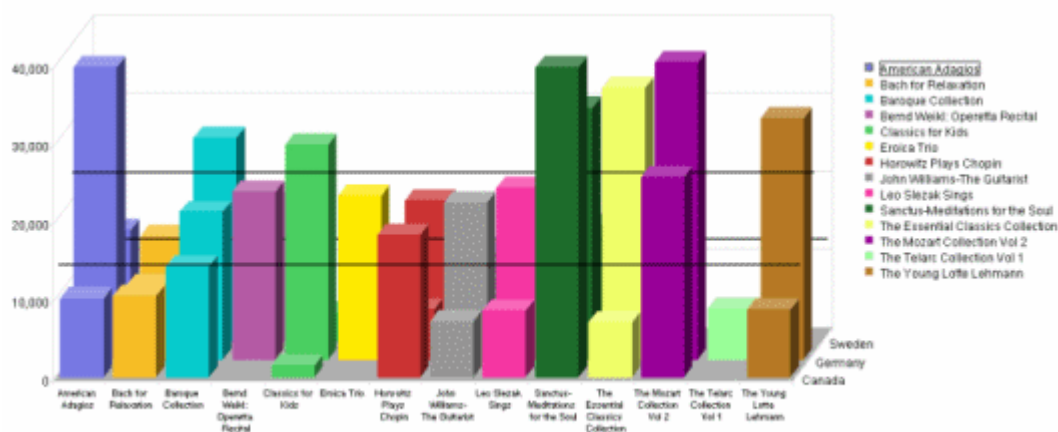
- 基準線 - ユーザー定義の計算結果を示すためにダイアグラムに描画された縦線または横線。
- トレンド線 - データの線形回帰モデルを表す、複数のデータ・ポイントを接続する線。通常、トレンド線は、一定期間にわたる値の増減の動きを表すため、傾斜しています。

基準線

基準線は、計算結果を示すためにチャート・ダイアグラムに描画された縦線または横線です。通常、基準線を使用して、値のカテゴリ内の固定値を例示または比較します。基準線には、統計関数(平均、最小または最大)を割り当てることができます。同じファクト列に複数の基準線を作成し、基準線ごとに異なる統計関数を関連付けることができます。基準線の統計関数が計算されると、現在のページのデータのみでなく、複合ページ・チャート(またはズーム・チャート)のすべてのページのデータも含まれます。アイテムの非表示、アイテムにフォーカスまたは任意のドリルの適用結果として非表示になったカテゴリ・アイテムは含まれません。

基準線は、ダイアグラムの表示可能グラフィック要素(棒や線など)の上に描画できます。デフォルトでは、基準線が上に描画されます。基準線は、テキスト・ラベルや凡例内の基準線情報とともに表示できます。デフォルトでは、基準線には、自動的に生成されたテキストを示すテキスト・ラベルが関連付けられています。この線は自動的に設定され、ユーザーは調整できません。

次の例は、平均関数に割り当てられた売上額ファクト列に関連付けられたファクト・ベースの基準線を示しています。



2次元と3次元の基準線

基準線は、基本的に2次元のパースペクティブで使用する必要がありますが、3次元(3D)のパースペクティブもサポートされています。3次元のパースペクティブで基準線を使用する場合、Z軸に沿ってグラフィカル・データとともに複数の並行線が描画されます。

基準線とチャートのタイプ

積重ね棒グラフと積重ね面グラフでは両方とも、軸ベースの基準線とファクトベースの基準線を使用できます。合計された積重ねアイテム用として1本のファクト結合の基準線が描画されます。

円グラフの場合、いかなるタイプの基準線も使用できません。

ファクト・ベースの基準線は常にファクト列に関連付けられています。チャートのデータ・レイアウトから列を除去すると、対応する基準線も除去されます。ファクト列を非表示にするかフォーカスすると、基準線も非表示になるかフォーカスされます。

チャートのタイプが別のチャートのタイプに切り替えられると、基準線は非表示になります。元のチャートのタイプに戻すと、基準線は復元されます。

基準線の追加と変更

- ▶ 基準線を追加するには、データ・ファクトを表すチャート・アイテムを選択し、ショートカット・メニューから基準線の追加を選択します。
- ▶ 基準線を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 基準線をダブルクリックします。
「参照プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 基準線タブを選択します。
 - 3 固定を選択して軸ベースの基準線を割り当てるか、ファクトドロップダウンからファクト・アイテムを選択します。
 - 4 ファクト・ベースの基準線に統計関数を割り当てるには、関数ドロップダウン・リストから関数を選択します。

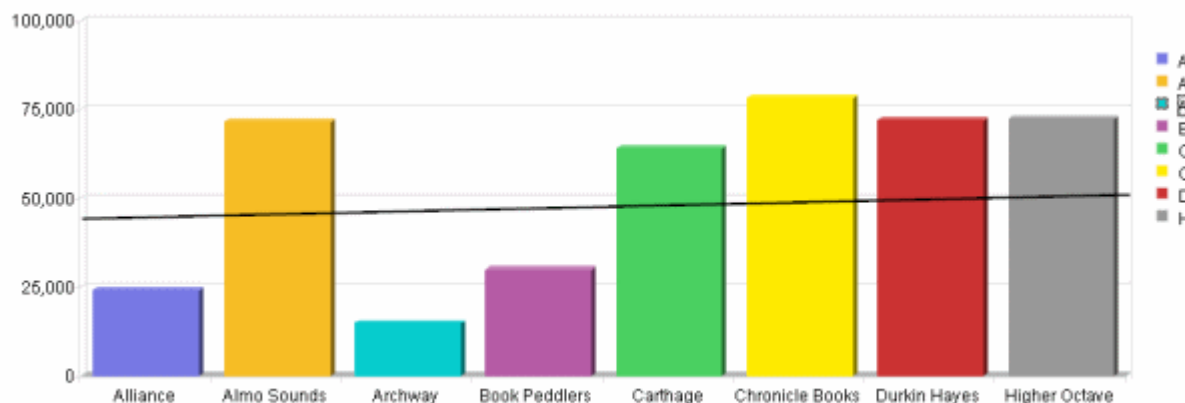
- 5 凡例に表示を使用可能にし、基準線を凡例に表示します。
- 6 ラベルの表示を使用可能にし、基準線ラベルを表示します。
 全般的な基準線の詳細は、[基準線の全般プロパティ](#)を参照してください。
- 7 ラベルのフォーマットタブを選択し、任意のラベル・プロパティを選択します。
 基準線のラベル・フォーマットの詳細は、[基準線のラベル・フォーマットのプロパティ](#)を参照してください。
- 8 OK を選択します。

トレンド線

トレンド線を使用して、データ・シリーズのトレンドを視覚的に追跡します。Interactive Reporting は、線形回帰分析に基づいてモデリングされたトレンド線をサポートしています。通常、トレンド線は、ダイアグラムを交差する傾斜線として表されます。たとえば、トレンド線により、一定期間にわたる値の増減を表すことができます。トレンド線には、適合度(決定係数)の計算値が付随する場合があります。

トレンド線は、チャート・グラフィック(または3次元チャートのZ軸)の上に重ねることも、背景に配置することもできます。トレンド線を作成するためにデータを処理する場合、チャートのすべてのページのファクトが含まれます。ユーザーによって明示的に非表示にされたかフォーカスされたチャート・アイテムは含まれません。

トレンド線は常にファクトに基づいており、1つのファクト列に関連付けることができるトレンド線は1本のみです。散布図またはバブル・チャートの場合、トレンド線はデータ・シリーズにバインドされます。



2次元と3次元のトレンド線

トレンド線は、基本的に2次元のパースペクティブで使用する必要がありますが、3次元(3D)のパースペクティブもサポートされています。3次元のパースペクティブでトレンド線を使用する場合、Z軸に沿ってグラフィカル・データとともに複数の並行線が描画されます。

トレンド線とチャートのタイプ

トレンド線は、積重ねグラフ(棒グラフおよび面グラフ)を含むほとんどのチャートのタイプに追加できます。各積重ねの値は、トレンド式の計算時に組み込まれます。1本の完全な棒の個々の積重ね部分が異なるファクトに属している場合、すべてのファクトを対象とした1つのトレンドが描画されます。個々のファクト(正数または負数)の合計は、トレンド線式の計算時に組み込まれます。

トレンド線が最も効果的なのは、散布図、バブル・チャートおよび時刻対応チャートです。

トレンド線は、X軸に1つのカテゴリがある場合に使用するのが理想的です。X軸に複数のカテゴリがあるときにこれらのカテゴリが無関係である場合、トレンドを分析するのが難しい場合があります。

トレンド線は円グラフでは使用できません。

トレンド線の追加

- ▶トレンド線を追加するには、データ・ファクトを表すチャート・アイテムを選択し、ショートカット・メニューからトレンド線の追加を選択します。

トレンド線の全般プロパティ

「トレンド線のプロパティ」ダイアログ・ボックスを使用して、トレンド線の一般的なプロパティを選択します。

表 59 トレンド線の全般プロパティ

プロパティ	説明
ファクト	トレンド線を割り当てるファクト・アイテムを選択します。複数のトレンド線を単一のファクト・アイテムに割り当てられません。
凡例に表示	トレンド線に割り当てられたテキストおよび線の実際の色を表す短い線セグメントを凡例に表示できます。
ラベルの表示	ダイアグラムにラベル・テキストを表示できます。
前面に移動	基準線をチャート・アイテムの前に配置します。
背面に移動	基準線をチャート・アイテムの後ろに配置します。

トレンド線のラベル・フォーマットのプロパティ

「トレンド線のラベル・フォーマット」ダイアログ・ボックスを使用して、線のラベルと凡例テキストを設定します。

表 60 トレンド線のラベル・フォーマットのプロパティ

プロパティ	説明
(プロット領域または凡例のテキスト・フォーマット)	ドロップダウン・リストから選択するプロット領域のテキスト(線ラベル)または凡例テキストのフォーマット・テキストです。「プロット領域と凡例に同じフォーマットを使用」フィールドを使用可能にすると、このオプションは使用不可になります。
(カスタム・フォーマット)	<p>プロット領域または凡例のカスタム・フォーマットを指定します。カスタム・フォーマットには、トレンド線名、式のタイプ、または決定係数(R-squared)を表示するための固定テキストと生成文字列を組み合わせられます。</p> <p>カスタマイズできるトレンド線のデフォルト・フォーマットは次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Trend{[FC]} - トレンド(<ファクト名>) ● [ET] - 式のタイプ(線形のみ) ● {R squared=[RS]} - 決定係数(適合度)。例: R-squared=0.7349
プロット領域と凡例に同じフォーマットを使用	プロット領域と凡例に同じフォーマットを使用できるようにします。このオプションが使用可能な場合、プロット領域と凡例に異なるフォーマットは選択できません。
自動フォーマット	次の「デフォルト」、「式のタイプ」、および「決定係数」の各フィールドを使用可能にすると、ラベル・テキストを線に対して自動生成されたテキストに再設定できます。各フィールドでは、定義済のタグがテキスト・フォーマットに追加されます。自動フォーマットが使用不可になっている場合は、編集ボックスにカスタム・フォーマットを入力できます。
デフォルト	デフォルトのテキストを表示します: "トレンド(<ファクト名>)"
式のタイプ	<p>自動生成されたテキストで式の名前を表示します。例: 線形</p> <p>注: リリース 11.1.1 の時点では、式のタイプとして線形が使用可能です。</p>
決定係数	0 から 1 の値の範囲で決定係数(適合度またはトレンド線とデータの一致度)を表示します。例: R-squared=0.7349

基準線の全般プロパティ

表 61 基準線のプロパティ

プロパティ	説明
Fixed	固定値を基準線(軸ベース)に割り当てることができます。
(編集ボックス)	基準線に使用する固定値を指定します。この値は数値である必要があります。この値は、基準線に対して一定に維持され、データ・レイアウトのファクト・ペイン内の別のアイテムには依存しません。

プロパティ	説明
ファクト	ドロップダウンから基準線のファクト・ベースの列を選択します。使用可能な列は、データ・セット内の列に基づいています。
機能	ファクト・ベースの列に適用する関数を選択します。使用可能な関数は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 平均 ● 最大 ● 最小
凡例に表示	凡例内の線の実際の色を表す基準線および短線セグメントの割当テキストが表示可能です。
ラベルの表示	ダイアグラムにラベル・テキストを表示できます。
前面に移動	基準線をチャート・アイテムの前に配置します。
背面に移動	基準線をチャート・アイテムの後ろに配置します。

基準線のラベル・フォーマットのプロパティ

基準線のラベルのフォーマット・ダイアログ・ボックスを使用して、線ラベル(プロット領域)および凡例テキストのプロパティを定義します。

表 62 基準線のラベル・フォーマットのプロパティ

プロパティ	説明
(プロット領域または凡例のテキスト・フォーマット)	ドロップダウンからプロット領域または凡例のテキストをフォーマットします。 「プロット領域と凡例に同じフォーマットを使用」フィールドが使用可能である場合、このオプションは使用不可です。
(カスタム・フォーマット)	プロット領域または凡例のカスタム・フォーマットを指定します。 カスタム・フォーマットの場合、統計関数または基準線の値用として定数テキストと生成文字列を組み合わせることができます。 定数テキストでは、次のタグを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● [FC] - ファクト名 ● [VL] - 基準線の値 たとえば、カスタム・フォーマット「Expected sales = [VL]」の場合、ラベルまたは凡例「Expected sales = \$26300000」のような結果が戻されます。タグのテキストを生成できない場合(フォーマットが軸ベースの基準線上の[FN]タグ用である場合など)、タグは空の文字列として解決され、除去されます。 カスタム・フォーマットには、任意のテキストを1つ以上の単純(または複雑)なタグを組み合わせた複雑なタグを組み込むことができます。複雑なタグは、中カッコ({})で囲むことができます。たとえば、「{Sales [FN] = }[VL]」のようになります。複雑なタグ内にあるタグの少なくとも1つを解決できない場合、複雑なタグはすべて空の文字列として解決されます。

プロパティ	説明
	<p>前述のフォーマットを使用したファクト・ベースの基準線は、「Sales Average = \$126000」などの文字列として解決される場合があります。また、軸ベースの基準線は、「\$126000」などの文字列として解決される場合があります。</p> <p>特別な区切り記号タグとして、[DL]が使用可能です。左側のタグと右側のタグの両方が正常に解決される場合、このタグは、生成された文字列にスペースを挿入します。</p> <p>複雑なタグである{:[DL]}は、カスタム・テキストを区切り記号として挿入します。たとえば、「{:[FN]([FC])}{:[DL]}[VL]」というフォーマットの場合、条件に応じて次のような文字列が生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Average(Sales) ● Average(sales) = \$126000
自動フォーマット	<p>次の「デフォルト」、「関数」および「値」フィールドを使用可能にすることにより、線のラベル・テキストを自動生成テキストにリセットできます。各フィールドにより、事前定義のタグがテキスト・フォーマットに追加されます。使用可能な自動フォーマットがない場合、編集ボックスにカスタム・フォーマットを入力できます。</p>
デフォルト	<p>デフォルト・テキストを表示します。例: "<Function name>(<Fact name>) = <Value>"</p>
機能	<p>自動生成テキストで統計関数を表示します。例: Average</p>
値	<p>基準線の値を表示します。例: Value = 0.7348</p>

チャートのファクトの操作

レポートにさまざまなタイプの値を表示する場合、チャート・セクションのデータ関数が特に役に立ちます。データ関数は、データベース・レコードのグループを集約し、元の値を新規要約データに置き換えます。

たとえば、ピボット・セクションでは、各製品の合計売上、平均売上または最大売上を四半期単位で表示できます。これらの各次元は、同じ基底値に基づいています。これらが異なるのは、適用されるデータ関数のみです。

次の表に、チャート関数を示します。

表 63 チャートのデータ関数

データ関数	戻り値
合計	すべての基底値の合計
平均	すべての基底値の平均
カウント	基底値の個数
重複していない値のカウント	列内の重複していない値の数
最大	基底値の最大値
最小	基底値の最小値
全体に占める割合	基底値の合計の、レポートの表示値の合計に対するパーセンテージ

データ関数	戻り値
NotNullCount	Null 値を除く基底値の個数

▶ データ関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 ファクトの棒または行(金額など)を選択します。
- 2 ショートカット・メニューからデータ関数を選択します。

使用可能なデータ関数のショートカット・メニューが表示されます。

オプション: アイテムまたは列を選択し、「アクション」、「データ関数」の順に選択してから(関数)を選択することもできます。

- 3 関数を選択します。

基底値に適用されているデータ関数に応じて各列が再計算されます。

チャートのページング

デフォルトでは、ユーザーがブラウザでページを表示すると、Interactive Reporting により、一定数の行がテーブルに表示されます。多くの場合、データはページに表示される垂直および水平を超えます。ページング・オプションを表示するには、次の表を参照してください。

表 64 チャートのページング・オプション

ページング・オプション	説明
現在のページ	ツールチップに現在のページが表示されます。
1 ページ左へ	1 ビュー左へ移動します。一番左のビューへ移動するには、[Shift]キーを押しながら左矢印を押します。
1 ページ上へ	チャート・セクション内で1ビュー上へ移動します。最上位ビューへ移動するには、[Shift]キーを押しながら上矢印を押します。
1 ページ下へ	1 ビュー下へ移動します。最下位ビューへ移動するには、[Shift]キーを押しながら下矢印を押します。
1 ページ右へ	1 ビュー右へ移動します。一番右のビューへ移動するには、[Shift]キーを押しながら右矢印を押します。

ピボット・セクション

ピボット・テーブルは、スプレッドシートまたはクロステーブル・レポートと似た分析ツールです。データをスライスおよびダイスし、アドホック、対話型および多次元の分析を行うことができます。データをいつでもピボットし、データの表示方法を変更したり、ドリルダウンまたは詳細にドリルしてすべてのデータの積算または集計結果を表示できます。また、ピボット・テーブルを使用して、次元を追加、移動、フォーカスおよびグループ化し、データのカスタマイズ・ビューを取得することもできます。

- [ピボット・テーブル・コンポーネント](#)
- [ピボット・データの操作](#)
- [ピボット・データのフォーカスと非表示](#)
- [行ラベルと列ラベルの操作](#)
- [ピボット・データの分析](#)
- [ピボット・ファクトの操作](#)
- [ピボット・データのページング](#)

ピボット・テーブル・コンポーネント

ピボット・テーブルは、3つのコンポーネントで構成されています。

- [ファクト](#) - ピボット・テーブルの本体で分割された数値。ファクトは、データ値とも呼ばれます。
- [データ・ラベル](#) - ピボットの上部と両側にある列と行の見出し。数値を整理するカテゴリを定義します。
- [次元](#) - ラベルの完全な行または列。

ピボット・データの操作

Interactive Reporting には、分析をより効率的に行うためにピボット・データを動的に管理する方法が複数用意されています。

- [ピボット・セクションの追加](#)
- [ピボット・アイテムの追加](#)
- [ピボット・アイテムの削除](#)
- [列の自動サイズ調整](#)
- [ピボット・データのフォーカスと非表示](#)
- [ピボット次元のスイング](#)
- [ピボット・ラベルのグループ化とグループ解除](#)

ピボット・セクションの追加

▶ 結果セクションのデータに基づいてテーブルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 [アクションの挿入](#)を選択し、[ピボット](#)を選択します。
- 2 [アイテム](#)を[カタログ・リスト](#)から[ピボット・データ・レイアウト](#)にドラッグします。
データ・レイアウトが表示されない場合、「[表示](#)」、「[データ・レイアウト](#)」の順に選択します。

Interactive Reporting により、セル、行および列が自動的に移入されます。

ピボット・アイテムの追加

結果セットからアイテムを追加し、ピボットでさまざまなシナリオを表示および分析できます。

- ▶ ピボット・テーブルにアイテムを追加するには、次の手順に従います。
 - 1 カタログ・リストからアイテムを選択し、ショートカット・メニューのアイテムの追加をクリックします。
行、列またはファクトを示すショートカットが表示されます。
 - 2 追加する値を選択します。

ピボット・アイテムの削除

- ▶ ピボット・アイテムを削除するには、次の手順に従います。
 - 1 除去するアイテムをファクト、行または列データ・レイアウトから選択します。
 - 2 ショートカット・メニューの削除を選択します。
ピボットが再描画され、アイテムの新規構成が反映されます。

ピボット値の手動リフレッシュ

ピボット値を手動でリフレッシュできるようピボット・セクションが設計されている場合、現在のセクションの即時リフレッシュを要求できます。

- ▶ ピボット値を手動でリフレッシュするには、ピボット内の任意の場所をクリックし、ショートカット・メニューからピボットのリフレッシュを選択します。

列の自動サイズ調整

デフォルトでは、Interactive Reporting により、データ値の長さとは関係なく列が均等に切り捨てられます。列幅の自動調整機能を使用すると、列内の最大値のテキストに合うように列のサイズを自動的に調整できます。

- ▶ 列の自動サイズ調整を行うには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから列幅の自動調整を選択します。

ピボット・データのフォーカスと非表示

ピボット・テーブルの表示をリフレッシュする簡単な方法としては、対象を絞るためにアイテムを選抜する方法や、ピボット要素の一部を非表示にする方法があります。これにより、関心のある特定のアイテムに集中できます。

フォーカスにより、ピボット・テーブルが再描画され、フォーカス対象として選択したアイテムのみが表示されます。

すべてのアイテムの表示コマンドにより、ピボット・テーブルを更新し、フォーカスによって除去されたすべてのアイテムを組み込みます。このコマンドが使用可能であるのは、ピボット次元のラベルにフォーカスがある場合のみです。

列の表示を一時的に中断するには、列を非表示にすることをお勧めします。

▶ ピボット・アイテムのフォーカスを切り替えるには、次の手順に従います。

1 1つ以上の次元のラベル(いずれかの側または上部)を選択します。

2 ショートカット・メニューからフォーカスを選択します。

ピボットが再描画され、選択したオブジェクトのみが表示されます。

▶ すべてのアイテムを表示するには、次元ラベルを選択し、ショートカット・メニューからすべて表示を選択します。

▶ ピボット・テーブルのアイテムを非表示にするには、次の手順に従います。

1 アイテムを選択します。

2 ショートカット・メニューからアイテムの非表示を選択します。

ピボットが再描画され、選択したオブジェクトが非表示になります。

▶ 選択した非表示のアイテムを復元するには、ピボットのアイテムを選択し、ショートカット・メニューから再表示を選択します。

行ラベルと列ラベルの操作

行ラベルと列ラベルはグループ化して向きを変更できます。

- [ピボット・ラベルのグループ化とグループ解除](#)
- [ピボット次元のスイング](#)

ピボット・ラベルのグループ化とグループ解除

グループ機能を使用してピボット・ラベルをマージできます。ラベルを組み合せると、データ・ラベルが集約され、新規要約ラベル・カテゴリが作成されます。グループ化を行うと、データのビューのみが変更されます。グループ化したカテゴリをグループ解除し、元のラベル値を再表示することは簡単です。

たとえば、年度と四半期別の次元に分けられた単位(売上)データ・アイテムを使用してピボット・テーブルが構成されているとします。この場合、第1四半期と2四半期をグループ化し、年度前半の事業をまとめます。このデータは新規ラベルに集約されます。

▶ 次元ラベルのグループ化機能を切り替えるには、次の手順に従います。

1 グループ化する個別ラベルを選択します。

(グループ化するのは、連続したラベルでも連続していないラベルでもかまいませんが、ラベルは同じ次元のアイテムまたは軸の一部である必要があります。)

- 2 ショートカット・メニューから「アイテムのグループ化(アイテムのグループ解除)」を選択します。

選択したラベル、および関連するデータ値またはチャート・オブジェクトが組み合せられます。生成されたラベルにはアスタリスク(*)が表示され、グループ化されていることを示します。

アイテムをグループ解除するには、グループ化されているアイテムを再選択し、ショートカット・メニューから「アイテムのグループ化(アイテムのグループ解除)」を選択します。

ピボット次元のスイング

スイング機能を使用して、ピボット・テーブルの軸の向きを変更し、データを新規の方法で表示できます。次元をスイングする場合、次元を上下に移動したり、反対側の軸に移動できます。この機能は、一般的なスプレッドシートよりもピボット・テーブルのレポート機能を高めることができる強力なツールです。

注： ピボットの次元をスイングするには、データ・レイアウト内またはデータ・レイアウト間のアイテムを移動します。

- ▶ 次元ラベルをスイングするには、次の手順に従います。

- 1 次元ラベルを選択し、ショートカット・メニューからスイングを選択します。
- 2 次元を選択します。

スイングの有効な値は、次のとおりです。

- 縦方向
- 横方向
- 上
- 下
- 左
- 右
- Before
- 後

「前」スイング位置を選択する場合、選択したラベルをその前に配置する次元ラベルを選択する必要があります。この動作は、「後」を選択する場合も同じです。

ピボット・ファクトの操作

分析で次元的にスライスしたりダイスしたりする中核的な数値データをファクトと呼びます。ファクトをまとめることにより、合計を作成できます。

ピボット・レポートでは、列と行の両方の合計を計算できます。レポートのトップ・ラベルまたはサイド・ラベルに沿って次元アイテムを重ねた場合、階層内の任意のレベルで合計を計算できます。合計対象として内側の次元を選択する場合、

外側の次元の各カテゴリの小計が作成されます。ピボット・セクションの合計には、次が含まれます。

- 合計関数
- 累計
- 表示値

合計関数

合計はピボット・テーブル・データに簡単に追加できます。新規合計値は、追加列として作成されます。合計関数は、次に対して適用できます。

- 元の結果セクションの基底値
- ピボットに表示される表示値

合計関数に適用する値セットに応じて、生成される結果は異なります。20 と 30 という 2 つの値を持つ簡単なピボット・テーブルを考えてみます。これらの各値はすでに基底値の合計です($20 = 8 + 12$ および $30 = 10 + 20$)。基底値の平均は、 $12.5 = (8 + 12 + 10 + 20) / 4$ になります。表示値の平均は、 $25 = (20 + 30) / 2$ になります。

▶ ピボットに合計を追加するには、次の手順に従います。

1 行または列ラベル・ハンドルをクリックして選択します。

一番外側のラベルを選択すると、合計が作成されます。内側のラベルを選択すると、小計が作成されます。

2 ショートカット・メニューから合計の追加を選択します。

データ関数のサブメニューが表示されます。

3 データ関数を選択します。

累計

累計をピボット・テーブルに追加することにより、合計を次元別に分割し、レポート内の次元グループごとに合計を再開できます。

▶ 分析テーブルに累計を追加するには、次の手順に従います。

1 ピボット・テーブルのデータ・グリッドのファクト・アイテムを選択します。

2 ショートカット・メニューから累計の追加を選択します。

「累計の追加」ショートカット・メニューが表示されます。

3 「累計の追加」ショートカット・メニューからスコープを選択します。

レポートの各行に「X の累計」という名前の新規データ値アイテムが表示されます。この新規累計アイテムにより、元のデータ値アイテムの累計が保持されます。

注： 累計が最も効果的なのは、すべての次元がレポートの行または列に配置されており、データ・ラベル列の先頭が直交して配置されている場合です。

- ▶ 累計を取る範囲を変更するには、次の手順に従います。
 - 1 ピボット・テーブルのデータ・グリッドに累計がすでに配置されている列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから累計の変更を選択します。
「累計の変更」サブメニューが表示されます。
 - 3 累計の変更ショートカット・メニューからスコープを選択します。

表示値

ピボット・セクションで合計を操作する場合、基底値または表示値を使用できません。基底値は、元の結果セクションの追加を示します。表示値は、実際のレポート・セクションの値を示します。この2つの方法では、異なる結果が生成されます。また、レポート内の値とは表示が一致しない値が生成される可能性があります。

基底値と表示値の差異を理解するために、20 と 30 という2つの値を持つ簡単なピボット・テーブルを考えてみます。これらの各値はすでに基底値の合計です($20 = 8 + 12$ および $30 = 10 + 20$)。基底値の平均は、 $12.5 = (8 + 12 + 10 + 20) / 4$ になります。表示値の平均は、 $25 = (20 + 30) / 2$ になります。デフォルトでは、表示値機能は使用不可です。

- ▶ 表示値をアクティブ化するには、ピボットのアイテムを選択し、ショートカット・メニューから「**表示値**」を選択します。

ピボット・データの分析

レポートにさまざまなタイプの値を表示する場合、ピボット・セクションのデータ関数が特に役に立ちます。データ関数は、データベース・レコードのグループを集約し、元の値を新規要約データに置き換えます。

たとえば、ピボット・セクションでは、各製品の合計売上、平均売上または最大売上を四半期単位で表示できます。これらの各次元は、同じ基底値に基づいています。これらが異なるのは、適用されるデータ関数のみです。

表 65 ピボットのデータ関数

データ関数	戻り値
合計	すべての基底値の合計
平均	すべての基底値の平均
カウント	基底値の個数
重複していない値のカウント	列内の重複していない値の数
Null 値のカウント	基底値にある Null 値の個数
非 Null 値のカウント	Null 値を除く基底値の個数
最大	基底値の最大値

データ関数	戻り値
最小	基底値の最小値
行に占める割合%	基底値の合計の、行の表示値に対するパーセンテージ
列に占める割合%	基底値の合計の、列の表示値に対するパーセンテージ
全体に占める割合%	基底値の合計の、レポートの表示値の合計に対するパーセンテージ

▶ データ関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 ファクトの行または列(金額など)を選択します。
- 2 ショートカット・メニューからデータ関数を選択します。

使用可能なデータ関数のショートカット・メニューが表示されます。

オプション: アイテムまたは列を選択し、「アクション」、「データ関数」の順に選択してから(関数)を選択することもできます。

- 3 関数を選択します。

基底値に適用されているデータ関数に応じて各列が再計算されます。

ピボット・データのページング

デフォルトでは、ユーザーがブラウザでページを表示すると、Interactive Reportingにより、一定数の行がテーブルに表示されます。多くの場合、データはページに表示される垂直および水平を超えます。ページング・オプションを表示するには、次の表を参照してください。

表 66 ピボットのページング・オプション

ページング・オプション	説明
現在のページ	ツールチップにレポートの現在のページが表示されます。
1 ページ上へ	1 ページ上へ移動します。最上位ページに移動するには、[Shift]キーを押しながら上矢印を押します。
1 ページ下へ	1 ページ下へ移動します。最下位ページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら下矢印を押します。
1 ページ右へ	1 ページ右へ移動します。一番右のページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら右矢印を押します。
1 ページ左へ	1 ページ左へ移動します。一番左のページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら左矢印を押します。

一般的なチャート/ピボット機能

Interactive Reporting ドキュメント・ファイル管理機能を使用して、レポートの外観を簡単に調整できます。次に示す機能は、ピボット・セクションとチャート・セクションで一般的な機能です。

- [チャート/ピボットのソート](#)
- [チャート/ピボットへの任意のドリル](#)
- [次元データへのドリルダウン](#)

チャート/ピボットのソート

チャートおよびピボット・セクションでは、データはアルファベット順にソートされます。このデフォルト動作を上書きし、アルファベット順ではなく、他のデータを基準として次元データをソートできます。

たとえば、自社が販売している各タイプのアイテムと、各アイテムの合計売上額がチャートにリストされている場合、最初に、アイテム・タイプはアルファベット順に配置されます。しかしかわりに、各アイテムの合計売上収益を基準にしてアイテム・タイプをソートすると、このデータはより意味あるものになります。この方法を使用すると、各製品タイプを合計売上の最も高いものから低いものの順に整列できます。

ソート基準を適用する場合、ソート条件を定義するために次の3つのコンポーネントを使用できます。

- **ソート・アイテム** - 昇順または降順でソートされるアイテム。チャート・セクションでは、ソート・アイテムはチャート軸を表します。ピボット・セクションでは、ソート・アイテムはピボット次元を表します。
- **参照アイテム** - チャートまたはピボット・セクションに含まれる数値データ・アイテム、またはキーワード「ラベル」。これらを選択する場合、選択したチャートまたはピボット・アイテムをソートする方法には次の2通りがあります。
 - **ラベル別ソート** - チャート・セクションの作成時に、次元データ・アイテムは名前別にアルファベット順にソートされます。これは、ラベル別にソートすることと同じです。これを選択する場合、キーワード「ラベル」は、サブメニューから選択したアイテムが、レポート内で対応する数値データを基準とするのではなく、ラベルまたは名前別にソートされることを示します。
 - **値別ソート** - 数値データ・アイテム別のソートにより、2番目のリスト内の対応する数値に基づいてターゲット・アイテムの各値を並べ替えます。値別ソートの場合、完全に異なるソート順が生成されます。たとえば、チャートには、売上収益の状態と各売上の合計売上原価がリストされます。データ・アイテムは最初、アルファベット順にリストされます。つまり、ラベル別にソートされます。ここで、かわりに売上原価別にソートすると、これらの状態は、対応する売上原価の数値順に整理されます。
- **関数** - 値別にソートするとき使用可能な統計関数を集約します。通常、これらの関数は、チャート・セクションで使用可能なデータ関数と重複します。

値別にソートする場合、次元データは、参照アイテムの対応する数値別にソートされます(たとえば、状態をソートする場合、各状態の製品売上原価の合計を基準にします)。

- ▶ ソートを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 チャートまたはピボット・セクションでソートするアイテムを選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから昇順ソートまたは降順ソートをクリックします。
 - 3 ラベルを選択してアイテムをアルファベット順にソートするか、数値をソート基準として選択します。
 - 4 数値を選択した場合、ショートカット・メニューから集約関数を選択します。

チャート/ピボットへの任意のドリル

任意のドリル機能を使用すると、結果セクションには含まれるが、表示しているチャートおよびピボットには含まれていないアイテムをドリルしてチャートおよびピボット・セクションに追加できます。任意のドリル・アイテムは、新規ラベル・アイテムとして自動的に生成されます。この機能の利点は、アイテムをデータ・セットに即時追加し、一時的および仮定的状況を反映させることが可能である点です。

任意のドリルではデータが結果セクションから取得されるため、データに対するドリルの範囲は、元のクエリーの構築方法によって異なります。

- ▶ 「チャート」セクションと「分析」セクションでドリルするには、次の手順に従います。
 - 1 分析対象のピボット次元またはチャート・アイテムを選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから任意のドリルを選択します。
任意のドリル・アイテムのショートカットが表示されます。
 - 3 ドリルダウンするアイテムを選択します。
レポートが再表示され、追加データが新規ラベル・アイテムとして生成されます。

注：「任意のドリル」ドロップダウン・リストで使用できるオプションがない場合、使用可能なすべてのアイテムがチャートで参照されています。

次元データへのドリルダウン

ドリルダウン機能を使用すると、次元分析の実行時に事前定義のドリルダウン・パスを使用して階層内の次のアイテムに直接移動できます。たとえば、特定の製品の売上がその国の別の地域の方がよいかどうかを確認したい場合があります。ドリルダウン・パスを使用すると、ドリルダウン・パスを辿るだけで、この製品により適した国または都市がどこであるかを確認できます。

- ▶ ピボットまたはチャート・ラベルをドリルダウンするには、次の手順に従います。
 - 1 ドリルダウン分析の対象となるラベルを選択します。

ドリルダウン機能はコンテキスト依存ではないため、表示されている任意のラベルからドリルダウンにアクセスします。

2 ショートカット・メニューから、ドリルダウンをクリックします。

使用可能なすべてのドリルダウン・パスが表示されます。各ドリルダウン・パスは、ドリル先のトピックとドリル元のラベルを示します。

3 ドリルダウン・ラベルをクリックします。

ドリルダウン・ラベルを指定した後、ラベルはデータ・レイアウトに追加され、ドリルダウン対象として選択したラベルに応じて追加データが生成されます。

▶ データをドリルアップするには、次の手順に従います。

1 ドリルダウンされているラベルをクリックします。

2 「ピボット」または「チャート」メニューで、ドリルアップを選択します。

レポートが再表示され、ドリルダウンが取り消され、元のアイテムが表示されます。

OLAPQuery セクション

OLAPQuery セクションは、多次元データベース(MDD)に基づいてクエリーを表示および分析することを目的として設計されています。このセクションには、次のトピックがあります。

- [OLAP データの操作](#)
- [OLAP のデータ関数](#)

OLAP データの操作

Interactive Reporting には、分析をより効率的に行うために OLAP データを動的に管理する方法が複数用意されています。

- [OLAP 用語](#)
- [列の自動サイズ調整](#)
- [OLAP 次元のソート](#)
- [OLAP のドリル](#)
- [ドリル・アップ](#)

OLAP 用語

キューブ - OLAP データベースのデータは、キューブに保管されます。キューブは、次元とメジャーで構成されています。1つのキューブには複数の次元がある場合があります。

次元 - OLAP データベースでは、情報のキューブ・カテゴリは次元と呼ばれます。次元には、場所、製品、店舗および時間などがあります。

MDX - 多次元式(MDX)は、OLE DB for OLAP 準拠のデータベースに命令するための言語です。OLAP クエリー・セクションが構築されると、Interactive Reporting により、これらは MDX 命令の翻訳されます。クエリーがリフレッシュされると、MDX はデータベース・サーバーに送信されます。サーバーによって Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに戻されるデータは、クエリーに回答するレコードの集合です。

メジャー - メジャーは、分析用として使用可能な OLAP データベース・キューブ内の数値です。メジャーには、利益率、売上原価、売上単位、予算額などがあります。

メンバー - OLAP データベース・キューブでは、メンバーは次元のコンテンツ値です。場所次元の場合、メンバーには、サンフランシスコ、日本、パリ、35 Main Street、東京、アメリカ、フランス、ローマなどがあります。これらはすべて場所の値です。

多次元 - 多次元データベースは、ユーザーがビジネス・モデルについてどのように考えるかを予想する集約データのキューブを作成します。これらのキューブはまた、この情報を効率的かつ迅速に提供します。キューブは、次元とメジャーで構成されています。次元は、情報のカテゴリです。たとえば、典型的な次元として、場所、店舗および製品などがあります。メジャーは、分析用として使用可能なデータベース内のコンテンツ値です。

列の自動サイズ調整

デフォルトでは、Interactive Reporting により、データ値の長さとは関係なく列が均等に切り捨てられます。列幅の自動調整機能を使用すると、列内の最大値のテキストに合うように列のサイズを自動的に調整できます。

- ▶ 列の幅が自動的に調整されるようにするには、次の手順に従います。
 - 1 列を選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから列幅の自動調整を選択します。

OLAP 次元のソート

OLAP セクションでは、データを昇順または降順でソートできます。

- ▶ ソートを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 OLAP セクションでソートするアイテムを選択します。
 - 2 ショートカット・メニューから昇順ソートまたは降順ソートを選択します。
 - 3 「ラベル」を選択してアイテムをアルファベット順にソートするか、数値をソート基準として選択します。
 - 4 数値を選択する場合、「関数」ショートカット・メニューから集約関数を選択します。

OLAP のドリル

ドリルダウン機能は、階層を細分レベルまで辿りながら MDD キューブからデータを取得します。製品ラインなどの特定のアイテムについてより詳細に調べたい場合、そのアイテム・ラベルをドリルダウンできます。複数のアイテムをドリルダウンしたり、すべてのアイテムを同時にドリルダウンすることもできます。

メンバーのドリルダウンの場合、任意の行または列ラベルをドリルし、特定の次元の階層の構造を表示できます。次元の行または列内の特定のラベルを選択するたびに、そのラベル値のデータをのみ表示します。1つのレベルで次元タブを選択する場合、その次元レベルのすべてのメンバーを表示します。

メジャーのドリルダウンの場合、異なるメジャーがどのように集計されているかを表示できます。メジャーのドリルダウンは、累進ベースで行われます。つまり、1対nパスの関係において一度に1レベルずつ行われます(ネストではなく順次)。たとえば、「収益」が「税金」と「税引前収益」の親であり、「収益」と「支出」が「税引前収益」の子である場合、「税金」と「税引き前」が最初にドリルダウンされるため、「収益」列と「支出」列を表示するには「税引き前」ラベルを選択する必要があります。

注： 次元のドリル・ダウン中は、フィルタを設定することはできません。

▶ ラベルをドリルダウンするには、次の手順に従います。

- 1 ラベルを選択します。
- 2 ショートカット・メニューからドリルダウンをクリックします。

ラベルを選択し、「アクション」、「ドリルダウン」の順に選択します。

注： Essbase のみ: メジャーのドリルダウンの場合、異なるメジャーがどのように集計されているかを表示できます。メジャーのドリルダウンは、累進ベースで行われます。つまり、1対nパスの関係において一度に1レベルずつ行われます(ネストではなく順次)。たとえば、「収益」が「税金」と「税引前収益」の親であり、「収益」と「支出」が「税引前収益」の子である場合、「税金」と「税引き前」が最初にドリルダウンされるため、「収益」列と「支出」列を表示するには「税引き前」ラベルをダブルクリックする必要があります。

ドリル・アップ

ドリルダウン機能を使用した場合、一度に1レベルをドリルアップすることにより、データの元のビューに戻ります。ドリルアップするには、ドリルアップするレベルを選択するだけですみます。

▶ ラベルをドリルアップするには、次の手順に従います。

- 1 ドリルダウンされているラベルを選択します。
- 2 ショートカット・メニューからドリルアップを選択します。

オプション: ラベルを選択し、「アクション」、「ドリルダウン」の順に選択することもできます。

OLAP のデータ関数

OLAPQuery に追加された列または行の合計は集約され(文字どおり、合計の合計)、データ関数を使用して再計算できます。合計に適用されると、データ関数は表示値の計算に適用されます。

表示値に適用されると、データ関数は、OLAPQuery の表示値または表示可能セル値を計算します。たとえば、各製品の合計売上、平均売上または最大売上を四半期単位で表示できます。これらの各次元は、同じ値に基づいています。これらが異なるのは、適用されるデータ関数のみです。

表 67 OLAP のデータ関数

データ関数	戻り値
合計	すべての値の合計
平均	すべての値の平均
カウント	値の個数
最大	最大値
最小	最小値
行に占める割合%	表示値の、行のアイテムに対するパーセンテージ
列に占める割合%	表示値の、列のアイテムに対するパーセンテージ
全体に占める割合%	表示値の、レポートにある同種の値に対するパーセンテージ

▶ データ関数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 ショートカット・メニューからファクトの行または列(金額など)を選択します。
- 2 データ関数を選択します。

使用可能なデータ関数のリストが表示されます。

オプション: アイテムまたは列を選択し、「アクション」、「データ関数」の順に選択することもできます。

- 3 関数を選択します。

基底値に適用されているデータ関数に応じて各列が再計算されます。

CubeQuery セクション

CubeQuery セクションは、Essbase 7.x および 9.x データベースとの Interactive Reporting インタフェースです。このセクションからは、クエリー実行の前後に多次元データの分析および複雑な計算の適用が可能なキューブにアクセスできます。このセクションのデータをリレーショナル・データとともにダッシュボード・レポート内で横並びに表示することや、データを結果セットにダウンロードしてリレーショナル・ソースに結合することが可能です。

Essbase について

Analytic Services は、ビジネスのさまざまな側面を互いに比較しながら継続的に分析するための多次元データベース・アプリケーションです。Essbase データベースには、次のような特徴があります。

- 多次元データを処理し、次元内の階層をロールアップする。
- 他のシステムから情報を取得する。
- トランザクションではなく、集計したデータのレベルを処理する。
- 複数のレポートおよび分析環境に適応できる。

また、Essbase データベースは、革新的な技術設計をオープンなクライアント-サーバー・アーキテクチャと一意的に融合します。Essbase は、次のような広範なオンライン分析プロセス(OLAP)アプリケーションで使用できます。

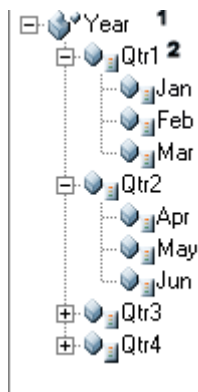
- 予算策定
- 予測および四半期など周期単位のプランニング
- 財務集計およびレポート
- カスタマおよび製品の収益性分析
- 価格、数量、複合分析
- エグゼクティブ情報システム

多次元データベースについて

Essbase 多次元データベースは、データを保管して整理します。このデータベースは、大量の数値データが含まれる集計集約型または計算集約型のアプリケーションを処理できるよう最適化されています。このデータベースは、ユーザーが求めるデータの表示方法を反映してデータを整理します。

多次元とは

多次元データベースは、多くの次元を網羅するために一般化された、スプレッドシートなどの2次元データ配列の拡張フォームです。次元は、階層構造で整理された、メンバーと呼ばれる値で構成されています。次元は、特定のデータセットの1つのパースペクティブまたはビューです。データセットの同時の代替ビューをサポートするシステムは多次元です。次元は、時間、アカウント、製品ライン、マーケットなどのカテゴリです。各次元には、さまざまな相互関係を持つ追加カテゴリが含まれます。メンバーは、次元内の要素の名前です。1つの次元には無数のメンバーを組み込むことができます。



数字	説明
1	次元
2	メンバー

次元とメンバー

次元とメンバーにより、データベースのメタデータ構造を記述します。これは、Essbase アウトラインとも呼ばれます。Essbase アウトラインにより、データを Essbase に保管する方法が決まります。次元とメンバーの一般的な例は、次のとおりです。

- 時間 - 時間、日、月、四半期、年
- メジャー - 収益、在庫、比率
- 製品 - 会社の個々の製品
- マーケット - 北部、南部、中部
- シナリオ - 実績、予算、差異、差異%

非集約次元

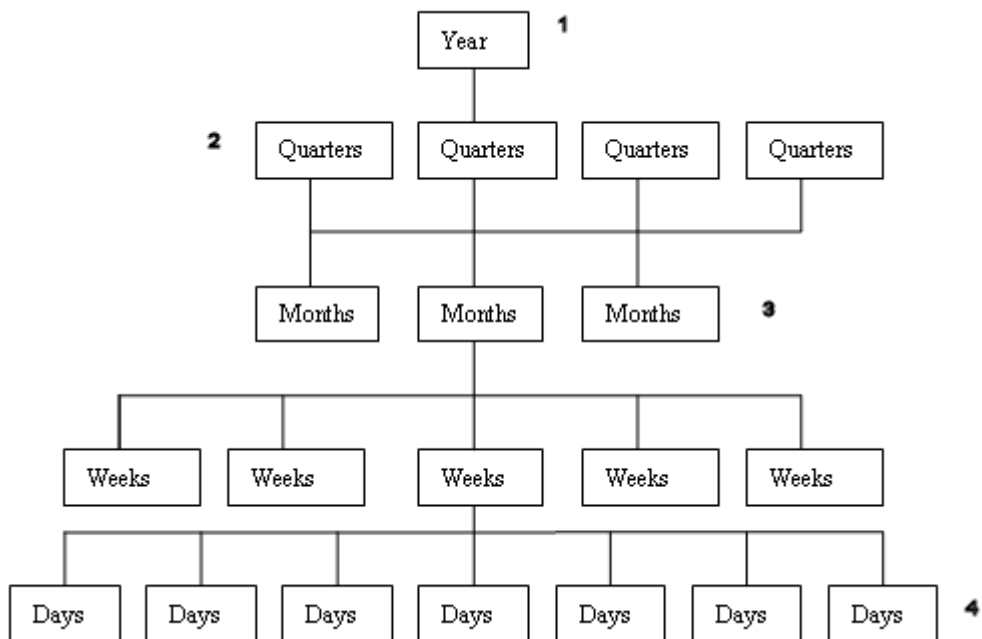
一部の次元は、そのメンバーが集約されたものです。たとえば、24 時間が 1 日を構成し、7 日間で 1 週間を構成し、52 週が 1 年を構成します。これらのケースでは、時間次元がそのコンポーネントの合計を表します。ただし、一部次元階層はそのコンポーネントの合計ではありません。たとえば、メジャー次元は一般的に、売上、収益および売上原価などのビジネス・メジャーで構成されています。次元ラベルがコンテンツの合計を表すことができない場合、プロトコルによって次元ラベルがメンバー・セットに置き換えられます。Essbase では、非集約次元ラベルのかわりに次元アウトラインの最初の子を暗黙の共有として使用します。

家族関係

階層順のコンセプトを簡素化するために Essbase では、家族関係を使用します。

- 親 - 階層内における要素の直接の祖先。たとえば、四半期は月の親です。
- 子 - 階層内における要素の直接の子孫。たとえば、月は四半期の子です。

- 子孫 - より細分的な要素。たとえば、日は週の子孫です。
- 祖先 - より普遍的な要素。たとえば、週は日の祖先です。
- 兄弟 - 同じ親を持つメンバー。

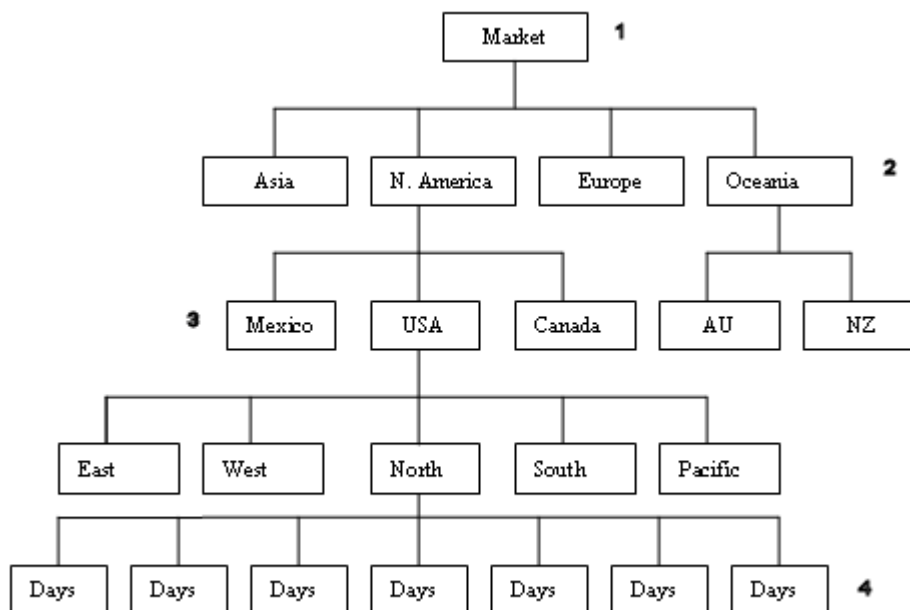


数字	説明
1	祖先
2	親
3	Child
4	子孫
5	兄弟(マークなし)

世代とレベル

階層構造は、世代とレベルの観点から記述することもできます。次元階層の同じレイヤー上の次元メンバーは、一括して世代またはレベルと呼ばれます。これらの関係は、次のように定義されます。

- 世代 - 最上位の祖先から逆に数えられます。root メンバーまたは次元名は、世代 1 です。次の図では、Market が世代 1 です。
- レベル - レベル 0、レベル 1、レベル 2 のように、下から上に数えられます。次の図では、国がレベル 0 にあります。
- リーフ・ノード - 階層内の最下位ポイント。




数字	説明
1	祖先
2	親
3	Child
4	子孫

属性

次元メンバーの名前、場所および関係以外にも、Essbaseでは、属性と呼ばれる、メンバーに関する特性も保管されます。たとえば、製品次元は、婦人服にはシャツ、ブラウスのほか、綿のTシャツがあることを示します。一方、属性は、綿のTシャツが赤、シアン、ライムまたはピンクであることを示します。Essbaseでは、属性次元のデータを多次元データベースの一部として保管するのではなく、要求時に動的に計算します。属性次元は、データが別の方法で保管されるにもかかわらず、他の次元と同じように次元階層に表示されます。

カタログ・リスト

カタログ・リストでは、1つまたはすべての次元がツリー・モデルに表示されます。このツリーを拡張して追加メンバーを表示できますが、世代は階層には含まれません。1つの次元内に多くのメンバーがあるキューブの場合、ページングを行うとナビゲーションが容易になります。カタログおよびメンバー選択に表示できるメンバー数は、「クエリー・オプション」の「表示するメンバー数」オプションで定義します。デフォルトは50です。

- ▶ カタログを単一次元モードで表示するには、「次元の選択」から次元を選択します。
ツリーを展開して次元階層内に追加メンバーを表示するには、次元の横にある「+」をクリックします。
- ▶ カタログをすべての次元で表示するには、をクリックします。

OLAPQuery と CubeQuery のデータ・レイアウトの差異

OLAPQuery は、多次元データベースをクエリーするために使用されたリリース 9.3 以前のセクションです。OLAPQuery と CubeQuery のデータ・レイアウト・ツールには、次のような差異があります。

OLAPQuery のデータ・レイアウト	CubeQuery のデータ・レイアウト
スライサ	フィルタ
サイド	行
最上位	列
単一階層から複数のメンバーのフィルタを選択および適用できます。	次元ごとに 1 つのフィルタ・メンバーを選択できます。同じ次元内の複数のメンバーのフィルタはサポートされていません。
メジャーは個別次元として処理され、データ・レイアウトのファクト・ペインにのみ配置できます。	メジャーは、データ・レイアウトの行、列およびフィルタ・ペインに配置できます。
データ・レイアウトのメンバー選択は使用不可です。	データ・レイアウトの行、列およびフィルタ・ペインでのメンバー選択は、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで編集できます。
ショートカット・メニューを使用して、「フィルタ」ダイアログ・ボックスおよび「削除」オプションにアクセスできます。	ショートカット・メニューを使用して、「削除」オプション、「メンバー選択」ダイアログ・ボックス、「変数」オプションおよび「フィルタ」オプションにアクセスできます。

CubeQuery の構築

CubeQuery セクションを構築する前に、発行された Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)および Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)が必要です。

- ▶ 発行された Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)をインポートするには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラで、ファイル、ファイルのインポートの順に選択します。
ファイルのインポートの選択ダイアログ・ボックスが表示されます。


- 2 参照を選択し、Interactive Reporting データベース接続ファイルがあるフォルダに移動し、開くをクリックします。
「ファイル」フィールドに Interactive Reporting データベース接続ファイル名が移入されます。
 - 3 次へをクリックします。
OCE プロパティのインポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 4 ユーザー名とパスワード、および任意の適切なデータ・ソース・アクセス設定を指定します。
 - 5 終了をクリックします。
- ▶ Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)をインポートするには、次の手順に従います。
- 1 ファイル、インポートの順に選択します。
ファイルのインポートの選択ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 参照をクリックし、Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)があるフォルダに移動し、開くをクリックします。
「ファイル」フィールドに Interactive Reporting ドキュメント・ファイル名が移入されます。
 - 3 次へをクリックします。
Interactive Reporting プロパティのインポート・ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 4 すべてのクエリーにオプションを適用するフィールドで接続オプションを指定します。
 - 5 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルに関連付ける Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)をクエリー/データモデル接続ドロップダウンで選択し、ユーザー名とパスワードを指定します。
 - 6 終了をクリックします。
- ▶ 前に発行した Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)に基づいて新規 CubeQuery セクションを作成するには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラで、CubeQuery が含まれる Interactive Reporting ドキュメント・ファイル(BQY)を選択します。
 - 2 ホスト名フィールドに名前を、ホストのパスワードフィールドにパスワードを入力し、OK をクリックします。
 - 3 アクションの挿入を選択し、クエリーを選択します。
「クエリーの挿入」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 4 既存の Essbase 接続をチェックし、現在の Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)を選択するか、ドロップダウンから別のファイルを選択し、OK をクリックします。
新規 Interactive Reporting ドキュメント・ファイルが作成されます。

- 5 カタログ・リストに移入するには、アクション、次元の取得の順に選択します。

カタログ・リストに、クエリーに追加できる次元が表示されます。

- 6 プロンプトが表示された場合、「DB ユーザー名」および「DB パスワードフィールド」にデータベースのユーザー名とパスワードを入力し、OK をクリックします。

- 7 カタログ・リストから次元を選択します。

カタログ・リストの単一次元モードとすべての次元モードを切り替えるには、 をクリックします。

- 8 カタログ・リストで、メンバー次元を選択し、「クエリー」、「行に追加またはクエリー、列に追加の順に選択します。

注： 同じ次元のメンバーは列、行、およびフィルタ間で分割できません。

- 9 カタログ・リストで、メジャー次元を選択し、クエリー、行に追加またはクエリー、列に追加の順に選択します。
- 10 メンバーにフィルタを設定するには、カタログ・リストでメンバーを選択し、クエリー、フィルタに追加の順に選択します。
- 11 プロセスをクリックします。

注： 値が欠落して表示されない場合、「欠落の抑制」および「ゼロを非表示」オプションが使用可能になっている可能性があります。これらのオプションはデフォルトでは使用可能であり、「クエリー・オプション」で使用不可にできます。

DB へのログオン

「DB へのログオン」ダイアログ・ボックスを使用して、Essbase データベースへログオンするために使用するデータベース名とパスワードを指定します。

- ▶ データベースへのログオンを指定するには、DB ユーザー名フィールドにデータベース・ユーザー名を、DB パスワードにデータベースのパスワードを入力し、OK をクリックします。

すべての有効なログオン名とパスワードのリストは、データベース管理者によって保持されます。

メンバーの検索

メンバーの検索は、カタログ・リストから 1 つ以上の次元でメンバー名、別名またはこれら両方について実行できます。カタログ・リストにメンバーが単一次元モードで表示されている場合、選択した次元で検索が実行されます。すべての次元が表示されている場合、すべての次元で検索が実行されます。

- ▶ カタログ・リストからメンバーを検索するには、次の手順に従います。
 - 1 名前、別名またはこれら両方のいずれを基準に検索するか選択します。
 - 2 検索対象のテキストを入力します。

検索にワイルドカードを使用する場合、使用可能なのは後端ワイルドカード(Cola* など)のみで、前端ワイルドカード(*-10 など)は使用できません。

??(配置位置)は有効な検索基準です。?は、任意の1文字に相当し、文字列のどこにでも配置できます。

3 をクリックします。

検索結果はカタログ・リストに表示され、データ・レイアウトに追加できます。

▶ 検索を終了するには、 を選択します。








検索結果が消去されます。

メンバー選択

Essbase データベースには、数百、さらには数千ものメンバーが含まれる場合があります。選択した次元のクエリー・メンバー基準を絞り込むには、「メンバー選択」の「参照」および「検索」タブを使用します。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスには、子、子孫、下位、兄弟またはサブセット(UDA、属性次元、レベルおよび世代)などの動的選択関数が含まれます。



使用可能ペインには、選択した次元のメンバー階層がリストされます。代替変数の追加ノードには、すべての次元の代替変数がリストされます。ただし、これらが別の次元から選択される場合、代替変数を「選択済」ペインに追加するときにエラーが表示されます。

「選択済」ペインには、すべてのメンバー選択がリストされます。選択には、単一メンバーまたは動的選択関数(子など)があります。

アイコン	動的関数	説明
	メンバー	現在選択されているメンバー
	子	選択したメンバーの子(1 レベル下)
	子孫	選択したメンバーの子孫
	下	階層の最下位レベルで選択したメンバーの子孫(レベル 0)
	兄弟	選択したメンバーと同じ親を持つ同じレベルのメンバー
	同一レベル	選択したメンバーと同じレベルの次元メンバー
	同世代	選択したメンバーと同じ世代の次元メンバー

メンバーの参照


「メンバー選択」の「参照」タブを使用して、クエリーに含める個々のメンバーを参照して選択します。

- ▶ メンバーを参照して選択するには、次の手順に従います。
- 1 データ・レイアウトで、ショートカット・メニューから次元メンバーを選択し、編集を選択します。
「メンバー選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 参照を選択します。
 - 3 メンバーを選択し、メンバー名の左側にある+をクリックして展開します。
 - 4 個別メンバーをクエリーに含めるには、使用可能ペインでメンバーを選択し、をクリックします。
「選択済」ペインにメンバーが追加されます。
 - 5 動的関数を含めるには、ショートカット・メニューから使用可能ペインでメンバーを選択し、サブメニューから関数を選択します。
 - メンバー
 - 子
 - 子孫
 - 下
 - 兄弟
 - 同一レベル
 - 同世代
 - 「使用不可」または「使用可能」(選択したメンバーのみ)
 - 6 OK をクリックします。
- ▶ 「選択済」ペインでメンバー関数を変更するには、次の手順に従います。
- 1 変更するメンバーを選択します。
連続した複数のアイテムを選択するには、[Shift]キーを押しながらクリックします。連続していない複数のアイテムを選択するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックします。
 - 2 メンバーを含めたり除外するには(たとえば、「メンバー+子」対「子」)、メンバー名の横にあるチェック・ボックスを選択します。
 - 3 OK をクリックします。
- ▶ 「選択済」ペインから削除せずに、クエリーで使用されるアイテムを消去するには、次の手順に従います。
- 1 アイテムを選択し、ショートカット・メニューから使用不可を選択します。
 - 2 OK をクリックします。
- ▶ メンバーまたはメンバー要素を除去するには、次の手順に従います。
- 1 「選択済」ペインでメンバーを選択し、をクリックします。

連続した複数のアイテムを選択するには、[Shift]キーを押しながらクリックします。連続していない複数のアイテムを選択するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックします。

「選択済」ペインからメンバーが削除されます。

2 OK をクリックします。

▶ すべてのメンバーおよびメンバー要素を除去するには、を選択します。
「選択済」ペインからメンバーが削除されます。

▶ メンバーの追加と削除を切り替えるには、次の手順に従います。

1 「選択済」ペインでメンバーを選択します。

2 使用不可を選択してメンバーを除外するか、使用可能を選択してメンバーを追加します。

代替変数

代替変数は、Essbase 固有の値を表すグローバル変数を定義します。たとえば、CurMonth は、直近の期間を表示するための代替変数として使用できます。値の変更時にクエリーを定期的に更新するかわりに、サーバー上の代替変数の値のみを変更します。代替変数は Essbase によって作成されますが、メンバーの選択時に代替変数を指定できます。


▶ 代替変数を追加するには、次の手順に従います。

1 データ・レイアウトでメンバーを選択し、ショートカット・メニューから編集を選択します。

「メンバー選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2 参照を選択します。

3 使用可能ペインで「+」をクリックして「代替変数」ノードを展開します。

4 代替変数を含めるには、使用可能ペインでメンバーを選択し、をクリックします。

5 代替変数に動的関数を含めるには、ショートカット・メニューから使用可能ペインでメンバーを選択し、サブメニューから必要な関数を選択します。

- メンバー
- 子
- 子孫
- 下
- 兄弟
- 同一レベル
- 同世代
- 次/前の項目も選択
- サブセット

- 6 OK をクリックします。

変数

変数は、クエリーの処理時にクエリーに配置される定数です。


- ▶ 選択したすべてのメンバーを変数として使用するには、次の手順に従います(クエリーの処理時に値を求めるプロンプトが表示されます)。
 - 1 データ・レイアウトで次元メンバーを選択し、ショートカット・メニューから編集を選択します。
 - 2 変数として使用を選択します。
 - 3 OK をクリックします。


メンバーの検索

- ▶ メンバーを検索するには、次の手順に従います。
 - 1 データ・レイアウトで、次元を右クリックし、編集を選択します。
 - 2 検索を選択します。
 - 3 「メンバー・タイプ」から、検索するメンバーのタイプを選択します。
 - 名前 - メンバー名
 - 別名 - データベース・メンバーの代替名
 - 両方 - メンバー名と別名

注： 別名を検索するには、「別名テーブルの使用」オプションを使用可能にし、「クエリー・オプション」で別名テーブルを選択します。

- 4 検索するテキスト文字列または数値(メンバー名またはパターン)を入力します。

末尾のアスタリスクおよびワイルドカード文字列は使用可能です。有効なテキスト文字列は、Ja*、M?n、M??n などです。無効なテキスト文字列は、*-10、J*n などです。
- 5 選択した次元内でテキスト文字列または数値と一致するすべてのメンバーを検索するには、 をクリックします。

検索の結果が使用可能ペインに移入されます。
- 6 **オプション:** メンバーを「選択済」ペインに追加するには、 をクリックします。
- 7 OK をクリックします。

フィルタのメンバー選択

データ・オブジェクトの交差はすべて、フィルタのメンバー選択に相對していません。このメンバー選択は、交差およびデータ値に焦点を当てており、その結果として分析に焦点を当てています。フィルタ軸次元はデフォルトでは、データ・ソー


スに定義されている最上位の集約メンバーによって表されます。最上位の集約以外のメンバーに分析の焦点を当てるには、次元ごとに1つのフィルタ・メンバーを選択します。フィルタのメンバー選択では、次元の再調整やページの再編成は行われず、交差に分析の焦点が当てられます。

「選択項目のフィルタ」タブを使用して、フィルタ定義で使用するメンバーを参照、検索または選択します。

フィルタのメンバーの参照

「選択項目のフィルタ」の「参照」タブを使用して、フィルタとして使用する個々のメンバーを参照して選択します。

- ▶ メンバーを参照して選択するには、次の手順に従います。
 - 1 データ・レイアウトのフィルタ・ペインで次元メンバーを選択し、ショートカット・メニューから編集を選択します。

「選択項目のフィルタ」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - 2 参照を選択します。
 - 3 メンバーを選択し、メンバー名の左側にある+をクリックして展開します。
 - 4 メンバーをクエリーのフィルタとして含めるには、使用可能ペインでメンバーを選択し、をクリックします。

「選択済」ペインにメンバーが追加されます。
 - 5 メンバーを動的関数として含めるには、使用可能ペインでメンバーを選択し、ショートカット・メニューからメンバーを選択します。
 - 6 OK をクリックします。

フィルタのメンバーの検索


「選択項目のフィルタ」ダイアログの「検索」タブを使用して、選択した次元内のメンバーを検索します。

注： メンバー選択、カタログまたはクエリー結果には、メンバー名と別名のみが表示され、完全修飾名([West].[Salem]など)は表示されません。

- ▶ メンバーを検索するには、次の手順に従います。
 - 1 データ・レイアウトのフィルタ・ペインで、メンバーを右クリックし、編集を選択します。
 - 2 検索を選択します。
 - 3 メンバー・タイプから、検索するフィルタのメンバーのタイプを選択します。
 - 名前 - メンバー名
 - 別名 - データベース・メンバーの代替名
 - 両方 - メンバー名と別名

4 検索するテキスト文字列または数値をテキスト・ボックスに入力します。

末尾のアスタリスクおよびワイルドカード文字列は使用可能です。有効なテキスト文字列は、Ja*、M?n、M??n などです。無効なテキスト文字列は、*-10、J*n などです。

5 選択した次元内でテキスト文字列または数値と一致するすべてのメンバーを検索するには、をクリックします。

「場所」列内のアイテムの上にマウスを置くと、メンバーの完全な場所のパスを示すツールチップが表示されます。

検索の結果が使用可能ペインに移入されます。

6 オプション: メンバーを「選択済」ペインに追加するには、をクリックします。

7 OK をクリックします。

注: 異なるメンバーをフィルタとして追加するには、選択したメンバーを最初に除去します。

注: 「別名の使用」オプションが使用可能な場合、別名による検索を行うと、「クエリー・オプション」で現在選択されている「別名テーブル」が検索されます。

CubeQuery のナビゲート

CubeQuery セクションでのデータのナビゲートと維持については、次を参照してください。

- [選択項目のみ保持](#)
- [選択項目のみ削除](#)
- [欠落値とゼロ値の非表示](#)
- [ドリル](#)
- [共有メンバーのドリル](#)

選択項目のみ保持

結果セットから選択したメンバーを除く他のすべての次元メンバー選択を消去することにより、1つのメンバーに焦点を当てます。「メンバー選択」ダイアログ・ボックスでは、保持されていないメンバーは使用不可です。

▶ 特定のメンバー・セットを保持するには、次の手順に従います。

1 1つのメンバーまたはメンバーの範囲を選択します。

連続していないセルを保持するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックします。

2 次元ラベルを選択し、ショートカット・メニューから選択項目のみ保持を選択します。

選択したメンバーのみが表示されます。

選択項目のみ削除

次元メンバーを消去し、クエリーの結果セットから除去します。この機能を使用するには、少なくとも1つのメンバーが保持されている必要があります。除去したメンバーは、結果セットには含まれず、クエリーから除外されたもの(「-」またはマイナス記号のフラグが付けられます)として「メンバー選択」ダイアログ・ボックスに表示されます。メンバーをクエリーに再追加するには、除外を「選択済」ペインから除去する必要があります。

- ▶ 選択したメンバーを除去するには、次の手順に従います。

1 1つのメンバーまたはメンバーの範囲を選択します。

連続していないセルを除去するには、[Ctrl]キーを押しながらクリックします。

2 次元ラベルを選択し、ショートカット・メニューから選択項目のみ削除を選択します。

メンバーはレポートとクエリーから除去されます。メンバーをクエリーに再追加するには、カタログからデータ・レイアウトに追加するか、「メンバー選択」ダイアログ・ボックスで選択します。

欠落値とゼロ値の非表示

欠落値とゼロ値を行と列で非表示にすることにより、関係のない情報が戻されないようにし、ネットワーク・トラフィックを削減し、クエリーの速度を上げることができます。「クエリー・オプション」ボックスを使用すると、CubeQuery が欠落値とゼロ値を処理する方法をカスタマイズできます。これには、デフォルトでこれらの値に表示されるテキスト・ラベルも含まれます。

- ▶ 行内の欠落値を非表示にするには、行を選択し、ショートカット・メニューから「抑制」、「欠落した行の順」を選択します。

デフォルトでは、欠落値は空白です。

- ▶ 列内の欠落値を非表示にするには、列を選択し、ショートカット・メニューから「抑制」、「欠落した列の順」を選択します。

- ▶ 行内のゼロ値を非表示にするには、行を選択し、ショートカット・メニューから「抑制」、「ゼロ行の順」を選択します。

デフォルトでは、ゼロ値は0(ゼロ)として表示されます。

- ▶ 列内のゼロ値を非表示にするには、列を選択し、ショートカット・メニューから「抑制」、「ゼロ列の順」を選択します。

ドリル

ドリルにより、大量のレベル・データが含まれる次元のレポート詳細の表示を増減します。ドリルには、ドリルダウン(多くのフォームの場合)またはドリルアップがあります。ドリルダウンの方が、次元内のより詳細なデータを取得できます。データベースのアウトラインに定義されている最下位レベルの次元に達するまで、より詳細なデータにドリルダウンできます。

ドリルダウンの前後の例を次に示します。

ドリル前:

	Market
	Product
Oct	12,686

ドリル後:

	Market		
	Audio	Visual	Product
Oct	3,803	8,883	12,686

この例では、Oct について、Audio と Visual にドリルダウンできます。ドリルアップはドリルダウンの反対で、次元内の階層で詳細度の低いデータの方へ上に移動します。クエリー・オプションを使用すると、ドリル・レベルの動作をカスタマイズできます。また、ショートカット・メニューを使用してドリル・レベルをコントロールすることもできます。

注： 日時系列メンバーはドリルダウンできません。

▶ 高詳細レベルまでドリル・ダウンする方法は、次の通りです。

- 1 メンバーを選択します。
- 2 クエリー・オプションに定義されているデフォルトのドリル・レベルを使用してドリルダウンするメンバーをダブルクリックします。

ヒント： また、メンバーを選択し、「ドリル」、「下への順に選択し、ショートカット・メニューからクエリー・オプションに定義されているデフォルトのドリル・レベルを使用してドリルダウンすることもできます。

追加のドリルダウン・オプションは、次のとおりです。

- **下へ** - クエリー・オプションに定義されているデフォルトのドリル・レベルを使用して、より詳細な次元へドリルダウンします。
- **上へ** - より詳細度の低い次元へドリルアップします。
- **次へ** - 子へドリルダウンします。これがデフォルトのドリル・レベルです。たとえば、Year にドリルして第 1 四半期 Qtr1、Qtr2、Qtr3 および Qtr4 を取得します。
- **下位** - 次元の最下位レベルのメンバーにドリルダウンします。たとえば、Year にドリルして Jan、Feb、Mar、Apr、May、Jun、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov および Dec を取得します。
- **すべての子孫** - すべての子孫のデータを取得します。たとえば、Year にドリルして四半期メンバーと月メンバーをすべて取得します。

- **兄弟** - 兄弟のデータを取得します。たとえば、Jan にドリルして Jan、Feb および Mar をすべて取得します。
- **同一レベル** - 同一レベルのすべてのメンバーのデータを取得します。たとえば、Sales にドリルして COGS、Marketing、Payroll、Misc、Opening Inventory、Additions、Ending Inventory、Margin % および Profit % の値を取得します。
- **同世代** - 選択した 1 つ以上のメンバーと同世代のすべてのメンバーのデータを取得します。たとえば、Sales にドリルして COGS、Marketing、Payroll および Misc を取得します。

リレーショナルへのドリルスルーのサンプル

次のサンプルは、行内に複数の次元がある CubeQuery に適用したドリルスルー機能を示しています。

最初の CubeQuery セクションには、次が含まれます。

行

Jan、Feb、Mar

100(子)

200(子)

列

East(子)

100(子)

200(子)

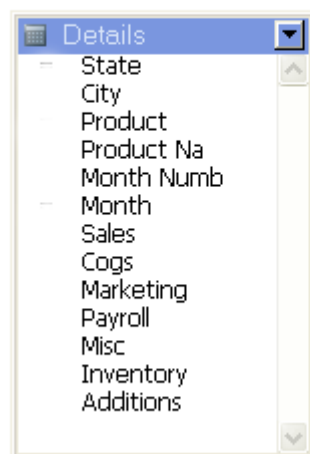
フィルタ

販売

		New York	Massachusetts	Florida	Connecticut	New Hampshire
Jan	100-10	678	494	210	310	120
	100-20			200		
	100-30					93
	100	678	494	410	310	213
	200-10	61	126	190	180	90
	200-20			180	130	
	200-40	490	341			65
	200	551	467	370	310	155
Feb	100-10	645	470	200	325	114
	100-20			206		
	100-30					101
	100	645	470	406	325	215
	200-10	61	128	220	155	104
	200-20			180	130	
	200-40	580	340			68
	200	641	468	400	285	172
Mar	100-10	675	492	210	309	119
	100-20			214		
	100-30					107
	100	675	492	424	309	226
	200-10	63	125	227	150	107
	200-20			188	124	
	200-40	523	325			75
	200	586	450	415	274	182

リレーショナル・セクションには、次が含まれます。

Request	Product	Product Na	Month	State	City	Sales	Cogs
---------	---------	------------	-------	-------	------	-------	------



リレーショナル・クエリーの最初の結果は、次のとおりです。

	Product	Product Na	Month	State	City
1	100-10	Cola	Jan	Colorado	Aspen
2	100-20	Diet Cola	Jan	Colorado	Aspen
3	100-30	Caffeine Free Cola	Jan	Colorado	Aspen
4	200-10	Old Fashioned	Jan	Colorado	Aspen
5	200-20	Diet Root Beer	Jan	Colorado	Aspen
6	100-10	Cola	Feb	Colorado	Aspen
7	100-10	Cola	Mar	Colorado	Aspen
8	100-10	Cola	Apr	Colorado	Aspen
9	100-10	Cola	May	Colorado	Aspen
10	100-10	Cola	Jun	Colorado	Aspen

Product Product Na Month State City Sales Cogs

ドリルスルーには、次のトピック・マッピングが定義されています。

表 68 ドリルスルーのためのリレーショナル・トピックから OLAP 次元へのマッピング

リレーショナル	OLAP
Details.State	Market
Details.Product	製品
Details.Month	年

New York のコンテンツが 100-10 で、Jan が CubeQuery に渡されると、これらの結果はリレーショナル・クエリーに表示されます。

Filter						
	Product	Product Na	Month	State	City	Sale
1	100-10	Cola	Jan	New York	Buffalo	
2	100-10	Cola	Jan	New York	Ithaca	
3	100-10	Cola	Jan	New York	Long Island	
4	100-10	Cola	Jan	New York	Manhattan	
5	100-10	Cola	Jan	New York	Millbrook	
6	100-10	Cola	Jan	New York	Poughkeepsie	
7	100-10	Cola	Jan	New York	Yonkers	
8	100-10	Cola	Jan	New York	Yorktown	

共有メンバーのドリル

Essbase アウトラインに共有メンバーが定義されているメンバーをドリルダウンまたはドリルアップできます。Essbase により、どのメンバーが適格(基本メンバーまたは共有メンバー)であるかが決定され、ドリル・パスに基づいてドリルまたは保管されたメンバーが戻されます。

次は Essbase アウトラインです。

製品

100

150(保管済メンバー)

100-10

100-20

Brand1

150 (共有メンバー)

保管済メンバー 150 には子があり、共有メンバー 150 には子がありません。150 のドリル・アップとドリル・ダウンは異なる結果を戻します。

- 150 のドリルダウンでは、共有メンバーとして解釈された場合には何も戻さず、標準メンバーとして解釈された場合には 100-10 および 100-20 を戻します。
- 150 のドリルアップでは、共有メンバーとして解釈された場合には Brand1 を戻し、標準メンバーとして解釈された場合には 100 を戻します。

ドリルダウン時には、共有メンバーから標準メンバーへの近接度によって結果が異なります。共有メンバーを持つメンバーのドリルアップの場合、Analytic Server はメンバーを参照し、どのメンバーがクエリーされているかを判別します。たとえば、100-20 をドリルアップする場合、Diet と 100 のどちらの方がメンバー 100-20 に近いかに応じて、Diet が戻される場合と 100 が戻される場合があります。100-20 が単独である場合、Essbase はこれを標準メンバーだと判別します。Diet の方が近い場合、100-20 は共有メンバーとして解釈される可能性があります。

ドリルスルー

ドリルスルー機能を使用して、CubeQuery セクション内のデータ・セルまたはメタデータ・ラベルから同じ Interactive Reporting ドキュメント・ファイル内の既存のリレーショナル・クエリー・セクションへドリルできます。CubeQuery では、ドリルを実行可能なデータ・セルおよびメタデータ・ラベルを示すために、青いインディケータを介したドリルが使用可能になっています。このインディケータは、次元内のすべてのデータ・セルおよびメタデータ・ラベルをドリルできるよう、左上のセルまたはメンバーに表示されます。ドリルスルーには、次のような特性があります。

- Essbase 次元はターゲットのリレーショナル・フィールドにマップされるため、Essbase クエリー内のメンバー・コンテキストをフィルタとしてリレーショナル・クエリーに渡すことができます。ファクト・アイテムに対するドリルスルーは実行できません。これは、ファクトはリレーショナル・クエリー・セクションでのみ定義されるためです。
- ドリルスルーは、階層内の任意のレベルの Essbase メンバーに対して実行できます。
- 新規または既存の結果セクションをドリルできます。

▶ ドリルスルーを実行するには、次の手順に従います。

- 1 単一のセルまたはメンバー・ラベルを選択し、「アクション」、「ドリルスルーの順に選択します。

ドリルスルーを実行できるのは一度に1つのラベルまたはセルに対してのみです。複数のメタデータ・ラベルまたはセル、あるいはその両方を選択した場合、ドリルスルー・オプションは使用不可です。

結果へドリル・ダイアログ・ボックスが表示されます。

このダイアログ・ボックスが表示されるのは、「ドリルスルー」オプションを定義したときに「既存の結果」を選択した場合のみです。リレーショナル・クエリーにユーザー名とパスワードを入力するよう求められます。

デフォルトでは、新規の結果が存在し、このダイアログ・ボックスは表示されません。

- 2 ターゲットの結果セクションを選択して、OK をクリックします。

スイングの使用

クエリーから行と列の間の次元をスワップするには、スイング機能を使用します。この機能により、新しい方法でデータを表示でき、新しいデータと元のテーブルのデータを簡単に比較できます。スイング・ハンドルを使用して、ある位置から別の位置に次元ヘッダー(列または行のいずれか)をドラッグして次元をスイングします。デフォルトで、スイング・ハンドルは透過となっています。スイング・ハンドルは次元ヘッダーを選択する場合にのみ表示されます。スイング・ハンドルは、ライト・グレーのハンドルとともに白で表示されます。選択がオフになると、ハンドルは再度透過になります。

▶ 次元列をスイングするには:

- 1 ヘッダーの左の枠線をクリックして、次元列ヘッダー(下の番号 1)を選択します。

スイング・ハンドル(下の番号 2)が行の右に表示されます。この例では、シナリオ次元ヘッダーが選択されています。

	Actual				Budget			
	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
100-10	5,09€	5,892	6,533	5,206	6,510	7,410	8,223	6,760
100-20	1,35€	1,534	1,528	1,287	2,240	2,480	2,473	2,340
100-30	59€	446	400	544	1,040	770	753	950
100	7,04€	7,872	8,511	7,037	9,790	10,660	11,443	10,050
200-10	1,697	1,734	1,833	1,887	2,630	2,730	2,903	3,380
200-20	2,96€	3,079	3,149	2,834	3,600	3,640	3,703	3,790
200-30	1,15€	1,231	1,159	1,093	1,240	1,370	1,303	1,140
200-40	90€	986	814	1,384	1,010	1,100	933	1,490
200	5,721	7,030	7,035	7,198	8,480	8,840	8,833	9,800

- 2 スイング・ハンドルを選択して、新しい位置(左/下または右/上)にドラッグします。

例では、ハンドルは製品次元の下部および左にスイングされています:

	Actual				Budget			
	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
100-10	5,096	5,892	6,583	5,206	6,510	7,410	8,220	6,760
100-20	1,359	1,534	1,528	1,287	2,240	2,480	2,470	2,340
100-30	593	446	400	544	1,040	770	750	950
100	7,048	7,872	8,511	7,037	9,790	10,660	11,440	10,050
200-10	1,697	1,734	1,883	1,887	2,630	2,730	2,900	3,380
200-20	2,963	3,079	3,149	2,834	3,600	3,640	3,700	3,790
200-30	1,153	1,231	1,159	1,093	1,240	1,370	1,300	1,140
200-40	908	986	814	1,384	1,010	1,100	930	1,490
200	6,721	7,030	7,005	7,198	8,480	8,840	8,830	9,800

その結果、シナリオ次元は製品次元の左に配置されます:

		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
Actual	100-10	5,096	5,892	6,583	5,206
	100-20	1,359	1,534	1,528	1,287
	100-30	593	446	400	544
	100	7,048	7,872	8,511	7,037
	200-10	1,697	1,734	1,883	1,887
	200-20	2,963	3,079	3,149	2,834
	200-30	1,153	1,231	1,159	1,093
	200-40	908	986	814	1,384
	200	6,721	7,030	7,005	7,198
Budget	100-10	6,510	7,410	8,220	6,760
	100-20	2,240	2,480	2,470	2,340
	100-30	1,040	770	750	950
	100	9,790	10,660	11,440	10,050
	200-10	2,630	2,730	2,900	3,380
	200-20	3,600	3,640	3,700	3,790
	200-30	1,240	1,370	1,300	1,140
	200-40	1,010	1,100	930	1,490
	200	8,480	8,840	8,830	9,800

▶ 行次元をスイングするには:

- 1 次元行ヘッダー全体を選択します。

スイング・ハンドルがクエリーの下部に表示されます:

		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
Actual	100-10	5,096	5,892	6,583	5,206
	100-20	1,359	1,534	1,528	1,287
	100-30	593	446	400	544
	100	7,048	7,872	8,511	7,037
	200-10	1,697	1,734	1,883	1,887
	200-20	2,963	3,079	3,149	2,834
	200-30	1,153	1,231	1,159	1,093
	200-40	908	986	814	1,384
	200	6,721	7,030	7,005	7,198
Budget	100-10	6,510	7,410	8,220	6,760
	100-20	2,240	2,480	2,470	2,340
	100-30	1,040	770	750	950
	100	9,790	10,660	11,440	10,050
	200-10	2,630	2,730	2,900	3,380
	200-20	3,600	3,640	3,700	3,790
	200-30	1,240	1,370	1,300	1,140
	200-40	1,010	1,100	930	1,490
	200	8,480	8,840	8,830	9,800

2 スイング・ハンドルを選択して、新しい位置にドラッグします(左/右または右/上)。

この例では、ハンドルはクエリーの右および上部にスイングされています:

		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
Actual	100-10	5,096	5,892	6,583	5,206
	100-20	1,359	1,534	1,528	1,287
	100-30	593	446	400	544
	100	7,048	7,872	8,511	7,037
	200-10	1,697	1,734	1,883	1,887
	200-20	2,963	3,079	3,149	2,834
	200-30	1,153	1,231	1,159	1,093
	200-40	908	986	814	1,384
	200	6,721	7,030	7,005	7,198
Budget	100-10	6,510	7,410	8,220	6,760
	100-20	2,240	2,480	2,470	2,340
	100-30	1,040	770	750	950
	100	9,790	10,660	11,440	10,050
	200-10	2,630	2,730	2,900	3,380
	200-20	3,600	3,640	3,700	3,790
	200-30	1,240	1,370	1,300	1,140
	200-40	1,010	1,100	930	1,490
	200	8,480	8,840	8,830	9,800

スイングの結果は次のとおりです:

	100-10				100-20				100-30
	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Qtr1
Actual	5,096	5,892	6,583	5,206	1,359	1,534	1,528	1,287	
Budget	6,510	7,410	8,220	6,760	2,240	2,480	2,470	2,340	1

製品次元が年次元の下に配置されていることに注意してください。

結果へのダウンロード

「データベース合計のダウンロード」機能では、次元ごとに1つの列のみが作成され、結果セットにすべてのメンバーおよび対応するデータが含まれます。また、各次元の親メンバーを持つ列も結果に含まれます。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。このオプションを使用可能にすると、既存の結果セットはすべて削除されます。「ツール」、「オプション」、「プログラム・オプション」、「OLAP」の順に選択して、このオプションを使用可能にした場合、新しく作成した CubeQuery セクションでもこのオプションが使用可能になります。

注：「結果にダウンロード」機能を使用する場合、次元ごとの世代ごとに個々の列のみが結果セットに作成されます。また、最下位レベルのメンバー値もインポートされ、(元のクエリーに含まれる)各メンバーの祖先も追加列に表示されます。

例を次に示します。

- クエリー内のすべての Product メンバーは、1列にのみリストされ、世代に基づいて複数の列に選別されることはありません。また、この結果には、上位レベルの Product メンバーのデータ値も含まれます。
- 各次元には、クエリー内の各メンバーの親メンバーを示す追加列があります。
 - Year 次元メンバー Qtr1 や Qtr2 などでは、親メンバー(Year)が「Year Parent」列に表示されます。
 - Scenario 次元メンバー Actual および Budget では、親メンバー(Scenario)が「Scenario Parent」列に表示されます。
 - Product 次元メンバーでは、各親メンバーが「Product Parent」列に表示されます。

	Category	Product SKU	Gen2_Scenario	Gen2_Year	Val
1	100	100-10	Actual	Qtr1	
2	100	100-20	Actual	Qtr1	
3	100	100-30	Actual	Qtr1	
4	200	200-10	Actual	Qtr1	
5	200	200-20	Actual	Qtr1	
6	200	200-30	Actual	Qtr1	
7	200	200-40	Actual	Qtr1	
8	100	100-10	Budget	Qtr1	
9	100	100-20	Budget	Qtr1	
10	100	100-30	Budget	Qtr1	
11	200	200-10	Budget	Qtr1	
12	200	200-20	Budget	Qtr1	
13	200	200-30	Budget	Qtr1	
14	200	200-40	Budget	Qtr1	
15	100	100-10	Actual	Qtr2	
16	100	100-20	Actual	Qtr2	
17	100	100-30	Actual	Qtr2	
18	200	200-10	Actual	Qtr2	

▶ クエリーを結果にダウンロードするには、「アクション」、「結果にダウンロードの順」を選択します。

「結果にダウンロード」機能の動作は、CubeQuery 内のコンポーネントごとに異なります。

- 共有メンバーメタデータ・ラベルの個別列
- 列と行のメジャーの動作
- 不規則階層
- 共有メンバー共有メンバー

共有メンバーメタデータ・ラベルの個別列

メタデータ・ラベルの個別列は、階層内の Essbase 世代ごとに表示されます。

表 69 CubeQuery の要求アイテム(Profit メンバーはフィルタに適用)

製品	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
コーラ	5096	5892	6583	5206
Diet Cola	1359	1534	1528	1287
Caffeine Free Cola	593	446	400	544
コーラ	7048	7872	8511	7037
Old Fashioned	1697	1734	1883	1887
Diet Root Beer	2963	3079	3149	2834

製品	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
Sarsaparilla	1153	1231	1159	1093
Birch Beer	908	986	814	1384
ルート・ビール	6721	7030	7005	7198

表 70 結果セット

カテゴリ	製品 SKU	年	Profit
Colas	コーラ	第 1 四半期	5096
Colas	Diet Cola	第 1 四半期	1359
Colas	Caffeine Free Cola	第 1 四半期	593
ルート・ビール	Old Fashioned	第 1 四半期	1697
ルート・ビール	Diet Root Beer	第 1 四半期	2963
ルート・ビール	Sarsaparilla	第 1 四半期	1153
ルート・ビール	Birch Beer	第 1 四半期	908

クエリー内に階層の 1 つの世代のみがある場合、次に示すように、結果セクションでは、追加列に親メンバーが表示されません。

表 71 CubeQuery の要求アイテム(Profit メンバーは列内)

	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
	Profit	Profit	Profit	Profit
コーラ	5096	5892	6583	5206
Diet Cola	1359	1534	1528	1287
Caffeine Free Cola	593	446	400	544
Old Fashioned	1697	1734	1883	1887
Diet Root Beer	2963	3079	3149	2834
Sarsaparilla	1153	1231	1159	1093
Birch Beer	908	986	814	1384
Dark Cream	2544	3231	3355	3065

表 72 結果セット

製品 SKU	四半期	Profit
コーラ	第 1 四半期	5096
コーラ	Qtr2	5892

製品 SKU	四半期	Profit
コーラ	第 3 四半期	6583
コーラ	Qtr4	5206
Diet Cola	第 1 四半期	1359
Diet Cola	Qtr2	1534
Diet Cola	第 3 四半期	1528
Diet Cola	Qtr4	1287
Caffeine Free Cola	第 1 四半期	593
Caffeine Free Cola	Qtr2	446
Caffeine Free Cola	第 3 四半期	400
Caffeine Free Cola	Qtr4	544

列と行のメジャーの動作

CubeQuery セクションでは、メジャー次元は他の次元と同じように処理されます (行または列に配置できます) が、行、列またはフィルタのいずれに含まれるかにかかわらず、メジャー・メンバーごとに個別の結果セットが作成されます。

表 73 CubeQuery 内のメジャー

		Qtr1	Qtr2
販売	コーラ	14585	16048
	Diet Cola	7276	7957
COGS	コーラ	5681	6136
	Diet Cola	3496	3871
	Caffeine Free Cola	1493	1606

表 74 結果セット内のメジャー

製品 SKU	四半期	Sales	COGS
コーラ	第 1 四半期	14585	5681
Diet Cola	第 1 四半期	7276	3496
Caffeine Free Cola	第 1 四半期	3187	1493

行、列またはフィルタ内にメジャーがない場合、「Value」列にはすべてのデータ値が表示されます。

表 75 結果セット内の「Value」列

製品 SKU	四半期	値
コーラ	第 1 四半期	14585
Diet Cola	第 1 四半期	7276
Caffeine Free Cola	第 1 四半期	3187

不規則階層

通常、Essbase では、個別階層の上位には、同一レベル上の他のメンバーと同じ数のメンバーがあります。不規則階層の場合、1つのメンバーの論理的な親メンバーがそのメンバーのすぐ上のレベルに存在しません。メンバー選択が不規則なクエリーを結果にダウンロードするときに、一部の親メンバーが詳細に展開されていない場合、「ソース・クエリー結果が完全に展開されていないか対称的でない場合、平坦な無効の結果が戻される可能性があります。」という警告メッセージが表示されます。このメッセージは、メンバーが結果セットで共有されるかどうかを判別するために、親コンテキストまたは共有メンバーの親がクエリー内に存在する必要があることを示す上で必要です。

次の例では、クエリー内に Qtr2 の子がありません。クエリーには最下位レベルのメンバーのみが含まれるため、結果セットには Jan、Feb、Mar および Qtr2 が含まれます。Qtr2 の Month 値については、ラベルは空白です。

表 76 CubeQuery セクション内の不規則階層

	製品
1 月	8024
2 月	8346
3 月	8333
第 1 四半期	24703
Qtr2	27107

表 77 結果セット内の不規則階層

四半期	月	Gen1,Product	値
第 1 四半期	1 月	製品	8024
第 1 四半期	2 月	製品	8346
第 1 四半期	3 月	製品	8333
Qtr2	(空白)	製品	27107

元のクエリーの子メンバーに親メンバーがない場合、結果セットには親または他の任意の祖先が含まれます。

表 78 CubeQuery セクション内の不規則階層

	製品
1 月	8024
2 月	8346
3 月	8333
第 1 四半期	24703
12 月	8780

表 79 結果セット内の不規則階層

四半期	月	Gen1,Product	値
第 1 四半期	1 月	製品	8024
第 1 四半期	2 月	製品	8346
第 1 四半期	3 月	製品	8333
Qtr4	12 月	製品	8780

共有メンバー

共有メンバーのデータをクエリーに含めることや、その合計を除外することが可能です。結果セット内の各共有メンバー列は、結果セット内の Essbase 世代/フィールドに相当します。共有メンバーの場合、クエリー内に親コンテキストが存在する必要があります。つまり、クエリー内に共有メンバーの親が存在しない場合、「結果にダウンロード」機能では、このメンバーが共有メンバーであることが認識されず、親を判別できません。つまり、共有メンバーを結果セット内で共有できるかどうかを判別するには、クエリー内に共有メンバーの親が存在する必要があります。たとえば、基本製品サンプル次元の場合、100-20(共有メンバー)の 2 番目のインスタンスを「結果にダウンロード」で正しく計上するには、その親である Diet が Diet(子)のようにクエリーに含まれる必要があります。

注： 次では、共有メンバーは太字で示されています。

表 80 CubeQuery セクション内の共有メンバー

	Qtr1
100-10	5096
100-20	1359
100-30	593
100	7048
200-10	1697

	Qtr1
200-20	2963
200-30	1153
200-40	908
200	6721
300-10	2544
300-20	690
300-30	2695
300	5929
400-10	2838
400-20	2283
400-30	-116
400	5005
100-20	1359
200-20	2963
300-30	2695
低カロリー	7017
製品	24703

表 81 結果セット内の共有メンバー

Product SKU, Shared	Gen1, Product	カテゴリ	製品 SKU	四半期	値
	Product	100	100-10	第 1 四半期	5096
	Product	100	100-20	第 1 四半期	1359
	Product	100	100-30	第 1 四半期	593
	製品	200	200-10	Qtr1	1697
	製品	200	200-20	Qtr1	2963
	製品	200	200-30	Qtr1	1153
	製品	200	200-40	Qtr1	908
	製品	300	300-10	第 1 四半期	2544
	製品	300	300-20	第 1 四半期	690

Product SKU, Shared	Gen1, Product	カテゴリ	製品 SKU	四半期	値
	製品	300	300-30	第 1 四半期	2695
	製品	400	400-10	第 1 四半期	2838
	製品	400	400-20	第 1 四半期	2283
	製品	400	400-30	第 1 四半期	-116
100-20	製品	低カロリー	100-20	第 1 四半期	1359
200-20	製品	低カロリー	200-20	Qtr1	2963
300-30	製品	低カロリー	300-30	第 1 四半期	2695

複数の世代次元に共有メンバーがある場合、次元ごとに1つの Shared インディケータが作成されます。

注： 次では、共有メンバーは太字で示されています。

表 82 CubeQuery セクション内の共有メンバーを持つ複数の次元

		Qtr1
実績	100-10	5096
	100-20	1359
	100	7048
	100-20	1359
	低カロリー	7017
予算	100-10	6510
	100-20	2240
	100	9790
	100-20	2240
	100	9790
実績	100-20	2240
	低カロリー	8910
	100-10	5096
	100-20	1359
	100	7048
	100-20	1359

		Qtr1
	低カロリー	7017

表 83 結果セット内の共有メンバーを持つ複数の次元

Scenario, Gen2, Shared	Scenario, Gen2	Product SKU, Shared	カテゴリ	製品 SKU	四半期	値
	実績		100	100-10	第 1 四半期	5096
	実績		100	100-20	第 1 四半期	1359
	実績	100-20	低カロリー	100-20	第 1 四半期	1359
	予算		100	100-10	第 1 四半期	6510
	予算		100	100-20	第 1 四半期	2240
	予算	100-20	低カロリー	100-20	第 1 四半期	2240
実績	実績		100	100-10	第 1 四半期	5096
実績	実績		100	100-20	第 1 四半期	1359
実績	実績	100-20	低カロリー	100-20	第 1 四半期	1359

複数の世代の共有メンバーが 1 つの次元に含まれる場合、CubeQuery 世代の結果セットおよび結果セット列ごとに列が追加されます。

注： 次では、共有メンバーは太字で示されています。

表 84 CubeQuery セクション内の複数の世代レベルの共有メンバー

	第 1 四半期
100-10	5096
100-20	1359
100-30	593
100	7048
...	
400-10	2838

	第 1 四半期
400-20	2283
400-30	-116
400	5005
100-20	1359
200-20	2963
300-30	2695
低カロリー	7017
400	5005
製品	24703

表 85 結果セット内の複数の世代レベルの共有メンバー

Category, Shared	Product SKU, Shared	Gen1, Product	カテゴリ	製品 SKU	四半期	値
		Product	100	100-10	第 1 四半期	5096
		Product	100	100-20	第 1 四半期	1359
		Product	100	100-30	第 1 四半期	593
...						
		製品	400	400-10	第 1 四半期	2838
		製品	400	400-20	第 1 四半期	2283
		製品	400	400-30	第 1 四半期	-116
	100-20	製品	低カロリー	100-20	第 1 四半期	1359
	200-20	製品	低カロリー	200-20	Qtr1	2963
	300-30	製品	低カロリー	300-30	第 1 四半期	2695
400		製品	400		第 1 四半期	5005

データベース合計のダウンロード

「データベース合計のダウンロード」機能では、次元ごとに1つの列のみが作成され、結果セットにすべてのメンバーおよび対応するデータが含まれます。また、各次元の親メンバーを持つ列も結果に含まれます。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。このオプションを使用可能にすると、既存の結果セットはすべて削除されます。「ツール」、「オプション」、「プログラム・オプション」、「OLAP」の順に選択して、このオプションを使用可能にした場合、新しく作成した CubeQuery セクションでもこのオプションが使用可能になります。

注：「結果にダウンロード」機能を使用する場合、次元ごとの世代ごとに個々の列のみが結果セットに作成されます。また、最下位レベルのメンバー値もインポートされ、(元のクエリーに含まれる)各メンバーの祖先も追加列に表示されます。

例を次に示します。

- クエリー内のすべての Product メンバーは、1列にのみリストされ、世代に基づいて複数の列に選別されることはありません。また、この結果には、上位レベルの Product メンバーのデータ値も含まれます。
- 各次元には、クエリー内の各メンバーの親メンバーを示す追加列があります。
 - Year 次元メンバー Qtr1 や Qtr2 などでは、親メンバー(Year)が「Year Parent」列に表示されます。
 - Scenario 次元メンバー Actual および Budget では、親メンバー(Scenario)が「Scenario Parent」列に表示されます。
 - Product 次元メンバーでは、各親メンバーが「Product Parent」列に表示されます。

	Product Parent	Product	Scenario Parent	Scenario	Year Parent
1	100	100-10	Scenario	Actual	Year
2	100	100-20	Scenario	Actual	Year
3	100	100-30	Scenario	Actual	Year
4	Product	100	Scenario	Actual	Year
5	200	200-10	Scenario	Actual	Year
6	200	200-20	Scenario	Actual	Year
7	200	200-30	Scenario	Actual	Year
8	200	200-40	Scenario	Actual	Year
9	Product	200	Scenario	Actual	Year
10	100	100-10	Scenario	Actual	Year
11	100	100-20	Scenario	Actual	Year
12	100	100-30	Scenario	Actual	Year
13	Product	100	Scenario	Actual	Year
14	200	200-10	Scenario	Actual	Year
15	200	200-20	Scenario	Actual	Year
16	200	200-30	Scenario	Actual	Year
17	200	200-40	Scenario	Actual	Year
18	Product	200	Scenario	Actual	Year
19	100	100-10	Scenario	Actual	Year
20	100	100-20	Scenario	Actual	Year
21	100	100-30	Scenario	Actual	Year
22	Product	100	Scenario	Actual	Year
23	200	200-10	Scenario	Actual	Year

注： バージョン 9.3.1 の CubeQuery からダウンロードされたデータが結果に含まれる Interactive Reporting バージョン 11.1.1 のドキュメントを開くと、既存の結果データは表示されません。また、Interactive Reporting バージョン 11.1.1 で作成された Interactive Reporting ドキュメントで「結果にダウンロード」機能を使用する場合、結果セットは、バージョン 11.1.1 で作成された状態と同じではありません。

- ▶ データベース合計のダウンロードを使用可能にするには、次の手順に従います。
 - 1 クエリー、クエリー・オプションの順に選択します。
「クエリー・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 「グローバル」タブを選択します。
 - 3 データベース合計のダウンロードを使用可能にし、OK をクリックします。

リレーショナル集約

「データベース合計のダウンロード」を選択すると、データベース合計がある結果に応じてすべてのセクションで集約が使用不可になります。この機能により、結果が二重計算される可能性がある、ユーザーによる集約を実行できないようにします。オプション「リレーショナル集約を可能にする」を使用可能にすると、次のセクションで集約が使用可能になります。

- 結果セクションでの小計/総計
- ピボットでのデータ関数、合計、累計

- チャートでのデータ関数
 - レポートでのデータ関数、小計、列の合計の表示
- ▶ リレーショナル集約を設定するには、次の手順に従います。
- 1 クエリー・オプション」、「グローバルの順」を選択します。
 - 2 リレーショナル集約を可能にするを使用可能にし、OK をクリックします。

CubeQuery アイテムのフォーマット

フォーマットおよびショートカット・メニューの CubeQuery アイテムには、次を含む、一般的なフォーマットのオプションが使用可能です。

- 幅の自動調整 - デフォルトでは、列と行は、切り捨てられる場合があるデータ値の長さとは関係なく均等に配分されます。「幅の自動調整」機能を使用すると、列内の最大値のテキストに合うように列または行のサイズを横に自動的に調整できます。
 - 高さの自動調整 - デフォルトでは、列と行は、切り捨てられる場合があるデータ値の長さとは関係なく均等に配分されます。「高さの自動調整」機能を使用すると、列内の最大値のテキストに合うように列または行のサイズを縦に自動的に調整できます。
 - 数値のフォーマット - 数値、通貨値および日付の表示方法を全体的に変更したりや、新規カスタム・フォーマットを作成するためのオプション。[数値のフォーマット](#)を参照してください。
- ▶ 行または列の幅を自動調整するには、行または列ラベルを選択し、幅の自動調整を選択します。
- ▶ 行または列の高さを自動調整するには、行または列ラベルを選択し、高さの自動調整を選択します。

検索オプション

クエリー・オプションを使用して、グローバルおよびローカルの表示動作とドリル・オプションを定義します。「クエリー・オプション」ダイアログ・ボックスは、「グローバル」、「表示」および「ドリル」タブで構成されています。

- ▶ クエリー・オプションを表示するには、アクション、クエリー・オプションの順に選択します。

グローバル・オプション

「グローバル」タブを使用して、CubeQuery セクションにおけるグローバル表示動作を設定します。

デザイン・オプション	説明
クエリーの自動リフレッシュ	データ・レイアウトでアイテムが追加または除去されたときや、「クエリー・オプション」の「抑制」および「置換」オプションが変更されたときに、データベースに対してクエリーを自動的に実行します。自動リフレッシュが使用不可である場合、データ・レイアウトで変更を行う場合は常に「プロセス」をクリックし、データベースに対してクエリーを実行する必要があります。
カタログの表示オプション	説明
表示するメンバー数	<p>カタログ・リストとメンバー選択に表示する最大メンバー数を設定します。設定可能な数は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 無制限 ● 5 ● 10 ● 20 ● 50 ● 100 ● 250 ● 500 <p>デフォルト・メンバー数は 50 です。カタログ・リストとメンバー選択の両方において、「拡張...」ノードを選択すると、次のメンバー・セットに拡張されます。</p>
結果オプション	説明
データベース合計のダウンロード	データベース合計のダウンロードでは、次元ごとに 1 つの列のみが作成され、すべてのメンバーおよび対応するデータが結果セットに含まれます。また、各次元の親メンバーがある列も含まれます。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。
リレーショナル集約を可能にする	<p>次のセクションでリレーショナル集約を使用可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 結果セクションでの小計/総計 ● ピボットでのデータ関数、合計、累計 ● チャートでのデータ関数 ● レポートでのデータ関数、小計、列の合計の表示 <p>「データベース合計のダウンロード」オプション(前述を参照)を使用可能にすると、データベース合計がある結果にセットに応じてすべてのセクションで集約が使用不可になります。このオプションにより、結果が二重計算される可能性がある、ユー</p>

結果オプション	説明
	ザーによる集約を実行できないようにします。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。
集計情報を含む	このオプションを使用可能にすると、「結果にダウンロード」を実行したときにデータ・レイアウトからすべてのメンバーの集計タイプ/単項演算子情報が含まれます。このオプションを使用不可にすると、各メンバーの集計タイプ/単項演算子情報が除外されます。新規挿入された CubeQuery セクションでは、このオプションがデフォルトで使用不可になっています。

表示オプション

「表示」タブを使用して、行および列の抑制基準、別名情報、置換値、およびラベルのインデントを設定します。

非表示	説明
#Missing 行	値のないデータ行が戻されないようにします。行内に1つの値がある場合、この行は非表示になりません。デフォルトでは、このオプションは使用可能です。
ゼロ行	ゼロのみが含まれるデータ行が戻されないようにします。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。
共有メンバー	共有としてタグが付けられているメンバーが戻されないようにします。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。
#値のない列	データが含まれないデータ列が戻されないようにします。デフォルトでは、このオプションは使用可能です。
ゼロ列	ゼロのみが含まれるデータ列が戻されないようにします。デフォルトでは、このオプションは使用不可です。

別名	説明
別名の使用	データベース取得の実行時にデータベース・メンバー名ではなく別名を表示します。別名は、データベース・メンバーの代替名です。たいていは株式番号や製品コードであるデータベース名か、より記述的である別名を使用するデータを取得できます。 この設定を更新すると、「OLAP ツリーが新しい別名情報で自動的に更新され、OLAP クエリーが再処理されます。」というメッセージが表示されます。
別名テーブルの選択	別名に使用する別名テーブルを指定します。各データベースには、1つ以上の別名テーブルを含めることができます。

置換値	説明
#ラベルなし	欠落した値のラベルを指定します。たとえば、次のように入力します。 #Missing

置換値	説明
	デフォルトでは、ラベルなしの置換値は空白です。
#NoAccessLabel	ユーザーがセキュリティ・アクセス権を持たない Essbase キューブの値のラベルを指定します。たとえば、次のように入力します。 NoAccess
ゼロ・ラベル	ゼロ・ラベルのラベルを指定します。デフォルトでは、ゼロ・ラベルの置換値は空白です。

表 86 ラベルのインデント

オプション	説明
各世代のインデント単位	階層内の各世代がインデントされる文字数を選択します。たとえば、次のインデントを 1 から 3 に変更できます。このオプションは 0 から 25 まで選択できます。 インデント 1: 100-10 100-20 100-30 インデント 3: 100-10 100-20 100-30 100

ドリル・オプション

「ドリル」タブを使用して、CubeQuery でドリルダウンするときに表示されるデータの次のレベルを定義します。

「メンバーの保持」オプション・グループには、ドリル操作の保持特性をカスタマイズするアイテムがあります。

ドリル・レベル	説明
(「ドリルレベル」ドロップダウン)	「クエリー」メニューからドリルダウンするときや、メンバーをダブルクリックするときに表示されるデータの次のレベルを定義します。ここで行う選択は、ショートカット・メニューから行うドリルダウン選択によって上書きされます。たとえば、「最下位レベル」を選択すると、次元内の最下位レベルのメンバーのデータが取得されます。Year をドリルダウンすると、Jan、Feb、Mar、Apr、Ma、Ju、Jul、Aug、Sep、Oct、Nov および Dec が取得されます。 有効なドリルダウン・レベルは、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ● 次のレベル ● 最下位レベル ● すべての子孫 ● 兄弟

ドリル・レベル	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● 同一レベル ● 同世代
メンバーの保持期間	説明
選択を組み合わせ	選択したメンバーとともに、ドリルダウンの結果として取得した他のメンバーを保持します。たとえば、Qtr1 をドリルダウンする場合、Jan、Feb および Mar のほか、Qtr1 のデータが取得されます。このオプションが使用不可である場合、Jan、Feb および Mar のデータのみが取得され、Qtr1 は削除されます。デフォルトでは、このオプションは使用可能です。
選択したグループ内	選択が行われるメンバーのグループにのみ(ドリル)を適用します。デフォルトでは、この設定は使用不可です。この設定が有意義なのは、レポートの下位の行として、またはレポート全体にわたる列として 2 次元以上のデータが含まれる場合です。このタイプのレポートは、少なくとも 1 つのメンバーが異なる、ネストしたメンバーのグループによって特徴付けられる、非対称型だとみなされます。
選択されていないグループの除去	選択されたグループにない、すべての次元のグループを除去します。

CubeQuery からの Smart View の起動

CubeQuery セクションは Oracle(R) Hyperion(R) for Office にエクスポートできます。Smart View は複数の Oracle Hyperion 製品の同時使用を可能にする集中管理されたインタフェースで、Microsoft Office との統合を強化します。CubeQuery セクションをクエリー準備 HTML として Microsoft Excel にエクスポートできます。コンテンツをクエリー対応 HTML としてエクスポートすると、現在の CubeQuery セクションのページが HTML に変換され、Hyperion 固有のフォーマットが除去されます。これにより、Web アプリケーションから独立したデータ・ソースを再度クエリーできます。CubeQuery のエクスポートに関する詳細は、Oracle(R) Hyperion for Office, Fusion Edition, Release 11.1.1 を参照してください。

注： コンテンツをクエリー準備 HTML として Firefox ブラウザにエクスポートできません。

- ▶ Smart View を CubeQuery セクションから起動するには、アクション、Smart View の起動の順に選択します。

Smart View での CubeQuery の使用の詳細は、Oracle(R) Hyperion Oracle Hyperion Smart View for Office, Fusion Edition For Office, Fusion Edition, Release 11.1.1 を参照してください。

ダッシュボード

ダッシュボード・セクションは、データベースに対してクエリーを実行するための簡潔な押ボタン手法です。ダッシュボードは、クエリーを構築したりレポート・セクションを設計する時間のないユーザーに最適です。最新のデータのサムネイル・ビューを使用して、トレンドやインディケータの背後に何があるかを探ることができます。

ファイルを開くと、ゲージ、ライブ・チャート、埋込みレポート、ナビゲーション・ボタンおよびボックスなどがあるカスタマイズ済ダッシュボードが表示されます。これらを使用して、データを取得したりコントロールを移入できます。

各ボタン・セクション、アイテム選択またはナビゲーション・シーケンスを使用して、デザイナーによって作成されたスクリプトを呼び出すことができます。その裏で、Interactive Reporting により、ダッシュボードのスクリプト・コマンドがリフレッシュされます。これらのコマンドを使用して、データの取得、コントロールの移入、オブジェクトの非表示、別のセクションへの移動、レポート・パラメータの指定を行うことができます。

Embedded Section オブジェクト

結果、ピボット、チャート、テーブル、OLAP および CubeQuery セクションは、任意の Interactive Reporting ドキュメントに埋め込み、EPM Workspace で表示できます。データは、元のセクションで更新されると EPM Workspace でも更新されます。

埋込みブラウザまたはハイパーリンク・コントロールを介してダッシュボードに埋め込まれた Interactive Reporting ドキュメントの制限は、次のとおりです。

- オンライン・ヘルプは、ツールバーまたはダイアログ・ボックスを介して使用可能です。
- 数値のフォーマットのオプションは使用不可です。
- 「計算結果アイテム」の「参照」サブ・ダイアログ・ボックスは使用不可です。

埋込みセクションは、次の3つのモードで EPM Workspace に追加されます。

- 表示のみ - 静的レポートを表示できます(レポートは、ネイティブ・レポート・セクションに現在定義されているとおりにサムネイルとして表示されます)。ユーザーはレポートを処理できません。
- ハイパーリンク - サムネイルをクリックして元のセクションに移動できます。
- アクティブ - アクティブ・モードの埋込みセクション・オブジェクトを使用して、レポートを処理できます。ライブ・レポートを選択すると、ドリルダウ

ン、ピボットおよび他の分析などの特定のオブジェクト関数用として適切にアクティブ化されます。

表示のみの埋込みセクション・オブジェクト

表示のみモードの埋込みセクション・オブジェクトは、静的オブジェクトとして設計されています。つまり、ユーザーは、そのコンテンツの表示以外の処理はできません。埋込みセクション・オブジェクトの親セクションに対して実行されたアクションによってのみ、オブジェクトが更新されます。表示のみのオブジェクトのスクロール・バー動作は、オブジェクトに定義されているスクロール・バー設定によって決まります。

- 垂直および水平スクロール・バーは常に表示されます。これらのバーは、定義されているオブジェクトのコンテナ境界に隣接しますがその外側に表示され、オブジェクトを妨げません。
- 垂直および水平スクロール・バーが表示されるのは、オブジェクトに焦点が当てられている(ユーザーがオブジェクトを選択した)場合のみです。これらのスクロール・バーは、ユーザーが別のオブジェクトまたはツールバーを選択するまで表示され続けます。

アクティブな埋込みセクション・オブジェクト

アクティブな埋込みセクション・オブジェクトを使用して、埋込みセクション・オブジェクトを選択し、ダッシュボード以外のセクションにある他のオブジェクトの場合と同じように、選択したタスクを実行できます。この処理を行うには、ショートカット・メニューまたはオブジェクトに用意されている機能を使用するか、[Shift]キーを押しながら[F10]をクリックします。アクティブな埋込みセクション・オブジェクトに対してアクションを実行すると、親セクションによる埋込みセクション・オブジェクトに対するアクションの場合と同じように、親セクションが更新されます。

使用可能なオプションは、オブジェクトや、デザイナーによってオブジェクトに関連付けられているタスクによって異なります。次のリストに、埋込みセクション・オブジェクトごとのデフォルトのショートカット・メニュー・オプションを示します。

埋込み結果セクション・オブジェクトのショートカット・メニュー・オプション:

- 昇順ソート
- 降順ソート
- 列幅の自動調整

埋込みピボット・セクション・オブジェクトのショートカット・メニュー・オプション:

- 任意のドリル(親の結果/テーブルの使用可能な列をリストするサブメニューあり)
- ドリル・アップ
- アイテムにフォーカス
- アイテムを非表示
- アイテムの再表示

- すべてのアイテムの表示
- 列幅の自動調整
- スイニング
 - 横方向
 - 縦方向
 - 上
 - 下
 - 左
 - 右
 - 前(トップ・ラベルとサイド・ラベルのすべてのラベルを上から下および左から右の順にリストするサブメニューも起動)
 - 後(トップ・ラベルとサイド・ラベルのすべてのラベルを上から下および左から右の順にリストするサブメニューも起動)
- 昇順ソート
- 降順ソート
- ピボットのリフレッシュ

埋込みチャート・セクション・オブジェクトのショートカット・メニュー・オプション:

- 任意のドリル
- ドリル・アップ
- アイテムにフォーカス
- アイテムを非表示
- アイテムの再表示
- すべてのアイテムの表示
- グループ化(グループ解除)
- 負の値の表示
- ラベルの表示
- トレンド線の追加
- ソート
 - 昇順
 - 降順
- ズーム
 - ズーム・イン
 - ズーム・アウト
 - オリジナルに戻す
- チャートのリフレッシュ

埋込み OLAPQuery/CubeQuery セクション・オブジェクト(使用可能な速度メニュー・オプションのリストはコンテキストに依存しており、ラベル、メジャー、

ハンドルなどのレポートのどのコンポーネントが選択されているかによって異なります。このリストはまた、コンポーネントが選択されたときの状態によっても異なります。たとえば、アイテムが非表示であるか、ドリルダウン用として追加レベルを使用可能であるかなどです):

- 選択項目のみ保持
- 選択項目のみ削除
- ドリル
 - 下
 - 上
 - 次へ
 - 下
 - すべての子孫
 - 兄弟
 - 同一レベル
 - 同世代
- ドリル
 - 下
 - 上
 - 次へ
 - 下
 - すべての子孫
 - 兄弟
 - 同一レベル
 - 同世代
- 非表示
 - 欠落した行
 - 値のない列
 - ゼロ行
 - ゼロ列
- ドリルスルー
- 列の幅
- 行の高さ

表示のみのオブジェクトのスクロール・バー動作は、オブジェクトに定義されているスクロール・バー設定によって異なります。

- 垂直および水平スクロール・バーは常に表示されます。これらのバーは、定義されているオブジェクトのコンテナ境界に隣接しますがその外側に表示され、オブジェクトを妨げません。
- 垂直および水平スクロール・バーが表示されるのは、オブジェクトに焦点が当てられている(ユーザーがオブジェクトを選択した)場合のみです。これらの

スクロール・バーは、ユーザーが別のオブジェクトまたはツールバーを選択するまで表示され続けます。

レポート・セクション

レポート・セクションを使用すると、専門的に設計された高品質なレポートを表示できます。これらのレポートの対象は、複雑で重要な業務レポートから結果セット、チャートおよびピボット・テーブルまであらゆる分野にわたります。このセクションのレポートを使用すると、ビジネスの評価、コミュニケーションの拡大、意思決定プロセスの支援が容易になります。

ここにあるレポートは、データの表示および分析用としてほとんどのフィルタ処理されていないフレームワークを提供する動的なレポートです。データ関数を使用および適用することにより、さまざまなタイプの値を表示できます。

レポートのページング

デフォルトでは、ユーザーがブラウザでページを表示すると、Interactive Reportingにより、一定数の行がテーブルに表示されます。多くの場合、データはページに表示される垂直および水平行を超えます。ページング・オプションを表示するには、次の表を参照してください。

表 87 レポートのページング・オプション

ページング・オプション	説明
現在のページ	ツールチップにレポートの現在のページが表示されます。
1 ページ左へ	1 ページ左へ移動します。一番左のページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら左矢印を押します。
1 ページ上へ	1 ページ上へ移動します。最上位ページに移動するには、[Shift]キーを押しながら上矢印を押します。
1 ページ下へ	1 ビュー下へ移動します。最下位ページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら下矢印を押します。
1 ページ右へ	1 ページ右へ移動します。一番右のページへ移動するには、[Shift]キーを押しながら右矢印を押します。

この章の内容

Production Reporting ドキュメントの表示	349
HTML レポートの表示機能	350

Production Reporting ドキュメントの表示

- ▶ EPM Workspace で Production Reporting ドキュメントを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 EPM Workspace で Production Reporting ジョブを実行します。
 - 2 ジョブの出力をダブルクリックし、使用可能な出力フォーマットを表示します。

ジョブの実行時に選択した出力フォーマットに応じて、514 ページの「出力オプション」を参照してください。次の出力フォーマットの一部またはすべてから選択できます。

 - カンマ区切りファイル(CSV)
 - HP プリンタファイル(PCL)
 - HTML ファイル(HTML)
 - Interactive Reporting データ・ファイル(BQD)
 - ライン・プリンタ・ファイル(LP)
 - リスト・ファイル(LIS)
 - Microsoft Excel ファイル(XLS)
 - Microsoft Word ファイル(DOC)
 - Portable Document Format ファイル(PDF)
 - PostScript ファイル(PS)
 - PowerPoint ファイル(PPT)
 - SQR Production Reporting ドキュメント(SPF)
 - Production Reporting ログ・ファイル(LOG)
 - Production Reporting 出力ファイル(XML)
 - 3 目的の出力フォーマットを選択して、開くをクリックします。

HTML レポートの表示機能

Production Reporting ドキュメントを HTML フォーマットで表示する場合、ページ間の移動、特定のページへの移動、または目次を使用した参照が可能です。






ナビゲーション・バーの使用法

ナビゲーション・バーには、HTML レポート内のさまざまなページを移動したり、レポートを複数の出力フォーマットで表示するためのオプションがあります。

ナビゲーション・バーからのレポート情報のエクスポート

ナビゲーション・バーには、HTML レポートをさまざまなファイル・フォーマットで表示するためのアイコンがあります。ナビゲーション・バーに表示されるアイコンは、SQR Production Reporting Studio のプリファレンスの「ナビゲーション・バー」タブで定義します(詳細は、『Hyperion SQR Production Reporting Studio User's Guide』を参照)。表 88 に、ナビゲーション・バーのエクスポート・オプションを示します。

表 88 ナビゲーション・バーのエクスポート・オプション

アイコン	メッセージ	説明
	目次の表示	目次フレームを表示します。
	PDF ファイルの表示	新しいブラウザ・ウィンドウを開き、レポートを Portable Document Format(PDF)フォーマットで表示します。
	CSV フォーマットのデータをダウンロード	レポート・データをカンマ区切り(CSV)フォーマットでダウンロードし、新規ブラウザ・ウィンドウで開きます。
	BQD フォーマットのデータをダウンロード	レポート・データを Brio Query データ(BQD)フォーマットでダウンロードし、新規ブラウザ・ウィンドウで表示します。
	XML ファイルの表示	レポートを XML フォーマットで表示し、新規ブラウザ・ウィンドウで起動します。

注： HTML ナビゲーション・バーには、使用可能なすべての出力フォーマットのサブセットのみが表示されます。349 ページの「[Production Reporting ドキュメントの表示](#)」を参照してください。

ナビゲーション・バーを使用したページ間の移動

ナビゲーション・バーのページング・オプションを使用して、マルチページ HTML のページ間を移動できます。表 89 に、ナビゲーション・バーのナビゲーション・オプションを示します。

表 89 ナビゲーション・バーのナビゲーション・オプション

アイコン	メッセージ	説明
	最初のページへ	このレポートの先頭のページを現在のブラウザ・ウィンドウに表示します。
	前のページへ	このレポートの前のページを現在のブラウザ・ウィンドウに表示します。
	ページへ移動	移動するページ番号を入力します。
	次のページへ	このレポートの次のページを現在のブラウザ・ウィンドウに表示します。
	最後のページへ	このレポートの末尾のページを現在のブラウザ・ウィンドウに表示します。

目次を使用した移動

目次には、ドキュメント内の移動するための標準機能が用意されています。図 4 に、目次が表示された HTML レポートを示します。

図 4 HTML レポートに表示される目次

Page 2 of 22

Product Sales for Customer: Sam Johnson

Average Sale: **\$1,013.04**

Product Description	Date Ordered	Quantity	Dis
Big Wheel Bicy	11/01/00	5	
Binford 4000 P	06/19/02	10	
Binford Chain	06/19/02	5	
Ginger snaps	02/19/01	10	
Ginger snaps	05/19/02	12	
Hookup wire	05/19/02	15	
Hookup wire	02/19/01	15	
Hop scotch kit	05/19/02	8	
Light Bulbs	11/01/00	555	
Modeling clay	05/19/02	10	
Shawnee Cross	06/19/02	2	
Average Quantity:		<u>59</u>	
Number of Sales:		<u>11</u>	Average

Product Sales Chart
Quantity per product

Shawnee Cross Bow
Modeling clay

この章の内容

表示	354
表示を開く.....	355
表示を閉じる.....	357
Web Analysis ドキュメント	357
Web Analysis ドキュメントの作成.....	358
ドキュメントからドキュメントを作成する	360
クエリーの変更	361
メンバーの選択	363
メンバー選択の詳細設定.....	364
SAP BW 特徴の検索.....	368
データ・オブジェクトとデータソースのナビゲート.....	378
表示タイプの変更	385
ピンボード.....	387
SQL スプレッドシート.....	387
フリーフォーム・グリッド.....	388
表示のサイズ変更	388
分析ツールの管理	389
表示/非表示の制限.....	390
トラフィック・ライト.....	393
ソート.....	396
データの制限.....	397
上位/下位のみ取得.....	399
データのフォーマットの定義の編集.....	401
スプレッドシート・オプション	402
列のサイズ.....	403
ドキュメントのフォーマット	404
計算	424
EPM Workspace からの PDF での印刷.....	434
PDF で印刷.....	435
データベース接続	435
Analytic Services データベース接続.....	437
Financial Management	440
SAP BW	444
リレーショナル・データベース	446

カスタム Web Analysis ドキュメント	448
クエリーによるコンポーネントのリンク	450
次元のリンク	450
データの編集モード	451
データの値の編集	451
Excel とのデータのコピー、切取り、貼付け	451
データの編集モードに関するヒント	452

表示

Web Analysis ドキュメントのプレイリストであるプレゼンテーションを使用して、ドキュメントの分類、整理、並べ替え、配布、確認などができます。プレゼンテーションは、セットにコピーされたドキュメントではなく、リポジトリ・ドキュメントを参照するポインタのリストです。

プレゼンテーションのプロパティは、表示とコンテンツを制御します。ファイルのプロパティは、識別、アクセスおよびセキュリティをコントロールします。

プレゼンテーションのアクセス権とファイル権限

プレゼンテーションのアクセス権とファイル権限は無関係に機能するため、プレゼンテーション内のドキュメントにアクセスできないユーザーに対してそのプレゼンテーションが配布される場合があります。

ユーザーがリスト・ファイル権限を持たないドキュメントはリストされません。ユーザーがファイルの読取り権限を持たないドキュメントを開くことはできません。

ドキュメントへのアクセスを阻止するファイルのアクセス権の場合、直接のアクセスであるかプレゼンテーションを介したアクセスであるかにかかわらず、すべてのアクセスが阻止されます。アクセスを阻止するプレゼンテーションのアクセス権の場合、ドキュメントに対する直接のアクセスは阻止されません。

ユーザーとグループの権限

ユーザーは、ユーザー自身に割り当てられているプレゼンテーションか、所属するグループに割り当てられているプレゼンテーションにアクセスできます。

プレゼンテーションとプレゼンテーション内のドキュメントをグループに割り当てる必要があります。これらを割り当てない場合、(個別アクセス権が付与されないかぎり)グループ・メンバーはプレゼンテーションにはアクセスできますが、プレゼンテーション内のドキュメントにはアクセスできなくなります。

権限が競合するリスクを軽減するには、プレゼンテーションとそのドキュメントを同じフォルダ内に保管します。可能であれば常に、ドキュメントとプレゼンテーションをグループに配布します。個々のファイルとユーザーの権限を管理するよりも、1つのフォルダ内のすべてのファイルや1つのグループ内のすべてのユーザーに対してアクセス権を設定する方が簡単です。

ドキュメントとフォルダの参照

表示には、2種類の参照を追加できます。

- ドキュメント - ドキュメントを表示に直接追加すると、一意のドキュメント識別子への参照がプレゼンテーション内に作成されます。ドキュメントが移動されるたびに、プレゼンテーションではドキュメントを特定して提示できません。
- フォルダ - フォルダを表示に追加すると、フォルダ参照がプレゼンテーションのコンテンツに直接追加されますが、フォルダ内のドキュメントは動的に参照されず、フォルダに追加またはフォルダから除去されたドキュメントは自動的に、このフォルダを参照するプレゼンテーションに追加またはプレゼンテーションから除去されます。

注： 子孫フォルダまたはプレゼンテーションをターゲット・プレゼンテーションに動的に含めることはできません。フォルダをプレゼンテーションに追加すると、選択したフォルダ内のドキュメントのみがターゲット・プレゼンテーションに動的に即時追加されます。

利点と検討事項

フォルダ参照を使用すると、プレゼンテーションのメンテナンスが簡単になります。これは、Web Analysis により、プレゼンテーションのプレイリストが参照先のフォルダ・コンテンツと同期化されるためです。また、プレゼンテーションを編集せずにフォルダ・コンテンツを変更することもできます。他のユーザーが不注意にコンテンツをフォルダ、さらにはプレゼンテーションに追加してしまわないように、フォルダへの書込みアクセス権を制限する必要があります。

ドキュメント参照は柔軟性が低く、メンテナンスがより必要であるため、プレゼンテーションのコンテンツは固定されています。

参照の調整

表示を開くと、Web Analysis によって最初にドキュメントの参照が照合され、次にフォルダの参照が照合されます。

ファイルがコピーされ、元のファイルが削除されると、Web Analysis は、一意のファイル識別子を特定できなくなります。この場合、Web Analysis は、同じ場所で正しい名前のファイルを検索します。識別子や場所を使用しても参照が見つからない場合、参照はプレゼンテーション・ウィザードで赤で表示されます。

表示を開く

次のいずれかの方法でプレゼンテーションを開くことができます。

- 「ファイル」、「開く」、「ドキュメント」または「開く」ツールバー・ボタンを選択し、「開く」ダイアログ・ボックスからプレゼンテーション・ファイルを選択します。
- ドキュメントを右クリックして、「開く形式」を選択します。
 - 「HTML」をクリックし、ドキュメントを HTML エディタで開きます。

- 「Web Analysis Studio」をクリックし、ドキュメントを Web Analysis Studio で開きます。
 - 表示ペインの「ツール」メニューまたは「エクスプローラ」ツールバー・ボタンを使用してエクスプローラ・モジュールにアクセスし、リポジトリの場所に移動してプレゼンテーションを選択します。
- ▶ 「開く」ダイアログ・ボックスを使用してプレゼンテーションを開くには、次の手順に従います。
- 1 次のいずれかのアクションを行います。
 - 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
 - 「開く」ボタンを選択します。

「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスには、「検索」で指定した現在のフォルダ・コンテンツがリストされます。
 - ドキュメントを右クリックして、「開く形式」を選択します。
 - 「HTML」をクリックし、ドキュメントを HTML エディタで開きます。
 - 「Web Analysis Studio」をクリックし、ドキュメントを Web Analysis Studio で開きます。
 - 2 オプション: タイプから、すべてのファイル」または「Hyperion」を選択し、「プレゼンテーション」を選択します。
 - 3 プレゼンテーションに移動します。
 - 「検索」で、ドロップダウン・リストから場所を選択します。
 - 「1 つレベルを上げる」ボタンをクリックすると、選択フレームに親フォルダのコンテンツが表示されます。

移動に伴い、「ファイルのタイプ」リストで示されたファイルとフォルダの一覧が選択フレームに表示されます。
 - 4 プレゼンテーションを選択します。
 - 5 OK をクリックします。

最初のプレゼンテーション・ドキュメントがログオンを必要とするデータベース接続を行う場合は、「データベースへのログイン」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 6 データベースへのログイン」ダイアログで求められた場合、有効なユーザー名とパスワードを入力し、ユーザー ID とパスワードの保存を選択し、OK をクリックします。

選択したプレゼンテーション(および他の選択)がコンテンツ・タブとしてコンテンツ領域の下に表示されます。最初のプレゼンテーション・ドキュメントが開き、現在のドキュメントとして表示されます。

プレゼンテーションを開く際の注意

- 「開く」ダイアログ・ボックスで、ドキュメント、プレゼンテーション、またはこれらの両方を選択できます。選択フレームにリストされる順序で複数のファイルが開きます。プレゼンテーション内のドキュメントの順序は、開かれている他のファイルのコンテキストに従います。

- 複数のプレゼンテーションに1つのドキュメントの複数のインスタンスが含まれる場合、最初のインスタンスのみが開きます。この場合、ドキュメントが開かれていないか、このドキュメントが間違っただ順序で開かれているように見える場合があります。一度に開くことができる(および変更できる)ドキュメントのインスタンスは1つのみです。

表示を閉じる

変更されていないファイルは閉じます。変更されたりリポジトリのファイルでは変更を保存するよう求められます。以前にリポジトリに保存されたことがないファイルの場合、「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- ▶ 開いているすべてのドキュメントを閉じるには、「ファイル」、「すべて閉じる」を選択します。

Web Analysis ドキュメント

Web Analysis ドキュメントは、データ値によってデータ・ソースから戻されたデータ・オブジェクトに表示されます。1つのドキュメントに複数のデータ・オブジェクトが含まれる場合があります、データ・オブジェクトには表示タイプがあります。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード
- SQL スプレッドシート
- フリー・フォーム・グリッド

すべての表示タイプを確認できますが、スプレッドシートとチャートは新規ドキュメント・ウィザードを使用するのみ作成できます。

ドキュメントを作成するには、以下を指定する必要があります。

- データソース - データ値を提供します。
- データ・オブジェクト - これらの値を表示します。
- クエリー - データソースからデータ値を取得し、これをデータベース・オブジェクトに戻します。

プロパティにより、これらの各要素をカスタマイズします。

データベース接続ウィザードでは、データソースのタイプ、ログイン認証情報、データベース・アプリケーション、次元のフォーマット、およびドリルスルー・プロパティを指定します。

各データ・オブジェクトは、特定のフォーマット・オプションを持つ表示フォーマットに設定できます。

クエリーには、特定の次元のメンバーの情報を要求する明示的なクエリーと、一式の条件を満たす任意の次元のメンバーに関する情報を要求する動的なクエリーがあります。

ドキュメントの作成には、次の2つのオプションがあります。

- 新規ドキュメント・ウィザードを使用する
- Web Analysis ドキュメントを変更し、新規名で保存するか、新規の場所に保存する

Web Analysis ドキュメントの作成

Web Analysis のスプレッドシートとチャートの作成はウィザードによってガイドされます。このウィザードには、データベース接続が必要です。このデータベース接続の場所を把握していることと、これを使用する権限があることが必要です。

- ▶ ドキュメントを作成するには、新規ドキュメント・ウィザードで次の操作を実行します。

- 1 「ファイル」、「新規」、「ドキュメント」を選択するか、ツールバーの新規ドキュメントボタンを選択します。

インストールされているモジュールに応じて、作成するドキュメントの種類を指定するよう求められる場合があります。

- 2 オプション: Web Analysis ドキュメントを作成するには、Web Analysis ドキュメントを作成を選択し、次へをクリックします。

プロンプトが表示されない場合は、次の手順に進みます。

コンテンツ領域に「データ・ソースを選択」が表示されます。リポジトリにはドキュメント・データではなくドキュメント定義が保管されているため、データ・ソースとデータ・ソースに接続するためのパラメータを指定する必要があります。

- 3 次のいずれかを実行します。

- テキスト領域で、ルート・ディレクトリ (/) からデータベース接続へのパスをファイル名を含めて入力します。
- 「参照」をクリックして、「開く」ダイアログ・ボックスからデータベース接続ファイルを選択し、「OK」をクリックします。

- 4 オプション: アクティブな POV の使用を選択し、定義済の視点(POV)の定義からクエリーを移入し、次へをクリックします。

この手順を実行すると、1回のクリックで定義済の視点の定義からメンバーをロードし、次元とメンバーを挿入できます。視点の定義は多数定義できます。ただし、「アクティブな POV の使用」では、ユーザー・プリファレンス内の定義セットのみが現在の視点として適用されます。

- 5 オプション: 1つの次元を自動的に選択を選択し、単純なスプレッドシートを移入して表示し、終了をクリックします。

この手順を実行すると、残りの手順がスキップされ、時間およびメジャー次元の最上位集約メンバーを使用してスプレッドシートの行と列の軸が移入されます(新規ドキュメント・ウィザードを使用してスプレッドシートを表示する最も簡単なメソッドです)。

「1つの次元を自動的に選択」と「アクティブな POV の使用」を選択して「終了」をクリックすると、残りの手順がスキップされ、現在の視点の定義を使用して単純なスプレッドシートが表示されます。

- 6 オプション: ウィザードのかわりにキューブ・ナビゲータを使用を選択し、次へをクリックし、「レイアウトの選択」ダイアログ・ボックスを表示します。
 - レイアウトを選択し、「OK」をクリックします。

「キューブ・ナビゲータ」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 適切な次元とメンバーを選択し、「OK」を選択し、レポートを表示します。
- 7 次へをクリックします。

「行の次元の選択」で、行軸で使用する次元を選択する必要があります。少なくとも1つの行軸の次元と1つの列軸の次元が必要です。
- 8 次元名をフィルタから行に移動するには、名前を選択し、右矢印をクリックします。

次元名が行フレームに表示されます。以前に視点の定義が適用されていない場合、次元の最上位集約メンバーが使用されます。視点の定義が適用されている場合、そのメンバーが使用されます。
- 9 オプション: メンバーを選択するには、行で、次元名をダブルクリックします。

「次元ブラウザ」ダイアログ・ボックスが表示されます。次元は、参照フレーム内でノード・ツリーとして表示されます。次のメソッドを使用して、参照フレームからメンバーを選択し、選択フレームに移動します。

 - 階層を展開または縮小するには、プラス記号(+)またはマイナス記号(-)ノードをクリックするか、次元名をダブルクリックします。
 - メンバーを選択するには、次元名を右クリックし、「メンバーの選択」を選択します。

メンバー名は「選択」リストに表示されます。
 - メンバーを動的に選択するには、メンバー名を右クリックし、メンバー選択の詳細設定方法を選択します。
 - データベース接続プロパティで設定されたデフォルト・ラベル、ID ラベル、または別名テーブルの説明に各次元のラベル・モードを設定します。

「次元ブラウザ」ダイアログ・ボックスの詳細は、[363 ページ](#)の「[メンバーの選択](#)」を参照してください。
- 10 行軸の次元を指定し、メンバーを選択した後、次へをクリックします。
- 11 行軸の定義に使用したメソッドで、フィルタから列に次元名を移動します。
- 12 オプション: メンバーを選択するには、列で、次元名をダブルクリックします。
- 13 次元ブラウザのメソッドを使用して、メンバーを選択し、オプションを設定し、OK をクリックします。
- 14 次へをクリックします。

手順 5 では、ページ軸の次元を選択します。ドキュメントの交差はメンバー選択との相対ですが、行と列の交差をページ・メンバー別に整理できます。
- 15 オプション: 行と列の軸の定義に使用したメソッドで、フィルタからページに次元名を移動します。

16 オプション: 次元ブラウザのメソッドを使用して、ページ・メンバーを選択します。

17 次へをクリックします。

手順6では、フィルタ軸のメンバーを選択します。

すべての次元は、次元が割り当てられている軸とは関係なく、すべてのスプレッドシート交差に関係します。交差の調整は、行、列およびページ軸によって定義されます。交差点に表示されるデータ値は、メンバー選択によって決定されます。

すべてのデータ・オブジェクトの交点は、選択されたフィルタ・メンバーとの相対になり、フィルタ・メンバーによって、交点、データ値、そして結果的にデータ・オブジェクト分析の焦点が決まります。

フィルタ軸の次元はデフォルトでは、データ・ソース・アウトラインに定義されている最上位の集約メンバーによって表されます。視点の定義が適用されている場合、そのメンバー選択が使用されます。フィルタのメンバーを選択する場合、すべての交差は選択との相対になります。

18 オプション: フィルタ軸の次元の次元ブラウザを表示するには、次元名をダブルクリックします。

19 オプション: 次元ブラウザのメソッドを使用して、フィルタ軸のメンバーを選択し、OKをクリックします。

20 次へをクリックします。

21 オプション: レイアウト・オプションを選択します。

チャート - 結果セットをチャートのデータ・オブジェクトとして表示します。

スプレッドシート - 結果セットをスプレッドシートのデータ・オブジェクトとして表示します。

縦並び - 結果セットを上下に重ねたチャートのデータ・オブジェクトとスプレッドシートのデータ・オブジェクトの両方で表示します。

横並び - 結果セットを左右に並べたチャートのデータ・オブジェクトとスプレッドシートのデータ・オブジェクトの両方で表示します。

縦並びレイアウトと横並びレイアウトの表示タイプは変更できます。たとえば、スプレッドシートを別のチャートのタイプに変換できます。ただし、オブジェクトはリンクされ、コンテキストは調整されて維持されます。

22 終了をクリックして、クエリーをデータ・ソースに送ります。

データ・ソースについてクエリーが実行されます。戻される結果セットは、Web Analysis ドキュメント上で1つ以上のデータ・オブジェクトとして表示されます。

ドキュメントからドキュメントを作成する

ドキュメントを新しい名前で作成するか新しい場所に保存する場合、既存のドキュメントに定義されているデータ・ソース、データ・オブジェクトおよびクエリーを使用することにより、ドキュメントを活用して時間と労力を節約します。ドキュメントは、新しい名前または場所で保存する前に変更できます。

▶ ドキュメントからドキュメントを作成するには、次の手順に従います。

1 次のいずれかを実行します。

- 「ファイル」の「開く」を選択し、「ドキュメント」を選択します。
- 「開く」ボタンを選択します。
「開く」ダイアログ・ボックスが表示されます。選択フレームには、「検索」で指定した現在のフォルダのコンテンツがリストされます。
- ドキュメントを右クリックして、「開く形式」を選択します。
 - 「HTML」をクリックし、ドキュメントを HTML エディタで開きます。
 - 「Web Analysis Studio」をクリックし、ドキュメントを Web Analysis Studio で開きます。

2 オプション: タイプから、すべてのファイルまたは「Hyperion」、「Web Analysis ドキュメント」を選択します。

3 コピーするドキュメントへ移動します。

4 ドキュメントを選択して、開くをクリックします。

ドキュメントがログオンを必要とするデータベース接続を行う場合は、「データベースのログイン」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5 データベースへのログインダイアログで求められた場合、有効なユーザー名とパスワードを入力し、ユーザー ID とパスワードの保存を選択し、OK をクリックします。

選択したドキュメントが表示されます。

6 ドキュメントを変更します。

7 次のいずれかを実行します。

- 「ファイル」を選択し、「名前を付けて保存」を選択します。
- ツールバーの「名前を付けて保存」ボタンをクリックします。
「名前を付けて保存」ダイアログ・ボックスが表示されます。選択フレームには、「検索」で指定した現在のフォルダのコンテンツがリストされます。

8 変更したドキュメントを保存するフォルダに移動します。

9 オプション: ファイルを保存する場所に移動した後、名前に新しいファイル名を入力します。

10 保存をクリックします。

変更されたドキュメントが指定された場所に指定された名前で保存されます。

クエリーの変更

データ・レイアウトは、クエリー編集インタフェースです。データ・レイアウトには、データベース接続によって戻された次元が、4つの軸上で配列されて表示されます。

- 行
- 列
- ページ

- フィルタ

データベース接続により、3つのタイプの次元が戻されます。

表 90 次元タイプ

アイコン	次元タイプ
	標準
	属性
	属性の計算

すべてのクエリーにおいて、少なくとも1つの次元が行軸に割り当てられ、1つの次元が列軸に割り当てられている必要があります。この場合、複数の次元が1つの軸でネストしている場合があります。行と列の次元を整理するには、次元をページ軸に割り当てます。行、列およびページに割り当てられていない次元は、フィルタ軸にあります。

割り当てられている軸とは関係なく、すべての次元は、データ・オブジェクトによって表示されるすべての交差に関係しています。データ・レイアウトを使用して次元を調整することにより、詳細のレベルを指定し、クエリー・オプションを設定します。

注： すべてのデータ・オブジェクトは最初はスプレッドシートです。チャートとピンボードは、さまざまな比喻を使用してデータを表示するにもかかわらず、4つの軸によって整理されます。

- 現在のドキュメントの現在のデータ・オブジェクトの次元レイアウトとクエリーを再定義するには、ツールバーの「データ・レイアウト」ボタンをクリックします。
- 軸間で次元を移動するには、次元を別の軸にドラッグします。
- メンバーを選択するには、次元名をダブルクリックします。
次元ブラウザが表示されます。363 ページの「メンバーの選択」を参照してください。

フィルタ次元の変更

すべてのデータ・オブジェクト・インターセクションは、選択されたフィルタ・メンバーとの相対になり、フィルタ・メンバーによって、交点、データ値、そして結果的に分析の焦点が決まります。

フィルタ軸の次元はデフォルトでは、データ・ソース・アウトラインに定義されている最上位の集約メンバーによって表されます。最上位の集約以外のメンバーに分析の焦点を当てるには、フィルタのメンバーを選択します。

フィルタのメンバーを選択しても、次元またはページは再編成されませんが、より特定された交点に焦点を置いて分析できます。

メンバーの選択

次元ブラウザは、メンバー選択とデータベース・クエリーの絞込みするためのインタフェースであり、新規ドキュメント・ウィザード、「キューブ・ナビゲータ」ダイアログ・ボックス、情報パネルなどと組み合わせて使用することも、それ自体のみで使用することもできます。

次元ブラウザでは、次元は参照フレーム内のノード・ツリーとして表示されます。参照フレームから次元メンバーを選択し、選択フレームに移動する必要があります。

メンバーは、多次元階層内の家系図に基づくか、データソース特有のオプション別、または定義済のリストから個々に選択します。

- ▶ 次の方法で、次元ブラウザにアクセスできます。
 - データ・オブジェクトのメンバーのラベルを右クリックして、「参照」を選択します。
 - 表示ペインの「情報」パネルで、次元名を選択します。
 - 「データ・レイアウト」ボタンをクリックして、次元名をダブルクリックします。
 - 新規ドキュメント・ウィザードで、次元名をダブルクリックします。
- ▶ 次元ブラウザで階層を展開または縮小するには、プラス記号(+)またはマイナス記号(-)ノードをクリックするか、次元名をダブルクリックします。
- ▶ メンバーを選択するには、メンバーを右クリックし、「メンバーの選択」を選択します。

メンバー名が選択リストに表示されます。ノード・ツリーの一番上でデータベース接続名を選択することはできません。
- ▶ 次元ブラウザでメンバーを動的に選択するには、メンバーを右クリックし、リストからメンバー選択の詳細設定メソッドを選択します。

364 ページの「メンバー選択の詳細設定」を参照してください。
- ▶ 「選択」リストからメンバーを除去するには、次のアクションを実行します。
 - 「参照」または「選択」リストでメンバーを右クリックし、選択した選択メソッドを選択解除します。
 - 「選択」リストからメンバーを選択し、「削除」をクリックします。

- ▶ 「選択」リストのすべてのメンバーを除去するには、「すべて削除」をクリックします。
- ▶ 次元ブラウザを閉じる前に、メンバー選択の詳細設定によって戻された次元のメンバーをプレビューするには、「プレビュー」をクリックします。
- ▶ 次元のラベルのモードを設定するには、「次元のラベル」オプションを選択します。
 - デフォルトの使用
 - 説明 - 現在の別名テーブル
 - ID - 一意の ID ラベル
 - 両方 - ID ラベルと説明(Financial Management で使用)








説明によって表示されるラベルは、アクティブ・ユーザーのデータベースのプリファレンスで指定された別名テーブルから抽出されます。別名テーブルは、アクティブなプリファレンスのユーザー ID またはグループ ID ごとに設定できます。





次元ブラウザを使用して、特定の次元に使用するラベルのモードを指定できます。

メンバー選択の詳細設定

大きなメンバー・セットを含む次元では、ユーザーが「次元ブラウザ」右クリック・メニューを使用することにより選択項目を定義できます。メンバー名を右クリックすると、同族の関係およびデータ・ソース固有のオプションによる選択が可能になります。

表 91 「次元ブラウザ」右クリック・メニュー

アイコン	コマンド	説明
	メンバーの選択	現在のメンバーを選択します。
	子も選択	現在のメンバーとその子を選択します。
	子孫も選択	現在のメンバーとその子孫を選択します。
	親の選択	現在のメンバーの親を選択します。
	祖先も選択	現在のメンバーとその祖先を選択します。
	兄弟も選択	現在のメンバーとそのレベルのメンバー、およびその親のメンバーを選択します。
	次元の最下位の選択	最下位レベルのメンバーを選択します。
	次元の最上位の選択	最上位の祖先を選択します。

アイコン	コマンド	説明
	レベルも選択	現在のメンバーとそのレベルのメンバーを選択します。
	世代も選択	現在のメンバーとその世代のメンバーを選択します。
	前の項目も選択	一般的に現在のレベルで前のメンバーを選択するために使用する「前へ」ダイアログ・ボックスを表示します。
	サブセットも選択	Analytic Services メンバー・サブセットを選択するための「サブセット」ダイアログ・ボックスを表示します。
アイコンなし	代替変数	次元の選択として代替変数を設定するために使用する「代替変数」ダイアログ・ボックスを表示します。
アイコンなし	ユーザー定義フィールド	データ・ソースとして Financial Management が使用されている場合に、ユーザー定義フィールド・ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、3つの事前定義の属性値のいずれかを指定し、指定の属性値を備えるメンバーを選択し、AND および OR により複合的な選択ステートメントを構成できます。
アイコンなし	動的時系列	Analytic Services の「動的時系列」メニューを表示します (例: 「履歴初めからの累計」、「四半期累計」)。
アイコンなし	検索	「検索」ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、大きな次元からメンバーを検索するために検索条件を使用します (検索されたメンバーは選択リストに追加されます)。
アイコンなし	ツリーの検索	大きな次元からメンバーを検索します。次元の階層が展開されますが、「選択項目」リストにメンバーは追加されません。

データ・ソース別のメンバー選択の詳細設定

異なるデータ・ソースで異なるメンバー選択メソッドがサポートされます。

表 92 データ・ソース別のメンバー選択の詳細設定

データ・ソース	メンバー選択の詳細設定のメソッド
Analytic Services	<ul style="list-style-type: none"> ● 子も選択 ● 子孫も選択 ● 親の選択 ● 祖先も選択 ● 兄弟も選択 ● 次元の最下位の選択 ● 次元の最上位の選択 ● レベルも選択 ● 世代も選択 ● 前の項目も選択 ● サブセットの選択 ● 代替変数 ● 動的時系列 ● 検索 ● ツリーの検索
SAP BW	<ul style="list-style-type: none"> ● すべてのメンバー ● 次元の最上位の選択 ● 次元の最下位の選択 ● 子孫も選択 ● 親の選択 ● 祖先も選択 ● 子も選択 ● 兄弟も選択 ● レベルも選択 ● レベル選択 ● 前の項目も選択 ● 次の項目も選択 ● 動的時系列 ● 上位/下位の選択 ● メンバーのフィルタのプロパティ ● ツリーの検索
Financial Management	<ul style="list-style-type: none"> ● すべてのメンバー ● 次元の最上位の選択 ● 次元の最下位の選択 ● 子孫も選択 ● メンバー・リスト ● 子も選択 ● ユーザー定義フィールド ● 検索 ● ツリーの検索
JDBC リレーショナル・データ・ソース	<ul style="list-style-type: none"> ● 子も選択 ● 子孫も選択

データ・ソース	メンバー選択の詳細設定のメソッド
	<ul style="list-style-type: none"> ● 親の選択 ● 祖先も選択 ● 兄弟も選択 ● 次元の最下位の選択 ● 次元の最上位の選択 ● 世代も選択 ● ツリーの検索

リレーショナル・データ・ソースのメンバー選択の詳細設定では、リレーショナル階層の影響を考慮します。最上位の祖先を選択した場合、集約ではなくデフォルト・メンバーが使用されることがあります。たとえば、リレーショナル階層が「子も選択」および「子孫も選択」に一致することがあります。

メンバーの検索

Analytic Services および Financial Management のユーザーは検索条件を使用することにより大きな次元でメンバーを検索できます。検索は、次元ブラウザ(クエリーの作成時)またはデータ・オブジェクトの右クリック・メニュー(ドキュメントの分析時)から実行できます。

- ▶ 次元ブラウザで Analytic Services または Financial Management のメンバーを検索するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックします。
 - 2 検索を選択します。
 - 3 テキスト・ボックスに検索条件を入力します。

表 93 メンバーの検索条件

検索条件	コントロール	説明
メンバー		テキスト文字列により検索します。
モード	ID	メンバー名で検索します。
	説明	メンバーの別名で検索します。
	両方	ID および説明により検索します(Financial Management データ・ソースの場合のみ)。
	ツリーの検索	「ツリーの展開」を選択した場合、検索されたメンバーが「選択」リストに追加され、参照ノード・ツリーが展開されて階層内のメンバーが表示されます(最初の検索条件インスタンスのみが選択されます)。

検索条件	コントロール	説明
		「展開ツリー」を選択していない場合は、検索されたメンバーが「選択」リストに追加されます。
範囲		次元全体を検索するか、または右クリックしたメンバーから下位の階層を検索します。
オプション	全体	メンバー名全体または別名を検索します。
	部分文字列	指定した文字列がメンバー名に含まれるメンバーを検索します。
	先頭	指定した文字列が先頭にあるメンバーを検索します。
	末尾	指定した文字列が末尾にあるメンバーを検索します。

4 OK をクリックします。

▶ Web Analysis データ・オブジェクト内で Analytic Services のメンバーを検索するには、次の手順に従います。

- 1 メンバーを右クリックし、右クリック・メニューから検索を選択します。
- 2 テキスト・ボックスに検索条件を入力して、OK をクリックします。

注： 検索のパフォーマンスは次元の階層のサイズと複雑性に直接関係します。

SAP BW 特徴の検索

SAP BW ユーザーは、検索条件を使用することにより大きな次元階層で特徴を検索できます。検索は、クエリーの構成中に次元ブラウザ内でのみ実行できます。

▶ 次元ブラウザで SAP BW メンバーを検索するには、次の手順に従います。

- 1 メンバーを右クリックします。
- 2 検索を選択します。
- 3 テキスト・ボックスに検索条件を入力します。

表 94 SAP BW の検索条件

検索条件	コントロール	説明
モード	ID	メンバー・テクニカル名で検索します。
	説明	メンバーの別名で検索します。

検索条件	コントロール	説明
検索条件		オペランドを使用して検索します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 等しい ● >= ● <= ● > ● < ● 範囲の定義 ● パターンを含む
		テキスト文字列により検索します。
実行		検索関数を実行します。
フィルタしたメンバー		検索結果セットを表示します。
	追加	「フィルタしたメンバー」リストから「選択したメンバー」リストに選択したメンバーを移動します。
	削除	「選択したメンバー」リストから「フィルタしたメンバー」リストに選択したメンバーを移動します。
選択したメンバー		検索結果セットのメンバーを表示します。
	すべて追加	フィルタされたすべてのメンバーを「選択したメンバー」リストに移動します。
	すべて削除	選択されたすべてのメンバーを「フィルタしたメンバー」リストに移動します。
OK		「Search Selected Members」リストを次元ブラウザの「選択項目」リストに追加します。

- 4 実行をクリックして、「モード」と「検索条件」に指定されている条件を使用して検索関数を実行します。
検索結果セットが「フィルタしたメンバー」リストに表示されます。
- 5 フィルタしたメンバーリストからメンバーを選択し、「追加」をクリックし、メンバーを選択したメンバーリストに追加します。
「OK」をクリックすると、「選択したメンバー」リストのメンバーのみが「次元ブラウザ選択」リストに追加されます。
- 6 OK をクリックします。

メンバーの検索

大きい次元階層または複合的な次元階層では、不明なメンバーの検索文字列を作成するのではなく、他のメンバーを選択するために既知のメンバーを検索できます。

▶ 次元の階層内で既知のメンバーを検索するには、次の手順に従います。

- 1 次元ブラウザで選択からメンバーを右クリックします。
- 2 ツリーの検索を選択します。

参照フレームで、次元階層が展開され、選択したメンバーの最初のインスタンスが強調表示されます。これで、選択したメンバーに対する関係に基づいて、メンバーを選択できます。

Analytic Services サブセットを使用したメンバーの選択

Analytic Services のユーザーは、次元のメンバーのサブセットを条件により選択するルールを定義できます。こうしたルールは、次のアイテムから成ります。

- UDA - ユーザー定義属性
- 世代 - 次元階層内の世代
- レベル - 次元階層内のレベル
- 式 - ワイルドカード文字のパターン
- 属性次元 - データベースで定義された属性
- 条件 - サブセット・メンバー選択の詳細設定の条件

最大 50 のサブセット条件を使用して、選択されたすべてのメンバーの子孫を検索できます。サブセット条件は、リポジトリ内のドキュメントにより保存されます。フィルタ・パネルには長い選択リストを表示できないので、「フィルタ」で作成されたサブセット・メンバーの選択結果が説明とともに要約されます。

▶ メンバーのサブセットを選択する基準を定義するには、次の手順に従います。

- 1 次元ブラウザでメンバーを右クリックします。
- 2 サブセットの選択を選択します。

「サブセット」ダイアログ・ボックスが表示されます。上部には、ルールが適用される次元メンバーが示されます。「個別の選択ルール」コントロールを使用して、ドロップダウン・リストからコンポーネントを選択することによりルールを作成します。
- 3 タイプ(UDA、世代、レベル、式または属性)を選択します。
- 4 オペランド(等しい(=)または否定(等しくない))を選択します。
- 5 最後のリストから値を選択します。
- 6 「追加」をクリックします。

ルールを使用するには、ルールを「すべてのサブセット定義」に追加する必要があります。複数のルールを定義に追加し、詳細設定ボタンにより各ルールを接続することにより、複合ルールおよび条件付きルールを定義できます。

表 95 サブセット選択のオプション

オプション	サブメニュー	説明
追加		「すべてのサブセット定義」にルールを追加します
更新		別のルールによりルールを置換します
検証		「すべてのサブセット定義」の括弧の構文を確認します
削除		「すべてのサブセット定義」からルールを削除します
すべて削除		「すべてのサブセット定義」からすべてのルールを削除します
接続	および	「および」を末尾に挿入します(複数のルールを定義に追加した場合に、デフォルトでは「および」が使用されます)
	または	「または」を末尾に挿入します
移動	上へ移動	「すべてのサブセット定義」でルールを上へ移動します
	下へ移動	「すべてのサブセット定義」でルールを下へ移動します
カッコ	(を追加	先頭に左かっこを挿入します
)を追加	末尾に右かっこを挿入します
	(を削除	左かっこを削除します
)を削除	右かっこを削除します
	()をすべて削除	「すべてのサブセット定義」からすべてのかっこを削除します
代替変数		「代替変数」ダイアログ・ボックスを表示して、ルールの値に定義済の代替変数を選択できるようにします。

7 オプション: 複合サブセットの定義を作成するには、手順 3 から 6 を繰り返します。

8 OK をクリックします。

ワイルドカード文字

使用できるワイルドカード文字には、疑問符(?)とアスタリスク(*)があります。ワイルドカードは式に1回のみ、文字列の末尾にのみ使用できます。

式

式により定義されたサブセット・クエリーは、ラベル・モードに対して独立しており、別名テーブルにかかわらず式に一致するすべての文字列を戻します。ユーザーは、値ソースがID、説明、または別名テーブルからのソースであるかを識別し、必要に応じてクエリーを見直す必要があります。

UDA

Analytic Services ユーザーは Web Analysis により、メンバー・サブセットのためにメンバーの特徴と関連付けられ、それを定義するユーザー定義の属性(UDA)、単語またはフレーズを作成できます。

Financial Management ユーザー定義フィールドの選択

Financial Management ユーザーは、属性条件を指定してメンバーを選択できます。ユーザー定義フィールドで、指定値の属性に対する複合選択ルールを定義します。

▶ ユーザー定義フィールドの選択を定義するには、次の手順に従います。

1 次元ブラウザでメンバーを右クリックします。

2 ユーザー定義フィールドを選択します。

「ユーザー定義フィールドの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスの上部のコントロールで、ルールの作成を促すプロンプトが表示されます。

3 フィールド(UserDefined1)、「UserDefined2 または UserDefined3)を選択します。

等号はルールの唯一のオペランドです。

4 値を入力します。

5 「追加」をクリックします。

個別のルールを使用するには、それを「選択条件」に追加する必要があります。複数のルールをフレームに追加し、「詳細設定オプション」を使用してそれらを接続することにより、複合ルールおよび条件付きルールを定義します。

表 96 詳細設定のユーザー定義フィールド・オプション

オプション	サブメニュー	説明
追加		選択条件にルールを追加します
更新		別のルールによりルールを置換します

オプション	サブメニュー	説明
削除		選択条件からルールを削除します
すべて削除		選択条件からすべてのルールを削除します
接続	および	「および」を末尾に挿入します(複数のルールを定義に追加した場合に、デフォルトでは「および」が使用されません)
	または	「または」を末尾に挿入します
移動	上へ移動	選択条件でルールを上へ移動します
	下へ移動	選択条件でルールを下へ移動します
カッコ	(を追加	先頭に左かっこを挿入します
)を追加	末尾に右かっこを挿入します
	(を削除	左かっこを削除します
)を削除	右かっこを削除します

- 6 オプション: 複合サブセットの定義を作成するには、手順 3 から 5 を繰り返します。
- 7 OK をクリックします。

SAP BW メンバーのプロパティのフィルタ

SAP では、メンバー属性を参照するために用語メンバー・プロパティを使用します。SAP BW メンバーを選択し、そのメンバー・プロパティによりフィルタ処理できます。メンバーを選択した後、選択に対するフィルタ処理定義を定義します。

- ▶ SAP BW メンバーをそのメンバーのプロパティによって選択するには、次の手順に従います。
 - 1 次元ブラウザで、メンバーを選択します。
選択したメンバーが選択フレームに表示されます。
 - 2 メンバーを右クリックし、メンバーのフィルタのプロパティを選択します。
「メンバーのプロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスの上部のコントロールで、ルールの作成を促すプロンプトが表示されます。
 - 3 リストからメンバーのプロパティを選択します。
 - 4 オペランドを選択します。
 - 5 テキスト領域で、メンバーのプロパティの値を入力します。

6 「追加」をクリックします。

ルールを使用するには、フィルタ定義にそのルールを追加する必要があります。複数のルールを使用することで、複合定義を作成できます。

表 97 メンバーの詳細フィルタのプロパティ・オプション

オプション	サブメニュー	説明
追加		ルールをフィルタ定義に追加します
更新		別のルールによりルールを置換します
削除		フィルタ定義からルールを削除します
すべて削除		フィルタ定義からすべてのルールを削除します
カッコ	(を追加	先頭に左かっこを挿入します
)を追加	末尾に右かっこを挿入します
	(を削除	左かっこを削除します
)を削除	右かっこを削除します
接続	および	「および」を末尾に挿入します(複数のルールを定義に追加した場合に、デフォルトでは「および」が使用されます)
	または	「または」を末尾に挿入します
移動	上へ移動	フィルタ定義でルールを上へ移動します
	下へ移動	フィルタ定義でルールを下へ移動します

7 オプション: 複合定義を作成するには、手順 3 から 6 を繰り返します。

8 OK をクリックします。

SAP BW の上位/下位の使用方法

SAP BW により、ランク・クエリ結果セットのサイズを制限できます。メンバーを選択した後、選択結果に対するフィルタ定義を定義します。

- ▶ クエリの一部として SAP BW メンバーを制限し、ランク付けするには、次の手順に従います。

1 次元ブラウザで、メンバーを選択します。

選択したメンバーが選択フレームに表示されます。

- 2 メンバーを右クリックし、上位/下位の選択を選択します。
「上位/下位」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 上または下を選択します。
Analytic Services の場合とは異なり、両方を選択することはできません。
- 4 関数の使用のパーセント、合計、またはカウントを選択します。
ランク付けは、1つのメソッドによってのみ行うことができます。
- 5 テキスト領域で、選択したメソッドの値を入力します。
「パーセント」では、1 - 100 の値を使用します。「合計」では、しきい値を入力します。しきい値以下のすべてのメンバー値が合計されて戻されます。「カウント」では、戻す上位または下位のメンバーの数を示す整数を指定します。
- 6 順序で、次元を選択します。
すべての次元がすべての交点に関与することから、選択した次元の順序により交点を識別する必要があります。
- 7 オプション: 「選択」をクリックします。
「順序」次元の次元ブラウザが表示されます。選択した次元をランク付けするための「順序」次元のメンバーを選択できます。
- 8 OK をクリックします。

Financial Management メンバー・リストの選択

メンバー・リストは事前に定義された変数であり、頻繁に変更される情報で使用されます。Financial Management により作成され、変数名により識別されます。

- ▶ 次元ブラウザでメンバーを選択するときに Financial Management のメンバー・リストを使用するには、次の手順に従います。
 - 1 次元ブラウザでメンバーを右クリックします。
 - 2 メンバー・リストを選択します。
 - 3 メンバー・リストの選択から、メンバー・リストを選択します。
 - 4 OK をクリックします。

代替変数の選択

代替変数は事前に定義された変数であり、頻繁に変更される情報で使用されます。Analytic Services により作成され、変数名により識別されます。

代替変数により、Analytic Services で変動する値をまとめて調整し、その値を Web Analysis ドキュメントにより動的に参照できるため、ドキュメントの保守が簡素化されます。

- ▶ 次元ブラウザでメンバーを選択するときに代替変数を使用するには、次の手順に従います。

- 1 次元ブラウザでメンバーを右クリックします。
- 2 代替変数を選択します。
- 3 代替変数を選択します。
- 4 OK をクリックします。

複数の代替変数

メンバーのサブセットを選択するときに、複数の代替変数を使用できます。

構文のヒント

代替変数には、次のような独自のルールと構文に必要な条件があります。

- 代替された値の場合は、次元またはメンバー名を使用します。
- メンバー名の先頭にアンパサンド(&)を使用することはできません。

分析ツールと代替変数

代替変数により定義されたメンバー選択を分析ツールの定義で使用した場合、代替変数の定義にかかわらず、変数が現在値に解決され、正確な集約、比較および計算が実行されます。

個人用変数の選択

個人用変数は、それ以外には無関係なメンバーのアド・ホックなコレクションのコンテナです。個人用変数によりユーザーは、複雑なメンバーの選択を定義し、名前を指定できます。個人用変数を使用するには、関連する次元およびデータベース接続が提供されている必要があります。

個人用変数を定義する場合、クエリーに個人用変数を含めません。クエリーを定義するときに次元ブラウザから個人用変数を選択します。

- ▶ クエリーに個人用変数を使用するには、次元ブラウザの「参照」パネルから個人用変数の定義を選択します。

視点(POV)の適用

POV データベース・プリファレンスによりユーザーは、他のドキュメントに次元およびメンバーを挿入できます。定義は、特定のデータベース接続について定義してアクティブにする必要があります。

POV がアクティブである場合、新しいドキュメント・ウィザードの「POV の使用」チェック・ボックスが使用可能になります。「POV の使用」の選択時に作成したドキュメントはアクティブな POV を使用します。

EPM Workspace ユーザーは、POV 定義の作成またはアクティブ化を行うことができません。ただし、アクティブ化された POV 定義とのデータベース接続を選択し、作成中のドキュメントにその定義を適用できます。EPM Workspace ユーザーは、POV 定義をドキュメントに適用できません。

POV 定義は、軸およびメンバーの選択から成ります。アクティブな POV によりドキュメントを作成した場合に、定義全体が使用されます。

すべての POV メンバー選択がカスタム・フィルタである場合、ドキュメントの変更が表示されないことがあります。どの POV(存在する場合)が適用されたかを確認するには、ビュー・ペインの「情報」タブで「視点(POV)」を選択します。

▶ POV 定義の使用は、次の 3 段階のプロセスです。

- 1 Web Analysis Studio を使用して POV 定義を作成します。
- 2 Web Analysis Studio を使用してこの定義をアクティブにします。
- 3 この定義を使用するように(既存または新規作成の)ドキュメントを設定します。

▶ 新規ドキュメントにアクティブな POV 定義を適用するには、次の手順に従います。

- 1 次のいずれかのアクションを行います。
 - 「ファイル」を選択し、次に「新規ドキュメント」を選択します。
 - 「新規」ボタンをクリックします。
ドキュメントを作成するための手順が表示されます。
- 2 参照をクリックします。
- 3 「開く」ダイアログ・ボックスから、目的のアクティブな POV 定義を使用するデータベース接続のファイルを選択し、「OK」をクリックします。

動的時系列の選択の定義

クエリー選択ステートメントについて、Analytic Services で作成した動的時系列(DTS)定義を選択できます。ユーザーは、期間を定義するために、DTS 定義および時間メンバーを選択します。

時間代替変数

DTS の代替変数を選択できます。

代替変数は、事前に定義されたプレースホルダであり、頻繁に変更される情報で使用されます。変数名により識別され、データ型を定義する一時値を持ちます。代替変数を使用すると、一時値が現在値により置換されます。代替変数は、Analytic Services 内のデータベース・レベルに保管されます。

▶ DTS の定義を選択するには、次の手順に従います。

- 1 次元ブラウザで、時間メンバーを右クリックします。
- 2 動的時系列を選択します。

「動的時系列」ダイアログ・ボックスが開き、オプション・ボタンとして DTS 定義、リストに代替変数が表示されます。

- 3 DTS 定義のオプション・ボタンを選択します。
- 4 次のいずれかのアクションを行います。
 - 「代替変数」タブを選択し、代替変数を選択します。
 - 「メンバー」タブを選択した後、X 累計定義で日付を表すメンバーを選択します。
- 5 OK をクリックします。

前のメンバー選択の定義

次元ブラウザの右クリック・メニューから「前の項目も選択」を選択すると、1 次元レベルで前のメンバーを選択するための「前の項目も選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

▶ 前のメンバー選択を定義するには、次の手順に従います。

- 1 次元ブラウザの参照でメンバーを右クリックします。
- 2 前の項目も選択を選択します。
「前の項目も選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 取得する前のメンバーの数を指定します。
- 4 OK をクリックします。

次元ブラウザが表示されます。右クリックしたメンバーが、「選択項目」リストに「前の項目も選択」アイコンとともに表示されます。

データ・オブジェクトとデータソースのナビゲート

Web Analysis ドキュメントには、次に示すさまざまなデータ・オブジェクトを含めることができます。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード
- SQL スプレッドシート
- フリー・フォーム・グリッド

データ・オブジェクトは、その多様性にもかかわらず、静的ではありません。次元交差の再調整、拡張、変更、および集約を行うことができます。ナビゲーションのメソッドと呼ばれるこうしたメソッドにより、次元階層を通じた移動が可能になります。

ナビゲーションのメソッドは、データ・オブジェクトおよびデータ・ソースに固有です。

表 98 サポートされるデータ・ソース

タイプ	データ・ソース
OLAP	Analytic Services IBM DB2 OLAP Server SAP BW
Hyperion	Financial Management Planning
リレーショナル	IBM DB2 Enterprise Server Edition Microsoft SQL Server Oracle Teradata その他の JDBC RDBMS

OLAP データ・ソースでは、この章に記載されたナビゲーションのメソッドがサポートされます。他の Hyperion データ・ソースおよびリレーショナル・データ・ソースでは、サポートされるナビゲーションのメソッドはより少なくなります。

ナビゲーション・メソッド

EPM Workspace では、次に示すさまざまなナビゲーション・メソッドを使用します。

表 99 ナビゲーション・メソッド

ナビゲーション	説明	メソッド
移動	データ・レイアウト軸で次元を再配置します。	「データ・レイアウト」ダイアログ・ボックス、「情報」パネルまたは新規ドキュメント・ウィザードを使用して、軸上または軸間で次元を位置設定します。
ページング	ページ軸で交差を変更しながら、行と列の軸に次元を維持します。	ページ・コントロール・パネルの項目をクリックまたはスクロールします。381 ページの「ページング」を参照してください。
選択項目のみ保持	他の全メンバーの選択を解除しながら、選択した次元の 1 つのメンバーを保持します。	メンバーを右クリックし、「選択項目のみ保持」を選択します。381 ページの「選択項目のみ保持」を参照してください。
選択項目のみ削除	選択されたメンバーの選択を解除し、クエリーの結果セットから削除します。	メンバーを右クリックし、「選択項目のみ削除」を選択します。382 ページの「選択項目のみ削除」を参照してください。

ナビゲーション	説明	メソッド
ドリル	階層内でメンバーを表示または非表示にすることにより、次元の詳細の表示を調整します。	メンバーをダブルクリックし、ドリルの動作をカスタマイズできます。 382 ページの「ドリル」 を参照してください。
ドリルリンク	他のドキュメントまたは実行可能ファイルに移動します。	リンクされたセルをクリックして、セルおよび次元コンテキストを別のデータ・オブジェクトまたはドキュメントに渡します。
カスタム・コントロール	Web Analysis ナビゲーションを定義します。	カスタム・ドキュメント・コンポーネントを使用してクエリーを変更します。Web Analysis ユーザーはカスタム・ドキュメント・コンポーネントを使用できますが、こうしたコンポーネントの作成は Web Analysis Studio でのみ行うことができます。

固有のナビゲーション・メソッド

- ドリル - 関連するメンバーに移動します。
- リンク(「ドリルリンク」と呼ばれています) - 選択したメンバーを他のドキュメントに渡します。
- リンクされたレポート・オブジェクト(LRO) - 実行可能ファイルが開き、セルのノート、Windows の実行可能ファイル、または Web ページの URL が表示されます。

次元の位置の調整

軸上または軸間で次元の位置を調整することにより、交差の配置を変更できます。

- ▶ 「データ・レイアウト」ダイアログ・ボックスを使用して次元の位置を調整するには、「データ・レイアウト」ボタンをクリックし、次元を現在の位置から、現在の軸または別の軸上の別位置にドラッグします。

注： ドキュメントの作成者は、「プロパティ」を使用して、次元の入れ替えおよび移動の機能をロックします。

- ▶ 情報パネルのビュー・ペインを使用して次元の位置を調整するには、次の手順に従います。
 - 1 「ビュー」を選択し、次に「ビュー・ペイン」を選択します。
 - 2 「情報」パネル・ボタンをクリックして、現在表示するタブにします。
 - 3 現在のデータ・オブジェクトの配置をレビューするために、フィルタ、ページ、行および列の各ツリーにスクロールします。
 - 4 ある軸のツリーから別の軸のツリーまで次元をドラッグします。

注： 少なくとも1行および1列の次元が存在する必要があります。再配置により行または列の軸が空のままである場合は、データ・レイアウトを使用して次元レイアウトの配置を変更します。

ページング

ページングでは、ページ軸で交差を変更しながら、行と列の軸に次元を維持します。

ページ・コントロール・パネルを使用すると、交点の別のページにジャンプしたり、ページをスクロールしたりできます。

- ▶ ページ・コントロール・パネルを表示するには、「ビュー」、「ページ」の順に選択します。

関連データ・オブジェクトのコンテンツ領域の上に「ページ・コントロール」パネルが表示されます。ここでは、各ページが1つのページ・メンバーに対応するようにページ軸の交差が編成されます。

- ▶ ページの次元をナビゲートするには、次のいずれかのアクションを行います。
 - 「<」および「>」をクリックして、上下のページに移動します。
 - リスト・ボックスから、ページ・メンバーの名前を選択します。

ページ

ページ軸は、3次元グラフのZ軸と見なされます。スプレッドシートのスタックが視覚化されます。ページ間で値を比較するには、スタックを移動します。スプレッドシートは、ページ軸の次元を表し、ページはページ軸のメンバーまたはメンバーの組み合わせを表します。

複数ページおよび単一ページのリスト・ボックス

ページの次元の組み合わせを操作する場合ページ・コントロール・パネルには、データの存在の有無を問わずすべての可能なページの組み合わせを示す複数ページのリスト・ボックスを表示できます。単一ページのリスト・ボックスでは、データが含まれていないページの組み合わせが省略されます。疎の次元を操作する場合には単一ページのリスト・ボックスを使用することをお勧めします。

- ▶ 分離したかまたは組み合わせたページの次元を複数ページのリスト・ボックスに表示するには、「複数ページの切替え」をクリックします。

選択項目のみ保持

「選択項目のみ保持」では、選択した次元の1メンバーを除くすべての選択が解除されます。

- ▶ ある次元の 1 メンバーを除くすべての選択を解除するには、そのメンバーを右クリックし、「**選択項目のみ保持**」を選択します。

選択項目のみ削除

「**選択項目のみ削除**」を実行すると、メンバーの選択が解除され、クエリーの結果セットから除去されます。

- ▶ クエリーの結果セットから次元のメンバー 1 つを除去するには、メンバーを右クリックして、「**選択項目のみ削除**」を選択します。

ドリル

ドリルにより、メンバー表示を変更することでデータ・オブジェクトの詳細の表示を増減させます。ドリルはカスタマイズ可能であるため、ドリルという用語は、次元のラベルをクリックすることにより開始されるほとんどすべての階層ナビゲーションを意味します。

ドリルのオプションには、次の 3 つのタイプがあります。

- 「**ドリル・オプション**」は、結果セットを指定します。
- 「**ドリル時に展開**」は、結果セットが現在表示されているメンバーを置換するか追加するかを指定します。
- 「**選択したメンバー**」のデータは、ドリルされたメンバーが結果セットに含まれるかどうかを指定します。

Web Analysis ユーザーは、ドリル・オプションを設定するために「データオブジェクト」右クリック・メニューを使用する必要があります。「**ドリル時に展開**」オプションおよび「**選択したメンバー**」オプションは、Web Analysis Studio でユーザー・プリファレンスにより設定します。

ドリル・オプション

Web Analysis Studio のデフォルトのドリル動作は次のとおりです。

- 「**ドリルダウン**」では、メンバーの子が表示に含まれます。
- 「**ドリルアップ**」では、メンバーの親が表示に含まれます。
- 「**最上位にドリルアップ**」では、最上位の祖先が表示に含まれます。

ドリル・オプションを設定することにより、ドリルをカスタマイズできます。ドリル・オプションは、データ・オブジェクトのショートカット・メニュー(「ドリル」>「ドリル・オプション」)により、現在のドキュメントに対して設定します。ドリル・オプションはまた、ドリルのプリファレンスにより、以降に作成するすべてのドキュメントに対して設定できます。

次の表に、Web Analysis Studio のドリル・オプションを示します。

表 100 ドリル・オプション

ドリル・オプション	説明
次のレベルへドリル	ドリルしたメンバーの子を表示に含めます。
子孫へドリル	ドリルしたメンバーのすべての子孫を表示に含めます。
次元最下位へドリル	ドリルしたメンバーの最下位レベルの子孫を表示に含めます。
兄弟へドリル	ドリルしたメンバーと親を共有する 1 レベルのメンバーを含めます。
同じレベルへドリル	ドリルしたメンバーのレベルの全メンバーを含めます。 注： Hyperion では、階層レイヤーを最下層の子孫(0 レベル)から上方向にカウントしたレベルを定義しています。他のデータ・ソースでは、レベルの定義は異なります。また、非対称の階層の場合、予期しない結果が生じる場合があります。
同じ世代へドリル	ドリルしたメンバーの世代の全メンバーを含めます。 注： Hyperion では、階層レイヤーを最上層の祖先(世代 0)から下方向にカウントした世代を定義しています。他のデータ・ソースでは、世代の定義は異なります。

ドリル・オプションは、データ・ソース固有です。データソースでサポートされていないドリル・オプションは、「次のレベルへドリル」でもドリルできません。

ドリル時に展開

「ドリル時に展開」ドリル・オプションでは、現在表示されている次元メンバーを補足または置換するドリル返却セットを設定します。データ・オブジェクトのショートカット・メニュー(「ドリル」>「ドリル・オプション」)により現在のドキュメントに対して「ドリル時に展開」を設定できます。「ドリル時に展開」はまた、ドリルのプリファレンスにより、以降に作成するすべてのドキュメントに対して設定できます。

「ドリル時に展開」を選択した場合、現在表示されている次元メンバーにドリル返却セットが追加されます。「ドリル時に展開」を使用不可にした場合、現在表示されている次元メンバーがドリル返却セットにより置換されます。

「選択したメンバー」のデータの表示オプション

「選択したメンバー」のデータの表示オプションは、クエリー結果セットにメンバー選択の詳細設定が定義されたメンバーが含まれるかどうかを指定します。

たとえば、「年」次元メンバーで「子も選択」を指定し、「選択したメンバー」が使用可能である場合は、「年」とそのすべての子がクエリーにより戻されます。「選択したメンバー」が使用不可である場合は、「年」の子のみが返されます。

「選択したメンバー」の機能は、ドリルの結果セットにドリルされたメンバーを含めるか除外するかにより、ドリルの結果セットにも影響を与えます。

さらに、「選択したメンバーを優先」データ表示オプションを使用可能にして、ドリルされたメンバーをドリルの結果セットの上に表示できます。

ドリルの種類

これらのデータの表示オプションとドリル・オプションの組み合わせにより、異なるドリル返却セットが得られます。想定したドリル返却セットを得る準備を進めるうえで、こうした動的な性質に注意する必要があります。

表 101 ドリルの種類

ドリルの種類	説明
「ドリル時に展開」を使用可能にし、「データの表示」>「選択したメンバー」を使用不可にした場合のドリル・ダウン	現在の選択メンバーにドリル操作の結果セットを加え、ドリルされたメンバーを除去します
「ドリル時に展開」を使用可能にし、「データの表示」>「選択したメンバー」を使用可能にした場合のドリル・ダウン	現在の選択メンバーにドリル操作の結果セットを加え、ドリルしたメンバーを含めます。
「ドリル時に展開」を使用不可にし、「データの表示」>「選択したメンバー」を使用不可にした場合のドリル・ダウン	現在のメンバー選択をドリル処理の結果セットで置換し、ドリルしたメンバーを除去します。
「ドリル時に展開」を使用不可にし、「データの表示」>「選択したメンバー」を使用可能にした場合のドリル・ダウン	現在のメンバー選択をドリル処理の結果セットで置換し、ドリルしたメンバーを含めます。

デフォルトのドリル動作

Web Analysis ドキュメントのデフォルトのドリル動作

- 「ドリルダウン」により子が表示されます。
- 「ドリルアップ」により親が表示されます。
- 「最上位にドリルアップ」により、最上位の祖先が表示されます。

ドリル・オプションはデータ・ソース固有です。ユーザー・プリファレンスで、現在のデータ・ソースによりサポートされていないドリル・オプションを設定した場合、ドリルはデフォルトの「次のレベルへドリル」になります。

ドリルリンク

ドリルリンクとは、クリックすると他のドキュメントに移動できるように、セルに設定したリンクのことです。

ドリルリンクは、ドリルおよびリンク・レポート・オブジェクトのいずれとも異なります。ドリルでは、次元階層を移動します。ドリルリンクでは、現在のメンバーの選択結果が他のドキュメントと実行ファイルに渡されます。リンク・レポート・オブジェクトは、セル・ノート、添付ファイル、および URL にリンクされません。

表示タイプの変更

データ・オブジェクト内のデータ・ソースから戻されたドキュメント表示データ値。Web Analysis ドキュメントは、複数のデータ・オブジェクトを持つことができ、各データ・オブジェクトは異なる次の表示タイプを持つことができます。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード
- SQL スプレッドシート
- フリー・フォーム・グリッド

各表示タイプには、多数の必要条件があります。SQL スプレッドシートおよびフリーフォーム・グリッドは、Web Analysis Studio でのみ作成できるので、変更はできません。

ピンボードでは、トラフィック・ライトの定義が必要です。このため、ピンボードの定義が定義されている場合にのみ、スプレッドシートまたはチャートをピンボードに変更できます。

- ▶ 現在のドキュメントの表示タイプを変更するには、「フォーマット」、「表示タイプ」の順に選択し、表示タイプまたはチャート・タイプを選択します。

注： Web Analysis Studio ユーザーは、以降のユーザーがドキュメントを変更できないように、表示タイプをロックできます。

データの表示オプション

それぞれの表示タイプには、ドキュメントの動作を指定するデータ表示オプションがあります。抑制の場合、欠落データを含む行、0 を含む行、そして Analytic Services の場合は共有メンバーを含む行が抑制されます。抑制は、「キューブ・ナビゲータ」ダイアログ・ボックス、「データの表示」ショートカット・メニューまたは OLAP Server のプリファレンスから設定できます。

表 102 データ・オブジェクトのショートカット・メニューの「データの表示」オプション

データの表示オプション・サブメニュー	説明
選択したメンバー	クエリーで作成された明示的なメンバーの選択の結果を表示します。このメンバー選択の結果は、情報パネルまたは次元ブラウザでプレビューできます。「選択したメンバー」では、データ・オブジェクト内のこの情報を表示するメソッドが提示されます。
選択したメンバーを優先	「選択したメンバー」がアクティブな場合に、クエリーで明示的に定義したメンバー選択を優先させます(左から右、または上から下)。
非表示	クエリーの結果セットから、指定されたデータを除きます。 <ul style="list-style-type: none">● 欠落した行● 値のない列● 共有メンバー

データの表示オプション・サブメニュー	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼロ行
デフォルトのラベルのモード	ラベル・モードを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 説明 ● ID ● 両方(Financial Management オプション)
次元に固有のラベルのモード	ラベル・モードのオプションを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトの使用 ● 説明 ● ID ● 両方(Financial Management オプション)
次元ヘッダーのソート	順序オプションに従って、選択した次元を並べます。 <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト ● 昇順 ● 降順 ● レベル(OLAP のみ) ● 世代(OLAP のみ) ● 選択順(リレーショナルのみ) 「デフォルト」オプションは、データ・ソースのアウトラインにより次元メンバーが自然に並べられる順序です。このオプションを使用することにより、パフォーマンスが向上する場合があります。
リンクされたレポート・オブジェクトのインディケータ表示	リンク・レポート・オブジェクトの存在を示す小さなセルの三角形を表示または非表示にします。三角形は、関連コンテンツに追従します。

ユーザーの POV に対する選択結果の保存

ユーザーはユーザー POV を使用することにより、「フィルタ」、「ページ」、「行」および「列」(データ・レイアウトまたはメンバー選択のコントロール、あるいはその両方)でメンバーを選択できます。選択したメンバーは、複数レポートに適用されます。

レポートでユーザー POV を使用するには、次のことが必要です。

- Web Analysis Studio の「データ・レイアウト」ダイアログで「ユーザー POV の使用」が使用可能であること。
- 次元メンバーの選択では、「ユーザー POV」を選択に含める必要がある。

これは、現在の POV 機能を通じて示されます。ここで UserPOV は、レポート内で作成および使用されている別の POV の名前です。UserPOV は、すべてのデータベース接続について存在し、ユーザー・レベルでのみ設定できます。

UserPOV を設定するには、スプレッドシートを右クリックし、「選択の保存」を選択して次元メンバーの選択結果を UserPOV に保存します。

ピンボード

ピンボードは、複数次元のカスタムなグラフィック表現です。ピンボード次元は、グラフィックス、グラフィックのピンのアイコンおよび色(または状態)により表されます。

ピンボードの前提条件

トラフィック・ライト・キューに基づいてピンによりイメージまたは色が動的に変更されるので、Web Analysis Studio でピンボードを作成する前に、スプレッドシートを作成し、トラフィック・ライトを適用する必要があります。

ピンボード・シリーズ

ピンボード・シリーズにより、あるピンボードから別のピンボードへのドリルが可能になります。最初のピンボードを作成した後、Web Analysis Studio ピンボード・デザイナーの右クリック・メニューを使用して以降のピンボードを作成します。その各ピンボードでは、先行するピンボードの子を使用します。最下位次元を表すピンボードは、シリーズ内の最後になります。

ピン

Web Analysis Studio により提供されるデフォルトのピンを使用するか、またはピン・デザイナーを使用してピンを作成します。ピンにより、トラフィック・ライトに基づいてイメージまたは色を変更されます。

図5 デフォルト・ピン、イメージ・ピンおよび色ピン



トラフィック・ライトのコントロール・パネル

複数のトラフィック・ライト定義がドキュメントで定義されている場合、ピンボード表示タイプではトラフィック・ライト定義をスクロールできるトラフィック・ライト・コントロール・パネルが表示されます。

SQL スプレッドシート

SQL スプレッドシートのデータ・オブジェクトを使用してリレーショナル・データ・ソースにクエリーを送り、取得したデータをカスタム・ドキュメントに表示します。

- SQL スプレッドシートは、カスタム・ドキュメントでのみ作成できます。
- SQL スプレッドシートを作成するには、SQL クエリーを作成する方法を理解する必要があります。

- サポート対象の JDBC ドライバを使用してリレーショナル・データ・ソースに接続できる必要があります。

リレーショナル・データにアクセスするための代替手段

- Web Analysis Studio では、スプレッドシート、チャート、およびピンボードで使用できるようリレーショナル・データベース接続を作成できます。
- 1 つのデータ・オブジェクト内の複数のデータ・ソースからデータ値を組み合わせるために、カスタム・ドキュメント・データベース接続を活用するフリーフォーム・グリッドを使用できます。
- Web Analysis Studio でリレーショナル・ドリルスルー接続を作成すると、OLAP データベースからリレーショナル・データ・ソースに接続できます。
- 「関連コンテンツ」ダイアログ・ボックスにより、事前に定義された分析統合サービスのドリルスルー・レポートを使用できます。

フリーフォーム・グリッド

フリー・フォーム・グリッドは、同じデータ・オブジェクトの OLAP データ、リレーショナル・データ、および手動で入力したデータを表し、統合された動的計算でこれらすべてのデータソースを利用できるようにします。

フリーフォーム・グリッドは、行と列から構成されます。ページ次元は視覚的に表示されません。ページ軸に割り当てられたメンバーに対する OLAP データベース接続を使用できます。ただし、追加登録コントロールを作成していない限り、ページ次元のナビゲートはできません。つまり、多次元キューブの最初のページのみが表示されます。

表示のサイズ変更

コンテンツ領域の大きな Web Analysis ドキュメントのサイズを変更できます。

- 「サイズの自動変更」 - 現在のデータ・オブジェクトを現在のコンテンツ領域に適合させることを試みます。
- 「カスタム・サイズ変更」 - 手動で指定したピクセル領域に現在のデータ・オブジェクトを適合させます。

- ▶ 現在のデータ・オブジェクトのサイズを自動変更するには、「フォーマット」、「サイズの自動変更」の順に選択します。
- ▶ 現在のデータ・オブジェクトを指定のサイズに変更するには、「フォーマット」、「カスタム・サイズ変更」の順に選択し、「カスタム・サイズ変更」ダイアログ・ボックスが表示されたら、水平方向および垂直方向のピクセル数を入力します。

分析ツールの管理

EPM Workspace から、詳細分析フォーマットおよびデータソース特有のツールを使用できます。分析ツールにより、迅速な比較、視覚的なデータの整理、構造および結論の移行を行います。

分析ツールはデータソース特有のもので、すべてのデータ・オブジェクトですべての分析ツールが使用可能であるわけではありません。

分析ツールは、データ・オブジェクトの右クリック・メニューによりアクセスする分析ツール・マネージャで一元的に整理および適用されます。分析ツール・マネージャには、現在のデータ・オブジェクトでアクティブにされたツール定義の番号と順序を表示する「順序」パネルがあります。

データ・オブジェクトの右クリック・メニューを使用して、分析ツールを作成できます。

表 103 分析ツール

ツール	説明
トラフィック・ライト	固定制限値または値の比較を基準にしてメンバー値をカラー・コーディングするための「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。 メンバーの値がソートやランク付けされているかどうかにかかわらず、メンバー値とビジュアルに関連付けます。
ソート	クエリー結果セットを作成するための「ソート」ダイアログ・ボックスを表示します。
上位/下位のみ取得	「上位/下位のみ取得」ダイアログ・ボックスが表示され、クエリーの結果セットの制限とランク付けを行うことができます。
データの制限	「データの制限」ダイアログ・ボックスが表示され、基準を指定してクエリーの結果セットを制限できます。
計算	計算値の行および列を作成するための「計算」ダイアログ・ボックスを表示します。
表示/非表示の制限	色、値およびメンバーによりデータをフィルタするための「表示/非表示」ダイアログ・ボックスを表示します。
データのフォーマット	メンバーまたは値の条件を基準にしてデータ値をフォーマットするための「データのフォーマット」ダイアログ・ボックスを表示します。

関連コンテンツの定義

関連コンテンツの定義は、「関連コンテンツ」ダイアログ・ボックスおよび分析ツール・マネージャから管理できます。削除およびすべて削除を含めて、「関連コ

コンテンツ」ダイアログ・ボックスで行う編集により、定義コンテンツが変更されますが、定義の存在に影響することはありません。分析ツール・マネージャでは、定義のアクティブ化、非アクティブ化、順序変更および除去を行うことができますが、編集を行うことはできません。

定義の順序

分析ツールの定義の適用順序は、データ・オブジェクトの動作に影響します。ユーザーは、「順序」パネルで分析ツールの定義を上下に移動することにより、アプリケーションの順序を編集できます。

デフォルトの分析ツールの定義

分析ツール・マネージャでは、「順序」リスト・パネルの上部に、デフォルトのフォーマット、メジャーのフォーマット、およびスプレッドシート・オプション定義が表示されます。ユーザー・プリファレンス、データベース接続プロパティ、およびデータ・オブジェクト・プロパティからの定義は、分析ツール定義の前に適用され、編集可能ですが、除去または使用不可化はできません。

分析ツールの定義のアクティブ化と非アクティブ化

分析ツール定義は、分析ツール・マネージャから削除しなくても、そのアクティブ化および非アクティブ化を行うことができます。したがって、さまざまな分析ツールの組み合わせを使用できます。

- ▶ 「順序」パネルで分析ツール定義を非アクティブ化するには、該当する「アクティブ」チェック・ボックスを選択します。

表示/非表示の制限

表示/非表示の制限分析ツールを使用して、データ・オブジェクトに対してメンバーを含むか除外します。メンバー名、トラフィック・ライトの色またはデータ値の条件を使用して、フォーカスされた値に基づく分析が可能になります。

情報パネルには、現在のドキュメント情報を制限または表示する表示/非表示の制限の定義が表示されます。

非対称分析

非対称ドキュメントは、軸全体で(少なくとも1つのメンバーが)異なるネストした次元を持ちます。行、列およびチャート・オブジェクトを非表示にでき、したがって非対称の分析を使用可能にできます。

複数の表示/非表示の制限の定義

表示/非表示の制限を複数定義した場合は、定義が順番に適用されます。メンバー、色、値を基準にして表示を制限できます。

表示/非表示の制限の適用方法

表示/非表示の制限の定義でそのタイプが異なる場合、動作も異なります。

- 「計算」では、すべての計算済メンバーを表示または非表示にします。
- 「メンバー」では、ドキュメント内で右クリックした次元の指定のメンバーを表示または非表示にします。
- 「値」では、ドキュメント内で右クリックした次元の反対側の軸にあるメンバーを表示または非表示にします。
- 「色」では、ドキュメント内で右クリックした次元の反対側の軸にあるメンバーを表示または非表示にします。

「表示/非表示の制限」の定義は、「表示/非表示の制限」ダイアログ・ボックスで作成します。

表 104 「表示/非表示の制限」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
メソッドの選択	「表示」 - 定義条件を満たすアイテムを表示します。 「非表示」 - 定義条件を満たすアイテムを非表示にします。
対象	
計算	すべての計算済メンバーを表示または非表示にします。
メンバー	指定の現在の軸メンバーに関する基本定義
いずれかの値	現在の軸の条件を満たす値が反対の軸のいずれかのメンバーに含まれるかどうかをテストします。
すべての値	現在の軸の条件を満たす値が反対の軸のすべてのメンバーに含まれるかどうかをテストします。
いずれかの色	現在の軸の条件を満たす色が反対の軸のいずれかのメンバーに含まれるかどうかをテストします。
すべての色	現在の軸の条件を満たす色が反対の軸のすべてのメンバーに含まれるかどうかをテストします。
条件の設定	
「演算子」メニュー	条件の演算子として、「次より大きい」(>)、「次と等しいか大きい」(>=)、「次と等しい」(=)、「次と等しいか小さい」(<=)、「次より小さい」(<)、「次と等しくない」(<>)から選択できます。
「値」ボックス	ユーザーが条件の値を入力できます。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、条件の色を設定できます。
メンバー	現在の定義が適用されるメンバーおよび属性のリストを表示します。

コントロール	説明
詳細	メンバーの組合せを集約するか、細分化します。
適用	新規の定義をドキュメントに適用します。

表示/非表示の制限の定義の作成

▶ 表示/非表示の制限の定義を作成するには、次の手順に従います。

- 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、次に「表示/非表示の制限」を選択します。
「表示/非表示の制限」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 メソッドの選択から、表示または非表示を選択します。
- 3 「表示/非表示の制限」定義オプションを定義します。
 - 計算済メンバーを表示または非表示にするには、「対象」の「計算」を選択します。
 - 特定のメンバーを表示または非表示にするには、「対象」の「メンバー」を選択し、「メンバー」からメンバーを選択します。
 - いずれかのメンバーが指定の条件を満たした場合にメンバーを表示または非表示にするには、次の手順に従います。
 1. 「対象」で、「いずれかの値」を選択します。
 2. 「メンバー」から、メンバーを選択します。
 3. 演算子リストと値のテキスト・ボックスを使用して条件を定義します。すべてのメンバーが指定の条件を満たした場合にメンバーを表示または非表示にするには、次の手順に従います。
 4. 「対象」で、「すべての値」を選択します。
 5. 「メンバー」から、メンバーを選択します。
 6. 演算子リストと値のテキスト・ボックスを使用して条件を定義します。
 7. いずれかのメンバーが指定のトラフィック・ライト設定色の条件を満たした場合にメンバーを表示または非表示にするには、次の手順に従います。
 1. 「対象」で、「いずれかの色」を選択します。
 2. 「メンバー」から、メンバーを選択します。
 3. 演算子リストから、「次と等しい:」(=)または「次と等しくない:」(<>)を選択します。
 4. 「色」から、オプションを選択します。すべてのメンバーが指定のトラフィック・ライト設定色の条件を満たした場合にメンバーを表示または非表示にするには、次の手順に従います。
 8. 「対象」で、「すべての色」を選択します。
 9. 「メンバー」から、メンバーを選択します。
 10. 演算子リストから、「次と等しい:」(=)または「次と等しくない:」(<>)を選択します。

11. 「色」から、オプションを選択します。

注： メンバーによる表示/非表示の制限は、名前付きのメンバーに適用されます。値による表示/非表示の制限と色による表示/非表示の制限は、選択した軸の値を使用して、反対側の軸に適用されます。

「色」のオプションは、アクティブなトラフィック・ライト定義を持つデータ・オブジェクトでのみ使用可能です。「詳細」チェック・ボックスにより、メンバーの組み合わせの条件を指定できます。「適用」ボタンを使用することで、ダイアログ・ボックスを終了することなく、現在のデータ・オブジェクトに現在の定義を適用できます。データ・オブジェクトを表示するために、ダイアログ・ボックスのタイトル・バーをドラッグすることが必要になる場合があります。

4 OK をクリックします。

定義が分析ツール・マネージャに追加されます。

5 閉じるをクリックします。

表示/非表示の制限の定義の編集

▶ 表示/非表示の制限の定義を編集するには、次の手順に従います。

1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。

分析ツール・マネージャが表示されます。

2 表示/非表示の制限の定義を右クリックし、編集を選択します。

「表示/非表示の制限」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3 選択を行い、パラメータを定義します。

4 OK をクリックします。

トラフィック・ライト

トラフィック・ライト分析ツールにより、データ・セルをカラー・コーディングできます。2つのメンバーの比較または単一メンバーの固定制限値に基づいてカラー・コーディングを行うことができます。ソートまたはランク付けが行われているかどうかにかかわらず、色によりメンバー値が視覚的に関連付けられます。トラフィック・ライトの定義は、「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックスで作成し、ドキュメントのピボット時または変更時に維持されます。

情報パネルには、現在のデータ・オブジェクトをカラー・コーディングしているトラフィック・ライトの定義が表示されます。

表 105 「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
条件の作成	
トラフィック・ライトの適用先	トラフィック・ライトの適用先の次元を指定します。
比較の対象	前の次元と比較する次元を指定します。
制限の割当て	トラフィック・ライトの定義に使用する間隔、セット・ポイントおよび色のパラメータを指定します。
差(%)	カラー・コーディングが比較メンバーの差異のパーセント値に基づくことを示します。選択しない場合、カラー・コーディングは値の差異に基づいて行われます。
Financial Intelligence の使用可能	Hyperion データ・ソースで費用および負債を負数として処理することを可能にします。「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックスの差異および差異の割合の計算を考慮するために、「差(%)」と連動します。
詳細	メンバーの組合せを集約するか、細分化します。
適用	定義をドキュメントに適用します。

Financial Intelligence の種類

「差(%)」と「Financial Intelligence の使用可能」を使い分けることにより、「トラフィック・ライト」ダイアログ・ボックスで4種類の計算が行われます。

- いずれも選択しない - トラフィック・ライトでは、減算式によりメンバーが比較されます。
- 「差(%)」のみを選択 - トラフィック・ライトでは、差異率計算によりメンバーが比較されます。
- 「Financial Intelligence の使用可能」を選択 - トラフィック・ライトでは、特定の費用および負債のメンバーを負数として認識する高度な差異計算によりメンバーを比較します。
- 両方を選択 - トラフィック・ライトでは、特定の費用および負債のメンバーを負数として認識する高度な差異率計算によりメンバーを比較します。

「制限の割当て」ボックス

「制限の割当て」ボックスでは、トラフィック・ライトの範囲をカラー・コーディングするための数値、色および条件を指定します。

表 106 「制限の割当て」ボックス

コントロール	説明
最後に追加	範囲内にセット・ポイントを挿入します。
最後に削除	最後のトラフィック・ライト範囲およびセット・ポイントを除去します。

コントロール	説明
「色の設定」ボタン	「色の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、範囲の色を設定できます。

注： トラフィック・ライトの色を「スプレッドシート・オプション」で使用した色と同じに設定すると、メンバーの色分けが不明瞭になることがあります。

トラフィック・ライトの定義の作成

- ▶ トラフィック・ライトの定義を作成するには、次の手順に従います。
- 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「トラフィック・ライト」を選択します。
「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 2 適用先から、トラフィック・ライトの適用先となるメンバーを選択します。
- 3 「比較対象」から、前の選択メンバーと比較するメンバーを選択します。
 - 「制限の割当て」の「差(%)」の選択を解除するか、または「比較の対象」の「固定値」を選択して、固定制限値に基づいて比較します。
 - まずメンバーを組み合わせに区分するために1回、次に集約されたメンバーからの選択のために1回、合わせて2回「詳細」を選択します。
「制限の割当て」に、3つのデフォルトのセット・ポイントと色が表示されます。セット・ポイントにより、色で識別される範囲に値が分割されます。
- 4 各セット・ポイントについて、セット・ポイント・オペランドを示します。
最初のリストでは、セットポイント値がこの範囲にあるかどうかを指定するように求めるプロンプトが表示されます。「次より大きい(>)」または「以上(>=)」を選択します。
- 5 テキスト・ボックスで、範囲を区切るしきい値を指定するセットポイント値を入力します。
第2のリストでは、セットポイント値を指定するように求めるプロンプトが表示されます。正または負の10進数を入力します。第2のリストでは、セットポイント値を指定するように求めるプロンプトが表示されます。正または負の10進数を入力します。
- 6 オプション: 範囲の色を変更するには、色をクリックし、色の正方形を選択します。
「色」ボタンにより、色の正方形のパレットが表示されます。色の正方形を選択すると、現在のトラフィック・ライト範囲にその色が割り当てられ、隣接するテキスト入力フィールドにその色の16進値が表示されます。
- 7 オプション: 色の不透明度を変更するには、各範囲について最後のテキスト入力ボックスに値を入力します。
0(透明) - 100のパーセンテージを指定できます。バックグラウンド・グラフィックを視認するために透過性が利用されることがあります。

- 8 オプション: セット・ポイントを追加するには、「最後に追加」をクリックし、手順 4-7 を繰り返します。
- 9 OK をクリックします。

トラフィック・ライトの定義の編集

- ▶ トラフィック・ライトの定義を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。
分析ツール・マネージャが表示されます。
 - 2 トラフィック・ライトの定義を右クリックし、編集を選択します。
「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 選択を行い、パラメータを定義します。
 - 4 OK をクリックします。

ソート

ソート分析ツールは、クエリー結果セットの次元を英数字の昇順または降順に並べます。「ソート」ダイアログ・ボックスで作成し、情報パネルに表示されるソート定義は動的であり、ドキュメントのドリル時、ピボット時、および変更時に適用されます。

クライアント側のソート定義およびサーバーに基づくソート定義を使用できます。

- クライアント側のソート - 「ソート」により、ローカル・コンピュータ上で実行されます。
- サーバーに基づくソート - 「上位/下位のみ取得」により、Analytic Server 上で実行されます。OLAP クエリー結果セットをクライアントに戻す前に実行されるため、結果セットとネットワーク・トラフィックが最小化されます。

複数のソート定義は、分析ツール・マネージャで提示される順序で適用されます。等しい値を持つ軸に適用されるソート定義が多様な値を持つ軸に適用されるソート定義によりその配置が変更される場合があります。ドキュメントの表示は、クライアント側およびサーバー側のすべてのアクティブなソートを適用した累積的な結果ですが、最後のソート定義のみが適用されたように見える場合があります。

表 107 「ソート」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
ソートの対象	ソートの定義が適用されるメンバーを指定します。
順序	
昇順	英数字の昇順にソートします。
降順	英数字の降順にソートします。
適用	定義をドキュメントに適用します。

ソートの定義の作成

- ▶ ソートの定義を作成するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「ソート」を選択します。
「ソート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 メンバーから、ソートの適用先となるメンバーを選択します。
 - 3 昇順または降順を選択します。
 - 4 OK をクリックします。

ソートの定義の編集

- ▶ ソートの定義を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。
分析ツール・マネージャが表示されます。
 - 2 ソートの定義を右クリックし、編集を選択します。
「ソート」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 選択を行い、パラメータを定義します。
 - 4 OK をクリックします。

データの制限

データの制限分析ツールは、ルールおよびオペランドに関連するデータ値を要求することにより、返却セットを限定します。データは、2列の比較または1列の固定制限値により制限できます。

情報パネルには、現在のドキュメントに対応する Analytic Services の「データの制限」の定義が表示されます。

「データの制限」は Analytic Services により実行されるので、ネットワーク・サーバーでの大きな結果セットの送信、およびクライアントでの大きな結果セットの処理が防止されます。

ユーザーは、分析ツールの右クリック・メニューを使用して、処理済のクエリーおよび未送信のクエリーの結果セットに「データの制限」を適用できます。新規ドキュメント・ウィザードの最後の手順で、「データの制限」の定義を作成できます。

表 108 「データの制限」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
列の選択	「列の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、現在のドキュメントから列を選択できます。

コントロール	説明
「演算子」メニュー	演算子として「次より大きい:」(>)、「次と等しいか大きい:」(>=)、「次と等しい:」(=)、「次と等しいか小さい:」(<=)、「次より小さい:」(<)、「次と等しくない:」(<>)から選択します。
「オペランド」メニュー	次のオペランドのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 値 - データをある1つの値または値の範囲に制限します。 ● 列のデータ値 - 追加の「列の選択」ボタンが表示され、2つの列を比較できます。 ● 欠落した値 - 欠落した値を制限します。
「値」ボックス	「データの制限」の条件の値を指定します。

注：「データの制限」または「上位/下位の取得」を適用する場合、フィルタ内で次元ごとに1つのメンバーを使用することをお勧めします。1つの次元について複数のメンバーを選択した場合、アプリケーションにより結果が集約されます。「データの制限」および「上位/下位の取得」は Analytic Services クエリーの一部であるため、クエリーが戻された後に集約が行われることから、予期しない結果セットが得られる場合があります。

データの制限の定義の作成

- ▶ データの制限の定義を作成するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「データの制限」を選択します。
「データの制限」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 列の選択から、データを制限する列を選択します。
 - 3 演算子から、演算子を選択します。
 - 4 オペランドから、オペランド(値、列のデータ値または欠落した値)を選択します。
 - 5 選択したオペランドに応じて、アクションを実行します。
 - 値 - データ値を値として入力します。
 - 列のデータ値 - 関連するリストから、列を選択します。
 - 欠落した値 - 何も行いません。
 - 6 「追加」をクリックします。

「追加」、「更新」、「削除」、「すべて削除」の4つのボタンが使用可能です。

制限条件のリストが「制限の定義」フレームに表示されます。「詳細」ボタンを使用して複合定義を作成できます。

表 109 詳細オプション

オプション	サブメニュー	説明
追加		合計サブセット定義にルールを追加します。

オプション	サブメニュー	説明
更新		選択したルールを現在のルールで置換します。
検証		合計サブセット定義のカッコの構文を確認します。
削除		合計サブセット定義からルールを除去します。
すべて削除		合計サブセット定義からすべてのルールを除去します。
接続	および	ルールの末尾に「および」を挿入します。複数のルールを追加した場合は、デフォルトで「および」が使用されます。
	または	ルールの末尾に「または」を挿入します。
移動	上へ移動	「すべてのサブセット定義」でルールを上へ移動します。
	下へ移動	「すべてのサブセット定義」でルールを下へ移動します。

- 7 オプション: 複合ルールを作成するには、詳細な接続オプションを選択し、手順 2-7 を繰り返します。
- 8 OK をクリックします。

データの制限の定義の編集

- ▶ データの制限の定義を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。
分析ツール・マネージャが表示されます。
 - 2 データの制限の定義を右クリックし、編集を選択します。
「データの制限」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 選択を行い、パラメータを定義します。
 - 4 OK をクリックします。

上位/下位のみ取得

上位/下位分析の中心になる上位/下位のみ取得分析ツールでは、OLAP クエリー結果セットのサイズおよび順序をコントロールするために、Analytic Services のサーバーに基づくソートおよびランク付けを利用します。したがって、ネットワーク・

サーバーでの大きな結果セットの送信およびクライアントでの大きな結果セットの処理が防止されます。

分析ツールの右クリック・メニューを使用して、処理済のクエリーの結果セットまたは未送信のクエリーの結果セットに「上位/下位のみ取得」を適用できます。クエリーを送信する前に、「データ・レイアウト・オプション」ボタンをクリックし、「上位/下位のみ取得」を選択します。クエリーの作成中に、新規ドキュメント・ウィザードの最後の手順を使用します。

情報パネルには、現在のドキュメントについて、Analytic Services の「上位/下位のみ取得」のすべての定義が表示されます。

サーバーに基づくソート

サーバーに基づくソートは、「上位/下位のみ取得」により、Analytic Server 上で実行されます。OLAP クエリー結果セットをクライアントに戻す前にサーバーにより実行されるため、結果セットとネットワーク・トラフィックが最小化されます。

複数、フィルタ軸メンバー

複数、フィルタのメンバー選択は、上位/下位のみ取得に影響します。

複数のフィルタ軸メンバーは、クエリー送信の前に集約されます。クライアントに基づく集約はデータ・ソース・サーバーに位置しないので、クエリーはサーバー・データ値により処理されます。クライアントの集約とサーバーに基づくソートおよびランク付け間の相違により、不定な結果セットが得られる場合があります。

注： ユーザーには、「上位/下位のみ取得」および「データの制限」を使用する場合に、フィルタで1つの次元について1つのメンバーを使用することが強く推奨されています。

表 110 「上位/下位のみ取得」ダイアログ・ボックス

コントロール	説明
列の選択	上位/下位のみ取得の定義を適用する列を指定します。
表示	結果セットを指定の基準に制限します。
最上位	関連するボックスの数値により示された最大データ値を選択します。
下	関連するボックスの数値により示された最小データ値を選択します。
ソート	
昇順	結果セットを英数字の昇順で表示します。
降順	結果セットを英数字の降順で表示します。
消去	すべての上位/下位のみ取得の定義を削除します。

上位/下位のみ取得の定義の作成

- ▶ 上位/下位のみ取得の定義を作成するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「上位/下位のみ取得」を選択します。
「上位/下位のみ取得」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 2 「列」から上位/下位のみ取得の定義を適用する列を選択します。
 - 3 上位または下位を選択し、関連するボックスで、メンバーの数を指定して、結果セットを制限します。
 - 4 昇順または降順を選択して、結果セットをソートします。
 - 5 オプション: 現在の定義からすべての選択を除去して初めからやり直すには、「消去」をクリックします。
 - 6 OK をクリックします。

上位/下位のみ取得の定義の編集

- ▶ 上位/下位のみ取得の定義を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。
分析ツール・マネージャが表示されます。
 - 2 上位/下位のみ取得の定義を右クリックし、編集を選択します。
「上位/下位のみ取得」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 選択を行い、パラメータを定義します。
 - 4 OK をクリックします。
 - 5 閉じるをクリックします。

データのフォーマットの定義の編集

- ▶ データのフォーマットの定義を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 メンバーを右クリックし、「分析ツール」、「分析ツール・マネージャ」の順に選択します。分析ツール・マネージャが表示されます。
 - 2 フォーマットの定義を右クリックし、編集ボタンを選択します。
「フォーマット」ダイアログ・ボックスが表示されます。
 - 3 選択を行い、パラメータを定義します。
 - 4 OK をクリックします。

スプレッドシート・オプション

すべてのスプレッドシートのフォーマット・オプションは、スプレッドシートのデータ・オブジェクトのショートカット・メニューからアクセスする「スプレッドシート・オプション」ダイアログ・ボックスで設定します。このフォーマット・オプションは、スプレッドシートのプリファレンスを使用することにより、以降に作成するすべてのスプレッドシートに対して設定できます。

スプレッドシート・オプション	説明
表示	
グリッド線	スプレッドシートの罫線を表示します。
透明色	セルのバックグラウンドを透明にし、スプレッドシートにバックグラウンド・イメージを表示できるようにします。
横縞	スプレッドシートの行ごとに色を付けます。
縦縞	スプレッドシートの列ごとに色を付けます。
バックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、背景色を設定できます。
背景イメージ	「グラフィックの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
横縞の色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、横縞の色を選択できます。
縦縞の色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、縦縞の色を選択できます。
ヘッダー	
行の高さを指定	スプレッドシートの行の高さ(20-200 ポイント)を設定します。
行のタイトル	ネストした行の列ヘッダーを表示します。
行ヘッダーの配置	行ヘッダーを左、中央、右に配置したり、世代に基づいてインデントします。
インデントの大きさ	次元の階層の最上位から各レベルの行ヘッダーをインデントするピクセルの数を指定します。
「行グループの配置」ドロップダウン・リスト	行をグループとしてセル内の上部、中央、下部に配置します。
ヘッダーのフォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーのフォントとフォーマットを選択できます。
ヘッダーのバックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーのバックグラウンド色を選択できます。
ヘッダーのサンプル	ヘッダーの現在のフォーマットが表示されます。
列ヘッダーの配置	列ヘッダーの配置; 中央(デフォルト)、左または右
データ	
テキストの配置	テキスト・データ値の配置の設定: 左、中央および右。

スプレッドシート・オプション	説明
値の配置	数値データ値の配置の設定: 左、中央および右。
セルのフォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、データ値のフォントとフォーマットを選択できます。 注：フォントのサイズは最大 100 ポイントまでです。
セルのバックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、セルのバックグラウンド色を設定できます。縞は上書きされません。
セルのサンプル	データ値の現在のフォーマットが表示されます。

列のサイズ

列の幅を個別に設定したり、同じにしたり、デフォルトに戻したりできます。

列の幅を変える前に、「プリファレンス」または「スプレッドシート・オプション」ダイアログ・ボックスのいずれかで「ヘッダーの固定」フォーマット・オプションを使用可能にする必要があります。

各列の幅の設定

- ▶ 列の幅を変更するには、次の手順に従います。
 - 列ヘッダーを右クリックし、ショートカット・メニューから「列のサイズ」、「幅の指定」の順に選択します。「列の幅」ダイアログ・ボックスが表示されたら、目的の列幅をピクセル単位で入力します。デフォルトは 75 ピクセルです。

すべての列を同じ幅に設定

- ▶ すべての列を同じ幅に設定するには、次の手順に従います。
 - 1 単一の列の幅を変更するには、次の手順に従います。
 - 2つの列ヘッダー間の枠線にマウスを合わせます。カーソルが二重の矢印に変化したら、列の枠線をドラッグして列の幅を調整します。
 - 列ヘッダーを右クリックし、ショートカット・メニューから「列のサイズ」、「列の幅の指定」を選択します。「列の幅」ダイアログ・ボックスが表示されたら、目的の列幅をピクセル単位で入力します。
 - 2 選択した列の幅を正しく設定したら、その列を右クリックして、「列のサイズ」、「すべての列をこの幅に設定」の順に選択します。

残る列のサイズは、選択した列の幅に自動的に変更されます。

列の幅の自動サイズ調整

- ▶ ヘッダーが切り捨てられないようにすべての列の幅を自動サイズ調整するには、ヘッダーのショートカット・メニューの「列のサイズ」、「自動サイズ調整」の順に選択します。

注： 変更した列の幅を維持するには、ドキュメントを閉じる前に保存する必要があります。

ドキュメントのフォーマット

フォーマットのオプション

ドキュメントには、データ・オブジェクト内のデータ・ソースから戻されたデータ値が表示されます。複数のデータ・オブジェクトをドキュメントに含めることができます。また、各データ・オブジェクトの表示タイプは異なる場合があります。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード
- SQL スプレッドシート
- フリー・フォーム・グリッド

各表示タイプは、フォーマット・オプションを持ちます。この章では、これら2つのオブジェクトのみが EPM Workspace を通じて変更できるために、スプレッドシートとチャートのフォーマット・オプションについて説明します。

他のフォーマットの種類

- **表示タイプ** - スプレッドシートのデータ・オブジェクトをチャートまたはピンボードに変換します。
- **データ表示オプション** - データ・オブジェクトのショートカット・メニュー (またはドキュメント作成後の設定) で、ドキュメントの動作を設定します。
- **フォーマットのオプション** - 次元のヘッダーおよびセルの範囲をフォーマットします。メンバーの選択またはセル値によりフォーマットは制限できます。フォーマット・オプションには、通貨のフォーマットおよび正負の数値のフォーマットが含まれます。409 ページの「[「フォーマット」ダイアログ・ボックス](#)」を参照してください。次に、フォーマット・オプションをいくつか示します。
 - メジャーのフォーマット (Oracle Hyperion(R) Web Analysis Studio でのみ使用可能)
 - デフォルト・フォーマット・プリファレンス
 - 特定のフォーマット

- データのフォーマット分析ツール
- セルのフォーマット

411 ページの「データのフォーマット」を参照してください。

フォーマットのスコープは、そのソースに応じて異なります。ドキュメントに適用されるすべてのフォーマット定義を確認するには、設定、分析ツール・マネージャ、情報パネル、様々なドキュメント、データ・オブジェクト、次元、セルのプロパティ設定を調べる必要があります。

フォーマットの優先順位

フォーマットは、優先順位に従って適用されます。

1. **メジャーのフォーマット** - データベース接続の次元にグローバルに適用されます。設定は、データベース接続とともに保存されます。
2. **デフォルト・フォーマット・プリファレンス** - 列と行のヘッダーおよびデータ値にグローバルに適用されます。設定はプリファレンス・ファイルに保存されます。
3. **フォーマット** - 次元メンバーのデータ・オブジェクトのショートカット・メニューからアド・ホックに適用されます。ドキュメント定義とともに保存され、予備の解析ツール定義として適用されます。409 ページの「**フォーマット**」ダイアログ・ボックス」を参照してください。
4. **データのフォーマット分析ツール** - データのフォーマット分析ツールの定義を作成、適用した後に適用されます。ドキュメントとともに保存され、分析ツール・マネージャから適用されます。
5. **セルのフォーマット** - セルの範囲にアド・ホックで適用され、ドキュメントとともに保存されます。411 ページの「データのフォーマット」を参照してください。

設定とフォーマットオプション

いくつかの同一のフォーマット・オプションおよびプリファレンスが存在します。プリファレンスは、ドキュメントに適用されたグローバルな設定です。ただし、プリファレンスはデータベース接続フォーマットおよびドキュメントに基づくフォーマットにより上書きできます。

データベース接続メジャーのフォーマット、ユーザー・プリファレンスおよび分析ツールのフォーマットに対する優先度のフォーマット順序を変更できます。たとえば、分析ツールのフォーマットを設定することで、特定のレポートに対するすべてのデータベース接続およびユーザー・プリファレンスのフォーマットを上書きできます。

フォーマットの優先順位は次の通りです。

1. ドキュメントとともに保存されるフォーマット
2. データベース接続とともに保存されるフォーマット
3. 「ユーザー・プリファレンス」ダイアログ・ボックス内で指定したフォーマット・オプション

データの表示オプション

それぞれの表示タイプには、ドキュメントの動作を指定するデータ表示オプションがあります。

- **ラベルのモード** - 管理者は、Essbase および Financial Management により複数の別名テーブルを定義できます。Web Analysis Studio により、使用する別名テーブルを指定できます。別名テーブルの選択は、データベース接続プロパティとして保存されます。[407 ページの「ラベル・モードの設定」](#)を参照してください。
- **次元ヘッダーのソート** - 次元ヘッダーのソートの定義を使用してクエリー結果セット内の列および行のヘッダーを並べ替えます。「次元ヘッダーのソート」オプションは、データ・ソースにより決定します。[408 ページの「次元ヘッダーのソート」](#)を参照してください。
- **抑制** - 欠落データおよびゼロ(さらに Essbase の場合には共有メンバー)を含む行を抑制します。「データ・レイアウト」ダイアログ・ボックス、「データの表示」ショートカット・メニューまたは OLAP Server のプリファレンスから抑制を設定できます。

データの表示オプション	説明
選択したメンバー	クエリーで作成された明示的なメンバーの選択の結果を表示します。このメンバー選択の結果は、情報パネルまたは次元ブラウザでプレビューできます。「選択したメンバー」では、データ・オブジェクト内のこの情報を表示するメソッドが提示されます。
選択したメンバーを優先	「選択したメンバー」がアクティブな場合に、クエリーで明示的に定義したメンバー選択を優先させます(左から右、または上から下)。
デフォルトのラベルのモード	ラベル・モードを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none">○ 説明○ ID○ 両方(Financial Management オプション)
次元に固有のラベルのモード	ラベル・モードのオプションを切り替えます。 <ul style="list-style-type: none">○ デフォルトの使用○ 説明○ ID○ 両方(Financial Management オプション)
エンティティ通貨の表示	エンティティ次元通貨情報の定義された Financial Management データ・ソースを使用する場合、「エンティティ通貨の表示」オプションにより、通貨値を含むエンティティ次元メンバーを追加できます。この設定は、「データ・レイアウト」オプションを使用したクエリーの前、データ表示ショートカット・メニューを使用したクエリーの後、および OLAP Server プリファレンスを使用して以降に作成するすべてのドキュメントについて設定できます。
次元ヘッダーのソート	順序オプションに従って、選択した次元を並べます。 <ul style="list-style-type: none">○ デフォルト

データの表示オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昇順 ○ 降順 ○ レベル(OLAP のみ) ○ 世代(OLAP のみ) ○ 選択順(リレーショナルのみ) <p>「デフォルト」オプションは、データ・ソースのアウトラインにより次元メンバーが自然に並べられる順序です。このオプションを使用することにより、パフォーマンスが向上する場合があります。</p> <p>詳細な説明については、408 ページの「次元ヘッダーのソート」を参照してください。</p>
リンクされたレポート・オブジェクトのインディケータ表示	リンク・レポート・オブジェクトの存在を示す小さなセルの三角形を表示または非表示にします。三角形は、関連コンテンツに追従します。
非表示	クエリーの結果セットから、指定されたデータを除きます。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 欠落した行 ○ 値のない列 ○ 共有メンバー ○ ゼロ行

ラベル・モードの設定

別名テーブルは、次元のメンバーの別名(説明ラベル)を保存するデータベース・テーブルです。

Essbase and Financial Management により、管理者は複数の別名テーブルを定義できます。Web Analysis Studio により、使用する別名テーブルを指定できます。別名テーブルの選択は、データベース接続プロパティとして保存されます。

別名テーブルにある次元のメンバーの ID または説明ラベルを、表示するように指定できます。

- ID 番号は、そのメンバーを他のメンバーと区別する固有の値の列です。
- 「説明」には、別名テーブルの説明が表示されます。ラベル・モードを指定しない場合、Web Analysis Studio では「説明」のラベルが使用されます。

Oracle Hyperion Financial Management, Fusion Edition のユーザーは、追加ラベル・モードのオプションを使用できます。ID ラベルと説明を表示する「両方」オプションを選択できます。

「データ・レイアウト」オプションまたは「ドキュメント作成ウィザード」の最後の手順を使用したクエリーの前、およびデータ・オブジェクトのショートカット・メニューを使用したクエリーの後で、デフォルトのラベル・モードを設定できます。次元ブラウザおよびデータ・オブジェクトのショートカット・メニューを使用して、次元で使用する説明ラベルを指定できます。

説明ラベルには別名テーブル設定の内容が使用され、データベース接続ごとおよびアクティブなユーザーごとにデータベース・ユーザー・プリファレンスとして保存されます。

▶ 現在のデータベース接続のラベルのデフォルトのモードを設定するには、次の手順に従います。

- 1 次元ヘッダーを右クリックします。
- 2 次に、データの表示を選択します。
- 3 ドロップダウン・リストからデフォルトのラベルのモードを選択します。
- 4 ID または説明を選択します。

▶ 次元のラベルのモードを設定するには、次の手順に従います。

- 1 次元ヘッダーを右クリックします。
- 2 次に、データの表示を選択します。
- 3 ドロップダウン・リストから次元名の「(次元名)ラベルのモード」を選択します。
- 4 デフォルトの使用」、「ID または説明を選択します。

「デフォルト」ラベル・モードでは、デフォルトのラベル・モードを表示するその他すべての次元とともに、選択した次元のラベル・モードが調整されます。デフォルトのラベル・モードは、「データ・レイアウト」を通じたクエリーですべての次元に対して、および次元ブラウザまたは「データの表示」ショートカット・メニューにより次元ごとに設定できます。

次元ヘッダーのソート

次元ヘッダーのソートの定義を使用してクエリー結果セット内の列および行のヘッダーを並べ替えることができます。「次元ヘッダーのソート」オプションは、データ・ソースにより決定します。

たとえば Essbase により、列および行をデフォルト、昇順、降順、レベルまたは世代の順序で並べることができます。デフォルトの順序は、データ・ソースのアウトラインに基づいて次元メンバーが戻される自然な順序です。

▶ 次元ヘッダーのソート定義を表示するには、次の手順に従います。

- 1 次元のメンバーのヘッダーを右クリックし、「データの表示」、「次元ヘッダーのソート」を選択します。

「次元ヘッダーのソート」サブメニューが表示されます。

- 2 デフォルト」、「昇順」、「降順」、「レベルまたは世代のいずれかを選択します。

関連次元ヘッダーのソート

リレーショナル SQL クエリーにより戻された結果セットは、昇順、降順、選択順序またはデフォルトの順序で並べることができます。デフォルトでは、データ・ソースのアウトラインに基づいてメンバーが返されます。選択順序は、次元ブラウザ内でのメンバーの選択順序です。

OLAP サーバーの場合とは異なり、リレーショナル・キューブは Web Analysis Studio によりコンパイルされ、ラベル・モード、別名テーブルおよび選択順序は手動で調整します。別名によるソートは、デフォルトのクエリー結果セットが ID によりソートされるために、比較的低速になる場合があります。別名によるソートでは、完全なクライアント側の再ソートが必要になります。

リレーショナル次元ヘッダー・ソートのソースは、パフォーマンスに影響します。「データ・レイアウト」を使用したリレーショナル次元ヘッダーのソートを定義すると、現在のクエリー結果セットの一環として、すべての次元をソートするように Web Analysis Studio に指示されます。

または、「データの表示」>「次元ヘッダーのソート」でデータ・オブジェクトのショートカット・メニューを使用して、関連次元をソートする場合には、次元ヘッダーを選択する必要があります。

最後に、世代エディタで定義されたリレーショナル世代に次元ヘッダーのソート定義を適用できます。この定義は、次元ブラウザのソート順序にのみ影響します。また、「並び順」ドロップダウン・リストを使用して、ID または別名により順序を指定できます。

「フォーマット」ダイアログ・ボックス

「フォーマット」ダイアログ・ボックスでは、フォーマットを適用するメンバーを指定します。

- メンバー別のヘッダーのフォント・プロパティ
- メンバー別のデータ値のフォーマットおよびフォント・プロパティ
- 選択した次元のメンバーのフォーマットの編集
- デフォルト・フォーマット・プリファレンスに戻す。

コントロール	説明
選択	クエリー内の次元およびメンバーのリストを示します。表示される次元は、「フォーマット」ダイアログ・ボックスが呼び出されたコンテキストに基づきます。たとえば、「フォーマット」を行から呼び出した場合は、行のすべての次元およびメンバーが表示されます。セルからフォーマットを呼び出した場合は、クエリー内のすべての次元およびメンバーがリストに示されます。
詳細	「次元」パネルを表示して、次元を選択するか選択を解除し、特定の次元の組合せにフォーマットを適用できます。この操作は主に、列または行に複数の次元が存在する場合に行います。
動的参照	レポートからメンバーを選択する代わりに、行または列の参照を選択します。フォーマットは、メンバーの選択にかかわらず適用されます。
グリッド全体に適用	定義したフォーマットをスプレッドシート・クエリー全体に適用します。選択した場合、「選択」セクションが淡色表示になり、分析ツール・マネージャに"すべてのメンバー"のフォーマット・アイテムが追加されます。
「ヘッダーのフォント」タブ	行および列のヘッダーで、メンバー・ラベル・フォントをフォーマットできます。

コントロール	説明
「データのフォント」タブ	データ・セルのフォントをフォーマットできます。定義した条件を満たす特定のデータ値に条件付きのフォントまたは数値のフォーマットを適用できます。
「データ・フォーマット」タブ	通貨/接頭辞/接尾辞などの特定のデータ値、その他の数値フォーマットにフォーマットを適用します。定義した条件を満たす特定のデータ値に条件付きのフォントまたは数値のフォーマットを適用できます。
条件付きフォーマット	オペランドを選択するドロップダウン・リストおよび値のテキスト・ボックスで定義された条件に基づいて、次元の選択メンバーの条件付きフォーマットを使用可能にします。
条件付きフォーマット - 「オペランド」ドロップダウン・リスト	条件付きフォーマットのオペランド(>, >=, =, <=, <, または<>)を指定します。
条件付きフォーマット - 「値」テキスト・ボックス	条件付きフォーマットの値を指定します。
デフォルトに戻す	「デフォルト・フォーマット」プリファレンスで指定されている設定に戻します。

フォーマットの動作

「フォーマット」ダイアログを開く前に選択していたメンバーに対する動作は次のとおりです。

- 列または行のヘッダーを右クリックして「フォーマット」を選択した場合、行または列のメンバーの選択についてコンテキストが自動的に完了されます。このコンテキストは編集でき、異なるメンバーの選択が可能です。
- セルを右クリックして「セルのフォーマット」を選択した場合、メンバーのセルの交差についてコンテキストが完了されます。このコンテキストは編集できません。
- 列または行のヘッダーを右クリックして選択し、「分析ツール」>「フォーマット」を選択した場合、コンテキストが完了することなく「フォーマット」ダイアログが開きます。
- レポートの次元内にあるメンバーの数が 25 を超える場合、次元の親ノードが縮小されます。親ノードを展開する場合は、親ノードをクリックします。
- 行または列に複数の次元が含まれる場合、単一の次元または複数の次元から選択できます。

動的参照の使用方法

レポートからメンバーを選択する代わりに、動的参照を使用して行または列の参照を選択できます。フォーマットは、メンバーの選択にかかわらず適用されます。また、次の動作が適用されます。

- メンバーがドリルされている場合、そのメンバーのフォーマットが伝搬されます。

- スワップまたはピボットが実行されている場合、可能であればフォーマットが伝搬されます。

次のトピックで、フォーマットについて説明します。

- [411 ページの「フォーマット定義の作成」](#)
- [411 ページの「データのフォーマット」](#)

フォーマット定義の作成

▶ フォーマット定義を作成するには、次の手順に従います。

- 1 列または行の次元ヘッダーを右クリックします。
- 2 フォーマットを選択します。
「フォーマット」ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 オプション。「次元」パネルを表示するには、詳細をクリックします。
- 4 次元を選択するには、該当するチェック・ボックスをクリックします。
「次元」パネルから1つの次元を選択すると、対応する次元のメンバーが「組合せ」パネルに表示されます。
「次元」パネルから複数の次元を選択すると、次元メンバーの集合が「組合せ」パネルに表示されます。
- 5 次元のメンバーを指定するには、組合せパネルのチェックボックスをオンにします。
- 6 フォーマットを定義するには、次のいずれかのアクションを行います。
 - 次元の選択メンバーのヘッダー・セルのフォントのプロパティを指定するには、「ヘッダーのフォント」タブをクリックします。
 - 次元の選択メンバーのデータ・セルのフォントのプロパティを指定するには、「データのフォント」タブをクリックします。
 - 前端および後端のテキストおよび数値のフォーマットを指定するには、「データ・フォーマット」タブをクリックします。[411 ページの「データのフォーマット」](#)を参照してください。

注：「データのフォント」タブおよび「データ・フォーマット」タブに条件付きのフォーマットが提示され、フォーマットの定義を見直すことができます。「条件付きフォーマット」を選択した後、オペランドを選択し、値を指定します。

- 7 OK をクリックし、次元メンバー選択のフォーマット定義プロパティを受け入れます。

フォーマットの定義が現在のドキュメントに適用されます。また後でフォーマットの定義を参照できるように、分析ツール・マネージャにも追加されます。

データのフォーマット

「データ・フォーマット」タブでフォーマットを定義します。

フォーマットのオプション	説明
条件付きフォーマット	オペランドを選択するドロップダウン・リストおよび値のテキスト・ボックスで定義された条件に基づいて、次元の選択メニューの条件付きフォーマットを使用可能にします。
欠落した値を次と置換	欠落データをゼロまたは指定のテキストに置換できます。
先行文字と後続文字のフォーマット	
通貨記号	「正数の接頭辞」および「負数の接頭辞」ボックスに、通貨フォーマット記号を挿入します。
正数の接頭辞	正数値の直前に付ける記号を指定します。
正数の接尾辞	正数値の直後に付ける記号を指定します。
負数の接頭辞	負数値の直前に付ける文字を指定します。 注意: デフォルトの接頭辞はマイナス記号(-)です。デフォルトの接頭辞を置換しないで削除した場合、負数値が正数として表示されることに注意してください。
負数の接尾辞	負数値の直後に付ける記号を指定します。
数値のフォーマット	
3桁ごとに区切る	数値を3桁ごとに区切って表示します。
小数点以下の最小桁数	小数点以下の最小桁数を示します。
小数点以下の最大桁数	小数点以下の最大桁数を示します。
スケール	十、百、千、万、十万、百万、十億などの省略した値で表示します。
負数に色を付ける	指定した色で負数値を強調します。
負数の色の選択	負数値を表示する色を指定します。
日付のフォーマット	それ以外の場合は、日付フォーマットを選択します。
サンプル	
サンプルの更新	最後に選択したフォーマットでサンプル・パネルを更新します。

セルのフォーマット

「セルのフォーマット」ダイアログ・ボックスでは、セルの範囲にフォーマットを設定できます。

- セルの範囲にデータ値のフォントのプロパティを設定する。
- セルの範囲にテキストおよび数値のフォーマットを設定する。
- デフォルト・フォーマット・プリファレンスに戻す。

セルのフォーマットを定義するには、スプレッドシートのセルを右クリックし、「セルのフォーマット」を選択します。

コントロール	説明
選択	セルの次元のメンバー選択ステートメントを表示します。
「データのフォント」タブ	セルのフォントのプロパティを選択できます。
「データ・フォーマット」タブ	テキストおよび数値のフォーマットを指定できます。
デフォルトに戻す	「デフォルト・フォーマット」プリファレンスで指定されている設定に戻します。

列のサイズ

列の幅を個別に設定したり、同じにしたり、デフォルトに戻したりできます。

列の幅を変える前に、「プリファレンス」または「スプレッドシート・オプション」ダイアログ・ボックスのいずれかで「ヘッダーの固定」フォーマット・オプションを使用可能にする必要があります。

各列の幅の設定

- ▶ 列の幅を変更するには、次の手順に従います。
 - 列ヘッダーを右クリックし、ショートカット・メニューから「列のサイズ」、「幅の指定」の順に選択します。「列の幅」ダイアログ・ボックスが表示されたら、目的の列幅をピクセル単位で入力します。デフォルトは75ピクセルです。

すべての列を同じ幅に設定

- ▶ すべての列を同じ幅に設定するには、次の手順に従います。
 - 1 単一の列の幅を変更するには、次の手順に従います。
 - 2つの列ヘッダー間の枠線にマウスを合わせます。カーソルが二重の矢印に変化したら、列の枠線をドラッグして列の幅を調整します。
 - 列ヘッダーを右クリックし、ショートカット・メニューから「列のサイズ」、「列の幅の指定」を選択します。「列の幅」ダイアログ・ボックスが表示されたら、目的の列幅をピクセル単位で入力します。
 - 2 選択した列の幅を正しく設定したら、その列を右クリックして、「列のサイズ」、「すべての列をこの幅に設定」の順に選択します。

残る列のサイズは、選択した列の幅に自動的に変更されます。

列の幅の自動サイズ調整

- ▶ ヘッダーが切り捨てられないようにすべての列の幅を自動サイズ調整するには、ヘッダーのショートカット・メニューの「列のサイズ」、「自動サイズ調整」の順に選択します。

注： 変更した列の幅を維持するには、ドキュメントを閉じる前に保存する必要があります。

表示タイプの変更とロック

- ▶ 現在の表示タイプを変更するには、「表示」メニューを選択し、サブメニューで表示タイプかチャートのタイプを選択します。
- ▶ 他のユーザーが現在の表示タイプを変更できないようにするには、次の手順に従います。
 - 1 現在のコンテンツ・タブを右クリックし、プロパティを選択します。
「プロパティ」ダイアログ・ボックスが開きます。
 - 2 詳細タブを選択します。
 - 3 ドキュメントの使用状況で、表示タイプの変更を選択します。
 - 4 OK をクリックします。

スプレッドシート・オプション

すべてのスプレッドシートのフォーマット・オプションは、スプレッドシートのデータ・オブジェクトのショートカット・メニューからアクセスする「スプレッドシート・オプション」ダイアログ・ボックスで設定します。このフォーマット・オプションは、スプレッドシートのプリファレンスを使用することにより、以降に作成するすべてのスプレッドシートに対して設定できます。

スプレッドシート・オプション	説明
表示	
グリッド線	スプレッドシートの罫線を表示します。
透明色	セルのバックグラウンドを透明にし、スプレッドシートにバックグラウンド・イメージを表示できるようにします。
横縞	スプレッドシートの行ごとに色を付けます。
縦縞	スプレッドシートの列ごとに色を付けます。
バックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスが表示され、背景色を設定できます。
背景イメージ	「グラフィックの選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。

スプレッドシート・オプション	説明
横縞の色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、横縞の色を選択できます。
縦縞の色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、縦縞の色を選択できます。
ヘッダー	
行の高さを指定	スプレッドシートの行の高さ(20-200 ポイント)を設定します。
ヘッダーの固定	セルを独立してスクロールしている間、列の次元ヘッダーを所定の位置に維持します。注: 「列のサイズ」に対して「固定ヘッダー」が使用可能であることが必要です。
行のタイトル	ネストした行の列ヘッダーを表示します。
行ヘッダーの配置	行ヘッダーを左、中央、右に配置したり、世代に基づいてインデントします。
インデントの大きさ	次元の階層の最上位から各レベルの行ヘッダーをインデントするピクセルの数を指定します。
「行グループの配置」ドロップダウン・リスト	行をグループとしてセル内の上部、中央、下部に配置します。
ヘッダーのフォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーのフォントとフォーマットを選択できます。
ヘッダーのバックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、ヘッダーのバックグラウンド色を選択できます。
ヘッダーのサンプル	ヘッダーの現在のフォーマットが表示されます。
列ヘッダーの配置	列ヘッダーの配置; 中央(デフォルト)、左または右
データ	
テキストの配置	テキスト・データ値の配置の設定: 左、中央および右。
値の配置	数値データ値の配置の設定: 左、中央および右。
セルのフォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、データ値のフォントとフォーマットを選択できます。 注: フォントのサイズは最大 100 ポイントまでです。
セルのバックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、セルのバックグラウンド色を設定できます。縞は上書きされません。
セルのサンプル	データ値の現在のフォーマットが表示されます。

チャートとチャートのタイプ

チャートは、スプレッドシート・データのグラフィックによる表現です。その視覚的な特性から、迅速な分析、カラー・コーディングおよび比較に役立つキューが実現します。

チャート・タイプに応じて、チャートでは1-4次元を表示できます。円グラフでは1次元のみが表示されます。4象限チャートでは、より複合的な表示が可能になります。

次のタイプのチャートを使用できます。

チャート・タイプ	比較
棒	類似した要素の比較に使用し、垂直棒で要素を表します。
線	時間の経過するアイテムに使用します。
帯グラフ	ドキュメントを帯グラフで示します。
円グラフ	合計に寄与する割合を示します。
面グラフ	時間の経過するアイテムに使用します。
曲線面グラフ	時間の経過に伴って変化するアイテムに使用し、値をカーブした面で示します。
水平棒グラフ	類似した要素を比較します。
マーク	時間の経過するアイテムに使用します。
パレート図	データのトレンドを表します。
ボックス	ドキュメントをボックス・プロットのチャートで表します。
4象限チャート	1つの次元の2つのメンバーの時間の経過を表します。
バブル・チャート	ドキュメントをバブル・チャートで示します。

チャートの軸には、最初の50個までのメンバーしか配置できません。

4象限チャート

4象限チャートでは、少なくとも1つの次元を列の軸、少なくとも2つの次元を行の軸に配置する必要があります。それ以外の次元-軸の配置ではエラー・メッセージが表示されます。

バブル・チャート

バブル・チャートでは3つの次元が必要です。列の軸には1つの次元のみを配置できます。行の軸には1つまたは2つの次元を配置できます。列の軸に配置された次元には2つの列が必要です。こうした列は、2つの次元のメンバーを選択したか、または1つの次元のメンバーとともに計算列を含めた結果であってもかまいません。最初の2列の値は、チャートをプロットするために必要なX値とY値です。

3番目の列は、バブル・サイズを決定するZ値です。3番目の列が使用可能でない場合は、バブルのサイズを決定するために定数100が使用されます。

チャートのプロパティ

データ・オブジェクトのショートカット・メニューを使用して、次のトピックで説明する「チャートのプロパティ」にアクセスします。

- 417 ページの「全般チャート・プロパティ」 - 効果、オブジェクトの枠線、チャートの背景、および凡例に関するオプション。
- 418 ページの「チャートのタイトル・プロパティ」 - チャートのタイトルのオプション。
- 418 ページの「軸チャートのプロパティ」 - 軸、数値フォーマット、グリッド線、スケールおよびラベルに関するオプション。
- 419 ページの「セットの効果チャート・プロパティ」 - チャートの動作および枠線のフォーマットに関するオプション。
- 420 ページの「シリーズ・チャート・プロパティ」 - チャートのオブジェクトのプロパティに関するオプション。
- 421 ページの「円グラフのプロパティ」 - 円グラフに関するオプション。
- 421 ページの「チャートのバブル・プロパティ」 - バブル・チャートに関するオプション。

全般チャート・プロパティ

コントロール	説明
レイアウト	
チャート・タイプ	チャート・タイプ(棒、折れ線、スプライン、円、面、曲線面、水平棒、丸点、パレート、複合、ボックス、4 象限およびバブル)を設定できます。
上下に重ねる	チャート・オブジェクトを整列できます(横並び、積重ねおよび上下に重ねる(100%))。
プロット領域の左余白	プロット領域の左余白を指定します。
プロット領域の右余白	プロット領域の右余白を指定します。
効果	
3D	チャート・オブジェクトを 3 次元モデルで表します。
アンチエイリアス・フォント	アンチ・エイリアス・フォントの使用を使用可能または使用不可にします。アンチ・エイリアス・フォントではより明瞭になりますが、元のフォント・スタイルと異なる場合があります。
Z 軸に沿って並べる	チャート・オブジェクトを 3 次元空間の Z 軸に沿って配置します。
Z 軸のラベルの表示	Z 軸に沿ってラベルを表示します(前から後)。この機能は、チャートがクラスタ化されている場合で、棒、水平棒、パレートおよび複合チャートのタイプでのみ使用可能です。長い Z 軸方向のラベルは、チャートの余白によって途切れる場合があります。

コントロール	説明
バックグラウンド	
バックグラウンド色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、チャートのバックグラウンド色を選択できます。
プロット領域の色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、プロット領域のバックグラウンド色を選択できます。
凡例	
凡例の表示	チャートの凡例が表示されます。
位置設定	凡例をチャートの上、左、下、または右に配置します。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、凡例のバックグラウンド色を選択できます。
フォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。

チャートのタイトル・プロパティ

コントロール	説明
ヘッダーのタイトル	ヘッダーのタイトルのテキストを設定します。
フッターのタイトル	フッターのタイトルのテキストを設定します。
左のタイトル	左のタイトルのテキストを設定します。
右のタイトル	右のタイトルのテキストを設定します。
フォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。

軸チャートのプロパティ

コントロール	説明
軸	現在の軸を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ● X軸:X軸パラメータを表示するように設定します。 ● Y軸:Y軸パラメータを表示するように設定します。 ● セカンダリY軸:「軸」タブでセカンダリY軸パラメータを表示するように設定します。「系列」タブ、「セカンダリY軸に割当て」を参照してください。
軸の表示	現在の軸を表示します。
スケール	
自動計算	データ値に基づいて現在の軸が自動計算されるようにします。
最小値から開始する	数値ラベルを最小値から始めるかどうかを指定します。

コントロール	説明
最小	現在の軸の最小値を設定します。
最大	現在の軸の最大値を設定します。
手順	現在の軸のスケールに目盛を設定します。
スケール	現在の軸をスケールする倍率(「なし」、「十」、「百」、「千」、「万」、「十万」、「百万」または「10 億」)を指定できます。
グリッド・ライン	
グリッド・ラインの表示	現在の軸にグリッド・ラインを表示します。
スタイル	いずれかのスタイル(実線、ダッシュ、ドットおよび一点鎖線)を使用してグリッド線を表示します。
加重	グリッド・ラインの幅を(1-8 ピクセル)設定します。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、グリッド・ラインの色を選択できます。
数値のフォーマット	
小数位	データ値を示す小数点以下の桁数(0-10)を設定します。
フォーマット	データ値のフォーマット(を設定します)。
通貨記号	通貨フォーマット記号を挿入します。
ラベル	
ずらして配置	大きなラベルでも表示できるように、ラベルを互い違いに並べます。
角度	現在の軸からラベルを延ばす角度(0 - 360 度)を指定します。
フォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。

セットの効果チャート・プロパティ

セットの効果チャート・プロパティは、一般にすべてのチャート・オブジェクト・セットに影響します。セット・チャート・プロパティは、特定のセットにのみ適用されます。

コントロール	説明
チャート	
表示するグループの数	表示するチャート・オブジェクト・グループの数を指定します。
すべての次元のチャート化	<p>チャートのタイプに合わせてネストされた次元をチャートにして、各組合せをシリーズとして表示します。</p> <p>チャート・タイプの要件は、次元メンバーの位置および番号により異なります。次元のメンバーが要件を超過する場合、所定のチャート・タイプを表示できるように、超過する次元がページ軸に再配置されます。「すべて</p>

コントロール	説明
	の次元のチャート化」を有効にすると、Oracle Hyperion(R) Web Analysis Studioで、ネストした次元が表示され、各組み合わせセットが系列として表示されます。

枠線

枠線の表示	チャート・オブジェクトの枠線またはアウトラインを表示します。
スタイル	いずれかのスタイル(実線、ダッシュ、ドットおよび一点鎖線)を使用してチャート・オブジェクト枠線を表示します。
幅	チャート・オブジェクトの枠線の幅(1-8 ピクセル)を設定します。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、枠線の色を選択できます。

シリーズ・チャート・プロパティ

コントロール	説明
シリーズ	現在の次元のメンバーを示すチャート・オブジェクトのセットを指定します。

スタイル

セットの表示	現在のセットを表示します。
タイプ	複数のチャート・タイプが使用可能である場合、セットのチャート・タイプを設定します(棒、折れ線、面、スプラインおよび曲線面)。
Shape	セット・チャート・オブジェクトをいずれかの形状(棒、円柱、ひし形棒または三角形棒)に設定します。
色	「塗りつぶしのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、チャート・オブジェクトの色、塗りつぶすパターンまたはグラデーションを設定できます。
第二Y軸に割当て	第二Y軸に現在のセットを表示します。

マーカー

スタイル	セットにいずれかのマーカーを設定します(なし、正方形、円、上向き三角形、ひし形、十字、下向き三角形または複数チャート・タイプ)。
サイズ	セットのマーカーのサイズを設定(1-20 ピクセル)します。

点の値

値の表示	データ値をセットとともに表示します。
フォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。
角度	現在のセットから値のラベルを延ばす角度(0-360 度)を指定します。

線

スタイル	いずれかのスタイル(実線、ダッシュ、ドットおよび一点鎖線)を使用してチャート・オブジェクト枠線を表示します。
------	--

コントロール	説明
幅	チャート・オブジェクトの枠線の幅(0-8 ピクセル)を設定します。
選択項目をすべてに適用	現在のセットのパラメータをすべてのセットに設定します。

幅がゼロ(0)ピクセルの線

折れ線チャートでは、線の幅として 0 を指定でき、これにより折れ線チャートを丸点チャートとして表示できます。これは、**2次元折れ線**、4象限、複合チャート、スプライン、面および曲線面のグラフ・タイプにのみ適用されます。

円グラフのプロパティ

コントロール	説明
値	
値	円グラフの現在の扇形を示します。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、現在の扇形の色や、塗りつぶすパターンまたはグラデーションを設定できます。
ラベル	
値の表示	扇形の示すデータ値を表示します。
位置設定	ラベルを表示する場所(「円の内側」または「円の外側」)を指定します。
フォント	「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。
複数円グラフの表示	1つのドキュメント上に複数の円グラフを表示するようにページ次元を設定します。

チャートのバブル・プロパティ

バブル・チャートでは3つの次元が必要です。列の軸には1つの次元のみを配置できます。行の軸には最大で2つの次元を配置できます。列の軸に配置された次元には2つの列が必要です。こうした列は、2つの次元のメンバーを選択したか、または1つの次元のメンバーとともに計算列を含めた結果であってもかまいません。最初の2列の値は、チャートをプロットするために必要な X 値と Y 値です。

3番目の列は、バブル・サイズを決定する Z 値です。3番目の列が使用可能でない場合は、バブルのサイズを決定するために定数 100 が使用されます。

コントロール	説明
効果	

コントロール	説明
マーカーのスタイル:	オプション(なし、正方形、円、上向き三角形、ひし形、十字、下向き三角形、または複数)を使用して表示されるバブル・チャートを設定します。
最大サイズ:	バブル・オブジェクトの最大サイズをポイントで指定します。
点の表示	中心点を表示します。
点の色	中心点の色を設定します。
値	
X軸のメンバーの値:	X軸にプロットする次元のメンバーを指定します。
Y軸のメンバーの値:	Y軸にプロットする次元のメンバーを指定します。
Z値:	
定数	3列目が利用可能でない場合に、オブジェクトのサイズが一致するように、バブル・チャート・オブジェクトのサイズを決める定数を設定します。
Z軸のメンバーの値:	バブル・チャート・オブジェクトのサイズを決める3列目を指定します。
スケール	
最小スケール:	バブル・オブジェクト・サイズが「最大サイズ」の制限に達した場合の最小バブル・サイズを設定します。
最大スケール:	バブル・オブジェクト・サイズが「最大サイズ」の制限に達した場合の最大バブル・サイズを設定します。
スケールの対象:	スケールの対象を、面積または直径に設定します。
枠線	
枠線の表示	バブル・チャート・オブジェクトの枠線を表示または非表示にします。
色のトラフィック・ライトの使用	トラフィック・ライト定義で指定された色をバブル・オブジェクトの枠線で使用するように設定します。トラフィック・ライト定義を持つ1つの次元のみをX軸に配置できます。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスが表示されます。
枠線の幅:	枠線の幅をピクセル単位で設定します。

色の選択

「色の選択」ダイアログ・ボックスでは、オブジェクト、フォント、およびコンポーネントの色を設定できます。

コントロール	説明
「サンプル」タブ	

コントロール	説明
最新	最後に選択された色を表示します。
マウスを動かしたときの RGB の値	色の上でマウスを動かしたときに、R(赤)、G(緑)、B(青)の色の値を表示します。
「HSB」 タブ	
色相	現在の色の色相(比率)を設定します。
彩度	現在の色の彩度(比率)を設定します。
輝度	現在の色の輝度(比率)を設定します。
赤	現在の色の赤の値を表示します。
緑	現在の色の緑の値を表示します。
青	現在の色の青の値を表示します。
「RGB」 タブ	
赤	現在の色の赤の値を表示します。
緑	現在の色の緑の値を表示します。
青	現在の色の青の値を表示します。
プレビュー	現在の色の適用結果を表示します。

フォントのプロパティ

「フォントのプロパティ」ダイアログ・ボックスで、フォントとそのフォーマットを選択できます。

コントロール	説明
フォント	フォントを設定します。
サイズ	フォントのポイント・サイズを設定します。注: フォントのサイズは 100 ポイントに制限されています。
フォント・スタイル	
太字	太字 で表示します。
斜体	斜体で表示します。
色	「色の選択」ダイアログ・ボックスで、フォントの色を選択できます。
テキストのサンプル	現在選択しているフォントを表示します。

計算

計算の乗算(クライアント側の計算済メンバー)としてメンバーを作成し、計算の編集、削除および分析を行うことができます。

分析ツール・マネージャの計算定義の順序により、複合的な計算の実行順序が決まります。この順序を変更するには、定義を選択し、上下の矢印をクリックします。

このコンテキストでの計算分析ツールのオプションについては、[429 ページ](#)の「[計算式の作成](#)」を参照してください。

平均

- 「**実行される機能**」: 引数の合計値を引数の数で除算します
- **引数の数**: 複数のメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**..: 欠落した値を 0 に設定し、引数の数に含めるかどうかを選択できます。

例: Actual(実績)が 100 で、Budget(予算)が 200 の場合は、Actual と Budget の平均は 150 です。

累積

- 「**実行される機能**」: 累計
- **引数の数**: 1 つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を 0 に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に Actual(実績)、行に Colas(コーラ)、Root Beer(ルート・ビア)および Cream Soda(クリーム・ソーダ)を含むスプレッドシートを考えます。これらの製品の実績値が 100、200、300 である場合、累積値は 100、300、600 です。

平均との差

- 「**実行される機能**」: 平均値と出現引数の差
- **引数の数**: 1 つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を 0 に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に Actual(実績)、行に Colas(コーラ)、Root Beer(ルート・ビア)および Cream Soda(クリーム・ソーダ)を含むスプレッドシートを考えます。これらの製品の実績値が 200、300、200 である場合、平均は 200、平均との差は-100、0、100 です。

除算

- 「**実行される機能**」: 除算
- **引数の数**: 1 つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を 0 に設定するかどうかを選択できます。

線形回帰

- 「**実行される機能**」: 直線回帰。指定した引数をすべて調べ、線形回帰アルゴリズムを使用して、すべての引数を通る「直線」を求めます
- **引数の数**: 1つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を計算時に0に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に Actual(実績)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。期間の実績値が 100、300、600 である場合、直線回帰値は 83、333、58 です。値の差が一定(250)であることに注意してください。シーケンス内のすべてのポイントが調整されます。これらの数値のチャートでは、元のデータ・ポイントと交差する直線が得られます。

最大

- 「**実行される機能**」: 複数の引数の中から、最大値を持つメンバーの名前または既存の計算式を戻します
- **引数の数**: 複数のメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に East(東部)および West(西部)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。East(東部)値が 100、300、600、West(西部)値が 200、200、300 である場合、最大値は West(西部)、East(東部)、East(東部)です。

最大値

- 「**実行される機能**」: 複数の引数の中から、最大値を持つメンバーの値または既存の計算式を戻します
- **引数の数**: 複数のメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に East(東部)および West(西部)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。East(東部)値が 100、300、600、West(西部)値が 200、200、300 である場合、最大値は 200、300、600 です。

最小

- 「**実行される機能**」: 複数の引数の中から、最小値を持つメンバーの名前または既存の計算式を戻します
- **引数の数**: 複数のメンバーまたは既存の計算。
- **オプション**: 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に East(東部)および West(西部)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。East(東部)値が 100、300、600、West(西部)値が 200、200、300 である場合、最小値は East(東部)、West(西部)、West(西部)です。

最小値

- 「実行される機能」: 複数の引数の中から、最小値を持つメンバーの値または既存の計算式を戻します。
- 引数の数: 複数のメンバーまたは既存の計算。
- オプション: 欠落した値を 0 に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に East(東部)および West(西部)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。East(東部)値が 100、300、600、West(西部)値が 200、200、300 である場合、最小値は 100、200、300 です。

乗算

- 「実行される機能」: 乗算
- 引数の数: 2つのメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- オプション: 引数である定数(2つではなく1つの既存のメンバーまたは計算を操作する場合)および欠落した値を 0 に設定するかどうか。

パーセント

- 「実行される機能」: 割合(%)を求める式
- 引数の数: 2つのメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- オプション: 引数である定数(2つではなく1つの既存のメンバーまたは計算を操作する場合)および欠落した値を 0 に設定するかどうか。

例: 列に Actual(実績)および Budget(予算)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。Actual(実績)値が 100、300、600、Budget(予算)値が 200、200、400 である場合、パーセンテージ値(予算に対する実績%)は 50、150、150 です。

平均との差(%)

- 「実行される機能」: 平均のパーセンテージ値として表示される平均との差
- 引数の数: 1つのメンバーまたは既存の計算。
- オプション: 欠落した値を 0 に設定するかどうかを選択できます。

例: 列に Actual(実績)、行に Colas(コーラ)、Root Beer(ルート・ビア)および Cream Soda(クリーム・ソーダ)を含むスプレッドシートを考えます。これらの製品の実績値が 200、300、200 である場合、平均は 200、「平均との差(%)」列は-50、0、50 です。

差(%)

- 「実行される機能」: 差異のパーセンテージを求める式

- **引数の数:** 2つのメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 引数である定数(2つではなく1つの既存のメンバーまたは計算を操作する場合)および欠落した値を0に設定するかどうか。

例: 列に Actual(実績)および Budget(予算)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。Actual(実績)値が 100、300、600、Budget(予算)値が 200、200、400 である場合、差のパーセンテージ値(Actual(実績)%、Budget(予算)差分) $((\text{Actual(実績)} - \text{Budget(予算)}) / \text{Budget(予算)}) * 100$ により計算されます。は、-50、50、50 です。

メンバーの割合

- **「実行される機能」:** 別のメンバー引数に対するパーセンテージであるメンバー引数。2番目の引数は、反対軸で交差するメンバーにより定義されます。
- **引数の数:** 複数のメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。
- **手順:** 「関数」リストの「メンバーの割合(%)」を選択し、メンバーの引数を選択して、「相対するメンバー」リストから反対軸のメンバーを選択します。

合計(%)

- **「実行される機能」:** 合計のパーセンテージ
- **引数の数:** 1つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション:** なし。

例: 列に Actual(実績)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)を含むスプレッドシートを考えます。Actual(実績)値が 100、300、600 である場合、合計のパーセンテージ値は 10、30 および 60 です。

昇順および降順のランク付け

- **「実行される機能」:** ランク付け
- **引数の数:** 1つのメンバーまたは既存の計算。
- **オプション:** 昇順または降順(デフォルト)。昇順の場合、最小値が1にランク付けられます。降順の場合、最大値が1にランク付けられます。

例: 列に Actual(実績)、行に Jan(1月)、Feb(2月)、Mar(3月)、Actual(実績)値として 100、300、600 を含むスプレッドシートを考えます。降順を選択した場合、ランク値は 3、2、1 です。昇順を選択した場合、ランク値は 1、2、3 です。

減算

- **「実行される機能」:** 減算

- **引数の数:** 複数のメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

合計

- 「**実行される機能**」: 合計。
- **引数の数:** 複数のメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

トレンド

- 「**実行される機能**」: 直線回帰に基づくトレンド。直線回帰計算により元のデータ系列ポイント間でプロットされる直線の勾配
- **引数の数:** 複数のメンバーまたは既存の計算。
- **オプション:** 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

差異

- 「**実行される機能**」: Financial Intelligence のアカウント・メタデータを使用して Financial Management の費用と負債アイテムを負数に解釈する引き算
- **引数の数:** 複数のメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 欠落した値を0に設定するかどうかを選択できます。

差異の割合(%)

- 「**実行される機能**」: Financial Intelligence のアカウント・メタデータを使用して Financial Management の費用と負債アイテムを負数に解釈する差異の割合を求める式
- **引数の数:** 2つのメンバーまたは既存の計算、または1つのメンバーまたは既存の計算と定数。
- **オプション:** 引数である定数(2つではなく1つの既存のメンバーまたは計算を操作する場合)および欠落した値を0に設定するかどうか。

複雑な計算

Oracle では、複雑な計算をコンポーネントに分割したうえで、そのコンポーネントを組み合わせて複雑な計算を行うことをお勧めしています。

例: A、B および C がメンバーである場合に、 $(A + B) / (C \times 2)$ の計算を行うには、計算式を次のステップに分割します。

- A + B の合計を設定し、それに「Step 1」の名前を付けます。

- C x 2 の乗算を設定し、それに「Step 2」の名前を付けます。
- Step 1 の結果を Step 2 の結果で除算する計算を設定し、それに「Step 3」の名前を付けます。
- 「メンバーのみ表示」を使用して、Step 1 と Step 2 を非表示にします。メンバーのみ表示、計算のみ表示、両方を表示の間で切り替えを行う場合は、ドキュメントの右クリック・メニューで「非表示」オプションを使用します。

計算式の作成

メンバーや関数、または演算子の組合せを使用して、「メンバー」と「関数」のタブを使用する式や演算子ボタンを作成できます。関数を使わずにメンバーや演算子で式を作成することや、メンバーと関数と演算子を1つの式にまとめることもできます。また式を手動で入力して編集すると高度な式を作成して編集することもできます。

「式の内容」という編集者フィールドで、メンバーを定義するために、多次元の式(MDX)に似た構文を使用して式を手動で入力して編集できます。しかし、メンバー定義のための構文定義は MDX フォーマットに似ていますが、MDX のステートメントは Web Analysis の計算ではサポートされていません。式は関数とメンバーの組合せを選択して作成されます。詳細は、「マニュアル式構文の使用法」を参照してください。

「切り取り」、「コピー」、「貼付け」および「検証」のツールバーのボタンは、式が「式の内容」に入力されるとアクティブになります。「検証」ボタンは式にエラーがないかどうか式の妥当性を確認し、検証が成功したかエラーがあるかをエラー・ボックスに戻します。式の結果は、「式」フィールドに表示され、「挿入」ボタンをクリックしてレポートに挿入することもできます。既存の関数は1つの式にまとめることができます。メンバーか計算式のいずれかだけを表示するか、両方を表示するかを切り替える場合には、ドキュメントのショートカット・メニューの「非表示」オプションを使用できます。

注： レポートからメンバーを選択する代わりに、動的な行または列の参照を選択できます。フォーマットはメンバー選択に関わりなく適用されます。計算式が特定の列を参照する場合、その列はメンバー選択時に削除され、その計算式は正確に行なわれます。スワップまたはピボットが実行される場合は、可能な場合に計算式は「実行」されます。

▶ 計算式を作成するには:

- 1 次元のメンバーのヘッダーを右クリックし、分析ツールを選択し、次に「計算」を選択します。

「関数」、「メンバー」、「オプション」の3つのタブを含む、「計算式の定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- メンバータブは、メンバーを選択して、式関数外の式に追加できます(例えば [Sales]-[COGS])。メンバーの選択リストでは、1つまたは複数のメンバーを選択でき、挿入をクリックすると、その式の定義に挿入できます。
- 関数タブでは、関数とメンバー選択後に式の関数を定義エリアに挿入できます。メンバーや定数は、式に追加または除去できます。関数が選択されると、

式エリアに表示されます。メンバー(または動的参照)は、各メンバーまたは参照をクリックすると式に追加でき、追加をクリックすると引数エリアに追加できます。式エリアは追加後に引数で更新されます。式が完成した後定義エリアに挿入するには、挿入をクリックします。

- 「オプション」タブでは、欠落した値と位置の選択の設定ができます。

2 この3つのタブすべてに、以下のエリアが表示されます。

- 「名前」 - 式の名前です。
- 「定義」 - その式を表示します。式を手動で入力し編集できます。「切り取り」、「コピー」、「貼付け」、「検証」ボタンを使用可能にします。
- 「算術演算子」 - 式のエレメントで実行する、加算(+)、減算(-)、乗算(*)、除算(/)、かっこ(())などの、計算の種類を表す記号を選択できます。

3 メンバータブのメンバーを使用して式を作成できます。次の手順を実行します。

- 「メンバーの選択」エリアで、メンバーを選択します。
- 「詳細」 - 選択するとすべての次元メンバーの組合せを一覧表示し、それらを式の「定義」エリアに追加します。選択解除すると、1つの次元のメンバーのみが表示されます。
- 「動的参照」 - 選択すると行または列の参照の選択を使用可能にします。

4 「挿入」をクリックして式を追加します。

5 関数を使用して式を作成するには、「関数」タブで、次の手順を実行します。

1. 計算式のタイプを「関数」リストから選択します。
2. 「引数」エリアに(?)で表示される未定義の引数を、「メンバーの選択」に含まれているメンバーで置き換えます。これは、メンバーを選択して右矢印ボタンをクリックして行います。
3. 未定義の引数(?)を値で置き換えるには、値を「定数」テキスト・ボックスに入力して、右矢印ボタンをクリックします。
4. 次元メンバーの組合せの未定義の引数を置き換えるには、「詳細」を選択して次元メンバーの組合せを表示します。次元メンバーの組合せのラベルをクリックして選択し、右矢印ボタンをクリックして未定義の引数(?)を置き換えます。
5. 「すべてのメンバー」を選択すると、利用可能なすべての次元メンバーを素早く選択できます。
6. 「挿入」をクリックすると、定義に式を含めることができます。
7. 計算式の定義が完了したら、「適用」をクリックして、「OK」をクリックします。

以下のリストで、「関数」タブのアイテムを説明します。

- 式 - 式の結果を表示します。
- 関数 - 値を加える、割る、平均値を計算するなど、あらかじめ決められた式を提供します。
- メンバーの選択 - 計算中に含めるメンバーを提供します。

- 詳細-クリックすると次元メンバーの組合せラベルを選択できます。その計算の行または列のコンテキストに多次元がある場合、「詳細」では行または列のすべての次元を表示します。選択解除すると、1つの次元からのメンバーのみが表示されます。
- すべてのメンバー-選択すると、すべての次元メンバーを選択します。
- 動的参照-行または列の参照を選択できます。
- 定数-値を入力して関数で使用できます。たとえば、合計("Qtr1", "Qtr2")の代わりに、合計("Qtr2", 155)を使用できます。
- オプション。相対するメンバー-選択すると、次元メンバーの引数を別の次元メンバーの引数の割合として評価します。2番目の引数は、反対の軸上で交差する次元メンバーで定義されます。
 - 「関数」リストからメンバーの割合を選択します。
 - 次元のメンバーの引数を選択します。
 - 相対するメンバーリストで、反対側の軸から次元のメンバーを選択します。

注： 引数のフレームの「相対するメンバー」リストは、メンバーの割合を求める場合にのみ使用可能になります。ここでは、次元メンバーの引数は別の次元メンバーの割合として評価されます。2番目の引数は、反対の軸上で交差する次元メンバーで定義されます。

6 オプションタブでは、以下を行います。

- 計算を無視-「すべてのメンバー」が選択されている場合でも計算済メンバーを方程式から除外します。
- オプション。欠落した値-欠落した値の扱い方のオプションを提供します。含む、削除、または数値とみなすなどが指定できます。
 - 含む-欠落した値を保管されているそのままの状態です。
 - 除外-欠落した値を含む引数を計算式から除去します。
 - 数値とみなす-引数に指示された値を入れます。デフォルトはゼロ(0)です。
- 位置の選択-計算済の行や列の位置を指定するオプションを提供します。
 - 前/上
 - 後/下
 - この前に挿入
 - この後に挿入
 - 挿入位置-「この前に挿入」または「この後に挿入」を選択した場合は、対応するリストから挿入位置を選択します。計算済の行または列は、指定された次元ヘッダーの前または後に挿入されます。
- 計算を無視-「すべてのメンバー」が選択されている場合でも計算済メンバーを方程式から除外します。

7 計算式の定義が完了したら、適用をクリックして、OKをクリックします。

マニュアル式構文の使用法

メンバー名にサポートされていない文字や記号が含まれている場合には、かっこ-[]で囲む必要があります。名前にこのような記号が含まれていない場合には、そのまま使用できます。以下にガイドラインをいくつか示します。

1. [New York] + West + East - 正しい
2. East + New York - 間違い。メンバー名の「New York」にスペースが含まれています。
3. 古いスタイルの構文(メンバー名が ":"で分けられている)です。メンバー名に「良い」記号のみが使用されている場合は、上級メンバーで使用できます。例を示します。

Qtr1:West + Qtr2:East - 正しい

Qtr3:New York - 間違い

4. 新しい MDX スタイルの構文では、カンマで分離されたメンバー名のリストが、"('と')"の間に含まれています。メンバー名は、シンプルなメンバーと同じルールに従って、[]内に含まれなければなりません。例を示します。

([New York], West) - 正しい

(New York, West) - 間違い

5. シンプルなメンバーと上級メンバーは 1 つの式の内容の中で混在することはできません。例を示します。

([New York], West) + East - 間違い

Qtr1:West + South - 間違い

6. スクリプト内のすべてのメンバーの詳細は、@selectAllMembers というキーワードで定義されます。例を示します。

Average(@selectAllMembers) + 1234 + [East]

7. すべてのメンバーの詳細はスクリプトで数回使用できます。例を示します。

Sum(@selectAllMembers) - 合計(@selectAllMembers) - 正しい、常にゼロ

8. 動的参照は次の方法で指定できます。行の場合は@row<ROW NUMBER>、列の場合は@col<COLUMN NUMBER>となります。例を示します。

@col + @col5 - @col16/100@row2 - @row3

9. 1 つの式で、行と列の動的参照が混在しないようにします。

@col + @row1 - 間違いです。エラー・メッセージが出ます。

10. 以下の制限内であれば、1 つに式でメンバーと動的参照を同時に使うことができます。軸(行または列)にいくつかの次元が含まれる場合、上級メンバーの詳細を使用すること。例を示します。

@row1 + [Qtr1] - 行の軸に含まれる次元が 1 つ - 「Year」だけの場合は正しいです。

@col2 + Qtr1:West - 列に「Year」と「Market」が含まれる場合は正しいです。

11. 相対するメンバーは、1 つの関数- Percent_of_Member にのみ使用します。@の文字は相対するメンバーより前に使用する必要があります。例を示します:

2* Percent_of_Member (Qtr1, @Colas) – 正しい

[Qtr2] + Percent_Of_Member (Qtr, @Root Beers)] – 正しい

Percent_Of_Member (Qtr1, @ [Root Beers]) – 間違い。@の後にスペースが入っています。

計算式の変更

▶ 計算式を変更するには:

- 1 次元のメンバーのヘッダーを右クリックし、分析ツール、「分析ツール・マネージャ」を選択します。

分析ツール・マネージャが表示されます。

- 2 計算式の定義をクリックします。

- 3 編集をクリックします。

選択した計算式の定義用の引数が「計算式の定義」ダイアログ・ボックスに表示されます。

- 4 オプション: 計算式の定義の名前を変更するには、新しい名前を名前に入力します。

- 5 オプション: 計算の位置を移動するには、別のオプションを選択します。

- 6 オプション: 「この前に挿入」または「この後に挿入」を選択した場合は、対応するリストから挿入位置を選択する必要があります。

計算結果を含む行または列が、指定の次元ヘッダーの前または後に挿入されます。

- 7 オプション: 計算方法を変更するには、関数から計算式のタイプを選択します。

計算式のタイプを変更するには、ユーザーがすべての引数を再定義する必要があります。手順については、[389 ページの「分析ツールの管理」](#)を参照してください。

- 8 オプション: 計算式の引数を変更するには、次のいずれかを行います。

- 引数をクリックし、次元のメンバーのラベルをクリックし、矢印ボタンをクリックします。
- 引数をクリックし、「定数」テキスト・ボックスに値を入力した後、矢印ボタンをクリックします。
- 詳細を選択して次元メンバーの組合せを表示します。引数をクリックして、次元メンバーの組合せラベル、矢印ボタンの順にクリックします。

計算式の定義が「式」グループ・ボックスに表示されます。

- 9 計算式を再定義したら、「適用」をクリックして、OK をクリックします。

- 10 閉じるをクリックします。

Analytic Services の属性計算

サーバーに基づく Analytic Services 属性計算をクライアントで利用できます。OLAP クエリーの結果がクライアントに送信される前にサーバーに基づく計算が実行されるので、ネットワーク・トラフィックと結果セットが最小化されます。

属性計算を使用するには、「データ・レイアウト」を使用してクエリーに含める属性計算の次元を選択します。次に、次元ブラウザを使用して、クエリー結果セットにより戻されるサーバーに基づく計算を選択します。

注： クライアント上では多くの属性計算を再現できますが、計算式はユーザーが定義する必要があります。また、クライアントが結果セットを処理する必要があります。

計算で属性を使用する理由

- 属性を共有するデータの選択、集約およびレポートを行う。
- データ型(テキスト、数値、ブールおよびデータ型)により属性を選択する。
- 数値データ型を統計範囲にグループ化するため。
- sum、count、min、max、average などの関数を、Analytic Services が自動生成した属性計算の次元に使用する。
- 計算スクリプトおよび計算のメンバー式の属性値(数値)を使用するため。
- 1つの次元について属性データのクロス集計を作成し、各属性ごとに次元を分析するため。

EPM Workspace からの PDF での印刷

Web Analysis ドキュメントは、EPM Workspace からの Adobe Portable Document Format (PDF)に印刷できます。次の2つの印刷オプションが用意されています。

- 画面の印刷: コンテンツ領域を印刷します。印刷ビューおよび Microsoft の「印刷」ダイアログが表示されます。
- 選択したオブジェクトの印刷: 現在のデータ・オブジェクト(たとえばスプレッドシート、チャートまたはピンボード)の指定の OLAP ページを印刷します。「PDF で印刷」ダイアログには印刷オプションが提示されます(方向、スケール、ドキュメントとともに印刷設定を保存するオプション)。

「画面の印刷」では、現在の表示をすばやく簡単に印刷できます。ドキュメントには複数のデータ・オブジェクトが含まれる場合があるので、「画面の印刷」では OLAP ページを指定しません。OLAP ページまたはオブジェクト固有のドキュメントの要約を含める場合は、「選択したオブジェクトの印刷」を選択する必要があります。

▶ レポートを PDF で印刷するには、次のいずれかを実行します。

- 1 レポートを開き、「ファイル」、「PDF で印刷」、「画面」の順に選択して画面を印刷するか、または「ファイル」、「PDF で印刷」、「選択したオブジェクト」の順に選択してレ

ポートで選択したレポート・オブジェクトを印刷します。「PDFで印刷」ダイアログが表示されます。[435 ページの「PDFで印刷」](#)を参照してください。

- 2 データ・オブジェクトを右クリックし、「PDFで印刷」、「選択したオブジェクト」の順に選択します。「PDFで印刷」ダイアログが表示されます。[435 ページの「PDFで印刷」](#)を参照してください。

注：「PDFで印刷」が使用可能でない場合、システム管理者が EPM Workspace で HTML のみを印刷するように Web Analysis を構成しており、「PDFで印刷」が使用不可になっています。

PDFで印刷

「PDFで印刷」ダイアログでは、選択したオブジェクトを印刷する場合の印刷オプションを指定します。

- 向き: ドキュメントをページに配置する方法を指定します。
 - 縦長: ページの幅方向に対して鉛直に印刷します(レター・スタイル)。
 - 横長: ページの長さ方向に対して鉛直に印刷します(スプレッドシート・スタイル)。
- スケール: ページ印刷に合わせます。ユーザーは、ドキュメント内容を印刷ページにどのように分けるかを指定できます。
- 印刷設定をドキュメントに保存する: 選択すると、プリンタ出力に要約ページが挿入されます。

データベース接続

データベース接続は、データ・ソースに接続するための指定、条件および方法を定義する可搬ファイルです。データベース接続を作成および変更するには、Web Analysis ではなく Web Analysis Studio を使用する必要があります。

ドキュメントは、データ・ソースをクエリーするデータベース接続ファイルに応じて異なります。ドキュメントでは、1つ以上のデータ・ソースに接続するために複数のデータベース接続を使用できます。

データ・ソースにアクセスする場合に、ログオン情報を提供するように求めるメッセージが表示されることがあります。

ビュー・ペインの「情報」タブに提示される情報は次のとおりです。

- データベース: 現在のデータ・オブジェクトのデータベース接続名が表示されます。
- データベース・ユーザー名: データベース接続へのアクセス権が与えられているユーザー名が表示されます。

Web Analysis ドキュメントによりサポートされたデータ・ソースおよびデータベース接続。

- OLAP データ・ソース

- Analytic Services 6.5.6、7.0.1、7.1 および 7.1.2
- IBM DB2 OLAP Server 7.1 Service Pack 11、8.1 Service Pack 3 および 8.2
- SAP BW 3.0、3.1 および 3.5
- Hyperion データソース
 - Financial Management 3.4、3.5、3.5.1 および 4.0
 - Planning 3.3、3.5 および Analytic Services 3.5.1 および 4.0
- リレーショナル・データベース接続:
 - IBM DB2
 - Microsoft SQL Server
 - Oracle
 - Teradata

システム RDBMS の要件は異なります。リレーショナル・システムの要件については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

データベース接続ファイル

データベース接続はリポジトリ・ファイルとして保存され、大半のファイル管理規約に準拠します。所有するか、または権限を付与されたデータベース接続のみが表示されます。データベース接続ファイル・プロパティの読取り、書込み、編集および変更のためにさまざまな種類の権限が必要になります。

データベース接続へのアクセスとドキュメントの権限

ユーザーに配布されるドキュメントまたはプレゼンテーションで、ユーザーがアクセスできないデータベース接続が必要になる場合があります。ドキュメントのアクセスは、データベース接続のアクセスには依存しません。

アクセスを拒否するデータベース接続権限では、1つの接続へのアクセスのみが禁止されます。ユーザーは、プライマリ・データ・ソースまたは代替データ・ソースに対する他の接続を使用できます。また、データベース接続とは独立してドキュメント定義を使用できます。

ユーザーとグループの権限

ユーザーは、自身または自身の属するグループに割り当てられたデータベース接続にアクセスできます。

ドキュメントがグループに割り当てられている場合、ドキュメントで使用するデータベース接続もそのグループに割り当てられている必要があります。それ以外の場合、個別のユーザー・アクセスが付与されていない限り、グループ・メンバーはドキュメントにアクセスできますが、そのデータ値にはアクセスできません。

権限の競合リスクを低減するために、同じフォルダにドキュメントとそのデータベース接続を保管します。可能な場合は常に、ドキュメントとデータベース接続をグループに配布します。個別のファイルおよびユーザーに対する権限を管理するよりも、フォルダ内のすべてのファイルおよびグループ内のすべてのユーザーについて権限を設定するほうが容易です。

OLAP およびリレーショナル・データの統合

Web Analysis Studio ユーザーは、OLAP データおよびリレーショナル・データ・ソース間のシームレスな通信を構築できます。OLAP からリレーショナル・データへのナビゲーションは、リレーショナル・ドリルスルーと呼ばれています。

リレーショナル・ドリルスルーを構成した後、ユーザーは OLAP データベースの最下位次元(レベル 0)からナビゲートし、リレーショナル・データにドリルダウンできます。

リレーショナル・ドリルスルーは、サーバー・ベースの分析統合サービスのドリルスルーと同等の、クライアント・ベースの統合ソリューションです。

「リレーショナル・ドリルスルー」ダイアログ・ボックスは、SQL リレーショナル・データベース・クエリーを作成するためのグラフィカルなユーザー・インタフェースです。ユーザーは、複雑な SQL 構文を使用して、テーブルの結合の指定、句による選択および並び替えを行うことができます。

注： リレーショナル・ドリルスルーでは、多岐にわたる JDBC リレーショナル・データ・ソースをサポートしますが、レベル別、世代別、または前に選択したメンバー別のクエリーを使用できません。

リレーショナル・ドリルスルー定義は、データベース接続ファイルのプロパティとして保存されます。

Analytic Services データベース接続

複数のソースからのデータを統合し、企業全体のユーザーのニーズを満たす分析ソリューションである Analytic Services により、ソリューションの迅速かつ簡単な実装、以前にアクセスできなかったデータへの価値の付加、活用可能な情報へのデータの変換が可能になります。

Analytic Services は、既存のビジネス・インテリジェンス・インフラストラクチャと一体化しており、IT の経費を最小限に抑えながら、組織の IT 投資の収益率を最大にします。

Web Analysis グラフィカル・ユーザー・インタフェースを通じて、次のさまざまな Analytic Services 機能が拡張されます。

- [397 ページの「データの制限」](#)
- [399 ページの「上位/下位のみ取得」](#)
- [438 ページの「データの編集」](#)
- [438 ページの「欠落した行、ゼロ値、および共有メンバーの除去」](#)

- [438 ページの「ラベルのモードと別名テーブル」](#)
- [439 ページの「Analytic Services ドリル設定」](#)
- [439 ページの「リンクされたレポート・オブジェクト\(Linked Reporting Object:LRO\)」](#)
- [439 ページの「リレーショナル・ドリルスルー」](#)
- [439 ページの「分析統合サービスのドリルスルー」](#)
- [439 ページの「Analytic Services メンバー選択の詳細設定」](#)
- [439 ページの「属性の次元と属性の計算式」](#)

データの制限

「データの制限」は、特定のルールおよびオペランドに関連するデータ値を要求することにより、返却セットを限定します。データには、2列の比較の結果または1列の固定制限値によるフィルタを適用できます。

上位/下位のみ取得

「上位/下位のみ取得」では、Analytic Services のソート機能およびランク付け機能を使用して、OLAP クエリー結果セットのサイズおよび順序を制御することで、ネットワーク・サーバーからの大きな結果セットの送信、クライアントでの処理を防止します。

データの編集

権限がある場合は、データ値を編集し、Analytic Services データベースに編集結果を書き戻すことができます。ユーザーは編集結果を適用した後、データベースを再計算し、変更値の影響を評価できます。

欠落した行、ゼロ値、および共有メンバーの除去

Web Analysis ドキュメントでは、欠落した行、0 および共有メンバーをクエリー結果セットで抑制するために Analytic Services を使用します。これにより関連性のない情報が戻されることを防ぎ、ネットワーク・トラフィックの削減およびクエリー速度の向上を実現します。

ラベルのモードと別名テーブル

ラベル・モードにより、メンバーを ID 番号、説明またはその両方によりリストに示すことを選択できます。ラベル・モード・オプションはデータベースに固有であり、データベース接続、特定のドキュメントおよび特定の次元に対して設定できます。

ラベル・モードは、説明または ID 番号を使用するかどうかを示します。また、Analytic Services 別名テーブル定義では、表示値が提示されます。

Analytic Services ドリル設定

Web Analysis ドキュメントでは、Analytic Services 機能を使用することにより、次の3つの要因に応じてカスタマイズしたドリルを利用できます。

- 階層移動を利用した方法。
- 現在のメンバーを置換するか引数として使用するか。
- ドリルしたメンバーを置換するか引数として使用するか。

リンクされたレポート・オブジェクト(Linked Reporting Object:LRO)

ユーザーは、次のタイプを含む Analytic Services LRO を使用して、外部メディアをセルに関連付けることにより、データ値に注釈を付けることができます。

- テキスト・ドキュメント
- 添付ファイル
- URL

リレーショナル・ドリルスルー

Web Analysis ドキュメントでは、Analytic Services データベース接続でリンクを定義することにより、Analytic Services アウトラインの最下位レベルから関連リレーショナル・データにドリルスルーできます。ユーザーは、リレーショナル・クエリー結果セットのフォーカスとコントロールのために、ページ、フィルタおよび行の制限を指定できます。

分析統合サービスのドリルスルー

分析統合サービスにより Analytic Services 内でリレーショナル・データを OLAP キューブとして整理、フォーマット、および提示できます。Web Analysis ドキュメントを使用することで、分析統合サービスのドリルスルーに対してマークされたセルをドリルして、Analytic Services リンク・レポート・オブジェクトを通じて分析統合サービスのデータにアクセスできます。

Analytic Services メンバー選択の詳細設定

大きなメンバー・セットを含む次元では、ユーザーは次元ブラウザの右クリック・メニューにより選択を定義できます。メンバー名を右クリックすることで、同族の関係およびデータベース固有のオプションによる選択が可能になります。

属性の次元と属性の計算式

Analytic Services では、メンバーの名前、場所、および関係に加えて、メンバーに関する特徴を保管できます。Analytic Services では、属性軸は OLAP キューブの一

部として保管されませんが、要求時に動的に計算されます。標準次元の表示および使用時に、属性軸が次元階層で表示され、計算で使用されます。

Financial Management

Financial Management は、一元的でスケーラブルな財務管理およびレポート・ソリューションです。Financial Management では、ユーザーが単一の Web ベース・アプリケーションで財務情報(実績、予算、予測、統計)を統合できます。Financial Management には、タスクおよび慣行をサポートするためのパッケージ化された機能が含まれています。

- グローバルなレポート標準への準拠、通貨管理、会社間のアクティビティの自動化および監査可能な結果の生成
- 企業全体の一貫性と可視性を実現する法務および管理レポートと業務プラン間のリンク
- 多次元のビジネスライン分析
- Web を通じたコラボレーションの強化
- 財務インテリジェンスの 1 つのコアポイントを提供する重要な外部業界評価基準

大規模で一元的な Web 配置向けに設計された Financial Management は、企業全体の数千のユーザーに対する共有財務リソースとして機能し、日常のビジネス管理でのコラボレーションと協力を可能にします。単一のアプリケーションで、ユーザーは規制機関、財務アナリスト、利害関係者、ビジネス・パートナーなど複数の需要家向けに監査可能なドキュメントおよび予測を生成できます。

- [440 ページの「Web Analysis ドキュメントで利用可能な Financial Management 機能」](#)
- [441 ページの「関連コンテンツ」](#)
- [441 ページの「セル・テキスト」](#)
- [441 ページの「ライン・アイテムの詳細」](#)
- [441 ページの「関連コンテンツの変更」](#)
- [441 ページの「期間別組織」](#)
- [442 ページの「Financial Management メンバー選択の詳細設定」](#)
- [442 ページの「ユーザー定義フィールド」](#)
- [443 ページの「エンティティ通貨の表示」](#)

Web Analysis ドキュメントで利用可能な Financial Management 機能

Web Analysis ドキュメントに対して拡張された Financial Management 機能は次のとおりです。

- 期間別組織

- メンバー選択の詳細設定
- セル・テキスト、関連コンテンツ
- ラインアイテムの詳細、関連コンテンツ
- ユーザー定義フィールド
- エンティティ通貨の表示

関連コンテンツ

「関連コンテンツ」ダイアログ・ボックスは、構成済の関連コンテンツやアプリケーションにリンクしています。

LRO の表示を使用可能にした場合、関連コンテンツへのリンクを含む青い三角形がスプレッドシートのセルに表示されます。リンク・セルを右クリックして「関連コンテンツ」を選択すると「関連コンテンツ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

セル・テキストおよびライン・アイテムの詳細は、関連コンテンツとしてアクセスします。

セル・テキスト

Financial Management データ・ソースに保存された読み取り専用テキスト文字列であるセル・テキスト・ノートを起動できます。

ライン・アイテムの詳細

Financial Management データ・ソースから作成された読み取り専用のリレーショナル・スプレッドシートであるラインアイテム詳細スプレッドシートを起動できます。

関連コンテンツの変更

Financial Management が再計算され、変更が登録されるまで、セル・テキストおよびライン・アイテムの詳細アイテムの変更は Web Analysis ドキュメントの表示に反映されません。

期間別組織

Financial Management の期間別組織機能を使用すると、組織の最新の統合構造と過去の構造が、同じアプリケーション内で共存できます。

したがって次元階層は、異なる期間で異なる方法により統合できます。組織構造は、買収、整理、合併、再編成など、さまざまな理由で変更されます。

Financial Management サーバーで「期間別組織」が構成および設定されている場合、「期間別組織」機能にアクセスできます。

「期間別組織」により構成された Financial Management データベース接続をクエリーする場合、「データ・レイアウト・オプション」ボタンに「期間別組織」アイテムが表示されます。「期間別組織」ダイアログ・ボックスには、「期間別組織」を有効にし、3つのメンバーを選択するためのインタフェースが提示されます。

注： Web Analysis Studio でのみこの機能をレビューおよび設定できますが、設定は HTML Web Client により確認できます。

「期間別組織」については、Oracle Hyperion Financial Management 管理者ガイドでメタデータの管理に関する説明を参照してください。

Financial Management メンバー選択の詳細設定

大きなメンバー・セットを含む次元では、ユーザーは次元ブラウザの右クリック・メニューにより選択を定義できます。メンバー名を右クリックすることで、同族の関係およびデータベース固有のオプションによる選択が可能になります。

Financial Management では、提供されるメンバー選択の詳細設定の方法が Analytic Services よりも少なくなっています。

表 111 Financial Management メンバー選択の詳細設定の方法

右クリック・メニュー・コマンド	説明
すべてのメンバー	すべてのメンバーを選択します。Financial Management メンバーの選択方法の1つです。
次元の最上位の選択	最上位の祖先を選択します。
次元の最下位の選択	最下位の子孫を選択します。
子孫も選択	現在のメンバーとその子孫を選択します。
メンバー・リスト	「メンバー・リスト」ダイアログ・ボックスが表示され、メンバーのリストを選択できます。Financial Management メンバーの選択方法の1つです。
ユーザー定義フィールド 1、2、および 3	「ユーザー定義フィールド」ダイアログ・ボックスが表示され、特定のユーザー定義フィールド値を持つメンバーを選択できます。
検索	「検索」ダイアログ・ボックスが表示され、メンバーを検索できます。

ユーザー定義フィールド

通常、ユーザー定義フィールド Account(勘定科目)、Scenario(シナリオ)、Entity(エンティティ)およびカスタム次元にのみ定義され、入力できるのは 20 文字までです。

1つのフィールドに複数の値を使用して、複合選択ステートメントを作成できます(たとえば、ユーザー定義フィールド 1=West、ユーザー定義フィールド 1=East など)。

ユーザー定義フィールドを定義する場合、ユーザーは値として空の文字列を使用できません。

エンティティ通貨の表示

Financial Management により、値次元内でエンティティ次元属性として通貨評価基準が保存されます。このためにユーザーは、選択した通貨値またはデフォルトの通貨値を使用して、データ・ソースをクエリーできます。

エンティティ次元通貨情報が定義された Financial Management データ・ソースを使用する場合、「エンティティ通貨の表示」オプションを使用可能にして、デフォルトの通貨値を持つエンティティ・メンバーを追加できます。クエリーの前に、「データ・レイアウト」オプションを使用します。クエリーの実行後は、右クリック・メニューの「データの表示」を使用します。以降に作成されるすべてのドキュメントについて、OLAP サーバーのユーザー・プリファレンスを使用します。

注： Web Analysis Studio でのみこの機能をレビューおよび設定できますが、設定は HTML Web Client により確認できます。

Financial Management の規則

Financial Management のアウトラインには、12 の次元、8 つの事前定義(期間、ビュー、エンティティ、勘定科目、ICP、シナリオ、値および年)および 4 つのカスタムが存在します。

- 443 ページの「最上位にドリル・アップ」
- 443 ページの「データの編集は不可」
- 444 ページの「メンバーの追加と削除」
- 444 ページの「新規データベース」
- 444 ページの「削除されたユーザー」

最上位にドリル・アップ

Financial Management をクエリーする場合、Analytic Services のクエリー時に可能な最上位へのドリルはできません。Financial Management および Analytic Services では、親子関係が異なる方法で追跡されます。Financial Management の階層では複数の統合が可能であり、したがって 1 つの子に対して複数の親が存在する場合があります。

データの編集は不可

ユーザーは、Analytic Services データ・ソースの場合とは異なり、Financial Management データ・ソースにデータを書き戻すことができません。

メンバーの追加と削除

ユーザーは、追加または削除されたメンバーを表示するために、「再ロード」ボタンをクリックする必要があります。

新規データベース

現在のセッション中に追加された Financial Management データ・ソースを同じセッションで扱うことはできません。セッションの確立時に動作していたデータ・ソースのみが Web Analysis ドキュメントと通信できます。新しい Financial Management データベースに接続するには、ログ・オフ後に再度ログオンします。

削除されたユーザー

Financial Management セッションを確立した後、サーバー側でユーザー名が削除されても、ログ・オフするまで接続は有効です。現在のセッションが終了するまで、アクセスは取り消されません。

SAP BW

Web Analysis ドキュメントで SAP BW データ・ソースにアクセスできます。したがって、拡張された分析機能およびダッシュボード機能を使用でき、SAP BW への投資をさらに活かすことができます。カスタム・ドキュメント・フリーフォーム・グリッド・コンポーネントを使用することで、1つのデータ・オブジェクト上で OLAP データ、リレーショナル・データおよび手動入力 of データを示し、統合された動的計算ですべてのデータ・ソースを利用できます。視覚的に魅力ある SAP BW のドキュメントは一般的に、情報ユーザーのプレゼンテーション、レポートおよび配布に関する要件を上回るものです。

- [444 ページの「SAP BW の前提条件」](#)
- [445 ページの「SAP BW の規則」](#)
- [445 ページの「SAP BW のメンバー選択の詳細設定」](#)

SAP BW の前提条件

インストールの後、SAP Web サイトから SAP BW JCo ドライバ 2.1.4 または 2.1.5 をダウンロードする必要があります。

インストール中に 2つの Microsoft DLL ファイル、MSvcr71.dll および MSvcp71.dll が共通ディレクトリに配置されます。これらのファイルは、Production Reporting、Financial Reporting および Web Analysis により使用されます。

DLL ファイル・ディレクトリで SAP BW JCo ドライバを確認する必要があります。

SAP BW の規則

SAP データ・ソースは他のデータ・ソースとは異なります。たとえば、0 レベルは SAP では最高位の祖先であり Analytic Services では最低位の子孫です。SAP メンバーのプロパティは Analytic Services の属性軸に似ています。

SAP BW のメンバー選択の詳細設定

大きなメンバー・セットを含む次元では、ユーザーは次元ブラウザの右クリック・メニューにより選択を定義できます。メンバー名を右クリックすることで、同族の関係およびデータベース固有のオプションによる選択が可能になります。

SAP BW と Analytic Services では、提供されるメンバー選択の詳細設定の方法セットが異なります。

表 112 SAP BW のメンバー選択の詳細設定方法

右クリック・メニュー・コマンド	説明
すべてのメンバー	すべてのメンバーを選択します。
次元の最上位の選択	最上位の祖先を選択します。複数階層では最上位の祖先がすべて選択されます。
次元の最下位の選択	すべての最下位の子孫を選択します。
子孫も選択	現在のメンバーとその子孫を選択します。
親の選択	現在のメンバーの親を選択します。
祖先も選択	現在のメンバーとその祖先を選択します。
子も選択	現在のメンバーとその子を選択します。
兄弟も選択	現在のメンバーと、同じレベルのメンバーおよび同じ親を持つメンバーを選択します。
レベルも選択	現在のメンバーと、同じレベルのすべてのメンバーおよび同じ次元のメンバーを選択します。
レベル選択	名前または番号により指定したレベルのすべてのメンバーを選択します。
前の項目も選択	現在のメンバーのレベルから可変数の前のメンバーを選択します。MDX LAG を使用して、戻す対象とする前のメンバーの数を指定します。
次の項目も選択	現在のメンバーのレベルから可変数の次のメンバーを選択します。MDX LEAD を使用して、戻す対象とする以降のメンバーの数を指定します。
日付時系列	時間定義の条件に基づいて時間メンバーを選択します。SAP BW は、DTS の選択に対して集約値を戻さず、条件を満たすメンバーのみを戻します。
上位/下位の選択	ランクに基づいて、可変数のメンバーを戻します。 上位または下位の値を選択できます。両方を選択することはできません。ランクは、パーセンテージ、合計またはカウントにより計算でき

右クリック・メニュー・コマンド	説明
	<p>まず、合計では、しきい値を使用し、そのしきい値を制限する値以下のメンバーを選択します。</p> <p>クエリーに対するカスタム・フィルタにより、結果セットが次元ブラウザのプレビューと異なる場合があります。</p>
メンバーのフィルタのプロパティ	「メンバーのプロパティ」ダイアログ・ボックスが表示され、メンバーの SAP BW プロパティ値によりメンバーのサブセットを選択できます。
ツリーの検索	大きな次元からメンバーを検索します。階層は展開されますが、「選択項目」リストにメンバーは追加されません。

リレーショナル・データベース

5つの方法のいずれかを使用して Web Analysis ドキュメントで OLAP、Hyperion およびサポートされるリレーショナル・データベースにアクセスできます。

- [446 ページの「カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシート」](#)
- [446 ページの「カスタム・ドキュメントのフリーフォーム・グリッド」](#)
- [446 ページの「リレーショナル・ドリルスルー」](#)
- [447 ページの「リレーショナル・データベース接続」](#)
- [447 ページの「分析統合サービスのドリルスルー」](#)
- [447 ページの「リポジトリ」](#)
- [447 ページの「クエリー結果セットのサイズのコントロール」](#)

カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシート

SQL スプレッドシート・オブジェクトは、標準 SQL 構文のクエリーを使用してリレーショナル・データ・ソースをスプレッドシートに表示します。

カスタム・ドキュメントのフリーフォーム・グリッド

フリー・フォーム・グリッドを使用すると、1つのデータ・オブジェクト内にある複数のデータソースからのデータ値を組み合わせることができます。これにより、カスタム・ドキュメントのデータベース接続を利用できます。

リレーショナル・ドリルスルー

OLAP データとリレーショナル・データ・ソース間でシームレスな通信を構築できます。OLAP からリレーショナル・データへのナビゲーションは一般的に、リレーショナル・ドリルスルーと呼ばれています。ユーザーは、OLAP データベースの最下位次元(0 レベル)からナビゲートし、リレーショナル・データにドリル・ダウンできます。

Web Analysis ドキュメントでは、Select ステートメントおよび句により定義可能なリレーショナル・ドリルスルー定義が Analytic Services データベース接続のデータベース接続プロパティとして保管されます。クエリー結果セットは、SQL スプレッドシートとして提示されます。

437 ページの「[OLAP およびリレーショナル・データの統合](#)」を参照してください。

リレーショナル・データベース接続

Web Analysis Studio は、リレーショナル・データベース接続を定義するための使いやすいグラフィカル・インタフェースを提供しています。リレーショナル・データベースのタイプおよびログイン情報の指定、リレーショナル・テーブルの選択およびデータベース接続プロパティの定義を行うように求めるメッセージが表示されます。

Web Analysis では、リレーショナル・データ・ソースのドキュメント化、結果セットの集約、OLAP キューブとしてのデータの提示を行います。

分析統合サービスのドリルスルー

分析統合サービスのドリルスルーは、リレーショナル・ドリルスルーのサーバーに基づくフォームです。従来のリレーショナル・ドリルスルーの場合と同様に、OLAP とリレーショナル・データ間でシームレスな接続を構築できます。ただし従来のリレーショナル・ドリルスルーとは異なり、すべての Web Analysis ドキュメントの交差からリレーショナル・データ・ソースにドリルできます。

Analytic Services 管理者は、分析統合サービスのドリルスルー・レポートを作成する必要があります。リレーショナル・クエリーは、交差固有のメタデータとして保存され、LRO インディケータによりフラグが設定されます。フラグが設定されたセルをダブルクリックすると、指定のリレーショナル・レポートに OLAP ドキュメントがナビゲートします。

リポジトリ

リポジトリ・アクセスは、リレーショナル・データベース・アクセスからの唯一の必須フォームです。リポジトリでは、リレーショナル・データベース・テーブルにシステム・データ、ユーザー名、ユーザー・プリファレンスおよびドキュメントの定義が一元的に保存されます。リポジトリ・アクセスが存在しない場合、情報は保存できません。管理者がインストール中にリポジトリ・アクセスを確立します。

クエリー結果セットのサイズのコントロール

クエリーの制限は、リレーショナル・アクセス方法によって異なります。

カスタム・ドキュメントの SQL スプレッドシートおよびリレーショナル・ドリルスルーの方法により、ユーザーは SQL クエリーまたはリレーショナル・ドリルスルーの定義の作成時にクエリー・ガバナーを宣言できます。

OLAP からリレーショナル・データにドリルする場合、ドリルした OLAP メンバーのみをリレーショナル・データ・ソースに渡すと、クエリー結果セットが大きくなる場合があります。クエリー結果セットを制限、縮小するために、ユーザーはページを渡したうえで、OLAP ドキュメント内で指定された次元にフィルタを適用できます。

他のリレーショナル・アクセス・メソッドでは、クエリー結果セットの制限は Analysis.properties ファイルに依存します。

カスタム Web Analysis ドキュメント

Web Analysis Studio では、コーディング不要の 21 のコンポーネントを提供しており、そのそれぞれをカスタマイズし、カスタム・ドキュメントに複数回にわたり追加できます。オプションの組合せにより、カスタム・ドキュメント・デザインはほとんど制限なく創造的な作業を行うことができます。

注： カスタム・ドキュメントは、Web Analysis の EPM Workspace では作成できません。

- [448 ページの「コンテナ」](#)、[448 ページの「コンテンツ・パネル」](#)
- [449 ページの「データ・オブジェクト」](#)
- [449 ページの「要素のコントロール」](#)
- [449 ページの「SQL スプレッドシートと SQL 要素」](#)

コンテナ

パネル・オブジェクトと分割パネル・オブジェクトを使用することで、カスタム・ドキュメント上の領域およびレイヤーをコントロールできます。ドキュメントを設計し、パネル内のコンポーネントの向きを設定するには、コンテナ・パネルを使用する方法が最適です。コンポーネントはメイン・ドキュメント・パネル内で絶対値により配置され、他のコンポーネントが移動してもその位置を維持します。したがって、コンポーネントが重なり合い、シフトすることがあります。

パネルのプロパティのサイズ変更、配置および設定を行うことができます。プロパティによりその外観と動作がコントロールされます。

コンテンツ・パネル

専用のコンテンツを提供する次のパネルがあります。

- **ラベル:** タイトル、ラベルまたはキャプションとして使用される静的または動的なテキスト。
- **テキスト領域:** 注釈で使用する動的なテキスト。
- **イメージ:** グラフィック背景、ピクチャ、図およびグラフィック・コントロールのためのグラフィック。
- **HTML ブラウザ:** 静的 HTML。

パネルは、追加コーディングを行わなくても機能します。ラベル・オブジェクトは、ヘッダー、フッターおよび SQL スプレッドシートの印刷で使用される動的なテキスト・ラベルに対応します。

データ・オブジェクト

次に、表示タイプを示すデータ・オブジェクト(コンポーネント・ツールバー)を示します。

- **チャート:** チャートであるクエリー結果セット。
- **スプレッドシート:** スプレッドシートであるクエリー結果セット。
- **フリーフォーム・グリッド:** フリーフォーム・グリッドからのコンテンツ。
- **ピンボード:** ピンボードであるクエリー結果セット。

また、コンポーネント・ツールバーの末尾に SQL スプレッドシート・データ・オブジェクトがあります。

要素のコントロール

ユーザーが次元階層のナビゲート、ドキュメントの表示またはコマンドの実行を行うためのコントロールをドキュメントに追加できます。

- **コンボボックス要素:** メンバーのリストを表示します。
- **ラジオボタン・グループ要素:** メンバー・オプションを選択します。
- **チェックボックス・グループ要素:** 複数のメンバーを選択します。
- **タブ・グループ要素:** メンバー・タブを選択します。
- **マルチ・レベル・コンボボックス要素:** 相互に依存するリストから選択します(選択を変更するとメンバーが変更されます)。
- **スライダ要素:** スライダ・バーの位置に基づいて、メンバーを選択します。
- **選択ボタン要素:** 同じデータ・ソースを使用するデータ・オブジェクトにメンバーの選択結果を適用します。
- **別名コントローラ:** 別名テーブル・ラベル間でデータ・オブジェクトを切り替えます。
- **サービス・ボタン:** 事前設定のコマンドを実行し、ホットスポットを作成します。

要素ボタンは、データベース接続クエリーを共有しているデータ・オブジェクトをコントロールできます。

SQL スプレッドシートと SQL 要素

SQL スプレッドシートと SQL 要素は、SQL クエリーの結果セットを表示し、コントロールするコンポーネントです。

- **SQL スプレッドシート:** リレーショナル・データ・ソースに対する SQL クエリーを表示するデータ・オブジェクト。

- **SQL 要素:** SQL スプレッドシート用に設計された要素ボタン。

クエリーによるコンポーネントのリンク

ドキュメントの作成で必要な仕様は次のとおりです。

- データソース - データ値を提供します。
- データ・オブジェクト - データ値を表示します。
- クエリー - データ・ソースからデータ値を取得し、データ・オブジェクトに戻します。

これらの仕様をカスタマイズするプロパティは次のとおりです。

- データベース接続プロパティは、データソースのタイプ、ログオン情報、データベース・アプリケーション、次元のフォーマット、およびドリルスルー・プロパティを示します。
- データ・オブジェクトは、固有のオプションを持つタイプを表示するように設定できます。
- クエリーは明示的にしてメンバー情報を要求することも、動的にして一式の条件を満たすすべてのメンバーの情報を要求することもできます。

ドキュメントの設計モードでは、クエリー定義はデータ・ソースと呼ばれます。

- [450 ページの「共通のデータソース」](#)
- [450 ページの「コンポーネントのリンク解除」](#)

共通のデータソース

同じデータ・ソースを使用するドキュメントの設計コンポーネントが統合されま
す(ナビゲーション線を共有します)。

コンポーネントのリンク解除

統合ドキュメント・コンポーネントが必要ない場合は、データ・オブジェクトに
複数のデータ・ソースを割り当てることができます。異なる名前を持つ同一のデー
タ・ソースが個別ソースとして処理されます。

次元のリンク

カスタム設定を使用して、ドキュメント上のデータ・オブジェクト内の次元をリ
ンクできます。

次元のリンクにより、次元を共有していても異なるデータ・ソースを使用するデー
タ・オブジェクトで統合を維持できます。リンクは単方向です。データ・オブジェ
クトのナビゲーションにより、そのデータ・オブジェクトにリンクするデータ・
オブジェクト上で統合的なナビゲーションがトリガーします。相手先のデータ・
オブジェクトでのナビゲーションでは、そのオブジェクトに対してリンクが定義
されている場合にのみ統合ナビゲーションがトリガーします。

データの編集モード

権限がある場合は、セル値を編集し、編集結果を Analytic Services に書き戻すことができます。スプレッドシート表示タイプからのみデータの編集モードを起動できます。

- ▶ Web Analysis ドキュメントでデータの編集モードを起動するには、データ・オブジェクトを右クリックし、「データの編集」を選択します。

コンテンツ領域に「データの編集」ボタンが追加されます。Analytic Services の編集可能セルは、データ入力セルに変換されます。

表 113 HTML Web Client データの編集コントロール

コントロール	説明
「計算」リスト	HTML Web Client からデータベースを再計算するときに使用する計算スクリプトを指定します。
実行	データベースの再計算をデータベース・サーバーで行います。
終了	データの編集モードを終了します。
データの送信	編集結果をデータベースに適用します。

データの値の編集

- ▶ データの値を編集するには、次の手順に従います。
 - 1 データ・オブジェクトを右クリックして、データの編集を選択します。
 - 2 「計算」からデータベースを再計算するには、計算スクリプトを選択し、実行をクリックします。
 - 3 編集するデータ値が含まれているセルをクリックします。
 - 4 データ値を入力し、列または行の見出しをクリックします。
 - 5 「データの送信」をクリックします。

許可されたユーザーのみが変更をデータベースに正しく書き込むことができます。ライトバックが成功した場合、「確認」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- 6 オプション: データを再計算するために手順 2 を実行します。
- 7 終了をクリックします。

注: 長いスプレッドシートでは、下および右にスクロールして、「データの送信」ボタンおよび「終了」ボタンを確認することが必要になる場合があります。

Excel とのデータのコピー、切取り、貼付け

データの編集モードでは、Excel スプレッドシートからセルの範囲の切取りおよびコピーを行い、Web Analysis スプレッドシートに貼付けることができます。編集

した結果は、Analytic Services に転記できます。また、値間での切り取り、コピーおよび貼付けを行うことができます。

ショートカット・キー:

- 値をコピーするには、セルの範囲を選択して[Ctrl]キーを押しながら[C]キーを押します。
- 値を切り取るには、セルの範囲を選択して[Ctrl]キーを押しながら[X]キーを押します。
- 値を貼り付けるには、セルの範囲を選択して[Ctrl]キーを押しながら[V]キーを押します。

データの編集モードに関するヒント

- 計算済メンバーまたは属性は編集できません。これらの値は、データベースには含まれていません。
- 従来の次元階層とは異なり、暗黙の共有(またはユーザー定義階層)から成る次元は集約されません。したがって、モデルのピボット時に、暗黙の共有により、暗黙の共有の親に対するデータの編集結果が上書きされる場合があります。

例: 実績および予算は、親であるシナリオの暗黙の共有です。ただしシナリオは、実績および予算のメジャーの集約ではなく、カテゴリ別のラベルです。

この章の内容

概要	453
----------	-----

概要

「ナビゲート」メニューのアプリケーション・モジュールから、次の Oracle Business Intelligence 製品を選択できます。

- Oracle BI Answers
- Oracle BI Interactive Dashboards
- Oracle BI Delivers

ユーザーの権限、役割および EPM Workspace からのこれらの製品の可用性に基づく製品の使用可能性については、[第7章「アプリケーションの起動」](#)を参照してください。これらの製品に関するプリファレンスの設定の詳細は、[79 ページの「Oracle BI Publisher のプリファレンスの設定」](#)および [81 ページの「Oracle Business Intelligence 製品のプリファレンスの設定」](#)を参照してください。EPM Workspace で利用可能な Oracle BI EE の機能の詳細は、Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 新機能ガイドを参照してください。

Oracle BI Answers

Oracle BI Answers は、純粋な Web アーキテクチャで真のエンド・ユーザー・アドホック機能を提供します。ユーザーは、(ランナウェイ・クエリーを防止しながら、データ構造の複雑さが完全に隠された)情報の論理ビューを操作し、チャート、ピボット・テーブル、レポートおよび視覚的に魅力あるダッシュボードを簡単に作成できます。これらはすべて、完全に対話的でドリル可能であり、ユーザーのカスタマイズされた Oracle BI Interactive Dashboards で保存、共有、変更、フォーマットまたは埋込みを行うことができます。この結果、IT により十分に保護および管理される環境でビジネス・ユーザーの自律性を大きく高めることができます。これらの製品の可用性およびプリファレンスについては [453 ページの「概要」](#)を参照してください。

Oracle BI Interactive Dashboards

Oracle BI Interactive Dashboards は、個人の役割および ID に基づいて、活用度が高く動的にカスタマイズされた情報に対して知識業務に役立つ直感的かつ対話的な

アクセスを提供します。Oracle BI Interactive Dashboards 環境では、エンド・ユーザーは純粋な Web アーキテクチャでライブ・レポート、プロンプト、チャート、テーブル、ピボット・テーブル、グラフィックおよびティッカを操作します。ユーザーは、こうした結果のドリル、ナビゲート、変更および操作に必要なすべての機能を利用できます。Oracle BI Interactive Dashboards はまた、インターネット、共有ファイル・サーバー、ドキュメント・リポジトリを含む他のさまざまなソースからコンテンツを集約できます。これらの製品の可用性およびプリファレンスについては [453 ページの「概要」](#) を参照してください。

Oracle BI Delivers

Oracle BI Delivers は、電子メール、ダッシュボード、モバイル・デバイスなどの複数のチャンネルを経由して、ビジネス・アクティビティに関する監視機能およびアラート機能をユーザーに提供する予防的なインテリジェンス・ソリューションです。Oracle BI Delivers には、Web ベースのセルフ・サービス形式のアラート作成および登録ポータル全体が含まれています。この次世代製品は、複数段階、複数ユーザーおよび複数アプリケーションの分析ワークフローを実行するためにその他のアラートに対してコンテキスト情報を発信、配布できます。さらに、適切な情報を適切な時間に適切なユーザーに提供するために、受信者およびカスタマイズ・コンテンツを動的に決定できます。これらの製品の可用性およびプリファレンスについては、[453 ページの「概要」](#) を参照してください。

この章の内容

概要	455
ジョブのスケジュールおよび実行	455
バッチのスケジュール設定	474
実行するバッチのスケジュール	474
バッチ・バースト受信者用の電子メール・リストの作成	480
電子メールでの通知の設定	481
バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択	481
バッチ削除	482
エクスポート済ファイルの取得	483
スケジュール済バッチのステータスの表示	483
スケジュール済バッチの詳細の表示	483
コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備	484

概要

EPM Workspace では、次のタスクを実行するためにスケジュール・モジュールを使用します。

- ジョブ・タイプの実行およびスケジュールを行います。
 - **Interactive Reporting** ジョブ: ジョブおよびその関連ファイルとして EPM Workspace にインポートされた Interactive Reporting ドキュメント。
 - **Production Reporting** ジョブ: Production Reporting レポートまたはプログラム、およびその関連ファイル。Production Reporting ジョブは、保護されている場合と保護されていない場合があります。
 - **汎用ジョブ**: 別のソフトウェア・プロバイダ(例: Oracle レポートまたは Crystal レポート)からのレポートまたはプログラム、およびすべての関連ファイル。
- レポートのコレクションであるバッチを実行およびスケジュールします。

ジョブのスケジュールおよび実行

エクスプローラから手動でジョブを実行できます。実行するジョブを選択し、ジョブのパラメータを入力し、ジョブの出力を表示します。また、イベントおよびジョ

ブのパラメータを使用して実行するジョブをスケジュールすることにより、ジョブを自動的に実行できます。

スケジュール・モジュールには、ジョブをスケジュールするための次のパネルが用意されています。

- [467 ページの「ジョブ・キューの管理」](#) :ジョブを処理するためにジョブ・サービスを使用できない場合、ジョブがキューに入れられます。管理者は、ジョブの限度および保持プロパティを使用して、ジョブのサービスの可用性をコントロールできます。これらのプロパティの詳細については、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。 .
- [468 ページの「ジョブ通知の表示」](#) :ジョブのステータスおよび終了ジョブの通知を表示します。
- **パラメータの表示:** ジョブ・パラメータに関する情報のリストを表示します。「パラメータの表示」 ページからパラメータを変更または削除できます。 [473 ページの「ジョブ・パラメータの変更」](#) を参照してください。
- **実行中のジョブ:** 現在実行中のジョブのリストを示します。ジョブを選択し、右クリックして「**取消し**」を選択することによりジョブを取り消すことができます。
- **イベントの管理:** イベントを作成および管理します。
- **連結ジョブ・ステータス・リストの使用法:** ジョブのリストを示します。リストへのフィルタの適用、ジョブ、スケジュールまたはイベントの変更を行うことができます。また、「連結ジョブ」リストのジョブに対して「今すぐ実行」オプションを使用することもできます。

管理者がパススルー機能を使用可能にしている場合に、データ・ソース・ログイン情報の追加要求なしで実行するフォアグラウンド・ジョブを設定できます。インポータによるジョブの構成に応じて、フォアグラウンドまたはバックグラウンドでジョブを実行できます。

注: また、「ファイル」メニューから「ジョブの実行」オプションを使用して、バックグラウンドまたはフォアグラウンドであらゆるジョブを実行できます。

ジョブのスケジュールおよび実行には、次のトピックが含まれます。

- [457 ページの「ジョブの実行について」](#)
- [458 ページの「イベント」](#)
- [458 ページの「イベント・ステータスおよびスケジュール・ステータス」](#)
- [459 ページの「ジョブ・パラメータ」](#)
- [460 ページの「ジョブの実行」](#)
- [461 ページの「ジョブのスケジュール」](#)
- [463 ページの「ジョブの出力の使用法」](#)
- [464 ページの「イベントの管理」](#)
- [467 ページの「ジョブ・キューの管理」](#)

- [468 ページの「ジョブ通知の表示」](#)
- [468 ページの「連結ジョブ・ステータス・リストの使用法」](#)
- [474 ページの「ジョブの取得」](#)

ジョブの実行について

ジョブをフォアグラウンドで実行した場合、他のタスクを続行する前に、ジョブが完了するまで待機する必要があります。フォアグラウンド・ジョブの実行が終了すると、EPM Workspace で次の情報が表示されます。

- Interactive Reporting ジョブでは、ジョブが存在するフォルダ内の出力へのリンク。
- Production Reporting ジョブでは、HTML フレーム・ファイル
- 汎用ジョブでは、
 - プライマリ出力ファイル(1 ファイルのみ存在する場合)
 - プライマリ出力ファイルのリスト(複数のファイルが存在する場合)。
 - すべての出力ファイルのリスト(プライマリ・ファイルが存在しない場合)

ジョブをバックグラウンドで実行した場合、フォアグラウンドで他のタスクを実行できます。バックグラウンド・ジョブの実行が完了すると、出力ファイルがリポジトリに書き込まれ、通知メッセージがスケジュール・モジュールの「ジョブ・ステータスの表示」パネルに表示されます。

「出力」リンクがジョブ・タイトルの隣に表示されます。「出力」リンクをクリックして、ジョブ出力を表示します。

- [457 ページの「ジョブの優先度」](#)
- [457 ページの「ジョブのスケジュール」](#)

ジョブの優先度

ジョブを同時に処理するようにスケジュールされている場合、高い優先度を持つジョブが最初に実行されます。ジョブのスケジュール時に優先度を「高」または「標準」に設定できます。

ジョブのスケジュール

ジョブをスケジュールすることにより、ある日時にまたは定期的にジョブを自動実行できます。ジョブをスケジュールするには、時間イベントおよびジョブ・パラメータのリストをジョブに関連付ける必要があります。ジョブのすべてのタイプについて、EPM Workspace を通じてスケジュールできます。

- イベントは、ジョブを実行するタイムテーブルを定義します。
- ジョブ・パラメータは、ジョブを実行するのに必要な実行時の値を定義します。

注： Production Reporting ジョブの場合、コンパイル時パラメータはまた、ジョブ・パラメータとともに指定できます。

- スケジュールでは、実行するジョブに加えて、ジョブ実行のイベント・スケジュールおよびジョブ・パラメータのリストを指定します。

イベント

イベントでは、ジョブの実行時間を定義し、ジョブの実行が1回のみであるかまたは複数回であるかを指定します。ジョブを毎週水曜日または毎月第4金曜日に実行したり、イベントの発生後に実行したりできます。

イベントは特定のジョブに関連しないので、複数のジョブをスケジュールできます。自身のみが使用可能な個人用の反復タイム・イベントを作成できます。管理者が作成したパブリック反復タイム・イベントおよび外部でトリガーしたイベントにアクセスできる場合があります。

「イベントの管理」パネルを使用して、ジョブをスケジュールするときに、またはスケジュール・モジュールからイベントを作成できます。また、タイム・イベントの表示、変更、アクセス、削除を行うことができます。

ジョブのスケジュールで使用できるイベントのタイプは次のとおりです。

- パブリック反復タイム・イベント - 管理者により作成された再利用可能なタイム・イベント。必要なアクセス権を持つ場合にアクセスできます。
- 個人の反復タイム・イベント: 自身が作成し自身のみがアクセスできる再利用可能なタイム・イベント。
- 外部でトリガーしたイベント: 管理者により作成されたイベントに基づく日付。必要なアクセス権を持つ場合にアクセスできます。ジョブは、イベントのトリガー時に実行するようにスケジュールされます。
- カスタム・タイム・イベント: ジョブ・スケジュールで1回だけ使用するために作成したタイム・イベント。カスタム・イベントは、他のジョブ・スケジュールでは使用できません。

イベント・ステータスおよびスケジュール・ステータス

イベントおよびスケジュールはそれぞれ、独自のステータスを維持します。このステータスは、トラフィック・ライト・インディケータにより示されます。次の表に、このステータスによりジョブが実行可能になるしくみを示します。イベントまたはスケジュールの変更時に、ステータスを設定できます。

表 114 イベント・ステータスおよびスケジュール・ステータス

イベントのステータス	スケジュールのステータス	説明
アクティブ	アクティブ	スケジュール済のジョブが実行します。
アクティブ	インアクティブ	スケジュール済のジョブは実行しません。
インアクティブ	アクティブ	スケジュール済のジョブは実行しません。

イベントのステータス	スケジュールのステータス	説明
インアクティブ	インアクティブ	スケジュール済のジョブは実行しません。

ジョブ・パラメータ

ジョブのパラメータは、ジョブを実行するために必要な実行時の値です。この実行時の値は、ジョブによりプロンプトで入力求められるジョブの変数値または制限値です。一部の **Interactive Reporting** ジョブでは、ジョブのパラメータに処理およびジョブ出力のオプションも含まれます。次の場合のためにジョブ・パラメータを保存できます。

- 実行時の値に対するプロンプトを表示しないで、ジョブを実行またはスケジュールします。
- パブリック・ジョブ・パラメータを他のユーザーと共有します。
- スケジュールでさまざまなパラメータを使用してジョブを実行します。

EPM Workspace では、次のタイプのジョブ・パラメータがサポートされます。

- **パブリック・ジョブ・パラメータ**: 管理者により作成された再利用可能な名前付きジョブ・パラメータ。必要なアクセス権限を持つ場合にアクセスできます。
- **個人用ジョブ・パラメータ**: 自身が作成し自身のみがアクセスできる再利用可能な名前付きジョブ・パラメータ。
- **カスタム・ジョブ・パラメータ**: 自身が作成し、スケジュールに関連付けられた無名のジョブ・パラメータ。デフォルトのジョブ・パラメータは、リストに表示されず、名前を持ちません。また、他のスケジュールにより使用できません。スケジュールを削除すると、このパラメータも削除されます。

注: ジョブ・パラメータは、ジョブ・スケジュールの作成時または変更時、あるいはジョブの実行時にのみ作成できます。ジョブ・パラメータ・セクションにアクセスする方法については、[460 ページの「ジョブの実行」](#)または[461 ページの「ジョブのスケジュール」](#)を参照してください。

ジョブ・パラメータのタスク

「パラメータの表示」ページからパラメータを変更および削除できます。また、ジョブ・サイクルを変更できます。

- ▶ ジョブ・パラメータを変更するには、ジョブ名を選択し、右クリックして「変更」を選択します。「プロパティ」ダイアログの記入については、[489 ページの「Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定」](#)を参照してください。
- ▶ ジョブ・パラメータを削除するには、ジョブ名を選択し、右クリックして「削除」を選択します。

ジョブの実行

このセクションでは、ジョブを実行し、デフォルトのジョブ・パラメータを設定するための一般的な手順を説明します。

- ▶ ジョブを実行するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラから実行するジョブを見つけ、次のいずれかの操作を行います。**
 - メニュー・バーから、「ファイル」を選択し、「ジョブの実行」を選択します。
 - ジョブをダブルクリックします。
 - ショートカット・メニューからジョブを右クリックし、「ジョブの実行」を選択します。
 - ショートカット・メニューからジョブを右クリックし、「ジョブの実行場所」を選択し、「フォアグラウンド」を選択します。

フォアグラウンドでジョブを実行する場合、進行状況バーにステータスが表示されます。この場合、ジョブが完了するまで、他のタスクは実行できません。
 - ショートカット・メニューからジョブを右クリックし、「ジョブの実行場所」を選択し、「バックグラウンド」を選択します。

バックグラウンドでジョブを実行する場合、EPM Workspace で操作を続行できます。
 - 2 データベースの認証が必要な場合は、「データベース接続」セクションで各接続についてユーザー名とパスワードを入力します。**

データベースの認証が必要な場合にのみ、「データベース接続」セクションが表示されます。
 - 3 Production Reporting ジョブおよび汎用ジョブでは、ジョブ出力先のフォルダを参照、指定します。**

デフォルト・フォルダは、ジョブが位置するフォルダです。
 - 4 「ジョブ・パラメータ」セクションで、既存のジョブ・パラメータ・リストを使用してパラメータを定義するか、またはパラメータを作成します。**

ジョブに実行時変数が存在しない場合、「ジョブ・パラメータ」セクションは表示されません。

個人用のデフォルト・ジョブ・パラメータの設定については、[461 ページの「ジョブ・パラメータの設定」](#)を参照してください。
 - 5 デフォルト・パラメータを使用している場合はジョブの実行をクリックし、そうでない場合は次の手順に進みます。**

- 6 実行するジョブのタイプに応じて、値、制限を設定するか、またはサイクルを定義または変更します。

[495 ページの「ジョブ・パラメータの設定」](#) および [519 ページの「Production Reporting および汎用ジョブ・パラメータの設定」](#) を参照してください。

- 7 ジョブの実行をクリックします。

ジョブのインポート時に選択したジョブ・パラメータは、パブリッシャ・デフォルトといいます。実行時にこのパブリッシャ・デフォルトを上書きし、独自のジョブ・パラメータを設定できます。実行ジョブには、このパラメータを変更するまでパブリッシャ・デフォルトが適用されます。

ジョブ・パラメータの設定

- ▶ デフォルト・ジョブ・パラメータを設定するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラから実行するジョブを見つけ、右クリックしてジョブの実行を選択します。
- 2 既存のジョブ・パラメータ・リストまたは新しい値を選択します。
- 3 実行するジョブのタイプに応じて、値、制限を設定するか、またはサイクルを定義または変更します。

[495 ページの「ジョブ・パラメータの設定」](#) および [519 ページの「Production Reporting および汎用ジョブ・パラメータの設定」](#) を参照してください。

- 4 次の 1 つまたはすべての操作を行います。

- 「個人用デフォルトとして保存」を選択します。
- 「保存」を選択し、「パブリック」または「プライベート」を選択します。

- 5 ジョブの実行をクリックします。

ジョブ・パラメータは、ジョブを実行するまで保存されません。

ジョブのスケジュール

このセクションでは、ジョブをスケジュールするための一般的な手順を説明します。

注：「曜日」オプションのスケジュール時に、サーバーの時間に基づいて計算されます。

- ▶ ジョブをスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - エクスプローラから実行するジョブを見つけます。
 - 「連結ジョブ・ステータス」ページから、ジョブを選択します。
- 2 ジョブを右クリックし、スケジュールの追加を選択します。
- 3 プロパティを入力します。

- **名前:**(必須) 名前には、文字、番号、スペース文字およびアンダースコア「_」を含めることができます。
- **説明:** スケジュールのわかりやすい説明(例: 「すべての領域の四半期末」)。長さは、250 文字に制限されています。
- **優先度:** ジョブを同時に処理するようにスケジュールされている場合、高い優先度を持つジョブが最初に実行されます。優先度を「高」または「標準」に設定します。
- **アクティブ:** スケジュールの変更時にのみ表示されます。ジョブの実行がスケジュールされているかどうかを示すトラフィック・ライトです。
 - 緑のトラフィック・ライトは、ジョブの実行がスケジュールされていることを示します。
 - 赤のトラフィック・ライトは、ジョブの実行がスケジュールされていないことを示します。
- **ジョブの実行回数:** 無制限または指定の回数。ジョブは、指定された回数実行した後、自動的に非アクティブになります。
- **ジョブ出力はジョブ・プロパティから有効期間を継承します:** ジョブの出力の自動削除を使用可能にします。
- **次の時間が経過した出力を削除:** ジョブの実行後に、番号を入力して時間間隔(分、時間、日、週、年)を選択することにより、削除する時期を指定します。
- **ユーザー名とパスワード:** 必要な場合は、データベース認証の入力を求めるプロンプトが表示されます。

4 次へをクリックします。

5 ジョブ・パラメータで、次のいずれかのオプションを選択します。

- 最初からジョブ・パラメータを作成するには、「**次のジョブ・パラメータを定義**」を選択し、「**新しい値**」を選択します。
- 既存のジョブ・パラメータからジョブ・パラメータを作成するには、「**次のジョブ・パラメータを定義**」を選択し、ジョブ・パラメータを選択します。これにより、既存のジョブに類似するジョブを短時間で作成できます。パラメータに変更を加えた後、完成したジョブ・パラメータを別の名前で保存します。
- ジョブのパラメータを使用または表示するには、「**既存のジョブ・パラメータを使ってスケジュール**」を選択し、ドロップダウン・リストから使用するパラメータを選択します。次の画面に移動する前にパラメータを確認する場合は、「**ビュー**」をクリックします。

ジョブにパラメータ(実行時変数または制限)が存在しない場合、「ジョブ・パラメータ」セクションは表示されません。

ジョブ・パラメータが存在しない場合は作成する必要があります。

6 次へをクリックします。

7 「値の設定」で、この Interactive Reporting ジョブのサイクルとアクションを選択します。

8 別ジョブに対する自身の個人用、またはパブリックとして他ユーザーが使用できるようにパラメータを保存する場合は、「保存」を選択します。

- 9 「タイム・イベント」ページから、次のいずれかのオプションによりイベントを作成すること、または既存のイベントを使用することを指定します。
- 新しいイベントを作成するには、ドロップダウン・リストから「新しい反復タイム・イベント」を選択します。465 ページの「[個人用反復タイム・イベントの作成](#)」を参照してください。
 - 新しいカスタム・タイム・イベント: 1 回限りのスケジュールを作成する場合にカスタム・タイム・イベントを使用します。イベント・プロパティにはアクセスできないので、イベントの変更によりこの時間を変更することはできません。
- 10 次へをクリックします。
- 11 必要な場合は、通知オプションを構成します。
- 「ジョブ通知」パネルを使用してスケジュール・モジュール内で通知を表示する場合は、「[スケジュール・モジュールに通知を表示する](#)」を選択します。
 - 電子メールによる通知を行う場合は、電子メール・アドレスを入力します。各電子メール・アドレスは、セミコロン、コロン、スペース文字、カンマまたは改行で区切ります。
 - 電子メールに最新のジョブ出力を添付する場合は、「[電子メールに PDF 形式の出力を添付](#)」を選択します。
- Production Reporting ジョブの場合については、519 ページの「[ジョブのスケジュール設定用の出力オプション](#)」のその他の通知オプションを参照してください。
- 12 詳細な権限の手順については、136 ページの「[権限の設定](#)」を参照してください。
- 13 終了をクリックしてジョブをスケジュールします。

ジョブの出力の使用方法

ジョブを実行すると、その結果がジョブ出力アイテムに格納されます。このセクションでは、ジョブ出力プロパティの変更およびジョブ出力の表示について説明します。ジョブ出力の削除は簡素化されています。ジョブを削除すると、関連するすべての出力も削除されます。

ジョブ出力プロパティの変更

ジョブ出力のプロパティにより、ジョブ出力を表示できるユーザーを指定します。ジョブ出力は、ジョブと同じフォルダ内に含まれます。ジョブの各実行によりジョブ出力が生成されます。ジョブに対するアクセス権に応じて、ジョブ出力のプロパティを変更または表示できます。

- ▶ ジョブ出力プロパティを変更または表示するには、次の手順に従います。
 - 1 **エクスプローラ**から、ジョブ出力を見つけて選択します。
 - 2 「**ファイル**」を選択し、「**プロパティ**」を選択します。

注： また、アーチファクトを右クリックし、「**権限の編集**」を選択できます。

- 3 プロパティを変更するか、または権限をクリックしてアクセス・コントロールを変更します。

追加ユーザー、グループまたは役割にアクセスを割り当てる場合、適応状態は「表示のみ」に制限されます。また、既存の役割、グループおよびユーザーの適応状態は変更できません。ジョブのアクセス・コントロールを変更する場合に、将来のジョブ出力の適応状態を変更できます。

アクセス・コントロールの変更については、[136 ページの「権限の設定」](#)を参照してください。

- 4 OK をクリックします。

ジョブ出力の表示

ジョブ出力を開くと、ジョブ出力をナビゲートするための目次が表示されます。

- ▶ ジョブ出力を表示するには、次の手順に従います。
 - 1 **エクスプローラ**から、ジョブ出力ファイルを右クリックし、開くを選択します。
ジョブ出力のアイテムに対する目次が表示されます。
 - 2 いずれかのアイテムをクリックし、開くをクリックします。
 - 3 目次に戻り、他のアイテムを表示するには、コンテンツ・タブ領域の「TOC」タブを選択します。

イベントの管理

スケジュール・モジュールから「イベントの管理」パネルを使用します。

- アクセスできるイベントを表示します。
 - 他のユーザーがアクセス・コントロールを使用してイベントにアクセスできるようにします。
 - イベントの変更、削除または作成
- ▶ イベントを管理するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「イベントの管理」の順に選択します。
 - 2 表示されるイベントにフィルタを適用するには、ツールバーからフィルタを選択します。「フィルタ」ダイアログのフィールドに入力し、「適用」を選択します。
アクセス可能なすべてのイベントがそのプロパティとともにリストに示されます。
 - 3 イベントを変更または削除するには、イベントを選択して右クリックし、編集または削除を選択します。
 - 4 個人用タイム・イベントの作成については、[465 ページの「個人用反復タイム・イベントの作成」](#)を参照してください。パブリック反復タイム・イベントの作成については、[465 ページの「パブリック反復タイム・イベントの作成」](#)を参照してください。

個人用反復タイム・イベントの作成

- ▶ 個人用反復タイム・イベントを作成するには、次の手順に従います。
- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「イベントの管理」の順に選択します。
 - 2 表示されるイベントにフィルタを適用するには、ツールバーからフィルタを選択します。「フィルタ」ダイアログのフィールドに入力し、「適用」を選択します。
アクセス可能なすべてのイベントがそのプロパティとともにリストに示されます。
 - 3 イベントを右クリックし、追加、個人用反復イベントの順に選択します。

注： パブリック反復イベントまたは外部でトリガーされたイベントを追加するには、管理者である必要があります。
 - 4 「個人用反復タイム・イベントの作成」ダイアログ・ウィザードが表示されます。タイム・イベントの名前および説明を入力します。
 - 5 アクティブをクリックして、イベントでスケジュールを可能にします。

注： スケジュールが非アクティブなイベントに関連付けられている場合、ジョブは実行しません。スケジューラで「イベントの管理」パネルを使用することにより、イベントのアクティブなステータスを確認できます。
 - 6 このタイム・イベントで使用するカレンダーを選択します。
会社のカレンダーは管理者により作成されます。
 - 7 「実行日」リストから使用するオプションを選択し、実行をクリックします(デフォルトは「日単位」です)。

「日単位」、「週単位」、「期単位」、「四半期単位」および「年単位」では、反復する時間パターンを指定できます。「曜日(詳細設定)」および「日付(詳細設定)」では、パターンを伴わない日付を選択できます。
 - 8 「実行する時刻」リストから使用するオプションを選択し、次へをクリックします(デフォルトは「1時間に1回」です)。

このオプションには、「1日に1回」、「1日に2回以上」または「外部イベントの後」が含まれます。
 - 9 イベントの範囲を指定するために、開始時刻および終了時刻を更新します。
 - 10 「開始日」に入力した後、終了日に入力するためのオプションを選択するか、またはデフォルトの終了日なしを受け入れます。
 - 11 終了をクリックします。

パブリック反復タイム・イベントの作成

- ▶ パブリック反復タイム・イベントを作成するには、次の手順に従います。
- 1 上記の**手順 1** から **手順 10** を繰り返します。ただし、個人用反復イベントではなくパブリック反復イベントを選択します。
 - 2 「次へ」を選択します。

- 3 このイベントの権限の設定を完了し、「終了」を選択します。権限の設定の詳細については、[136 ページの「権限の設定」](#)を参照してください。

外部でトリガーされるイベントの作成

- ▶ 外部でトリガーされるイベントを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 上記の[手順 1](#)から[手順 1010](#)を繰り返します。ただし、個人用反復イベントではなく外部でトリガーされたイベントを選択します。
 - 2 「次へ」を選択します。
 - 3 このイベントの権限の設定を完了し、「終了」を選択します。権限の設定の詳細については、[136 ページの「権限の設定」](#)を参照してください。

イベントの表示

スケジュール・モジュールの「イベントの管理」パネルからすべてのイベントを表示できます。

- ▶ イベントを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「イベントの管理」の順に選択します。
反復イベントおよび外部でトリガーされたイベントのリストが示されます。
 - 2 表示されるイベントにフィルタを適用するには、ツールバー領域からフィルタを選択します。「フィルタ」ダイアログのフィールドに入力し、適用を選択します。

イベントの変更

スケジュール・モジュールの「イベントの管理」パネルからイベントを変更できます。

- ▶ イベントを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「イベントの管理」の順に選択します。
反復イベントおよび外部でトリガーされたイベントのリストが示されます。
 - 2 表示されるイベントにフィルタを適用するには、ツールバー領域からフィルタを選択します。「フィルタ」ダイアログのフィールドに入力し、適用を選択します。
 - 3 イベントを選択し、右クリックして変更を選択します。
 - 4 プロパティを変更します。
 - 5 OK をクリックします。
変更したイベントがイベント・リストに表示されます。

イベントの削除

スケジュールまたは他のイベントで使用されていないイベントを削除できます。たとえば、反復イベントのトリガーのために外部イベントが使用されている場合、

外部イベントを削除するには、外部イベントから反復イベントを削除するか関連付けを解除する必要があります。

- ▶ スケジュール・モジュールの「イベントの管理」パネルからイベントを削除するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「イベントの管理」の順に選択します。

イベント・リストが表示されます。

- 2 表示されるイベントにフィルタを適用するには、ツールバー領域からフィルタを選択します。「フィルタ」ダイアログのフィールドに入力し、適用を選択します。

- 3 イベントを選択し、右クリックして削除を選択します。はいをクリックして削除を確認します。

削除するタイム・イベントにスケジュールが関連付けられている場合、別のタイム・イベントを使用するように該当スケジュールを変更します。

外部イベントに関連するタイム・イベントを削除する前に、外部イベントからタイム・イベントの関連付けを解除するか、または外部イベントを削除します。

ジョブ・キューの管理

ジョブ・キューによりユーザーは、並列処理されるジョブ数を制限し、ジョブ・キューを管理できます。

- ▶ ジョブ・キューを管理するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「ジョブ・キュー」の順に選択します。

- 2 「ジョブ・キュー」ページに移動します。高い優先度を持つジョブがキューの先頭にあることを確認します。

- 3 次のタスクを実行し、キュー内での変更の反映結果を管理および検証します。

右クリック・メニューから、次の操作を行います。

- キューの先頭にジョブを配置します。このジョブは、最初にキューから除去されます。
- キューの最後にジョブを配置します。このジョブは、最後にキューから除去されます。
- ジョブに対して「保持」アイテムを選択します。複数のジョブ・タイプについてこの操作を繰り返します。ジョブは処理されませんが、キューからは除去されません。
- キューからジョブを削除します。すべてのジョブ・タイプについてこの操作を繰り返します。ジョブはキューから除去されます。

注： 複数のスケジュールされたジョブがキューに含まれる場合、バックグラウンドおよびフォアグラウンドで複数の異なるジョブが実行します。ジョブをキューに含めるかどうかユーザーに尋ねるダイアログが表示されます。ユーザーが「はい」をクリックすると、ジョブがキューに追加されます。

ジョブ通知の表示

スケジュール・モジュールから「ジョブ通知」パネルを使用します。

- バックグラウンドで実行するジョブの完了ステータスを表示します。
- 完了したジョブの通知を表示します。

▶ ジョブ通知を表示するには、次の手順に従います。

1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「**ジョブ通知**」の順に選択します。

2 ジョブ完了通知を削除するには、次の手順に従います。

- 1つの通知を削除するには、ジョブを選択し、右クリックして「**削除**」を選択します。
- すべての通知を削除するには、ジョブを選択し、右クリックして「**削除**」を選択します。

連結ジョブ・ステータス・リストの使用法

スケジュール・モジュールから、「連結ジョブ・ステータス」パネルを使用します。

- 「連結ジョブ・ステータス・リスト」で表示されるジョブ・リストへのフィルタの適用については、[469 ページの「連結ジョブ・ステータス・リストへのフィルタの適用」](#)を参照してください。
- 今すぐ実行します。ジョブの失敗時に以前に使用したパラメータでスケジュール済のジョブを再実行します。[470 ページの「スケジュール済のジョブを今すぐ実行」](#)を参照してください。
- ジョブ・プロパティを変更します。[473 ページの「ジョブ・パラメータの変更」](#)を参照してください。
- スケジュール・プロパティを変更します。[472 ページの「スケジュールの変更」](#)を参照してください。
- イベント・プロパティを変更します。[466 ページの「イベントの変更」](#)を参照してください。
- スケジュールを追加します。[473 ページの「スケジュールの追加」](#)を参照してください。
- スケジュールを削除します。[472 ページの「スケジュールの削除」](#)を参照してください。

▶ スケジュール済のジョブ・リストを更新するには、次の手順に従います。

1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「**連結ジョブ・ステータス**」の順に選択します。

ツールバーから**フィルタ**を選択します。「連結ジョブ・ステータス・リスト」で表示されるジョブ・リストへのフィルタの適用については、[469 ページの「連結ジョブ・ステータス・リストへのフィルタの適用」](#)を参照してください。

次の表に、連結ジョブ・ステータス・リストページの列の説明を示します。

表 115 連結ジョブ・ステータス・リストの列

ジョブ名	ジョブの名前を示します。
ジョブの所有者	ジョブ所有者のログイン ID を表示します。非管理者ユーザーは、ジョブを表示するためのアクセス権を持つ必要があります。
スケジュール名	ジョブのスケジュール名を表示します。
スケジュールの所有者	スケジューラ所有者のログイン ID を表示します。管理者のみが他のユーザーにより所有されたスケジュールを表示できます。
イベント名	イベントの名前を表示します。
最終実行日	ジョブが最後に実行した日付を表示します。スケジュールまたはイベントが非アクティブである場合、この列には「スケジュールがインアクティブ」または「イベントがインアクティブ」が表示されます。
最新のステータス	ジョブの前回実行時のステータスを表示します。
次の実行日	ジョブが実行する次の日付を表示します。

- 2 オプション: スケジュールを削除するには、スケジュールを選択し、右クリックして削除を選択します。

すべてのスケジュールを選択するには、列の上部にあるチェック・ボックスをクリックします。

連結ジョブ・ステータス・リストへのフィルタの適用

表 116 に示されたフィルタ条件を使用して、ジョブ・リストにフィルタを適用できます。空白の場合は、特定のフィルタは設定されません。連結ジョブ・ステータス・リストは、フィルタ・ページから「デフォルトのソート順」フィールドで選択したフィルタによりソートされます。

- ▶ 連結ジョブ・ステータス・リストに対するフィルタおよびソート条件を設定するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「連結ジョブ・ステータス」の順に選択します。
- 2 デフォルトのフィルタ設定が存在しない場合は、ツールバーから「フィルタ」を選択してフィルタ設定を選択します。「フィルタ」ダイアログが表示されます。

フィルタ条件の詳細については、表 116 を参照してください。

- 3 ドロップダウン・リストからデフォルトのソート順、昇順または降順を指定するオプションを選択することにより、ソート順を決定します。

デフォルトのソート・フィルタはジョブ名です。ソート・フィルタの説明については、表 116 を参照してください。

- 4 次のボタンをクリックします。

- 適用: 1 つのセッションに対して値を保存します。
- デフォルトとして保存: デフォルト値として値を保存します。
- デフォルトに戻す: デフォルト値として最後に保存した値を取得します。
- 取消し: 値を保存しません。

表 116 ジョブ・フィルタ

ジョブ・フィルタ	説明
ジョブ名	「等しい」、「含む」、「次で終わる」または「開始文字」を選択し、テキストを入力します。
ジョブの所有者	「等しい」、「含む」、「次で終わる」または「開始文字」を選択し、テキストを入力します。
スケジュール名	「等しい」、「含む」、「次で終わる」または「開始文字」を選択し、テキストを入力します。
スケジュールの所有者	「等しい」、「含む」、「次で終わる」または「開始文字」を選択し、テキストを入力します。
イベント名	「等しい」、「含む」、「次で終わる」または「開始文字」を選択し、テキストを入力します。
最新のステータス	第1のドロップダウン・リストから「すべて」、「等しい」または「否定」、第2のドロップダウンから「成功」または「取消し済」を選択します。
最終実行日	ドロップダウン・リストから期間を選択します。
次の実行日	ドロップダウン・リストから「後」、「次の値の間」または「前」を選択し、その選択に対応する年、月および日を選択します。
デフォルトのソート順:	リストをソートするためのフィルタ条件をドロップダウン・リストから選択します。昇順または降順のソート順のラジオ・ボタンを選択します。
スケジュールのステータス	スケジュールのステータスに対する目的のフィルタを選択します。デフォルトは「アクティブ」です。

スケジュール済のジョブを今すぐ実行

この機能では、ユーザーが連結ジョブ・ステータス・リストからいずれかのジョブを実行できます。また、一度に実行する複数のジョブを選択できます。必要な当該ユーザー権限については、表 117 を参照してください。

表 117 「今すぐ実行」で必要なユーザー権限

アーチファクト	ジョブ・タイプ	ユーザー権限
汎用ジョブ	標準	管理者
汎用ジョブ	標準	変更と実行アクセスよりも低い権限を持つすべてのユーザー
汎用ジョブ	パラメータあり	変更と実行アクセス権を持つスケジュール・マネージャ
Interactive Reporting ジョブ	標準	変更と実行アクセス権を持つスケジュール・マネージャ
Interactive Reporting ジョブ	パラメータあり	管理者

アーチファクト	ジョブ・タイプ	ユーザー権限
Interactive Reporting ジョブ	標準	変更と実行アクセスよりも低い権限を持つすべてのユーザー
Production Reporting ジョブ	標準	変更と実行アクセスよりも低い権限を持つすべてのユーザー
Production Reporting ジョブ	パラメータあり	管理者
Production Reporting ジョブ	DB 接続あり	変更と実行アクセス権を持つスケジュール・マネージャ
Production Reporting ジョブ	DB 接続あり	管理者

- ▶ スケジュール済のジョブを今すぐ実行するには、次の手順に従います。
- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「連結ジョブ・ステータス」の順に選択します。
 - 2 通知が使用可能なスケジュールにより正常に実行されたジョブを選択します。
 - 3 右クリックし、「今すぐ実行」を選択します。
 - 4 次のいずれかの操作を行います。
 - 「実行中のジョブ」ページに移動し、ジョブが実行中であることを確認します。
 - 「ジョブ通知」ページに移動し、ジョブの通知を確認します。
 - 「ジョブ通知」ページから出力を開きます。
 - ジョブ・サービスがビジーであるときにジョブを実行する場合、ジョブがキューの最上部に追加されたことを確認するためにジョブ・キュー・モジュールを確認できます。

個別のジョブ・スケジュールの管理

- ▶ スケジュールを管理するには、次の手順に従います。
- 1 エクスプローラからジョブを右クリックし、「ジョブ・スケジュールの管理」を選択します。
 - 2 スケジュール情報のレビュー

表 118 スケジュール

スケジュール列	説明
ジョブ名	ジョブの名前
ジョブの所有者	ジョブの所有者
スケジュールの所有者	スケジュールの作成者
スケジュール名	スケジュールの名前
説明	スケジュールの説明

スケジュール列	説明
イベント名	アクションのタイプ
次の実行日	次にスケジュールされた実行

- 3 「**ジョブ・パラメータ**」の情報を確認して、ジョブを選択し、右クリックして「**パラメータの表示**」を選択します。

表 119 ジョブ・パラメータ

ジョブ・パラメータ	説明
ジョブ名	ジョブの名前
ジョブ・タイプ	Interactive Reporting ジョブまたは Production Reporting ジョブのタイプ
パラメータ名	このジョブに対して作成されたパラメータの名前
説明	パラメータの記述
所有権	パラメータの所有者

スケジュールの変更

スケジュールは必要に応じて変更できます。

- ▶ スケジュールを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「**連結ジョブ・ステータス**」の順に選択します。
アクセス可能なすべてのジョブのリストが表示されます。
 - 2 ジョブ名で、ジョブを見つけます。
 - 3 ジョブを選択し、右クリックして「**スケジュールの変更**」を選択します。
 - 4 プロパティを変更します。
461 ページの「[ジョブのスケジュール](#)」を参照してください。
 - 5 スケジュールをアクティブまたは非アクティブにするには、「全般プロパティ」ページで「アクティブ」を切り替えます。
 - 6 その他にもプロパティを変更する場合は適用をクリックし、それ以外の場合は OK をクリックします。

スケジュールの削除

- ▶ スケジュールを削除するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「**連結ジョブ・ステータス**」の順に選択します。
システムのすべてのジョブをリストに示します。
 - 2 ジョブ名でスケジュールを見つけ、右クリックして「**削除**」を選択します。

スケジュールの追加

- ▶ スケジュールを追加するには、次の手順に従います。
 - 1 次のいずれかの操作を行います。
 - 「ナビゲート」、「スケジュール」、「連結ジョブ・ステータス」の順に選択します。
システムのすべてのジョブをリストに示します。
 - エクスプローラから、ジョブを選択します。
 - 2 右クリックして、スケジュールの追加を選択します。
 - 3 [461 ページの手順 3](#) からの [461 ページの「ジョブのスケジュール」](#) の手順に従います。

ジョブ・パラメータの表示

- ▶ ジョブ・パラメータを表示するには、「ナビゲート」、「スケジュール」、「パラメータの表示」の順に選択します。スケジュールおよびパラメータを持つすべてのジョブがリストに示されます。[473 ページの「ジョブ・パラメータの変更」](#) および [473 ページの「ジョブ・パラメータの削除」](#) も参照してください。

ジョブ・パラメータの変更

- ▶ ジョブ・パラメータを変更するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「パラメータの表示」の順に選択します。
スケジュールおよびパラメータを持つすべてのジョブが表示されます。
 - 2 ジョブを選択し、右クリックして「変更」を選択します。
 - 3 プロパティを変更して、OK をクリックします。

ジョブ・パラメータの削除

スケジュールにより使用されていないジョブのパラメータを削除できます。

- ▶ ジョブ・パラメータを削除するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「パラメータの表示」の順に選択します。
スケジュールおよびパラメータを持つすべてのジョブがリストに示されます。
 - 2 スケジュール済のジョブをクリックします。
 - 3 右クリックして、削除を選択します。
関連付けられたスケジュールが存在しない場合、ジョブのパラメータが削除されます。
スケジュールが関連付けられている場合は、スケジュールを変更することにより、スケジュールを他のジョブ・パラメータに関連付ける必要があります。

ジョブの取得

Production Reporting ジョブおよびその関連ファイルを取得できます。

- ▶ Production Reporting ジョブを取得するには、次の手順に従います。
エクスプローラから、ジョブを右クリックして「取得」を選択します。

バッチのスケジュール設定

Financial Reporting トピックのバッチ・プロセス

- [474 ページの「実行するバッチのスケジュール」](#)
- [482 ページの「バッチ削除」](#)
- [483 ページの「エクスポート済ファイルの取得」](#)
- [483 ページの「スケジュール済バッチのステータスの表示」](#)
- [484 ページの「コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備」](#)

バッチ・エディタを使用して EPM Workspace でバッチを作成、編集および保存します。このタスクを実行するには、グローバル管理者、レポート・デザイナー、スケジューラまたはコンテンツ・パブリッシャの役割が必要です。役割については、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System セキュリティ管理ガイド』の付録を参照してください。バッチは、レポートまたはブックなど、ドキュメント・セットのグループ化と処理のために使用します。生成したバッチの出力はプリンタに送信できます。バッチは、HTML または PDF ファイルとして外部ディレクトリにエクスポートできます。エクスポートした出力は PDF フォーマットで電子メールによりユーザーに送信できます。

注： Oracle では、長いレポートまたはブックをバッチで印刷することをお勧めしています。

実行するバッチのスケジュール

バッチは、直ちにまたは後日に実行するようにスケジュールできます。バッチのスケジュールでは、バッチ POV の定義、電子メール通知の設定およびバッチの実行時に生成される出力のあて先を選択します。宛先タイプには、所定のプリンタへの印刷、および所定のリポジトリ・フォルダへのスナップショット、外部ディレクトリまたは電子メールに添付する PDF および所定の外部ディレクトリへの HTML を含めることができます(バッチ・バーストでは HTML はサポートされません)。スケジュール済のバッチ・オプションを選択した後、正常実行後に、バッチ・スケジューラからバッチ・キューにバッチが追加されます。

スケジューラのバッチ・バースト機能では、1 データ・ソースに対するバッチ POV で 1 つの次元の複数のメンバーに対するバッチを実行して、生成された PDF を受信者リストに電子メールで送信し、ファイル・システムまたはリポジトリに出力を保存できます。たとえば、New York および Houston に対して実行するようにス

スケジュールされたバッチでは、New York の出力を jones@cd.com、Houston の出力を smith@cd.com に送ることができます。バッチ・バーストでは、事前に定義されたテキスト機能をレポート・ラベルおよびフォルダ・ラベルで使用できます。バッチに割り当てられたデフォルト設定を上書きするためにバースト宛先ファイル ([バースト宛先ファイルについて](#))を作成できます。

バースト宛先ファイルについて

バースト宛先ファイルには、スケジュールしたバッチのデフォルト設定が含まれます。バッチ・ウィザードにより、デフォルト設定を定期的に確認できます。スケジュールしたバッチの出力および権限の例外を指定するために、CSV ファイルとしてバースト・ファイルをエクスポートし、バッチ・ウィザードで定義されたデフォルト設定を上書きできます。CSV バースト宛先ファイルのメンバー設定は、バッチ・ウィザードのメンバー選択に追加できます。たとえば、選択したメンバーに基づいて各レポートに異なるサブフォルダを指定したり、レポートを読み取り専用にしたりできます。選択した次元で有効なメンバーのみがバースト・ファイルに追加されます。

現在のバッチのバースト宛先ファイルを編集するには、管理者またはデザイナーが宛先ファイルをテキスト・エディタまたは Excel にエクスポートし、メンバーがまだ表示されない場合はメンバーを入力して、表の値を編集します。次元内の各メンバーの値は、サブフォルダ名、Financial Reporting オブジェクト名、電子メール・アドレス、グループ名、役割名、ユーザー名、PDF の外部ルート・フォルダです。

操作が完了したら、バッチ・ウィザードでバッチに適用できるリポジトリ(「ファイル」>「インポート」>「ファイル」)にファイルをインポートする必要があります。サンプルのバースト宛先ファイルが Reporting and Analysis インストールの「サンプル」フォルダに保存されています。

バッチ・スケジュールリング・タスク

- [476 ページの「バッチ視点\(POV\)用のメンバーの選択」](#)
- [477 ページの「ジョブ・バーストのスケジュール設定」](#)
- [477 ページの「バッチ宛先とバースト出力ラベルの指定」](#)
- [480 ページの「バッチ・バースト受信者用の電子メール・リストの作成」](#)

▶ バッチの実行をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 バッチ・スケジューラで、ファイル、スケジュール設定するバッチの順に選択します。
- 3 スケジュールを設定するバッチの名前と説明を入力します。
- 4 オプション: 正常実行後にスケジューラからバッチを削除するには、出力後に、スケジュール済バッチをスケジューラから削除を選択します。
- 5 次へをクリックしてバッチを選択します。
- 6 バッチを選択し、「次へ」をクリックします。必要に応じて、**ログオン情報**が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします([485 ページの「ログオン情報の提供」](#)を参照)。

7 開始時刻について、次の操作を行います。

- スケジュールされたバッチを直ちに開始する場合は、「即時」をクリックし、[手順 9](#)に進みます。
- スケジュールされたバッチを後で開始する場合は、「時刻を指定」を選択し、[手順 8](#)に進みます。

8 「開始時刻」領域で開始時刻と日付を選択するには、次の手順に従います。

1. 左上のリスト・ボックスで、バッチを実行する開始時刻と間隔(例: 日次、週次など)を入力します。
2. 右上のドロップダウン・リストで、開始日と終了日を選択します。

9 オプション: バッチ内のレポートおよびブックのいずれかがユーザー POV 上に次元を持つ場合、その次元のメンバーをスケジュール済バッチの POV で設定できます。詳細については、[476 ページの「バッチ視点\(POV\)用のメンバーの選択」](#)を参照してください。

10 オプション: バッチ POV 上の 1 つの次元に含まれる複数のメンバーに対してバッチを実行するためにジョブ・バーストを使用する場合には、[477 ページの「ジョブ・バーストのスケジュール設定」](#)を参照してください。

11 次へをクリックします。

12 実行中のバッチ・ファイルの宛先についてデフォルト設定を変更し、次へをクリックします。

13 完了をクリックし、宛先に対して選択した設定とともにバッチ・スケジューラでバッチ・ジョブを保存します。

バッチ視点(POV)用のメンバーの選択



各スケジュール設定されたバッチは、バッチ内のレポートのすべての関連する次元に基づく POV を持ちます。どのレポートもブックもユーザー POV のメンバーを持たない場合、ユーザー POV はデフォルト・バッチ POV として指定されます。ユーザー POV 設定は、バッチ POV の各次元のメンバーを指定して上書きできます。バッチ POV で選択したメンバーが適切であることを確認する必要があります。

▶ バッチの POV のメンバーを選択するには、次の手順に従います。

- 1 バッチ・スケジューラに到達するには、[474 ページの「実行するバッチのスケジュール」](#)を参照してください。
- 2 スケジュール済バッチの POV 領域から、メンバーを選択する次元をクリックします。メンバーの選択が表示されます。
- 3 POV に使用するメンバーを選択し、OK をクリックします。メンバー選択の詳細は、[第 8 章「Financial Reporting の使用方法」](#)を参照してください。
- 4 各 POV 次元に対して [手順 2](#) と [手順 3](#) を繰り返します。
- 5 次へをクリックしてバッチのバッチ宛先を完成します。[477 ページの「バッチ宛先とバースト出カラベルの指定」](#)を参照してください。

ジョブ・バーストのスケジュール設定

各スケジュール済バッチに対してジョブ・バーストを使用して次元の1つ以上のメンバーにレポートを実行できます。ジョブ・バーストに次元のみを選択すると、バッチ POV のその次元の設定は使用不可になります。選択されていないバッチ POV メンバーはアクティブのまま残り、バッチに含まれます。(レポートまたはブックがユーザー POV にメンバーを持たない場合バッチ POV またはジョブ・バーストはありません。)

- ▶ バッチ・バーストをスケジュールするには:
- 1 バッチ・スケジューラ・ウィザードを使用して「開始時間」画面へナビゲートします (474 ページの「[実行するバッチのスケジュール](#)」を参照)。
 - 2 「バースト・オプション」領域で次元の複数メンバーにバッチを実行を選択し、ジョブ・バースト用の次元を選択します。
 - 3  をクリックしジョブ・バースト用のメンバーを選択します。メンバーの選択の詳細は、[第 8 章「Financial Reporting の使用方法](#)」を参照してください。
 - 4 バースト・ファイルで、このバッチの CSV バースト受信者リストを作成してリポジトリにインポートしている場合、 を選択してファイルを選択します。
 - 5 「メンバーのコピー」をクリックして CSV バーストの受信者リストに定義されているメンバーをメンバーの選択リストに追加します。

注： 選択した次元に対して使用可能なメンバーのみ追加されます。

- 6 次へをクリックしてバッチ宛先へ進みます。477 ページの「[バッチ宛先とバースト出カラベルの指定](#)」を参照してください。

バッチ宛先とバースト出カラベルの指定

「宛先」領域はスケジュール済バッチの出力のタイプと場所を指定します。バッチ宛先の出力オプションの以下の任意の組合せを選択します。

注： バッチ・バーストは、スナップショット・レポート、ブック、および PDF ファイルへの出力のみサポートします。バッチ・バーストのプリンタおよび HTML への出力はサポートしていません。

- スナップショット・レポートまたはスナップショット・ブック - スナップショット・レポートおよびブックは元のフォルダ(デフォルトの場所)またはリポジトリ内の別のフォルダに保存できます。ユーザー、グループ、および役割にスナップショット・レポートまたはブックを表示するファイル権限を与えることができます。
- 印刷 - プリンタおよびプリンタ・プロパティを選択できます。バッチ・スケジューラは、プリント・サーバーが利用できるすべてのプリンタを表示します。プリント・サーバー構成は Financial Reporting コンピュータの `fr_repserver.properties` ファイルで指定します。

- PDF にエクスポート - PDF ファイルは、スケジューラ・サーバー上のフォルダに保存するか外部ディレクトリへエクスポートできます。PDF ファイルは電子メールに添付できます。レポートごとに別電子メールを送るか ZIP ファイルで一度に送ることができます。

注： 電子メール出力の最大添付サイズを指定するには、スケジューラ・マシンの BIPlus/Lib 内の `fr_scheduler.properties` ファイル内にある `MaxEmailAttachmentSize` プロパティを使用します。キロバイト単位で入力するこの値を使用して、電子メールごとに許される最大添付サイズを超えないようレポートを複数の電子メールに分割します。デフォルトは無制限(0 (ゼロ)または -ve)に設定されています。1 個の PDF ファイルまたは複数ファイルを含むオーバーサイズの添付を送ると電子メールは送られず送信者に通知されます。1 つのオーバーサイズ添付の場合、送信者はそれをスケジューラ・サーバーまたは外部ディレクトリからコピーして手作業で配布できます。複数ファイル添付の場合、送信者はバッチ・スケジューラからバッチを再実行して、各ファイルごとに個別の電子メールを送るオプションを選択できます。このプロパティはバーストおよび非バースト出力に適用されます。

- HTML としてエクスポート - HTML ファイルはスケジューラ・サーバー上のフォルダに保存するか外部ディレクトリへエクスポートできます。HTML ファイルではジョブ・バーストはサポートしていません。

▶ バッチ宛先を選択するには、次の手順に従います。

1 「宛先」領域から任意のアクションを選択します。

- **リポジトリ内のスナップショットの保存先:**このオープンを選択すると、「元オブジェクトと同じフォルダ」 および「別のフォルダ」 オプションが使用可能になります。以下のアクションを実行します。
 - 「元オブジェクトと同じフォルダ」 を選択してスナップショットとスナップショット・ブックをリポジトリ内の元のレポートまたはブックと同じフォルダに保存します。
 - 「別のフォルダ」 を選択してリポジトリ内の別の場所に保存します。「フォルダ」 をクリックしてリポジトリ内の出力先フォルダを選択し、次に「OK」 をクリックします。

注： リポジトリ内のスナップショットの保存先を選択するとファイルのアクセス権が使用可能になります。ファイルのアクセス権ではユーザーおよびグループにスナップショット出力のアクセス権を与えます。アクセス権の割当の詳細は、[第 9 章「Financial Reporting バッチとブックのドキュメントの設計」](#) を参照してください。



- **印刷先** - デフォルト・プリンタを表示します。別のプリンタおよびプリンタ設定を選択します。
- **PDF にエクスポート** - バッチをスケジューラ・サーバーへ PDF ファイルとしてエクスポートします。外部ディレクトリへエクスポートするには、「外部ディレクトリにエクスポート」を選択します。レポートを電子メール添付ファイルとして添付するには、「PDF 添付ファイルとして電子メール送信」を選択します。電子メール添付ファイルを圧縮するには「PDF を zip フォーマットで

「**圧縮**」を選択します。注釈をレポートと印刷するには、注釈の印刷を選択し、詳細を選択して注釈の印刷方法を指定します。77 ページの「[注釈印刷プリファレンスの設定](#)」を参照してください。

注： 注釈印刷のプリファレンスは特定のバッチの一度限りの設定です。これはグローバル・プリファレンスとして保存されません。

- **HTML にエクスポート** - バッチをスケジューラ・サーバー上に HTML ファイルとしてエクスポートします。外部ディレクトリにエクスポートするには、「**外部ディレクトリにエクスポート**」を選択します。このオプションはバッチ・バーストをサポートしません。

注： 「**外部ディレクトリにエクスポート**」を選択すると、使用可能なドロップダウン・メニューには Hyperion Financial Reporting スケジューラ・サーバー・コンピュータ上の <FinancialReporting>\lib ディレクトリ内の fr_scheduler.properties ファイルに指定されているフォルダ場所が表示されます。例: # ExportFolderLabel1=ExportFolder1 #
ExportFolderPath1=¥¥¥¥¥¥{machine name}¥¥¥¥¥¥{export folder name} システム管理者は、エクスポートが許可されているすべてのフォルダを決定する必要があります。別のフォルダ場所を指定するにはシステム管理者に連絡してください。

- **バースト出力ラベル** - 「**オブジェクト・ラベル**」と「**サブフォルダ・ラベル**」フィールドは、それぞれレポートとレポートのサブフォルダ名の特定に使用できる 2 つのデフォルト・テキスト関数を示します。「」をクリックして追加テキスト関数を選択します。「」をクリックして機能をテストします。バースト・レポートには以下の関数を使用できます。
 - <<MemberName()>> - バーストするメンバーの名前を戻します。この関数にはパラメータはありません。
 - <<MemberAlias()>> - バーストするメンバーの別名を戻します。この関数にはパラメータはありません。
 - <<MemberDescription()>> - バーストするメンバーの説明を戻します。この関数にはパラメータはありません。
 - <<BatchPovMember(DataSrcName , DimName)>> - バーストするメンバーの POV メンバーの名前を戻します。ここで、DataSrcName は希望 POV (バッチは 2 つ以上の POV を指すことが可能) のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー名を抽出する所定 POV 下の次元の名前です。
 - <<BatchPovAlias(DataSrcName , DimName)>> - バーストするレポートの POV メンバーの別名を戻します。ここで DataSrcName は希望 POV (バッチは 2 つ以上の POV を指定可能) のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー説明を抽出する所定 POV の下の次元の名前です。
 - <<BatchPovDescription (DataSrcName , DimName)>> - バーストするレポートの POV メンバーの説明を戻します。ここで DataSrcName は希望 POV (バッチは 2 つ以上の POV を指定可能) のデータ・ソースの名前で DimName はそのメンバー説明を抽出する所定 POV の下の次元の名前です。



- <<FinancialReportingObjectName()>> - バーストする Financial Reporting オブジェクトの名前を戻します。これは通常レポート名です。この関数にはパラメータはありません。
- <<Financial ReportingObjectDescription()>> - バーストする Financial Reporting オブジェクトの説明を戻します。これは通常レポート名です。この関数にはパラメータはありません。
- <<Date("format")>> - オンライン・レポートにデータが記入された日付と時刻、あるいは、スナップショット・レポートを保存したときの日付と時刻を戻します。ここで format は日付と時刻のフォーマットを定義する、引用符に囲まれた文字列です。すべての format 日付/時刻文字は『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』の関数の使用方法の章を参照してください。
- **バースト・リストのプレビュー** - 選択すると CSV バースト・リストをプレビューできます。リストにはジョブ・バースト・バッチのメンバー用に選択されたデフォルトの設定が表示されます。詳細は [バースト宛先ファイルについて](#) を参照してください。

2 次へをクリックします。

- スケジュールしたバッチにジョブ・バーストを伴う電子メール PDF 添付ファイルが含まれる場合、「PDF 添付ファイル電子メール」ダイアログ・ボックスが表示されます。手順は、[480 ページの「バッチ・バースト受信者用の電子メール・リストの作成」](#) を参照してください。
- スケジュールしたバッチにジョブ・バーストを伴わない電子メール PDF 添付ファイルが含まれる場合、[スケジュール済バッチの詳細ダイアログ・ボックス](#)が表示されます。手順は、[481 ページの「電子メールでの通知の設定」](#) を参照してください。

バッチ・バースト受信者用の電子メール・リストの作成

バッチ・バーストにより PDF 添付ファイル付きの電子メールを受け取る受信者用の受信者リスト、件名、およびメッセージを作成できます。

- ▶ 電子メール受信者リストを作成する手順は、次の通りです。
 - 1 「**選択**」をクリックして受信者リストの電子メール・アドレスを選択または追加、あるいはその両方を実行します。詳細は、[481 ページの「バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択」](#) を参照してください。
 - 2 デフォルト・テキストを受け入れるか**メッセージ件名** および**メッセージ本文**をカスタマイズできます。「」をクリックしてテキスト関数を追加し、「」をクリックして関数をテストします。
 - 3 「**バースト・リストのプレビュー**」をクリックして POV メンバーのデフォルト設定を表示します。
 - 4 「**次へ**」をクリックして受信者に電子メールでバッチ・ジョブ・ステータスを通知します。[481 ページの「電子メールでの通知の設定」](#) を参照してください。

電子メールでの通知の設定


PDF 出力がスケジュールされたバッチが完了したとき、成功または不成功、あるいはその両方のステータスを電子メールで送ることができます。バーストされていないバッチでは、この電子メールは通知と PDF 添付ファイルを含み、バーストされたバッチでは通知だけを含みます。

- ▶ 電子メール通知を設定するには、次の手順に従います。
 - 1 **スケジュール済バッチの詳細**に到達するには、**バッチ・ウィザード**を開始します。474 ページの「**実行するバッチのスケジュール**」を参照してください。
 - 2 受信者にバッチ実行の成功を通知するには、「**処理の完了後に詳細を電子メールで送信**」を選択して「**選択**」をクリックして電子メール受信者(詳細は481 ページの「**バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択**」を参照)を追加します。「**メッセージ件名**」に短い備考を入力します。

受信者にバッチ実行の不成功を通知するには、「**エラーが発生した場合に詳細を電子メールで送信**」を選択して「**選択**」をクリックして電子メール受信者(詳細は481 ページの「**バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択**」を参照)を追加します。「**メッセージ件名**」に短い備考を入力します。
 - 3 **オプション**。バッチのジョブ・バーストには「**バースト・リストのプレビュー**」をクリックしてバースト宛先ファイルを表示およびエクスポートします。このファイルには、バーストしたバッチのメンバー用に選択されたデフォルト設定が含まれます。このファイルの詳細は、**バースト宛先ファイルについて**を参照してください。

バッチのスケジュールの電子メール・アドレスの選択

スケジュールしたバッチが成功または不成功のとき電子メールを送るようスケジュールを設定できます。電子メールにはバッチのステータスの詳細とオプションとしてバッチの PDF 出力が含まれます。電子メール・アドレスを選択、追加、または削除できます。

- ▶ 受信者電子メールを選択するには、次の手順に従います。
 - 1 「**スケジュールを設定する電子メール受信者の選択**」に到達するには、**バッチ・ウィザード**を開始します。詳細は 474 ページの「**実行するバッチのスケジュール**」を参照してください。
 - 2 「**使用可能な受信者**」で電子メール・アドレスを選択して「」をクリックします。
 - 新しい受信者電子メールを追加するには、「**追加**」をクリックします。「**受信者のリストにアドレスを追加**」に電子メール・アドレスをカンマで区切って追加し、「**OK**」をクリックします。
 - 受信者の電子メールを除去するには、電子メール・アドレスを選択して「**削除**」をクリックします。

バッチ削除

つぎの方法でバッチを削除できます。

- グローバル管理者、レポート・デザイナー、スケジューラまたはコンテンツ・パブリッシャの役割と適切なファイル権限を持つ場合、バッチをリポジトリから削除できます。
- バッチ・スケジューラからスケジュール済バッチを削除できます。

リポジトリからバッチの削除

リポジトリから複数のバッチを一度に削除できます。バッチを削除するには、[第3章「アイテムの参照と管理」](#)を参照してください。

バッチ・スケジューラからバッチの削除

バッチ・スケジュール設定時、無事完了していればスケジューラからスケジュール済バッチを削除できるオプションがあります。このオプションを選択しない場合、成功したバッチはバッチ・スケジューラに保存されます。「エラー」ステータスのバッチは常にバッチ・スケジューラに保存されます。すべてのバッチをバッチ・スケジューラから削除することもできます。

- ▶ バッチ・スケジューラからスケジュール済バッチを削除するには、次の手順に従います。

- 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
- 2 バッチ・スケジューラで、削除するバッチを選択します。

ヒント： 複数のバッチを選択するには、CTRL キーを押しながらリスト内の各バッチをクリックします。

- 3 編集を選択して削除を選択します。
- 4 プロンプトされたらはいをクリックします。

バッチ・スケジューラ結果の自動削除

指定した未来年齢を超えるバッチを自動的に除去するようバッチ・スケジューラを構成できます。たとえば、1週間を超えるバッチとスケジューラ・サーバーに格納された関連する結果ファイルを除去できます。

自動削除オプションはデフォルトでオフになっています。

`fr_scheduler.properties` ファイルを編集して、結果を削除する年齢とシステムが確認する頻度を指定してこのオプションを使用可能にできます。

`r_scheduler.properties` ファイルは、Hyperion Financial Reporting スケジューラ・サーバー・コンピュータの `<Financial Reporting>\lib` ディレクトリにあります。

エクスポート済ファイルの取得

スケジュール済バッチを実行したあと、出力ファイル取得オプションを使用して zip 圧縮した HTML または PDF 出力ファイルを取得して名前を変え、zip 圧縮したファイルをスケジューラ・サーバーの¥data¥SchedulerOutput¥Output ディレクトリからローカル・ドライブへロードできます。エクスポート済出力を取得するにはバッチのアクセス権が必要です。

注： バッチをスケジュールした後削除した場合、出力を取得できません。取得は、非バースト・バッチ・ファイルに対してのみ有効です。

- ▶ 出力を取得するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
 - 2 バッチ・スケジューラで、エクスポート済出力を作成して完了したスケジュール済バッチを選択します。
 - 3 アクションを選択し、出力ファイルの取得を選択します。ファイルは ZIP ファイルとして与えられます。
 - 4 エクスポートするファイルを選択して「抽出」を選択し、ファイルをユーザーのマシンのディレクトリへエクスポートします。

スケジュール済バッチのステータスの表示

スケジュール済バッチはリスト・フォーマットで表示できます。バッチの実行時に発生する開始時間、宛先、ステータスなどのアイテムは行と列フォーマットで表示されます。

- ▶ 実行したスケジュール済バッチのステータスを表示するには、次の手順に従います。

「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。バッチ・スケジューラは実行済または実行がスケジュール済のバッチのリストを表示します。任意の見出しテキストをクリックしてリスト内のバッチをソートできます。見出しには、名前、説明、開示時間、宛先、ステータス、ユーザー ID、およびパスがあります。

ヒント： 任意の列見出しをクリックしてソートを実行します。

スケジュール済バッチの詳細の表示

「詳細の表示」に要約とサーバー・アクティビティが含まれる、特定のバッチの詳細を調べることができます。

- ▶ スケジュール済バッチの詳細を表示するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
 - 2 バッチ・スケジューラでバッチを選択します。

- 3 アクションを選択し、詳細の表示を選択します。詳細の表示には以下の情報が表示されます。
 - 要約:
 - バッチの宛先
 - サーバー・アクティビティ:
 - バッチの開始時間
 - 例外メッセージ
 - 終了時間と日付
 - バッチが無事実行したかどうかおよび電子メールが送られたかどうか
- 4 詳細をクリップボードにコピーするには、次の手順に従います。
 1. 「詳細の表示」を右クリックし、「すべて選択」を選択します。
 2. 「コピー」を右クリックして選択します。
- 5 閉じるをクリックします。

コマンド・ライン・スケジューラのためのバッチ・ファイルの準備

外部スケジューラを使用してEPM Workspace でバッチ・ジョブをスケジュールできます。バッチの起動処理は、外部スケジューラを使用して自動化します。あるいは、集計の完了後など外部イベントが発生したあとバッチを起動します。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注： Financial Reporting の外部バッチ・コマンド・ライン・スケジューラでは、1つのバッチ要求のみサポートされます。複数のバッチを処理しようとする、最初の行のバッチのみが外部バッチ・コマンド・ライン・スケジューラにより実行されます。

- ▶ 既存のバッチ・ファイルをコマンド・ライン・スケジュール用にエクスポートするには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
 - 2 バッチ・スケジューラで、成功してエクスポート済出力を生成して完了したスケジュール済バッチを選択します。
 - 3 アクションを選択し、コマンド・ラインのスケジュール用にエクスポートを選択します。
 - 4 ファイルのダウンロードで、XML ファイルを<FR>¥bin ディレクトリに mybatch.xml として保存します。ここで mybatch はバッチ入力ファイルの名前です。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

- ▶ コマンド・ライン・スケジューラ用にバッチ・ファイルを作成するには、次の手順に従います。
 - 1 「ナビゲート」、「スケジュール」、「バッチ・スケジューラ」の順にクリックします。
 - 2 バッチ・スケジューラでアクションを選択してコマンド・ラインでのスケジュール用ファイルの作成を選択します。
 - 3 バッチのスケジュール設定でバッチ・ファイルを選択して次へをクリックします。このダイアログの残りの手順を完了するには、[474 ページの「実行するバッチのスケジュール」](#)を参照してください。
 - 4 バッチ作成の最後に、ファイルのダウンロードが表示されます。
 - 5 XML ファイルを<FR>¥bin ディレクトリに mybatch.xml として保存します。ここで mybatch はバッチ入力ファイルの名前です。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

ログオン情報の提供

スケジュール済バッチを将来実行するにはログオン情報を提供する必要があります。

- ▶ ログオン情報を入力するには、次の手順に従います。
 - 1 Financial Reporting サーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - 2 使用しているデータベース接続名のユーザー名とパスワードを入力します。
 - 3 OK を選択します。

この章の内容

Interactive Reporting ジョブ	487
Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定	489
データベース接続ファイルに関するオプションの選択	492
ジョブ・パラメータの設定	495
ジョブ・パラメータ・オプション	497
例: ジョブのインポートおよびスケジュール設定	502

Interactive Reporting ジョブ

Interactive Reporting ジョブは、Interactive Reporting Studio で作成し、プロパティとパラメータで定義します。Interactive Reporting ジョブをインポート、実行、およびスケジュールできます。

インポート要件

Interactive Reporting をインポートするには、以下の情報が必要です。

- データベースに接続してクエリーのプロセスを行うための Interactive Reporting データベース接続ファイル名
- デフォルト・カレンダーを使用しない場合、動的の日付パラメータを解決するためのカスタム・カレンダー名
- 指定する必要があるパラメータを持つジョブを実行する場合、フィルタ名と値。(488 ページの「パラメータ」を参照。)
- 結果を直接ユーザーに送る場合、電子メール・アドレス
- 結果をディレクトリへ送る場合、出力ディレクトリ名
- 結果をデータベース・テーブルに書き込む場合は、データベースの作成と挿入権限
- データベース・テーブルに追加ユーザーアクセス権を与える場合は、データベース許可アクセス。

502 ページの「例: ジョブのインポートおよびスケジュール設定」を参照してください。

パススルー機能

パススルーは、ユーザーが一度ログオンしたあと、追加の認証を行わずにデータ・ソースのアクセスを可能にします。パススルーは、認証システム単位および Interactive Reporting データベース接続ファイル単位に使用可能になります。パススルーは、フォアグラウンド・ジョブおよびすべての Interactive Reporting ドキュメントに使用できます。

管理者が認証システムのパススルーを使用可能にしたあと、ユーザーは Interactive Reporting データベース接続ファイルに対してそれを使用可能または不可にできます。

パラメータ

Interactive Reporting ジョブ・パラメータには、実行時値、プロセス・オプション、およびジョブ出力オプションが含まれます。プロセスおよびジョブ出力オプションはサイクルとアクションを使用して定義します。サイクルにはジョブ・アクションとジョブ・フィルタが含まれます。アクションはドキュメントをプロセスする方法と結果を配布する方法を定義します。フィルタは、実行時変数の値です。ジョブ・サイクルは名前が付けられジョブに関連付けられます。

ジョブをインポートするとき、ユーザーがサイクル(複数サイクル・ジョブ)を作成できるか、デフォルト・サイクルのみ使用する(シングル・サイクル・ジョブ)かを指定します。

- **シングル・サイクル・ジョブ** - 1つのサイクルに限定されます。デフォルトのプロセスと印刷アクションを使用します。すべてのシングル・サイクル・ジョブ結果はジョブ出力としてファイルに書き込まれます。ジョブ出力は、ジョブと共にアイテム参照リストに表示されます。
- **複数サイクル・ジョブ** - 定義されているサイクルの数に応じてプロセスされます。サイクルは、プロセス、印刷、およびエクスポート・アクションを使用して作成できます。それぞれ異なるパラメータ(またはフィルタ)とジョブ出力オプションを持ち、スケジュール済実行ごとに必要な回数プロセスするジョブを設計できます。

例

ユーザーのドキュメントは、地域内の売上げトランザクションをクエリーします。地域は、クエリーの変数フィルタを介して指定し、データを月曜日の朝各営業マネージャに提供します。

ジョブをスケジュール設定するとき、各地域のジョブ・サイクルを追加できます。実行ごとに変数とフィルタを解決して1地域のみ数字を取得し、各実行からの数字を直接地域マネージャに電子メールできます。すべてのジョブ実行サイクルは1つのジョブの一部なので、追跡と更新が簡単です。

Interactive Reporting プログラムで例外をサポート

このセクションは、ユーザーへの例外通知をサポートする Interactive Reporting プログラマを対象としています。(ユーザーは、電子メール通知を受信するか、個人

用ページの例外ダッシュボードのグラフィック・インディケータを見ることができます。)

Interactive Reporting ジョブ・プロパティの設定

これらのトピックは、Interactive Reporting のインポートおよび Interactive Reporting ジョブの変更のプロパティを説明します。

- [詳細オプションの設定](#)
- [データ・ソースおよびクエリー・プロパティの設定](#)
- [Interactive Reporting 全般プロパティとオプションの設定](#)
- [ジョブ・デフォルトの設定](#)

全般プロパティおよび詳細オプションの詳細は、[141 ページの「プロパティの操作」](#)を参照してください。



▶ プロパティを表示するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラからアイテムを選択します。
- 2 ファイルを選択し、プロパティを選択します。

詳細オプションの設定

[141 ページの「プロパティの操作」](#)で詳細を示す詳細オプションの他に、Interactive Reporting ジョブ特有の2つのオプションがあります。

オプション	説明
MIME タイプ	ファイル・タイプを表示します。
優先度	実行時のジョブ優先度: <ul style="list-style-type: none">● 大きい● 標準 - デフォルト
このジョブをバックグラウンドで実行	背景でのジョブの実行を可能にします。
ファイルの非表示	ファイルを非表示に設定します。
この日にファイルを自動削除	期間を選択し、数字を入力していつ出力を自動的に削除するかを指定します。
このあとにジョブ出力を自動削除	指定時刻のあとにジョブ出力を自動削除します。数字を入力して時間要素を選択します。 <ul style="list-style-type: none">● 分● 時間● 日数● 週

オプション	説明
例外発生時に、ユーザーが例外ダッシュボードに追加可能	ユーザーに例外ダッシュボードへの例外のレポートを可能にします。
キーワードを自動生成	<p><割り当てられたキーワード>に自動的にキーワードを生成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 追加するには、キーワードを入力して「」をクリックします。 除去するには、<割当キーワード>から選択して「」をクリックします。

データ・ソースおよびクエリー・プロパティの設定

Interactive Reporting データベース接続ファイルは、Interactive Reporting ジョブおよびファイルがデータベースに接続するために使用します。ドキュメント内のクエリーは、異なるデータベースを使用できます。さらに、Interactive Reporting データベース接続ファイルはファイルまたはジョブのクエリーごとに指定できます。

ファイルおよびジョブをインポートする前に、ドキュメントが使用するすべての Interactive Reporting データベース接続のアクセス権が必要です。ないと、接続リストに必要なデータベース接続ファイルが表示されません。必要な Interactive Reporting データベース接続のアクセス権は、管理者に問い合わせてください。

パススルーを使用する場合、[492 ページの「複数、Interactive Reporting、データベース接続ファイルを使用するパススルー」](#)を参照してください。

注： クエリーに Interactive Reporting データベース接続ファイルを 1 つも指定しない場合、ドキュメントをアクセスするユーザーはクエリーがローカル結果のみを使用しない限りそれを処理できません。

- ▶ データ・ソースとクエリー・プロパティにアクセスするには、「プロパティ」から、左の「Interactive Reporting」をクリックします。

プロパティ	説明
すべてのクエリーにオプションを適用する	<p>クエリーのユーザー名とパスワードを取得するメソッドを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルトのユーザー名とパスワードを使用 - データベース・アクセスにデフォルトを使用します。 ユーザー名とパスワードをプロンプトする - ユーザーにデータ接続ごとにユーザー名とパスワードをプロンプトします。ユーザー名とパスワード・フィールドにプロンプトという言葉が表示されます。 指定 - インポートにすべてのクエリーのユーザー名とパスワードをプロンプトします。ユーザー名はすべてのユーザー名フィールドに表示されます。パスワードは取り消しできません。 <p>各クエリー接続ごとにメソッドを選択して個別のユーザー名またはパスワード・コンビネーションを上書きできます。</p>

プロパティ	説明
接続	Interactive Reporting データベース接続ファイルを選択してクエリーを使用します。ローカル結果のみを使用するクエリーには、<No Connection>を選択します。 パススルーを使用する場合、492 ページの「複数、Interactive Reporting、データベース接続ファイルを使用するパススルー」を参照してください。
ユーザー名	ユーザー名を入力し、1つをデータ・ソースへの接続リストでグローバルに設定するか、オプション・リストで1つを個別に設定します。
パスワード	このクエリーに使用するパスワードを入力するか、データ・ソースへの接続リストでグローバルに設定するか、オプション・リストで個別に設定します。
オプション	選択したメソッド(デフォルトまたはプロンプトされた)を使用してユーザー名とパスワードを設定します
クエリーの接続と処理	実行時に処理するすべてのクエリーを検証します。

Interactive Reporting 全般プロパティとオプションの設定

Interactive Reporting ジョブのプロパティ・ページは、全般プロパティと Interactive Reporting オプションを含みます。

- ▶ 全般プロパティにアクセスするには、「プロパティ」から先頭の「プロパティ」タブをクリックします。

表 120 全般プロパティ

プロパティ	説明
カレンダー	動的日付パラメータの解決に選択されたカレンダー。
このジョブを実行するユーザーが自分のサイクルとアクションを定義	ユーザーにジョブのサイクルとパラメータの定義、したがって、複数サイクル・ジョブの作成を可能にします。デフォルトは選択解除(シングル・サイクル・ジョブ)です。 シングル・サイクル・ジョブのみビュー・マネージャで表示できます。 ノート:ここでオプションを選択すると、あとで削除できます。ここで選択しないと、以後選択できません。

表 121 Interactive Reporting オプション

オプション	説明
ADR を使用可能にする	ブラウザがドキュメントを自動的にリフレッシュします。

ジョブ・デフォルトの設定

ジョブ・デフォルトは表 122 に詳細があり、HTML をデフォルトとして含める、ジョブ出力フォーマット、およびデフォルト・ジョブ・パラメータ値を設定するオプションを与えます。495 ページの「ジョブ・パラメータの設定」を参照してください。

- ▶ ジョブ・デフォルトをアクセスするには、次の手順に従います。
「プロパティ」から先頭の「ジョブ・デフォルト」タブをクリックします。

表 122 ジョブ・デフォルト

デフォルト	説明
静的 HTML をデフォルト出力フォーマットとして含む	選択して HTML とデフォルト出力フォーマット(標準 Interactive Reporting ドキュメント)をデフォルト出力フォーマットにします。
値の設定	デフォルトのジョブパラメータ値を設定します。値を設定するためのフィールド定義については、495 ページの「 ジョブ・パラメータの設定 」、495 ページの「 ジョブ・パラメータの変更 」を参照してください。
フィルタの変更	デフォルト・フィルタ・オプションを設定します。497 ページの「 フィルタ・オプション 」を参照してください。
ロケールの設定 (Interactive Reporting)	ロケール・プロパティを設定するには、次の手順に従います。 <ul style="list-style-type: none"> ● 言語 - ソート順序とジョブ・ログ言語を決定します。 ● 国 - データ・フォーマット(例: 日付/時間フォーマット)を決定します。

「OK」をクリックして「プロパティ」を閉じます。あとでブラウザ・ウェブ・モジュールからジョブをスケジュールできます。455 ページの「[ジョブとバッチのスケジュール](#)」を参照してください。

Interactive Reporting(.bqy)ファイルのインポート・ダイアログ・ウィザードを完了するには、133 ページの「[ジョブとしてのファイルのインポート](#)」を参照してください。

データベース接続ファイルに関するオプションの選択

Interactive Reporting ジョブとファイルはデータベース接続ファイルを使用してデータベースに接続します。ローカル結果を使用するクエリーを除いて、ユーザーがクエリーを処理できるよう Interactive Reporting ファイルまたはジョブの各クエリーに対して Interactive Reporting データベース接続ファイルを指定する必要があります。

複数、Interactive Reporting、データベース接続ファイルを使用するパススルー

管理者が使用可能にしている場合、パススルーは各データ・ソースに対してユーザー名とパスワードを入力せずにデータ・ソースのアクセスを可能にします。複数の Interactive Reporting データベース接続に関連する Interactive Reporting ジョブまたはファイルに対してパススルーを行うには、以下の条件を満たす必要があります。

- Interactive Reporting データベース接続がパススルーに構成されている。

- 各データ・ソースのアクセスに必要なログイン情報が同一。

注： Oracle は、Interactive Reporting ドキュメントをインポートするとき、類似設定の Interactive Reporting データベース接続ファイルの選択を推奨します。インポートを行うユーザーにこの選択を可能にするため、Interactive Reporting データベース接続名でデータベース接続がパススルーに構成されているかどうかを示すことを推奨します。

すべてではなく一部の Interactive Reporting データベース接続設定がパススルーに構成されている Interactive Reporting ジョブおよびファイルを処理するとき:

- パススルーに構成されている Interactive Reporting データベース接続 - ユーザーはログオン情報をプロンプトされません。
- パススルーに構成されていない Interactive Reporting データベース接続 - ジョブまたはファイルをインポート(ユーザーに指示、指定、またはデフォルトを使用)したとき選択されたログイン情報オプションを使用します。

注意 すべてのクエリーのパススルー処理には、Interactive Reporting データベース接続は同一のデータベース情報を持つ必要があります。

処理およびメタデータ・オプションの設定

Interactive Reporting データベース接続ファイル特有のオプションとして、プロセス中とメタデータの 2 種類あります。

カタログ接続オプションをプロセス中(OCE)オプションはデータベース接続情報を保管します。

表 123 データベース接続をプロセス中オプション

オプション	説明
データ・ソース・アクセス	<p>ジョブを実行またはファイルを処理するときユーザー名とパスワードを使用するための Interactive Reporting データベース接続ファイルのメソッドを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以下に指定するユーザー名/パスワードを使用する - ユーザーがデータベース・ユーザー名とパスワードを入力します。 ● ユーザー名/パスワードをプロンプトする - ジョブを実行またはスケジュール設定するときまたはファイルを処理するときデータベース・ユーザー名とパスワードをプロンプトされます。これは、パススルーが使用不可のときのデフォルトです。
ユーザー名	データ・ソース・アクセスがこのフィールドを使用するよう設定されている場合、データベース・ユーザー名を入力します。
パスワード	データ・ソース・アクセスがこのフィールドを使用するよう設定されている場合、データベース・パスワードを入力します。
エンド・ユーザーの認証システムが使用可能な場所に	選択してデータ・ソース・アクセスのパススルー情報を許可します。

オプション	説明
パススルー可能	

メタデータ・オプションは、Interactive Reporting データベース接続に関する追加情報を含むファイルを保管します。

表 124 メタデータ・オプション

オプション	説明
この Interactive Reporting データベース接続(.oce)は、別接続で定義されているメタデータを使用します	メタデータが使用され Interactive Reporting データベース接続ファイルにメタデータ接続が指定されていません。このフィールドが選択されていない場合、このグループのすべてのフィールドは使用不可になります。
メタデータ接続を選択してください。	メタデータを使用していない Interactive Reporting データベース接続ファイルにメタデータ接続が指定されていない場合、メタデータの Interactive Reporting データベース接続ファイルを選択してください。
メタデータ・アクセス	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> メタデータ接続のプロセス OCE ログイン情報を使用する - Interactive Reporting データベース接続に関連するユーザー名とパスワードを使用してメタデータをアクセスします。 指定ユーザー名/パスワードを使用する - 指定ユーザー名とパスワードを使用してメタデータをアクセスします。
ユーザー名	データ・ソース・アクセスがこのフィールドを使用するよう設定されている場合、データベース・ユーザー名を入力します。
パスワード	データ・ソース・アクセスがこのフィールドを使用するよう設定されている場合、データベース・パスワードを入力します。

表 125 Interactive Reporting データベース接続

オプション	説明
接続ソフトウェア	この Interactive Reporting データベース接続ファイル(.oce)がデータベース・サーバーに接続するために使用する接続ソフトウェア名、たとえば、ODBC または EssbaseOracle Essbase。
データベース	この Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)を使用して接続するためのデータベースまたはデータベース接続の種類、たとえば、ORA8、Essbase、ODBC、OLEDB など。
ホスト	クライアントに接続するために必要な特定情報の識別子または別名、たとえば、ホスト名または DSN。

Interactive Reporting データベース接続(.oce)ファイルのインポート・ダイアログ・ウィザードを完成するには、131 ページの「ファイルのインポート」を参照してください。

ジョブ・パラメータの設定

シングル・サイクル・ジョブでは、ジョブ・パラメータはジョブ変数フィルタを含みます。複数サイクル・ジョブでは、ジョブ・パラメータはジョブ変数またはプロセス・オプションとジョブ・アクションを含むフィルタとジョブ・サイクルを含みます。

注： ジョブ・パラメータは、ジョブ・スケジュールを作成または実行するとき、あるいはジョブを実行するときのみ作成できます。

シングル・サイクル・ジョブ・パラメータの設定

変数フィルタを持つシングル・サイクル・ジョブのみジョブ・パラメータを持ちます。

▶ シングル・サイクル Interactive Reporting ジョブのジョブ・パラメータを設定するには、次の手順に従います。

1 エクスプローラから、Interactive Reporting ジョブを右クリックし、「ジョブの実行」を選択します。

このジョブは、ユーザーが「ジョブの実行」アクセス権を持つフォルダに格納されています。「ジョブ・パラメータ」ウィンドウに設定されているパラメータ値が表示されます。

2 ジョブ・パラメータ定義を選択します。

3 実行をクリックして定義を変更せずに使用するか編集をクリックして変更します。

4 「編集」をクリックした場合、以下のトピックへ進みます。

ジョブ・パラメータの変更

以下の手順は、前の手順で「編集」をクリックしたと仮定します。

▶ ジョブ・パラメータ定義を編集するには、次の手順に従います。

1 次のジョブ・パラメータを定義の隣のジョブ・パラメータで、実行のすぐ右の編集をクリックします。

2 「パラメータの表示」から「ジョブ名」を選択します。

「変更」を右クリックして選択します。

3 「プロパティ」ダイアログの名前に名前を入力します。

4 説明に説明を入力します。

5 このジョブの所有者を変更するには、「所有者の変更」を選択します。

- 6 新しい所有者を選択し、「OK」をクリックします。追加情報は、[143 ページの「アーチファクトの所有権の変更」](#)を参照してください。
- 7 ローカル設定で、以下の言語を変更します。
 - 言語で言語を選択します。
 - 国で国を選択します。
- 8 オプション:フィルタを変更します(ファイルにフィルタがある場合にのみ使用可能)。[497 ページの「フィルタ・オプション」](#)を参照してください。
- 9 次の1つのアクションを実行します。
 - 個人用デフォルトとして選択を選択します。
 - ジョブ・パラメータを保存するには、保存を選択し、パラメータ・タイプを選択して名前を入力します。
- 10 オプション:アクセス権を変更するには「プロパティ」ダイアログ・ボックスの左のペインで権限をクリックします。詳細は、[136 ページの「権限の設定」](#)を参照してください。

複数サイクル・ジョブ・パラメータの設定

複数サイクル・ジョブのジョブ・パラメータを作成するとき、ジョブとジョブに関連するジョブ・パラメータを実行またはスケジュール設定するジョブと共に保存できます。

注： ジョブ・パラメータは、ジョブ・スケジュールを作成または変更するとき、またはジョブを実行するときのみ作成できます。

- ▶ 複数サイクル Interactive Reporting ジョブのジョブ・パラメータを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラから、Interactive Reporting ジョブを右クリックしてジョブの実行を選択します。

この Interactive Reporting ジョブは、ユーザーがジョブの実行アクセス権を持つフォルダに格納されています。ジョブ・パラメータウィンドウに、設定されているパラメータ値が表示されます。
 - 2 サイクルで、以下を行うことができます。
 - サイクルを追加するには実行をクリックします。
 - サイクルを変更するには、変更をクリックし、新規サイクルを追加するには実行をクリックします。
 - 「サイクルの定義」で、サイクル情報を入力します。
 - 「サイクル名」に名前を入力します。
 - 「ジョブと同じ場所に出力を保存する」または「別のフォルダにジョブの出力を保存する」を選択してファイル・パスを入力します。
 - 権限のアクセスには「**サイクル権限の編集**」をクリックします。
 - コピーするには、コピーをクリックします。

- フィルタがある場合は、[497 ページの「フィルタ・オプション」](#)を参照してください。
- 3 処理のオプションを選択します。[499 ページの「処理のオプション」](#)を参照してください。
接続している接続ファイルとデータベースがデータベース・テーブルの結果を処理できるかどうかを決定します。
 - 4 アクションを選択します。
アクション オプションの詳細は、[表 128](#)を参照してください。
 - 5 OK をクリックします。
 - 6 ジョブ・パラメータを保存を選択して名前を入力します。

ジョブ・パラメータ・オプション

以下のトピックは Interactive Reporting ジョブ・パラメータ・オプションの詳細を示します。

- [フィルタ・オプション - シングル・サイクルおよび複数サイクル・ジョブ用](#)
- [プロセス中オプション - 複数サイクル・ジョブのみ](#)
- [アクション・オプション - 複数サイクル・ジョブのみ](#)

フィルタ・オプション

Interactive Reporting Studio では、フィルタを使用して、リレーショナルまたは OLAP データベース・クエリー時に処理および表示するデータの量をコントロールできます。

最初 Interactive Reporting Studio で作成したクエリー・フィルタは、不変または可変にできます。不変フィルタ値は変更できません。可変フィルタ値は実行時に「値の設定」から変更できます。「値の設定」領域は、リレーショナルおよび OLAP データベースの情報を表示します。

以下のトピックは、リレーショナルまたは OLAP データベース・クエリー時に「値の設定」領域に表示される情報の詳細を示します。

- [リレーショナル・データベースのフィルタ値の設定](#)
- [OLAP クエリーのフィルタとスライサ値の設定](#)

リレーショナル・データベースのフィルタ値の設定

「値の設定」領域は、フィルタの値を表示します。

- ▶ プロパティを表示するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラからアイテムを選択します。
 - 2 ジョブを右クリックしてジョブの実行を選択します。
「プロパティ」が表示されます。

オプション	説明
クエリー名	(読み取り専用)クエリー名
フィルタ名	(読み取り専用)Interactive Reporting ジョブのフィルタが適用されているフィールドの名前
演算子	(読み取り専用)=、<、>などフィルタが使用する演算子
値	(読み取り専用)フィルタが使用する値(\$USER などの可変システム値が可能。値はクエリーが使用するデータベースからのもの。)
無視	クエリーを処理するときフィルタを使用不可にします
プロンプトなし	実行時値のプロンプトを使用不可にします。(値にはシステム変数などの動的値を使用できます。このオプションは基本的に可変フィルタを固定値の不変フィルタに変更します。)
フィルタの変更	選択済フィルタの変更を可能にします。
NULL 値を含む	クエリーを処理するときデータベースへ送られる SQL で"NULL 値"条件の使用を可能にします。
演算子	(読み取り専用)=、<、>などフィルタが使用する演算子
値の表示	データベースから考えられるアイテムに関連するすべての使用可能な値を取得し、フィルタを適用するとき値の範囲から選択します。
カスタム値	フィルタと保存したかまたはファイルから読み取った使用可能な値を示し、定義済プールから値を選択できます。フィルタごとにカスタム・リストを作成して保存できます。

OLAP クエリーのフィルタとスライサ値の設定

OLAP クエリーでジョブをインポートまたはスケジュール設定するとき OLAP 可変フィルタおよびスライサを設定できます。クエリーでは、クエリーのトップまたはサイド・ラベルに表示されるデータを立法次元レベルでフィルタできます。

スライサは、トップまたはサイド・ラベルにないが表示されるデータに現れる次元のフィルタです。「値の設定」のフィルタ・リストはスライサを最後に表示します。

注： フィルタを変更するとき、最後のフィルタは除去できません。フィルタごとに少なくとも1つのフィルタ値が必要です。

▶ フィルタとスライサ値をアクセスするには、次の手順に従います。

1 エクスプローラから、以下を選択

Interactive Reporting ジョブ。

2 「ジョブの実行」を選択します。

3 実行をクリックしてスケジュールを追加します。

4 スケジュール・プロパティを入力して値とフィルタ・オプションを定義できるまで次へをクリックします。

表 126

オプション	説明
値の設定 (MDD)	<p>OLAP クエリー名 - (読み取り専用)クエリー名</p> <p>フィルタ対象 - (読み取り専用)フィルタが適用される次元レベル</p> <p>演算子のタイプ - (読み取り専用)設定されるタイプ</p> <p>データ演算子 - (読み取り専用)=、<、>などフィルタが使用する演算子。(スライサはデータ演算子を持ちません。)</p> <p>値 - (読み取り専用)フィルタが使用する値(\$USER などの可変システム値が可能。値はクエリーが使用するデータベースからのもの。)</p> <p>無視 - クエリーを処理するときフィルタを使用不可にします</p> <p>プロンプトなし - 実行時値のプロンプトを使用不可にします。(値にはシステム変数などの動的値を使用できます。このオプションは基本的に可変フィルタを固定値の不変フィルタに変更します。)</p>
フィルタの変更	<p>OLAP クエリー名/フィルタ対象値を示します。選択済 OLAP クエリーおよびフィルタに適用されるフィルタ・リストを切替えます。</p>
演算子のタイプ	<p>データベースによって決まる適用範囲:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データベースからメンバーを選択 ● 測定値に基づいて選択 ● 上位 N 個 ● 下位 N 個 ● 上位合計 ● 下位合計 ● 上位 N% ● 下位 N% ● メンバーの選択 ● ユーザー定義属性 ● 代替変数 <p>使用可能な演算子タイプはフィルタ・リストに表示されます。スライサには演算子タイプがありません。</p>

処理のオプション

「処理のオプション」は、「フィルタの変更」オプションの下のセクションに表示されます。接続ファイルおよび接続するデータベースが結果をデータベース・テーブルに書き込むかどうかを決定します。データベース・テーブルに書き込むにはデータベースの「作成と挿入」権限が必要です。

- ▶ 複数サイクル Interactive Reporting ジョブの処理のオプションを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 エクスプローラから、ジョブを右クリックして「**ジョブの実行**」を選択します。
 - 2 実行をクリックしてこのジョブに別のサイクルを追加します。
 - 3 「処理のオプション」(+)をクリックしてすべての処理のオプションを表示します。

表 127

オプション	説明
ジョブと同じ場所に出力を保存する	ジョブの出力をジョブを含むフォルダに格納するため
別のフォルダにジョブの出力を保存する	出力フォルダを指定するため
結果を Interactive Reporting ファイルに書き込む	クエリーを Interactive Reporting ファイルの結果セクションに書き込むため
結果をデータベース・テーブルに書き込む	データベース・セットを保管するデータベースを作成するため。(要求行のアイテムが列ヘッダーになります。テーブルに列を追加してそれをクエリーできます。データベース・テーブルに書き込むにはデータベースの作成と挿入権限が必要です。)
クエリー	データベース・テーブルに書き込むためのクエリーを選択するため。
テーブル名	作成中または列を追加中のテーブルの名前を入力するため(新規テーブルを使用する場合はデータベース管理者に問い合わせてください)。
実行するたびにテーブルを作成してテーブル名に日付を付ける	ジョブを実行するたびにテーブルを作成してテーブル名に日付を付けるため
ジョブを実行するたびにテーブルを削除して作成しなおす	旧テーブルを削除してジョブを実行するたびにテーブルを作成するため(実行は同じテーブル名を使用)
初期実行時にテーブルを作成して既存のテーブルにデータを追加する	初期実行時にテーブルを作成してテーブルにデータを追加するため
アクセス権の設定:	追加ユーザー名を入力するため(カンマで区切る)(このフィールドを使用するには設定権限が必要です。「アクセス権の設定」を選択していないと、テーブルのアクセス権はユーザーのユーザー名にのみ与えられます。)

複数サイクル・ジョブのアクション・オプション

アクションは出力メソッドです。アクション・ページのオプションは、アクションによって異なります。

アクションおよびそれが適用されるアイテム:

- エクスポート - ダッシュボード、レポート、結果、チャート、ピボット、OLAPQuery、およびウェブ・ページとしてのドキュメント全体
- ドキュメントの保存 - Interactive Reporting ファイル
- 印刷 - ダッシュボード、レポート、結果、チャート、ピボット、および OLAPQuery(管理者が Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting Studio のプリンタを定義した場合に使用可能)
- ドキュメントのインポート - ダッシュボード、レポート、結果、チャート、ピボット、OLAPQuery、およびウェブ・ページとしてのドキュメント全体。

- 電子メール・セクション - ダッシュボード、レポート、結果、チャート、ピボット、および OLAPQuery
- 電子メール・ドキュメント - Interactive Reporting ファイル全体

注： サイクルは、ジョブの出力として保存アクションを1つのみ持つことができます。複数の保存アクションを持つことができますが、一部の出力フォルダにのみファイルとして保存できます。

▶ 複数サイクル Interactive Reporting ジョブのアクション・オプションを設定するには、次の手順に従います。

- 1 エクスプローラから、ジョブを右クリックして「**ジョブの実行**」を選択します。
- 2 実行をクリックしてこのジョブに別のサイクルを追加します。
- 3 アクション・リストから、値を選択して実行をクリックします。


表 128 アクション・オプションのエクスポート

オプション	説明
セクション	保存、印刷、メール、またはエクスポートするセクション。
ファイル名	ファイル名のエクスポート(拡張子なし)
フォーマット	<p>エクスポート・ファイル・フォーマット:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Microsoft OfficeのWebアーカイブ (*.mhtml) ● Excel (*.xls) ● HTML (*.htm) ● Lotus 1-2-3 (*.wks) ● テキスト(タブ区切り) (*.txt) ● テキスト(カンマ区切り) (*.csv) ● Adobe Acrobat (*.pdf) ● グラフィック・ファイル (*.jpg) <p>注： 選択は、エクスポート・セクションのタイプとテキスト・ポート・アクションのタイプに依存します。</p>
ジョブの出力としてエクスポート	セクションをリポジトリの現在ジョブ・フォルダにエクスポートするため。(このオプションではファイル名は使用しません。)
ジョブの出力として保存	セクションをリポジトリの現在ジョブ・フォルダに保存するため。(このオプションではファイル名は使用しません。)
出力ディレクトリ	エクスポート・ファイルを保存するためのディレクトリまたは Interactive Reporting ドキュメント
ファイル名に識別子を付ける	保存されたドキュメントまたはエクスポート・ファイルにジョブ ID#およびレポート・サイクル名を付けるため。1つのディレクトリに類似ファイルが保存されている場合、ファイルが認識可能なことを保証します。
ファイル名に日付を付ける	保存されたドキュメントまたはエクスポート・ファイルに日付(年、月、日)をつけるため

オプション	説明
結果を文書と一緒に保存	結果セクション・コンテンツをドキュメントと共に保存するため
計算結果をドキュメントと一緒に保存	計算結果値をドキュメントと共に保存するため
圧縮形式で保存	ジョブ・ファイルを Interactive Reporting 圧縮ファイル・フォーマットで保存するため。
ファイルの送信	スケジュール済ファイルを電子メール・メッセージに含めるため
結果の送信	結果セクション・コンテンツを電子メール送信ドキュメントに含めるため
計算結果の送信	計算結果値を電子メール送信ドキュメントに含めるため。
圧縮して送信	保存ジョブ・ファイルを Interactive Reporting 圧縮ファイル・フォーマットで送信するため。
メッセージ:	電子メール・メッセージ・テキストを入力します。

例: ジョブのインポートおよびスケジュール設定

この例は、Interactive Reporting ジョブのインポートおよびスケジュール設定を示します。この例では、sample1.bqy を四半期に一度実行するようインポートしてスケジュールします。

- ▶ sample1.bqy をインポートするには、次の手順に従います。
- 1 ジョブをインポートするフォルダへナビゲートします。
- 2 ファイルを選択し、インポートを選択してファイル(ジョブとして)を選択します。
- 3 ファイルで、参照をクリックしてファイル sample1.bqy を検索します。次へをクリックします。
- 4 クエリーには、接続の下のデータ・ソースへの接続で、SalesQuery という名の Query/DataModel にサンプルを選択し、次へをクリックします。
- 5 Interactive Reporting ジョブ・プロパティには、このジョブを実行するユーザーが自分のサイクルとアクションを定義を選択して次へをクリックします。
- 6 ジョブのデフォルトには、「全般プロパティ」と「ロケール」を設定して次へをクリックします。
- 7 権限で、
 - ワールド・グループに sample1.bqy のアクセス権を与えます。
 - 1. ユーザー、グループ、役割で、「リストの更新」をクリックします。
 - 2. ユーザーを選択して「
 - 3. 選択したユーザー、グループ、役割で、ユーザーを選択して編集をクリックします。

4. 権限で、ジョブとジョブ出力のアクセス権レベルを選択し、適応状態を設定します。
 - ジョブへのアクセス - フル・コントロール
 - 適応状態 - 表示
5. 「終了」をクリックします。
権限が表示されます。
- 8 終了してスケジュールをクリックします。
- 9 全般プロパティで、名前に四半期ごとと入力して次へをクリックします。
- 10 ジョブ・パラメータで次へをクリックします。
- 11 サイクルで、このジョブに別のサイクルを追加の隣の実行をクリックします。
- 12 サイクルの定義:
 - サイクルの定義で、サイクル名に「週次」と入力します。
 - このサイクルにアクション(空白)を追加で、ドキュメントの電子メール送信を選択して実行をクリックします。
- 13 アクションの追加/変更: ドキュメントのメール送信で、宛先に自分の電子メール・アドレスを入力します。
- 14 ファイルの送信または結果の送信、あるいはその両方をクリックして OK をクリックします。
- 15 サイクルの定義で、OK をクリックします。
- 16 サイクルで、ジョブ・パラメータ名を保存を選択し、ドロップダウン・リストからパーソナルを選択してボックスに名前を入力し、次へをクリックします。
- 17 タイム・イベントで、ジョブの実行時刻の定義を選択し、新しい反復タイム・イベントを選択して次へをクリックします。
- 18 イベントの定義で:
 - 名前に名前を入力します。
 - 実行日で、四半期単位を選択します。
 - 次へをクリックします。
- 19 通知で、スケジュール・モジュールに通知を表示するを選択して完了をクリックします。
これでジョブの実行がスケジュール設定されました。

16

Production Reportingおよび汎用ジョブの使用方法

この章の内容

概要	505
ジョブのインポートの前提条件	505
ジョブ・プロパティ	506
汎用ジョブ・プロパティ	517
Production Reporting および汎用ジョブ・プロパティの変更	519
Production Reporting および汎用ジョブ・パラメータの設定	519
ジョブのスケジュール設定用の出力オプション	519
安全な Production Reporting ジョブの使用	521
Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート	523
出力の優先度をプログラマ的に設定	524

概要

Production Reporting ジョブは、Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting Studio で作成します。汎用ジョブは、コマンド・ライン Production Reporting インタフェースを持つアプリケーションを使用して作成します。エクスプローラを使用して Production Reporting および汎用ジョブをインポート、実行、およびスケジュールするモジュールをスケジュール設定できます。プロパティおよびパラメータを使用してさらに Production Reporting および汎用ジョブ・オプションを定義できます。

この章では、Production Reporting ジョブ、汎用ジョブ、および Production Reporting ドキュメント固有のプロパティを説明します(Production Reporting ジョブ出力)。

基本的なインポート手順は、第 5 章「アーチファクトのインポート」を参照してください。基本的ジョブ実行およびスケジュール設定手順は、第 14 章「ジョブとバッチのスケジュール」を参照してください。

ジョブのインポートの前提条件

Production Reporting ジョブのインポートに必要な情報:

- 追加する Production Reporting プログラムを実行するために必要なデータベース接続、データベース・タイプ、および Production Reporting バージョン(リストから選択します)。たとえば、Marketing Production Reporting v.9
- Production Reporting プログラムが参照するファイル:

- インクルード・ファイル(#INCLUDE コマンド)
- 入力データ・ファイル(open for-reading コマンド)
- イメージ・ファイル(print-image および declare-image コマンド)
- コンパイル時パラメータ(ASK コマンド)および実行時パラメータ(INPUT コマンド)
- 安全な Production Reporting ジョブのため、ユーザーがデータの選択および出力方法(分割)(バースト)をアクセスできるプログラムのセキュリティ編成。

ジョブ・プロパティ

以下のトピックで説明するプロパティは Production Reporting と汎用ジョブにのみ該当します。汎用ジョブに適用できないプロパティは明示されています。汎用ジョブ固有のプロパティは[517 ページの「汎用ジョブ・プロパティ」](#)を参照してください。

Production Reporting ジョブには以下のプロパティがあります。

- 全般プロパティ
- 詳細オプション
- 接続性と実行オプション
- パラメータ
- 出力

Production Reporting および汎用ジョブおよび BQY ジョブなどその他のアイテムは、多くの全般プロパティおよび詳細設定オプションを共有します。[141 ページの「プロパティの操作」](#)を参照してください。

▶ プロパティを表示するには、次の手順に従います。

1 エクスプローラから、Production Reporting ジョブを選択します。

2 ファイルを選択し、プロパティを選択します。

次のプロパティをレビューします。

- 全般をクリックします。[142 ページの「全般プロパティ」](#)を参照してください。
- 詳細をクリックします。[143 ページの「詳細プロパティ」](#)を参照してください。
- Production Reporting をクリックして次の Production Reporting プロパティをレビューします。
 - 必要なファイルをクリックします。[508 ページの「必要なファイル」](#)を参照してください。
 - 接続をクリックします。[508 ページの「接続と実行オプション」](#)を参照してください。
 - パラメータをクリックします。[511 ページの「パラメータ」](#)を参照してください。

- 出力オプションをクリックします。514 ページの「ジョブの出力」を参照してください。
- 詳細をクリックします。510 ページの「[詳細 Production Reporting] オプション」を参照してください。

依存性分析コマンド

Production Reporting ジョブをインポートするとき、システムはユーザーの Production Reporting プログラムの依存性を分析できます。分析は、システムに必要なファイルおよび INPUT と ASK パラメータのスキャンを要求した場合に行われます。分析は、Production Reporting プログラムが大きい場合時間がかかる可能性があります。

システムは、Production Reporting プログラムの次のコマンドを調べます。

- **INCLUDE** - Production Reporting レポート仕様に外部ソース・ファイルを含めます。たとえば、stocks.sqr をコンパイルするとき必要な Production Reporting コード・ファイル charts.sqi
- **OPEN** - 読み書き用のオペレーティング・システム・ファイル。たとえば、プログラムには 1 として識別されるファイル内のデータを順次読み出し用に関 OPEN ステートメント。

```
open 'stocks.dat' as 1 for-reading record=100
```

- **DECLARE-IMAGE** - 印刷するイメージのタイプ、サイズ、およびソースを宣言します。たとえば、

```
declare-image control flow
  type = eps-file
  source = 'controlf.eps'
  image-size = (321, 309)
end-declare
```

- **PRINT-IMAGE** - 任意のレポート・セクションにイメージを印刷します(declare-image コマンドと同様 print-image コマンドはタイプ、サイズ、およびソース引数を受け付けます。)
- **ASK** - コンパイル時代替変数を取得します(取得は、ユーザー入力、コマンド・ライン引数、またはコマンド・ラインの@file の入力別に行うことができます。)
- **INPUT** - 実行時変数を取得します(取得は、ユーザー入力、コマンド・ライン引数、またはコマンド・ラインの@file の入力別に行うことができます。)
- **PRINT URL(U)="..."** - URL 場所にあるファイルを印刷します。通常はイメージ・ファイルです(ファイルはジョブの必要ファイルと共にリストされます。)
- **SECURE** - セキュア・タグを取得します。

詳細オプション

読み取り専用の「セキュリティ・タグを含める」プロパティは、ジョブが安全か示します。安全なジョブは、HTML 出力のみ持つことができます。その他の詳細設定オプションは [141 ページの「プロパティの操作」](#) を参照してください。

接続性と実行オプション

これらのトピックは、Production Reporting ジョブのすべてのデータ・ソース接続プロパティおよび実行プロパティを説明します。

- [接続と実行オプション](#)
- [必要なファイル](#)
- [必要なファイルの追加](#)
- [「詳細 Production Reporting」オプション](#)

接続と実行オプション

Production Reporting ジョブにのみ適用されるこれらのオプションを使用してジョブのデータベース接続および Production Reporting エンジンを構成または変更します。

接続と実行オプション	説明
データ・ソースおよび Production Reporting	データ・ソースおよび Production Reporting エンジンを選択するため 必要なデータ・ソースまたはエンジンが使用できない場合、管理者に連絡してください。
データベース接続	このデータ・ソースのジョブ・サービス接続情報を使用 - デフォルトのユーザー名およびパスワードを使用するため ユーザー名/パスワードをプロンプト - ユーザーに ID およびパスワードの入力をプロンプトするため 以下に指定するユーザー名/パスワード - インポート中のユーザー名およびパスワードを設定するため
エンド・ユーザーの認証システムが使用可能な場所にパススルー可能	ユーザーに追加ログイン情報なしにデータ・ソースのアクセスを可能にするため。

必要なファイル

ファイルまたはジョブをインポートするとき、Production Reporting プログラムをスキャンして必要なファイルを特定して検索するか、必要なファイルを手動で入力できます。

注： Production Reporting のスキャンによる必要なファイルの検索は、インポート・プロセス時のみ可能です。

必要なファイルを特定して検索すると、それらは必要なファイル画面に追加されます。汎用ファイルの場合は、手動で必要なファイルを入力する必要があります。

ジョブまたは Production Reporting ドキュメントと関連付けることができ、実行が成功するために必要なファイル:

- Production Reporting ジョブ、インクルード、データ、イメージ・ファイル、および INI ファイルのため
- 汎用ジョブ用の、ファイルの実行に使用する関連ファイル
- Production Reporting ドキュメントおよびドキュメントの表示に使用する関連ファイル

この章は、リスト作成インタフェースで管理する必要なファイル、つまり Production Reporting および汎用ジョブおよび Production Reporting ドキュメント用のファイルを中心に説明します。INI ファイルとカスタム・フォームの必要なファイルは、別のインタフェースで管理します。

注: スキャンした結果が必要なファイルのリストを置き換えるので、必要なファイルを手動で入力する前に必要なファイルをスキャンします。重複する必要なファイルがリストされる場合、余分なファイルを削除する必要があります。

表 129

ジョブ・プロパティ	説明
名前	必要なファイル名 名前の隣のローカル・ファイル・アイコンは、ファイルがローカル・システムにあることを示します。
場所	必要なファイルのパス 場所がリストされていない場合、「変更」を選択してファイルを検索するかファイルを削除する必要があります。
タイプ	システムによって決定されるタイプ(INCLUDE、IMAGE、DATA)。 手動で入力した、JPEG、GIF、および HTML ファイルのタイプは IMAGE になります。他の手動で入力したファイルのタイプは選択する必要があります。すべてのファイルは、インポート・プロセスを続ける前にタイプを付ける必要があります。
アクション	取得 - 任意のタイプの必要なファイルを開くため 置換 - ファイルをローカル・コンピュータまたは EPM Workspace リポジトリから選択したものと置換えるため 削除 - ファイルを削除するため 変更 - システムがローカル・システムから検索できなかったファイルを参照するため
手動でファイルを追加 注: スキャンはインポート	ジョブの必要なファイルを検索するためのデフォルト・メソッド 必要なファイルは別々に入力するか ZIP 圧縮して ZIP ファイルを手動で入力できます。EPM Workspace は、ZIP ファイルを抽出して必要なファイル要約リストに追加します。 プリファレンスで指定したフォルダをスキャン - Production Reporting プログラムはリストされたフォルダから必要なファイルをスキャンします。検索できないファイルは、要約画面に場所の下

ジョブ・プロパティ	説明
ト・プロセス時のみ使用可能です。	に「ファイルが見つかりません」メッセージと共にリストされます。「変更」を選択して不足なファイルを検索します。
	<p>すべての Oracle Hyperion Reporting and Analysis をスキャン - Production Reporting プログラムから必要なファイルのスキャンし、EPM Workspace リポジトリ内のファイルが必要なファイル要約リストにリストされます。</p> <p>ユーザーのプログラムが OPEN、DECLARE-IMAGE、または PRINT-IMAGE コマンドのファイル名に変数を使用する場合、ファイルを与えない限りシステムがファイルを検索できないことを示す警告メッセージを受け取ります。必要なファイルの名前を手動で入力した場合、あるいは変数がジョブ・サービス番号にあるファイルを指す場合はメッセージを無視します。その他の場合は、インポート・プロセスを終了して Production Reporting プログラムを変更します。</p>

必要なファイルの追加

ローカル・システムまたはリポジトリから手動で追加する必要なファイルを参照してください。

表 130 必要なファイルのパラメータの追加

ファイル・パラメータ	説明
PC からのファイルの追加	ローカル・ハード・ドライブからファイルを追加します。
リポジトリからファイルを追加	データベースからファイルを追加します。
参照	クリックしてファイルを検索します。

「詳細 Production Reporting」オプション

「詳細 Production Reporting」オプションは、Production Reporting ジョブにのみ適用されます。コマンド・ライン・フラグおよび SQR.ini ファイルの詳細は、『Hyperion SQR Production Reporting 開発者ガイド Vol.2: 言語リファレンス』を参照してください。

詳細オプション	説明
コンパイル	<p>プログラムをコンパイルするため</p> <p>利点:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 後にジョブを実行するとき時間を節約 ● SQL ASK パラメータを検証 ● プログラムの妥当性を検査
ジョブを実行するためのコマンド・ライン・フラグ	<p>オプション・コマンド・ライン・フラグ</p> <p>一部のフラグは、ジョブ出力オプション・フォーマットおよびページングの設定で上書きできます。たとえば、-burst および -printer..XX。ここで、XX はフォーマットのタイプです。</p> <p>コマンド・ライン・オプション-EH_CSVONLY 使用できません。</p>

詳細オプション	説明
	システムは、コマンド・ラインに 250 文字受け付けます。
ジョブ・ファクトリのホストのファイル・システムにある SQR.ini を使用	SQR.ini ファイル場所を使用するため
カスタム SQR.ini	カスタム SQR.ini ファイルへのパス ローカルにまたはリポジトリからファイルを参照します。 <ul style="list-style-type: none"> ● PC からファイルを追加 - ローカル・ファイルを選択します。 ● リポジトリからファイルを追加 - データベースからファイルを選択します。
検索インデックス作成を使用可能にする	ジョブ実行時にキーワードの生成を可能にします。これは、Production Reporting ジョブの検索をサポートします。
このジョブの実行時にフォアグラウンド・ジョブ出力をリポジトリに保持する	出力をリポジトリに格納します。
「ジョブの実行者」オプションで永続オプションを変更できるようにする	これを選択した場合、ユーザーは、ジョブをリアルタイムに実行するときこのジョブの実行時にフォアグラウンド・ジョブ出力を保持するを使用できます。

パラメータ

Production Reporting ジョブには 2 種類のパラメータ、ASK と INPUT があります。ASK パラメータ(変数)はコンパイル時に使用します。INPUT パラメータ(変数)は、ジョブ実行時に使用し、ユーザーがジョブを実行するときプロンプトとして表示されます。ASK および INPUT パラメータをパラメータ・リストに追加できます。Production Reporting ジョブのみ ASK パラメータを持ちます。Production Reporting および汎用ジョブは INPUT パラメータを持つことができます。パラメータの「変更」を選択してパラメータをさらに定義します。また、パラメータのユーザー入力にカスタム・フォームを選択します。

パラメータ設定

パラメータを使用してスキャンしたパラメータまたは手動で入力したパラメータを表示します。パラメータ・プロパティの定義の詳細は、[表 131](#) に示します。

表 131 パラメータ・プロパティ

パラメータ・プロパティ	説明
手動でパラメータを入力	ASK および INPUT パラメータを入力するデフォルト・メソッド。 507 ページの「依存性分析コマンド」 を参照してください(パラメータは追加順にリストされます)。

パラメータ・プロパティ	説明
ジョブをスキャンして Production Reporting コードからパラメータを読み取るインポート・プロセス時に使用可能です。	Production Reporting ジョブおよび INPUT と ASK パラメータ・リストの自動化を可能にするオプション
このジョブにパラメータを追加	INPUT または ASK を選択して「実行」をクリックします。詳細は、512 ページの「INPUT パラメータ」を参照してください。
プロンプト	パラメータ用の値のプロンプト
表示	パラメータ(デフォルトはテキスト)の表示フォーマット(テキスト、SQL 選択、選択ボックス)
デフォルト値	パラメータのデフォルト値
変更	選択して各パラメータのプロンプト、表示、フォーマット、およびデフォルト値プロパティを変更
矢印アイコン	パラメータの順序を変える矢印。(パラメータは、このリストに表示される順に処理されます。)
ゴミ箱アイコン	選択してパラメータを削除します。

ASK パラメータ

ASK パラメータは、テキストまたは SQL クエリーとして入力できます。

表 132 ASK パラメータ・プロパティ

パラメータ・プロパティ	説明
パラメータを次の通りフォームに表示:	パラメータ表示タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● テキスト ● SQL クエリーから取得した値の選択
プロンプト	パラメータのプロンプト
デフォルト値	デフォルト値の入力あるいは、ユーザーに値の変更を許可するため(テキスト入力のみ) システムはデフォルト値またはエンド・ユーザーは値の変更が可能なセクションを必要とします。
エンド・ユーザーは値の変更が可能	ユーザーに実行時のデフォルト値の入力を許可するため
SELECT/FROM/WHERE	パラメータ・リストを取得するための SQL コマンド(SQL クエリーのみ)。

INPUT パラメータ

INPUT パラメータはテキスト、事前決定値、または SQL クエリーとして入力できます。

表 133 INPUT パラメータ・プロパティ

INPUT パラメータ・プロパティ	説明
パラメータを次の通りフォームに表示:	<p>パラメータ表示タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テキスト ● 事前決定値の選択 ● SQL クエリーから取得した値の選択
プロンプト	パラメータのプロンプト
データ型	データ型(テキスト、数値、または日付。デフォルトはテキスト)
プレゼンテーション	プレゼンテーション・フォーマット: ドロップダウン・リスト、オプション・ボタン、またはリスト・ボックス(定義済および SQL クエリーのみ)
デフォルト値	<p>デフォルト値の入力あるいは、ユーザーに値の変更を許可するため(事前決定およびテキスト入力)</p> <p>「デフォルト値なし」が使用できない場合、システムはデフォルト値を必要とするか、「エンド・ユーザーは値の変更が可能」の選択を必要とします。</p> <p>\$FIXED_USERNAME を選択すると、「デフォルト値なし」および「エンド・ユーザーは値の変更が可能」は使用できません。</p>
デフォルト値なし	パラメータがデフォルト値を持たないこと、およびユーザーがパラメータの値なしにジョブを実行することを許可するため
エンド・ユーザーは値の変更が可能	<p>ユーザーに実行時のデフォルト値の入力を許可するため</p> <p>デフォルトが指定されていてこのオプションが選択されている場合、ユーザーはデフォルト値を指定する必要があります。</p> <p>このオプションを選択していると、複数の値の許可フィールドは選択項目です(事前決定済および SQL クエリーのみ)</p>
複数の値の許可	<p>複数の値を許可するため(リスト・ボックス・プレゼンテーションのみ)</p> <p>選択されている複数の値を使用して Production Reporting プログラム内で動的選択条件を作成する場合、プログラムは WHERE 句を構築するよう設計されている必要があります。</p>
検証タイプ:	検証テキスト(テキストのみ)。
検証マスク	標準またはカスタム検証マスク(テキストのみ)
リストの値	<p>右矢印でリストへ移動する値を入力するため(事前決定値のみ)</p> <p>リストから選択して左矢印を選択して値を削除します。</p>
SELECT/FROM/WHERE	パラメータ・リストを取得するための SQL コマンド(SQL クエリーのみ)。

カスタム・フォーム

ジョブを実行するとき、INPUT パラメータの入力にカスタム JSP パラメータ・フォームを選択するか標準フォームを使用できます。パラメータは、入力フィールドと JSP を形成します。また、JavaScript やアプレットを起動するより複雑なも

のも可能です。ユーザーの会社が開発したカスタマイズ済パラメータ・コレクション・フォームを選択できます。

割り当てられたフォームはリポジトリに格納されます。ローカル・システムまたはリポジトリからカスタム・フォームを割り当てられます。

カスタム・フォーム・オプション	説明
標準フォーム	プロパティを変更するときのみ表示されるデフォルト HTML パラメータ・フォーム
カスタム・フォーム	「ADD」(「カスタム・フォーム」の隣)をクリックしてカスタム・フォーム・ファイルをアップロードして参照するため
必要なファイル	イメージなど選択済フォームで使用するサポート・ファイルを追加するため 名前 - 必須ファイル名 場所 - 必須ファイル・パス(名前の隣のアイコンは、ファイルがローカル・システムにあることを示します。)
アクション	置換 - ファイルをローカル・システムまたはリポジトリから選択したものと置き換えるため 削除 - ファイルを削除するため
手動でファイルを追加	「実行」をクリックして必要なファイルを追加するため

パラメータ・リストのオプション

表 133 は、INPUT パラメータ・リストのオプションの詳細を示します。

パラメータ・リスト・オプション	説明
Smartform でユーザーがパラメータ・リストを選択可能	実行時にユーザーにパラメータの選択を可能にするため
Smartform でユーザーがジョブ・パラメータを保存可能	ユーザーに入力値に入力した値のパラメータの保存を可能にするため

ジョブの出力

出力フォーマットには HTML フォーマットが常に選択されています。出力フォーマットは選択するかテキスト・ボックスに入力してさらに追加できます。

出力オプション

表 134 は出力オプションの詳細を示します。

表 134 出力オプション

出力オプション	説明
出力オプション	<p>ユーザーの Production Reporting プログラムから生成される出力フォーマット:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HTML ● Interactive Reporting データ(bqd) ● Smart View ● Adobe Acrobat ● PowerPoint ● PostScript(ps) ● HP プリンタ ● Excel ● XML ● カンマ区切り ● ライン・プリンタ ● Word ● Excel <p>デフォルト値は HTML 形式です。</p> <p>「その他」に入力した値はカスタム・プロパティとして保管されます。</p> <p>ここで選択したフォーマットは、他の Production Reporting コマンド・ライン・オプション・インタフェースで指定した出力フォーマットを上書きします。</p> <p>注: 「SPF output」は、常に出カリストに生成される SPF 出力の表示または非表示に使用します。</p>

ページングの設定

ページングの設定は、より優れたパフォーマンスを得るためレポートを別ファイルに分割またはバーストするオプションを提供します。レポートをバーストすることにより、レポート全体をブラウザにダウンロードすることを避けます。

安全な Production Reporting ジョブのためには、レポートがどのように出力をユーザーまたはグループに分割するかに従って HTML ページングの設定オプションを選択することを推奨します。

ページングの設定は、HTML、BQD、XLC、および CSV を含むウェブ出力タイプ用です。印刷出力タイプには、PDF、SPF、PS、LP、および HP があります。

表 135 ページングの設定オプション

ページングの設定オプション	説明
レポート全体を 1 つのファイルとして書込み	レポート出力を 1 つの HTML ファイルに書き込む(安全な Production Reporting ジョブで使用不可)

ページングの設定 オプション	説明
個別のファイルを ページごとに書 き込む	N ページごとに HTML ファイルを作成するため たとえば、1 を入力すると、レポート・ページごとに HTML ファイルが 作られます。20 を入力すると、20 ページごとに HTML ファイルが作られ ます。 デフォルト: レポートの各ページごとに HTML ファイル
目次レベルに基づ いてファイルを書 込み	目次の HTML ファイルを作成するため 1 を入力すると目次のレベル 1 項目ごとに別 HTML ファイルが作られま す。2 を入力すると各レベル 1 およびレベル 2 項目ごとに HTML ファイル が作られます。 デフォルト: 各レベル 1 項目ごとに HTML ファイル 注: 目次がない場合、レポートは 1 つの HTML ファイルとして保存さ れます。

詳細出力オプション

表 136 に詳細出力プロパティの詳細を示します。

表 136 詳細出力オプション

詳細出力オプション	説明
ユーザーが個人用ページにジョブ の出力を追加可能	ユーザーにジョブ出力コンテンツ(HTML のみ)の個人 用ページへの埋込みを可能にするため
ジョブを出力するためのコマン ド・ライン・フラグ	出力バーストに使用するコマンド・ライン・フラ グ。
のあとジョブを自動削除	いつジョブ出力を自動的に削除するかを指定するた め

コンパイル・プロパティ

Production Reporting プログラムは実行する前にコンパイルできます。すべての事
前コンパイル・プログラムは、INCLUDE ファイルを変更すると再コンパイルされ
ます。

コンパイル・プロパティ	説明
コンパイル時フラグ	コンパイル時に使用するコマンド・ライン・フラグ
データベースのユーザー名	データベースをアクセスするためのユーザー名
データベースのパスワード	ユーザー名のパスワード
ASK パラメータ	Production Reporting ジョブが必要とする ASK パラメータのデフォ ルト値を変更するため

Production Reporting ドキュメントは、フォント、ライン、ボックス、塗りつぶし
領域、チャート、バーコード、およびイメージを含む Production Reporting グラ

フィック機能に対応するプリンタ独立ファイル・フォーマットです。Production Reporting ポータブル・ファイルは拡張子 SPF または SNN (複数レポート用)を持ちます。このファイル・フォーマットはレポート出力の保存に便利です。Production Reporting ドキュメントは電子的に配布してProduction Reporting ビューアで読むことができます。どこへドキュメントを印刷するかはあとで決定します。

汎用ジョブ・プロパティ

ほとんどの汎用ジョブ・プロパティおよび Production Reporting ジョブ・プロパティは同じです。全般プロパティ、詳細オプションおよびパラメータ・プロパティは Production Reporting ジョブ・プロパティ・セクションで示す個所以外は同じです。

ジョブ入力および出力プロパティは、汎用ジョブ固有で、次のトピックで説明します。

汎用ジョブ出力オプション

プログラムの実行に必要なアプリケーションがない場合、管理者に連絡して必要なアプリケーションでジョブ・サービスを構成してください。

汎用ジョブ出力オプション	説明
ジョブ・ファクトリ・アプリケーション	プログラムを実行するためのアプリケーション 必要なアプリケーションがリストにない場合、ジョブの設定を始める前にアプリケーションのジョブ・サービスを構成する必要があります。管理者に連絡してアプリケーションを構成してください。
ジョブを実行するためのコマンド・ライン・フラグ	アプリケーションに渡すコマンド・ライン・フラグ

汎用ジョブに必要なファイル

必要なファイルを手動で入力して必要なファイルを特定して検索します。必要なファイルを特定して検索すると、それらは必要なファイルのページに追加されます。

必要なファイルのプロパティ	説明
名前	必要なファイル名 名前の隣のアイコンは、ファイルがローカル・システムにあることを示します。
場所	必要なファイルのパス 場所がリストにない場合、変更アイコンをクリックするかファイルを削除してファイルを探す必要があります。

必要なファイルのプロパティ	説明
アクション	<p>取得 - ファイルをダウンロードするため</p> <p>置換 - ファイルをローカル・コンピュータまたは EPM Workspace リポジトリの同じ名前のものと置き換えるため</p> <p>削除 - ファイルを削除するため</p>
手動でファイルを追加	<p>ジョブに必要なファイルを探すメソッド</p> <p>ファイルを別々に入力するか zip 圧縮して zip ファイル名を入力します。EPM Workspace は zip ファイルを抽出して必要なファイルの要約リストに追加します。</p>

汎用ジョブのデータベース接続

データベース・ユーザー名、パスワード、および接続文字列を入力します。

汎用ジョブ・プロパティの DB 接続	説明
ユーザー名	データソースに対するユーザー名を入力します。
パスワード	データソースに対するパスワードを入力します。
データベース接続文字列	データ・ソースのデータベース接続文字列
エンド・ユーザーの認証システムが使用可能な場所にパススルー可能	ユーザーにログイン情報を入力せずにデータ・ソースのアクセスを可能にするため

汎用ジョブの出力オプション

ジョブおよび出力オプションを定義します。

汎用ジョブの出力オプション	説明
ジョブ実行後にこの出力ファイルを表示:	<p>プライマリ出力フォーマット</p> <p>フォーマットをセミコロンで区切ります。たとえば、*.html; *.pdf。フォーマットが一致すると、残りのフォーマットは無視されます。</p> <p>デフォルト: すべてフォーマットが表示されます</p>
このジョブの出力タイプ	<p>SYS_OUTPUTFILETYPE のプロパティとして保管する値。</p> <p>このプロパティにアクセスするにはアプリケーションで API を使用します。</p>
ジョブを実行後出力を自動削除	いつジョブの出力を自動的に削除するかを指定するため

Production Reporting および汎用ジョブ・プロパティの変更

Production Reporting および汎用ジョブのプロパティは変更できます。141 ページの「プロパティの操作」を参照してください。

出力を削除できる「出力」セクションは、プロパティを変更するとき使用できません。

SQR および汎用ジョブ・プロパティ	説明
最終実行日	ジョブを最後に実行した日をリストします。
出力フォーマット	生成された出力フォーマットをリストします。
選択項目の削除	最初の列で日付を選択し、「選択項目の削除」をクリックして削除します。
ページ	このテキスト・ボックスにページを入力するか矢印をクリックして複数ページの出力をナビゲートします。

Production Reporting および汎用ジョブ・パラメータの設定

ジョブを実行するかスケジュール設定する前に必要な実行時値を設定する必要があります。値を再利用できる個人用ジョブ・パラメータとして保存できます。

- ▶ Production Reporting および汎用ジョブ用にジョブ・パラメータを設定するには、次の手順に従います。
 - 1 ジョブを実行またはスケジュールします。

460 ページの「ジョブの実行」または 461 ページの「ジョブのスケジュール」を参照してください。
 - 2 ジョブを実行する場合は、「値の設定」セクション、あるいはジョブをスケジュールする場合は「パラメータ」に必要な実行時値を入力します。

ジョブをインポートするときデフォルト値を指定したか「ジョブ・パラメータ」リストにジョブ・パラメータを保存していない場合、すべての ASK パラメータの値を指定する必要があります。
 - 3 オプション:値を個人用ジョブ・パラメータとして保存するには、「保存」をクリックしてパラメータの名前を入力します。

ジョブのスケジュール設定用の出力オプション

標準ジョブ出力オプションは、461 ページの「ジョブのスケジュール」で説明しています。Production Reporting ジョブには、追加の電子メール通知オプションおよび出力ディレクトリ・オプションがあります。

電子メール通知オプション

Production Reporting ジョブには、電子メール通知オプションがあります。

電子メール通知オプション	説明
電子メール・アドレス	ステータス・メール送信用電子メール。セミコロン、コロン、空白文字、カンマ、または行で区切ります。
電子メールに添付するジョブの出力のフォーマット	電子メール添付ファイルのフォーマットを選択します。 デフォルト: HTML <ul style="list-style-type: none">● HTML - デフォルト● カンマ区切り● ライン・プリンタ● 従属ファイルを含む —このジョブに依存するすべての電子メール添付ファイルを含めるため● SPF● Interactive Reporting データ● Smart View● Adobe Acrobat● Postscript● HP プリンタ● その他 - ファイル・タイプを入力します。
ZIP のオプション	ZIP ファイル・オプション: <ul style="list-style-type: none">● 添付ファイルを圧縮しない - ZIP ファイルは作成されない● すべての添付ファイルを 1 つのファイルに zip 形式で圧縮する - ZIP ファイルは HTML および選択済ファイル・フォーマットを含む● HTML とグラフィックのみ ZIP する - ZIP ファイルは HTML および選択済グラフィック・ファイル・フォーマットを含む

出力ディレクトリ・オプション

Production Reporting ジョブには出力ディレクトリ・オプションがあります。

注：「出力ディレクトリに保存」セクションは、管理者が出力ディレクトリを構成している場合にのみ表示されます。

表 137 出力ディレクトリ・オプション

出力ディレクトリ・オプション	説明
出力ディレクトリ	ジョブ出力をジョブを含むディレクトリに自動的に保存するため 出力ディレクトリを選択すると、ジョブ出力は選択したディレクトリに保存されます。(管理者がディレクトリ・リストを構成します。)

出力ディレクトリ・オプション	説明
保存フォーマット	ジョブの出力に追加フォーマットを保存するため HTML が自動的に生成されます。これらのオプションは、リストからディレクトリを選択した場合にのみ機能します。
従属ファイルを含む	ジョブに依存するすべてのファイルを含めるため。
ステータス・レポート	すべてのステータス/ レポートを受け取るため デフォルト: エラーが発生した場合にのみステータス・レポートを受け取ります。
ステータスの送信先	ステータス・メール送信用電子メール。セミコロン、コロン、空白文字、カンマ、または行で区切ります

注: ユーザーは、「出力のスケジュール」プロパティの「その他のフォーマット」テキスト・フィールドで区切り記号(;)を使用して出力フォーマットをすべてリストできます。

安全な Production Reporting ジョブの使用

安全および安全ではない Production Reporting ジョブは、異なった扱いを受けます。安全なジョブでは、レポート・セクションにセキュリティ・タグが適用されます。以下のトピックで安全なジョブおよびそのセキュリティの実現および保護方法を説明します。

Production Reporting プログラムが、レポート・セクションにセキュリティ・タグを適用してセクションのアクセスを指定ユーザーに限定した場合、レポートは安全です。Production Reporting は、安全なレポートには HTML 出力(イメージを含む)のみ作成します。安全な Production Reporting レポートのプログラミングの詳細は、Production Reporting のドキュメントを参照してください。

安全な Production Reporting ジョブを実行するとき、セキュリティ・タグが Production Reporting に書き込まれます。ドキュメントを実行するとき、結果の各 HTML ファイルには、ファイル内のすべてのデータを表示する権限を持つユーザーだけがファイルを表示できるようセキュリティ・タグが付けられます。

安全なレポートには、結果のファイルが Production Reporting プログラムがユーザー間でデータを分割した方法に対応するようバースト(あるいはページング設定)オプションを適切に設定することが重要です。Production Reporting ドキュメントを適切にバーストしないと、セキュリティは守られますが、一部のユーザーは見られるはずのデータをアクセスできない可能性があります。

Production Reporting プログラムを実行することで書き出される Production Reporting ドキュメントはリポジトリにインポートできます。安全なドキュメントを実行すると、安全なジョブを実行するのと同じアクセス権を持つ同じ出力が得られます。

安全な Production Reporting ジョブのアクセス権

出力ファイルのアクセス権は、まず、ジョブを実行したときのユーザーのアクセス権あるいは設定されていればジョブ出力のアクセス権から得られます。各出力ファイルは、関連するセキュリティ・タグが設定されていることもあります。ジョブの所有者は、SPF または出力ファイルのアクセス権を変更できます。すべてのデータを含む Production Reporting ドキュメントでは、アクセス権の拡大は、レポートのセキュリティの緩和を意味します。

ユーザーは、出力ファイルを表示するには次のすべてのアクセス権が必要です。

- レポート・フォルダのアクセス権を表示
- ファイルのアクセス権を表示
- 出力ファイルの Production Reporting セキュリティ・タグで与えられるアクセス権(アクセス権はコード内のセキュリティ・タグから得られます。)

ジョブを削除したときセキュリティ・タグはチェックされません。通常のアクセス権チェックのみ行います。したがって、ジョブ出力ファイル所有者は、セキュリティ・タグによるファイル内容の表示許可に関わらずファイルを削除できます。安全なレポートが、Production Reporting OPEN ステートメントによってデータ・ファイルを作成する場合、ジョブの所有者のみファイルの表示アクセス権を持ちます。所有者は、このファイルのセキュリティを緩和できます。

セキュリティ・モード

Production Reporting 内のすべてのアイテムにはオンかオフのセキュリティ・モードがあります。

安全な Production Reporting ファイルから得たすべてのアイテムのセキュリティ・モードはオンです。これらのアイテムには、Production Reporting ドキュメント、すべての出力ファイル、Production Reporting ProgramOutput アイテム、および SPFFileOutputCollection アイテムが含まれます。ファイルが安全な場合、この情報は「プロパティ」(「詳細」タブの)に表示されます。

安全な出力と安全ではない出力を作成する安全な Production Reporting プログラムを作成することができます。一部のページをセキュリティなしで出力し、残りを安全に出力する Production Reporting プログラムを書くことができます。この場合、通常の EPM Workspace アクセス・コントロールで出力ファイルをアクセスできるユーザーは、安全ではない出力ページおよび見る権限を持つ安全なページを見ることができます。安全な Production Reporting プログラム内から安全なページと安全ではないページを作る機能は、Production Reporting の security コマンドに左右されます。

安全なレポートのバージョンを作成または置換できますが、新規バージョンとものバージョンのセキュリティ・モードが一致する必要があります。

セキュリティの勧告

EPM Workspace で安全な Production Reporting ジョブおよびドキュメントのセキュリティを保証する勧告:

- 安全な Production Reporting または SPF ジョブの専用ユーザー・アカウントを設定します。
- 1つの安全なレポートまたは関連する安全なレポートのグループに専用アカウントを使用します。
- 安全なジョブは、必ず専用アカウントからのみ実行します。
- 専用アカウントをアクセスできる人は安全なジョブをインポートしてすべてのデータを含む Production Reporting ドキュメントをアクセスできるため、そのアクセスを必要最小限の人に限定します。

プログラマ規則

Production Reporting には、EPM Workspace ユーザーまたはグループにセキュリティ・タグを指定する内蔵規則があります。開始文字が **u#** のセキュリティ・タグはユーザーを表します。開始文字が **g#** のセキュリティ・タグはグループを表します。

セキュリティ情報の表示

安全な Production Reporting プログラムはその出力を複数ユーザー用に作成し、それに従ってアクセスを制限します。Production Reporting プログラムに関連するファイルが安全かはそのセキュリティ・モードを表示して確認することができます。

安全な Production Reporting ファイルとその関連ファイルでは、「セキュリティ・モード」プロパティが **on** に設定されています。関連ファイルには Production Reporting 出力ファイル、ドキュメント・コレクション、および Production Reporting ドキュメント出力コレクションが含まれます。

▶ ファイルのセキュリティ・モードを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ファイルを選択して変更を選択します。
- 2 詳細オプションセクションを開きます。

ファイルが安全な場合、「セキュリティ・タグを含める」ボックスがチェックされています。

Production Reporting または汎用プログラムの例外をサポート

次のトピックは、ユーザーへの例外通知をサポートする Production Reporting および汎用レポート・プログラマを対象にしています。(ユーザーは、電子メール通知を受け取るか個人用ページの例外ダッシュボードにグラフィック・インディケーターを見ることができます。)

Production Reporting プログラミング

Production Reporting プログラムが例外をサポートするには次の行を含む必要があります。

```
open 'output.properties' as 0 for-append record=32767:vary
write 0 from 'exception.default=on'
write 0 from 'exception.default.text=<exception text>'
close 0
```

汎用レポート・プログラミング

汎用ジョブまたはファイルが例外をサポートするため。プログラマは EPM Workspace API を使用してジョブ出力プロパティの例外提示と例外テキストを介した例外レポートをサポートする必要があります。

出力の優先度をプログラマ的に設定

Production Reporting プログラムでは、出力を高優先度に設定できます。エクスプローラのマジュール・リストでは、高優先度ジョブ出力またはバージョンの隣に高優先度アイコンが表示されます。ユーザーは、優先度順(通常または高)にソートすることもできます。

出力の優先度を高く設定するには、プログラムは文字列 `rating=high-priority` をジョブ・サービスが使用する `output.properties` ファイルに書き込みます。次のコード部分がこの目的を実現します。

```
open 'output.properties' as 0 for-append record=32767:vary
write 0 from 'rating=high-priority'
close 0
```

Production Reporting ジョブ のカスタム・パラメータ・ フォームの使用方法

この章の内容

パラメータ・フォームのカスタマイズ.....	525
パラメータ・フォーム要素.....	527
標準パラメータ・フォーム.....	531
標準パラメータ・フォーム例.....	531
パラメータ・フォーム: 例とヒント.....	534

パラメータ・フォームのカスタマイズ

Production Reporting ジョブは、パラメータ・フォームを使用して実行時に INPUT パラメータを取得します。このセクションは、パラメータ・フォームをカスタマイズする方法を説明します。

注： パラメータ・フォームは JSP で書かれています。Production Reporting が提供する標準フォームをカスタマイズするには、JSP および Java の専門知識が必要です。

デフォルトで、Production Reporting ジョブを実行するかパラメータ・リストを変更するとき、EPM Workspace はパラメータ情報を集めるために標準フォームを生成します。このフォームをカスタマイズできます。たとえば、一部のジョブがより複雑なフィールド・レイアウトを要求したり、組織が特定の規則を要求することがあります。

実行時にカスタム・パラメータ・フォームをジョブに関連付けることができます。ジョブに関連するカスタム・フォームを実行またはスケジュールします。これは、標準フォームの代わりに表示されます。

パラメータ・フォームは、入力フィールドを含む JSP です。フォームは、JavaScript またはアプレットを起動するより複雑なものも可能です。

パラメータ・フォーム・プロセス

ジョブまたは標準フォームに関連するパラメータ・フォームは、次のいずれかのアクションを実行すると表示されます。

- ジョブ・ショートカット・メニューから「**ジョブの実行**」を選択します。
- アイテム・リストからジョブ名を選択します。

- ジョブのスケジュール設定時にパラメータ・リストを作成または変更します
完成したフォームを実行するために提出したあと、EPM Workspace は次のアクションを実行します。

1. 検証が定義されているパラメータを検証します
2. フォームを処理します
フォームは、ジョブが必要とするパラメータ値およびデータベース・ログイン情報を収集できます。スケジュール設定には、フォームはパラメータ・リスト名と説明も収集できます。
3. 適用できる場合、パラメータ・リストを作成または変更するかジョブを実行します。
4. ジョブを実行した場合、ジョブ出力を取得して表示します

パラメータ・フォーム・ジョブの割当て

この手順は、Production Reporting で使用するために作成したカスタム・パラメータ・フォームにのみ適用できます。

注： Production Reporting 以前に作成したカスタム・パラメータ・フォームは、Production Reporting で使用する JSP フォームとして作り直す必要があります。

- ▶ Production Reporting ジョブにカスタム・パラメータ・フォームを割り当てるには、次の手順に従います。
 - 1 ブラウザでジョブヘナビゲートし、ジョブ名を右クリックします。
 - 2 トップ・メニューからプロパティを選択します。
 - 3 カスタム・フォームを選択し、使用するファイルを参照します。
 - 4 フォームが GIF などの追加ファイルを使用する場合、必要なファイルを表示を選択します。
 - 5 フォーム・プロパティの変更が済んだら OK をクリックします。

標準フォームの割当て

ジョブにカスタム・フォームを割り当てたあと、標準フォームを再割り当てできます。

- ▶ ジョブに標準フォームを割り当てるには、次の手順に従います。
 - 1 ブラウザで、必要な Production Reporting ジョブヘナビゲートし、ジョブ名を右クリックして選択します
プロパティ
 - 2 トップ・メニューから「**Production Report**」および「**パラメータ**」を選択します。
 - 3 標準フォームを選択します。

- 4 OK を選択します。

パラメータ・フォームの編集

ジョブに割り当てる前にカスタム・フォームを編集します。フォームをジョブに割り当てたあと編集するには、それをダウンロードして変更し、リポジトリへアップロードします。編集した標準フォームはカスタム・フォームとしてアップロードされます。

Production Reporting パラメータ・フォームは、グラフィカル HTML エディタが正しく表示できない JSP タブまたはスクリプトレットを含みます。しかし、タグは一部のグラフィカル・エディタを使用してレイアウトを変更できるよう設計されています。エディタを使用する前に、それがコードを変更しないことを確認してください。

エディタを使用してパラメータ・フォームを変更するには、Production Reporting パラメータ・フォーム API および JSP タグの知識が必要です。パラメータ・フォームを変更するときは、スクリプトレット・コード・ブロックは一まとめにしておかないと正しく動作しない可能性があります。

パラメータ・フォームを変更するには、Macromedia Homesite などの非グラフィカル HTML エディタを使用します。JSP タブを変更しないよう注意してください。

- ▶ パラメータ・フォームを編集するには、次の手順に従います。
 - 1 ブラウザで、Production Reporting ジョブヘナビゲートしてジョブ名を右クリックして「プロパティ」を選択します。
 - 2 トップ・メニューから「パラメータ」を選択します。
 - 3 「カスタム・フォーム」を選択します。
 - 4 変更を選択し、カスタム・フォームの隣の「追加」をクリックします。
 - 5 標準フォームをダウンロードするか PC またはリポジトリからカスタム・フォームを参照します。
 - 6 標準フォームを編集する場合、編集可能なコピーを保存する場所を指定し、新規カスタム・フォームの名前を入力します。
 - 7 フォームをローカルに編集します。
[527 ページの「パラメータ・フォーム要素」](#)を参照してください。
 - 8 OK をクリックして変更を保存します。

パラメータ・フォーム要素

パラメータ・フォームを特殊要素を含む HTML ファイルとして作成します。パラメータ・フォームを表示する前に、EPM Workspace は、フィールド内で遭遇する要素を解釈して処理します。通常、EPM Workspace は、要素を要素が指す値で置き換えて処理します。たとえば、`<%=targetFormParameter.getJobName()%>`をジョブ名で置き換えます。

注： パラメータ・フォーム要素は大文字小文字の区別があります。

要素タイプ

パラメータ・フォームの主要素タイプ:

- Basic
- 条件
- ループ

基本要素

基本要素の形は`<%= (bean) .getxxx () %>>`です。

例: `<%=targetFormParameter.getJobName () %>`。

条件付き要素

条件付要素は、次の標準 JSP または Java 条件付コードを持ちます。

```
if () {}  
else {}
```

開始と終了タグの間に HTML または適用可能パラメータ・フォーム要素を挿入できます。Production Reporting は、「値」引数が TRUE または FALSE か判断します。TRUE の場合、表示されるフォームに間の HTML が含まれます。FALSE の場合、開始と終了タグの間の HTML は無視されます。

ループ要素

ループ要素は次の形をしています。

```
<getxxxLoop>  
...  
</getxxxLoop>.
```

例として `getParameterPickListLoop` があります。開始と終了タグの間に HTML 要素を挿入できます。EPM Workspace が要素を処理するとき、ループが終了するまでループの内容を処理します。ループの終了条件は要素に依存します。

必要な要素

パラメータ・フォームは、たとえば、パラメータ・ピック・リストを用意する場合またはデータベースの情報をアクセスする必要がある場合、必要な要素と使用する要素を提供します。

必要な要素には、ファイルをパラメータ・フォーム・ファイルとして特定する要素を含み、パラメータ情報を戻し、フォームを処理のために提出するとき使用する URL を戻します。表 138 を参照してください。

表 138 必要な要素

要素	機能
setParameterAskCond(String n)	N 番目の ASK パラメータを選択します。ここで n は 1 から ASK パラメータの総数までです。
getParameterFieldName()	ParameterInputCond または ParameterAskCond で選択したパラメータの値を設定するための HTML フォーム・フィールドの名前を戻します
setParameterInputCond(String n)	N 番目の INPUT パラメータを選択します。ここで n は 1 から INPUT パラメータの数までです
getParameterName()	現在のパラメータ名を戻します
getParameterValue()	現在のパラメータの値またはパラメータ・リストの場合、パラメータの現在の値を戻します

以下のトピックは、必要な要素を使用するコード部分を示します。

名前指定要素

次の要素は、パラメータ・フォームのインポート・ファイル名を指定します。

```
<jsp:include page=" jsp/shared/formparameterFormJavaScript.jsp' flush=true">>
```

パラメータ・リスト要素

ジョブのスケジュール設定には、名前と説明があり、ジョブに関連する各パラメータの値を含むパラメータ・リストの作成が必要です。ジョブをスケジュール設定するときは、EPM Workspace がジョブを実行するとき使用するパラメータを提供するパラメータ・リストを選択します。

パラメータ表示要素

次のコード部分は、要素を使用したパラメータ値の扱いを示します。フォームがパラメータ・ピック・リストを使用する場合、このトピックの最後のサンプル・コードを参照してください。

```
<getParameterInputCond hasValue="1"> <!-- 1st parameter -->
<!-- Name of parameter -->
<TD VALIGN="MIDDLE">
<FONT face="Arial, Helvetica, sans-serif" size="-1">
<B><getParameterName/></B>
</FONT>
</TD>
<TD VALIGN="MIDDLE" COLSPAN="2">
<INPUT TYPE="text" NAME="<getParameterFieldName/>"
VALUE="<getParameterValue/>" SIZE="30">
</TD>
</getParameterInputCond>
```

<getParameterInputCond>および<getParameterAskCond>タグは、
<getParameterName/>、<getParameterFieldName/>および

<getParameterValue>タグを解決するために使用する INPUT または ASK パラメータを選択します。hasValue 引数を 1 から INPUT または ASK パラメータの数に設定する必要があります。

必要ではない要素

パラメータ・フォームには、必要ではない要素および必要な要素を使用できます。

表 139 必要ではない要素

要素	機能
getEmbedParameterValidationRoutines()	フォームに JavaScript パラメータ検証ルーティングを追加します
isFormUsesParameterValidationCond()	現在のジョブが JavaScript 検証ルーティングを必要とする場合、TRUE を返します
isParameterValidationCond()	検証関数の現在のパラメータをテストします
isParameterValidationMaskCond()	マスクが現在のパラメータの検証関数に関連する場合は TRUE を返します
resetParameterPickList()	現在のパラメータの静的または動的選択オプションを初期化し、初期化が失敗した場合はエラー・メッセージを印刷します
isParameterMultiValuesCond()	パラメータが複数值を受け付ける場合 TRUE を返します
を参照してください getParameterType()	現在のパラメータのタイプ番号を返します。 Text edit = 0 ドロップダウン・リスト= 1 ラジオボタン= 2 リスト= 3
getParameterType()	現在のパラメータのタイプ番号を返します。 Text edit = 0 ドロップダウン・リスト= 1 ラジオボタン= 2 リスト= 3
getParameterListPublisherDefaultsFieldName()	パブリッシャのデフォルト・パラメータ・リストに使用する HTML フォーム・フィールドの名前を返します
processParameterPickListLoop()	パラメータ・ピック・リストの値で反復します。
getPickListParameterValue()	processParameterPickListLoop()のループ構造に使用します。 パラメータ・ピック・リスト内の次の値を返します。

要素	機能
getParameterPickListValueSelected(String presentationType)	Java ループ構造で使用しなければなりません。ピック・リスト内の次の値がパラメータの現在の値ならば「selected」を戻します。 注： presentationType を「select」または「check」に設定できます。値の数がわずかなパラメータのピック・リストでは、ボタンを使用してオプションを表示できます。この場合、presentationType を「check」に設定すると「checked」が戻ります。このオプションを使用してどのオプションがパラメータの現在の値か示すことができます。
getParameterValidationMask()	検証関数の現在のパラメータに関連するマスクを戻します。
getParameterValidationName()	検証関数の現在のパラメータの名前を戻します。
getPublisherDefaultsParameterValue()	パブリッシャ・デフォルト・パラメータ・リスト内の現在のパラメータの値を戻します
isRequiredParameterCond()	現在のパラメータが必要な場合に TRUE を戻します
getSaveDefaultsCheckboxFieldName()	「デフォルトを保存」ボックスを表す HTML フォーム・フィールドの名前を戻します
isShowFormsParameterListCond()	パラメータ・リストを表示するかどうか決定します
isShowFormsSaveMyDefaultsCond()	パブリッシャが「マイ・デフォルトとして保存」を選択したかどうか決定します
isShowParameterListPublisherDefaultsCond()	ジョブがパブリッシャのデフォルトを表示するよう構成されている場合 TRUE を戻します

標準パラメータ・フォーム

Oracle Hyperion(R) SQR(R) Production Reporting の標準パラメータ・フォームは JSP です。標準フォーム例の必要なインポート・タグに注目してください。すべてのフォーム API をアクセスしてフォーム・パラメータ・リストに関する情報を取得するために `JavaBeanIFormParameter View` ステートメントを使用しています。

注： 標準フォームを変更してカスタム・パラメータ・フォームを作成できます。Java および JSP を使用してフォームを強化できます。

標準パラメータ・フォーム例

```
<%@ include file=" /jsp/shared/common.inc" %>
<%@ page import=" com.brio.one.web.ui.JSPUtility, com.brio.one.web.browser.ui.*,
com.brio.one.web.ui.config.*, java.util.*" %>
<jsp:useBean id=" targetFormParameter" scope=" request"
type=" com.brio.one.web.ui.IFormParameterView" />
```

```

<!--
This template is used for these purposes:
 1) Run a job that requires parameters or database user information
 2) Create a parameter list for a job
 3) Edit a parameter list for a job
This template is used when there is no custom ONE/SmartForm associated with the job.
-->
<jsp:include page="/jsp/shared/form/parameterFormJavaScript.jsp" flush="true" />
<TABLE border="0" width="98%" cellpadding="0" cellspacing="0">
  <TR>
    <TD WIDTH="45"><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif")%> WIDTH="45" HEIGHT="1" ALT="" ></TD>
    <TD WIDTH="15"></TD>
    <TD WIDTH="160"><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif")%> WIDTH="160" HEIGHT="1" ALT="" ></TD>
    <TD WIDTH="100%"><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif")%> WIDTH="10" HEIGHT="1" ALT="" ></TD>
  </TR>
  <TR>
    <TD COLSPAN="4"><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif")%> WIDTH="45" HEIGHT="12" BORDER="0" ALT="" ></TD>
  </TR>
<!-- Start Display of Parameters -->
  <%
    if (targetFormParameter.isParameterCond()) {
      // initialize the parameter loop
      targetFormParameter.resetParameterLoop();
      while (targetFormParameter.processParameterLoop()) {
        if (!targetFormParameter.isParameterHiddenCond()) {%>
          <TR>
            <TD><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif")%> WIDTH="45" HEIGHT="5" BORDER="0" ALT="" ></TD>
            <TD VALIGN="middle" COLSPAN="3"><IMG <
%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request, "space.gif")%> width="20" height="5"
ALT="" ></TD>
          </TR>
          <TR>
            <TD COLSPAN="2"><IMG <
%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request, "space.gif")%> WIDTH="45" HEIGHT="12"
BORDER="0" ALT="" ></TD>
            <!-- Name of parameter -->
            <TD VALIGN="MIDDLE" class="SystemDataText"><
%=targetFormParameter.getParameterName()%>:</TD>
            <TD VALIGN="MIDDLE" COLSPAN="2">
              <%
                int type = targetFormParameter.getParameterType();
                if (type == targetFormParameter.TEXT_EDIT) {%>
                  <INPUT TYPE="text" CLASS="Inputfield"
onchange="onParamChange()" NAME="<%=targetFormParameter.getParameterFieldName()
%>" VALUE="<%=targetFormParameter.getParameterValue()%>" SIZE="30"><%
                }

                if (type == targetFormParameter.DROPDOWN_LIST) {
                  targetFormParameter.resetParameterPickList();
                }
              }
            </TD>
          </TR>
        }
      }
    }
  <%>

```

```

        <SELECT class=" DataFrameDrop" NAME=" <
%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%>" onchange=" onParamChange()" ><%
        if (!targetFormParameter.isRequiredParameterCond()) {%>
        <OPTION VALUE=" " ></OPTION><%
        }
        while (targetFormParameter.processParameterPickListLoop()) {%>

        <OPTION VALUE=" <%=targetFormParameter.getPickListParameterValue()%>" <
%=targetFormParameter.getParameterPickListValueSelected( "select" )%>> <
%=targetFormParameter.getHTMLEscapedCurrentPickListParameterValue()%> </OPTION> <%
        }%>

        </SELECT><%
    }

        if (type == targetFormParameter.LIST_BOX) {

targetFormParameter.resetParameterPickList();
            if (targetFormParameter.isParameterMultiValuesCond()) {%>
                    <SELECT class=" DataFrameDrop" NAME=" <
%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%>" onchange=" onParamChange()"
multiple size=" 5" ><%
                    } else {%>

                            <SELECT class=" DataFrameDrop" NAME=" <
%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%>" onchange=" onParamChange()" size
= "5" ><%
                            }
                    if (!targetFormParameter.isRequiredParameterCond()) {%>

                            <OPTION VALUE=" " ></OPTION><%
                    }

                    while (targetFormParameter.processParameterPickListLoop()) {%>
                            <OPTION VALUE=" <%=targetFormParameter.getPickListParameterValue()%>" <
%=targetFormParameter.getParameterPickListValueSelected( "select" )%>> <
%=targetFormParameter.getHTMLEscapedCurrentPickListParameterValue()%> </OPTION><%
                            }%>

                            </SELECT><%
                    }

                    if (type == targetFormParameter.RADIO_BUTTONS) {
targetFormParameter.resetParameterPickList();
                        if (!targetFormParameter.isRequiredParameterCond())
{ %>
                                <input type=" Radio" class=" RadioButton"
onchange=" onParamChange()" name=" <%=targetFormParameter.getParameterFieldName()
%>" value=" " checked><span class=" RadioButtonText" >No Selection Made</span><br><%
                                }
                                while (targetFormParameter.processParameterPickListLoop()) {%>

                                        <input type=" Radio" class=" RadioButton" onchange=" onParamChange()"
name=" <%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%>" value=" <
%=targetFormParameter.getPickListParameterValue()%>" <

```

```

%=targetFormParameter.getParameterPickListValueSelected( "check" )%>><span
class=" RadioButtonText" ><%=targetFormParameter.getPickListParameterValue()%></
span><br><%

    }
}
%>

        <TD VALIGN=" TOP" COLSPAN=" 2" ></TR><%
}

    if (targetFormParameter.isParameterHiddenCond()) {%>
        <INPUT TYPE=" hidden" NAME=" <
%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%>" VALUE=" <
%=targetFormParameter.getParameterValue()%>" ><%
    }
}
}
%>

<TR>
    <TD COLSPAN=" 4" ><IMG <%=imgLocator.getSrcAltAttribute(request,
"space.gif" )%> WIDTH=" 45" HEIGHT=" 12" BORDER=" 0" ALT=" " ></TD>
</TR>
</TABLE>

```

すべてのフォーム・パラメータ API は Java ビーンズから直接アクセスします。たとえば、

```
targetFormParameter.getParameterName()
```

Java スクリプトレット・タグを使用してタグ内の Java コード・ブロックを実行します。たとえば、

```
<% String start=" abc" ;%>
```

HTML に埋め込まれた JSP 式を使用して実行時に変数を解決します。たとえば、

```

<HTML>
<BODY>
The start of the alphabet is <%=start%>
</BODY>
</HTML>

```

パラメータ・フォーム情報は、パラメータ・フォーム API を介してアクセスすることもできます。この例は、パラメータ名の現在の値を解決して名前を次の形で表示します。

```
<%=targetFormParameter.getParameterValue()%>
```

パラメータ・フォーム: 例とヒント

次のコードは、パラメータ選択リストを処理するためのタグの使い方を示します。

```

<!-- Parameter Pick List example -->
<%

```

```

if (targetForm.setParameterInputCond("1")) {%>
  <SELECT NAME="<%=targetFormParameter.getParameterFieldName()%">"><%
  targetFormParameter.restParameterPickList();
  while(targetFormParameter.processParameterPickListLoop() {%>
    <OPTION VALUE="<%=targetFormParameter.getParameterPickListValue()%">" <
    %=targetFormParameter.getParameterPickListValueSelected("select")%"><
    %=targetFormParameter.getParameterPickListValue()%">
    </OPTION>
  }%>
  </SELECT><%
}
%>

```

カスタム・フォームは JSP をインポートすることができ、さらにモジュール化できます。たとえば、標準フォームの例は jsp インクルード・タグを含みます。

<jsp:include>タグは標準 JSP タグです。

```

<jsp:include page="/jsp/shared/form/parameterFormJavaScript.jsp" flush="true" />

```

前述の例は、標準フォームで parameterFormJavaScript.jsp ファイルがインポートおよび実行される原因となります。イメージなどのコンテキストを含むカスタム・フォームは、必要なファイル・セクションで定義する必要があります。

この章の内容

注釈の表示.....	538
注釈の作成.....	538
注釈要約の表示.....	539
注釈詳細の表示.....	539
注釈の検索.....	540
注釈権限の設定.....	541
注釈への返答.....	542
注釈の削除.....	542
注釈の印刷のプリファレンスの設定.....	543

Financial Reporting レポートで使用される注釈サービスは、特定のドキュメントとデータについて共有できる情報を取得するためのコラボレーション・ツールを提供します。簡単なメモから完全なスレッド化されたディスカッションに至るまで広範な柔軟性を備え、コラボレーション、コンプライアンス・レポートの作成およびビジネス・プロセスの分析のための基盤を築きます。許可されたユーザーは、注釈の作成や除去および注釈への応答が可能です。注釈はレポート・オブジェクト(グリッド・オブジェクト、テキスト・オブジェクト、チャート・オブジェクトおよびイメージ・オブジェクト)に添付したり、全部または一部の POV を参照したりできます。ブックとスナップショット・ブックでは、レポートに含まれる注釈を選択して表示できます。

注： 注釈は、レポートのヘッダーまたはフッターのオブジェクトには適用できません。

注： スナップショット・レポート内の注釈(目のアイコンで示される)およびスナップショット・ブックやバッチ内の注釈は、読取り専用です。

1つの注釈に複数の添付ファイルを使用したり、URL の参照を使用したりできます。アイコンの上にマウス・ポインタを置くと、添付ファイルのタイトルが表示されます。複数の添付ファイルが存在する場合は、添付ファイルのリストが表示されます。

注釈の要素は次のとおりです。

- 注釈ヘッダー - 件名、作成日、作成者、カテゴリなどの注釈の概要。注釈ごとに1つの要約ヘッダーがあります。

- 本文 - フォント・サイズ、フォント・タイプ、太字、斜体、下線、色、左揃え、右揃え、中央揃え、両端揃え、インデント、ぶら下げインデントが設定された箇条書きなどを適用するようにフォーマットできます。

注釈の作成者は、アクセス・コントロールと権限のオプションをグループやユーザーに適用できます。

注釈は、単一値、行や列または行や列の範囲に追加できます。

注釈を含むレポートを削除するときに、警告アイコンが表示されます。

デザイナーは、テキスト・セルやテキスト・オブジェクトをレポートに追加したり、グリッド内の特定の注釈または注釈要素を参照する注釈機能を適用したりできます。この操作は、Financial Reporting Studio を使用して行います。詳細は、『Oracle Hyperion Financial Reporting Studio ユーザー・ガイド』を参照してください。

注釈マネージャでは、管理者は環境全体の注釈の検索と注釈へのアクセス、注釈に関連付けられたコンテキストの変更、メタデータなどのプロパティの変更、システムからの注釈の除去を行えます。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace 管理者ガイド』を参照してください。

注釈の表示

注釈の表示および非表示には「表示」メニューを使用します。注釈を表示するには、「表示」 > 「注釈の表示」を選択します。注釈を非表示にするには「表示」 > 「注釈の非表示」を選択します。

注釈の作成

注釈は、レポート・オブジェクト、グリッド・オブジェクト、テキスト・オブジェクト、チャート・オブジェクト、およびイメージ・オブジェクトに添付でき、全 POV または部分 POV を参照できます。新規注釈は「新規注釈」ダイアログ・ボックスで作成します。「新規注釈」データベースの3つのタブで注釈を定義できます。

- 注釈タブ - タイトル、説明、および事前定義カテゴリを取りこみます。
- コンテキスト・タブ - オブジェクトおよび次元情報を取りこみます。オブジェクト情報としては、データソースまたはレポート上の任意のオブジェクトが可能です。たとえば、
 - データ・ソース - 注釈は、指定データ・ソースを使用して任意の Financial Reporting レポートに添付されます。
 - グリッド:データ・ソース - 注釈は、指定グリッドおよびデータ・ソースに添付されます。
 - テキスト、チャート、またはグリッド - 注釈は、オブジェクトに次元がない指定オブジェクトに添付されます。
- 添付ファイル・タブ - 注釈のリンク添付ファイル。注釈としては、ローカル・ドライブ上のファイル、リポジトリ内の任意のオブジェクト、または URL が可能です。

- ▶ 注釈を作成するには、次の手順に従います
1. 任意のレポート・オブジェクトを右クリックして「新規注釈」を選択します。新規注釈ダイアログ・ボックスが表示されます。
 2. 注釈タブで、タイトルと説明を入力してカテゴリを選択します。
 3. コンテキストタブでオブジェクトを選択し、適用可能ならば除外する任意の次元を選択解除します。

注： 次元のメンバーを選択するには、次元名をクリックします。

4. 「添付ファイル」タブで、ファイルをクリックしてコンピュータ上にあるドキュメントを添付するか、レポートをクリックしてリポジトリからドキュメントを添付するか、URL をクリックしてウェブ・サイトへのリンクを選択します。
5. 「OK」をクリックします。レポートに注釈アイコンが表示されます。

注釈要約の表示

初期要約注釈テキストは、注釈アイコンを右クリックして「バブル」内に表示できます。バブル内では、アイコンをクリックして添付、注釈の返答、または適用可能ならば注釈の詳細を表示できます。

注釈詳細の表示

返答および添付ファイルを含む詳細注釈は、注釈リスト・パネルに表示できます。各注釈には次の情報が表示されます。

- ステータス - 表示権のみを示す目アイコン、この注釈はすでにリポジトリ内のオブジェクトに関連していなことを示す感嘆符アイコン、またはこの注釈は表示して返答できることを示す空白を表示します。
- タイトル - 注釈タイトル
- 作成者 - 注釈の作成者
- 説明 - 注釈の説明
- 転記済 - 注釈の作成日
- ソース - レポートで使用しているデータベース
- コンテキスト - 注釈に関連するオブジェクト。オブジェクトがグリッドの場合、次元とメンバーが表示されます。オブジェクトがイメージ、テキスト、またはチャートの場合、レポートのパスとオブジェクト ID が表示されます。
- カテゴリ - 注釈の種類を記述する事前定義カテゴリ。カテゴリとしては、コメント、アセスメント、FYI、Misc(その他)、その他、パフォーマンス、またはターゲットがあります。

注釈詳細を表示するには、注釈を含むレポートで次のいずれかを行います。

- 注釈アイコンをクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。

- 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、「表示」パネルに移動してクリックします。

注釈の検索

「検索」オプションは指定した条件に基づいて注釈のリストを戻します。

- ▶ 注釈を検索するには、次の手順に従います。
 1. EPM Workspace から画面の下にある注釈パネルを拡大します。
 2. 「検索」ドロップダウンから検索メソッドを選択します。
 - すべて - タイトル、作成者、カテゴリ、説明、またはコンテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - タイトル - タイトル内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - 作成者 - 作成者内のテキストをベースにした検索。
 - カテゴリ - カテゴリの検索。ドロップダウン・リストをクリックしてカテゴリを選択します。
 - 説明 - 説明内のテキストをベースにした検索。大文字小文字を区別しないテキスト、後端アスタリスク、およびワイルドカード文字列を使用できます。
 - コンテキスト - コンテキストの検索。検索には、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、データ・ソース、要素名、およびオプションで、要素値に基づいて検索を定義できます。540 ページの「[コンテキスト検索](#)」を参照してください。
 - 詳細検索 - 検索には、「詳細検索」ダイアログ・ボックスが表示されます。ここでは、タイトル、作成者、説明、転記済日付範囲、カテゴリまたはコンテキストの組合せに基づいた検索を定義できます。541 ページの「[詳細検索](#)」を参照してください。
 3. 注釈のコンテンツを表示するには注釈をクリックします。

コンテキスト検索

検索は、データ・ソース、要素名、および要素値をベースに絞りこむことができます。

- ▶ コンテキスト検索で検索を定義するには、次の手順に従います。
 1. データ・ソースドロップダウンで、データ・ソースを選択します。

注： 既存の注釈に対してデータ・システムが表示されます。注釈がレポート・オブジェクトに設定されているとき fr データ・ソースが表示され

ます。fr にデータ・ソースが続くときは、特定のレポートのデータ・ソースに設定されている注釈を示します。

2. 要素名ドロップダウンで、要素を選択します。

注： 選択した要素はリストから除去され、再選択できません。

3. 要素値で、その値を指定します。複数の値を指定するには、カンマ(,)で各値を分けます。

注： 複数の値の1つのみが満たされている必要があります。

4. さらに検索条件を追加するには、手順2と3を繰り返します。

注： 複数の要素名を指定する場合、各要素名の値が満たされている必要があります。

詳細検索

条件の組合せをベースに検索を絞り込むことができます。

▶ 詳細検索を使用するには、次の手順に従います。

1. 検索ドロップダウンから詳細検索を選択します。
2. 詳細検索 ダイアログ・ボックスに検索条件を入力します。
 - タイトル - 注釈タイトル。
 - 作成者 - 注釈作成者。
 - 説明 - 注釈説明。
 - 転記済日付範囲 - 注釈の開始日と終了日。「開始」および「終了」ドロップダウンでカレンダー検索選択ができます。
 - カテゴリ - 注釈に関連するトピックまたは件名。「カテゴリ」ドロップダウンからカテゴリを選択します。
 - コンテキスト - 「コンテキスト検索」を使用して、データ・ソース、要素名および要素値を選択します。「検索」アイコンをクリックして、「コンテキスト検索」ダイアログ・ボックスを表示します。540 ページの「コンテキスト検索」を参照してください。

注釈権限の設定

注釈の作成者は、選択したユーザー、グループ、または役割にアクセス・コントロールおよび権限を設定できます。アクセス・コントロールは、トップ・レベルの注釈(ルート)および以降のすべての返答に適用されます。権限オプションは、ユーザーの注釈に対するアクセスの種類を定義します。アクセスを持つ注釈の表示を整理してコントロールできます。

次の権限オプションがあります。

- アクセスなし - ユーザーは注釈を表示できません。

- ビュー - ユーザーはすべての注釈を表示できますが、注釈の作成および返答はできません。
 - 変更 - ユーザーは注釈の作成および返答はできますが、削除はできません。
 - フル・コントロール - ユーザーは、リポジトリ・オブジェクトの作成、返答、および関連する管理機能を行うことができます。
- ▶ 注釈の権限を設定するには、次の手順を行います。
1. 注釈をクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。
 2. 注釈リスト・パネルで注釈アクセス権の設定を行う注釈を強調表示し、「権限」アイコンをクリックします。
 3. 「権限」ダイアログ・ボックスで、権限を適用するユーザー、グループまたは役割を強調表示して、右向き矢印をクリックし、「選択したユーザー、グループ、役割」パネルに移動します。
 4. 「アクセス」ドロップ・ダウンから権限を選択して OK をクリックします。

注釈への返答

「変更」または「フル・コントロール」権限を持つユーザーは、Financial Reporting レポートの注釈バブルまたは注釈リスト・パネルから注釈に返答できます。返答時、カテゴリの変更および EPM Workspace ドキュメント、コンピュータ上のローカル・ドキュメント、または URL などの添付ファイルの追加ができます。

注： 注釈に返答するとき、「注釈」タブおよび「添付ファイル」タブが使用可能です。

- ▶ 注釈に返答するには、次の手順に従います。
1. 注釈を含むレポートで次のいずれかを行います。
 - 「注釈」をクリックし、「返答」アイコンをクリックして注釈に返答します。
 - 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、パネルの表示へ移動してクリックします。次に「返答」アイコンをクリックして注釈に返答します。
 2. OK をクリックします。

注釈の削除

注釈作成者であるかフル・コントロール権限を持つ場合、注釈を削除できます。

- ▶ 注釈を削除するには、次の手順に従います。
1. 注釈を含むレポートで次のいずれかを行います。
 - 注釈アイコンをクリックし、「詳細の表示」アイコンをクリックして注釈リスト・パネルに注釈を表示します。

- 画面の下の注釈リスト・パネルを探し、「表示」パネルに移動してクリックします。
2. 削除する注釈を強調表示して「削除」アイコンをクリックします。

注釈の印刷のプリファレンスの設定

注釈またはその要素はレポートと共に印刷できます。「プリファレンス」オプションを使用して注釈の印刷方法を指定します。[77 ページの「注釈印刷プリファレンスの設定」](#)を参照してください。

A

アクセシビリティ

この付録の内容

EPM Workspace のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする	545
EPM Workspace UI での[Tab]キーの使用法	546
グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用.....	547
全般 UI 要素のアクセシビリティ動作	550
非標準コントロールのアクセシビリティ動作	551
EPM Workspace ページのアクセシビリティ	556
EPM Workspace の「テンプレート・セレクタ」ダイアログのアクセシビリティ	557
Financial Reporting のアクセシビリティ	557
Foundation Services のアクセシビリティ	558
Interactive Reporting のアクセシビリティ	559
オンライン・ヘルプのアクセシビリティ.....	560

注： この付録では、EPM Workspace のアクセシビリティと互換性について説明します。この製品の推奨スクリーン・リーダーと拡大鏡については、『Oracle Hyperion Reporting and Analysis Readme』を参照してください。

EPM Workspace のスクリーン・リーダー・サポートを使用可能にする

EPM Workspace の「スクリーン・リーダー・サポート」プリファレンスを使用可能にすると、スクリーン・リーダーおよび拡大鏡で EPM Workspace にアクセスして使用できます。セッション中にこの設定を変更した場合、ブラウザを再起動して変更を使用可能にする必要があります。

Interactive Reporting では、JAWS を使用するために追加スクリプトをインストールする必要があります。JAWS スクリプトを「ツール」、「インストール」、「JAWS スクリプト」の順に選択してインストールします。「JAWS スクリプト」オプションは、EPM Workspace で BQY ファイルを開いている場合にのみ使用できます。

注： 「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」オプションは、インターネット・エクスペローラ 6 および 7 を使用するとき EPM Workspace ユーザー・プリファレンスの「全般」タブに表示されます。

- ▶ アクセシビリティを使用可能にするには、次の手順に従います。
- 1 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。
- 2 「アクセス・モード」から「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」を選択します。
- 3 「OK」をクリックします。

注： EPM Workspace のキーボード・ナビゲーションは、アクセシビリティ機能が使用可能になっているときにのみ使用できます。スクリーン・リーダー設定がアクティブでないときは、キーボード・ナビゲーションを使用不可にできます。キーボード・ナビゲーションを使用不可にするには、構成と監視コンソール(CMC)の動的サービスのプロパティでパラメータ `DISABLE_KEYBOARD_NAV_IN_NON_508_MODE=true` を Hyperion Interactive Reporting Service (BI)に追加します。詳細は、『Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition 管理者ガイド』を参照してください。

高コントラスト・モードの設定

高コントラスト・カラー・モードはアクセシビリティ・モードを提供するために使用できます。このオプションは、スクリーン・リーダーがサポートされているプラットフォームでのみサポートしています。

- ▶ 高コントラスト・モードを設定するには、次の手順に従います。
- 1 次のいずれかのアクションを行います。
 - 「ファイル」を選択して「プリファレンス」を選択します。「アクセス・モード」から「テーマの選択」メニューから高コントラストを選択します。
 - 高コントラスト・モードと通常モードの切替えには、ショートカット・キーも使用できます。[Ctrl]を押しながら[Shift]と[H]を押すと、テーマが切り替わり、EPM Workspace の再起動または作業の続行を尋ねるプロンプトが表示されます。テーマの変更を確認するには、EPM Workspace を再起動する必要があります。作業を続行した場合は、次のログオン時にテーマの変更が有効になります。
- 2 「OK」をクリックします。

EPM Workspace UI での[Tab]キーの使用法

EPM Workspace UI のデフォルトのタブ順序は、左から右、上から下に移動します。コンポーネント順序は、ツールバー、検索コントロール、ビュー・ペイン、コンテンツ領域、コンテンツ領域(下)タブ・バーです。タブ順序は両方向にループするので、最後のアイテムでタブ移動すると最初のアイテムに戻り、最初のアイテムから逆にタブ移動すると最後のアイテムに移動します。次の要素は、タブ順序に含まれません:

- ナビゲート・メニュー

- メイン・メニュー・バー(メイン・メニュー・アイテムのアクセスにはショートカット・キーを使用する)
- 「Welcome <username>」メッセージと付属のログオフ・テキスト・リンク(代わりにツールバーのログオフまたは終了アイコンあるいは「ファイル」メニューのアイテムを使用する)

グローバル・ナビゲーション・ショートカットの使用

EPM Workspace は、全般的なナビゲーション用のキーボード・ショートカットを提供します。

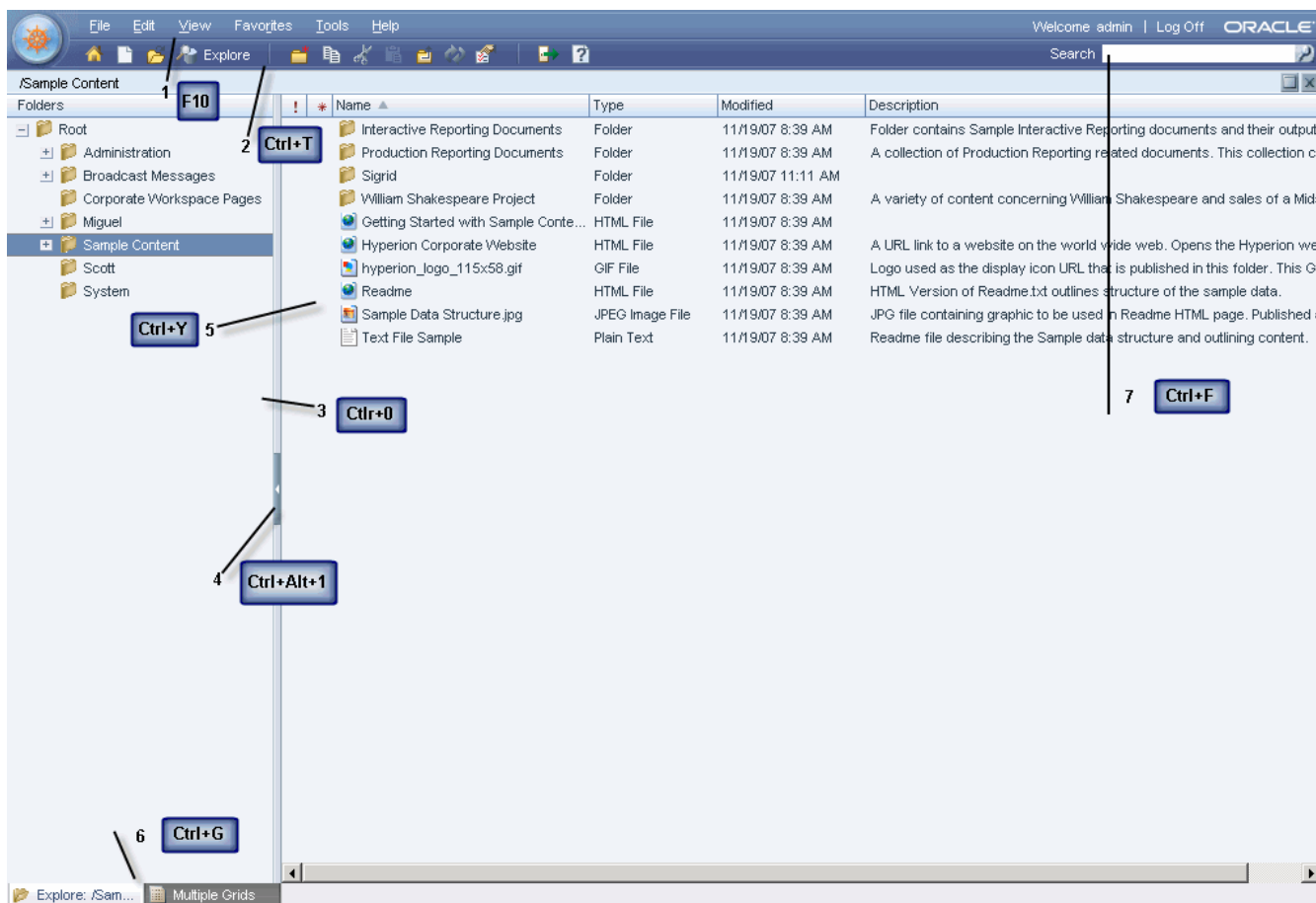
表 140 グローバル・ナビゲーション・ショートカット

キー	アクション
[F10]	メニュー・バーの最初のメニューにフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[0]	現在のビュー・ペインをフォーカスします(ビュー・ペインは自身をフォーカスできないため、これは最初の有効な子をタブ順でフォーカスします)。ビュー・ペインがない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[1]、 [2]...[9]	[Ctrl]を押しながら[0]を押す場合と同じですが、1番目、2番目の順に9番目までのビュー・ペインを選択し、フォーカスをその最初のフォーカス可能な子に移動します。
[Ctrl]+[B]	注釈領域のコントロールをフォーカスします(Financial Reporting のみ。 555 ページの「ファイル・アキュミュレータのアクセシビリティ」 を参照)。
[Ctrl]+[G]	EPM Workspace の下部のコンテンツ・タブ・バー(開いているモジュールをリストする)をフォーカスします。フォーカスは現在のモジュール・タブに移動します。複数のドキュメントが開いている場合は、現在のモジュール・タブが強調表示されます。タブが開いていない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[F]	「検索」フィールドをフォーカスします。
[Ctrl]+[T]	標準ツールバーをフォーカスします。個々のボタンを選択するには[Tab]キーを使用します。
[Ctrl]+[Y]	コンテンツ領域をフォーカスします。アクティブ・ドキュメントのコンテンツ領域のタブ順で最初の有効な子にフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[F4]	現在のアクティブなモジュール(ドキュメント、タスクまたはファイル)を閉じます。何も開いていない場合、何も行われません。
[Ctrl]+[Shift]+[H]	選択したテーマを切り替えて、ユーザー・インタフェース(UI)のカラー・スキームを変更します。
[Ctrl]+[F6]	フレームのコンテンツ領域に移動し、フォーカス可能な最初の要素(存在する場合)をフォーカスします。

キー	アクション
[Ctrl]+ [Shift]+ [F6]	フォーカスをフレームのコンテンツ領域からフレーム自体に戻します。[Ctrl]を押しながら[F6]を押してすぐには iframe に戻れませんが、[Tab]を使用して iframe の外にある他のコントロールに移動できます。[Ctrl]を押しながら[Shift]と[F6]を押した後に iframe に戻るには、[Tab]を押して別のコントロールに移動して、次に[Shift]を押しながら[Tab]を押してフォーカスを iframe に戻し、[Ctrl]を押しながら[F6]を押して iframe に移動します。
矢印 キー ([←]/ [→]/ [↓]/ [↑])	エクスプローラ・モジュール内を移動して、グリッドまたはツリー・ビューで他のセルと行にアクセスする組み込み方法。
[Ctrl]+ [L]	「リンク・リスト」ウィンドウ内の選択可能なナビゲーション・ターゲットのリストを表示します： <ul style="list-style-type: none"> ● ビュー・ペインに移動 ● コンテンツ領域に移動 ● 注釈領域に移動 ● タブ・バーに移動 ● ツールバーに移動

EPM Workspace の図とコールアウト

次の図は、キーボード・ショートカットを使用してエクスプローラを移動する方法を示します。他の EPM Workspace モードでも同じショートカットを使用します。



EPM Workspace ユーザー・インタフェースには次の領域が含まれます。

1. メニュー・バー([F10]) - タスクおよびモジュールを整理したコマンドおよびサブコマンド。
2. 標準ツールバー([Ctrl]+[T]) - タスクを実行するボタン。
3. ビュー・ペイン([Ctrl]+[0]) - ゼロ個以上のパネル間をジャンプできるボタンがある領域。各パネルには特定の使用方法とそれに対応するコントロールがあります。
4. ビュー・ペインおよびコンテンツ領域アジャスタ([Ctrl]+[Alt]+[1]) - ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズを調節する設定。ビュー・ペインを非表示にすると、EPM Workspace を使用するためのコンテンツ・フレームが大きくなります。「表示」、「ビュー・ペイン」の順に選択して、ビュー・ペインを表示または非表示にします。
5. コンテンツ領域([Ctrl]+[Y]) - アクティブなモジュール・ドキュメント、タスクまたはファイルを表示する領域。
6. コンテンツ・タブ・バー([Ctrl]+[G]) - 現在のモジュール固有の情報バー。複数のドキュメントが開いている場合、現在のドキュメント・タブが強調表示されます。
7. 「検索」フィールド([Ctrl]+[F]) - リポジトリ内を検索するためのテキストを入力する場所。

全般 UI 要素のアクセシビリティ動作

次に、個々のユーザー・インタフェース(UI)要素で処理される固有のキーストロークと、UI 要素をフォーカスしたときのスクリーン・リーダーの予期される動作を示します:

表 141 ユーザー・インタフェース要素タイプ

UI 要素	キー・イベント
ボタン	[Enter]キーまたは[Space]キーを押すと、ボタンがアクティブになり、左クリックと同じアクションを起こします。
コンボ・ボックス	<ol style="list-style-type: none">[↑]または[↓]キーでは、ポップアップ・メニューを表示し、コンボ・ボックス値を選択できます。[Space]または[Enter]では、ポップアップからコンボ・ボックス・アイテムを選択します。編集可能な場合、英数字キーで編集します。
ダイアログ	<ol style="list-style-type: none">ダイアログ・ボックスに承認ボタンが定義されている場合、[Enter]キーを押すとアクティブになります。ダイアログ・ボックスはモーダルで、他のすべてのキーボード・イベントをブロックします。
コンテンツ領域 (IFrame)	<ol style="list-style-type: none">[Ctrl]を押しながら[F6]を押してフレームに移動します。フォーカス可能な最初のアイテムを選択するには、[Tab]を押す必要がある場合があります。 注: フレームにテキストまたは HTML が含まれており、フォーカス可能なアイテムがない場合に、テキストを読み取るには、JAWS で仮想 PC カーソル・オプションを使用する必要があります。[Insert]を押しながら[Z]を押して仮想 PC カーソルを切り替え、[↑]または[↓]を使用して前後の行に移動します。IFrame を終了する前に、仮想 PC カーソルをオフにします。[Ctrl]を押しながら[Shift]と[F6]を押すと、フォーカスがフレームのコンテンツ領域からフレーム自体に戻ります。
リスト	<ol style="list-style-type: none">[↑]または[↓]キーでは、リスト要素で選択フォーカスを上または下に移動します。選択は、継続的に更新されます。矢印キーを押すと選択イベントが発生します。[Ctrl]を押しながら[↑]または[↓]キー: アイテムのフォーカスが現在の選択を変更せずに上または下に移動します。[Space]を使用してフォーカスしているアイテムを選択に追加できます。[Shift]を押しながら[↑]または[↓]キー: アイテムのフォーカスが上または下に移動し、新たにフォーカスしたアイテムが選択に追加されます。 注: リストが 1 つの選択のみサポートする場合、[Ctrl]および[Shift]キー修飾子は無効です。
タブ・バー	[←][→]キーはフォーカスを移動し、直ちに新しいタブを選択します。選択のフォーカスはタブ・バーの端からラップします。
テキスト・フィールド	<ol style="list-style-type: none">編集可能な場合、英数字キーで編集します。[Tab]は、タブ順に移動します。タブは、テキスト・フィールドの文字として入力できません。

UI 要素	キー・イベント
ツリー	[←][→]キーは、子があれば現在のノードを縮小または拡大します。子がなければ、何も起きません。拡大は、非再帰的です。ただし、ツリーが任意のサブノードの以前の拡大状態を記憶できる場合、そうします。

非標準コントロールのアクセシビリティ動作

次に、非標準コントロールのアクセシビリティ動作を説明します。

- 551 ページの「コンテンツ・タブ・バー」
- 551 ページの「「ファイル・タイプ」ドロップダウンのアクセシビリティ」
- 552 ページの「サイドバー・アイコン・リストのアクセシビリティ(ファイル・プリファレンス/プロパティ)」
- 552 ページの「「列の表示」ダイアログのアクセシビリティ」
- 553 ページの「「お気に入りマネージャ」ダイアログのアクセシビリティ」
- 553 ページの「エクスプローラのアクセシビリティ」
- 554 ページの「「ファイル」ダイアログのアクセシビリティ」
- 555 ページの「ファイル・アキュミュレータのアクセシビリティ」

コンテンツ・タブ・バー

コンテンツ・タブ・バーをフォーカスすると、選択のフォーカスは現在のタブに移動します(該当する場合)。

表 142 コンテンツ・タブ・バー - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
コンテンツ・タブ・バー	
[→]/[↑]	任意のドキュメントのコンテンツ・タブで、右側の次のタブの選択に使用します。選択はラップします。
[←]/[↓]	任意のドキュメントのコンテンツ・タブで、左側の次のタブの選択に使用します。選択はラップします。

「ファイル・タイプ」ドロップダウンのアクセシビリティ

「ファイル・タイプ」ドロップダウンでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 143 「ファイル・タイプ」ドロップダウン - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[↓]	メニューを表示します。

キー	アクション
[↑]または[↓]	選択を変更します。
[Enter]	選択します。

サイドバー・アイコン・リストのアクセシビリティ (ファイル・プリファレンス/プロパティ)

サイドバー・アイコン・リストでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 144 サイドバー・アイコン・リスト - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[Tab]/[Shift]+[Tab]	リスト内のアイテムを上または下にナビゲートします。
[Space]	リスト内のフォーカスしたアイテムを選択します。

「列の表示」ダイアログのアクセシビリティ

「列の表示」ダイアログでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 145 「列の表示」ダイアログ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
グリッド	
[↑]/[↓]	選択を変更します。
[Space]	チェック・ボックスを選択/選択解除します。選択を解除すると、エクスプローラ・リストのその列が非表示になります。
リスト内のアイテムの順序を変更するためアイテムを上または下に移動する矢印のイメージ	
[↑]/[↓]	移動するアイテムを選択します。
[Tab]で上/下矢印のイメージの間を移動します。	アイテムを上または下に移動します。
[Space]	アイテムの上または下への移動をアクティブにします。

「お気に入りマネージャ」ダイアログのアクセシビリティ

「お気に入りマネージャ」ダイアログでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 146 「お気に入りマネージャ」ダイアログ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
グリッド	
[↑]/[↓]/[←]/[→]	現在のセルの選択を変更します。
[Space]	セルを選択または選択解除します。

エクスプローラのアクセシビリティ

エクスプローラ/サブヘッダでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 147 エクスプローラ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
エクスプローラ・ツリー	
[↓]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの下のノードを選択します。選択はラップしません。
[↑]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの上のノードを選択します。選択はラップしません。
[Page Up]	フォーカスがノードにある場合、前のページの最後の表示可能なノードに移動します。前のページがない場合は、現在のページの最初のノードに移動します。
[Page Down]	フォーカスがノードにある場合、次のページの最初の表示可能なノードに移動します。次のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。
[→]	フォーカスが「+」アイコンのあるフォルダ・ノードにある場合、ノードを展開します。
[←]	フォーカスが「+」アイコンのあるフォルダ・ノードにある場合、次の展開されたフォルダに上がります。
[→]	フォーカスが[-]アイコンのあるフォルダ・ノードにある場合、次のフォルダに移動します。
[←]	フォーカスが[-]アイコンのあるフォルダ・ノードにある場合、ノードを縮小します。
エクスプローラ・リスト	
[↓]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの下のノードを選択します。選択はラップしません。

キー	アクション
[↑]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの上のノードを選択します。選択はラップしません。
[Page Up]	フォーカスがノードにある場合、前のページの最後の表示可能なノードに移動します。前のページがない場合は、現在のページの最初のノードに移動します。
[Page Down]	フォーカスがノードにある場合、次のページの表示可能な最初のノードに移動します。次のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。
[Ctrl]+[↑]/ [↓]	フォーカスがノードにある場合、選択を失うことなく移動できます。
[Ctrl]+[Space]	フォーカスがノードにある場合、現在フォーカスしているアイテムを選択または選択解除します。
[Ctrl]+[A]	フォーカスがノードにある場合、すべてのノードを選択します。
[Shift]+[↑]/ [↓]	フォーカスがノードにある場合、アイテムの連続したリストを選択または選択解除します。
[Enter]キー	フォーカスがフォルダ・ノードにある場合、フォルダにドリル・インします。
[Enter]キー	フォーカスがフォルダ・ノード以外のノードにある場合、アイテムを起動します。

「ファイル」ダイアログのアクセシビリティ

「ファイル」ダイアログでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 148 「ファイル」ダイアログ-アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[↓]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの下ノードを選択します。選択はラップしません。
[↑]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの上ノードを選択します。選択はラップしません。
[Page Up]	フォーカスがノードにある場合、前のページの表示可能な最後のノードに移動します。前のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。
[Page Down]	フォーカスがノードにある場合、次のページの表示可能な最初のノードに移動します。次のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。
[←]	フォーカスがノードにある場合、フォルダ・ノード(現在のノードの親)にドリル・アップします。フォーカスがすでにルート・ノードにある場合、何も行われません。
[→]	フォーカスがフォルダ・ノードにある場合、フォルダ内にドリル・ダウンし、コンテンツを表示します。
[Enter]キー	フォーカスがフォルダ・ノード以外のノードにある場合、アイテムを選択します。

ファイル・アキュミュレータのアクセシビリティ

ファイル・アキュミュレータでは、次のキーボード・ショートカットがサポートされています:

表 149 ファイル・アキュミュレータ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
選択したリストに追加するアイテムを左側に表示	
[↓]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの下のノードを選択します。選択はラップしません。
[↑]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの上のノードを選択します。選択はラップしません。
[Page Up]	フォーカスがノードにある場合、前のページの表示可能な最後のノードに移動します。前のページがない場合は、現在のページの最初のノードに移動します。
[Page Down]	フォーカスがノードにある場合、次のページの表示可能な最初のノードに移動します。次のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。
[←]	フォーカスがノードにある場合、フォルダ・ノード(現在のノードの親)にドリル・アップします。フォーカスがすでにルート・ノードにある場合、何も行われません。
[Ctrl]+[↑]/[↓]	フォーカスがノードにある場合、選択を失うことなく移動できます。
[Ctrl]+[Space]	フォーカスがノードにある場合、現在フォーカスしているアイテムを選択または選択解除します。
[Shift]+[↑]/[↓]	フォーカスがノードにある場合、アイテムの連続したリストを選択または選択解除します。
[Ctrl]+[A]	フォーカスがノードにある場合、すべてのノードを選択します。
[→]	フォーカスがフォルダ・ノードにある場合、フォルダ内にドリル・ダウンし、コンテンツを表示します。
[→]	フォーカスがフォルダ・ノード以外のノードにある場合、選択したリストにアイテムを追加します。
選択したリストのアイテムを右側のリストに表示	
[↓]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの下のノードを選択します。選択はラップしません。
[↑]	フォーカスがノードにある場合、現在のノードの上のノードを選択します。選択はラップしません。
[Page Up]	フォーカスがノードにある場合、前のページの表示可能な最後のノードに移動します。前のページがない場合は、現在のページの最初のノードに移動します。
[Page Down]	フォーカスがノードにある場合、次のページの表示可能な最初のノードに移動します。次のページがない場合は、現在のページの最後のノードに移動します。

キー	アクション
[←]	フォーカスがノードにある場合、選択したリストからアイテムを除去します。
リスト内のアイテムの順序を変更するための上/下矢印のイメージ	
[↑]/[↓]	移動するアイテムを選択します。
[Tab]で上/下矢印のイメージの間を移動します。	アイテムを上または下に移動します。
[Space]	アイテムの上または下への移動をアクティブにします。

EPM Workspace ページのアクセシビリティ

次のキーボード・ショートカットは EPM Workspace ページのコンテンツ領域でサポートしています。

表 150 Workspace ページ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
矢印キー	ワークスペース・ページのレイアウト領域間のナビゲートに使用します。 注： 矢印キーを使用してレイアウト領域を移動する場合、レイアウト領域内の内部フレームではなく、レイアウト領域上にいることを確認してください。レイアウト領域の内部フレームから出るには、[Shift]を押しながら[Tab]を押します。ホーム・ページの最近開いたページ、Workspace ページ、またはクイック・リンクのポートレットの内部フレームから出るには、[Shift]を押しながら[Tab]を2回押します。
[a]	フォーカスがレイアウト領域にある場合、このキーを押すとコンテンツ・ブラウザ内の選択コンテンツがレイアウト領域に追加されます。
[Ctrl]+[A]	フォーカスがコンテンツ・ブラウザにある場合、このキー・コンビネーションを押すと左ペインの選択したコンテンツがコンテンツとしてページに追加されます。
[r]	フォーカスがレイアウト領域にある場合、このキーを押すとレイアウト領域の除去アクションがトリガーされます。
[e]	フォーカスがレイアウト領域にある場合、編集アクションがレイアウト領域で使用可能な場合、このキーを押すとレイアウト領域の編集アクションがトリガーされます。
[l]	フォーカスがレイアウト領域にある場合、起動アクションがレイアウト領域で使用可能な場合は、このキーを押すとレイアウト領域の起動アクションがトリガーされます。
[M]	フォーカスがレイアウト領域にあり、レイアウト領域が最大化されていない場合、このキーを押すとレイアウト領域の最大化アクションがトリガーされるか、またはレイアウト領域の復元アクションがトリガーされます。最大化オプションは、レイアウト領域で使用可能になっている必要があります。

キー	アクション
[Tab]/ [Shift] +[Tab]	レイアウト領域のコンテンツ(内部フレーム)に移動または内部フレームから出て、フォーカスをレイアウト領域に戻すのに使用します。

EPM Workspace の「テンプレート・セレクト」ダイアログのアクセシビリティ

次の表に、「テンプレート・セレクト」ダイアログのキーボード・ショートカットを示します:

表 151 「テンプレート・セレクト」ダイアログ - アクセシビリティ・キー

キー	アクション
[↑]/[↓]/[←]/ [→]	1. [↑]、[↓]、[←]または[→]でナビゲートし、グループ内のアイテムを選択します。

Financial Reporting のアクセシビリティ

次の表に、Financial Reporting のキーボード・ショートカットを示します。

表 152 Financial Reporting - ショートカット・キー

キー	アクション
[Ctrl]+[F6]、 [Tab]	フォーカスがリスト全体にある場合、ブックおよびバッチでレポートを選択します。
[Enter]	レポートがリスト内で選択されている場合、レポートを表示する。

メンバーの選択

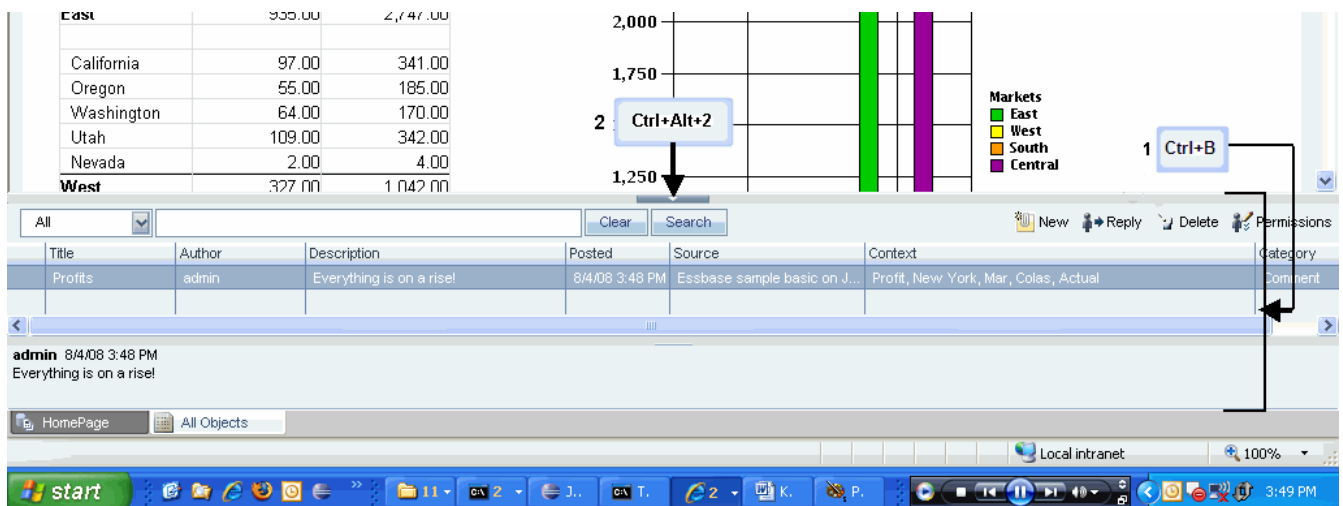
矢印キー	フォーカスがオプションにある場合、オープン・メンバーをナビゲートする。
[Enter]	フォーカスが+/-記号またはオープン/クローズ・フォルダにある場合、ツリー・ノードを開くか閉じる。

POV バー

[Tab]	フォーカスが POV バー全体にある場合、複数の次元ボタンをナビゲートする。
[Enter]	メンバー選択ダイアログ・ボックスの起動に使用します。

Financial Reporting の図とコールアウト

EPM Workspace には、Oracle Hyperion Financial Reporting, Fusion Edition レポートと注釈領域が表示されます。



1. 注釈領域([Ctrl]+[B]) - レポートに関連する注釈情報を表示する領域。
2. 注釈ペイン領域とコンテンツのアジャスタ([Ctrl]+[Alt]+[2]) - 注釈ペインとコンテンツ領域のサイズを調節する設定。注釈ペインを非表示にすると、EPM Workspace を使用するためのコンテンツ・フレームが大きくなります。「表示」、「注釈の表示」の順に選択して、注釈ペインを表示または非表示にします。

Foundation Services のアクセシビリティ

次の表に、Oracle Hyperion(R) Foundation Services のキーボード・ショートカットを示します:

表 153 Foundation Services - ショートカット・キー

キー	アクション
[Tab]	標準機能の他に、このキーはフォルダ・リストの右ペインへの移動に使用します。
[Space]	標準機能の他に、このキーは、各種「プロパティ」ダイアログ・ボックスのタブ間の切替えに使用できます。また、「権限」タブ内の「プロパティ」ダイアログ・ボックスのユーザー、グループ、役割のテーブルのアイテムのソートに使用できます。
[Ctrl] + <列番号>	このキー・コンビネーションは、「権限」タブ内の「プロパティ」ダイアログ・ボックスの「選択済」テーブル内のアイテムのソートに使用します。
[Enter]	標準機能の他に、このキーは、「インポート」ダイアログ・ボックスのタブ間の切替えに使用できます。
<列番号>	ジョブの出力コレクション内の出力をソートするには対応するテーブル列番号を押します。
キーボード・コンテキスト・メニュー・ボタン	マウス・カーソルを置いたアイテム(フォーカスされているものを除く)のコンテキスト・メニューを表示します。

Interactive Reporting のアクセシビリティ

次の表に、Interactive Reporting のキーボード・ショートカットを示します。

注： EPM Workspace の Interactive Reporting ドキュメントでは、スクリーン・リーダー・モードと非スクリーン・リーダー・モードのどちらでもキーボード・ナビゲーションがデフォルトで使用可能になりました。

表 154 Interactive Reporting - ショートカット・キー

キー	アクション
[Ctrl] + [F6]、[Tab]	Oracle Enterprise Performance Management Workspace, Fusion Edition で開いている Oracle Hyperion(R) Interactive Reporting ファイルのコンテンツ・ペイン全体にフォーカスがある場合は、これらのキーを使用してセクション内およびその要素をナビゲートします。
[Ctrl] + [Shift] + [Enter]	ツール・ヒントを表示しステータス・バーを読み出します。
Shift+F10	コンテキスト・メニューを開閉します。
矢印キー	コンテキスト・メニューをナビゲートします。
結果/テーブル・セクション	
矢印キーまたは [Tab]	個々のセルの間をナビゲートします。
[Shift]+矢印キー	フォーカスが結果/テーブル・セクションのコンテンツ・ペイン全体にある場合、スクロールに使用します。
[Ctrl] + [Alt] + 矢印キー	2 つ以上の列を選択します。
[Ctrl]+[Space]	選択に現在の列を追加/除去します。
ピボット・セクション	
矢印キーまたは [Tab]	個々のセルの間をナビゲートします。
チャート・セクション	
[Ctrl]+[Shift]	標準機能の他に、これらのキーは、2 レイヤー・ナビゲーションが可能なチャートの作業に使用できます。すべての要素はグループに分けられます(あるグループが軸ラベルを含み、もう一方のグループが円グラフ・スライスを含むなど)。ユーザーは、[Tab]を押してグループ間を移動し、[Ctrl]を押しながら[Shift]を押して特定のグループにドリル・ダウンしてタブ移動を開始できます。
レポート・セクション	
[Ctrl]+[Shift]	埋込みオブジェクトの個々の要素に移動します。
[Alt]+[I]	レポート・ページ内のテーブルを移動します。
ダッシュボード・セクション	

キー	アクション
[Ctrl]+[Shift]	埋込みオブジェクトの個々の要素に移動します。
クエリー/CubeQuery セクション	
[Ctrl]+[Shift]+矢印 キーまたは[Tab]	CubeQuery テーブルの個別のセルをナビゲートします。

オンライン・ヘルプのアクセシビリティ

次の表に、オンライン・ヘルプのキーボード・ショートカットを示します。

表 155 オンライン・ヘルプ-キーボード・ショートカット

ショートカット	説明
[Ctrl]+[Shift] +[1]	「コンテンツ」タブを開いてフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[2]	「インデックス」タブを開いてフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[3]	「検索」タブを開いてフォーカスを移動します。
[Ctrl]+[Shift] +[4]	ヘルプ・トピックを含むコンテンツ・フレームにフォーカスを移動します。

用語集

! 感嘆符(!)(bang character(!))を参照してください。

#MISSING 欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING))を参照してください。

2 パス(two-pass) 他のメンバーの計算済の値に依存するメンバーを再計算するために使用される、Essbaseのプロパティです。2パスのメンバーは、2番目のパスの間にアウトラインから計算されます。

Calculation Manager Planning, Financial Management および Essbase のユーザーがグラフィカルな環境でビジネス・ルールを設計、検証および管理するために使用する計算モジュールです。

CDF カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))を参照してください。

CDM カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))を参照してください。

Cookie Web サイトによってコンピュータ上に配置されたデータのセグメントです。

essbase.cfg Essbase のオプションの構成ファイルです。管理者は、このファイルを編集して Essbase サーバー機能をカスタマイズできます。一部の構成は、Essbase クライアントで使用することにより、Essbase サーバーの設定を上書きできます。

EssCell 特定の Essbase データベース・メンバーの交差を示す値を取得するために、Essbase スプレッドシート・アドインのセルに入力する関数です。

ESSCMD Essbase の操作を対話的に実行したり、バッチ・スクリプト・ファイルから実行したりするための、コマンドライン・インタフェースです。

ESSLANG テキスト文字を解釈するために使用されるエンコード方式を定義する Essbase 環境変数です。**エンコード方式(encoding)**も参照してください。

ESSMSH MaxL シェル(MaxL Shell)を参照してください。

Extensible Markup Language(XML) データに属性を割り当てるタグのセットで構成される言語です。スキーマに基づいて、複数のアプリケーションの間で解釈可能です。

Extract-Transform-Load(ETL) データを抽出してアプリケーションに移行するための、データ・ソース固有のプログラムです。

GUI グラフィカル・ユーザー・インタフェースです。

ID(identity) 外部認証におけるユーザーまたはグループの一意の ID です。

Install_Home EPM System 製品がインストールされるディレクトリを示す変数です。同じコンピュータに複数のアプリケーションがインストールされている場合は、EPM System 製品の1つのインスタンスを指します。

Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)(Interactive Reporting connection file(.oce)) データベース API(ODBC、SQL*Net、など)、データベース・ソフトウェア、データベース・サーバーのネットワーク・アドレス、データベース・ユーザー名などのデータベース接続情報を含むファイルです。管理者は、Interactive Reporting 接続ファイル(.oce)を作成して発行します。

Java データベース接続(JDBC)(Java Database Connectivity(JDBC)) Java クライアントとリレーショナル・データベースにより使用されるクライアントとサーバー間の通信プロトコルです。JDBC インタフェースにより、SQL データベースのアクセスのための呼出しレベル API が提供されます。

JSP Java Server Page です。

KeyContacts ガジェット(KeyContacts gadget) Smart Space ユーザーのグループを含み、Smart Space Collaborator へのアクセスを提供します。たとえば、マーケティング・チームおよび開発チーム向けに個別の KeyContacts ガジェットを使用できます。

LRO リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO))を参照してください。

MaxL Essbase で使用される多次元データベース向けアクセス言語です。データ定義の言語(MaxL DDL)とデータ操作の言語(MaxL DML)から構成されます。[MaxL DDL](#)、[MaxL DML](#)、および [MaxL シェル\(MaxL Shell\)](#)も参照してください。

MaxL DDL Essbase で、バッチまたは対話的なシステム管理のタスクに使用されるデータ定義の言語です。

MaxL DML Essbase で、データのクエリーと抽出に使用されるデータ操作の言語です。

MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL DML の計算済メンバー(calculated member in MaxL DML)
分析を目的として設計されたメンバーです。MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションで定義されます。

MaxL Perl モジュール(MaxL Perl Module) Essbase MaxL DDL の一部である Perl モジュール(essbase.pm)です。このモジュールを Perl パッケージに追加すると、Perl プログラムから Essbase データベースにアクセスできます。

MaxL シェル(MaxL Shell) MaxL ステートメントを Essbase サーバーに渡すためのインタフェースです。MaxL シェルの実行可能ファイル(UNIX は essmsh、Windows は essmsh.exe)は、Essbase の bin ディレクトリに格納されています。

MaxL スクリプト・エディタ(MaxL Script Editor) 管理サービス・コンソールのスクリプト開発環境です。MaxL スクリプトで Essbase を管理するとき、テキスト・エディタと MaxL シェルの代替として MaxL スクリプト・エディタを使用できます。

MDX(多次元式)(MDX(multidimensional expression)) リレーショナル・データベースで SQL を使用する際に、OLAP 準拠のデータベース向けに OLE DB に命令する言語です。「OLAPQuery」セクションのアウトライナを構築するとき、Interactive Reporting クライアントは要求を MDX の命令に変換します。ユーザーがクエリーを処理するとき、MDX がデータベース・サーバーに送信され、サーバーはクエリーの結果となるレコードを戻します。[SQL スプレッドシート\(SQL spreadsheet\)](#)も参照してください。

MIME タイプ(MIME Type) 多目的インターネットメール拡張仕様(Multipurpose Internet Mail Extension)です。アイテムのデータ・フォーマットを示す属性により、システムはオブジェクトを開くアプリケーションを判断します。ファイルの MIME タイプはファイル拡張子または HTTP ヘッダーにより判別されず。プラグインはブラウザに対して、サポートされる MIME タイプ、および各 MIME タイプに対応するファイル拡張子を通知します。

NULL 値(null value) データのない値です。NULL 値はゼロに等しくありません。

ODBC Open Database Connectivity の略です。データベース管理システム(database management system: DBMS)の情報処理方法に関係なく、あらゆるアプリケーションにより使用されるデータベース・アクセスのメソッドです。

「OK」ステータス(OK status) 集計ステータスの 1 つです。エンティティが集計済であり、組織階層の下にあるデータが変更されていないことを示します。

OLAP メタデータ・カタログ(OLAP Metadata Catalog)
Integration Services で、リレーショナル・データ・ソースから取り出されるデータの特性、ソース、場所およびタイプを記述したメタデータが含まれているリレーショナル・データベースです。

OLAP モデル(OLAP model) Integration Services で、リレーショナル・データベースのテーブルおよび列から作成される論理モデル(スター・スキーマ)です。OLAP モデルは多次元データベースの構造を生成するために使用されます。

Open Database Connectivity(ODBC) 標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)です。これにより、アプリケーションから複数のサードパーティ・データベースにアクセスできます。

PL 勘定(P&L)(P&L accounts(P&L)) 損益勘定です。通常、会社の損益計算書を構成する費用勘定と収益勘定の集合を指します。

POV(視点)(POV(point of view)) 行、列、またはページ軸に割り当てられていないメンバーを選択することにより、データ・フォーカスを設定する機能です。たとえば、FDM での POV の選択項目には、場所、期間、カテゴリ、およびターゲット・カテゴリが含まれる可能性があります。また、Smart View で POV をフィルタとして使用すると、Currency 次元を POV に割り当て、Euro メンバーを選択できます。データ・フォームで POV を選択すると、ユーロ建でデータが表示されます。

Production Reporting [SQR Production Reporting](#) を参照してください。

PVA 期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA))を参照してください。

root メンバー(root member) 次元分岐における最上位のメンバーです。

RSC サービス(RSC services) リモート・サービス・コンフィグレータで構成されるサービスです。リポジトリ・サービス、サービス・ブローカ、名前サービス、イベント・サービス、およびジョブ・サービスを含みます。

Shared Services レジストリ(Shared Services Registry) Shared Services データベースの一部です。Shared Services レジストリでは、インストールされたほとんどの EPM System 製品の情報(インストール・ディレクトリ、データベース設定、配置設定、コンピュータ名、ポート、サーバー、URL、依存サービス・データなど)を保管および再利用します。

Smart Space Collaborator ユーザーまたはシステムがメッセージを送信したり、Reporting and Analysis リポジトリのコンテンツを共有したりするためのサービスです。メッセージには、インスタント・メッセージのスタイル、ディスカッション、ミーティング、トースト・メッセージなどの様々な形態を使用できます。

Smart Space クライアント・ソフトウェア(Smart Space client software) クライアントのコンピュータ上で実行し、ガジェット、即時コラボレーション、および Reporting and Analysis リポジトリへのアクセスを提供します。Smart Space のワークフレームとガジェットから構成されます。

SmartBook ガジェット(SmartBook gadget) Reporting and Analysis リポジトリまたは URL からのドキュメントを含みます。SmartBook が開くとすべてのドキュメントがロードされるので、あらゆるコンテンツへのアクセスを即座に実行できます。

SPF ファイル(SPF files) SQR Production Reporting サーバーで作成される、プリンタに依存しないファイルです。フォント、間隔、ヘッダー、フッターなど、フォーマットされた実際のレポート出力を表します。

SQL スプレッドシート(SQL spreadsheet) SQL クエリーの結果セットを表示するデータ・オブジェクトです。

SQR Production Reporting データ・アクセス、データ操作、および SQR Production Reporting ドキュメント作成のための専用プログラミング言語です。

Structured Query Language(SQL) リレーショナル・データベースに対する指示を処理するために使用される言語です。

TCP/IP Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP)を参照してください。

Transmission Control Protocol/Internet Protocol(TCP/IP) 異なるオペレーティング・システムおよび内部アーキテクチャを持つコンピュータをリンクする標準的な通信プロトコルのセットです。TCP/IP を使用すると、LAN および WAN に接続する多様なコンピュータとの間でのファイルの交換、メールの送信、およびデータの保管が可能です。

Unicode モードのアプリケーション(Unicode-mode application) 文字テキストが UTF-8 でエンコードされている Essbase アプリケーションです。様々な言語に設定されているコンピュータを使用するユーザーが、アプリケーション・データを共有できます。

Uniform Resource Locator(URL) インターネットまたはイントラネット上のリソースのアドレスです。

Web サーバー(Web server) イントラネットまたはインターネットの Web ページや Web アプリケーションをホストするソフトウェアやハードウェアです。

WITH セクション(WITH section) MaxL DML で、オプションで使用できるクエリーのセクションです。メンバーのセットを定義する再利用可能な論理を作成するために使用されます。WITH セクションでセット(カスタム・メンバー)を一度定義すると、クエリー中に複数回参照できます。

Workspace ページ(Workspace Page) 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

ws.conf Windows プラットフォーム用の構成ファイルです。

wsconf_platform UNIX プラットフォーム用の構成ファイルです。

XML Extensible Markup Language(XML)を参照してください。

XOLAP アウトラインのメタデータのみを保管し、クエリー時にリレーショナル・データベースからすべてデータを取得する、Essbase の多次元データベースです。XOLAP は、集約ストレージ・データベースおよび重複メンバー名を含むアプリケーションをサポートします。

Y 軸スケール(Y axis scale) 「調査」セクションに表示される、チャートの Y 軸上の値の範囲です。たとえば、各チャートについて一意の Y 軸スケールを使用したり、すべての詳細チャートに同一の Y 軸スケールを使用したり、または列内のすべてのチャートに同一の Y 軸スケールを使用することが可能です。多くの場合、共通の Y 軸スケールを使用すると、一目でチャートを比較できるようになります。

Zero Administration サーバー上のプラグインの最新バージョン番号を識別するソフトウェア・ツールです。

アウトライン(outline) 多次元データベースのデータベース構造です。すべての次元、メンバー、タグ、タイプ、集計、および算術的關係を含みます。データは、アウトラインに定義された構造に応じてデータベースに保管されます。

アウトライン同期(outline synchronization) パーティション・データベースで、データベースのアウトラインの変更を他のデータベースに伝播するプロセスです。

アクセサ(accessor) データ・マイニング・アルゴリズムに関する入出力データ仕様です。

アクセス権(access permissions) リソースに対してユーザーが実行できる一連の操作です。

アクティビティ・レベルの承認(activity-level authorization) 操作対象のデータに依存せず、アプリケーションへのユーザー・アクセス、およびアプリケーションで実行できるアクティビティのタイプを定義します。

アクティブ・サービス(active service) 実行タイプが保留ではなく開始に設定されているサービスです。

アセンブリ(assemblies) EPM System 製品またはコンポーネントのインストール・ファイルです。

値次元(value dimension) 入力値、換算値、および連結の詳細を定義するために使用されます。

アダプタ(adapter) ターゲットおよびソース・システムのデータやメタデータにプログラムを統合するためのソフトウェアです。

アップグレード(upgrade) 以前のソフトウェア・リリースを現在のリリースに置換するプロセス、またはある製品を別の製品に置換するプロセスです。

宛先(destination) (1) Business Rules および Calculation Manager の場合、割り当てられた値が保管されるデータベース内の交差です。(2) Profitability and Cost Management の割当てでは、割り当てられた値を受け取るポイントです。

アドホック・レポート(ad hoc report) エンド・ユーザーがその場で作成するオンライン分析クエリーです。

アプリケーション(application) (1)特定のタスクまたはタスクのグループを実行するために設計されたソフトウェア・プログラムです(スプレッドシート・プログラム、データベース管理システムなど)。(2)必要とされる特定の分析およびレポートに対応するために使用される、次元および次元メンバーの関連するセットです。

アプリケーションの通貨(application currency) アプリケーションのデフォルトのレポート用通貨です。

アペンダ(appender) 宛先を意味する Log4j の用語です。

安全率(Risk Free Rate) より安全な投資から期待される利回りです(米国の長期国債など)。

暗黙の共有(implied share) メンバーが1つ以上の子を持ち、集計されている子は1つのみである場合、親と子が値を共有します。

アーチファクト(artifact) 個別のアプリケーションまたはリポジトリ・アイテムです(スクリプト、フォーム、ルール・ファイル、Interactive Reporting ドキュメント、財務レポートなど)。オブジェクトとも呼ばれます。

移行(migration) アプリケーション、アーチファクト、またはユーザーを、別の環境またはコンピュータにコピーするプロセスです。たとえば、テスト環境から実稼働環境にコピーします。

移行監査レポート(migration audit report) 移行ログから生成されるレポートです。アプリケーションの移行に関する追跡情報を提供します。

移行スナップショット(migration snapshot) アプリケーションの移行のスナップショットです。移行ログに取込まれます。

移行定義ファイル(.mdf)(migration definition file(.mdf)) アプリケーションの移行に使用される移行パラメータを含むファイルです。これによりバッチ・スクリプトを処理できます。

移行ログ(migration log) アプリケーションの移行のすべてのアクションとメッセージを取込むログ・ファイルです。

依存エンティティ(dependent entity) 組織内の他のエンティティに属するエンティティです。

一意でないメンバー名(non-unique member name) [重複メンバー名\(duplicate member name\)](#)を参照してください。

一意のメンバー名(unique member name) データベース・アウトライン内に一度のみ存在する、共有されないメンバーの名前です。

一意メンバーのアウトライン(unique member outline) 重複メンバー名を使用できないデータベース・アウトラインです。

イメージ・ブックマーク(image bookmarks) Web ページやリポジトリ・アイテムへのグラフィック・リンクです。

因果関係マップ(cause and effect map) 企業戦略を形成する要素の関連、およびこれらの要素が組織の戦略目標を達成するためにどのように連動するかを示します。因果関係マップのタブは、各戦略マップについて自動的に作成されます。

インデックス(index) (1)疎データの組合せによりブロック・ストレージ・データベースでデータを取得するメソッドです。(2)インデックス・ファイルを指します。

インデックス・キャッシュ(index cache) インデックス・ページを含むバッファです。

インデックス項目(index entry) 疎次元の交差へのポインタです。インデックス・エントリはディスク上のデータ・ブロックをポイントし、オフセットを使用してセルを検索します。

インデックス・ファイル(index file) ブロック・ストレージのデータ取得情報を格納する Essbase ファイルです。ディスクに常駐し、インデックス・ページを含みます。

インデックス・ページ(index page) インデックス・ファイルの下位区分です。データ・ブロックを指すポインタを含みます。

イントロスペクション(introspection) データベース固有の関係に基づいて階層を判断するために、データ・ソースを詳細に検査することを指します。[スクレーピング\(scraping\)](#)と対比してください。

インポート・フォーマット(import format) FDM で、ソース・ファイルの構造を定義します。これにより、ソース・データ・ファイルを FDM データのロード位置にロードできます。

「影響」ステータス(IMPACTED status) 親エンティティに集計する子エンティティの変更を示します。

円グラフ(pie chart) 1つのデータ・セットを扇形に分割された円形で示すグラフです。

エンコード方式(encoding) テキストの作成、保管、表示のためにビット組合せを文字にマッピングするメソッドの1つです。各エンコード方式には UTF-8 などの名前が付けられています。各エンコード方式では、それぞれの値は特定のビット組合せにマッピングされています。たとえば、UTF-8 では大文字の A は HEX41 にマッピングされています。[コード・ページ\(code page\)](#)および[ロケール\(locale\)](#)も参照してください。

エンタープライズ・ビュー(Enterprise View)

Administration Services の機能の1つです。グラフィカルなツリー・ビューを使用して Essbase 環境を管理できます。エンタープライズ・ビューを使用すると、Essbase アーチファクトを直接操作できます。

エンティティ(entity) 部門、子会社、工場、地域、製品など、組織での財務報告単位となる組織単位を示す次元です。

エージェント(agent) アプリケーションやデータベースの開始と停止、ユーザー接続の管理、ユーザー・アクセスのセキュリティ対策を行う Essbase サーバー・プロセスです。このエージェントは、ESSBASE.EXE と呼ばれます。

お気に入りガジェット(Favorites gadget) Reporting and Analysis ドキュメントへのリンクと URL を含みません。

親(parents) 直接レポートする依存エンティティを1つ以上含むエンティティです。親はエンティティであると同時に少なくとも1つのノードに関連しているため、エンティティ、ノード、および親の情報が関連付けられています。

親の調整(parent adjustments) 親に関連して子に転記される仕訳エントリです。

折れ線グラフ(line chart) データ・セットを最大50個表示できるグラフです。各データ・セットは線で示されます。折れ線グラフで絶対値やパーセントを表す際に、前の線の上に次の線を重ねていく形で表示することも可能です。

オンライン分析プロセス(OLAP)(online analytical processing(OLAP)) 複数ユーザーによりクライアントとサーバー間の計算を行える多次元的环境です。連結された企業データをリアル・タイムで分析するユーザーが使用します。OLAP システムの機能には、ドリルダウン、データのピボット、複素数計算、トレンド分析、およびモデリングが含まれます。

会社間照合(intercompany matching) アプリケーション内の会社間勘定科目の対の残高を比較するプロセスです。会社間の受取勘定科目は、対応する会社間の支払い勘定科目と比較されます。一致する勘定科目は、組織の集計合計から会社間のトランザクションを消去するために使用されます。

会社間照合レポート(intercompany matching report) 内部取引勘定科目の残高を比較して、勘定の収支が合っているかどうかを示すレポートです。

拡張リレーショナル・アクセス(Advanced Relational Access) リレーショナル・データベースと Essbase 多次元データベースの統合を指します。これにより、すべてのデータがリレーショナル・データベースに保持され、Essbase データベースに存在する要約レベルのデータにマッピングされます。

確認レベル(review level) プロセス管理の確認ステータス・インディケータの1つです。「開始していません」、「第1パス」、「提出済」、「承認済」、「発行済」など、プロセス単位のレベルを示します。

加重(weight) スコアカードの項目に割り当てられた値です。スコアボード全体のスコアの計算において、その項目の相対的な重要性を示します。スコアカードのすべての項目の加重を総計すると100%になります。たとえば、ある製品について新機能を開発する重要性を認めるため、開発者のスコアカード上の New Features Coded のメジャーに Number of Minor Defect Fixes のメジャーよりも大きな加重が割り当てられる可能性があります。

カスケード(cascade) メンバー値のサブセットに対して複数のレポートを作成するプロセスです。

カスタム・カレンダー(custom calendar) システム管理者が作成したカレンダーです。

カスタム次元(custom dimension) ユーザーが作成および定義する次元です。チャンネル、製品、部署、プロジェクト、または地域がカスタム次元になることがあります。

カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF)) Java で開発され、MaxL により Essbase の標準計算スクリプト言語に追加された、Essbase 計算関数です。**カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM))** も参照してください。

カスタム定義マクロ(CDM)(custom-defined macro(CDM)) Essbase のマクロです。Essbase 計算機の関数および専用マクロ関数を使用して記述されます。カスタム定義マクロが使用する Essbase の内部マクロ言語により、計算関数を組み合わせることが可能となり、複数の入力パラメータが処理されます。**カスタム定義関数(CDF)(custom-defined function(CDF))** も参照してください。

カスタム・プロパティ(custom property) ユーザーが作成した次元または次元メンバーのプロパティです。

カスタム・レポート(custom report) 設計レポート・モジュールで作成する複雑なレポートです。コンポーネントの様々な組合せによって構成されます。

型付きメジャー(typed measure) Essbase で、メジャーが示されている次元で Text または Date というタグが付けられたメンバーです。セルの値は事前定義されたテキストまたは日付として表示されます。

カタログ・ペイン(Catalog pane) アクティブ・セクションで使用可能な要素のリストを表示します。クエリーがアクティブ・セクションの場合はデータベース・テーブルのリストが表示されます。ピボットがアクティブ・セクションの場合は結果列のリストが表示されます。ダッシュボードがアクティブ・セクションの場合は埋込み可能セクションのリスト、グラフィック・ツール、およびコントロール・ツールが表示されます。

カテゴリ(categories) データ編成に使用するグループです(月など)。

株式ベータ(Equity Beta) 株のリスクを指します。その株の収益と市場利益率の差異により測定され、ベータと呼ばれるインデックスで示されます。たとえば、市場利益率が1%変動するのに伴って株の収益が通常1.2%変動するのであれば、その株のベータ値は1.2です。

可変属性(varying attribute) 1つ以上の次元で変化する属性の関連付けです。これらの次元との関連で値を追跡するために使用できます。たとえば、Product次元に関連付けられているSales Representativeという可変属性を使用すると、複数の販売員によるCustomer Salesの値を時間次元との関連で追跡できます。また、5月に特定の販売員が担当した製品を検索するといった場合にも、可変属性をメンバー選択で使用できます。

カレンダー(calendar) ユーザー定義の期間、およびその関係です。暦年または会計年度は、Q1、Q2、Q3、およびQ4から構成されます。

為替レート(exchange rate) ある通貨から別の通貨に変換する際に使用する数値です。たとえば、1米ドルをユーロに変換する場合、為替レートの0.8936に米ドルを乗じます。これにより、1米ドルに相当するユーロは0.8936と算出されます。

為替レート・タイプ(exchange rate type) 為替レートの識別子です。異なるレートのタイプが使用されるのは、一定期間および年間について複数のレートが存在することがあるためです。従来より、期末時点でのレートを当期の平均レートおよび期末レートとして定義します。その他、ヒストリカル・レート、予算レート、予測レートなどのレート・タイプがあります。レート・タイプは特定の時点に適用されません。

換算(translation) **通貨換算(currency conversion)**を参照してください。

換算レート(conversion rate) **為替レート(exchange rate)**を参照してください。

勘定科目次元(accounts dimension) 高機能の会計を可能にする次元タイプです。勘定科目として定義可能な次元は1つのみです。

勘定科目の種別(account type) 時間の経過に伴う勘定科目の値のフロー、およびその符号の振る舞いを示します。勘定科目の種別のオプションには、支出、収益、資産、負債、および資本が含まれます。

勘定科目の消去(account eliminations) 集計時に集計ファイル内で値がゼロに設定された勘定科目です。

勘定科目のブロック(account blocking) 集計ファイルで勘定科目が入力データを受け入れるプロセスです。ブロックされた勘定科目は加算集計プロセスで値を受け取りません。

関数(function) 値またはデータベース・メンバーを戻すルーチンです。

感嘆符(!)(bang character(!)) 一連のレポート・コマンドを終了して、データベースからの情報を要求する文字です。レポート・スクリプトは感嘆符を使用して終了する必要があります。レポート・スクリプト内では複数の感嘆符を使用できます。

管理対象サーバー(managed server) 内蔵されたJava仮想マシン(Java Virtual Machine: JVM)で実行されるアプリケーション・サーバー・プロセスです。

関連勘定科目(Related Accounts) 勘定科目の構造体では、すべてのメイン勘定科目および関連勘定科目は同一のメイン勘定科目番号にグループ化されます。メイン勘定科目と関連勘定科目は、勘定科目番号の最初の接尾辞により区別されます。

外部でトリガーされるイベント(externally triggered events) ジョブの実行をスケジュールするための、時間ベースでないイベントです。

外部認証(external authentication) OracleのHyperionアプリケーションの外部に保管されたユーザー情報を使用して、アプリケーションにログオンすること指します。ユーザー情報の保管場所は、通常はMSADやNTLMなどの企業ディレクトリとなります。

ガジェット(gadget) EPMのコンテンツを容易に表示し、Reporting and Analysisのコア機能にアクセスできる、軽量で単純な専用アプリケーションです。

期別価額メソッド(PVA)(periodic value method(PVA)) 通貨換算方法の1つです。一定期間における期別の為替レート値を適用して通貨を算出します。

基本エンティティ(base entity) 組織の構造の一番下に位置し、他のエンティティを持たないエンティティです。

基本次元(base dimension) 1つ以上の属性次元に関連付けられている標準次元です。たとえば、製品に香りがあるとすると、Product次元がFlavors属性次元の基本次元となります。

基本通貨(base currency) 日常の業務取引が行われる通貨です。

期末(ending period) チャートの日付範囲を調整できる期間です。たとえば、月の期末の場合、当月末までの情報がチャートに表示されます。

キャッシュ(cache) データを一時的に保持する、メモリー内のバッファです。

キューブ(cube) 3つ以上の次元を含むデータのブロックです。Essbase データベースはキューブです。

キューブ・スキーマ(cube schema) Essbase Studio におけるメジャーおよび階層などのメタデータ要素です。キューブの論理モデルを指します。

キューブ配置(cube deployment) Essbase Studio で、アウトラインを構築してデータを Essbase アプリケーションおよびデータベースにロードするために、モデルのロード・オプションを設定するプロセスです。

兄弟(sibling) 他の子メンバーと同じ世代で、すぐ上に同じ親を持つ子メンバーです。たとえば、メンバー Florida とメンバー New York はメンバー East の子であり、互いの兄弟です。

共有 Workspace ページ(Shared Workspace Page) 専用のシステム・フォルダに保管され、組織全体で共有する Workspace ページです。権限を持つユーザーは、共有 Workspace ページの「ナビゲート」メニューからアクセスできます。

共有メンバー(shared member) ストレージ・スペースを別の同名メンバーとの間で共有するメンバーです。Essbase アウトラインに複数回現れるメンバーが重複して計算されることを防ぎます。

行の抑制(suppress rows) 欠落値を含む行を除外し、スプレッドシート・レポートからの文字にアンダースコアを付けます。

クエリー(query) データ・プロバイダからの情報の要求です。リレーショナル・データ・ソースにアクセスする場合などに使用されます。

クエリー・ガバナー(query governor) Essbase Integration Server のパラメータまたは Essbase サーバーの構成設定です。データ・ソースに対して実行されるクエリーの時間とサイズを制御します。

クラスタ(cluster) 単一リソースとして動作して、タスクの負荷を共有し、フェイルオーバーのサポートを提供する一連のサーバーまたはデータベースです。システムにおける単一障害点となるサーバーやデータベースを排除します。

クラスタ棒グラフ(clustered bar charts) カテゴリを横に並べたグラフです。並列カテゴリの分析に便利です。垂直棒グラフでのみ使用されます。

繰返し(iteration) 同じバージョンのデータを修正して移行する予算またはプランニング・サイクルのパスです。

クリーン・ブロック(clean block) 計算スクリプトによってすべての次元が一度に計算された場合、または計算スクリプトで SET CLEARUPDATESTATUS コマンドが使用された場合の、データベース全体の計算が完了しているデータ・ブロックを指します。

クロス連結レポート(crosstab reporting) テーブル・フォーマットでデータの分類および集計を行うことです。テーブルのセルには、交差する分類に合致するデータの集計結果が保管されています。たとえば、製品販売情報のクロス集計レポートに、列見出しとして Small や Large などのサイズ属性、行見出しとして Blue や Yellow などの色属性を表示できます。テーブルの中で Large と Blue が交差するセルには、サイズが Large のすべての Blue 製品の総売上げが表示されます。

グリッドの POV(grid POV) 行、列、またはページの交差に次元を配置せずに、グリッド上で次元メンバーを指定する手段です。レポート・デザインはグリッド・レベルで POV の値を設定し、ユーザーの POV がグリッドに影響を与えないように防ぐことができます。次元に含まれるグリッドの値が1つのとき、その次元は行、列、またはページではなくグリッドの POV に配置します。

グループ(group) 複数のユーザーに同様のアクセス権を割り当てるためのコンテナです。

グローバル・レポート・コマンド(global report command) 別のグローバル・コマンドに置き換えられるか、またはファイルが終了するまで実行し続けるレポート・スクリプトのコマンドです。

計算(calculation) データを集約したり、データベースで計算スクリプトを実行したりするプロセスです。

計算結果アイテム(computed item) データベースやキューブに物理的に保管される列に対して、仮想の列を指します。クエリー実行時にデータベースにより、または Interactive Reporting Studio の「結果」セクションで計算されます。計算結果アイテムは、関数、データ項目、およびダイアログ・ボックスで提供される演算子に基づくデータ計算であり、レポートに含まれたり他のデータの計算に再利用されることがあります。

計算スクリプト(calc script) データベースの集計方法や集約方法を定義する一連のコマンドです。集計プロセスとは別に、割当てや他の計算ルールを指定するコマンドが計算スクリプトに含まれることもあります。

系統データ(genealogy data) 割当ての計算後にオプションで生成される追加データです。このデータにより、すべての割当てでステップにわたるコストまたは収益のフローについてレポートを作成できます。

系列(lineage) 異なるメタデータ要素間の関係です。メタデータ要素が他のメタデータ要素からどのように導き出されるかを示し、メタデータ要素を物理ソースまでトレースします。Essbase Studio では、この関係を系列ビューでグラフィカルに表示できます。[トレーサビリティ\(traceability\)](#)も参照してください。

結合(join) 特定の列または行の共通のコンテンツに基づく2つのリレーショナル・データベース・テーブルまたはトピックの間のリンクです。通常、異なるテーブルまたはトピック内の同一または類似するアイテムの間で結合が起きます。たとえば、Customer テーブルと Orders テーブルで Customer ID の値が同一である場合、Customer テーブル内のレコードが Orders 内のレコードに結合します。

欠落データ(#MISSING)(missing data(#MISSING)) ラベル付けされた場所のデータが存在しないか、値が含まれていないか、データが入力されていないかまたはロードされていないことを示すマーカーです。たとえば、勘定科目に当期ではなく過去または将来の期間のデータが含まれている場合は、欠落データが存在します。

権限(permission) データまたは他のユーザーとグループを管理するために、ユーザーおよびグループに付与されるアクセス・レベルです。

検索ガジェット(Search gadget) Reporting and Analysis のリポジトリを検索します。検索ガジェットは、ドキュメントをインポートしたときに設定されたドキュメントのキーワードや説明で一致を探します。

検証(validation) アウトラインに対してビジネス・ルール、レポート・スクリプト、またはパーティション定義をチェックして、チェック対象のオブジェクトが有効であることを確認するプロセスです。たとえば、FDM の検証ルールにより、FDM からターゲット・アプリケーションにデータがロードされた後で特定の条件が満たされているかどうかを確認されます。

限界税率(Marginal Tax Rate) 税引き後の負債コストを計算するために使用されます。最近計上された所得に適用される税率(所得額に適用される最高の税率区分の税率)を示し、連邦税、州税、および地方税を含みます。課税対象所得と税率区分の現在のレベルに基づいて、限界税率を予測できます。

現地通貨(local currency) 入力通貨タイプです。入力通貨タイプが指定されていない場合は、現地通貨がエンティティの基本通貨に一致します。

原点(origin) 2つの軸の交差です。

子(child) データベース・アウトライン内で親を持つメンバーです。

高機能計算(intelligent calculation) 最後に実行された計算以降に更新されたデータ・ブロックを追跡する計算メソッドです。

交差(intersection) 多次元データベース内の次元の交差を表すデータの単位です。ワークシートのセルです。

構成ファイル(configuration file) セキュリティ・プラットフォームでは、XML ドキュメントの構成を製品の管理者やインストール・プログラムに依存しています。XML ドキュメントは有意義なプロパティの値を示し、企業の認証シナリオに関連する場所と属性を指定するように変更する必要があります。

構造ビュー(structure view) トピックをコンポーネントのデータ項目の単純なリストとして表示します。

構築メソッド(build method) データベース・アウトラインを変更するために使用するメソッドの一種です。データ・ソース・ファイルのデータ・フォーマットに基づいて構築メソッドを選択します。

個人の反復タイム・イベント(personal recurring time events) 再利用可能なタイム・イベントです。作成したユーザーのみがアクセスできます。

個人用変数(personal variable) 複雑なメンバー選択の特定の選択ステートメントです。

個人用ページ(personal pages) リポジトリ情報を参照するための個人用ウィンドウです。表示する情報、およびレイアウトと色を選択します。

コミット・アクセス(committed access) Essbase のトランザクションの処理方法に影響する Essbase カーネルの分離レベルです。コミット・アクセスでは、同時トランザクションは書き込みロックを長期間保持し、予測可能な結果を生成します。

コンテキスト変数(context variable) タスクフロー・インスタンスのコンテキストを特定するために、特定のタスクフローに定義される変数です。

コンテンツ(content) リポジトリに保管されたあらゆるタイプのファイルの情報です。

コンテンツ・ブラウザ(content browser) コンテンツを選択して Workspace ページに配置するために使用できるコンポーネントです。

コントリビューション(contribution) 子エンティティから親に追加される値です。それぞれの子は親に対するコントリビューションを持ちます。

コントロール・グループ(controls group) 証明書および評価の情報を維持および整理するために FDM で使用されます。サーベンス・オクスリ(Sarbanes-Oxley)法の規定に準拠する上で特に役立ちます。

コード・ページ(code page) 一連のテキスト文字へのビット組合せのマッピングです。コード・ページは、それぞれ異なる文字セットをサポートします。各コンピュータには、ユーザーが必要とする言語の文字セットについてのコード・ページ設定が含まれます。このドキュメントでは、コード・ページは非 Unicode のエンコードのビット組合せに文字をマッピングします。[エンコード方式\(encoding\)](#)も参照してください。

差異(variance) プラン値と実績値などの 2 つの値の差です。

サイクル・スルー(cycle through) データベース内で複数パスを実行し、同時に計算することを指します。

再構成 URL(reconfigure URL) ユーザーが Workspace にログオンしているときに、サブレット構成設定を動的に再ロードするための URL です。

再構築(restructure) データベース・インデックス、また場合によってはデータ・ファイルの再生成もしくは再構築を行う操作です。

最新(latest) 最新の期間として定義されたメンバーからデータ値を取得するために使用される、スプレッドシートのキー・ワードです。

最上位メンバー(top-level member) 次元のアウトラインで、階層ツリーの一番上に位置する次元メンバーです。次元メンバー間に階層の関係がない場合は、ソート順で最初のメンバーを指します。階層の関係がある場合、最上位メンバーの名前が次元名と同一となるのが一般的です。

サブ勘定科目のナンバリング(Subaccount Numbering) 不連続の整数を使用してサブ勘定科目のナンバリングを行うためのシステムです。

サブスクライブ(subscribe) 項目またはフォルダが更新されるときに自動的に通知を受け取るように、項目またはフォルダにフラグを付けることを指します。

サポート詳細(supporting detail) セルの値を算出した計算および仮定です。

三角換算法(triangulation) 第 3 の共通通貨を介して、ある通貨から別の通貨に残高を変換する手段です。欧州の場合はユーロが共通通貨として使用されます。たとえば、フランス・フランからイタリア・リラに変換する場合、ユーロが共通通貨として定義されます。したがって、フランの残高をリラに変換するには、フランからユーロに変換してから、ユーロからリラに変換します。

算出ステータス(calculation status) 一部の値または式の計算が変更されたことを示す集計ステータスです。影響を受けるエンティティについて正しい値を取得するには、再集計する必要があります。

算術演算子(mathematical operator) 式およびアウトラインでのデータの計算方法を定義する記号です。標準的な算術演算子またはブール演算子が使用されます(+、-、*、/、%など)。

算術データ・ロード(arithmetic data load) データベース内の値に対して演算(たとえば各値に 10 を加算するなど)を実行するデータ・ロードです。

サンプリング(sampling) エンティティの特性を判別するためにエンティティの代表的な部分を選択するプロセスです。[メタデータのサンプリング\(metadata sampling\)](#)も参照してください。

サービス(services) ビジネス・アイテムを取得、変更、追加、および削除するためのリソースです(権限付与、認可など)。

サーブレット(servlet) Web サーバーが実行可能なコンパイルされたコードです。

残高勘定科目(balance account) 特定の時点の符号なしの値を保管する勘定科目の種別です。

式(formula) データベース・メンバーを計算する演算子、関数、次元およびメンバー名、および定数の組み合わせです。

式の保存(preserve formulas) データ取得中にワークシート内に保持される、ユーザーが作成した式です。

資産勘定科目(asset account) 勘定科目の1つです。会社の資産の値を保管します。

支出勘定科目(expense account) 期別の値と年次累計値を保管する勘定科目です。値が正の場合は、純利益が減ります。

市場リスク割増額(Market Risk Premium) 国債よりもリスクの高い投資を投資家に呼びかけるための、安全率に追加して支払われる利回りです。予測される市場利回りから安全率を差し引いて計算されます。この数字が示すモデルは将来の市況に近いものとなる必要があります。

システム抽出(system extract) データをアプリケーションのメタデータから ASCII ファイルに転送します。

子孫(descendant) データベース・アウトラインで親の下に位置するメンバーです。たとえば、年、四半期および月を含む次元では、メンバー Qtr2 およびメンバー April がメンバー Year の子孫となります。

シナリオ(scenario) データを分類するための次元です(Actuals、Budget、Forecast1、Forecast2 など)。

支配比率(percent control) 所属するグループ内でエンティティが受ける支配の程度です。

収益勘定科目(income account) 期別の値と年次累計値を格納する勘定科目です。値が正の場合は純利益が増えます。

集計ファイル(*.cns)(consolidation file(*.cns)) 集計ファイルは、集計のプロセスでチャートまたはツリー・ビューを使用して Strategic Finance ファイルを追加、削除、移動するためのグラフィカル・インタフェースです。集計ファイルを使用して、集計を定義したり変更したりすることも可能です。

集計ファイル(親)(consolidated file(Parent)) 事業部門のすべてのファイルが集計されたファイルです。集計の定義を含みます。

集計ルール(consolidation rule) 階層のノードを集計する際に行われるルールを特定します。親の残高が正しく集計されるように、顧客固有の適切な式を含めることができます。消去プロセスは、集計ルール内でコントロールできます。

修飾名(qualified name) 定まったフォーマットのメンバー名です。重複メンバーのアウトラインにおいて、重複メンバー名を区別します([Market].[East].[State].[New York]、[Market].[East].[City].[New York]など)。

集約(aggregation) 集約ストレージ・データベースの値をロール・アップおよび保管するプロセスです。または集約プロセスによって保管された結果を指します。

集約関数(aggregate function) 関数の一種です。合計、平均の計算など、データの要約や分析を実行します。

集約スクリプト(aggregation script) 集約を構築するための集約ビューの選択を定義するファイルです。集約ストレージ・データベースのみで使用されます。

集約ストレージ・データベース(aggregate storage database) 潜在的に大きな多数の次元に分類される疎に分散した大規模なデータをサポートするように設計されたデータベースのストレージ・モデルです。上位のメンバーと式は動的に計算され、選択されたデータ値は集約、保管されます。通常、集約の合計所要時間が改善されます。

集約制約(aggregate limit) 集約要求ライン・アイテムや集約メタトピック・アイテムに設定する制約です。

集約セル(aggregate cell) 複数のセルから構成されるセルです。たとえば、Children(Year)を使用するデータ・セルは、Quarter 1、Quarter 2、Quarter 3、および Quarter 4 のデータを含む 4 つのセルに展開されます。

集約ビュー(aggregate view) 各次元内のメンバーのレベルに基づく集約セルの集合です。計算時間を短縮するため、値は事前に集約されて集約ビューとして保管されています。取得は集約ビューの合計から開始され、合計に追加されます。

出資比率(percent ownership) エンティティが親によって所有される程度です。

手動ステージ(manual stage) 完了するためにユーザーが操作する必要があるステージです。

消去(elimination) 組織内のエンティティ間での取引をゼロに設定(消去)するプロセスです。

消去済勘定科目(Eliminated Account) 集計ファイルに表示されない勘定科目です。

詳細チャート(detail chart) 要約チャートで、詳細な情報を提供するチャートです。詳細チャートは要約チャートの下にある「調査」セクションに列で表示されます。要約チャートに円グラフが表示される場合、その下の詳細チャートには円の各区分が示されます。

使用済ブロック(dirty block) 最後に計算された後に変更されたセルを含むデータ・ブロックです。子ブロックが使用済である(つまり更新されている)場合、上位のブロックにも使用済のマークが付けられます。

シリアル計算(serial calculation) デフォルト計算設定です。1つの計算を複数のタスクに分割して、一度に1つのタスクを計算します。

仕訳(JE)(journal entry(JE)) シナリオと期間の残高勘定科目の借方または貸方に計上する調整の集合です。

シングル・サインオン(single sign-on) 外部のログイン情報を使用するシングル・ログインにより、複数のEPM System 製品にアクセスできる機能です。

信頼できるパスワード(trusted password) ある製品について認証されたユーザーが、パスワードを再入力せずに他の製品にもアクセスできるようにするパスワードです。

信頼できるユーザー(trusted user) 認証されたユーザーです。

時間次元(time dimension) データが示す期間を定義します(会計期間、暦時間など)。

軸(axis) (1)測定と分類に使用されるグラフィックを貫通する直線です。(2)多次元のデータを整理および関連付けるために使用されるレポートのアスペクトです(フィルタ、ページ、行、列など)。たとえば、Simple Basic でデータ・クエリーを実行する場合、軸では Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 の値の列を定義できます。Market と Product の階層による合計が行データとして取得されます。

時系列レポート作成(time series reporting) カレンダーの日付(年、四半期、月、週など)に基づくデータのレポート作成プロセスです。

次元(dimension) ビジネス・データを整理して値の抽出や保持のために使用されるデータ・カテゴリです。通常、次元には関連するメンバーをグループ化した階層が含まれます。たとえば、Year 次元は多くの場合四半期、月などの期間の単位ごとのメンバーが含まれます。

次元間の無関係性(interdimensional irrelevance) 次元が他の次元と交差しない状況を指します。次元に含まれるデータは、交差しない次元はアクセスできないため、交差しない次元は無関係となります。

次元構築(dimension build) Essbase アウトラインに次元およびメンバーを追加するプロセスです。

次元構築のルール(dimension build rules) データ・ロードのルールに似た仕様です。Essbase でアウトラインを変更するために使用されます。変更は外部データ・ソース・ファイルのデータに基づきます。

次元性(dimensionality) MaxL DML において、セットで示された次元およびその順序です。たとえば、{(West, Feb), (East, Mar)} というセットの場合は、含まれている2つのタプルはいずれも次元(Region, Year)を反映しているため、同一の次元性であることとなります。

次元タイプ(dimension type) 定義済の機能を使用可能にする次元のプロパティです。時間のタグが付けられた次元は、定義済のカレンダー機能を持ちます。

次元タブ(dimension tab) 「ピボット」セクションで、行と列の間でデータのピボットを実行するためのタブです。

次元テーブル(dimension table) (1)特定のビジネス・プロセスに関する多数の属性を含むテーブルです。(2)Essbase 統合サービスでは、Essbase の潜在的な次元を定義する1つ以上のリレーショナル・テーブルのための、OLAP モデルのコンテナを指します。

事前計算(precaculation) ユーザーが取得する前にデータベースで計算を実行することです。

持続性(persistence) Essbase の操作や設定に対する継続的または長期的な影響です。たとえば、ユーザー名やパスワードの有効性について、Essbase 管理者がその持続性を制限することがあります。

実行時プロンプト(runtime prompt) ビジネス・ルールが実行される前にユーザーが入力または選択する変数です。

実績の頻度(result frequency) 日付のセットを作成して結果を収集および表示するために使用されるアルゴリズムです。

自動逆仕訳(auto-reversing journal) 次期に逆仕訳する調整を入力するための仕訳です。

自動ステージ(automated stage) ユーザーの操作を必要としないステージです(データ・ロードなど)。

従業員(employee) 特定のビジネス・オブジェクトに対して責任を負う(または関与する)ユーザーです。従業員は組織に勤めている必要はありません(コンサルタントなど)。従業員は、認可のためにユーザー・アカウントに関連付けられている必要があります。

重要事業領域(CBA)(critical business area(CBA)) 部門、地域、工場、コスト・センター、プロフィット・センター、プロジェクト・チーム、またはプロセスに編成された個人またはグループです。責任チームまたはビジネス領域とも呼ばれます。

重要成功要因(CSF)(critical success factor(CSF)) 戦略目標を達成するために確立および維持する必要のある能力です。戦略目標または重要プロセスにより所有され、1つ以上のアクションに対する親となります。

上位レベル・ブロック(upper-level block) 少なくとも1つの疎メンバーが親レベルのメンバーになっているデータ・ブロックです。

冗長データ(redundant data) 重複データ・ブロックです。Essbase で更新されたブロックがコミットされるまで、取引の間保持されます。

ジョブ(jobs) 出力生成のために起動できる特殊なプロパティを持つドキュメントです。ジョブには Interactive Reporting、SQR Production Reporting、または汎用ドキュメントを含めることができます。

ジョブの出力(job output) ジョブの実行によって生成されたファイルやレポートです。

数値属性範囲(numeric attribute range) 基本次元メンバーに関連付けるために使用される機能です。メンバーは個別の数値を含み、値の範囲を示す属性を持ちます。たとえば、顧客を年齢別に分類する場合、Age Group 属性次元に 0-20、21-40、41-60、および 61-80 という年齢範囲に該当するメンバーを含めることができます。各 Customer 次元メンバーは Age Group 範囲に関連付けられます。データを取得する際は、個別の年齢の値ではなく年齢範囲に基づいて処理されます。

スクレーピング(scraping) データ・ソースを検査して、最も基本的なメタデータ要素を得ることを指します。イントロスペクション(introspection)と対比してください。

スケーリング(scaling) スケーリングによって値の表示方法を判別します(整数、十単位、百単位、千単位、百万単位など)。

スコア(score) ターゲットを達成するレベルです。通常はターゲットのパーセンテージとして表されます。

スコアカード(scorecard) 目標を達成する上での、従業員、戦略要素、または責任要素の進行状況を示すビジネス・オブジェクトです。スコアカードに追加された各メジャーおよび子スコアカードについて収集されるデータに基づいて、進行状況が確認されます。

スコープ(scope) Essbase の操作または設定により包含されるデータ領域です(セキュリティ設定により影響を受けるデータ領域など)。通常、スコープには粒度が3レベルあり、上位レベルが下位レベルを包含します。これらのレベルは上位から下位の順で、システム全体(Essbase サーバー)、Essbase サーバー上のアプリケーション、Essbase サーバー・アプリケーション内のデータベースとなります。持続性(persistence)も参照してください。

ステージ(stage) 通常は個別のユーザーにより実行される、タスクフロー内の1つの論理ステップを形成するタスクの説明です。ステージには手動と自動の2つのタイプがあります。

ステージ・アクション(stage action) 自動ステージで、ステージを実行するために呼び出されたアクションです。

ステージ後割当て(post stage assignment) 割当てモデルにおける割当てです。後に続くモデル・ステージの場所に割り当てられます。

ステージ内割当て(Intrastage assignment) 財務フローの割当てです。同じステージ内のオブジェクトに対して割り当てられます。

ステージング領域(staging area) 特定のアプリケーションの必要性に対応するために作成するデータベースです。ステージング領域は、1 つ以上の RDBMS のスナップショット(再構築されたバージョン)です。

ステータス・バー(Status bar) 画面下部のステータス・バーには、コマンド、勘定科目、およびデータ・ファイルの現在のステータスに関する有用な情報が表示されます。

スナップショット(snapshot) 特定の時点の読取り専用データです。

スポットライタ(Spotlighter) 選択された条件に基づくカラー・コーディングを可能にするツールです。

スマート・カット(SmartCut) URL フォームのリポジトリ項目へのリンクです。

スマート・スライス(smart slice) Smart View で、データ・ソースの再利用可能なパースペクティブです。次元または次元メンバーの限定的なセットを含みます。

スマート・タグ(smart tags) Microsoft Office アプリケーションでのキーワードです。スマート・タグのメニューから利用可能な定義済アクションに関連付けられています。EPM System 製品でも、スマート・タグを使用して Reporting and Analysis のコンテンツのインポートや Financial Management および Essbase の機能へのアクセスが可能です。

スーパー・サービス(super service) RSC サービスを開始するために startCommonServices スクリプトによって使用される専用のサービスです。

スーパーバイザ(supervisor) サーバーのすべてのアプリケーション、データベース、関連ファイル、セキュリティ機構にフル・アクセスできるユーザーです。

ズーム(zoom) レポートの倍率を設定します。たとえば、ページ全体またはページ幅に合わせて倍率を変更したり、100%を基準としてパーセントで倍率を指定したりできます。

ズームチャート(ZoomChart) チャートを拡大することにより詳細情報を表示するために使用されます。チャートに表示されるメトリックについて数値情報を詳細に表示できます。

精度(precision) 数値に表示される小数点以下の桁数です。

製品(product) Shared Services における、Planning や Performance Scorecard などのアプリケーション・タイプです。

セカンダリ・メジャー(secondary measure) プライマリ・メジャーよりも優先度の低いメジャーです。セカンダリ・メジャーにはパフォーマンス・レポートがありませんが、スコアカードで使用したり、次元メジャーのテンプレートを作成するために使用できます。

責任マップ(accountability map) 組織内の責任チーム(重要事業領域とも呼ばれます)の責任、報告、および依存関係の構造を視覚的、階層的に示します。

セキュリティ・エージェント(security agent) Web アクセス管理プロバイダ(Netegrity SiteMinder など)です。企業の Web リソースを保護します。

セキュリティ・プラットフォーム(security platform) EPM System 製品で外部認証とシングル・サインオン機能を使用するためのフレームワークです。

世代(generation) データベースでのメンバー関係を定義する階層ツリー内のレイヤーです。世代は、次元の最上位のメンバー(世代 1)から子メンバーへと 1 世代ずつ下に配置されていきます。一意の世代名を使用すると、階層ツリー内のレイヤーを特定できます。

設計レポート(Design Report) コンポーネント・ライブラリを使ってカスタム・レポートを作成するための Web Analysis Studio のインターフェースです。

接続ファイル(connection file) [Interactive Reporting 接続ファイル\(.oce\)](#)([Interactive Reporting connection file\(.oce\)](#))を参照してください。

セル(cell) (1)多次元データベースの次元の交差を表すデータ値です。ワークシート上の行および列の交差を指します。(2)管理ドメインに属するノードの論理グループです。

セル・ノート(cell note) Essbase データベースでセルに付けられるテキスト注釈です。セル・ノートは LRO の一種です。

選択リスト(choice list) レポート・デザイナーがレポートの視点(POV)を定義する際に各次元に指定するメンバーのリストです。定義されたメンバー・リストに指定されたメンバーを選択するか、または動的リストの関数に定義された条件に一致するメンバーを選択するだけで、選択リストを使用して次元の POV を変更できます。

戦略マップ(Strategic map) 上位レベルのミッションおよびビジョンのステートメントを、組織が、構成要素である下位レベルの戦略的達成目標に組入れる方法を示します。

戦略目標(SO)(strategic objective(SO)) 測定可能な結果によって定義された長期目標です。各戦略目標は、アプリケーション内の1つのパースペクティブに関連付けられ、1つの親(エンティティ)を持ち、重要成功要因または他の戦略目標の親になります。

税金の初期残高(Taxes - Initial Balances) Strategic Finance では、損失の初期残高、収益の初期残高、および納税の初期残高のエントリは、Strategic Finance の最初の期間に先立つ期間に発生していることを前提とします。

関連サブクエリー(correlated subqueries) 親クエリーの各行で一度評価されるサブクエリーです。サブクエリーのトピック・アイテムを親クエリーのトピックに結合することにより作成されます。

相互割当て(reciprocal assignment) 財務フローの割当ての一種です。宛先の1つとしてソースが含まれます。

組織(organization) 各エンティティ、およびその関係を定義するエンティティの階層です。

疎次元(sparse dimension) ブロック・ストレージ・データベースで、他の次元と比較した際に、すべてのメンバーの組合せについてのデータを含んでいる可能性が低い次元です。たとえば、すべての製品についてのデータがすべての顧客に含まれているわけではありません。**密次元(dense dimension)**と対比してください。

祖先(ancestor) その下にメンバーを含む分岐メンバーです。たとえば、メンバー Qtr2 とメンバー 2006 はメンバー April の祖先です。

属性(attribute) 次元メンバーの特性です。たとえば、Employee 次元のメンバーは名前、年齢、住所といった属性を持ち、Product 次元のメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ可能性があります。

属性計算次元(Attribute Calculations dimension) メンバーのグループに対して、合計、カウント、平均、最小、および最大を計算するシステム定義の次元です。この次元は動的に計算され、データベース・アウトラインでは表示されません。たとえば、メンバー Avg を使用すると、製品 Red についてニューヨークでの1月の平均売上の値を計算できます。

属性次元(attribute dimension) 次元の一種です。次元のメンバーの属性や特質に基づいて分析できます。

属性タイプ(attribute type) 様々な関数(データのグループ化、選択、または計算)を使用可能にするためのテキスト、数値、ブール値、日付、またはリンク属性タイプです。たとえば、Ounces 属性次元は数値タイプを持つので、各製品の属性として指定されるオンス数を使用して当該製品のオンス当たりの収益を計算できます。

属性の関連付け(attribute association) データベース・アウトラインでの関係です。これにより、属性次元のメンバーが基本次元のメンバーの特性を表します。たとえば、製品 100-10 がグレープ味である場合、製品 100-10 は Flavor 属性の関連付けがグレープになります。したがって、Product 次元のメンバー 100-10 は Flavor 属性次元のメンバー Grape に関連付けられることになります。

属性レポート(attribute reporting) 基本次元メンバーの属性に基づくレポート作成プロセスです。**基本次元(base dimension)**も参照してください。

貸借一致の仕訳(balanced journal) 借方の合計と貸方の合計が等しい仕訳です。

対称型マルチプロセッシング(SMP)(symmetric multiprocessing(SMP)) マルチプロセッシングとマルチスレッディングを使用可能にするサーバーのアーキテクチャです。多数のユーザーが単一のインスタンスに同時に接続した場合でも、パフォーマンスが大きく低下することはありません。

タイトル・バー(Title bar) Strategic Finance 名、ファイル名、およびシナリオ名のバージョン・ボックスを表示します。

タイム・イベント(time events) ジョブを実行するトリガーです。

タイム・スケール(time scale) 指定された期間別(毎月、四半期ごとなど)にメトリックを表示します。

タイム・ライン・ビューア(time line viewer) 特定の場所について、完了したプロセス・フロー・ステップの日時を表示するための FDM の機能です。

多次元データベース(multidimensional database) 3 つ以上の次元でデータを整理、格納、および参照するメソッドです。次元のセットが交差するポイントが個別の値となります。[リレーショナル・データベース\(relational database\)](#) と対比してください。

タスクフロー(taskflow) ビジネス・プロセスの自動化を指します。手続きのルールに従って、あるタスクフロー参加者から別の参加者にタスクが渡されます。

タスクフロー・インスタンス(taskflow instance) タスクフローの単一のインスタンスを示します。タスクフローの状態と関連データが含まれます。

タスクフロー管理システム(taskflow management system) タスクフローの定義および作成し、その実行を管理します。定義付け、ユーザーまたはアプリケーションのやりとり、およびアプリケーションの実行可能ファイルが含まれます。

タスクフロー参加者(taskflow participant) 手動ステージおよび自動ステージの両方について、タスクフローのステージのインスタンスに関連付けられているタスクを実行するリソースです。

タスクフロー定義(taskflow definition) タスクフロー管理システムのビジネス・プロセスを示します。ステージとステージ間の関係のネットワークから構成され、タスクフローの開始と終了を示す基準、および個別のステージに関する情報(参加者、関連アプリケーション、関連アクティビティなど)が含まれます。

タスク・リスト(task list) 特定のユーザーについて、タスクの詳細ステータスを示すリストです。

タブ(tabs) Strategic Finance で、勘定科目とレポートのナビゲーションを行うことができるビューです。

タプル(tuple) MDX 構文の要素です。セルは、各次元からのメンバーの交差として参照されます。次元が削除されている場合、最上位のメンバーが示されます。たとえば、(Jan)、(Jan, Sales)、([Jan], [Sales], [Cola], [Texas], [Actual]) といったタプルがあります。

単項演算子(unary operator) アウトラインのメンバーに関連付けられている算術インディケータ(+、-、*、/、%)です。単項演算子では、データベースのロールアップ中のメンバーの計算方法が指定されません。

代替階層(alternate hierarchy) 共有メンバーの階層です。代替階層はデータベース・アウトラインの既存の階層に基づきますが、次元に代替レベルを持ちます。代替階層により、異なる視点(POV)から同一データを表示できます。

ダッシュボード(dashboard) 業務の要約を対話的に示すメトリックと指標の集まりです。ダッシュボードにより分析アプリケーションを構築して配置できます。

置換(replace) データ・ロードのオプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルに指定された期間のすべての勘定科目からの既存の値を消去し、データ・ロード・ファイルからの値をロードします。ロード・ファイルに勘定科目が指定されていない場合、指定された期間に該当する値が消去されます。

チャート(chart) スプレッドシート・データをグラフィカルに表したものです。視覚的な表示により、分析、カラー・コーディング、および比較の手助けとなるビジュアル・キューの効率が上がります。

チャート・テンプレート(chart template) ワークスペース・チャートに表示するメトリックを定義するテンプレートです。

抽出コマンド(extraction command) Essbase レポート作成コマンドの 1 つです。データベースから抽出される RAW データの選択、向き、グループ分け、および配列を処理します。小なり記号(<)から始まるコマンドです。

調査(Investigation) [ドリルスルー\(drill-through\)](#) を参照してください。

調整(adjustment) [仕訳\(JE\)\(journal entry\(JE\)\)](#) を参照してください。

調整勘定科目(plug account) 会社間勘定科目の消去プロセスで均衡しない差額が保管される勘定科目です。

重複する別名(duplicate alias name) 別名テーブルに複数存在し、データベース・アウトラインの複数メンバーに関連付けられている可能性のある名前です。重複する別名は、重複メンバーのアウトラインでのみ使用できます。

重複メンバーのアウトライン(duplicate member outline) 重複メンバー名を格納しているデータベース・アウトラインです。

重複メンバー名(duplicate member name) データベース内に異なるメンバーを表して重複して存在する同一のメンバー名です。たとえば、ニューヨーク州を示すメンバーとニューヨーク市を示すメンバーが存在する場合、データベースに New York という名前のメンバーが2つ含まれることがあります。

直接レート(direct rate) 為替レート・テーブルに入力する通貨レートです。直接レートは通貨換算に使用されます。たとえば、残高を日本円から米ドルに変換する場合、変換元通貨を日本円、変換先通貨を米ドルとして、為替レート・テーブルに期間またはシナリオのレートを入力します。

通貨(monetary) 金銭的な値です。

通貨換算(currency conversion) データベースの通貨の値を別の通貨に変換するプロセスです。たとえば、1米ドルをユーロに変換するには、ドルに為替レート(たとえば、0.923702)を乗じます(1*0.923702)。変換後のユーロの額は0.92になります。

通貨の上書き(Currency Overrides) 入力期間で、選択した入力メソッドを上書きして、デフォルト通貨/アイテムとして該当期間の値を入力できます。入力メソッドを上書きするには、数値の前または後にシャープ(#)を入力します。

通貨パーティション(currency partition) アプリケーションでの定義に従って、基本通貨から現地通貨メンバーを隔離する次元タイプです。通貨タイプ(実績、予算、予測など)を特定します。

通常仕訳(regular journal) 特定の期間に一度かぎりの調整を入力するための機能です。貸借一致、エンティティごとに貸借一致、貸借不一致のいずれかになります。

通知ガジェット(Notifications gadget) 他のユーザーやシステムから受け取った通知メッセージの履歴を表示します。

定義済ドリル・パス(predefined drill paths) データ・モデルでの定義に従って次の詳細レベルにドリルするために使用されるパスです。

適応状態(adaptive states) Interactive Reporting Web Client の権限レベルです。

テキスト・メジャー(text measure) メジャーの値をテキストとして表現できるデータ型です。Essbase では、メジャーが示されている次元で Text としてタグ付けされたメンバーを指します。セルの値は定義済テキストとして表示されます。たとえば、Satisfaction Index というテキスト・メジャーについては、Low、Medium、および High という値を含めることがあります。**型付きメジャー(typed measure)**、**テキスト・リスト(text list)**、および**導出テキスト・メジャー(derived text measure)**も参照してください。

テキスト・リスト(text list) Essbase で、数値の識別子にマッピングされたテキストの値を保管するオブジェクトです。テキスト・リストではテキスト・メジャーを使用できます。

テンプレート(template) 特定のデータを一貫して取得するように設計された定義済のフォーマットです。

デフォルト通貨単位(Default Currency Units) データの単位スケールを定義します。たとえば、千単位で分析を定義するように選択して10を入力すると、10,000と解釈されます。

データ関数(data function) データを集約する関数です。データの平均、最大値、カウントを求めたり、他の統計値によりデータのグループを集計します。

データ・キャッシュ(data cache) 非圧縮データ・ブロックを保持するメモリー内のバッファです。

データ・セル(data cell) [セル\(cell\)](#)を参照してください。

データ値(data value) [セル\(cell\)](#)を参照してください。

「データなし」ステータス(NO DATA status) 連結ステータスの一つです。特定の期間と勘定科目のデータがこのエンティティに含まれていないことを示します。

データ・ファイル・キャッシュ(data file cache) 圧縮データ(PAG)ファイルを保持する、メモリー内のバッファです。

データ・フォーム(data form) Web ブラウザなどのインタフェースからデータベースにデータを入力でき、データまたは関連テキストを表示して分析できるグリッド表示です。一部の次元メンバー値は固定され、データが特定の視点から表示されます。

データベース接続(database connection) データ・ソースへの接続に使用する定義とプロパティを保管し、データベース参照を移動可能にして広く使用できるようにするファイルです。

データ・マイニング(data mining) Essbase データベースを検索して、大量のデータの中から隠れた関係やパターンを見つけるプロセスです。

データ・モデル(data model) データベース・テーブルのサブセットを示します。

データ・ロック(data lock) 指定された基準(期間、シナリオなど)に従ってデータの変更を防ぎます。

データ・ロード位置(data load location) FDM で、ソース・データをターゲット・システムに送信する報告単位です。通常、ターゲット・システムにロードされる各ソース・ファイルに対して FDM のデータ・ロード位置が 1 つあります。

データ・ロードのルール(data load rules) テキストベース・ファイル、スプレッドシート、またはリレーショナル・データ・セットからのデータをデータベースにロードする方法を判別する一連の基準です。

透過パーティション(transparent partition) ローカルのデータベースの一部であるかのように、リモート・データベースのデータにアクセスして変更できるようにする共有パーティションです。

透過ログイン(transparent login) ログイン画面を起動せずに認証されたユーザーをログインさせます。

統合(integration) Shared Services を使用して EPM System 製品間でデータを移動するために実行されるプロセスです。データ統合の定義によりソース・アプリケーションと宛先アプリケーションの間でのデータの移動が指定され、データの動きのグループ化、順序付け、およびスケジュールが決定されます。

トップ・ラベルとサイド・ラベル(top and side labels) 列と行の見出しです。ピボット・レポートの上部とサイドにそれぞれ表示されます。

トラフィック・ライト(traffic lighting) 2 つの次元メンバーの比較、または一定の制限値に基づいて、レポートのセルまたはピンを色分けする機能です。

トリガー(triggers) ユーザーが指定した基準に従ってデータを監視するための、Essbase の機能の 1 つです。基準に一致すると、Essbase はユーザーまたはシステム管理者にアラートを送信します。

トレーサビリティ(traceability) メタデータ要素を物理ソースまで追跡する機能です。たとえば Essbase Studio の場合、キューブ・スキーマをそれ自体の階層およびメジャー階層から次元要素、日付/時間要素、メジャー、そして最終的には物理ソースまで追跡できます。

トレース・レベル(trace level) ログ・ファイルで捕捉された詳細のレベルを定義します。

トレース割当て(trace allocations) Profitability and Cost Management の機能の 1 つです。財務データのフローに対する視覚的な追跡を可能にします。この追跡は単一の交差から、モデル内の前方または後方に実行できます。

トークン(token) 外部認証システム上の 1 つの有効なユーザーまたはグループの暗号化された ID です。

トースト・メッセージ(toast message) 画面右下の隅に表示され、現れたり消えたりするメッセージです。

同期(sync) Shared Services とアプリケーション・モデルの同期です。

同期済(synchronized) モデルの最新バージョンがアプリケーションと Shared Services の両方に存在する状態を指します。[モデル\(model\)](#) も参照してください。

導出テキスト・メジャー(derived text measure) Essbase Studio で、範囲として表現された定義済ルールによって管理される値を持つテキスト・メジャーです。たとえば、Sales メジャーに基づき、High、Medium、および Low という値を含む Sales Performance Index という導出テキスト・メジャーの場合、対応する売上が該当する範囲に応じて High、Medium、および Low が表示されるように定義されます。[テキスト・メジャー\(text measure\)](#) も参照してください。

動的階層(dynamic hierarchy) 集約ストレージ・データベースのアウトラインに限定して、取得時に値が計算されるメンバーの階層です。

動的計算(dynamic calculation) Essbase で、動的計算メンバー、または動的計算および保管メンバーとしてタグ付けされているメンバーについてデータを取得する場合にのみ実行される計算です。メンバーの値は、バッチ計算で事前に計算されるのではなく、取得時に計算されます。

動的計算および保管メンバー(Dynamic Calc and Store members) ブロック・ストレージ・アウトラインで、値を最初に取得したときにのみ計算が行われるメンバーです。計算された値はデータベースに保管され、2回目以降の取得では計算を実行する必要がありません。

動的計算メンバー(Dynamic Calc members) ブロック・ストレージ・アウトラインで、取得時にのみ計算が行われるメンバーです。取得要求の処理が完了すると、計算された値は破棄されます。

動的参照(dynamic reference) データ・ソース内のヘッダー・レコードを指すルール・ファイル内のポイントです。

動的時系列(Dynamic Time Series) ブロック・ストレージ・データベースで、期間累計のレポート作成を実行するプロセスです。

動的ビュー勘定科目(dynamic view account) 勘定科目の種類の1つです。勘定科目の値は、表示されているデータから動的に計算されます。

動的メンバー・リスト(dynamic member list) システムにより作成される名前付きメンバー・セットです。ユーザーが定義した基準が使用されます。アプリケーションでリストが参照されると、リストは自動的にリフレッシュされます。次元メンバーの増減に応じて基準が自動的にリストに適用され、変更内容が反映されます。

動的レポート(dynamic report) レポートを実行するときに更新されるデータを含むレポートです。

ドメイン(domain) データ・マイニングにおいて、データ内での移動の範囲を表す変数です。

ドライバ(driver) ドライバは割当てメソッドの一種です。ドライバを利用する複数ソース間の数学的関係、およびこれらのソースがコストや収益を割り当てる宛先を示します。

ドリルスルー(drill-through) あるデータ・ソースの値から別のソースの対応するデータに移動することです。

ドリルダウン(drill-down) 次元の階層を使用してクエリ結果セット内をナビゲートすることです。ドリルダウンにより、ユーザーのパースペクティブが集約データから詳細に移ります。たとえば、ドリルダウンにより年と四半期の階層関係、または四半期と月の階層関係が明らかになります。

内部取引消去(Intercompany elimination) 消去(elimination) を参照してください。

名前付きセット(named set) MaxL DML で、MaxL DML クエリーのオプションの WITH セクションに定義された論理を使用するセットです。名前付きセットはクエリー内で複数回参照することが可能です。

入力データ(input data) 計算されるのではなくソースからロードされるデータです。

認証(authentication) 安全対策としての ID の確認です。一般に、認証はユーザー名およびパスワードに基づきます。パスワードおよびデジタル・シグネチャは認証のフォームです。

認証サービス(authentication service) 単一の認証システムを管理するコア・サービスです。

ネイティブ認証(native authentication) サーバーまたはアプリケーション内で、ユーザー名とパスワードを認証するプロセスです。

ネスト列見出し(nested column headings) 複数の次元からのデータを表示するレポート列の列見出しのフォーマットです。たとえば、Year と Scenario のメンバーが含まれる列見出しはネスト列です。ネスト列見出しでは、見出しの一番上の行の Q1(Year 次元)が、見出しの一番下の行の Actual および Budget(Scenario 次元)で修飾されます。

ノート(note) ボックス、メジャー、スコアカード、またはマップ要素に関連する補足情報です。

ハイパーテキスト・マークアップ言語(HTML)(Hypertext Markup Language(HTML)) Web ブラウザでのデータ表示を指定するプログラミング言語です。

ハイパーリンク(hyperlink) ファイル、Web ページ、またはイントラネット HTML ページへのリンクです。

ハイブリッド分析(Hybrid Analysis) リレーショナル・データベースに保管された下位のデータを、Essbase に保管された要約レベルのデータにマッピングする分析です。リレーショナル・システムの大規模スケーラビリティと多次元データを組み合わせます。

ハイライト(highlighting) 構成に応じて、チャートのセルまたはズームチャートの詳細がハイライトされ、値のステータス(赤色は不正、黄色は警告、緑色は良好)が示されます。

範囲(range) 上限と下限、およびその間に含まれる値のセットです。数字、金額、または日付を含むことが可能です。

反復タイム・イベント(recurring time event) ジョブの実行開始点と実行頻度を指定するイベントです。

反復テンプレート(recurring template) 各期間に対して同一の調整を行うための仕訳テンプレートです。

汎用ジョブ(generic jobs) SQR Production Reporting または Interactive Reporting 以外のジョブを指します。

凡例ボックス(legend box) 次元のデータ・カテゴリを特定するためのラベルを含むボックスです。

バックアップ(backup) アプリケーション・インスタンスの複製コピーです。

バッチ POV(batch POV) ユーザーの POV において、バッチに含まれる各レポートおよびブックのすべての次元の集合です。バッチのスケジュールを立てる際は、バッチ POV で選択されたメンバーを設定できます。

バッチ計算(batch calculation) データベースにおいてバッチで実行される計算です(計算スクリプト、すべてのデータベース計算など)。動的計算はバッチ計算とはみなされません。

バッチ処理モード(batch processing mode) サーバー管理や診断のルーチン・タスクを自動化するために使用できるバッチやスクリプト・ファイルを記述するために、ESSCMD を使用するメソッドです。ESSCMD スクリプト・ファイルは複数のコマンドを実行でき、オペレーティング・システムのコマンド・ラインから実行したり、オペレーティング・システムのバッチ・ファイルから実行したりすることが可能です。バッチ・ファイルを使用すると、複数の ESSCMD スクリプトを呼び出したり、ESSCMD の複数インスタンスを実行したりできます。

バッチ・ファイル(batch file) 複数の ESSCMD スクリプトを呼び出して複数の ESSCMD セッションを実行できるオペレーティング・システム・ファイルです。Windows システムの場合、バッチ・ファイルには BAT というファイル拡張子が付けられます。UNIX の場合、バッチ・ファイルはシェル・スクリプトとして記述されます。

バッチ・ローダー(batch loader) 複数ファイルの処理を可能にする FDM コンポーネントです。

バージョン(version) データのシナリオのコンテキスト内で使用される、起こりうる結果です。たとえば、Budget - Best Case と Budget - Worst Case では、Budget がシナリオであり、Best Case と Worst Case がバージョンです。

パターン照合(pattern matching) 条件として入力される項目の一部またはすべての文字と値を照合する機能です。欠落文字は、疑問符(?)またはアスタリスク(*)などのワイルド・カード値で表すことができます。たとえば、「Find all instances of apple」では apple が戻されるのに対して、「Find all instances of apple*」では apple、applesauce、applecranberry などが戻されます。

パフォーマンス・インディケータ(performance indicator) ユーザーが指定した範囲に基づくメジャーおよびスコアカード・パフォーマンスを示すために使用されるイメージ・ファイルです。ステータス記号とも呼ばれます。デフォルト・パフォーマンス・インディケータを使用することもできますが、無制限に独自のパフォーマンス・インディケータを作成することも可能です。

パブリック・ジョブ・パラメータ(public job parameters) 管理者が作成する再利用可能な名前付きジョブ・パラメータです。必要なアクセス権を持つユーザーがアクセスできます。

パブリック反復タイム・イベント(public recurring time events) 管理者が作成する再利用可能なタイム・イベントです。アクセス・コントロール・システムからアクセスできます。

パレット(palette) JASC に準拠し、.PAL 拡張子を持つファイルです。各パレットには相互に補完し合う 16 色が含まれ、ダッシュボードの色要素の設定に使用することが可能です。

パースペクティブ(perspective) スコアカードのメジャーやアプリケーションにおける戦略目標をグループ化するために使用されるカテゴリです。パースペクティブにより、主要な利害関係者(顧客、従業員、株主、金融関係者など)またはキー・コンピテンシ領域(時間、コスト、品質など)を示すことができます。

パーティション化(partitioning) データ・モデルの間で共有またはリンクされるデータの領域を定義するプロセスです。パーティション化は Essbase アプリケーションのパフォーマンスとスケーラビリティに影響することがあります。

パーティション領域(partition area) データベース内のサブ・キューブです。パーティションは、データベースの一部からの1つ以上のセル領域から構成されません。複製パーティションおよび透過パーティションの場合、2つのパーティションが同じ形状となるために、領域内のセルの数がデータ・ソースとターゲットで同一となる必要があります。データ・ソース領域に18個のセルが含まれる場合、データ・ターゲット領域にも対応する18個のセルが含まれていなければいけません。

「非アクティブ」ステータス(INACTIVE status) エンティティの当期の集計が非アクティブにされていることを示します。

非アクティブ・グループ(inactive group) 管理者によりシステムへのアクセスが非アクティブにされているグループです。

非アクティブ・サービス(inactive service) 稼動が一時停止しているサービスです。

非アクティブ・ユーザー(inactive user) 管理者によりアカウントが非アクティブにされているユーザーです。

非次元モデル(non-dimensional model) Shared Services のモデル・タイプの1つです。セキュリティ・ファイル、メンバー・リスト、計算スクリプト、Web フォームなどのアプリケーション・オブジェクトが含まれます。

日付メジャー(date measure) Essbase で、メジャーが示されている次元で「日付」のタグが付けられているメンバーです。セルの値はフォーマット済の日付として表示されます。メジャーとしての日付は時間次元を使用して示すことが困難なタイプの分析に役立つことがあります。たとえば、一連の固定資産の取得日をアプリケーションで追跡する必要がある場合、取得日の範囲が実現可能な時間次元モデリングの範囲を超えて長期にわたってしまうことがあります。**型付きメジャー(typed measure)**も参照してください。

表示タイプ(display type) リポジトリに保存された3種類の Web Analysis フォーマット(スプレッドシート、チャート、ピンボード)のいずれかを指します。

標準仕訳テンプレート(standard journal template) 各期間に共通する調整を転記するために使用する仕訳の機能です。たとえば、共通する勘定科目 ID、エンティティ ID、または金額を含む標準テンプレートを作成すると、これを多数の通常仕訳の基準として使用できます。

標準次元(standard dimension) 属性次元以外の次元です。

ビジネス・プロセス(business process) 集合的にビジネス上の目標を達成するための一連のアクティビティです。

ビジネス・ルール(business rules) 期待される一連の結果値を生成するためにアプリケーション内に作成される論理式または式です。

ビジュアル・キュー(visual cue) 特定のタイプのデータ値をハイライトする、フォントや色などのフォーマットが設定されたスタイルです。データ値は、次元メンバー、親メンバー、子メンバー、共有メンバー、動的計算、式を含むメンバー、読取り専用データ・セル、読取りおよび書込みデータ・セル、またはリンク・オブジェクトのいずれかになります。

ビュー(view) 年次累計または期別のデータを示すものです。

ピボット(pivot) 取得したデータのパーспекティブを変更する機能です。Essbase では、まず次元が取得され、データが行に展開されます。その後、データのピボット(並べ替え)を行うことにより、異なる視点を得ることができます。

ピン(pins) ピンボードと呼ばれるグラフィック・レポート上に配置される対話型アイコンです。ピンは、基盤となるデータ値や分析ツールの基準に基づいて、イメージやグラフィック・ライトの色を変更できます。

ピンボード(pinboard) 3種類のデータ・オブジェクトの表示タイプの1つです。ピンボードは、背景およびピンと呼ばれる対話型アイコンから成るグラフィックです。ピンボードを使用するにはグラフィック・ライトを定義する必要があります。

ファイルの区切り文字(file delimiter) データ・ソース内のフィールドを区切る文字です(カンマ、タブなど)。

ファクト・テーブル(fact table) スター結合スキーマの中心のテーブルです。外部キー、および次元テーブルから取得した要素により特徴付けられます。通常、このテーブルにはスキーマの他のすべてのテーブルに関連する数値データが含まれます。

フィルタ(filter) データ・セットで、特定の基準に従って値を制限する制約です。たとえば、特定のテーブル、メタデータ、または値を除外したり、アクセスを制御したりする場合に使用されます。

フィールド(field) データ・ソース・ファイル内の項目です。Essbase データベースにロードされます。

フォルダ(folder) 他のファイルを含んで階層を形成するファイルです。

フォーマット(format) ドキュメントやレポート・オブジェクトの視覚的な特性です。

フォーマット文字列(format string) Essbase で、セルの値の表示を変換するメソッドです。

復元(restore) データベースが破損または破壊された場合にデータおよび構造の情報を再ロードする操作です。通常、データベースをシャット・ダウンおよび再起動した後で実行されます。

複製パーティション(replicated partition) パーティション・マネージャにより定義されるデータベースの一部です。あるサイトで管理されるデータの更新を別のサイトで保管されているデータのコピーに伝播するために使用されます。ユーザーは、ローカルのデータベースと同じようにデータにアクセスできます。

負債勘定科目(liability account) 一定時点における会社の負債残高を保管する勘定科目タイプです。未払費用、買掛金勘定、長期借入金などが負債勘定科目に含まれます。

フッター(footer) レポート・ページ下部に表示されるテキストまたはイメージです。ページ番号、日付、ロゴ、タイトル、ファイル名、作成者名など、動的な関数や静的なテキストが含まれます。

フリーフォーム・グリッド(free-form grid) 動的計算のために、複数のソースからのデータを提示、入力、および統合するためのオブジェクトです。

フリーフォーム・レポート作成(free-form reporting) ワークシートに次元メンバーまたはレポート・スクリプト・コマンドを入力することにより、レポートを作成することを指します。

フレーム(frame) デスクトップ上の領域です。ナビゲーション・フレームと Workspace フレームが 2 つの主要な領域となります。

フロー勘定科目(flow account) 期別と年次累計の符号なしの値を保管する勘定科目です。

ブック(book) 類似する Financial Reporting ドキュメントのグループを含むコンテナです。ブックには、次元セクションまたは次元の変更が指定されていることがあります。

ブックの POV(book POV) ブックが実行される次元のメンバーです。

ブックマーク(bookmark) ユーザー個人のページに表示されるレポート・ドキュメントまたは Web サイトへのリンクです。ブックマークには、マイ・ブックマークとイメージ・ブックマークの 2 つのタイプがあります。

ブロック(block) プライマリ・ストレージ・ユニットです。多次元配列であり、すべての密次元のセルを表します。

ブロックされた勘定科目(Blocked Account) 手動で入力する必要があるために集計ファイルの計算に含めない勘定科目です。

ブロック・ストレージ・データベース(block storage database) 疎次元に定義されたデータ値の密度に基づいてデータを分類および保管する、Essbase のデータベース・ストレージ・モデルです。データ値はブロック単位で保管され、ブロックは値を含む疎次元メンバーについてのみ存在します。

ブロードキャスト・メッセージ(broadcast message) Planning アプリケーションにログオンしているユーザーに対して管理者が提出する単純なテキスト・メッセージです。メッセージには、システムの可用性、アプリケーション・リフレッシュの通知、アプリケーションのバックアップなどのユーザー向けの情報が表示されます。

分離レベル(isolation level) データベース操作のロックとコミットの動作(コミット・アクセスまたはアンコミット・アクセス)を決定する Essbase カーネルの設定です。

プライマリ・メジャー(primary measure) 企業および事業のニーズにとって重要な、優先度の高いメジャーです。コンテンツ・フレームに表示されます。

プランナ(planner) プランナは、大多数のユーザーから構成されます。データの入力と送信、他のプランナが作成したレポートの使用、ビジネス・ルールの実行、タスク・リストの使用、電子メール通知の使用、および Smart View の使用が可能です。

プランニング・ユニット(planning unit) シナリオ、バージョン、およびエンティティの交差におけるデータ・スライスです。プラン・データの準備、確認、注釈付け、および承認のための基本単位です。

プレゼンテーション(presentation) Web Analysis ドキュメントのプレイリストです。レポートの分類、整理、並べ替え、配布、および確認を行うことができます。リポジトリ内のレポートを参照するポインタを含みます。

プロキシ・サーバー(proxy server) セキュリティを保証するために、ワークステーション・ユーザーとインターネットの間で仲介を行うサーバーです。

プロジェクト(project) 実装でグループ化された EPM System 製品のインスタンスです。たとえば、Planning プロジェクトには Planning アプリケーション、Essbase キューブ、Financial Reporting サーバー・インスタンスが含まれることがあります。

プロセス監視レポート(process monitor report) FDM データ変換プロセスにおける、場所のリストとその位置を表示します。プロセス監視レポートを使用して、決算手続のステータスを監視できます。レポートにはタイム・スタンプが付けられるので、時間データがロードされた場所を判別するために使用できます。

プロット領域(plot area) X 軸、Y 軸、および Z 軸で囲まれている領域です。円グラフの場合は、その周りに表示される長方形の領域です。

プロパティ(property) アーチファクトの特性です(サイズ、タイプ、処理手順など)。

プロビジョニング(provisioning) ユーザーおよびグループに対して、リソースへのアクセス権を付与するプロセスです。

並列エクスポート(parallel export) Essbase データを複数のファイルにエクスポートする機能です。並列エクスポートは、1つのファイルにエクスポートした場合に比べて時間を短縮できます。また、1つのデータ・ファイルでサイズが大きくなりすぎた場合の、オペレーティング・システムでの操作上の問題を解決できます。

並列計算(parallel calculation) 計算オプションの1つです。Essbase では計算がタスクに分割され、一部のタスクは同時に計算されます。

並列データ・ロード(parallel data load) Essbase で、複数プロセスのスレッドによりデータ・ロードのステージを同時に実行することを指します。

ヘッド・アップ・ディスプレイ(head up display) Windows デスクトップの上に、背景イメージを含むロード済 Smart Space デスクトップを表示するモードです。

変換(transformation) (1)アプリケーションの移行後も宛先環境で正しく機能するように、アーチファクトを変換します。(2)データ・マイニングで、キューブおよびアルゴリズムのセルの間で(双方向に)流れるデータを変更します。

変換先通貨(destination currency) 残高の変換後の通貨です。為替レートを入力して、変換元通貨から変換先通貨に変換します。たとえばユーロから米ドルに変換する場合、変換先の通貨は米ドルです。

変換元通貨(source currency) 為替レートを使用して変換先通貨に変換される前の、値の元の通貨です。

「変更済」ステータス(CHANGED status) 集計ステータスの1つです。エンティティのデータが変更されたことを示します。

別名(alias) 代替名です。たとえば、列をより簡単に特定する記述子として、メンバー名のかわりに別名を表示できます。

別名テーブル(alias table) メンバーの代替名を含むテーブルです。

ページ(page) グリッドまたはテーブルでの情報表示の一種です。しばしば Z 軸により示されます。ページには、1つのフィールドからのデータ、計算により得られるデータ、またはテキストを含めることができます。

ページ・ファイル(page file) Essbase のデータ・ファイルです。

ページ見出し(page heading) レポートの現在のページで表示されているメンバーをリストした、レポート見出しの一種です。ページ上のすべてのデータ値には、ページ見出し内のメンバーが共通属性として適用されています。

ページ・メンバー(page member) ページ軸を判別するメンバーです。

保管階層(stored hierarchy) 集約ストレージ・データベースのアウトラインのみで使用される用語です。アウトラインの構造に従ってメンバーが集約される階層を指します。保管階層のメンバーには、式を含むことができないなどの一定の制限があります。

ホスト(host) アプリケーションとサービスがインストールされているサーバーです。

ホスト・プロパティ(host properties) ホストに関するプロパティです。ホストに複数の Install_Home が含まれる場合は、いずれかの Install_Home に関するプロパティとなります。ホスト・プロパティは CMC から構成されます。

保存された仮定(saved assumptions) ビジネス上の主要な計算を推進するための、Planning でのユーザー定義の仮定です(事業所の床面積 1 平方フィート当たりのコストなど)。

棒グラフ(bar chart) 1-50 のデータ・セットを含むことができるグラフです。各データ・セットには任意の数の値を割り当てることができます。データ・セットは、対応する棒のグループ、上下に積み上げた棒、または別々の行に個別の棒として表示されます。

マイ Workspace ページ(My Workspace Page) 複数のソース(ドキュメント、URL、その他のコンテンツ・タイプ)からのコンテンツを使用して作成されるページです。Oracle およびその他のソースからのコンテンツを集約するために使用できます。

マイニング属性(mining attribute) データ・マイニングにおいて、一連のデータを分析する際の係数として使用する値のクラスです。

マスター・データ・モデル(master data model) 複数のクエリーによりソースとして参照される独立するデータ・モデルです。このモデルが使用される場合は、「クエリー」セクションのコンテンツ・ペインに「ロック済データ・モデル」と表示されます。データ・モデルは「データ・モデル」セクションに表示されるマスター・データ・モデルにリンクされています(管理者によって非表示になっていることがあります)。

マップ・ナビゲータ(Map Navigator) 戦略、責任、および因果関係の各マップに現在の位置を示す機能です。赤色のアウトラインで示されます。

マップ・ファイル(Map File) 外部データベースとの間でのデータの送信や取得のための定義を保管するために使用されます。マップ・ファイルの拡張子は、データ送信用が.mps、データ取得用が.mpr となります。

マルチロード(multiload) 複数の期間、カテゴリ、および場所を同時にロードすることを可能にする FDM の機能です。

マージ(merge) データ・ロード・オプションの 1 つです。データ・ロード・ファイルで指定された勘定科目の値のみを消去し、データ・ロード・ファイルの値で置換します。

密次元(dense dimension) ブロック・ストレージ・データベースで、次元メンバーのすべての組合せのデータを含んでいる可能性のある次元です。たとえば、時間次元はすべてのメンバーのあらゆる組合せを含んでいる可能性があるために、しばしば密な次元となっています。疎次元(sparse dimension)と対比してください。

ミニスキーマ(minischema) データ・ソースからのテーブルのサブセットをグラフィカルに示したものです。データ・モデリングのコンテキストを表します。

ミニレポート(minireport) レポートのコンポーネントの 1 つです。レイアウト、コンテンツ、ハイパーリンク、およびレポートのロード用の 1 つ以上のクエリーを含みます。各レポートには、1 つ以上のミニレポートを含めることができます。

耳折れ(dog-ear) 折り曲げられたページの角です。チャートのヘッダー領域の右上の隅に表示されます。

メジャー(measures) OLAP データベースのキューブに含まれる数値で、分析に使用されます。メジャーには、利益幅、売上原価、売上数量、予算などがあります。ファクト・テーブル(fact table)も参照してください。

メタアウトライン(metaoutline) Integration Services で、OLAP モデルから Essbase のアウトラインを作成するための規則と構造を含んだテンプレートです。

メタデータ(metadata) データベースに保管された、またはアプリケーションにより使用されるデータの属性と属性を定義および説明するデータ・セットです。メタデータには、次元名、メンバー名、プロパティ、期間、およびセキュリティなどが含まれます。

メタデータ・セキュリティ(metadata security) ユーザーにより特定のアウトライン・メンバーへのアクセスを制限するための、メンバー・レベルのセキュリティ・セットです。

メタデータのサンプリング(metadata sampling) ドリルダウン操作で次元に含まれるメンバーのサンプルを取得するプロセスです。

メタデータ要素(metadata elements) データ・ソースから算出されるメタデータ、および Essbase Studio で使用するために保管され、カタログが作成されるおよびその他のメタデータです。

メトリック(metric) ビジネス・データから計算される数値測定単位です。業績評価や企業トレンド分析に役立ちます。

メンバー(member) 次元内の個別のコンポーネントです。メンバーにより、類似する単位の集まりが個別に特定および区別されます。たとえば、時間次元には Jan、Feb、および Qtr1 などのメンバーが含まれることがあります。

メンバー選択レポート・コマンド(member selection report command) 兄弟、世代、レベルなどのアウトラインの関係に基づいて、メンバーの範囲を選択するレポート・ライター・コマンドの一種です。

メンバー専用レポート・コマンド(member-specific report command) レポート・ライターのフォーマット・コマンドの1つです。レポート・スクリプトで現れると実行されます。このコマンドは関連するメンバーにのみ影響し、メンバーを処理する前にフォーマット・コマンドを実行します。

メンバー・リスト(member list) 次元のメンバー、関数、他のメンバー・リストを示す名前付きのグループです。システムまたはユーザーにより定義されます。

メンバー・ロード(member load) Integration Services で、次元およびメンバー(データを含まない)を Essbase のアウトラインに追加するプロセスです

目標(target) 指定された期間(日、四半期など)についてメジャーに期待される結果です。

持株会社(holding company) 法的エンティティ・グループの一部であるエンティティです。グループ内のすべてのエンティティに対して直接的または間接的に投資しています。

モデル(model) (1)データ・マイニングで、アルゴリズムにより検査されたデータに関する情報の集合です。より広範なデータ・セットにモデルを適用することにより、データに関する有用な情報を生成できます。(2)アプリケーション固有の方法で示したデータが含まれるファイルまたはコンテンツの文字列です。モデルは Shared Services により管理される基本データであり、次元と非次元のアプリケーション・オブジェクトという2つの主要なタイプがあります。(3)Business Modeling で、検査対象の領域からの業務および財務上のフローを示し、また計算するために接続されたボックス・ネットワークです。

役割(role) リソースへのアクセス権をユーザーおよびグループに付与する際に使用される手段です。

ユーザー定義属性(UDA)(user-defined attribute(UDA)) アウトラインのメンバーに関連付けられ、メンバーの特性を説明します。UDA を使用すると、指定された UDA が関連付けられているメンバーのリストが戻されます。

ユーザー定義メンバー・リスト(user-defined member list) ユーザー定義による、特定の次元に含まれるメンバーの静的なセットです。

ユーザー・ディレクトリ(user directory) ユーザーおよびグループの情報を集中管理する場所です。リポジトリまたはプロバイダとも呼ばれます。

ユーザー変数(user variable) ユーザーのメンバー選択に基づいて、データ・フォームを動的に配置し、指定されたエンティティのみを表示します。たとえば、Department というユーザー変数を使用すると、特定の部署および従業員を表示できます。

要約チャート(Summary chart) 「調査」セクションで、同じ列内で下に表示される詳細チャートをロール・アップし、各チャート列最上位の要約レベルにメトリックを描画します。

予算管理者(budget administrator) アプリケーションの設定、構成、維持、および制御の担当者です。アプリケーションのすべての権限およびデータ・アクセス権を持ちます。

ライトバック(write-back) 取得を行うスプレッドシートなどのクライアントが、データベースの値を更新する機能です。

ライフ・サイクル管理(life cycle management) アプリケーション情報をライフサイクルの最初から最後まで通して管理するプロセスです。

ライフサイクル管理ユーティリティ(Lifecycle Management Utility) アプリケーションとアーチファクトの移行に使用されるコマンドラインユーティリティです。

ライン・アイテムの詳細(line item detail) 勘定科目で最も下位の詳細レベルです。

リソース(resources) システムにより管理されるオブジェクトまたはサービスです(役割、ユーザー、グループ、ファイル、ジョブなど)。

リポジトリ(repository) ビューおよびクエリーに使用するためのメタデータ、フォーマット、および注釈の情報を保管します。

領域(area) メンバーおよび値の定義済みのセットであり、パーティションを構成します。

履歴平均(Historical Average) 多数の履歴期間にわたる勘定科目の平均です。

リレーショナル・データベース(relational database) 関連する2次元テーブルにデータを保管するデータベースです。**多次元データベース(multidimensional database)**と対比してください。

リンク(link) (1)リポジトリ・オブジェクトへの参照です。リンクはフォルダ、ファイル、ショートカットなどの参照に使用できます。(2)タスクフローで、あるステージのアクティビティが終了して次のアクティビティが開始するポイントです。

リンク条件(link condition) タスクフローのステージを順序付けるためにタスクフロー・エンジンにより評価される論理式です。

リンク・データ・モデル(linked data model) リポジトリのマスター・コピーにリンクされたドキュメントです。

リンク・パーティション(linked partition) データ・セルを使用して2つのデータベースをリンクするための共有パーティションです。ワークシートのリンク・セルをクリックすると、リンク・データベースの次元を示す新規シートが開きます。これにより、表示される次元をドリルダウンできます。

リンク・レポート・オブジェクト(LRO)(linked reporting object(LRO)) セル・ノート、URL、テキスト、オーディオ、映像、画像を含むファイルなどの外部ファイルへのセルベースのリンクです。Financial Reporting では、Essbase LRO 向けにサポートされるのはセル・ノートのみです。**ローカル・レポート・オブジェクト(local report object)**と対比してください。

隣接する四角形(bounding rectangle) Interactive Reporting ドキュメントのセクションを個人用ページに埋め込む場合に、Interactive Reporting ドキュメントのコンテンツをカプセル化する必須のパラメータです。高さと幅を表すピクセル、または1ページ当たりの行数により指定されます。

レイアウト領域(layout area) Workspace ページで、コンテンツを配置可能な領域を指定するために使用されます。

例外(exceptions) 事前定義済みの条件を満たす値です。フォーマット・インディケータを定義したり、例外が生成されたときに登録ユーザーに通知したりできます。

レイヤー(layer) (1)階層構造内で横並びにメンバーを含む場所です。世代(上から下へ)またはレベル(下から上へ)により指定されます。(2)他のオブジェクトに対して相対的なオブジェクトの場所です。たとえば、Sample Basic データベースでは Qtr1 と Qtr4 は同じ年に含まれるので、世代が同一であることとなります。しかし、不均衡階層を含むデータベースの場合、Qtr1 と Qtr4 は同一世代であっても同じレイヤーに位置しないことがあります。

レコード(record) データベースで、1つの完全な入力項目を形成するフィールドのグループです。たとえば、顧客レコードには、名前、住所、電話番号、および販売データのフィールドが含まれることがあります。

列(column) グリッドまたはテーブルで縦方向に表示される情報です。列には、特定のフィールドからのデータ、計算により得られたデータ、またはテキストの情報が含まれます。

レベル(level) 階層ツリー構造において、データベース・メンバーの関係を定義するレイヤーです。レベルは一番下の次元メンバー(レベル0)から上位の親メンバーへと並べられます。

レベル0のブロック(level 0 block) 疎のレベル0メンバーの組合せに使用されるデータ・ブロックです。

レベル 0 のメンバー(level 0 member) 子の存在しないメンバーです。

レポート・エクストラクタ(Report Extractor) スクリプトの実行時に、Essbase データベースからのレポート・データを取得する Essbase コンポーネントです。

レポート・オブジェクト(report object) レポートの設計において、テキスト・ボックス、グリッド、イメージ、チャートなどの動作や外観を定義するプロパティを持つ基本要素です。

レポート・スクリプト(report script) 1 つ以上の運用レポートを生成する、Essbase レポート・ライター・コマンドを格納したテキスト・ファイルです。

レポートの通貨(reporting currency) 財務諸表を準備するために使用される通貨です。現地通貨からレポートの通貨に変換されます。

レポート・ビューア(Report Viewer) レポート・スクリプトの実行後に完全なレポートを表示する Essbase コンポーネントです。

連結(consolidation) 従属するエンティティからのデータを親エンティティに集約するプロセスです。たとえば、次元 Year に Qtr1、Qtr2、Qtr3、および Qtr4 というメンバーが含まれている場合、この集計は Year になります。

連結比率(percent consolidation) 親に連結された子の値の割合です。

ログ・アナライザ(Log Analyzer) Essbase ログのフィルタ、検索、および分析を行うための Administration Services の機能です。

ロケーション別名(location alias) データ・ソースを特定する記述子です。ロケーション別名により、サーバー、アプリケーション、データベース、ユーザー名、およびパスワードが指定されます。ロケーション別名は、DBA のデータベース・レベルで管理サービス・コンソール、ESSCMD、または API を使用して設定されます。

ロケール(locale) コンピュータで使用される言語、通貨、および日付フォーマット、データのソート順、文字セットのエンコード方式を指定するコンピュータ設定です。Essbase ではエンコード方式のみが使用されます。**エンコード方式(encoding)** および **ESSLANG** も参照してください。

ロケール・ヘッダー・レコード(locale header record) スクリプトなど、一部の非 Unicode でエンコードされたテキスト・ファイルの先頭で、エンコード・ロケールを特定するテキスト・レコードです。

ロック済(locked) ユーザーやプロセスがデータを変更するのを防ぐために、ユーザーが呼び出すプロセスです。

「ロック済」ステータス(LOCKED status) 連結ステータスの一つです。変更できないデータがエンティティに含まれていることを示します。

ロック済データ・モデル(locked data model) ユーザーが変更できないデータ・モデルです。

論理グループ(logic group) FDM で、ソース・ファイルが FDM にロードされた後に生成される 1 つ以上の論理勘定を含みます。論理勘定はソース・データから導き出される計算済勘定です。

ローカル結果(local results) データ・モデルのクエリー結果です。ローカルの結合で結果を使用する場合は、結果をデータ・モデルにドラッグして挿入できます。ローカル結果を要求すると、カタログに表示されます。

ローカル・レポート・オブジェクト(local report object) Explorer で Financial Reporting レポート・オブジェクトにリンクされていないレポート・オブジェクトです。**リンク・レポート・オブジェクト(LRO)** (**linked reporting object(LRO)**) と対比してください。

ロールアップ(roll-up) **連結(consolidation)** を参照してください。

ワイルド・カード(wild card) 検索文字列で、任意の 1 文字または文字グループを示す文字(*)です。

割当て(assignment) 割当てでモデルでのソースと宛先の関連付けです。Profitability and Cost Management で、割り当てられたコストや収益のフローの方向を制御します。

ワーク・フロー(work flow) FDM でデータを最初から最後まで処理するために必要なステップです。ワークフローは、インポート(GL ファイルからのデータ・ロード)、検証(すべてのメンバーが有効なアカウントにマッピングされていることの確認)、エクスポート(マッピングされたメンバーのターゲット・アプリケーションへのロード)、およびチェック(ユーザー定義の検証ルールを使用してデータを処理することにより、データの精度を確認)から構成されます。

ワークブック(workbook) 多数のワークシートを含むスプレッドシート・ファイル全体です。

索引

記号

3次元チャート、表示, 275

<>¥, 261

=, 261

¥<, 261

¥<=, 261

¥>, 261

¥>=, 261

A - Z

API、例外, 524

ASK パラメータ, 529

BEGINS WITH, 261

BETWEEN, 261

BLOB イメージ, 241

BLOB データ型, 245

BQY, 224

個人用ページのセクション、埋込み, 163, 164

ドキュメント

アクセス権の設定, 140

ドキュメント・セクション、個人用ページの埋込み, 163

ファイル、プロパティ, 144

CONTAINS, 261

CubeQuery

カタログ, 307

CubeQuery セクション

ラベルなし, 340

CubeQuery セクションでの選択項目のみ削除, 317

CubeQuery セクションでの選択項目のみ保持, 316

CubeQuery セクションでのドリル, 317

CubeQuery セクションの変数, 314

CubeQuery セクションでの結果へのダウンロード, 326

ENDS WITH, 261

EQUAL, 261

Essbase

Hyperion Analyzer により拡張される機能, 437

代替変数。「代替変数。」を参照

Financial Management

Studio の機能, 35

Web Analysis により拡張される機能, 35
概要, 35

Financial Reporting

関連コンテンツ・サーバーの変更, 113

データベース接続の管理, 115

データベース接続の変更, 114

Financial Reporting Studio

概要, 34

データベース接続, 35

Financial Reporting ツールバー、定義済ボタン, 52

Firefox

ステータス・バー, 24

GREATER OR EQUAL, 261

GREATER THAN, 261

HTML

個人用ページでのコンテンツの表示, 161

デフォルト・ジョブ出力フォーマット, 491

HTML ドキュメント、バッチ・ジョブの出力, 217

HTML ファイル

個人用ページからの削除, 162

個人用ページの要素, 159

セキュリティ・タグ, 521

発行, 131

Hyperion Financial Management

Hyperion Analyzer により拡張される機能, 440

概要, 440

規則, 443

メンバー選択の詳細設定, 442, 445

- Hyperion Reporting and Analysis
 - スマート・ビュー・エクスポート・オプション, 109
- INPUT パラメータ、パラメータ表示要素, 529
- Intelligence Client セクション。「セクション。」を参照
- Intelligence iServer
 - 埋め込まれたセクション, 163
- Interactive Reporting
 - インポート, 110
 - ジョブ
 - ジョブ・パラメータの設定, 496
 - 複数サイクルのアクション・オプション, 500
 - プロパティ, 489
- Interactive Reporting Studio、概要, 34
- Interactive Reporting クエリーの作成, 240
- Interactive Reporting ツールバー, 220, 221
- Interactive Reporting ツールバー、定義済ボタン, 53
- Interactive Reporting データベース接続ファイル (.oce), 237
- &Interactive Reporting ドキュメント(BQY)
 - 取扱い, 223
- Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の保存, 228
- Interactive Reporting ドキュメント(BQY)のローカル保存, 228
- Interactive Reporting ドキュメントの作成, 225
- Interactive Reporting ドキュメント・ファイル
 - Interactive Reporting ドキュメント(BQY)の保存, 228
 - プロセス, 233
- Interactive Reporting ドキュメント・ファイル (BQY)
 - アクセス, 227
 - 理解, 224
- Interactive Reporting ドキュメント・ファイルの保存, 228
- Interactive Reporting のデータ・モデル, 238
- Interactive Reporting プリファレンス, 79
- IS NULL, 261
- LESS OR EQUAL, 261
- LESS THAN, 261
- LIKE, 261
- Microsoft Office
 - Web Analysis ドキュメントのインポート, 112
- Microsoft 向け Oracle BI, 59
- MIME タイプ
 - 定義済, 143
 - 不明, 129
- MS Excel, 235
- NOT EQUAL, 261
- NOT(演算子付き), 261
- OCE ファイル
 - オプション, 146
 - 定義済, 492
- OLAP ジョブ・パラメータ, 498
- OLAP セクション, 300
- OLAP 用語, 300
- OPEN ステートメント(Production Reporting), 522
- Oracle BI Answers、Dashboards、Delivers、プリファレンス, 81
- Oracle BI Publisher: プリファレンス, 79
- PDF, 234
- PDF ファイル、バッチ出力, 217
- Planning Details ADM ドライバ, 35
- Production Reporting
 - 安全なジョブ, 521
 - 勧告, 522
 - 権限, 522
 - セキュリティ情報の表示, 523
 - セキュリティ・タグ, 521
 - セキュリティ・モード, 522
 - ジョブ
 - OPEN ステートメント, 522
 - 同じジョブからの安全および安全ではない出力, 522
- Production Reporting Studio、概要, 34
- Production ReportingProgramOutput オブジェクト, 522
- Production Reporting ジョブ
 - 安全な Production Reporting ジョブ, 521
- Production Reporting ツールバー、定義済ボタン, 53
- Production Reporting プリファレンス
 - フォルダ, 78
- Production Reporting プログラム
 - 例外サポート, 523
- SAP BW
 - InfoProvider, 36

前提条件, 36
 データソース, 36
 SAP BW:セキュリティ統合, 40
 SAP BW 属性, 39
 SAP BW の機能, 36
 SAP BW: 変数, 37
 Smart View
 インストール, 110
 エクスポート, 108
 Smart View、Microsoft Office での使用法, 44
 SPFFileOutputCollection オブジェクト, 522
 SPF ファイル
 安全な Production Reporting ジョブ, 521
 ジョブとして発行, 521
 セキュリティの勧告, 522
 SPF ファイル・フォーマット, 516
 SQR および汎用ジョブ・パラメータ、設定, 465
 SSL
 外部認証用の構成, 113
 URL、リポジトリ, 98
 Web Analysis Studio、概要, 33
 Web Analysis ツールバー、定義済ボタン, 51
 Web Analysis プリファレンス
 データベース, 71
 フォーマット, 71
 Workspace
 Oracle Business Intelligence Enterprise Edition, 25
 PDF レポートの表示, 23
 Smart View のインストール, 110
 アイテム, 24
 アイテムのアクセス, 27
 アイテムの使用法, 26
 カスタマイズ, 45, 89
 機能, 25
 基本タスク, 25
 タスクの開始, 40
 ドキュメントの作成, 40, 41
 配置タスク, 24
 ファイルの権限, 30
 プリファレンスの設定, 32
 モジュール・タスク, 27
 ユーザー・インタフェース, 27
 ユーザー・タイプおよびタスク, 27
 ユーザー・プロビジョニング, 116
 ログオン, 30

Workspace ページ
 マイ Workspace ページまたは共有 Workspace ページ, 24
 Workspace ページ、使用方法, 46, 174

あ行

アイコン
 高優先度, 524
 プロパティの変更, 523
 アイテム
 エクスポート, 108
 追加、イメージ・ブックマーク, 165
 追加、マイ・ブックマーク, 165
 アイテムの変更、サブスクライブ, 155
 アイテムを開く、使用方法, 44
 アクション、複数サイクル Interactive Reporting ジョブ, 500
 アクセス、アクセスの設定, 136
 アクセス権
 BQY ドキュメント、設定, 140
 設定, 136
 説明, 139
 定義済, 136
 アクセスのないラベル, 341
 アクセス・モード、有効化, 63
 アクティブなユーザー・プリファレンス, 71
 アクティブ・プリファレンス、ユーザー・インタフェース, 69, 71
 値のない列, 340
 値の表示, 260
 アラート・ダイアログ・ボックス, 223
 安全な Production Reporting ジョブ。
 「Production Reporting」を参照
 安全モード, 523
 アーチファクト
 アクセス権の設定, 136
 アーチファクトの非表示、発行時, 143
 イベント
 新しい個人用反復タイムの作成, 465
 削除, 466
 定義済, 457, 458
 表示, 466
 変更, 466
 イメージ・ブックマーク
 アイテム、追加, 165
 個人用ページの要素, 159

イメージ・ブックマーク、個人用ページ要素、
46
色
色による非表示, 390
選択, 422
印刷
スナップショット・レポート, 185
ブックおよびスナップショット・ブック,
214
レポート, 185
インストール
Smart View を Workspace から, 110
インパクト・マネージャ・モジュール・ツール
バー、定義されたボタン, 54
インポート
Interactive Reporting, 110
ウィンドウ、コンテンツの再配置, 170
エクスプローラ
プリファレンス, 67
エクスプローラの注釈, 25
エクスプローラ・モジュール・ツールバー
定義済ボタン, 54
エクスポート
Production Reporting を Excel に, 113
Smart View, 108
Web Analysis, 112
アイテム, 108
サポートするウェブ・アプリケーション,
109
財務レポート, 111
スナップショット, 111
スマート・ビュー・オプション, 109
例外, 110
円グラフ
説明済, 272
円グラフのパーセンテージの表示, 272
演算子, 245, 261
お気に入り
概要, 46
ドキュメントの削除, 43
ドキュメントの追加, 43
お気に入りからのドキュメントの削除, 43
お気に入りへのドキュメントの追加, 43
帯グラフ, 279
オブジェクト、セキュリティ・モード, 522
オプション、インポート, 110

オプションとプロパティ、すべてのアーチファ
クトの発行時, 141
折れ線グラフ, 278

か行

開始ページ
設定, 64
デフォルト, 64
カスタマイズ
Workspace, 89
個人用ページのコンテンツ, 161
ビュー・ペインおよびコンテンツ領域, 90
ユーザー・インタフェース, 64
例外ダッシュボード, 169
カスタム値, 262
家族関係, 305
可変フィルタ, 253
カレンダー、選択, 491
管理モジュール・ツールバー、定義されたボタ
ン, 54
関連コンテンツ
関連コンテンツ・サーバーの変更, 113
使用, 189
セル・テキスト, 441
定義, 389
基準線, 283
基準線の全般プロパティ, 287
基準線のラベル・フォーマットのプロパティ,
288
機能
Essbase, 437
Financial Management, 35
Hyperion Financial Management, 440
基本
参照, 100
基本、個人用ページ, 44
キューブ・ナビゲータ
概要, 361
共有メンバー, 321, 340
キーワード
自動生成, 144
行
結果セクションでの削除, 257
行レベルのセキュリティ, 130
クエリー
キューブ・ナビゲータを使用した OLAP クエ
リーの構築, 361

- キューブ・ナビゲータを使用した定義, 361
- 動的時系列の定義, 377
- リフレッシュ, 254
- クエリー結果セットのサイズのコントロール, 40
- クエリーの自動リフレッシュ, 339
- クエリーのリフレッシュ, 254
- クラスタ棒グラフ, 275
- グリッド POV、メンバーの変更, 192
- グループ化とグループ解除
 - チャート・ラベル, 282
 - ピボット・テーブル, 293
- 計算
 - 概要, 424
 - 減算, 427
 - 降順にランク付け, 427
 - 合計, 428
 - 合計(%), 427
 - 差(%), 426
 - 差異, 428
 - 最小, 425
 - 最小値, 426
 - 最大, 425
 - 最大値, 425
 - 差異の割合(%), 428
 - 作成, 429
 - 昇順にランク付け, 427
 - 乗算, 426
 - 除算, 424
 - 線形回帰, 425
 - トレンド, 428
 - パーセント, 426
 - 平均, 424
 - 平均との差, 424
 - 平均との差(%), 426
 - メンバーの割合, 427
 - 累積, 424
- 計算式
 - 変更, 433
- 計算式の変更, 433
- 欠落した行, 340
- 欠落値とゼロ値の非表示, 317
- 権限
 - デフォルト, 67
- 権限、アクセス権の設定, 136
- 検索, 315
 - ファイル, 105
 - フォルダ, 105
- 検索オプション, 338
- 検索サービス
 - キーワードのインデックス作成, 122
 - 検索構文, 124
 - 検索サービスの使用方法, 122
 - サポートされている MIME タイプ, 126
 - 詳細検索の使用方法, 123
 - セキュリティ, 127
 - はじめに, 121
- 減算, 427
- 交差、ページング, 381
- 交差のページング, 381
- 降順にランク付けする式, 427
- 高優先度。「優先度」を参照
- 個人の反復タイム・イベント、作成, 465
- 個人用変数
 - 作成, 376
- 個人用ページ
 - BQY セクションの埋込み, 163, 164
 - HTML ファイルの表示, 162
 - 色の変更, 170
 - コンテンツ、カスタマイズ, 161
 - コンテンツ、追加または削除, 161
 - 削除, 173
 - 作成, 171
 - 追加ページにファイル・コンテンツ・ウィンドウを追加, 162
 - 発行, 173
 - ファイル・コンテンツ・ウィンドウの削除, 162
 - 復元, 173
 - ヘッダーとフッター, 170
 - 要素、再配置, 170
 - レイアウトの変更, 170
 - 例外ダッシュボードの追加, 169
- 個人用ページ、概要, 46
- 個人用ページ、基本, 44
- 個人用ページの 16 進カラー・コード設定, 171
- 個人用ページのレイアウト、変更, 170
- 個人用ページへの BQY セクションの埋込み, 163, 164
- コピー
 - 個人用ページ, 172
- コンテンツ
 - 個人用ページでの HTML の表示, 161
 - 個人用ページに対する追加または削除, 161

- 個人用ページのカスタマイズ, 161
- 発行, 131
- 表示, 101
- コンテンツ・ウィンドウ
 - 再配置, 170
 - 定義済, 159
- コンテンツ・ペイン, 100
- 合計
 - 結果セクション, 263
 - 表示値, 296
 - ピボット合計関数, 295
 - 累計, 295
- 合計(%)を求める式, 427
- 合計を求める式, 428

- さ行**
- サイクル
 - アクション、定義, 488
 - 制限, 488
 - 定義済, 488
 - ユーザー定義, 491
- 最小値を求める式, 425, 426
- 最大値を求める式, 425
- 差異の割合(%)を求める式, 428
- 差異を求める式, 428
- 削除
 - イベント, 466
 - 埋め込まれた BQY セクション, 165
 - 個人用ページ, 173
 - 個人用ページのコンテンツ、追加, 161
 - ジョブの出力, 522
 - ジョブ・パラメータ, 473
 - スケジュール, 472
 - 登録, 157
 - ファイル, 105
 - ファイル・コンテンツ・ウィンドウを個人用ページから, 162
 - フォルダ, 105
 - ブック内のレポート, 199
- 作成
 - 計算, 429
 - 個人の反復タイム・イベント, 465
 - 個人用変数, 376
 - 個人用ページ, 171
 - 収集, 104
 - ドキュメント, 104
 - フォルダ, 103
 - ブックマーク, 165
 - 差の割合(%)を求める式, 426
 - サブスクライブ
 - アイテム, 155
 - 情報, 151
 - 参照
 - 基本, 100
 - コンテンツ・ペイン, 100
 - 参照アイテム
 - チャートおよびピボット・セクション, 298
 - 算術演算子, 246
 - システム・ツールバー、説明済, 50
 - 視点(POV)
 - Financial Reporting, 87
 - Web のユーザー POV, 186
 - 概要, 74, 376
 - バッチ・ジョブ用の定義, 476
 - 変更, 186
 - ページ・メンバー, 189
 - メンバーの表示, 88
 - 集計情報を含む, 340
 - 「終了」コマンド, 58
 - 出力プロパティ、ジョブの変更, 463
 - 取得
 - バッチ出力, 483
 - 小計、結果, 264
 - 詳細、ライン・アイテム, 441
 - 昇順にランク付けする式, 427
 - 処理のオプション、Interactive Reporting 複数サイクル・ジョブ, 499
 - ショートカット
 - リポジトリ, 98
 - ショートカット・メニュー, 223
 - 使用可能領域, 203
 - 次元, 300
 - 移動, 380
 - 入れ替え, 380
 - キューブ・ナビゲータを使用した選択, 361
 - 参照, 363
 - データ・ソースに同じ次元があるかどうかを検証, 114
 - 統合の選択, 450
 - レイアウトでの調整, 361
 - 次元とメンバー, 305
 - 次元のメンバー
 - 次元ブラウザを使用した選択, 363
 - 次元ブラウザ

- 概要, 363
- ラベル, 364
- 次元ヘッダー、ソート, 408
- 次元ヘッダーのソート, 408
- 次元メンバーの選択, 363
- 時刻対応軸, 278
- 時刻データ型, 245
- 時刻の選択, 377
- 実数データ型, 245
- 自動削除
 - Interactive Reporting ジョブの出力, 489
 - Web モジュールの参照, 143
- 自動データ型, 244, 267
- 上位/下位のみ取得分析ツール, 399
- 条件付き要素
 - パラメータ・フォーム内[条件付き要素
パラメータ・フォーム], 528
- 乗算, 426
- 除算, 424
- ジョブ
 - Interactive Reporting のプロパティ, 489
 - OLAP ジョブ・パラメータ, 498
 - 安全な Production Reporting ジョブ, 521
 - 個人用ページの要素としての出力, 159
 - 出力の削除, 522
 - 実行, 460
 - ジョブ・リストへのフィルタの適用, 469
 - スケジュール時の通知のオプション, 463
 - スケジュール設定, 461
 - デフォルト・ジョブ・パラメータの設定, 461
 - フォームのジョブへの割当て, 526
 - 複数サイクル Interactive Reporting のアクション・オプション, 500
 - ジョブ出力のプロパティ、変更, 463
 - ジョブ・デフォルト、Interactive Reporting ジョブ, 491
 - ジョブの出力
 - 権限, 522
 - 個人用ページの要素, 159
 - 削除, 522
 - セキュリティ・モード, 522
 - ジョブの実行, 460
 - ジョブのスケジュール
 - 全般, 461
 - ジョブ・パラメータ
 - Interactive Reporting の設定, 496
 - OLAP クエリー, 498
 - SQR および汎用の設定, 465
 - 個人用のデフォルト, 461
 - 削除, 473
 - ジョブの実行時, 461
 - 定義済, 457, 459
 - 変更, 473
 - ジョブ・プロパティ
 - Interactive Reporting, 489
 - Production Reporting, 506
 - 汎用, 517
 - ジョブ・リストへのフィルタの適用, 469
 - シング, 323
 - シング機能、ピボット・テーブル, 294
 - 数値のフォーマット, 257
 - スケジューラ
 - 外部, 484
 - スケジューラ・モジュール・ツールバー、定義されたボタン, 53
 - スケジュール
 - 削除, 472
 - 追加, 473
 - 定義済, 458
 - 変更, 472
 - スケジュール、使用方法, 44
 - スケジュール済バッチ
 - ステータス, 483
 - スケジュール・ツールバー、定義されたボタン, 54
 - ステータス・バー
 - Firefox, 24
 - スナップショット
 - 印刷, 189
 - ソートと表示, 193, 195
 - スナップショット、Microsoft Office へのエクスポート, 111
 - スナップショット、表示, 183
 - スナップショット・ブック
 - 印刷, 209, 214
 - インポート, 199
 - 説明済, 195
 - 名前変更, 209
 - 表示, 195
 - 開く, 208
 - 保存, 207
 - スナップショット・レポート
 - 印刷, 185

スマート・カット
 定義と場所, 142
 整数(16 ビット)データ型, 245
 整数(32 ビット)データ型, 245
 正数と負数の表示, 272
 セキュリティ
 Production Reporting ジョブの勧告, 522
 行レベル, 130
 セキュリティ情報の表示, 523
 セキュリティ・タグ
 安全な Production Reporting プログラム内, 523
 セキュリティで保護されたジョブ、セキュリティ・タグ, 143
 セクション
 移動, 231
 削除, 232
 追加, 231
 名前変更, 232
 セクション、BQY ドキュメント、個人用ページの要素として, 163
 セクション間の移動, 231
 セクションの削除, 232
 セクションのナビゲート, 229
 セクション名の変更, 232
 世代とレベル, 306
 設定
 アクセス権, 136
 別名テーブル, 72
 説明、表示, 88
 セル、フォーマット, 412
 線形回帰の式, 425
 選択
 色, 422
 次元のメンバー, 363
 メンバー, 203
 メンバー・アイテム, 191
 メンバー・オプション, 191
 メンバー・リスト, 203
 ユーザー POV のメンバー, 191
 選択した次元の統合, 450
 選択したメンバー、非表示, 390
 専用アカウント, 523
 ゼロ行, 340
 ゼロ列, 340
 前提条件、SAP BW, 36
 総計

結果セクション, 264
 ソート
 OLAP, 301
 値, 298
 関数, 298
 スナップショット, 193, 195
 チャートおよびピボット・テーブル, 298
 ピボット・セクションとチャート・セクション, 298
 ラベル, 298
 ソート分析ツール, 396
 属性, 307

た行

タイム・イベント
 新しい個人用反復の作成, 465
 定義済, 458
 タイムスタンプ・データ型, 245
 タスク、開始, 40
 タスクの開始, 40
 代替変数, 313
 構文, 376
 使用, 375
 動的時系列, 377
 ダッシュボード、例外, 166
 ダッシュボードのホーム, 233
 置換
 BQY ジョブと OCE ファイル, 146
 ボタン, 146
 チャート
 アイテムの削除, 281
 アイテムの追加, 281
 アイテムのフォーカスと非表示, 281
 概要, 415
 タイプ, 271
 チャート次元, 268
 チャート・セクション, 267
 チャートのタイプ
 多次元, 275
 チャートのプロパティ、概要, 417
 「チャートのプロパティ」パネル
 「円」タブ, 421
 「軸」タブ, 418
 「セット」タブ, 420
 「全般」タブ, 417
 「タイトル」タブ, 418
 「バブル」タブ, 421

- 「チャートのユーザー・プリファレンス」パネル
- 「円」タブ, 421
- 「軸」タブ, 418
- 「セット」タブ, 420
- 「全般」タブ, 417
- 「タイトル」タブ, 418
- 「バブル」タブ, 421
- 追加
 - イメージ・ブックマーク、Hyperion Foundation アイテム, 165
 - 個人用ページのコンテンツ, 161
 - 個人用ページのファイル・コンテンツ・ウィンドウ, 162
 - スケジュール, 473
 - セクション, 231
 - バージョン, 147
 - マイ・ブックマーク, 165
 - 例外ダッシュボードを個人用ページに, 169
 - 例外を例外ダッシュボードに, 144
- 通知
 - アイテムのサブスクリプト, 155
 - 受信時にアイテムを表示, 158
 - ジョブのオプション, 463
 - ジョブの削除, 468
- 積重ね棒グラフ, 276
- 積重ね面グラフ, 277
- 「ツール」メニュー、定義されたコマンド, 59
- ツールバー
 - 定義済ボタン, 50
 - 標準, 50
 - ボタン、定義済, 50
- 定義された「ヘルプ」メニュー, 59
- 適応状態
 - BQY ドキュメント, 140
- テンプレート:Workspace ページ, 175
- デフォルト
 - 権限, 67
 - 設定, 64
 - フォルダ, 67
- デフォルト・ジョブ出力フォーマット, 491
- デフォルト設定、スナップショット, 183
- デフォルト・パラメータ・フォーム, 526
- 電子メール
 - 受信者リスト, 107
 - デフォルト, 64
 - リンク, 106
- 電子メール通知、高優先度アイテムの検索, 158
- データ
 - リレーショナル・アクセス, 40
- データ関数, 249
 - OLAP, 303
 - 計算結果アイテムとの比較, 249
 - ピボット・セクション, 296
- データ型の調整, 244
- データソース
 - SAP BW, 36
 - 概要, 33
 - ドキュメント用に選択, 41
 - 古いデータベース接続, 114
 - 変更, 114
 - 要素, 33
 - リポジトリ, 114
- データ・ソース、コンポーネントのリンク, 450
- データ・ソースへの接続、Interactive Reporting ドキュメント, 490
- データ・ソース要素の使用方法, 33
- データ値、非表示, 390
- データのエクスポート, 234
- データの制限分析ツール, 397
 - 定義の編集, 399
- データのフォーマット, 411
- データのプロンプト
 - 応答, 183
 - レポートのバッチの定義, 474
- データベース
 - Web Analysis プリファレンス, 71
- データベース合計のダウンロード, 336, 339
- データベース接続
 - 管理, 115
 - 削除, 118
 - 追加, 117
 - 編集, 118
- データベース接続、Planning Details, 35
- 統合コンポーネントのリンクの解除, 450
- 登録
 - 削除, 157
- 特殊メンバー, 204
- トピックとトピック・アイテム, 238
- トラフィック・ライト
 - 「トラフィック・ライトの設定」ダイアログ・ボックス, 393

- トラフィック・ライト分析ツール
 - 概要, 393
- トレンド線, 285
- トレンド線の全般プロパティ, 286
- トレンド線のラベル・フォーマットのプロパティ, 286
- トレンドを求める式, 428
- 動的時系列
 - 代替変数, 377
 - 定義, 377
- ドキュメント
 - 表示タイプの変更, 414
 - 表示タイプのロック, 414
- ドキュメント、BQY、個人用ページの要素として, 163
- ドキュメントの印刷, 42
- ドキュメントの作成、Workspace, 40, 41
- ドリル
 - 概要, 382
- ドリル・アップ
 - OLAP, 302
- ドリルスルー, 322
- ドリルダウン, 299
 - OLAP, 302
- ドリル・リンク
 - 概要, 384
- な行**
- 長いテキスト, 245
- ナビゲーション
 - メソッド, 379
- ナビゲート・アイテムへのアクセス, 42
- 名前変更
 - ファイル, 105
 - フォルダ, 105
- 任意のドリル, 299
- ネイティブ・ファイル・フォーマット, 236
- は行**
- 発行
 - HTML ファイル, 131
 - アーチファクトの非表示, 143
 - 個人用ページ, 173
 - コンテンツ, 131
 - 自動削除, 143
 - 情報, 129
 - ジョブ
 - パススルー、Production Reporting, 508
 - デフォルト・ジョブ出力フォーマット, 491
 - 複数のファイル, 131, 132
 - 例外ダッシュボードに追加, 144
 - 反復タイム・イベント、新しい個人用の作成, 465
 - 汎用ジョブ・レポート・プログラム、例外のサポート, 524
 - 凡例, 269
 - バイト・データ型, 245
 - バックグラウンド・ジョブ
 - 設定, 489
 - バッチ
 - ZIP 圧縮出力ファイル, 483
 - 宛先と出力, 477
 - バッチ、ブックの実行, 198
 - バッチ POV
 - メンバーの選択, 476
 - バッチ・エディタ・ツールバー、定義済ボタン, 52
 - バッチ出力
 - 取得, 483
 - フォーマットと場所の指定, 483
 - バッチ・ジョブ
 - POV, 476
 - 出力の取得, 483
 - 出力フォーマットと場所の指定, 217
 - 詳細, 483
 - ジョブ詳細の表示, 483
 - スケジュール設定, 217
 - 選択でのデータ定義
 - バッチ・ジョブの POV メンバー, 476
 - 定義, 474
 - バッチを開く, 217
 - メンバー指定, 476
 - バッチ・プロセス
 - 概要, 474
 - バージョン
 - 最新の表示, 148
 - 追加, 147
 - 取扱い, 146
 - 優先度の設定, 148
 - 例外とみなす, 148
 - パススルー
 - Interactive Reporting ジョブ, 488
 - Production Reporting および汎用ジョブ, 508
 - 複数 OCE ファイルの使用, 492

- パック型実数データ型, 245
- パラメータ
 - ジョブの削除, 473
 - ジョブの変更, 473
 - 設定
 - Interactive Reporting ジョブ, 496
 - SQR および汎用ジョブ, 465
- パラメータ・フォーム
 - 基本、条件付き、およびループ要素, 528
 - コード部分の処理用に提出, 529
 - ジョブへの割当て, 526
 - タグ, 527
 - 追加要素, 530
 - デフォルトの割当て, 526
 - デフォルト・フォームへの切替え, 526
 - パラメータ表示要素, 529
 - パラメータ・リスト要素, 529
 - 必要な要素, 528-529
 - ファイルのインポート, 529
 - 例とヒント, 534
- パラメータ・フォーム内の終了条件, 528
- パラメータ・フォームの JavaScript, 525
- パラメータ・フォームのアプレット, 525
- パラメータ・フォームの基本要素。「パラメータ・フォーム」を参照
- パラメータ・リスト
 - パラメータ表示要素, 529
 - パラメータ・フォーム要素, 529
- 比較演算子, 247
- 非対称分析, 390
- 必要なファイル
 - Production Reporting ジョブの, 508
 - 汎用ジョブの, 509
- 日付データ型, 245
- 日付の選択, 377
- 非表示
 - 色, 390
 - 選択したメンバー, 390
 - データ値, 390
- 表示
 - :PDF レポート, 23
 - 安全なジョブの情報, 523
 - イベント, 466
 - 個人用ページの HTML コンテンツ, 161
 - 個人用ページの HTML ファイル, 162
 - コンテンツ, 101
 - スナップショット, 193, 195
 - 説明, 88
 - 通知受信時のアイテム, 158
 - バッチ・ジョブの詳細, 483
 - バージョンのプロパティ, 147
 - ブック, 193
 - 別名, 88
 - ユーザーの POV, 88
 - レポート, 184
 - 表示、最新バージョン, 148
 - 「表示/非表示の制限」ダイアログ・ボックス, 391
 - 表示/非表示の制限分析ツール
 - 概要, 390
 - 定義の作成, 392
 - 定義の編集, 393
 - 表示された HTML ファイル
 - 個人用ページからの削除, 162
 - 追加の個人用ページ, 162
 - 表示するメンバー数, 339
 - 表示値, 296
 - 表示メニュー、定義されたコマンド, 58
 - 標準ツールバー, 50, 220
 - 開く
 - ドキュメント, 29, 42
 - ファイル, 29
 - フォルダ, 29
 - ピボット次元, 291
 - ピボット・セクション, 290
 - アイテムの追加, 292
 - 追加, 291
 - ページング, 297
 - ラベル別ソート, 298
 - ピボット・テーブル
 - アイテムのフォーカスと非表示, 292
 - コンポーネント, 291
 - スイング機能, 294
 - 取扱い, 291
 - ピボット・アイテムの削除, 292
 - ピボット・テーブルのデータ・ラベル, 291
 - ピボット・ファクト, 294
 - ピン
 - オプション, 387
 - ファイル
 - BQY のプロパティ, 144
 - HTML, 131
 - OCE のオプション, 146
 - 検索, 105

- 個人用ページの要素としての HTML ファイル, 159
- サイズ, 142
- 削除, 105
- 所有者, 142
- セキュリティ・モード, 522
- 登録, 107
- 名前変更, 105
- 複数のファイルの発行, 131, 132
- 「ファイル」メニュー、定義されたコマンド, 57, 58
- ファイル・コンテンツ・ウィンドウ
 - 個人用ページからの削除, 162
 - 個人用ページに追加, 162
- ファイルの移動, 42
- ファイルのプロパティ, 42
- ファイルのプロパティの設定, 42
- ファイルのローカル保存, 236
- フィルタ
 - 結果セクション, 259
 - 削除, 263
 - 変更, 263
- フィルタ処理メンバー選択, 314, 315
- 参照, 315
- フォルダ
 - Production Reporting プリファレンス, 78
 - 移動, 104
 - 検索, 104, 105
 - 削除, 105
 - 作成, 103
 - サブスクライブ, 157
 - 名前変更, 105
 - リポジトリ, 100
- フォルダ・ツリー、定義, 44
- フォントのプロパティ, 423
- フォーマット
 - Web Analysis プリファレンス, 71
 - セル, 412
 - チャートのプロパティ, 417
 - データ, 411
 - 方法、優先順位, 405
- 不規則階層, 330
- 複合チャート, 279
- 複数サイクル Interactive Reporting ジョブ、のアクション・オプション, 500
- 複数のファイル、発行, 131, 132
- フッター・セクション、個人用ページ, 170
- ブック
 - 印刷, 209
 - インポート, 199
 - 作成, 199-202
 - データ・ソースの変更, 114
 - 名前変更, 209
 - 開く, 208
 - 保存, 207
- 「ブック・エディタ」ダイアログ・ボックス, 201
- ブック・エディタ・ツールバー
 - 定義済ボタン, 52
- ブックマーク
 - アイテム, 165
 - イメージ
 - アイテム, 165
 - 作成, 165
 - 定義済, 46, 159
 - マイ, 46, 159
- ブラウザ
 - 次元ブラウザ, 363
- ブロードキャスト・メッセージ
 - 個人用ページの要素, 159
- ブロードキャスト・メッセージ、個人用ページ要素, 46
- 分析ツール
 - 概要, 389
 - 上位/下位のみ取得, 399
 - ソート, 396
 - 定義
 - 使用可能, 390
 - 使用不可化, 390
 - 順序設定, 390
 - デフォルト, 390
 - データの制限, 397
 - トラフィック・ライト, 393
- 分析ツール・マネージャ
 - ツールバー, 389
- プリファレンス
 - Interactive Reporting, 79
 - Oracle BI Answers, 81
 - Oracle BI Dashboard, 81
 - Oracle BI Delivers, 81
 - Oracle BI Publisher, 79
 - Production Reporting, 78
 - Web Analysis, 71
 - エクスペローラ, 67

全般, 64
 モジュール, 70
 プリファレンスの設定、ユーザー・インタ
 フェース, 32
 プレビュー、選択したメンバー, 207
 プロパティ
 BQY ファイル, 144
 Production Reporting ジョブ, 506
 ジョブ出力の変更, 463
 セキュリティ・モード, 522
 汎用ジョブ, 517
 バージョン, 148
 バージョン、表示または変更, 147
 「プロパティ」ダイアログ・ボックス, 526, 527
 プロンプト
 定義, 215
 レビュー時の応答, 187
 レポートのバッチでの定義, 474
 平均との差(%)を求める式, 426
 平均を求める式, 424
 ヘッダー・セクション、個人用ページ, 170
 ヘッダー・ラベル、列での適合, 403, 413
 「ヘルプ」メニュー、定義されたコマンド, 59
 変更
 イベント, 466
 個人用ページのレイアウト, 170
 ジョブ出力のプロパティ, 463
 ジョブ・パラメータ, 473
 スケジュール, 472
 バージョンのプロパティ、表示, 147
 ページ・メンバー, 186
 変更、個人用ページの色, 170
 編集
 上位/下位のみ取得の定義, 401
 データの制限の定義, 399
 別名
 使用, 340
 テーブル, 340
 別名テーブル
 情報, 72
 設定, 72
 ページ
 ブック内の番号設定, 210
 ページ設定、ブックの変更, 210
 ページの向き, 210
 ページ・メンバー
 POV, 189

変更, 186
 ページング・アイコン, 222
 保存
 ファイル, 103
 棒折れ線グラフ, 279
 棒グラフ, 272
 ボタン
 置換, 146

ま行

マイ・ブックマーク
 個人用ページの要素として追加, 165
 定義済, 46, 159
 メジャー, 302
 メニュー・コマンド, 57
 面グラフ, 277
 メンバー
 次元, 87
 配置, 88
 バッチ処理のプロンプト, 474
 バッチ・ジョブ用の選択, 476
 レビュー, 207
 メンバー選択, 311
 検索, 314
 参照, 311
 詳細。「メンバー選択の詳細設定。」を参照
 前のメンバーの定義, 378
 レポート間のコピー, 200
 レポートの変更, 201
 メンバー選択の詳細設定
 Hyperion Financial Management, 442
 概要, 364
 サブセット・メンバー選択の定義, 370, 373
 メンバーの検索, 367
 「メンバーの選択」ダイアログ・ボックス
 使用可能領域, 203
 メンバーの変更
 グリッドの POV, 192
 メンバーの割合(%)を求める式, 427
 メンバー・プロンプト, 183
 メンバー・リスト
 レビュー, 207
 目次、印刷, 210
 文字列データ型, 245, 267
 モニターする例外
 個人用ページの要素, 160

や行

役割、アクセス権, 30

優先度、設定, 148

ユーザー・インタフェース

アクティブ・プリファレンス, 69, 71

カスタマイズ, 64

定義済, 27

ビュー・ペインおよびコンテンツ領域のサイズ変更, 90

プリファレンスの設定, 32

ユーザー・タイプおよびタスク、ワークスペース, 27

ユーザーの POV

POV を参照, 186

ユーザー・プリファレンス

データベース・ユーザー・プリファレンス, 72

要求アイテム, 241

要求アイテムの削除, 241

要求ライン・アイテムの削除, 241

用紙サイズ, 210

要素

パラメータ・フォーム

タイプ, 528

追加要素, 530

パラメータ表示要素, 529

パラメータ・リスト要素, 529

必要な要素, 528-529

要素、個人用ページの再配置, 170

ら行

ライン・アイテムの詳細, 441

ラベルなし, 340

ラベルのモード

概要, 407

リスト

ファイルのバージョン, 148

リポジトリ

URL, 98

概要, 28

ショートカット, 98

フォルダ, 100

ユーザー・プリファレンス, 29

リポジトリ、データ・ソースの変更, 114

リレーショナル集約を可能にする, 339

リレーショナル・データ

アクセス, 446

リレーショナル・データ、アクセス, 40

リレーショナル・データへのアクセス, 40

リレーショナル・ドリルスルー

概要, 437

リンク

Web Analysis Studio, 106

アプリケーション, 105

選択した次元, 450

電子メール, 106

データ・ソースによるコンポーネント, 450

リンク、グラフィック, 46, 159

累計, 295

累積を求める式, 424

ループ要素

パラメータ・フォーム要素, 528

レイアウト

次元の調整, 361

レイアウト・スタイル、個人用ページ, 170

レイアウトでの次元の調整, 361

例外

Production Reporting コードでサポート, 523

汎用ジョブ・レポート・プログラムでサポート, 524

例外ダッシュボード。「例外[例外ダッシュボード:1]」も参照

, 524。「例外[例外ダッシュボード:1]」も参照

カスタマイズ, 169

個人用ページに追加, 169

使用, 166

説明済, 488, 523

例外とみなす, 148

列

結果セクションでの削除, 256

結果セクションでの追加, 256

サイズ

概要, 403, 413

デフォルトの幅のリセット, 404, 414

自動サイズ調整, 257

ソート, 257

ヘッダー・ラベルの適合, 403, 413

列の自動サイズ調整, 257

列の幅の設定, 403, 413

レポート

検索, 184

詳細へのドリル, 382

データ・ソースの変更, 114

バッチへの割り当て, 474

表示, 184

表示タイプの変更, 385

ブックから削除, 201, 214

ブックに追加, 201

レポート・セクション, 347

レポートのバッチ、印刷, 185

レポート・ブック、印刷, 214

論理演算子, 248

わ行

割合(%)を求める式, 426

ワークスペース・ライブラリ

データ・ソースの変更, 114

A-Z あ行 か行 さ行 た行 な行 は行 ま行 や行 ら行 わ行